このたびはDELICA D:5をお買い上げいただき、ありがとうございます。

J19200100119

この取扱説明書は、お客様のお車をいつも安全・快適に運転していただくための正しい取り扱いについて説明しています。
また、お車のお手入れや万一のときの処置についても記載してありますので、ご使用前に必ずお読みください。

- 取扱説明書はお車の中に保管してください。
- 保証および点検、整備内容については、別冊のメンテナンスノートをお読みください。
- 三菱自動車販売会社で取り付けられた装備の取り扱い要領については、その装備に添付の取扱説明書をお読みください。
- お車をゆずられるときは、取扱説明書およびメンテナンスノートを車に付けておいてください。

- **装備仕様の変更などにより、本書の内容がお客様のお車と合わないことがありますので、あらかじめご了承ください。**
- **ご不明な点は、担当営業スタッフにお問い合わせください。**

安全に関する表示

- 運転者や他の人が傷害を受けたり、お車が故障や損傷するおそれがあることと、その回避方法を次の表示で記載しています。重要な事項ですので必ず読んでお守りください。

⚠警告　記載事項を守らないと、死亡や重大な傷害につながるおそれがあること。

⚠注意　記載事項を守らないと、傷害や事故またはお車の故障や損傷につながるおそれがあること。



安全のためにしてはならない行為。(イラスト内に表示されています)

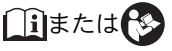
その他の表示

- お車に関することやその他のアドバイスは、次の表示で記載しています。

アドバイス　お車のために守っていただきたいこと。知っておくと便利なこと。

タイプ別装備　グレードにより異なる装備やオプション装備に表示しています。

- お車や装備品に貼られているラベルなどに表示されているマークの意味は、次の通りです。



または　取扱説明書をお読みください。

目次

イラスト目次 イラストによる検索 1

安全・安心のために ご使用前にお読みいただきたいこと 2

運転する前に ドアの開閉・シートなどの取り扱い 3

運転するときは メーターなど運転装置の取り扱い 4

快適装備の使い方 エアコンなど室内装備の取り扱い 5

メンテナンス メンテナンス・お手入れのしかた 6

もしものときの処置 トラブルが起きたときの対処方法など 7

サービスデータ メンテナンスデータなど 8

さくいん 9

1 イラスト目次

車外

外まわり 1-1

室内

ハンドルまわり 1-3
運転席まわり 1-5
室内 1-6

2 安全・安心のために

出発前に

安全なドライブのために 2-2

安全装備

シートベルト 2-10
プリテンショナー機構／
フォースリミッター機構付シートベルト 2-17
SRS エアバッグ 2-18
チャイルドシート 2-27

寒冷時の取り扱い

冬期前の点検と準備 2-36
運転をする前に 2-37
雪道、凍結路の走行 2-38
寒冷地での駐車 2-38
ディーゼル車の使用燃料 2-38
タイヤチェーン 2-39

盗難防止装置

イモビライザー（盗難防止装置） 2-39
セキュリティアラーム 2-39

イベントデータレコーダー [EDR]

イベントデータレコーダー [EDR] について 2-45

3 運転する前に

各部の開閉

キー 3-2
キーレスエントリーシステム 3-2
キーレスオペレーションシステム 3-5
ドア 3-15
フロントドア 3-15
集中ドアロック 3-16
スライドドア 3-18
チャイルドプルーフ（スライドドア安全施錠装置） 3-29
電動サイドステップ 3-30
テールゲート 3-37
パワーウインドウ 3-46

シート

シートアレンジ 3-48
シート調整 3-49
フロントシート 3-50
セカンドシート 3-52
サードシート 3-55
ヘッドレスト 3-55

荷室の作り方 3-57
フラットシートの作り方 3-62

ハンドル・ミラー

チルトステアリング 3-65
ルームミラー 3-65
ドアミラー 3-66

4 運転するときは

エンジンの始動・停止

エンジンスイッチ 4-3
エンジンの始動・停止 4-5
ターボ車の取り扱い 4-9

運転装置

ディーゼルパティキュレートフィルター [DPF] 4-9
燃料噴射量学習機能 4-10
尿素 SCR システム（AdBlue® の関連システム） 4-11
パーキング（駐車）ブレーキ 4-12
オートマチックトランスミッション 4-16
オートマチック車の運転のしかた 4-22
S-AWC (Super-All Wheel Control) 4-25
4WD 車の取り扱い 4-28

メーターの見方

計器盤 4-30
マルチインフォメーションディスプレイ 4-32
表示灯・警告灯・インフォメーション画面表示一覧 4-49
表示灯 4-73
警告灯 4-74
インフォメーション画面表示 4-76

スイッチ類

ライトスイッチ 4-78
ヘッドライトオートレベリング 4-82
フロントフォグランプスイッチ 4-82
方向指示レバー 4-83
非常点滅灯スイッチ 4-83
ワイパー／ウォッシャースイッチ 4-84
リヤデフォッガー（曇り取り）スイッチ 4-88
ステアリングヒータースイッチ 4-89
ホーンスイッチ 4-89
フューエルリッド（燃料補給口） 4-89

運転支援システム

e-Assist 4-91
衝突被害軽減ブレーキシステム [FCM] 4-92
先行車発進通知 [LCDN] 4-99
誤発進抑制機能（前進＆後退時） 4-102
車線逸脱警報システム [LDW] 4-107
レーダークルーズコントロールシステム [ACC] 4-110
オートマチックハイビーム [AHB] 4-127
後側方車両検知警報システム
（レーンチェンジアシスト機能付）[BSW/LCA] 4-131
後退時交差車両検知警報システム [RCTA] 4-135
パーキングセンサー（フロント／リヤ） 4-138
マルチアラウンドモニター 4-142
移動物検知機能 [MOD] 4-152
オートストップ＆ゴー [AS&G] 4-155

アクティブスタビリティコントロール [ASC] 4-159
緊急制動信号システム 4-162
ブレーキオートホールド 4-162
ヒルスタートアシスト [HSA] 4-165
ヒルディセントコントロール [HDC] 4-166
ブレーキアシスト 4-167
アンチロックブレーキシステム [ABS] 4-168
電動パワーステアリング [EPS] 4-170

5 快適装備の使い方

エアコン

エアコンの上手な使い方 5-2
クリーンエアフィルター 5-2
吹き出し口 5-3
左右独立温度コントロール式フルオートエアコン 5-6
スタートアップヒーター（フロント） 5-11
エアコンのカスタマイズ（機能の設定変更） 5-12
リヤマニュアルクーラー／
スタートアップヒーター（リヤ） 5-14

オーディオ

アンテナ 5-17

室内装備

サンバイザー 5-17
アクセサリーソケット (DC12V) 5-18
充電用 USB ポート 5-19
アクセサリーコンセント 5-19
室内灯 5-22
小物入れ 5-28
ドリンクホルダー 5-30
ボトルホルダー 5-31
アシストグリップ 5-32
荷物固定用フック 5-32
コンビニエントフック 5-33
フロアマット 5-33

6 メンテナンス

簡単な整備

日常点検 6-2
環境保護のために守っていただきたいこと 6-4
エンジンフード（ボンネット） 6-4
エンジンオイルの補給 6-6
ウォッシャー液の点検・補給 6-6
バッテリー液の点検・補充 6-6
タイヤメンテナンス 6-7
クリーンエアフィルターの交換 6-8

お手入れ

内装品のお手入れ 6-10
外装品のお手入れ 6-11

7 もしものときの処置

故障したとき

故障したときの対処方法 7-2
発炎筒 7-2

お困りのとき

こんなことでお困りのとき 7-3
警告灯が点灯または点滅したとき 7-7

緊急時の対処方法

ジャッキと工具 7-11
ジャッキアップするとき 7-12
パンクしたとき 7-15
タイヤ交換するとき 7-23
バッテリーが上がったとき 7-25
オーバーヒートしたとき 7-28
ブレーキから金属摩擦音が聞こえたとき 7-29
ヒューズが切れたとき 7-29
バルブ（電球）が切れたとき 7-33
けん引するとき 7-39
水没したとき 7-42

8 サービスデータ

お車の仕様

メンテナンスデータ 8-2
タイヤ、ホイール 8-8
車両データの記録について 8-10

機能の設定変更

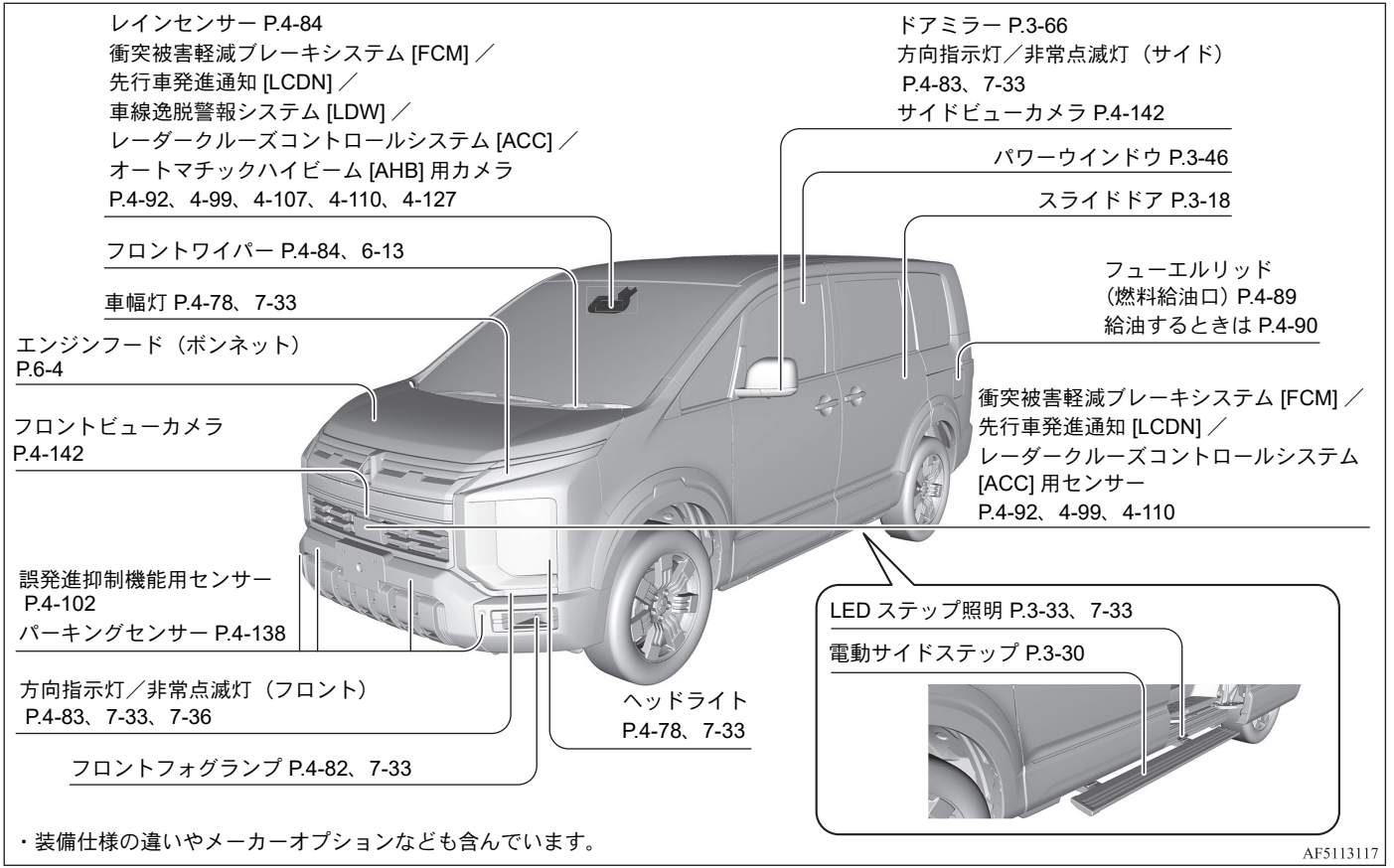
カスタマイズ（機能の設定変更） 8-11
電波認証 8-20
ソフトウェア 8-20

9 さくいん

1

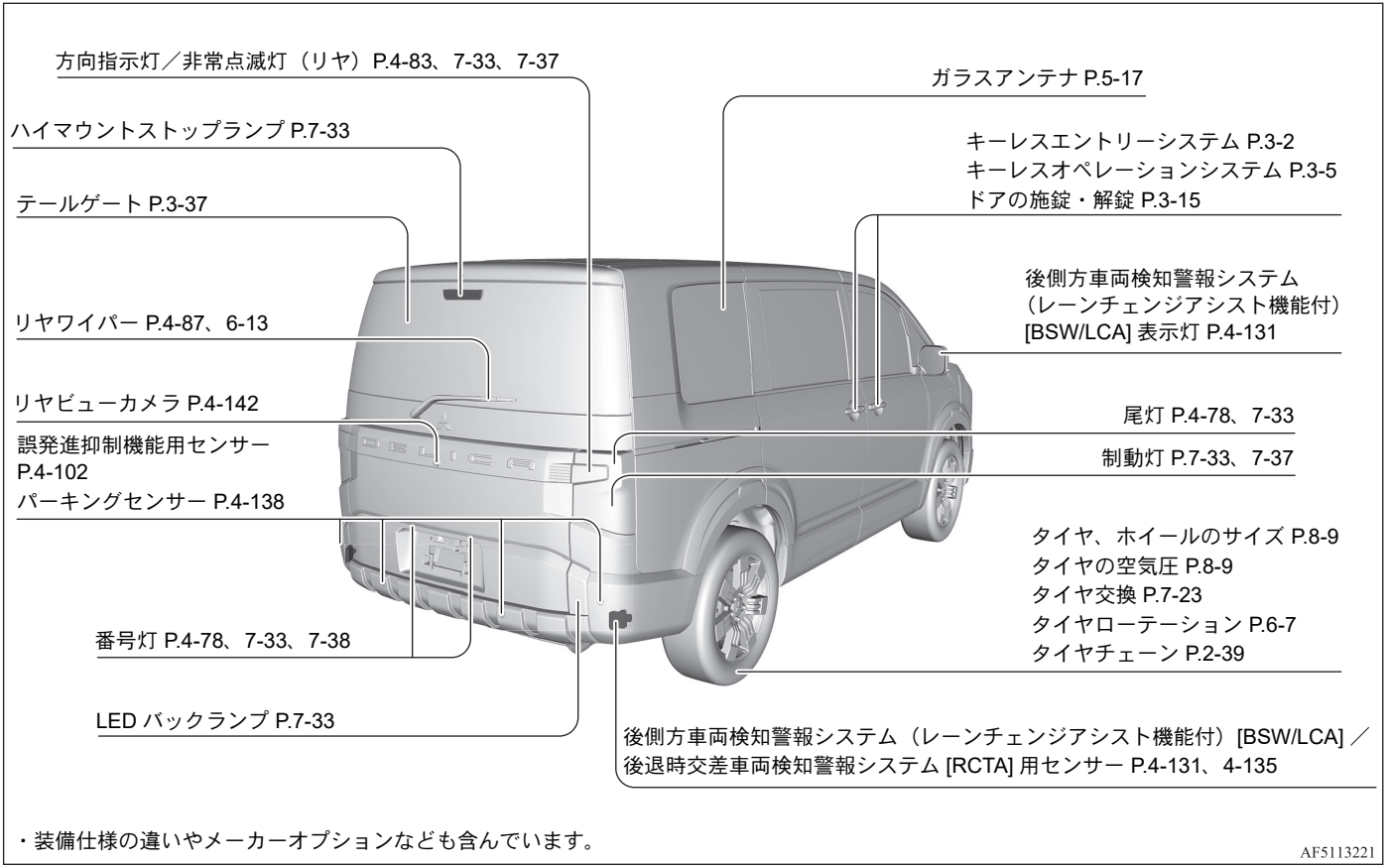
外まわり

J10008300213



・装備仕様の違いやメーカーオプションなども含んでいます。

AF5113117



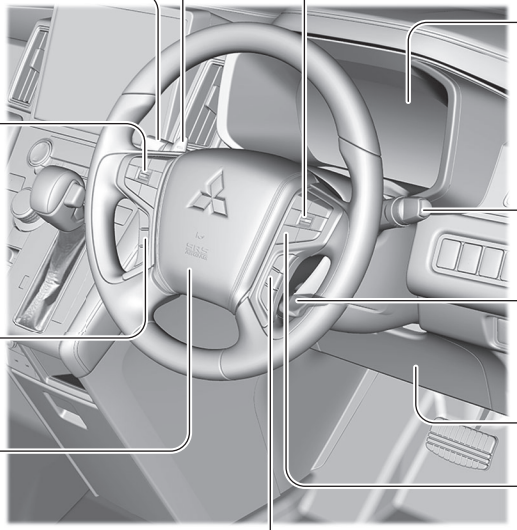
・装備仕様の違いやメーカーオプションなども含んでいます。

AF5113221

1

ハンドルまわり

J10008000164



パドルシフト P.4-19

ワイパー／ウォッシャースイッチ P.4-84

マルチインフォメーション
ディスプレイスイッチ P.4-36

ステアリングホイールオーディオ
リモコンスイッチ *

運転席 SRS エアバッグ P.2-18、2-19
ホーンスイッチ P.4-89

クルーズコントロールスイッチ P.4-124
レーダークルーズコントロールシステム [ACC] スイッチ P.4-115

計器盤 P.4-30
表示灯・警告灯 P.4-73、4-74

ライトスイッチ P.4-78
方向指示レバー P.4-83
フロントフォグランプスイッチ P.4-82
オートマチックハイビーム [AHB] スイッチ
P.4-127

チルトステアリングレバー P.3-65

運転席 SRS ニーエアバッグ P.2-18、2-21

カメラスイッチ *

ハンズフリースイッチ *

・装備仕様の違いやメーカーオプションなども含んでいます。

* 取り扱いについては、純正品のオーディオまたはナビゲーションシステムの取扱説明書をお読みください。
純正品以外のオーディオまたはナビゲーションシステムでは作動の保証はしません。

AF5113234

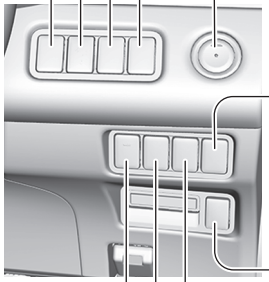


エレクトリックテールゲートスイッチ P.3-41

POWER DOOR スイッチ P.3-22、3-27

電動スライドドアスイッチ P.3-23

エンジンスイッチ P.4-3



誤発進抑制機能 OFF スイッチ P.4-106

AUTO STEP スイッチ P.3-33

アクティブスタビリティコントロール [ASC] OFF スイッチ P.4-160

オートストップ＆ゴー [AS&G]OFF スイッチ P.4-159

ステアリングヒータースイッチ P.4-89

フューエルリッド（燃料補給口）オープナー P.4-89

エンジンフード（ボンネット）リリースレバー P.6-4

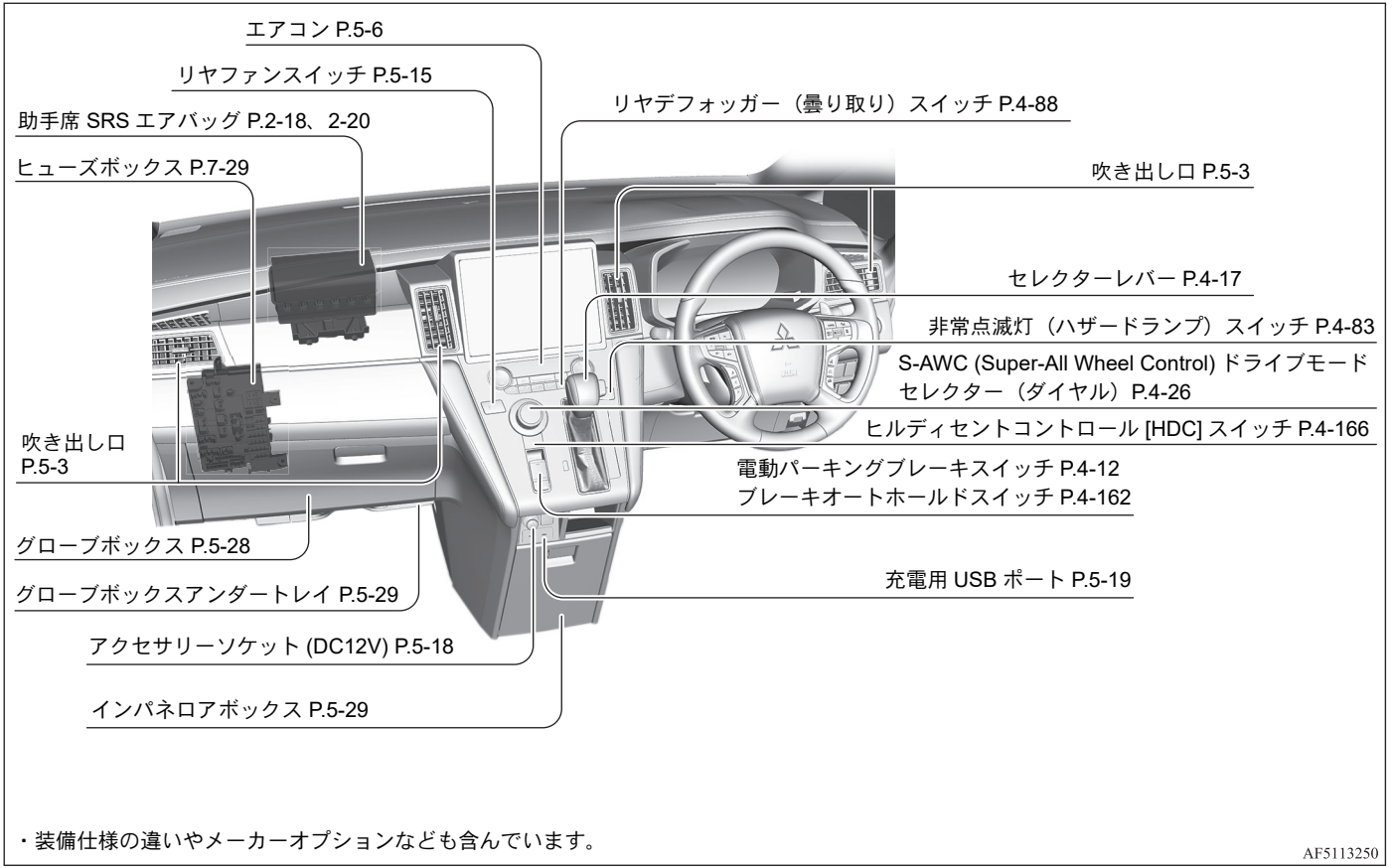
・装備仕様の違いやメーカーオプションなども含んでいます。

AF5113247

1

運転席まわり

J10008100149

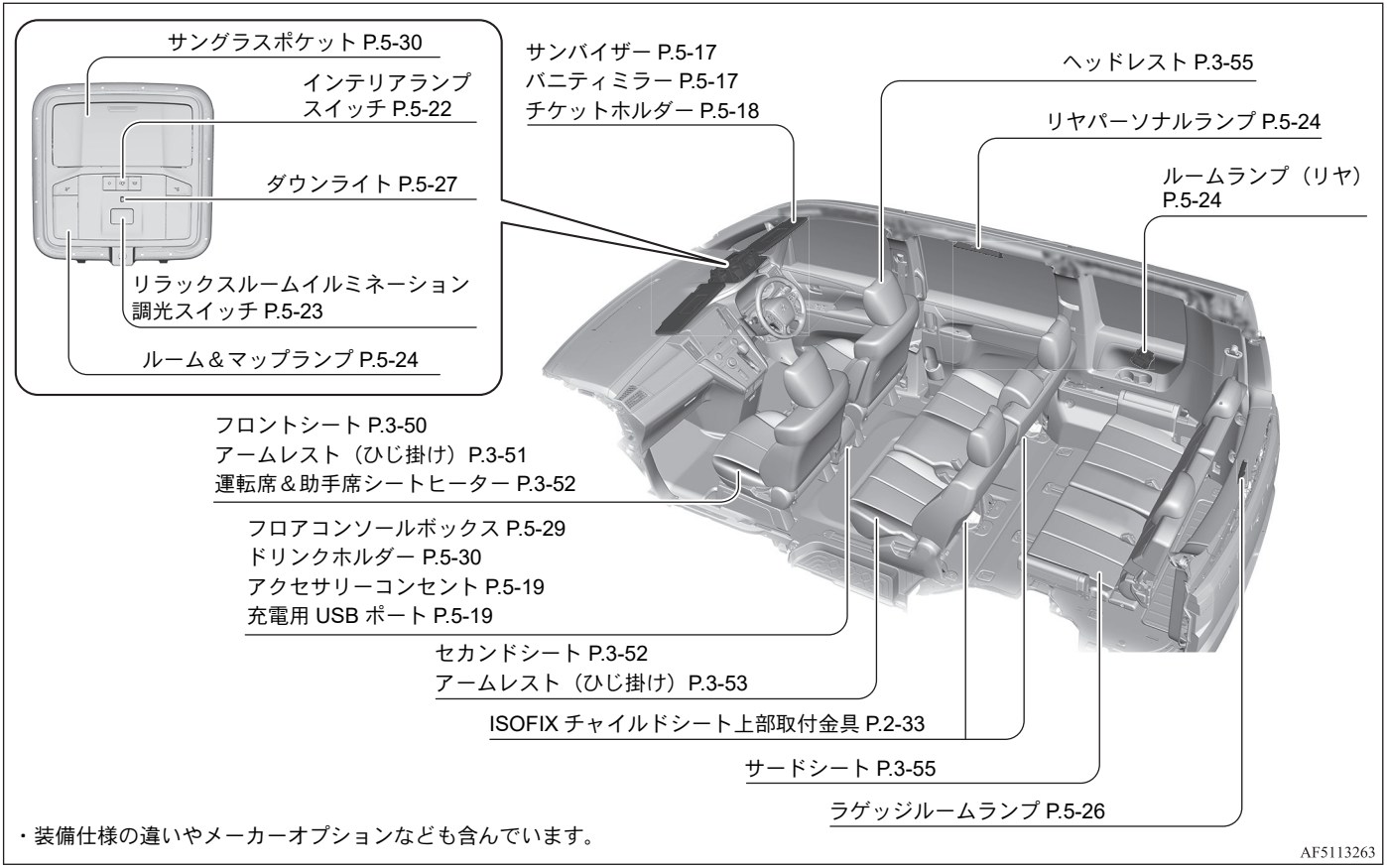


・装備仕様の違いやメーカーオプションなども含んでいます。

AF5113250

室内

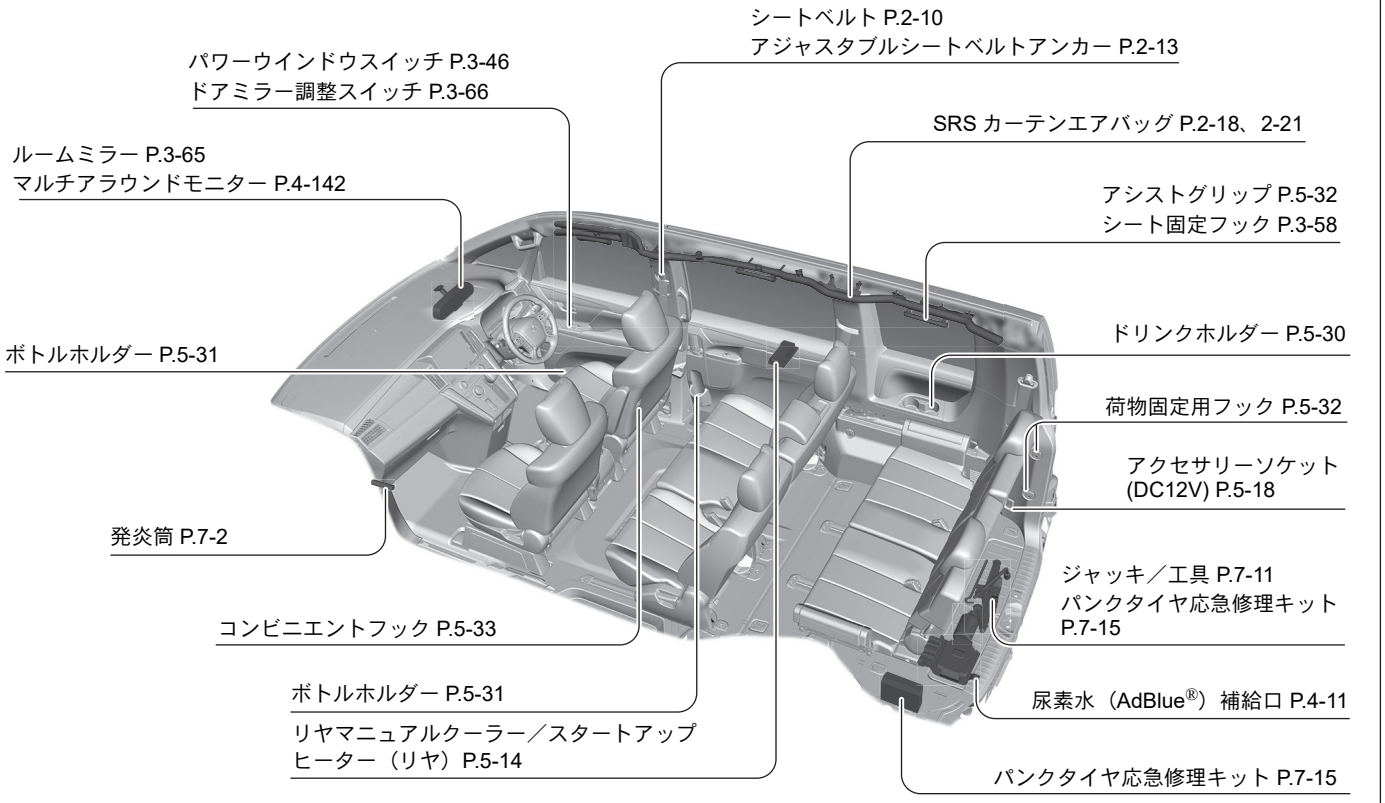
J10008200124



・装備仕様の違いやメーカーオプションなども含んでいます。

AF5113263

1



・装備仕様の違いやメーカーオプションなども含んでいます。

AF5113276

出発前に

安全なドライブのために 2-2

安全装備

シートベルト 2-10
プリテンショナー機構／
フォースリミッター機構付シートベルト 2-17
SRS エアバッグ 2-18
チャイルドシート 2-27

寒冷時の取り扱い

冬期前の点検と準備 2-36
運転をする前に 2-37
雪道、凍結路の走行 2-38
寒冷地での駐車 2-38
ディーゼル車の使用燃料 2-38
タイヤチェーン 2-39

盗難防止装置

イモビライザー（盗難防止装置） 2-39
セキュリティアラーム 2-39

イベントデータレコーダー [EDR]

イベントデータレコーダー [EDR] について 2-45

安全なドライブのために

J10108800020

お車を運転の際に知っておいていただきたいこと、守っていただきたい「警告」「注意」をまとめて記載しています。
重要ですので、しっかりお読みください。

出発前は

J10109100033

燃料の入った容器やスプレー缶類を車の中に持ち込まない

- 強い直射日光などにより車内が高温になると容器が破裂したり、蒸発ガスに引火し爆発するおそれがあります。

運転席の足元付近を点検

- 出発前に運転席の足元付近を点検し、空き缶などの動きやすい物を放置しないでください。
  ブレーキペダルやアクセルペダルの下に物がはさまると、ペダル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- フロアマットはペダルに引っかからないよう、車に合った物を正しく敷いてください。→「フロアマット」P.5-33
  正しく敷かないと、ペダル操作の妨げになり、重大な事故につながるおそれがありますので、次のことをお守りください。
  - ずれないよう固定クリップなどで確実に固定する。
  - ペダルを覆わない。
  - 重ねて敷かない。
  - アクセルペダルの下に敷かない。

フロントガラス前部の雪、落ち葉などは取り除く

- フロントガラス前部の外気取り入れ口に雪、落ち葉などが付いているときは取り除いてください。
  そのままにしておくと、車内の換気が十分にできずガラスが曇り、視界が悪くなるおそれがあります。

走行するときは

J10109200034

発進するときは

- 駐車後や信号待ちなどで停車した後は、子どもや障害物など、車の周りの安全を十分確認してから発進してください。
- 車を後退させるときは目で後方を確認してください。バックミラーでは確認できない死角があります。

同乗者はシートを倒して寝ころばない

- 走行中、同乗者はシートを倒して寝ころばないでください。
  シートを倒して寝ころんでいると、急ブレーキをかけたときや衝突したときなど、身体がシートベルトの下にもぐり込み、重大な傷害を受けるおそれがあります。

雨天時や水たまりを走行するときは

- 雨天時やぬれた道路ではスピードを控えめにし、ハンドルやブレーキ操作を慎重に行い安全運転に心がけてください。
  特に雨の降り始めは路面が滑りやすいため注意してください。
- 水たまり走行後や洗車後、ブレーキに水がかかると一時的にブレーキの効きが悪くなることがあります。
  ブレーキの効きが悪いときは、前後の車や道路状況に十分注意して低速で走行しながらブレーキの効きが回復するまで数回ブレーキペダルを軽く踏み、ブレーキを乾かしてください。
- わだちなど水のたまっている場所を高速で走行すると、ハイドロプレーニング現象を起こしやすくなります。

ハイドロプレーニング現象とは…

- 水のたまっている道路を高速で走行するとき、あるスピード以上になるとタイヤが路面の水を排除できず、水上を滑走する状態になり、車のコントロールが効かなくなる現象。

冠水路などは走行しない

- 冠水した道路や深い水たまりなどは走行しないでください。エンスト、電装品のショート、エンジン破損などの原因になります。
  万一、冠水路などを走行し、水につかってしまったときは、必ず三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

下り坂ではエンジンブレーキを併用

●長い下り坂でフットブレーキのみを多く使用すると、ブレーキが過熱して、ブレーキの効きが悪くなることがあります。
坂の勾配に応じて必ずエンジンブレーキを併用してください。

段差などを通過するときは

●できるだけゆっくり走行してください。
段差や凹凸のある路面を通過するときの衝撃によりタイヤおよびホイールを損傷するおそれがあります。
また、次のような場合、車体、バンパー、マフラーなどを損傷するおそれがありますので十分注意してください。
- 駐車場の出入り口
- 路肩や車止めのある場所
- 勾配の急な場所
- わだちのある道路

走行中に異常に気づいたら

J10109300035

万一、走行中にエンストしたときは

●走行中にエンストしたときは、運転操作に変化が起きますので、次の点に注意して車を安全な場所に止めてください。
- ブレーキ倍力装置が働かなくなるため、ブレーキの効きが非常に悪くなります。
  通常よりブレーキペダルを強く踏み続けてください。
  ブレーキペダルから足を離し、再び踏み直すと、ブレーキの効きがさらに悪くなります。
- 万一、スピードが落ちないときは、電動パーキングブレーキスイッチを引き続けてください。
  このときも、ブレーキペダルは強く踏み続けてください。
- パワーステアリング装置が働かなくなるため、ハンドルが非常に重くなります。

走行中にタイヤがパンクまたはバースト（破裂）したときは

●走行中にタイヤがパンクまたはバーストすると、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

ハンドルをしっかり持ち、徐々にブレーキをかけてスピードを落としてください。
- 次のようなときは、パンクやバーストが考えられます。
  - ハンドルがとられるとき
  - 異常な振動があるとき
  - 車両が異常に傾いたとき

警告灯が点灯または点滅したときやマルチインフォメーションディスプレイ内に警告表示されたときは

- 警告灯が点灯または点滅したときやインフォメーション画面に警告表示されたときは安全な場所に停車し、適切な処置をしてください。
  →「インフォメーション画面表示」P.4-50
  →「警告灯が点灯または点滅したとき」P.7-7
  点灯または点滅もしくは表示したまま走行すると、思わぬ事故を引き起こしたり、エンジンなどを損傷するおそれがあります。

車体床下に強い衝撃を受けたときは

- すぐに安全な場所に車を止めて下まわりを点検してください。
  ブレーキ液や燃料の漏れ、損傷などがあると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
  漏れや損傷などが見つかったときは、そのまま使用せず三菱自動車販売会社にご連絡ください。

駐停車するときは

J10109400036

燃えやすい物の近くには車を止めない

- 枯草や紙など燃えやすい物の近くには車を止めないでください。
  走行後の排気管は高温になっているため、火災になるおそれがあります。

仮眠するときは必ずエンジンを止める

- エンジンをかけたまま仮眠すると、排気ガスが車内に侵入して、一酸化炭素中毒になるおそれがあります。

- 無意識にセレクターレバーを動かしたり、アクセルペダルの踏み込みにより、不用意な発進など、重大な事故につながるおそれがあります。
- 無意識にアクセルペダルを踏み続けたときに、オーバーヒートを起こしたり、エンジンや排気管などの異常過熱により、火災事故が発生するおそれがあります。

坂道に駐車するときは

- 坂道に駐車するときは、電動パーキングブレーキを確実にかけ、セレクターレバーを(P)に入れてください。さらに輪止めをすると効果があります。
  輪止めは、三菱自動車販売会社でお買い求めください。
  輪止めがないときは、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。
- 急な坂道での駐車は避けてください。
  無人で車が動き出すなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

雪が積もった場所や降雪時にはエンジンをかけたままにしない

- エンジンがかかった状態で、車の周りに雪が積もると排気ガスが車内に侵入して、一酸化炭素中毒になるおそれがあります。

経済的な運転をするために

J10109500024

無駄な荷物を載せない

- 不要な荷物を降ろして重量を軽くしてください。

発進、加速はスムーズに

- 不必要な急発進、急加速、急減速など、アクセルペダルをバタつかせるような運転は避け、アクセルペダルの操作は緩やかに行ってください。

速度はできるだけ一定に

●法定速度を守り、できるだけ一定のスピードで運転してください。

空ぶかしは禁物

●空ぶかしは、燃料の無駄使いであると同時に、騒音や排気ガスにより周辺への迷惑となりますので避けてください。

駐車時はエンジンストップ

●携帯電話の使用や休憩などで、長い間車を止めるときは、エンジンを止めてください。燃料の無駄使いであると同時に、騒音や排気ガスにより周辺への迷惑となります。

タイヤの空気圧は定期的にチェック

●タイヤの空気圧はこまめに点検し、常に規定の空気圧に調整してください。
→「タイヤ空気圧の点検・調整」P.6-8
→「タイヤの空気圧」P.8-9

お子さまを乗せるときは

J10109000045

お子さまは後席に座らせる

●助手席ではお子さまの動作が気になり運転の妨げになるだけでなく、お子さまが運転装置に触れて、重大な事故につながるおそれがあります。
●やむを得ず助手席にお子さまを乗せるときでも、次のことをお守りください。
- 必ずシートベルトを着用する
→「シートベルト」P.2-10
- シートをできるだけ後方に下げる
- シートに深く腰掛けて、背もたれに背中がついた正しい姿勢で座らせる

• シートベルトを正しく着用できない場合は、チャイルドシートを使用する
→「チャイルドシート」P.2-27

窓から手や顔を出させない

● 窓から手や顔を出していると、車外の物などに当たったり、急ブレーキをかけたとき、重大な傷害を受けるおそれがあります。

車から離れるときはお子さまも一緒に

● お子さまだけを車内に残さないでください。
炎天下での車内は高温となるため、熱射病になったり最悪の場合は死亡につながるおそれがあります。

こんなことにも注意

J10108900021

運転中にハンズフリー以外の携帯電話を使用しない

● 運転中、運転者はハンズフリー以外の携帯電話を使用しないでください。使用すると、周囲の状況に対する注意がおろそかになり、思わぬ事故につながるおそれがあります。運転中、運転者がハンズフリー以外の携帯電話を使用することは法律で禁止されています。

ブレーキペダルをフットレストがわりにしない

● ブレーキペダルに常に足を乗せて運転すると、ブレーキ部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱して、効きが悪くなるおそれがあります。

ハンドルをいっぱいに回した状態を長く続けない

● ハンドル操作力が重くなることがあります。
→「電動パワーステアリング [EPS]」P.4-170

車を移動するときは必ずエンジンを始動する

- エンジンがかかっていないと、ブレーキの効きが非常に悪くなったり、ハンドル操作が非常に重くなるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。
  坂道で車を移動させるときも、必ずエンジンをかけてください。

アクセサリー取り付け時の注意

- ウインドウガラスなどにアクセサリーを付けたり、インストルメントパネルの上に芳香剤などを置かないでください。
  運転の妨げになったり、吸盤や芳香剤の容器がレンズの働きをして火災など、思わぬ事故の原因となります。

違法改造はしない

- 国土交通省に届け出をした部品以外の物を装着すると、違法改造になることがあります。
  また、三菱自動車純正以外の部品を装着すると、車の性能や機能に影響し、思いがけない事故が発生するおそれがあります。

電装品などを取り付けるときは

- 電装品などを取り付けるときは、三菱自動車販売会社にご相談ください。
  配線が車体に干渉したり、保護ヒューズがないなど取り付け方法が適切でない場合、電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。
- お客様のお車には、電子制御システムの点検整備をするための故障診断コネクターが装備されています。
  そのコネクターに、点検整備用の故障診断機以外の機器を取り付けると、バッテリーが上がったり、車両の電子機器に悪影響をおよぼすなど思わぬトラブルの原因となりますので、取り付けないでください。
  また、故障診断機以外の取り付けによる故障は、保証の対象外となることがあります。

無線機を取り付けるときは

- 無線機を取り付けるときは、必要な情報（周波数、送信出力、取り付け条件）について三菱自動車販売会社にお問い合わせください。
  周波数、送信出力、取り付け条件などが適切でない場合、電子機器に悪影響をおよぼしたり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

シートベルト

J10101700088

シートベルトは万一の場合、運転者と同乗者の安全を守ります。シートベルトは次の使用方法、注意を守り、運転する前に必ず着用してください。



⚠警告

- 車に乗るときは必ず全員がシートベルトを着用してください。ベルトを着用しないと急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに身体がシートに保持されず、車外に投げ出されたりして、重大な傷害を受けるおそれがあります。
- 肩部ベルトは脇の下を通さないで、肩に十分かかるように着用してください。ベルトが肩に十分かかっていないと衝突したときなどに身体が前方に投げ出され、重大な傷害を受けるおそれがあります。
- 腰部ベルトは腹部に掛けないでください。衝突したときなどに腹部などに強い圧迫を受け、シートベルトにより重大な傷害を受けるおそれがあります。
- シートベルトを着用するときは、シートベルトがアームレストにかからないように正しく着用してください。アームレストにかかった状態で着用すると、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮しないおそれがあります。
- ベルトは１人用です。2 人以上で使用しないでください。衝突のときなどにベルトが正常に働かず、重大な傷害を受けるおそれがあります。
- シートの背もたれを必要以上に倒して走行しないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、身体がシートベルトの下にもぐり、重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠警告

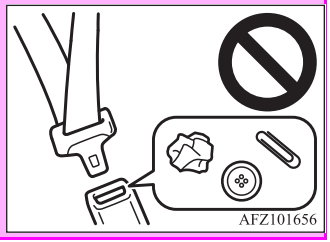
- シートベルトは上体を起こして、シートに深く腰掛けた状態で着用してください。正しい姿勢で着用しないと十分な効果を発揮しないおそれがあります。正しい姿勢については「フロントシート」をお読みください。→ P.3-50
- シートベルトはねじれのないように着用してください。ねじれがあるとベルトの幅が狭くなり、衝突したときなどに局部的に強い力を受けてシートベルトにより重大な傷害を受けるおそれがあります。
- ハンドルやインストルメントパネルに必要以上に近づいて運転しないでください。衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮しないおそれがあります。
- お子さまでもシートベルトを必ず着用させてください。ひざの上でお子さまを抱いていても、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに十分に支えることができず、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。
- シートベルトは、大人の体格に合わせて設計されています。シートベルトを着けたとき肩部のベルトが首、あご、顔などに当たる場合や、腰部ベルトが腰骨にかからないような小さなお子さまは通常のシートベルトでは衝突のとき強い圧迫を受け、シートベルトにより重大な傷害を受けるおそれがあります。体格に合ったチャイルドシートを使用してください。→「チャイルドシート」P.2-27

⚠警告

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。
  ベルトを身体に巻き付けたりして遊んでいると、窒息などの重大な傷害を受けるおそれがあります。
  万一、シートベルトが外せなくなったときは、はさみなどでベルトを切断してください。
- シートベルトを荷物の固定に利用しないでください。
  シートベルトが損傷し、事故のときに十分な効果を発揮しないおそれがあります。
  シートベルトは乗員の保護またはチャイルドシートの固定のためだけに使用してください。→「チャイルドシート」P.2-27
- 妊娠中の女性や疾患のある方も、万一のときのためにシートベルトを着用してください。ただし、局部的に強い圧迫を受けるおそれがありますので、医師にご相談の上、注意事項を確認してからご使用ください。
  妊娠中の方は、腰部ベルトを腹部を避けて腰部のできるだけ低い位置にぴったりと着用してください。肩部ベルトは確実に肩を通し、腹部を避けて胸部にかかるように着用してください。
- シートベルトを着用する場合は洗たくばさみやクリップなどでベルトにたるみをつけないでください。ベルトにたるみがあると十分な効果を発揮しないおそれがあります。

⚠警告

- ほつれや切り傷ができたり、金具部などが正常に動かなくなったときは、シートベルトを交換してください。異常がある状態で使用すると衝突時に正常に動かず、性能を十分発揮できないおそれがあります。
- 万一、事故に遭って、シートベルトに強い衝撃を受けた場合は、外観に異常がなくても必ず交換してください。軽い事故の場合も三菱自動車販売会社で点検を受けてください。ベルト自体が壊れている場合があり、性能を十分発揮できないおそれがあります。
- シートベルトを修理または交換する場合は三菱自動車販売会社にご相談ください。
- バックルや巻き取り装置の内部に異物（ビニール片、クリップ、ボタンなど）を入れないようにしてください。またシートベルトの改造や取り外し、取り付けをしないでください。衝突したときなどに十分な効果を発揮できないおそれがあります。



⚠警告

- ベルトが汚れた場合は、中性洗剤を使用してください。ベンジンやガソリンなどの有機溶剤の使用や漂白、染色は絶対にしないでください。
  シートベルトの性能が落ち、十分な効果を発揮できなくなるおそれがあります。

3点式シートベルト

J10105900020

ベルトの長さを調整する必要はありません。ベルトは身体の動きに合わせて伸縮しますが、強い衝撃を受けたときは、ベルトが自動的にロックされ身体を固定します。

アドバイス

- ベルトを素早く引き出すことにより、ベルトがロックするか確認できます。

着用するときは

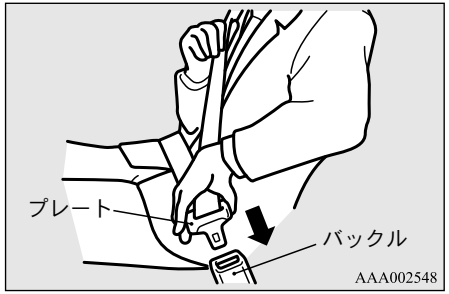
J10106000028

1. プレートを持ってシートベルトをゆっくりと引き出します。

アドバイス

- シートベルトがロックしたまま引き出せないときは、一度ベルトを強く引いてからベルトを緩め、再度ゆっくりと引き出してください。

2. ベルトがねじれていないか確認した後、プレートをバックルにカチッと音がするまではめ込みます。



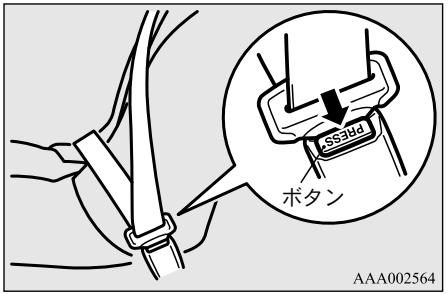
3. 腰部ベルトを腰骨のできるだけ低い位置に掛け、ベルトを引いて腰部に密着させます。



外すときは

J10106100074

1. プレートを持ってバックルのボタンを押します。



2. ベルトは自動的に巻き取られますので、プレートに手を添えてゆっくり戻します。

アドバイス

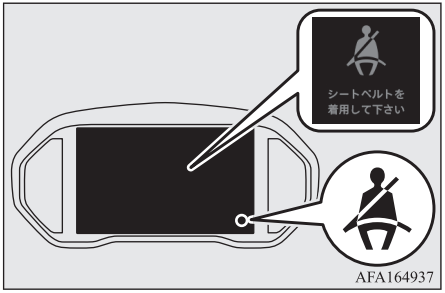
- ベルトやリングが汚れていると、ベルトがスムーズに巻き取られないことがあります。
  見た目で分からなくても実際は汚れている場合がありますので、ベルトを全て引き出し、中性洗剤を使用してベルト全体やリングを拭いてください。
  見えない汚れを取ることで、ベルトの動きが元に戻ることがあります。
  →「シートベルトのお手入れ」P.6-10



シートベルト非着用警告システム

J10106200075

フロントシート



運転席または助手席のシートベルトを着用しないままエンジンスイッチの電源モードを ON にすると、警告灯が点灯し、約 6 秒間ブザーが鳴ってシートベルトの着用を促します。
シートベルトを着用せずにそのまま走行すると（約 8km/h 以上）、約 90 秒間警告灯の点滅とブザーでシートベルトの着用を促します。また、同時にマルチインフォメーションディスプレイ内のインフォメーション画面にも警告が表示されます。
警告灯の点滅とブザーでの警告は、シートベルトを装着するまで繰り返します。

⚠警告

- 警告灯の上にステッカーなどを貼ったりしないでください。

アドバイス

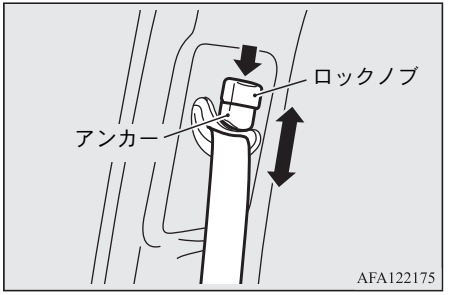
- 助手席用の警告は、助手席に組み込まれた乗員検知センサーが助手席に掛かる重量を検知したときに作動します。助手席に荷物などを置くと、センサーが重量を検知して、警報が作動することがあります。

ベルトが首、顔に当たるときは（アジャスタブルシートベルトアンカー）

J10106300047

フロントシート

肩部ベルトの高さを調整することができます。
ベルトが首、顔に当たったり、肩から外れて腕にかかってしまうときに調整してください。
調整するときはロックノブを押したままアンカーを上下に動かします。
調整後はアンカーが固定されていることを確認します。



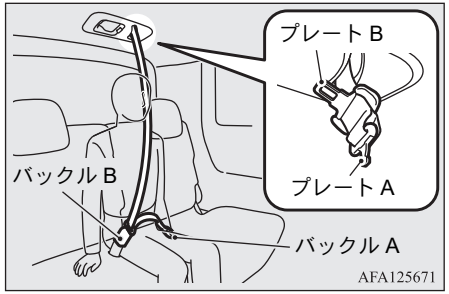
⚠警告

- アンカーを調整するときは、肩部ベルトが首に当たらず、肩の中央に十分かかるように調整してください。また、調整後はアンカーが確実に固定されていることを確認してください。衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮できず、重大な傷害を受けるおそれがあります。

分離格納式シートベルト

J10106400048

サードシート中央席のシートベルトは分離格納式となっています。
ベルトは身体の動きに合わせて伸縮しますが、強い衝撃を受けたときは、ベルトが自動的にロックされ身体を固定します。

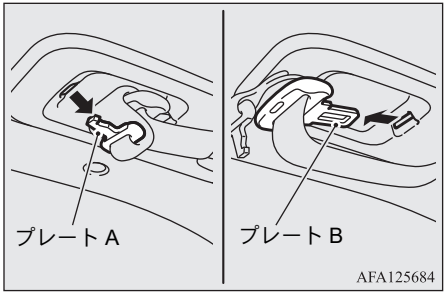


アドバイス

- ベルトを素早く引き出すことにより、ベルトがロックするか確認できます。

着用するときは

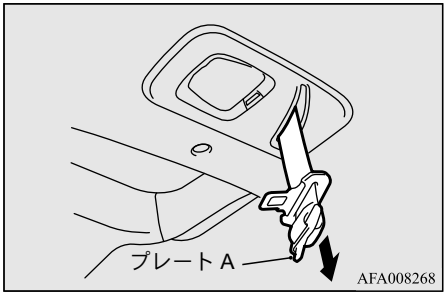
1. バックルを格納部から引き出します。
→「セカンドシートベルト、サードシートベルトの格納のしかた：バックル」P.2-16
2. プレートAを引き出し、プレートBを図のように引き出します。



⚠注意

- プレートを無理に引き出すとプレートの収納部が破損するおそれがあります。

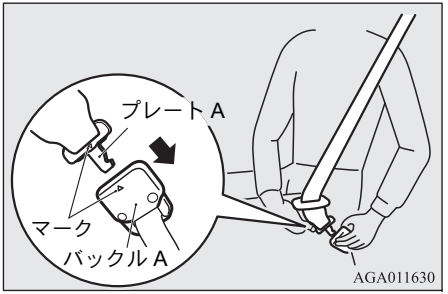
3. プレート A を持ってシートベルトをゆっくりと引き出します。



アドバイス

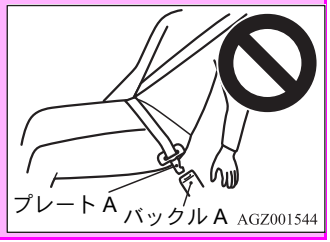
- シートベルトがロックして引き出せないときは、ベルトを強く引いてから一度ベルトを緩め、再度ゆっくりと引き出してください。

4. ベルトがねじれていないか確認した後、プレート A とバックル A のマークを合わせてカチッと音がするまではめ込みます。

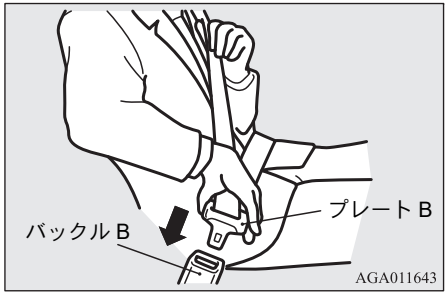


⚠警告

- シートベルトを使用するときは、必ずプレートAがバックルAに差し込まれた状態にしてください。結合しない状態で使用すると、シートベルトが十分な効果を発揮できず、命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあります。



5. プレートBをバックルBにカチッと音がするまではめ込みます。

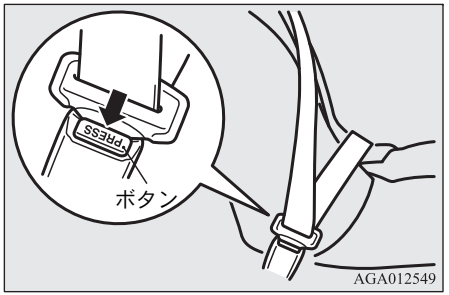


6. 腰部ベルトを腰骨のできるだけ低い位置に掛け、ベルトを引いて腰部に密着させます。

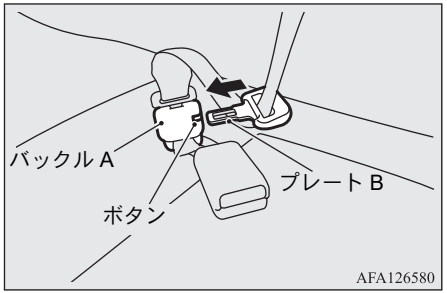


外すときは

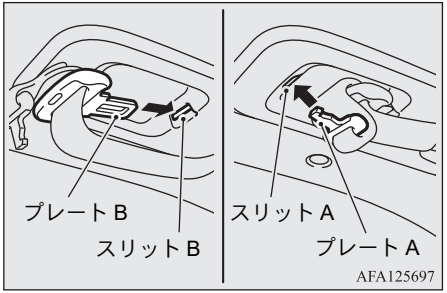
1. プレートBを持って、バックルBのボタンを押します。



2. 先の細い物（プレートBまたはキーなど）を使ってバックルAのボタンを押し、シートベルトとバックルを分離します。
ベルトは自動的に巻き取られますので、プレートに手を添えて、ゆっくり戻してください。



3. シートベルトがすべて巻き取られたら、プレートBをスリットBへ、プレートAをスリットAへ差し込みます。



4. バックルを格納します。
→「セカンドシートベルト、サードシートベルトの格納のしかた：バックル」P.2-16

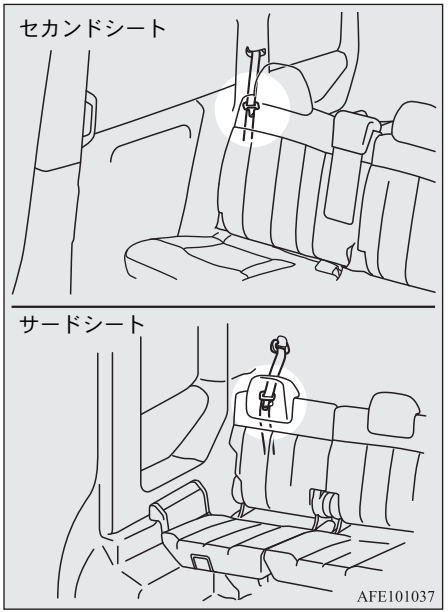
セカンドシートベルト、サードシートベルトの格納のしかた

J10106500049

シートベルトを使用しないときは、ベルトとバックルを格納します。

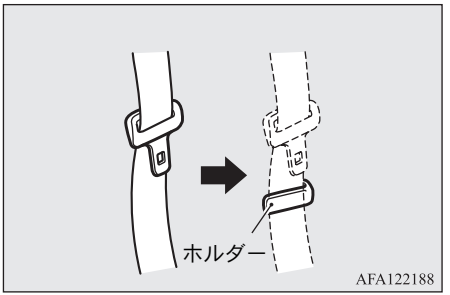
ベルト

■ 格納場所



■ 格納方法

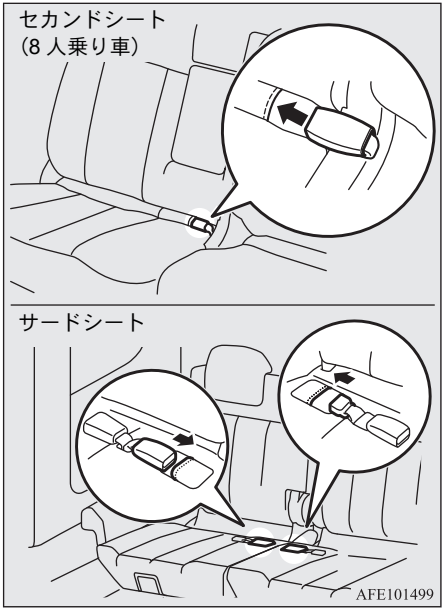
8 人乗り車のセカンドシートの中央、サードシートの中央を除く 3 点式シートベルトは、ホルダーの切り込みに格納することができます。



バックル

J10110300022

中央席用のシートベルトバックルを、シートクッションのポケットに格納することができます。



プリテンショナー機構／フォースリミッター機構付シートベルト

J10101800076

プリテンショナー付シートベルトは、運転席および助手席に装備されています。

プリテンショナー機構

プリテンショナー機構は、エンジンスイッチの電源モードが ON のときに乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を車両前方より受けたときに、シートベルトを瞬時に引き込み、シートベルトの効果を一層高める装置です。

⚠警告

- プリテンショナー付シートベルトの効果を十分に発揮させるため、次のことをお守りください。
  - シートを正しい位置に調整してください。
    →「フロントシート」P.3-50
  - シートベルトを正しく着用してください。
    →「シートベルト」P.2-10
- プリテンショナー付シートベルトやフロアコンソール付近の修理、カーオーディオなどの取り付けをする場合はプリテンショナー機構に影響をおよぼすおそれがありますので、三菱自動車販売会社にご相談ください。

⚠注意

- 廃車するときは三菱自動車販売会社にご相談ください。プリテンショナー付シートベルトが思いがけなく作動し、けがをするおそれがあります。

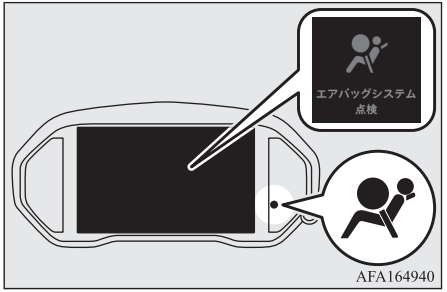
アドバイス

- プリテンショナー付シートベルトはシートベルトを装着していなくても、前方からの強い衝撃を受けると作動します。
- プリテンショナー付シートベルトは一度作動すると再使用できません。
  三菱自動車販売会社で運転席、助手席側を同時に交換してください。

フォースリミッター機構

衝突時に、シートベルトにかかる荷重を効果的に吸収し、乗員への衝撃をやわらげる装置です。

SRS エアバッグ／プリテンショナー機構警告



正常なときは、エンジンスイッチの電源モードを ON にすると点灯し、数秒後に消灯します。
SRS エアバッグまたはプリテンショナー機構に異常があるときは、点灯します。また、インフォメーション画面にも警告表示されます。

⚠警告

- 警告灯がエンジンスイッチの電源モードを ON にしても点灯しない場合や点灯したままの場合、または走行中に警告表示される場合は、事故のときに SRS エアバッグやプリテンショナー付シートベルトが正常に作動せず死亡、または重大な傷害を受けるおそれがあります。ただちに三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

SRS エアバッグ

J10101900048

エンジンスイッチの電源モードが ON のとき、乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときに膨らみ、乗員への衝撃をやわらげる装置です。
SRS とは Supplemental Restraint System の略語で補助拘束装置の意味です。

運転席、助手席SRSエアバッグ

強い衝撃を車両前方から受けたときに膨らみ、シートベルトの働きを補って、運転者または助手席同乗者の頭部や胸部への衝撃をやわらげる装置です。

運転席 SRS ニーエアバッグ

強い衝撃を車両前方から受けたときに膨らみ、シートベルトの働きを補って、運転者の脚部を受け止めることで姿勢を制御し、身体全体の保護効果を高める装置です。

SRS カーテンエアバッグ

強い衝撃を車両側面から受けたときに膨らみ、運転者および同乗者の主に頭部への衝撃をやわらげる装置です。

⚠警告

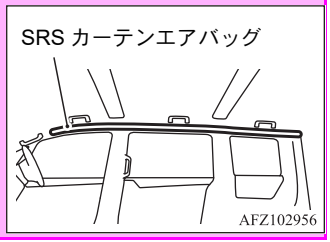
- SRS エアバッグはシートベルトに代わる物ではありません。シートベルトは必ず着用してください。
  シートベルトをしていないと急ブレーキなどで身体が前方へ放り出されることがあり、その際に SRS エアバッグが膨らむとその強い衝撃で死亡、または重大な傷害を受けるおそれがあります。シートベルトは次の理由により必ず着用してください。
  - SRS エアバッグが膨らんだとき、シートベルトがあなたの身体を正しい位置に保ちます。
  - SRS エアバッグが作動しないときでも、シートベルトによりけがを軽減することができます。

⚠警告

- シートは正しい位置に調整し、背もたれに背中をつけた正しい姿勢でシートに座ってください。
  SRS エアバッグは非常に強い力で膨らむため、SRS エアバッグに近づきすぎた姿勢で乗車しているとSRSエアバッグにより死亡、または重大な傷害を受けるおそれがあります。
- SRS エアバッグ構成部品およびその周辺は膨らんだ後、高温になりますので触らないでください。やけどをするおそれがあります。
- SRS エアバッグが収納されている部分に傷がついていたり、ひび割れがあるときは三菱自動車販売会社で点検を受けてください。
  衝突したときなどにSRSエアバッグが正常に作動せず死亡、または重大な傷害を受けるおそれがあります。



⚠警告



⚠注意

- SRS エアバッグは非常に速い速度で膨らむため、SRS エアバッグとの接触によりすり傷や打撲などを受けることがあります。
- SRS エアバッグが膨らむときかなり大きな音がし、白煙が出ますが火災ではありません。また人体への影響もありません。ただし、呼吸器系の疾患がある人や皮膚が弱い人の場合、一時的にのどや皮膚に刺激を感じることがあります。また、残留物（カスなど）が目や皮膚など身体に付着したときは、できるだけ早く水で洗い流してください。
- 衝撃や助手席SRSエアバッグが膨らむことにより、前面ガラスが破損する場合があります。

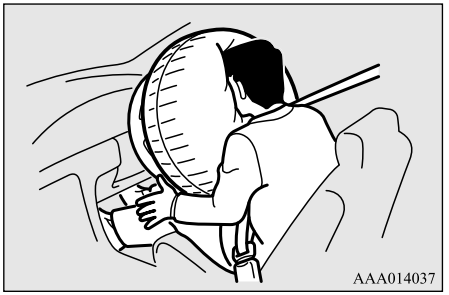
アドバイス

- 膨らんだSRSエアバッグはすぐにしぼむので運転席および助手席SRSエアバッグは視界を妨げません。
- SRS エアバッグは一度膨らむと再使用できません。三菱自動車販売会社で SRS エアバッグ構成部品を交換してください。

運転席 SRS エアバッグ

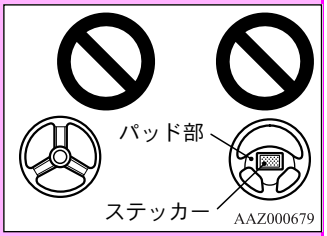
J10106600024

運転席SRSエアバッグはハンドルの中に装備されています。



⚠警告

- ハンドルの交換や、パッド部にステッカーを貼ったり、カバーを付けることはしないでください。SRS エアバッグが正常に作動しなかったり、誤って作動し、重大な傷害を受けるおそれがあります。

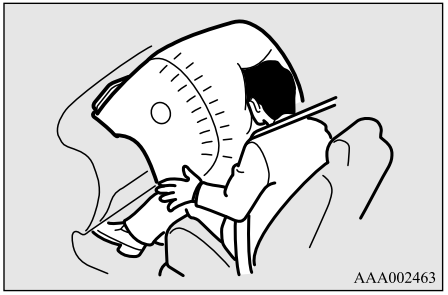


- ハンドルに顔や胸を近づけた姿勢で運転しないでください。
  SRS エアバッグが膨らむ際、SRS エアバッグにより死亡、または重大な傷害を受けるおそれがあります。

助手席 SRS エアバッグ

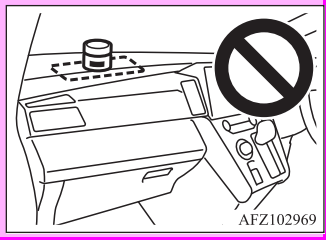
J10106700041

助手席SRSエアバッグはグローブボックス上のインストルメントパネルの中に装備されています。
助手席SRSエアバッグは同乗者がいなくても運転席SRSエアバッグと同時に作動します。



⚠警告

- インストルメントパネルの上に物を置いたり、前面ガラスやルームミラーにアクセサリーなどを取り付けたりしないでください。SRS エアバッグが膨らむときにこれらの物が飛んで重大な傷害を受けるおそれがあります。
  また、インストルメントパネルの上にステッカーを貼ったりしないでください。SRS エアバッグが正常に膨らむのを妨げるおそれがあります。



⚠警告

- お子さまを乗せるときには、後席に座らせて必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまには、チャイルドシートを後席に取り付けてお乗せください。正しい姿勢でシートに座っていないと、SRS エアバッグが膨らむときの強い衝撃でお子さまが死亡、または重大な傷害を受けるおそれがあります。
  →「チャイルドシート」P.2-27

⚠警告

- 助手席同乗者はインストルメントパネルに手や足を乗せたり、シートの前端に座って顔や胸を近づけた姿勢で座らないでください。また、お子さまをインストルメントパネルの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしないでください。SRS エアバッグが膨らむ際、SRS エアバッグにより死亡、または重大な傷害を受けるおそれがあります。





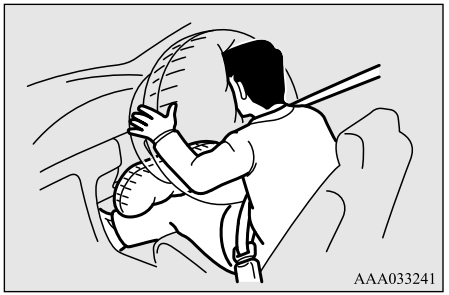
⚠警告

- 助手席同乗者は、かばんなどの荷物をひざの上に抱えるなど、SRS エアバッグとの間に物を置いたりしないでください。SRS エアバッグが膨らむ際に物が飛ばされ重大な傷害を受けるおそれがあります。

運転席 SRS ニーエアバッグ

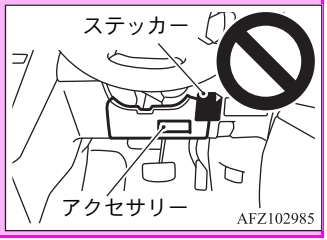
J10106800042

運転席SRSニーエアバッグはハンドル下のインストルメントパネルの中に装備されています。



⚠警告

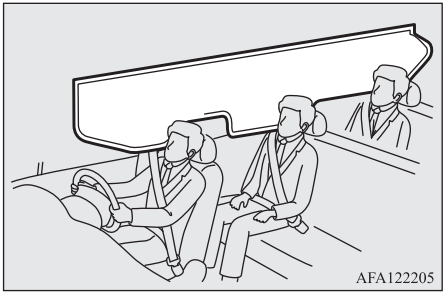
- ハンドル下のインストルメントパネルにステッカーなどを貼ったり、アクセサリーを取り付けたりしないでください。SRS ニーエアバッグが正常に膨らむのを妨げたり、膨らむときにこれらの物が飛んで重大な傷害を受けるおそれがあります。



SRS カーテンエアバッグ

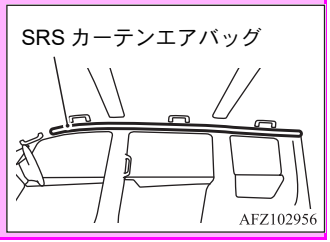
J10107000041

SRS カーテンエアバッグはルーフサイド部の中に装備されており、衝撃を受けた側のみ作動します。また、衝撃を受けた側に同乗者がいなくても作動します。



⚠警告

- ルーフサイド部のSRSカーテンエアバッグ収納部に近づいたり、ドアにもたれかかるような姿勢で座らないでください。
  SRS カーテンエアバッグが膨らむ際、SRS エアバッグにより重大な傷害を受けるおそれがあります。
  特にお子さまには注意してください。



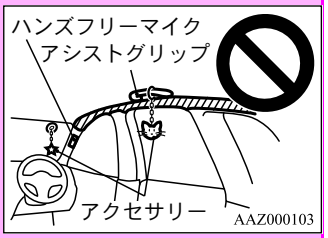
⚠警告





⚠警告

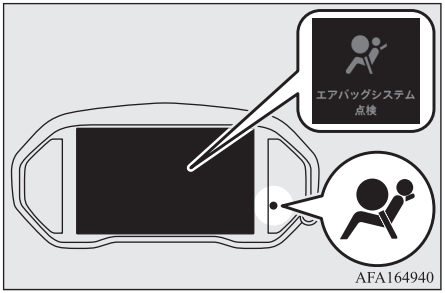
- 前面ガラス、側面ガラス、フロントピラー、センターピラー、リヤピラー、ルーフサイド部およびアシストグリップなどのSRSカーテンエアバッグ展開部周辺にステッカーなどを貼り付けたり、アクセサリーやハンズフリーマイクなどを取り付けたりしないでください。
  SRS エアバッグが正常に膨らむのを妨げたり、膨らむときにこれらの物が飛んで重大な傷害を受けるおそれがあります。



- 荷物を積むときは、側面ガラス付近に積まないでください。SRS エアバッグが正常に膨らむのを妨げるおそれがあります。

SRS エアバッグ／プリテンショナー機構警告

J10107100068



正常なときは、エンジンスイッチの電源モードを ON にすると点灯し、数秒後に消灯します。
SRS エアバッグまたはプリテンショナー機構に異常があるときは、点灯します。
また、インフォメーション画面にも警告表示されます。

⚠警告

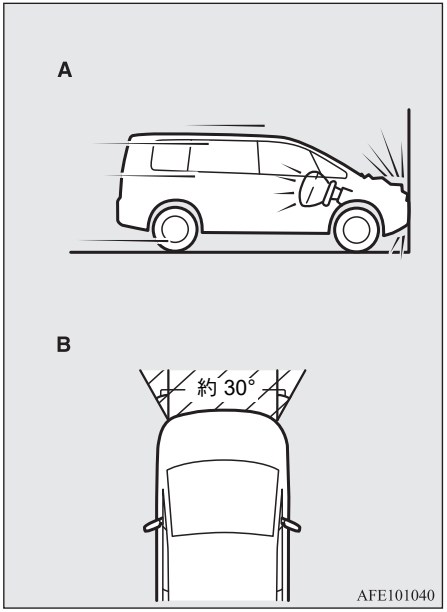
- 警告灯がエンジンスイッチの電源モードを ON にしても点灯しない場合や点灯したままの場合、または走行中に警告表示される場合は、事故のときに SRS エアバッグやプリテンショナー付シートベルトが正常に作動せず死亡、または重大な傷害を受けるおそれがあります。
ただちに三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

運転席 SRS エアバッグ、助手席 SRS エアバッグおよび運転席 SRS ニーエアバッグの作動条件

J10107200043

作動するとき

乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を車両前方から受けたときに作動します。



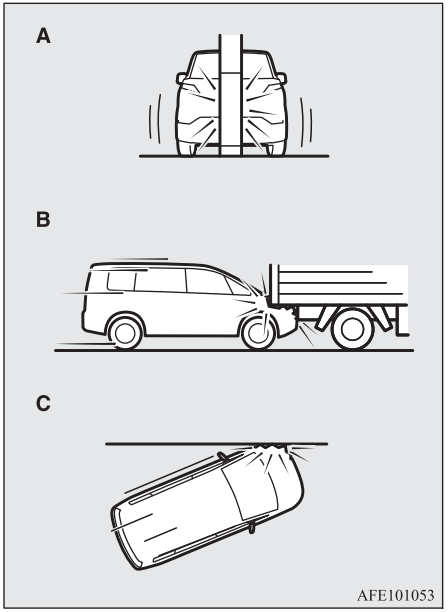
A- 約 25km/h 以上の速度でコンクリートのような固い壁に正面から衝突したとき
B- 車両の前方左右約 30° 以内の方向から強い衝撃(A と同等)を受けたとき

アドバイス

- コンクリートのような固い壁でなく、衝撃を吸収できる物（車やガードレールのように変形、移動する物）に衝突した場合は、SRS エアバッグが作動するときの衝突速度（車速）は高くなります。

作動しないことがあるとき

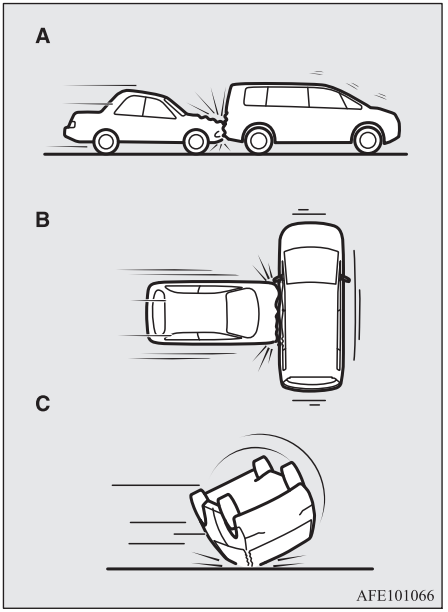
衝突により車両前部が大きく変形しても、衝突した位置や角度、衝突した物の形状や状態などによってSRSエアバッグは作動しないことがあります。車両の変形や損傷の大きさとSRSエアバッグの作動は必ずしも一致しません。



A- 電柱や立木など狭い範囲に衝突したとき
B- トラックなどの荷台へ潜り込んだとき
C- 斜め前方から衝突したとき

作動しないとき

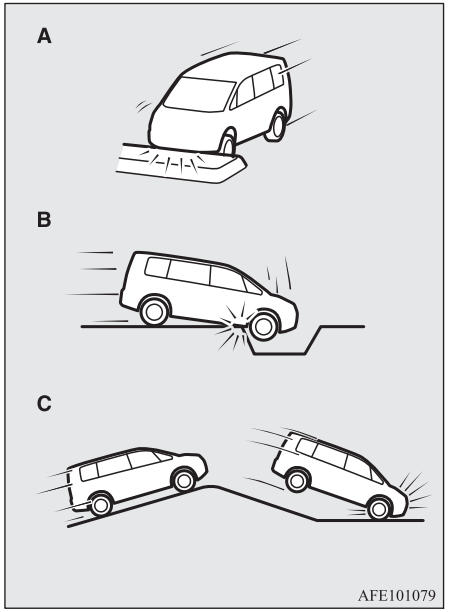
SRS エアバッグが膨らんでも乗員保護の効果がないため作動しません。
また、一度作動した SRS エアバッグは、2 回目以降の衝突では再作動しません。



A- 追突されたとき
B- 側面から衝突されたとき
C- 横転、転覆したとき

作動することがあるとき

走行中、車両下部に強い衝撃を受けたときに作動することがあります。



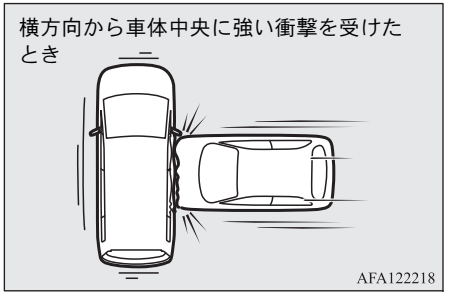
A- 中央分離帯や縁石などに衝突したとき
B- 深い穴や溝に落ちたとき
C- ジャンプして地面にぶつかったとき

SRS カーテンエアバッグの作動条件

J10107300044

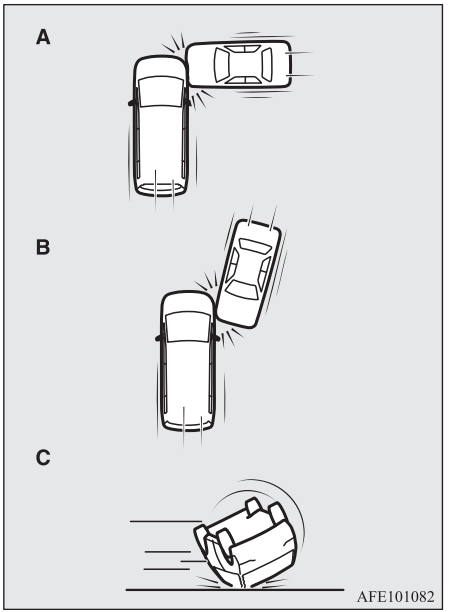
作動するとき

乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を車両側方から受けたときに作動します。

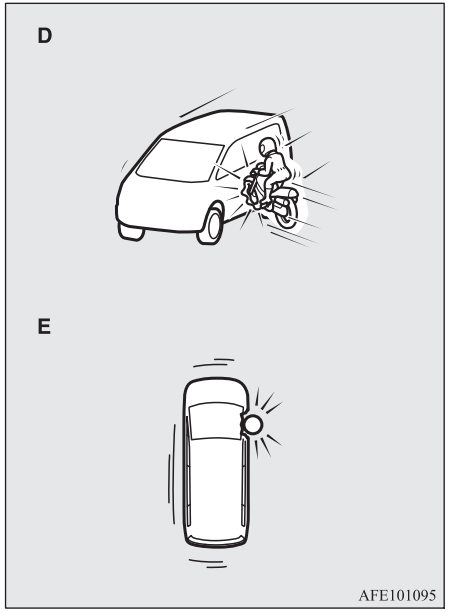


作動しないことがあるとき

衝突により車両側面が大きく変形しても、衝突した位置や角度、衝突した物の形状や状態などによってSRSカーテンエアバッグは作動しないことがあります。車両の変形や損傷の大きさとSRSカーテンエアバッグの作動は必ずしも一致しません。



A- 客室部以外の側面に衝撃を受けたとき
B- 斜め側方から衝撃を受けたとき
C- 横転や転覆したとき

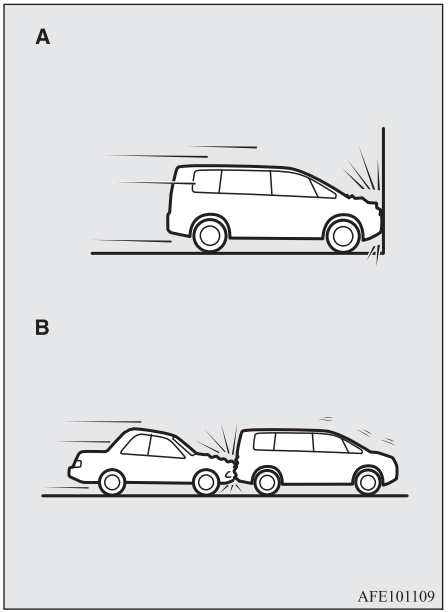


D- 側面にバイクが衝突したとき
E- 電柱などに衝突したとき

作動しないとき

SRS カーテンエアバッグが膨らんでも乗員保護の効果がないため作動しません。

また、一度作動した SRS カーテンエアバッグは、2 回目以降の衝突では再作動しません。



A- 正面衝突したとき
B- 追突されたとき

取り扱い上の注意

J10107400045

⚠警告

- 次の修理または部品の取り付けをするときは、SRS エアバッグに影響をおよぼしたり、SRS エアバッグが思いがけなく作動しけがをするおそれがありますので、三菱自動車販売会社にご相談ください。
  - 運転席SRSエアバッグ、助手席SRSエアバッグ：
    ハンドルまわり、インストルメントパネル、フロアコンソール付近の修理、カーオーディオなどの取り付け、および車両前部の修理
  - 運転席 SRS ニーエアバッグ：
    ハンドル下インストルメントパネル、およびその付近の修理
  - SRS カーテンエアバッグ：
    フロントピラー、センターピラー、リヤピラー、ルーフサイド部、およびその付近の修理
- サスペンションを改造しないでください。車高が変わったり、サスペンションの硬さが変わるとSRSエアバッグの誤作動につながるおそれがあります。
- 次のSRSエアバッグ展開部付近を強くたたくなど、過度の力を加えないでください。
  SRS エアバッグが正常に作動せず重大な傷害を受けるおそれがあります。
  - ステアリングパッド
  - インストルメントパネル上部

⚠警告

- ハンドル下インストルメントパネル
- フロントピラー
- センターピラー
- リヤピラー
- ルーフサイド部

⚠注意

- 廃車するときは三菱自動車販売会社にご相談ください。SRS エアバッグが思いがけなく作動し、けがをするおそれがあります。
- 電気テスターを使って、SRS エアバッグの回路診断はしないでください。SRS エアバッグの誤作動につながるおそれがあります。
- 無線機の電波などは、SRS エアバッグを作動させるコンピューターに悪影響を与えるおそれがありますので、無線機などを取り付けるときは、三菱自動車販売会社にご相談ください。

チャイルドシート

J10102100047

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。
チャイルドシートには主に乳児用（ベビーシート）、幼児用（チャイルドシート）、学童用（ジュニアシート）の 3 種類があります。車の仕様やお子さまの体格に合わせて適切なチャイルドシートをお選びください。
取り付け方法は、チャイルドシートに添付の取扱説明書に従ってください。

⚠警告

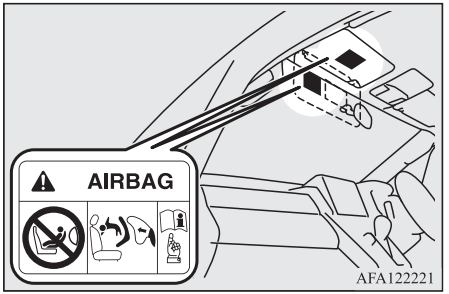
- 6 才未満のお子さまはチャイルドシートの使用が法律で義務付けられています。
- チャイルドシートは後席に装着してご使用ください。

⚠注意

- 取り付けたチャイルドシートの前にあるシートを調整するときは、チャイルドシートと干渉しないように注意してください。
- 後方へシートを移動したり背もたれを倒すときは、チャイルドシートに座ったお子さまに十分注意してください。
お子さまがシートとチャイルドシートの間にはさまれるおそれがあります。

助手席へのチャイルドシート取り付け時の注意

J10107600092



⚠警告

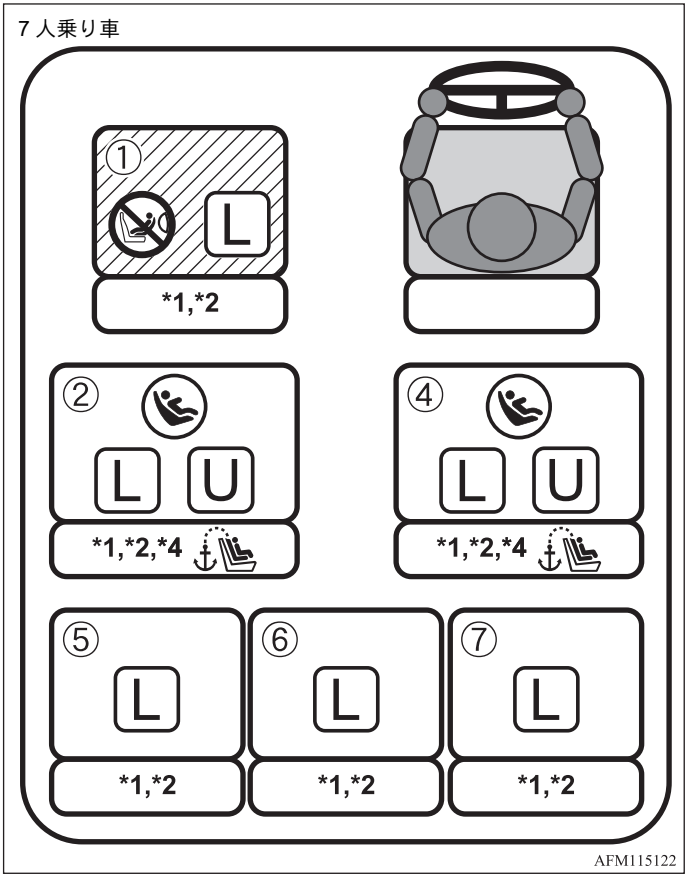
- 助手席に後ろ向き装着のチャイルドシートは絶対に取り付けないでください。
  また、前向き・後ろ向きとも装着可能なチャイルドシートでも後ろ向きには絶対に取り付けないでください。
  助手席 SRS エアバッグが膨らむとき、強い力が後ろ向きチャイルドシートの上部にかかり、背もたれに押しつけられてお子さまが死亡、または重大な傷害を受けるおそれがあります。



- やむを得ず助手席に前向き装着のチャイルドシートを取り付ける場合は、助手席を一番後ろの位置にしてください。

シート位置別チャイルドシートの選択

J10110500154



L 三菱自動車純正チャイルドシートの表に示す、三菱自動車純正チャイルドシートの取り付けが可能です。
→「三菱自動車純正チャイルドシート」P.2-32

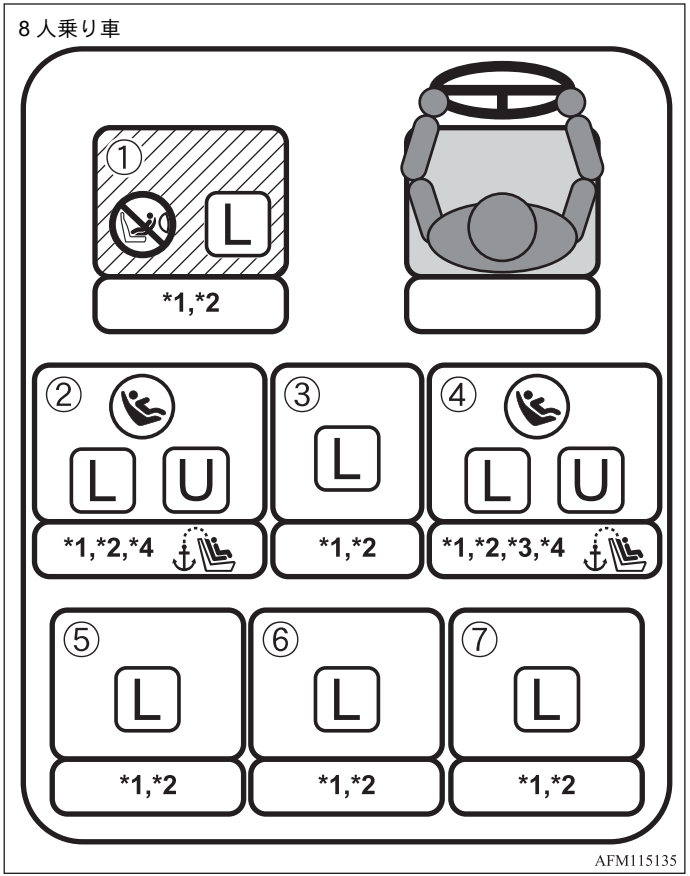
U 車両のシートベルトで固定するタイプの汎用型（ユニバーサル）カテゴリーのチャイルドシートの取り付けが可能です。

ISOFIX チャイルドシートの取り付けが可能です。（この車は 2006 年 10 月 1 日施行の保安基準に適合した ISOFIX チャイルドシート下部取付金具および ISOFIX チャイルドシート上部取付金具を標準装備しています。）

前向き装着のチャイルドシートのみ取り付けが可能です。

後ろ向き装着のチャイルドシートの取り付け禁止です。

ISOFIX チャイルドシート上部取付金具装備座席。



L 三菱自動車純正チャイルドシートの表に示す、三菱自動車純正チャイルドシートの取り付けが可能です。
→「三菱自動車純正チャイルドシート」P.2-32

U 車両のシートベルトで固定するタイプの汎用型（ユニバーサル）カテゴリーのチャイルドシートの取り付けが可能です。

ISOFIX チャイルドシートの取り付けが可能です。
（この車は 2006 年 10 月 1 日施行の保安基準に適合した ISOFIX チャイルドシート下部取付金具および ISOFIX チャイルドシート上部取付金具を標準装備しています。）

前向き装着のチャイルドシートのみ取り付けが可能です。

後ろ向き装着のチャイルドシートの取り付け禁止です。

ISOFIX チャイルドシート上部取付金具装備座席。

*1：チャイルドシートを取り付けるときは、ヘッドレストを取り外してください。
ただし、ブースタークッションを取り付けるときは、ヘッドレストを取り外さないでください。
→「ISOFIX チャイルドシート下部取付金具および ISOFIX チャイルドシート上部取付金具での取り付け方」P.2-33
→「シートベルトでの取り付け方」P.2-35

*2：チャイルドシートを取り付けるときは、シートの前後位置を一番後ろの位置に調整してください。
ただし、サードシート中央席（⑥）に三菱自動車純正ジュニアシートを取り付けるときは、シートの前後位置を一番後ろの位置に調整後、1 段前方に調整してください。
→「フロントシート：調整のしかた」P.3-51
→「セカンドシート：調整のしかた」P.3-53
→「サードシート：調整のしかた」P.3-55

*3：8 人乗り車のセカンドシート右側席（④）にチャイルドシートを取り付けたときは、セカンドシート中央席（③）に座らないでください。チャイルドシートがシートベルトに干渉するため、シートベルトが正しく着用できません。

*4：i-Size チャイルドシート（後ろ向き）の適用身長は 100cm 以下、i-Size チャイルドシート（前向き）の適用身長は 76cm から 100cm です。
→「三菱自動車純正チャイルドシート」P.2-32

⚠注意

- セカンドシート、またはサードシートにチャイルドシートを取り付けるときは、お子さまの脚やチャイルドシートが当らないように、フロントシート、またはセカンドシートの前後位置や背もたれの角度を調整してください。

チャイルドシートメーカーに関する詳細情報

シート位置の番号	①助手席	セカンドシート			サードシート		
		②左側席	③中央席	④右側席	⑤左側席	⑥中央席	⑦右側席
汎用ベルト式に適する着席位置（有／無）	無	有	無	有	無	無	無
ISOFIX 着席位置（有／無）	無	有	無	有	無	無	無

シート位置の番号	①助手席	セカンドシート			サードシート		
		②左側席	③中央席	④右側席	⑤左側席	⑥中央席	⑦右側席
横向き固定具に適する着席位置 (L1/L2)	—	—	—	—	—	—	—
適する最大の後ろ向き固定具 (R1/R2X/R2/R3)	—	R3	—	R3	—	—	—
適する最大の前向き固定具 (F2X/F2/F3)	—	F3	—	F3	—	—	—
適する最大のブースター固定具 (B2/B3)	B3	B3	B3	B3	B3	B3	B3

三菱自動車純正チャイルドシート

アドバイス

- 三菱自動車純正チャイルドシートの購入は三菱自動車販売会社にご相談ください。

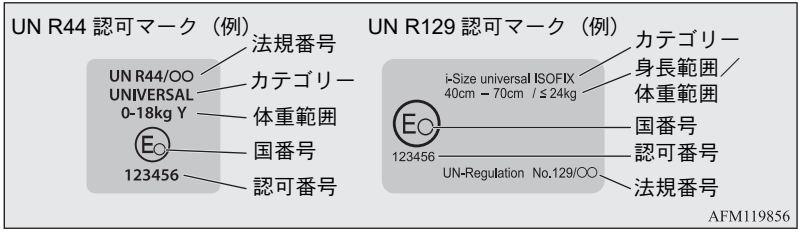
固定方式	チャイルドシート品名	適用範囲	①助手席	セカンドシート			サードシート		
				②左側席	③中央席	④右側席	⑤左側席	⑥中央席	⑦右側席
ISOFIX	i-Size チャイルドシート（後ろ向き）	身長 100cm 以下 体重 18kg 以下	×	○	×	○	×	×	×
	i-Size チャイルドシート（前向き）*	身長 76 ～ 100cm 体重 18kg 以下	×	○	×	○	×	×	×
	ジュニアシート	身長 100 ～ 150cm 体重 15 ～ 36kg	×	○	×	○	×	×	×

*：身長 76cm 以上、かつ月齢が 15ヶ月を超えるまでは、前向きで使用しないでください。

固定方式	チャイルドシート品名	適用範囲	① 助手席	セカンドシート			サードシート		
				② 左側席	③ 中央席	④ 右側席	⑤ 左側席	⑥ 中央席	⑦ 右側席
シートベルト	ジュニアシート	身長 100 ～ 150cm 体重 15 ～ 36kg	○	○	○	○	○	○	○

アドバイス

- UN R44またはR129はチャイルドシートに関する国際法です。UN R44またはR129に適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。



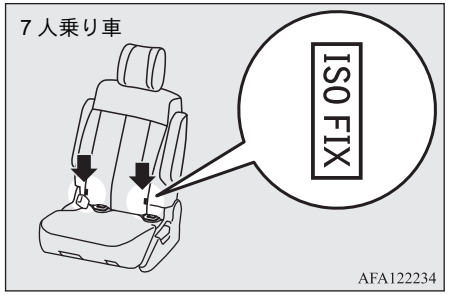
ISOFIX チャイルドシート下部取付金具およびISOFIXチャイルドシート上部取付金具での取り付け方

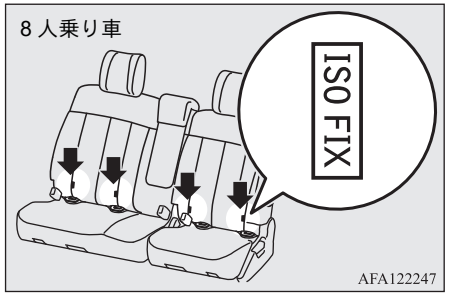
J10108700074

ISOFIXチャイルドシートは、ISOFIXチャイルドシート下部取付金具およびISOFIX チャイルドシート上部取付金具が装備された座席専用のチャイルドシートです。下部取付金具および上部取付金具を使用してチャイルドシートを固定します。車両のシートベルトでチャイルドシートを固定する必要はありません。

下部取付金具はセカンドシートクッションと背もたれの間に、上部取付金具はセカンドシートのシートクッション後方に、それぞれ装備されています。

下部取付金具





上部取付金具





⚠警告

- 下部取付金具および上部取付金具はチャイルドシートを固定するために装備されています。その他の装備品の固定には利用しないでください。

取り付けるときは

チャイルドシートに添付の取扱説明書に従って、チャイルドシートを取り付けます。

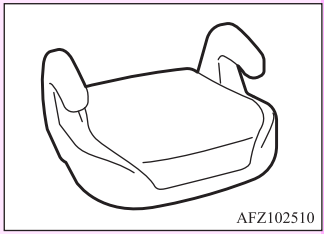
⚠警告

- チャイルドシートを取り付けるときは、下部取付金具および上部取付金具周辺に異物がないこと、シートベルトなどのかみ込みがないことを確認してください。異物があるとチャイルドシートが固定されず、衝突したときなどに重大な傷害を受けるおそれがあります。
- セカンドシートの背もたれを倒した状態でチャイルドシートを取り付けないでください。
  また、チャイルドシートが取り付けられているときは、シートの調整はしないでください。

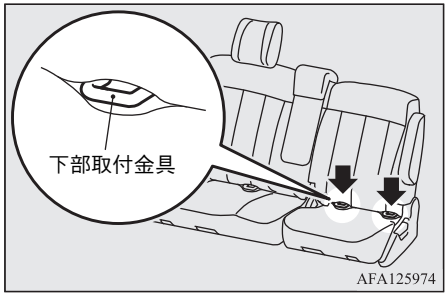
1. チャイルドシートを取り付けたい側のヘッドレストを取り外します。
   →「ヘッドレスト：取り外すときは」P.3-56

⚠注意

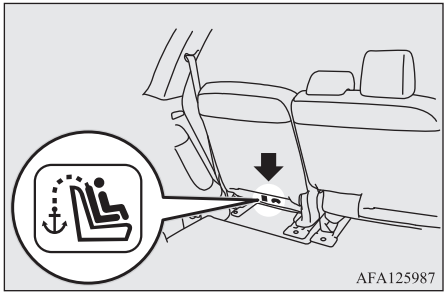
- ブースタークッションを取り付けるときは、ヘッドレストを取り外さないでください。



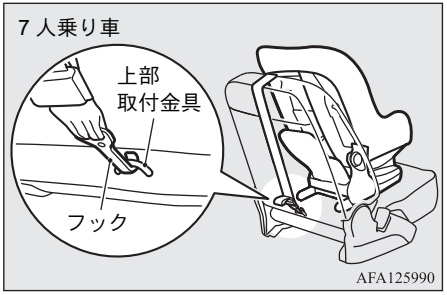
2. シートを一番後ろまで移動させます。
   →「セカンドシート：調整のしかた」P.3-53
3. セカンドシートクッションと背もたれのすき間にある下部取付金具の位置を確認し、チャイルドシートを下部取付金具に取り付けます。

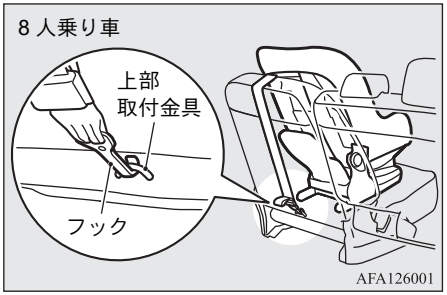


4. シートの背もたれおよびシートクッションと、チャイルドシートとの間にすき間ができないように、シートの背もたれおよびシートクッションの角度を調整します。
   →「セカンドシート：調整のしかた」P.3-53
   トップテザー付きチャイルドシートの場合は、手順 5. から 7. を行ってください。
   トップテザーがないチャイルドシートの場合は、手順7.を行ってください。
5. セカンドシートクッション後方の上部取付金具の位置を確認します。



6. テザーベルトのフックを上部取付金具に掛け、テザーベルトを締めて確実に固定します。





7. チャイルドシートを前後左右にゆすり、確実に固定されたことを確認します。

シートベルトでの取り付け方

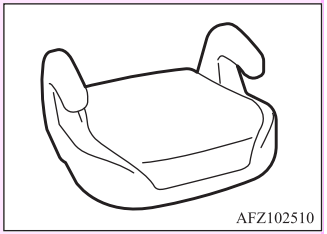
J10107900024

次の手順で確実に取り付けてください。

1. チャイルドシートを取り付けたい席に置き、ヘッドレストを取り外します。
→「ヘッドレスト：取り外すときは」P.3-56

⚠注意

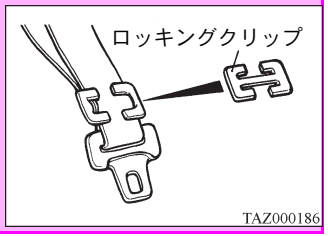
- ブースタークッションを取り付けるときは、ヘッドレストを取り外さないでください。



2. チャイルドシートに添付の取扱説明書に従って、チャイルドシートをシートベルトで固定します。

⚠警告

- チャイルドシートの種類によって取り付け方法が異なります。
必ずチャイルドシートの取扱説明書に従って正しく取り付けてください。
チャイルドシートによってはチャイルドシートに付属のロッキングクリップでの固定が必要です。



3. 固定後は、チャイルドシートを前後左右にゆすり、確実に固定されていることを確認してください。

冬期前の点検と準備

J10102400082

エンジンオイル

エンジンオイルは外気温に応じた粘度のものに交換してください。
→「エンジンオイルの量と種類」P.8-3

冷却水

工場出荷時は不凍液濃度50%の冷却水を充填しているため、濃度の調整は不要です。

ウォッシャー液

ウォッシャー液（三菱自動車純正品）は気温に適した濃度に調整してください。
→「ウォッシャー液の点検・補給」P.6-6

バッテリー

液量、比重を確認し、必要に応じて液の補充や補充電をしてください。詳しくは、「メンテナンスノート」をお読みください。
→「バッテリー液の点検・補充」P.6-6

タイヤチェーン、または冬用タイヤの準備

タイヤチェーンは必ず三菱自動車純正品をご使用ください。また、タイヤに合ったサイズの物を使用してください。
→「タイヤチェーン」P.2-39

冬用タイヤに取り換えるときは、4 輪とも交換します。
→「タイヤ交換するとき」P.7-23

ワイパー

寒冷地用ワイパーに交換するときは、必ず三菱自動車純正品をご使用ください。

運転をする前に

J10102500041

ガラス、ランプ類、車の屋根の雪や霜を落とす

走行前にガラスやランプ類に付いた雪や霜および車の屋根に積もった雪を落としてください。
また、ワイパーブレードがガラスに凍りついていないか確認してください。

⚠注意

- 車の屋根に雪が積もったまま走行すると、走行中ガラスに雪が落ちて視界の妨げとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ワイパー作動中に雪が落ちた場合、ワイパーの故障の原因となります。

⚠注意

- 冬期はワイパーブレードが凍結しガラスに張り付くことがあります。ガラスに張り付いたまま動かすとワイパーブレードを傷めたり、ワイパーモーターの故障の原因となります。フロントガラスの場合は、ヒーターで暖めてください。
→「ウインドウガラスの曇りや霜を取りたいときは」P.5-8

足まわりの確認

足まわりに付着した氷塊を取り除いてください。走行中に部品を損傷したり、ハンドルの切れが悪くなるおそれがあります。

⚠注意

- 足まわりにはブレーキ関連部品が集まっています。部品や配線などを損傷させないように注意して氷塊を取り除いてください。

ドアの凍結

ドアが凍結したときに無理に開けようとするとドアまわりのゴムがはがれたり、亀裂が入るおそれがあります。お湯をかけて氷を溶かしてください。その後すみやかに水分を十分拭き取ってください。

アドバイス

- キー穴部にはお湯をかけないでください。凍結すると、キーが差し込めなくなります。

車に乗る前に

ペダルの滑りや、ウインドウガラスの曇りを防止するため、靴に付いた雪はよく落としてから乗車してください。

ペダル、ハンドル、ブレーキの効きの確認

- ペダルやハンドルの動きは円滑かどうか確認してください。
- ブレーキ装置に付着した雪や水が凍結し、ブレーキの効きが悪くなることがあります。
  走り始めの極低速時にブレーキペダルを踏んで、効き具合を確認してください。

雪道、凍結路の走行

J10102600026

暖機運転について

長すぎる暖機運転は、燃料の無駄使いにつながります。環境保護のためにも暖機運転は 1 分程度を目安として最小限にとどめてください。

雪道や凍結した道路はスリップに注意

- 速度は控えめにしてください。
- 橋の上、日陰、水たまり、トンネルの出入口付近などは路面が凍結しやすいので、注意してください。

車間距離は十分に

雪道、凍結路は滑りやすいため、ブレーキの効きが悪くなります。走行中は車間距離を十分にとってください。

ブレーキの効き具合を確認

雪道走行時にブレーキ装置に着氷し、ブレーキの効きが悪くなることがあります。走行中は前後の車や道路状況に注意し、ときどき軽くブレーキペダルを踏んで効き具合を確認してください。

駐車後の発進は慎重に

ブレーキ装置への着氷により車輪がロックしていることがあります。車の周りの安全を十分確認してからゆっくり発進してください。

⚠注意

- 急にアクセルペダルを踏み込まないでください。着氷によるロックが外れたときに急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

寒冷地での駐車

J10102700043

電動パーキングブレーキが凍結するおそれがあります。電動パーキングブレーキはかけず、セレクターレバーを P に入れさらに輪止めをしてください。
また、軒下や樹木の下には駐車しないでください。落雪や積雪の重みで屋根などのへこみや車体が損傷するおそれがあります。

アドバイス

- 車の前方を風下に向けて駐車しておくと、エンジンの冷えすぎを防ぐことができます。
- 輪止めは標準装備されておりません。三菱自動車販売会社でお買い求めください。
- 輪止めがないときは、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

ディーゼル車の使用燃料

J10109600054

ディーゼル車の使用燃料（軽油）は、外気温が低くなると凍結し、燃料パイプなどが詰まってエンジンの始動ができなくなったり、停止するなど故障の原因になります。
寒冷地域（スキー場など）に移動するときは、現地に着くまでに燃料の残量が 1/2 以下になるようにしておき、到着後はできるだけ早く下表の寒冷地用の燃料を補給してください。

アドバイス

- フェリーを利用して寒冷地域に移動するときは、到着後すぐに寒冷地用の燃料を補給できるよう、乗船前の燃料の残量を 1/2 以下にしておいてください。
- 使用温度範囲は、使用条件や環境により多少異なります。

使用温度範囲	使用燃料
-5 ℃以上	JIS2 号　低硫黄軽油（S10ppm 以下）
-5 ℃～ -15 ℃	JIS3 号　低硫黄軽油（S10ppm 以下）
-15 ℃～ -25 ℃	JIS 特 3 号 低硫黄軽油（S10ppm 以下）

タイヤチェーン

J10102800044

タイヤチェーンは、前輪に装着してください。

⚠注意

- タイヤチェーンは後輪に装着しないでください。

また、必ず三菱自動車純正品をご使用ください。サイズが不適合な物を装着すると、ボデーなどに当たり傷をつけるおそれがあります。詳しくは三菱自動車販売会社にご相談ください。
取り付け要領は、タイヤチェーンに添付の取扱説明書をお読みください。

⚠注意

- パンクしたときは、パンクタイヤ応急修理キットで応急修理をしてからタイヤチェーンを装着してください。
→「パンクタイヤ応急修理キット」P.7-15
- 路上でタイヤチェーンを装着するときは、交通のじゃまにならず、安全に作業できる平らで硬い場所を選んでください。
また、非常点滅灯や停止表示板で後続車に注意を促し同乗者は安全な場所に待機させてください。

アドバイス

- タイヤチェーンを装着したときは 30km/h 以下で走行してください。
- 雪道、凍結路以外でのタイヤチェーンの装着はチェーンの寿命を短くしますので、避けてください。

イモビライザー（盗難防止装置）

J10102200022

イモビライザー（盗難防止装置）は、車両盗難防止のため、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンがかからないようにした装置です。

アドバイス

- 周囲の環境や条件により、車がキーからの信号を受信できずエンジンが始動できないことがあります。
エンジンが始動できないときは、「キーレスオペレーションシステム」をお読みになって原因を取り除くか、三菱自動車販売会社にご連絡ください。
→「キーレスオペレーションシステム」P.3-5
- キーを紛失したときや、新しいキーを作りたいときは、三菱自動車販売会社にご相談ください。同じ車両で最大 4 個まで登録できます。このとき残りのすべてのキーとお車を三菱自動車販売会社にお持ちください。

セキュリティアラーム

J10102300124

セキュリティアラームは、車両内への不正侵入防止のため、キーレスエントリーシステムまたは、キーレスオペレーション機能で解錠せずにドアやテールゲートを開けたとき、またはエンジンフード（ボンネット）を開けたときに警報を作動させ、周囲に異常を知らせるシステムです。

工場出荷時は、セキュリティアラームが「作動しない」に設定されています。

設定を変更するときは「セキュリティアラームの設定変更のしかた」の手順に従って操作してください。→P.2-41

2

アドバイス

- キーレスエントリーシステム、キーレスオペレーション機能、またはクローズ＆ロック機構以外の操作で（エマージェンシーキーや集中ドアロックスイッチを使って）すべてのドアおよびテールゲートを施錠したときは、このシステムは働きません。
  →「キーレスエントリーシステム」P.3-2
  →「キーレスオペレーション機能を使って操作するときは」P.3-9
  →「クローズ＆ロック機構」P.3-25、3-42
- 三菱自動車純正品以外の部品を装着すると、セキュリティアラームに影響をおよぼすおそれがあります。
- キーレスオペレーションキーのスイッチを押しても施錠、解錠およびセキュリティアラームのセット、解除ができないときには電池の消耗が考えられます。新しい電池に交換してください。
  →「電池交換のしかた」P.3-5

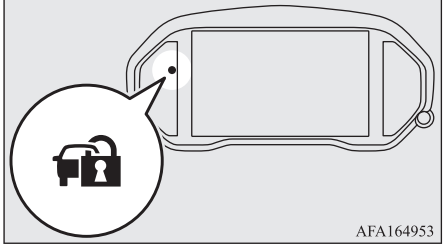
アドバイス

- キーレスエントリーシステムまたはキーレスオペレーション機能による施錠・解錠操作後に非常点滅灯が点滅しない場合、セキュリティアラームの誤作動の可能性があります。三菱自動車販売会社で点検を受けてください。
  キーレスエントリーシステムまたはキーレスオペレーション機能による施錠・解錠後の作動確認（非常点滅灯の点滅）を解除している場合、非常点滅灯は点滅しません。
  →「キーレスエントリーシステム」P.3-2
  →「キーレスオペレーション機能を使って操作するときは」P.3-9

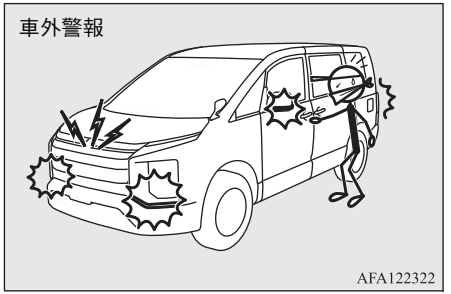
システムの基本状態

セキュリティアラームにはシステム準備状態、システム作動可能状態、警報作動、システム作動解除の 4 つの状態があります。
それぞれの状態に応じて、ブザー、セキュリティアラーム警告灯、非常点滅灯またはホーンが次の通り作動します。

準備状態、作動可能状態、車内警報



車外警報



システム準備状態 : 約 20 秒間

（ブザーが断続的に鳴り、セキュリティアラーム警告灯が点滅する）

キーレスオペレーションキーの LOCK スイッチを押す、キーレスオペレーション機能、またはクローズ＆ロック機構のい

ずれかですべてのドアおよびテールゲートを施錠した後、システム作動可能状態になるまでの準備時間です。
車内に荷物を忘れたり、ドアガラスを閉め忘れたのに気がついて、一時的にキーレスエントリーシステムまたはキーレスオペレーション機能を使わずにドアを開けたときに警報しないよう、この状態を設定しています。

システム作動可能状態

(ブザーは停止し、セキュリティアラーム警告灯の点灯時間が短くなり、点滅し続ける)

システム準備状態が過ぎると、システム作動可能状態になります。
作動可能状態のとき、不正にドア、テールゲートまたはエンジンフード（ボンネット）を開けられると警報が作動し、周囲に異常を知らせます。

警報作動

車内警報（約 10 秒間）：
ブザーが鳴り、セキュリティアラーム警告灯が点滅することで車内に異常を知らせます。

車外警報（約 30 秒間）：
非常点滅灯が点滅し、ホーンが鳴り、周囲に異常を知らせます。

→「警報作動」P.2-44

アドバイス

- 警報が停止した後も警報作動する状況が繰り返されると、車外警報が再び作動します。

システム作動解除

システム準備状態、システム作動可能状態のときにシステムの作動を解除することができます。
また、警報が作動しているときも警報作動を解除することができます。
→「システム作動の解除のしかた」P.2-44
→「警報作動の解除のしかた」P.2-45

アドバイス

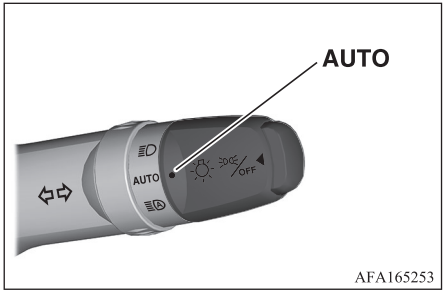
- 他の人にお車を貸されるときや、セキュリティアラームの作動について知らない人が運転されるときは、セキュリティアラームについて十分ご説明いただくか、セキュリティアラームを「作動しない」に設定してください。セキュリティアラームについて知らない人が誤って解錠すると、警報が作動し、周囲への迷惑となります。

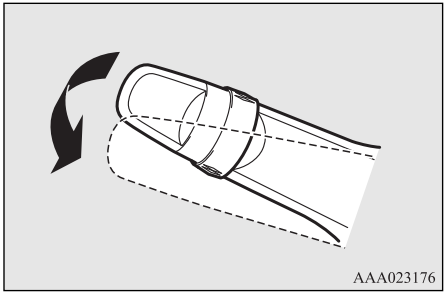
セキュリティアラームの設定変更のしかた

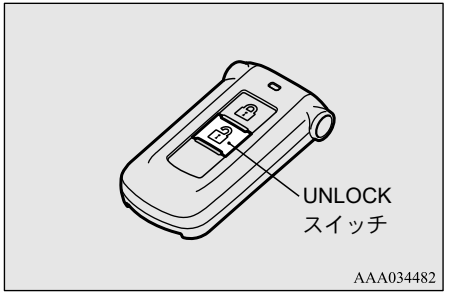
J10108000123

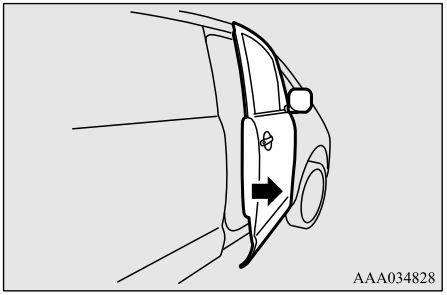
セキュリティアラームの設定を「作動する」または「作動しない」のいずれかに変更することができます。次の手順に従って設定を変更してください。

1. エンジンスイッチの電源モードを OFF にします。
2. ライトスイッチを AUTO の位置にして、運転席ドアを開いたままにします。









3. ワイパー／ウォッシャースイッチを手前に引いたまま保持します。
（電源モードが OFF のため、ウォッシャー液は出ません。）

4. 約 10 秒経過するとブザーが鳴りますが、ワイパー／ウォッシャースイッチは手前に引いたまま保持してください。
（ワイパー／ウォッシャースイッチを離すと、設定変更モードが無効になります。
やり直すときは、手順 3. からもう一度操作してください。）
5. ブザーが鳴り止んだら、ワイパー／ウォッシャースイッチを手前に引いたままキーレスオペレーションキーの UNLOCK スイッチを押してセキュリティアラームの設定状態を選択します。
設定状態は UNLOCK スイッチを押すごとに切り換わり、ブザーの回数によって確認できます。

ブザーの回数	セキュリティアラームの設定状態
1 回	警報作動しない
2 回	警報作動する

6. 次のいずれかの操作でシステム設定変更モードが終了します。
- ワイパー／ウォッシャースイッチを離す
- 運転席ドアを閉じる
- ライトスイッチを AUTO の位置以外にする
- 設定を変更しないまま約 30 秒経過する
- 電源モードを ON または ACC にする

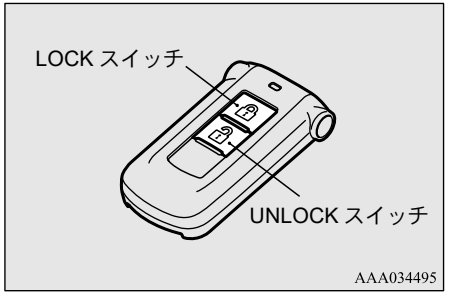
アドバイス

- セキュリティアラームの設定変更が分かりにくいときは、三菱自動車販売会社にご相談ください。
- セキュリティアラームを「作動する」に設定した場合も、万一のため、車を離れるときは車内に貴重品を置いたままにしないでください。

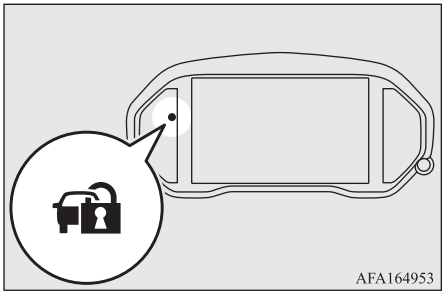
セキュリティアラームのセットのしかた

J10108100111

あらかじめセキュリティアラームを「作動する」に設定した後、次の手順でシステム作動可能状態にセットします。



1. 電源モードを OFF にします。
2. 車両から出てすべてのドア、テールゲートおよびエンジンフード（ボンネット）を閉じます。
3. キーレスオペレーションキーの LOCK スイッチを押す、キーレスオペレーション機能、またはクローズ＆ロック機構のいずれかですべてのドアおよびテールゲートを施錠します。
   キーレスエントリーシステム、キーレスオペレーション機能、またはクローズ＆ロック機構のいずれかによる施錠操作で、システム準備状態になります。このとき確認のためのブザーが断続的に鳴り、セキュリティアラーム警告灯が点滅します。



アドバイス

- キーレスエントリーシステム、キーレスオペレーション機能、またはクローズ＆ロック機構以外の操作で（エマージェンシーキーや集中ドアロックスイッチを使って）すべてのドアおよびテールゲートを施錠したときは、システム準備状態になりません。
- エンジンフード（ボンネット）が開いているときは、セキュリティアラーム警告灯が点灯し、システム作動可能状態になりません。
  エンジンフードを閉めるとシステム準備状態になり、約 20 秒後にシステム作動可能状態になります。
- キーレスエントリーシステム、キーレスオペレーション機能、またはクローズ＆ロック機構のいずれかによる施錠操作後にセキュリティアラーム警告灯が点滅しない場合、セキュリティアラームシステムが故障している可能性があります。三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

4. 約 20 秒後、ブザーが止まり、セキュリティアラーム警告灯の点滅速度が遅くなり始めたらシステム作動可能状態です。システム作動可能状態中は、セキュリティアラーム警告灯は点滅し続けます。

アドバイス

- 車内に人が乗っている状態、またはドアガラスが開いた状態でもセキュリティアラームは作動します。警報の思わぬ作動を防ぐため、車内に人が乗っている状態ではシステム作動可能状態にしないでください。

システム作動の解除のしかた

J10108200095

システム準備状態またはシステム作動可能状態のときに、次の方法でシステム作動を解除することができます。

- キーレスオペレーションキーの UNLOCK スイッチを押す
- 電源モードを ON または ACC にする
- システム準備状態のとき、いずれかのドア、テールゲートを開ける
- キーレスオペレーションキーを携帯し、ドアスイッチまたはテールゲートの OPEN スイッチで解錠する

アドバイス

- システム準備状態のときにエンジンフード（ボンネット）を開けるとシステム準備状態が中断し、エンジンフードを閉めるとシステム準備状態に戻ります。
- システム準備状態のときにバッテリー端子を外すと記憶は消去されます。

アドバイス

- 登録済みのキーであれば、セットしたキーと別のキーを使ってもシステムを解除することができます。
  キーの追加登録については、三菱自動車販売会社にお問い合わせください。
- UNLOCKスイッチまたはドアスイッチを押して解錠しても、約 30 秒以内にドアおよびテールゲートを開けなければ自動的に施錠されます。このときもシステム準備状態になります。
  UNLOCKスイッチまたはドアスイッチを押した後、自動的に施錠されるまでの時間を調整することができます。詳しくは三菱自動車販売会社にご相談ください。

警報作動

J10108300096

システム作動可能状態のとき、キーレスエントリーシステムの操作またはキーレスオペレーション機能で解錠せずに、いずれかのドア、テールゲートまたはエンジンフード（ボンネット）を開けると警報作動します。

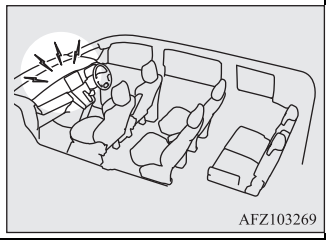
1. 車内警報が約 10 秒間作動し、セキュリティアラーム警告灯が点滅します。

アドバイス

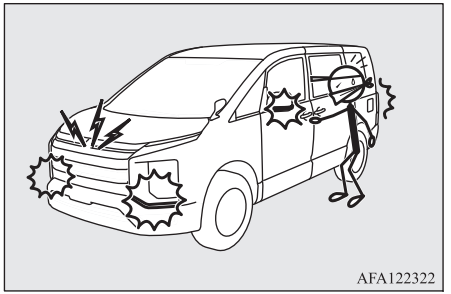
- システム作動可能状態のとき、エンジンフードを開けると車内警報は作動せず、すぐに車外警報が作動します。

アドバイス

- 車内警報の時間を調整することができます。詳しくは三菱自動車販売会社にご相談ください。



2. 車外警報が約 30 秒間作動します。
   非常点滅灯が点滅し、ホーンが断続的に鳴ります。



3. 警報が停止した後も警報作動する状況が繰り返されると、車外警報が再び作動します。

警報作動の解除のしかた

J10108400042

次の方法で警報作動を止めることができます。

- キーレスオペレーションキーのLOCKまたはUNLOCKスイッチを押す〔LOCKスイッチを押したとき、すべてのドアおよびテールゲートが閉じていれば施錠し、再びシステム準備状態になります〕
- 電源モードをONまたはACCにする
- キーレスオペレーションキーを携帯し、キーレスオペレーション機能でドアおよびテールゲートを施錠または解錠する

アドバイス

- 車内警報中にドアまたはテールゲートを閉じても警報作動は解除されません。
- 電源モードをONにしたときブザーが4回鳴り、セキュリティアラーム警告灯が4回点滅したときは、駐車中に警報が作動したことを示しています。
  盗難に遭っていないか、お車の中を確認してください。

アドバイス

- バッテリーを外しても警報作動の記憶は消去されません。
  一時的にバッテリーを外して警報作動しないようにしても、バッテリーを再び接続するとすぐに警報し、周囲に異常を知らせます。

イベントデータレコーダー [EDR] について

J10110200050

本車両は、SRSエアバッグシステムを制御するためのコンピューターを搭載しています。
当該コンピューターは、当システムが正常に作動しているかどうかを常に診断するとともに、衝突のときや衝突に近い状態のときにおいて車両の速度やブレーキペダルの状態などのデータを記録・蓄積するEDRを備えています。

EDRは、一般的なデータレコーダーとは異なり、会話などの音声や映像は記録しません。
三菱自動車および三菱自動車が委託した第三者は、EDRに記録されたデータを、車両衝突安全性能の向上などを目的として取得・利用することがあります。

なお、三菱自動車および三菱自動車が委託した第三者は、取得したデータを次の場合を除き、第三者へ提示することはありません。

- 車両の該当データ記録時の使用者の同意がある場合
- 裁判所命令など、法的強制力のある要請に基づく場合
- 使用者や車両が特定できないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

追加データ記録について

お客様のお車には衝突被害軽減ブレーキシステム [FCM] が装備されており、非日常的な事故または衝突の危険が差し迫った状況におけるFCMの作動状況を把握することを目的とした追加データ記録機能を備えています。
追加データ記録機能では、次の情報が記録されます。

- アクセル、ブレーキ、ハンドルなどの操作状況
- 先行車との距離、横方向位置、その他の先行車に関する情報
- 車速およびその他の車両情報
- FCM およびその他の機能の作動状況に関する情報

- FCM の故障診断情報

追加データ記録機能では会話などの音声や車内の映像は記録しません。
三菱自動車および三菱自動車が委託した第三者は、車両の安全性能向上を目的として記録データを取得・利用することがあります。

なお、三菱自動車および三菱自動車が委託した第三者は、取得したデータを次の場合を除き、第三者へ提示することはありません。

- 車両の当該データ記録時の使用者の同意がある場合
- 警察／裁判所／政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- 使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

各部の開閉

キー 3-2
キーレスエントリーシステム 3-2
キーレスオペレーションシステム 3-5
ドア 3-15
フロントドア 3-15
集中ドアロック 3-16
スライドドア 3-18
チャイルドプルーフ（スライドドア安全施錠装置）..... 3-29
電動サイドステップ 3-30
テールゲート 3-37
パワーウインドウ 3-46

シート

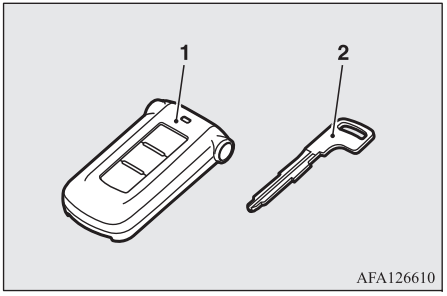
シートアレンジ 3-48
シート調整 3-49
フロントシート 3-50
セカンドシート 3-52
サードシート 3-55
ヘッドレスト 3-55
荷室の作り方 3-57
フラットシートの作り方 3-62

ハンドル・ミラー

チルトステアリング 3-65
ルームミラー 3-65
ドアミラー 3-66

キー

J10200100057



1- キーレスオペレーションキー
2- エマージェンシーキー

⚠警告

- 航空機内にキーを持ち込むときは、機内でキーのスイッチを押さないでください。スイッチを押すと電波が発信され、航空機の運航に悪影響をおよぼすおそれがあります。
  かばんなどに入れて持ち込むときも、簡単にスイッチが押されないようにしてください。

アドバイス

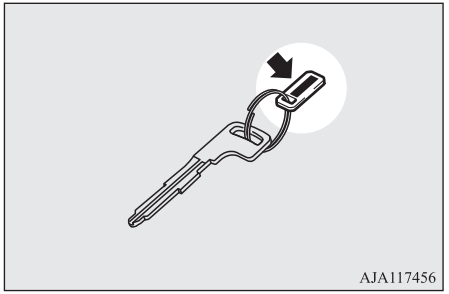
- キー（除く、エマージェンシーキー）は信号発信機が内蔵された精密な電子機器部品です。故障を防ぐため、次の点をお守りください。

アドバイス

- ダッシュボードの上など直射日光が当たる場所には放置しない
- 分解、改造をしない
- キーを無理に曲げたり、強い衝撃を与えない
- 水にぬらさない
- 磁気を帯びたキーホルダーなどを近づけない
- オーディオ、パソコン、テレビなど磁気を帯びた機器の近くに置かない
- 携帯電話や無線機、高周波医療機器など強い電波を発する機器の近くに置かない
- 超音波洗浄器などで洗浄しない
- 高温、多湿になる場所に置かない

- 電池交換のとき以外はキーを不用意に分解しないでください。分解、改造したキーを使用することは法律で禁止されています。
  また、必ず日本国内でご使用ください。
- 万一、キーを紛失したときは、盗難などを防ぐため、ただちに三菱自動車販売会社にご相談ください。

キーナンバープレート



キーナンバーがキーナンバープレートに打刻してあります。万一、キーを紛失した場合、キーナンバーを三菱自動車販売会社にご連絡ください。新しいキーを作ることができます。

アドバイス

- キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所に、キーとは別に大切に保管してください。

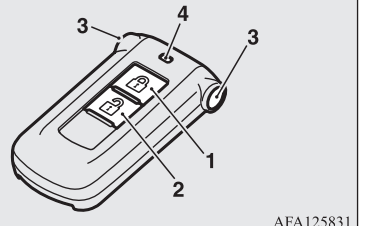
キーレスエントリーシステム

J10200300163

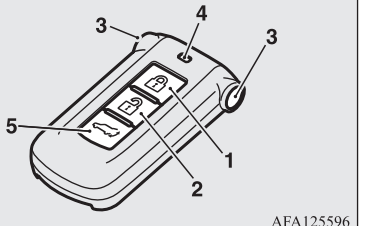
キーレスオペレーションキーのスイッチですべてのドアおよびテールゲートの施

錠・解錠、ドアミラーや電動スライドドアの操作をすることができます。
また、エレクトリックテールゲート付き車は、テールゲートを開閉することもできます。

除く、エレクトリックテールゲート付き車



エレクトリックテールゲート付き車



1- LOCK スイッチ
2- UNLOCK スイッチ
3- 電動スライドドアスイッチ
4- 作動表示灯
5- エレクトリックテールゲートスイッチ

アドバイス

- 近くに TV 塔や変電所、放送局があるなど周囲の状況によりキーレスオペレーションキーのスイッチの作動距離が変わることがあります。
- 次のようなときは、キーレスオペレーションキーのスイッチは作動しません。
  - ドア、テールゲートが開いている、または半ドアのとき（施錠時）
  - 電源モードが OFF 以外のとき
- キーレスオペレーションキーを紛失したときや、新しいキーレスオペレーションキーを作りたいときは、三菱自動車販売会社にご相談ください。
  4 個まで作ることができます。
- 次のときはキーレスオペレーションキーの電池の消耗が考えられます。
  - 作動距離が短くなったとき
  - 作動表示灯が暗い、または点灯しないとき

  電池が消耗した場合は、新しい電池に交換してください。
  →「電池交換のしかた」P.3-5

ドアおよびテールゲートの施錠・解錠

LOCK スイッチを押すとすべてのドアおよびテールゲートが施錠し、UNLOCK スイッチを押すとすべてのドアおよびテールゲートが解錠します。
UNLOCKスイッチを押して解錠しても約30秒以内にドアまたはテールゲートを開けなければ自動的に施錠されます。

アドバイス

- UNLOCK スイッチを押すと車幅灯が約 30 秒点灯します。
  詳しくは「ウェルカムライト」をお読みください。→P.4-81
- キーレスオペレーションキーのスイッチですべてのドアおよびテールゲートを施錠・解錠すると、ドアミラーは自動格納・自動復帰します。
  詳しくは「ドアミラー」をお読みください。→P.3-66
- UNLOCK スイッチを押した後、自動的に施錠されるまでの時間を調整することができます。詳しくは三菱自動車販売会社にご相談ください。

施錠・解錠時の作動確認

次の通り作動を確認することができます。

施錠時：非常点滅灯が 1 回点滅
解錠時：ルーム＆マップランプ、リヤパーソナルランプ、ルームランプ（リヤ）およびリラックスルームイルミネーション（タイプ別装備）が点灯し、非常点滅灯が 2 回点滅

ただし、ルーム＆マップランプ、リヤパーソナルランプ、ルームランプ（リヤ）およびリラックスルームイルミネーション（タイプ別装備）の点灯は、次の場合に限られます。

- **ルーム＆マップランプ、リヤパーソナルランプ**
  インテリアランプスイッチが DOOR（🚪）位置のとき。
- **ルームランプ（リヤ）**
  インテリアランプスイッチおよびルームランプ（リヤ）のスイッチが DOOR（🚪/●）の位置のとき。
- **リラックスルームイルミネーション**
  ［リラックスルームイルミネーション調光スイッチ付き車］
  リラックスルームイルミネーション調光スイッチが消灯以外の状態に設定してあるとき。
  ［除く、リラックスルームイルミネーション調光スイッチ付き車］
  インテリアランプスイッチの位置が OFF（○）以外のとき。

アドバイス

- 次の機能を変更することができます。
  - 作動確認の機能（非常点滅灯の点滅）を施錠時のみ、または解錠時のみにする。
  - 作動確認の機能（非常点滅灯の点滅）を働かなくする。
  - 作動確認の機能（非常点滅灯の点滅）の点滅回数を変更する。
  - 作動確認のブザーを鳴らす。

  詳しくは三菱自動車販売会社にご相談ください。

テールゲートの開閉

エレクトリックテールゲート付き車

エレクトリックテールゲートスイッチを押してテールゲートを開閉することができます。
→「テールゲート：スイッチによる自動操作」P.3-39

電動スライドドアの開閉

電動スライドドアスイッチを押してスライドドアを開閉することができます。
→「スライドドア：自動操作」P.3-22

ドアミラーの格納・復帰

LOCK スイッチを押して施錠するとドアミラーが自動で格納します。
UNLOCKスイッチを押して解錠するとドアミラーは元の位置に戻ります。

アドバイス

- 次の機能に変更することができます。
  - 運転席ドアを閉め、エンジンスイッチの電源モードを ON にすると自動復帰する。
    また、電源モードを OFF または ACC にした後、運転席ドアを開くと自動格納する。
  - 走行スピードが約 30km/h になると自動復帰する。
  - 格納スイッチ以外での操作をできなくする。

  詳しくは三菱自動車販売会社にご相談ください。

電池交換のしかた

J10210500041

電池交換をする前に部屋のドアノブなどの金属部分に触れて、身体の静電気を除去してください。

⚠警告

- 電池および取り外した部品は、誤ってお子さまが飲み込まないように注意してください。

アドバイス

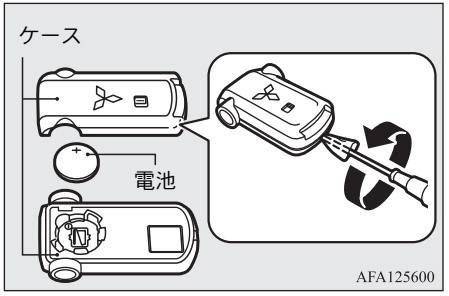
- 電池交換をする際は、キーを破損するおそれがあるため、三菱自動車販売会社での交換をおすすめします。
- キーは信号発信機が内蔵された精密な電子機器部品です。故障を防ぐため、内部の金属部分や回路に触れないでください。また、水やゴミを付着させないでください。

アドバイス

- 電池は三菱自動車販売会社、時計店またはカメラ店などでお買い求めください。

使用電池：CR2032

1. エマージェンシーキーを取り外します。
   →「エマージェンシーキー」P.3-14
2. 三菱マークを上にして、先端に布をかぶせたマイナスドライバーなどを差し込んでケースを開きます。



アドバイス

- 必ず三菱マークを上にしてケースを外してください。内部の部品が外れるおそれがあります。

3. 新しい電池は＋極を上にして取り付けます。
4. 取り付けるときは、取り外したときと逆の手順で行います。

キーレスオペレーションシステム

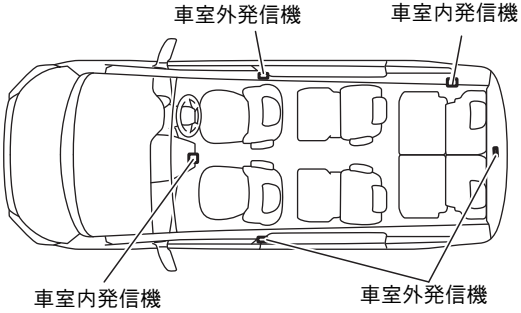
J10200400050

キーレスオペレーションキーを携帯するだけで、ドアおよびテールゲートの施錠・解錠操作やエンジンの始動操作ができるシステムです。
→「エンジンの始動・停止」P.4-5
また、キーレスオペレーションキーはキーレスエントリーシステムのリモコンスイッチとしても使えます。

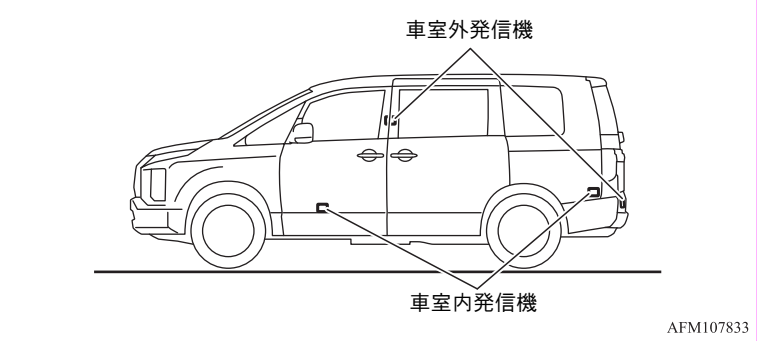
→「キーレスエントリーシステム」P.3-2
キーレスオペレーションキーは必ず運転者が携帯してください。ドアおよびテールゲートの施錠・解錠やエンジンの始動など車を操作するために必要ですので、車から離れるときは必ずキーレスオペレーションキーを携帯していることを確認してから施錠するようにしてください。

⚠警告

- 植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器を使用している方は、車室外発信機・車室内発信機から約 22cm 以内に近づかないようにしてください。キーレスオペレーションシステムに使用している電波が植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器の作動に影響をおよぼすおそれがあります。



⚠警告



● 植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用している方は、キーレスオペレーションシステムに使用している電波による影響について医療用電気機器製造業者などに確認してからご使用ください。電波が医療用電気機器の作動に影響をおよぼすおそれがあります。

キーレスオペレーションシステムでできる操作を次のように変更することができます。ただし、キーレスオペレーションキーはキーレスエントリーシステムのリモコンスイッチとして使用できます。
詳しくは三菱自動車販売会社にご相談ください。
- ドアおよびテールゲートの施錠・解錠操作のみできるようにする
- エンジンの始動操作のみできるようにする
- キーレスオペレーションシステムを働かないようにする。

アドバイス

● キーレスオペレーションキーは、微弱な電波を使用しています。
次のような場合、正しく作動しなかったり、不安定な作動となることがあります。
- 近くに TV 塔や変電所、放送局、空港、電気自動車の急速充電器など強い電波を発する設備があるとき
- 携帯電話や無線機などの通信機器やパソコンなどの電化製品と一緒に携帯しているとき
- キーレスオペレーションキーが金属製の物に接したり、覆われているとき
- 近くでキーレスエントリーシステムを使用しているとき

アドバイス

- キーレスオペレーションキーの電池が消耗しているとき
- 強い電波、ノイズのある場所に置いたとき
- 電波で車両の検出を行っているコインパーキングに駐車したとき

このようなときは、次のいずれかの方法でドアの施錠・解錠を行ってください。

- キーレスオペレーションキーの LOCK または UNLOCK スイッチを押す
  →「キーレスエントリーシステム」P.3-2
- エマージェンシーキーを使用する
  →「キーレスオペレーション機能を使わずに操作するときは」P.3-14

また、キーレスオペレーションキーをドアスイッチに近づけてドアスイッチを押すと作動する場合もあります
→「キーレスオペレーション機能を使って操作するときは」P.3-9

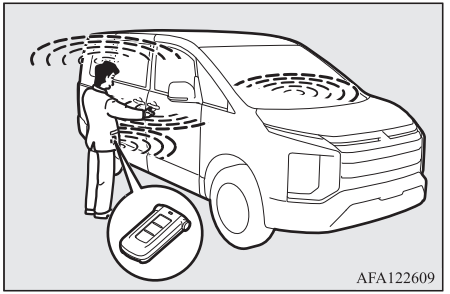
なお、エンジンの始動はキーレスオペレーションキーをエンジンスイッチに接触させて行ってください
→「キーレスオペレーションキーが正常に作動しないとき（電池切れなど）にエンジンを始動するときは」P.4-8

- キーレスオペレーションキーは、車両との通信のために常時受信動作をしているため、キーレスオペレーションキーの使用に関係なく常に電池を消耗しています。使用状況にもよりますが、電池の寿命は約 1 年～ 2 年です。電池が消耗した場合は、新しい電池に交換してください。
  →「電池交換のしかた」P.3-5
- キーレスオペレーションキーは、常時受信動作をしているため、強い電波の受信は電池の消耗につながります。テレビ、パソコンなどの電化製品の近くには置かないでください。

キーレスオペレーションシステムの作動範囲について

J10203200059

キーレスオペレーションキーを携帯してキーレスオペレーションシステムの作動範囲内に入り、ドアまたはテールゲートのスイッチを押すとIDコードの照合を行います。
車両とキーレスオペレーションキーの IDコードが一致した場合のみ、ドアおよびテールゲートの施錠・解錠操作やエンジンの始動操作が可能になります。

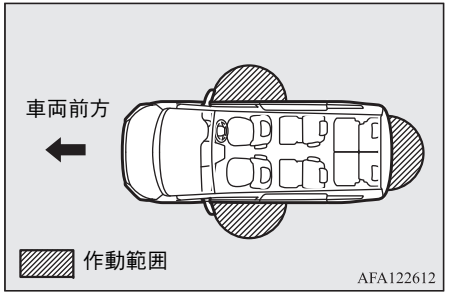


アドバイス

- キーレスオペレーションキーの電池が消耗しているときや、強い電波またはノイズのある場所などでは、作動範囲が狭くなったり、不安定な作動となることがあります。

ドアおよびテールゲートを施錠・解錠するときの作動範囲

作動範囲はフロントドアおよびテールゲートのハンドルから周囲約 70cm 以内です。



アドバイス

- キーレスオペレーションキーを検知したドアまたはテールゲートの操作でのみ施錠・解錠ができます。
- キーレスオペレーションキーがフロントドア、ドアガラス、テールゲートのすぐ近くにあるときは作動しないことがあります。

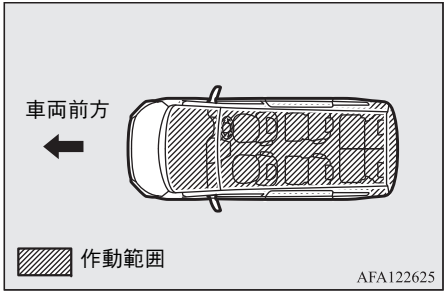
アドバイス

- キーレスオペレーションキーがフロントドアまたはテールゲートのハンドルから周囲約 70cm 以内でも、地面の近くや高い場所にあるときは、作動しないことがあります。
- キーレスオペレーションキーが作動範囲内にあれば、キーレスオペレーションキーを携帯していない人でも、フロントドアまたはテールゲートの操作で施錠・解錠ができます。

エンジンを始動する、電源モードを切り換えるときの作動範囲

J10203300050

作動範囲は車室内です。



アドバイス

- キーレスオペレーションキーが作動範囲内にあっても、グローブボックスなどの小物入れやインストルメントパネル周辺、ドアポケット、サードシート用ドリンクホルダー周辺、またはラゲッジルームなどにあるときは、エンジン始動ができないことがあります。
- キーレスオペレーションキーが車外にあっても、ドアやドアガラスのすぐ近くにあるときは、エンジン始動または電源モードの切り換えができることがあります。

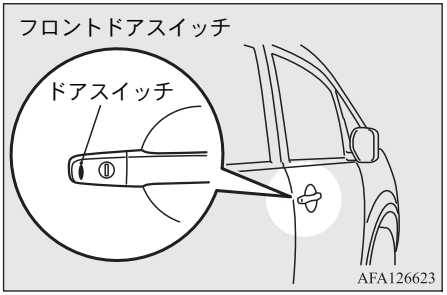
キーレスオペレーション機能を使って操作するときは

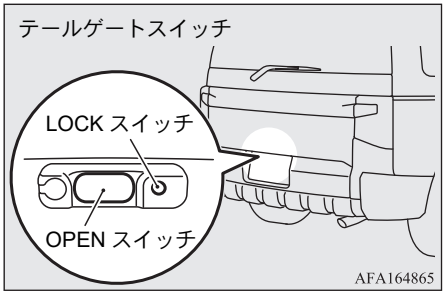
J10203400136

ドアおよびテールゲートの施錠・解錠

キーレスオペレーションキーを携帯しているとき、作動範囲内でフロントドアスイッチを押す、またはテールゲートスイッチを押すとすべてのドアおよびテールゲートが施錠または解錠します。
フロントドアスイッチまたはテールゲートの OPEN スイッチを押して解錠した後、約 30 秒以内にドアまたはテールゲー

トを開けなければ自動的に施錠されます。次の項も併せてお読みください。
→「ドア」P.3-15
→「集中ドアロック」P.3-16
→「スライドドア」P.3-18
→「テールゲート」P.3-37





アドバイス

- 必ずキーレスオペレーションキーを携帯していることを確認してから施錠するようにしてください。車内の次の場所などにキーレスオペレーションキーを置いたままでも、周囲の環境または電波状態などにより、施錠されることがあります。
  - グローブボックスなどの小物入れ
  - インストルメントパネル周辺
  - ドアポケット
  - サードシート用ドリンクホルダー周辺
  - ラゲッジルーム
- ドアスイッチまたはテールゲートスイッチで施錠・解錠すると、ドアミラーは自動格納・自動復帰します。
  詳しくは「ドアミラー」をお読みください。→P.3-66
- 次のようなときは、キーレスオペレーション機能は作動しません。
  - 車内にキーレスオペレーションキーがあるとき
  - ドア、テールゲートが開いている、または半ドアのとき（施錠時）
  - 電源モードが OFF 以外のとき
- セキュリティアラームを「作動する」に設定しているときは、施錠と同時にシステム準備状態、続いてシステム作動可能状態になります。
  詳しくは「セキュリティアラーム」をお読みください。→P.2-39

アドバイス

- 施錠の確認をテールゲートでしたいときは、施錠後約 3 秒以内にテールゲートの OPEN スイッチを押してください。施錠後約 3 秒以上過ぎて OPEN スイッチを押すと、ドアおよびテールゲートは解錠されます。
- 施錠の確認ができる時間を調整することができます。詳しくは三菱自動車販売会社にご相談ください。
- 解錠した後、自動的に施錠されるまでの時間を調整することができます。詳しくは三菱自動車販売会社にご相談ください。

施錠・解錠時の作動確認

次の通り作動を確認することができます。

施錠時：非常点滅灯が 1 回点滅し、車外ブザーが 1 回鳴る
解錠時：ルーム＆マップランプ、リヤパーソナルランプ、ルームランプ（リヤ）およびリラックスルームイルミネーション（タイプ別装備）が点灯し、非常点滅灯が 2 回点滅し、車外ブザーが 2 回鳴る

ただし、ルーム＆マップランプ、リヤパーソナルランプ、ルームランプ（リヤ）およびリラックスルームイルミネーション（タイプ別装備）の点灯は、次の場合に限られます。

- **ルーム＆マップランプ、リヤパーソナルランプ**
  インテリアランプスイッチが DOOR（⚿）位置のとき。
- **ルームランプ（リヤ）**
  インテリアランプスイッチおよびルームランプ（リヤ）のスイッチが DOOR（⚿/ ●）の位置のとき。
- **リラックスルームイルミネーション**
  [リラックスルームイルミネーション調光スイッチ付き車]
  リラックスルームイルミネーション調光スイッチが消灯以外の状態に設定してあるとき。
  [除く、リラックスルームイルミネーション調光スイッチ付き車]
  インテリアランプスイッチの位置が OFF（〇）以外のとき。

アドバイス

- 次の機能を変更することができます。
  - 作動確認の機能（非常点滅灯の点滅）を施錠時のみ、または解錠時のみにする。
  - 作動確認の機能（非常点滅灯の点滅）およびブザーを働かなくする。

アドバイス

- 作動確認の機能（非常点滅灯の点滅）の点滅回数を変更する。

詳しくは三菱自動車販売会社にご相談ください。

警告表示について

J10203500052

項目	警告表示	ブザーの鳴り方	原因および処置	備考
キーレスオペレーションキー持ち出し監視機構		車内ブザー 1 回 車外ブザー 断続的	駐車中、かつエンジンスイッチの電源モードが OFF 以外のとき、いずれかのドアを開けてキーレスオペレーションキーを車内から持ち出した後ドアを閉めると警告します。キーが車外に持ち出されていないか確認してください。	●ドアを開けずに窓からキーレスオペレーションキーを持ち出すと、キーレスオペレーションキー持ち出し監視機構は働きません。 ●ドアを開けずに窓からキーレスオペレーションキーを持ち出したとき、キーレスオペレーションキー持ち出し監視機構を働かせることができます。詳しくは三菱自動車販売会社にご相談ください。 ●エンジン始動の作動範囲内でキーレスオペレーションキーを携帯していても、周囲の環境または電波状態などにより、キーレスオペレーションキーと車両の ID コードの照合ができなかったときは、警告が作動することがあります。
キー閉じ込め防止機構		車内ブザー 1 回 車外ブザー 断続的に約 3 秒	電源モードが OFF のとき、車内にキーレスオペレーションキーを置いたまますべてのドアおよびテールゲートを閉め、ドアスイッチまたはテールゲートの LOCK スイッチを押して施錠しようとしたり、クローズ＆ロック機構で施錠しようとすると警告し、ドアおよびテールゲートの施錠ができません。キーを持って車から降りてください。	必ずキーレスオペレーションキーを携帯していることを確認してから施錠するようにしてください。車内にキーレスオペレーションキーを置いたままでも、周囲の環境または電波状態などにより、施錠されることがあります。

項目	警告表示	ブザーの鳴り方	原因および処置	備考
半ドア防止機構		車内ブザー 1 回 車外ブザー 断続的に約 3 秒	電源モードが OFF のとき、いずれかのドアまたはテールゲートを完全に閉めずにドアスイッチまたはテールゲートの LOCK スイッチを押して施錠しようとすると警告し、ドアおよびテールゲートの施錠ができません。ドアおよびテールゲートが完全に閉まっているか確認してください。	—
電源モード OFF 切り換え忘れ防止機構		車内ブザー 1 回 車外ブザー 断続的に約 3 秒	電源モードが OFF 以外のとき、ドアスイッチまたはテールゲートの LOCK スイッチを押して施錠しようとすると警告し、ドアおよびテールゲートの施錠ができません。電源モードを OFF にしてください。	—
キーレスオペレーションキーの電池切れ		車内ブザー 1 回	キーレスオペレーションキーの電池が消耗しているとき警告します。できるだけ早くキーレスオペレーションキーの電池を交換してください。	●電池交換をする際は、キーを破損するおそれがあるため、三菱自動車販売会社での交換をおすすめします。 ●お客様自身で電池交換をする場合は、“ 電池交換のしかた ” をよく読んでから行ってください。 →「電池交換のしかた」P.3-5
キーレスオペレーションシステムの異常		車内ブザー 1 回	システムに何らかの異常があります。警告が表示されたときは、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。	—

項目	警告表示	ブザーの鳴り方	原因および処置	備考
キーが検知できない	エンジンスイッチを 1 回押した場合  エンジンスイッチを 2 回以上押した場合 	車内ブザー 1 回	電源モードを OFF から切り換えるとき、またはエンジンをかけるとき、次のいずれかの場合に警告します。 ●ID コードが車両と異なるキーレスオペレーションキーを携帯している、またはキーレスオペレーションキーが作動範囲外にある ●キーレスオペレーションキーの電池切れ ●周囲の環境または電波状態などにより、キーレスオペレーションキーと車両の ID コードの照合ができない	●キーレスオペレーションキーをエンジンスイッチに接触させ、電源モードの切り換えまたはエンジン始動操作を行ってください。 →「キーレスオペレーションキーが正常に作動しないとき（電池切れなど）にエンジンを始動するときは」P.4-8

3

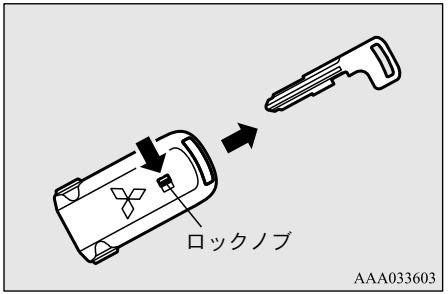
キーレスオペレーション機能を使わずに操作するときは

J10203600053

エマージェンシーキー

エマージェンシーキーはキーレスオペレーションキーに内蔵されています。
キーレスオペレーションキーの電池切れやバッテリー上がりなどによりキーレスオペレーション機能が使用できないとき、ドアの施錠・解錠操作をすることができます。
→「ドア」P.3-15

ロックノブを矢印の方向に押しながら、キーレスオペレーションキーからエマージェンシーキーを取り外します。



アドバイス

- エマージェンシーキーは緊急を要する場合のみご使用ください。
  キーレスオペレーションキーの電池が切れたときなどはできるだけ早く電池交換をして、キーレスオペレーションキーとして使用するようにしてください。
  →「電池交換のしかた」P.3-5
- エマージェンシーキーを使用した後は、必ずキーレスオペレーションキーに戻しておいてください。

ドア

J10200500107

⚠警告

- 車から離れるときは、火災や盗難などを未然に防ぐため、必ずエンジンを止めドアを施錠してください。
  法的にも義務付けられています。
  お子さま連れのときは必ずお子さまも一緒に連れて出てください。
  また、車内に貴重品を置いたままにしないでください。
- 走行する前にすべてのドアが確実に閉まっていることを確認してください。半ドアのときは、メーター内のインフォメーション画面に半ドア警告を表示します。
  確実に閉まっていないと、走行中にドアが開いて乗員が車外に放り出されるなど思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 電動サイドステップ付き車は、助手席ドアを開閉するとサイドステップが自動で展開・格納します。サイドステップに手、足、首などをはさまれないように注意してください。
  →「電動サイドステップ」P.3-30

アドバイス

- 運転席のドアが開いているときは、キー閉じ込め防止のため運転席ドアをエマージェンシーキーまたはロックノブを使って施錠しようとしても運転席のドアは施錠できません。

フロントドア

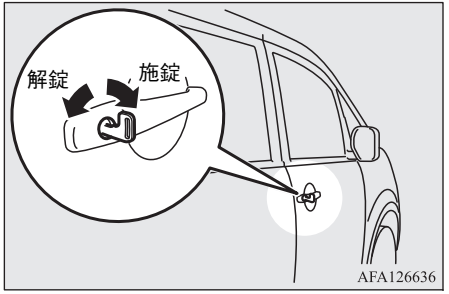
J10210600042

車外から施錠･解錠するときは

J10210900045

エマージェンシーキーを使って施錠・解錠するときは（運転席ドア）

エマージェンシーキーを車両前方に回すと施錠、車両後方に回すと解錠されます。

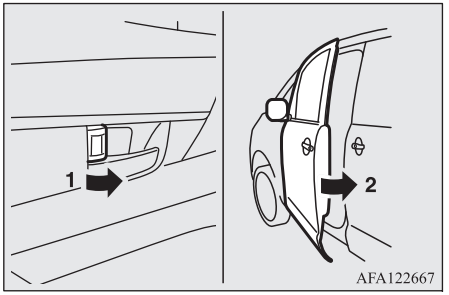


アドバイス

- エマージェンシーキーを使って施錠・解錠したときは、すべてのドアおよびテールゲートを施錠・解錠します。

キーを使わずに施錠するときは（助手席ドア）

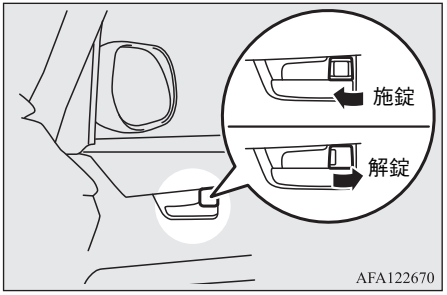
ドア内側のロックノブを車両前方に倒し(1)、ドアを閉じます（2)。



車内から施錠･解錠するときは

J10211300046

ロックノブを車両前方へ倒すと施錠し、車両後方へ戻すと解錠します。



オーバーライド機構

運転席ドアはロックノブを車両前方に倒したままでも、室内側のドアハンドルを引くとドアを開けることができます。また、同時にすべてのドアおよびテールゲートが解錠されます。

アドバイス

- すべてのドアおよびテールゲートを施錠・解錠するときは、集中ドアロック、キーレスエントリーシステムまたはキーレスオペレーション機能の操作で施錠・解錠してください。
  →「集中ドアロック」P.3-16
  →「キーレスエントリーシステム」P.3-2
  →「キーレスオペレーション機能を使って操作するときは」P.3-9

集中ドアロック

J10200600023

次の操作ですべてのドアおよびテールゲートの施錠・解錠ができます。

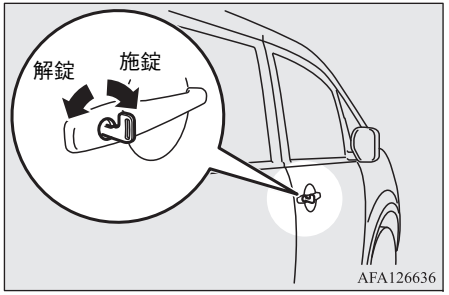
アドバイス

- 運転席のドアが開いているときは、キー閉じ込め防止のため集中ドアロックスイッチを使って施錠しようとしても運転席のドアは施錠できません。
- 施錠と解錠を交互に連続操作すると保護回路が働いて集中ドアロックが一時的に作動しなくなることがあります。
  このようなときはしばらくしてから（約1分後）操作してください。

エマージェンシーキーを使って施錠・解錠するときは（運転席ドア）

J10203900043

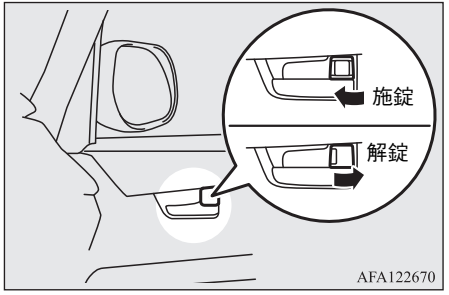
エマージェンシーキーを車両前方に回すとすべてのドアおよびテールゲートが施錠し、車両後方に回すとすべてのドアおよびテールゲートが解錠します。



ロックノブを使って施錠・解錠するときは

J10214200062

運転席ドア内側のロックノブを車両前方へ倒すとすべてのドアおよびテールゲートが施錠し、車両後方へ倒すとすべてのドアおよびテールゲートが解錠します。



車速感応オートドアロック（衝撃感知ドアロック解除システム付）

J10237900024

車速が約 20km/h 以上になると、すべてのドアおよびテールゲートが自動的に施錠されます。
また、走行中に運転者または同乗者に危害がおよぶような強い衝撃を受けたときは、すべてのドアおよびテールゲートが自動的に解錠されます。これは、万一事故が発生したときの救助活動に備えるものです。

⚠警告

- 次のようなときは、車速感応オートドアロックや衝撃感知ドアロック解除システムが正しく作動しないことがあります。ただちに三菱自動車販売会社で点検を受けてください。
  - 車速が約 20km/h 以上になっても、ドアおよびテールゲートが自動的に施錠しないとき
  - 走行中にドアおよびテールゲートが自動的に解錠したとき
  - エンジンスイッチの電源モードをONにしても、SRS エアバッグ／プリテンショナー機構の警告灯が点灯しないときや点灯したままのとき

⚠警告

- 走行中にSRSエアバッグ／プリテンショナー機構の警告灯が点灯したり、マルチインフォメーションディスプレイ内のインフォメーション画面に警告が表示されたとき
- 集中ドアロック機能が故障したとき

アドバイス

- 衝突などにより車両が大きく変形しても、衝突した位置や角度、衝突した物の形状や状態などによっては、ドアおよびテールゲートが解錠しないことがあります。車両の変形や損傷の大きさとドアおよびテールゲートの解錠は必ずしも一致しません。
- これらの機能は工場出荷時は「作動する」に設定されています。「作動しない」に変更したいときは、三菱自動車販売会社にご相談ください。

エンジンスイッチを使って解錠するときは

J10204000025

エンジンスイッチを使って解錠する機能を設定することができます。これらの機能は工場出荷時は「解錠しない」に設定されています。「解錠する」に変更したいときは三菱自動車販売会社にご相談ください。

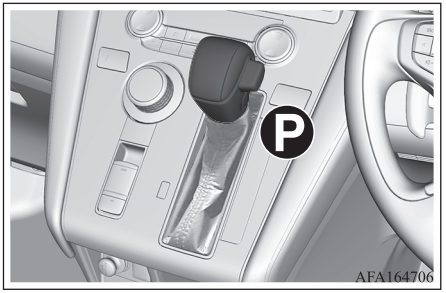
解錠するときは

エンジンスイッチの電源モードをOFFにするとすべてのドアおよびテールゲートが解錠します。

セレクターレバーを使って解錠するときは

J10204100071

エンジンスイッチの電源モードが ON のときにセレクターレバーをⓅに入れるとすべてのドアおよびテールゲートが解錠します。



アドバイス

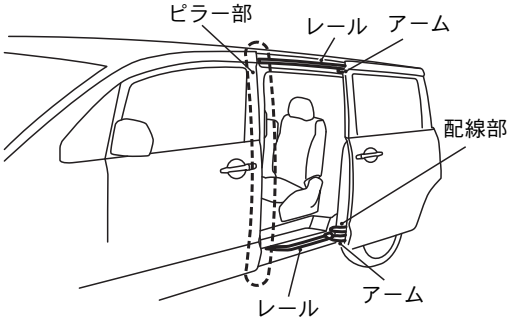
- セレクターレバーを使って解錠する機能を「解錠しない」に設定することができます。「解錠しない」に変更したいときは三菱自動車販売会社へご相談ください。

スライドドア

J10210700056

⚠警告

- 安全のためスライドドアの操作はお子さまではなく大人が行ってください。
  また、車を離れるときは必ずお子さまも一緒に連れて出てください。
  車内にキーを残したままにしておくと、お子さまがいたずらをして手、足、首などをはさむおそれがあります。
- スライドドアを開けたり閉めたりするときは、次のことをお守りください。
  スライドドアに手、足、首などをはさまれたり、引き込まれたりして重大な傷害を受けるおそれがあります。
  - 確実に停車している状態で操作してください。
  - スライドドア周辺の安全を十分確認してから操作してください。
    周りに人がいるときは、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
  - 車外や車内にいる人がスライドドアに寄りかかったり、触れたりしていないことを十分確認してから操作してください。
  - ドアガラスを開けた状態でスライドドアを開閉するときは、窓から手、足、顔などを出さないでください。
  - 手動操作をするときは、車外または車内のドアハンドルをしっかり持って開閉してください。
    ドア本体を持ったり、車体に手を掛けて開閉したりしないでください。
  - スライドドア本体、レール、アーム、ピラー部または配線部に手や足などを掛けないでください。



⚠警告

・スライドドアは全開位置まで開けると固定されます。
開けるときは、必ず全開位置まで開けて確実に固定してください。
固定されていないとスライドドアが急に開閉するおそれがあります。
・坂道などでスライドドアを開けたままにしないでください。
スライドドアが急に開閉するおそれがあります。

●走行する前にスライドドアが確実に閉まっていることを確認してください。
半ドアのときは、マルチインフォメーションディスプレイ内のインフォメーション画面に半ドア警告が表示されます。確実に閉まっていないと、走行中にスライドドアが開いて乗員が車外に放り出されるなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

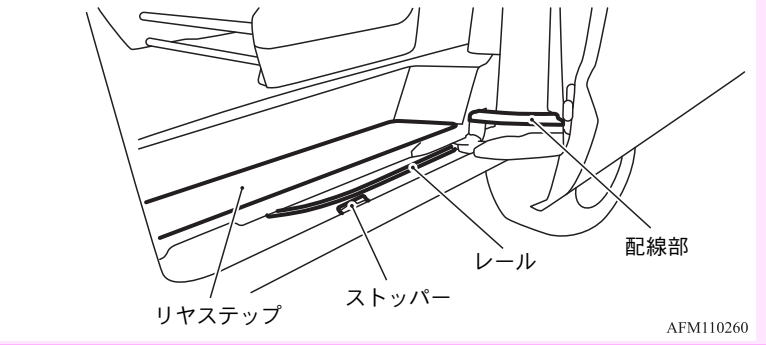
●電動サイドステップ付き車は、助手席側スライドドアを開閉するとサイドステップが自動で展開・格納します。サイドステップに手、足、首などをはさまれないように注意してください。
→「電動サイドステップ」P.3-30

⚠注意

●スライドドアを閉めるときは、リヤステップ下のレール付近およびストッパー付近に異物がないことを確認してください。
異物が入るとスライドドアが正常に閉まらなくなるおそれがあります。
また、ストッパーが正常に作動せず、フューエルリッドとスライドドアが干渉するおそれがあります。
→「フューエルリッド（燃料補給口）」P.4-89

⚠注意

- 乗り降りするときは、配線部を踏みつけないように注意してください。踏みつけたりすると、配線類を傷つけ、作動不良となるおそれがあります。



スライドドアの施錠・解錠

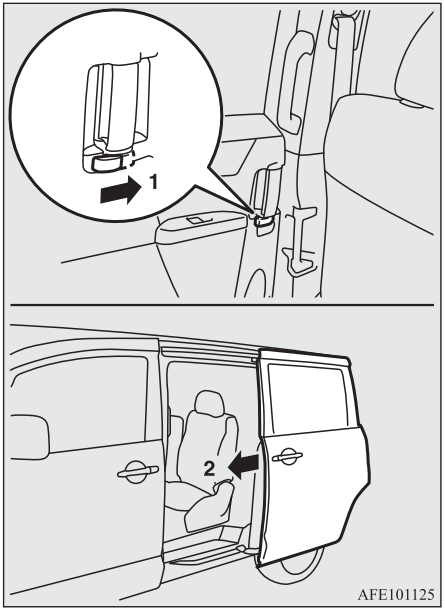
J10211400047

車外から施錠・解錠するときは

集中ドアロックまたはキーレスオペレーションシステムの操作で、スライドドアの施錠・解錠をすることができます。
詳しくは次の項をお読みください。
→「集中ドアロック」P.3-16
→「キーレスオペレーションシステム」P.3-5

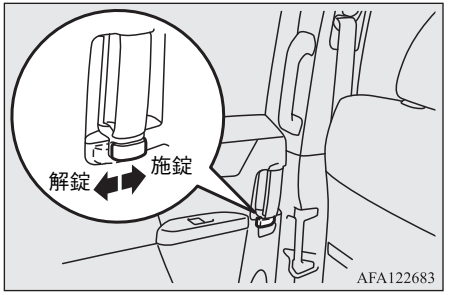
集中ドアロックまたはキーレスオペレーションシステムを使わずに施錠するときは

1. 車内のロックノブを車両前方に動かし、
2. スライドドアを閉じます。



車内から施錠・解錠するときは

車内のロックノブを車両前方に動かすと施錠し、車両後方に動かすと解錠します。



スライドドアの操作

J10211600052

⚠警告

- 電動スライドドアは走行中に自動で開閉できないようになっていますが、乗員の安全のため全閉位置まで自動で閉めることは可能です。走行中の電動スライドドア操作は大変危険ですので、電動スライドドアが確実に閉まっていることを確認してから、車両を発進させてください。
- 自動開閉中に電動スライドドアに触ったり、近づいたりしないでください。また、カバン、服などの巻き込みにも注意してください。電動スライドドアに手、足、首などをはさみ重大な傷害を受けるおそれがあります。

電動スライドドアは次の条件がそろったときに自動で開閉することができます。

なお、作動条件を満たさない場合は警報ブザーが 4 回鳴り、自動操作できないことを知らせます。

開けるとき

- POWER DOORスイッチがONのとき
- 次のいずれかの状態のとき
  - セレクターレバーがⓅに入っている
  - 電動パーキングブレーキをかけている
  - 車が止まっていてブレーキペダルを踏んでいる
- 電動スライドドアが全閉のとき
- 電動スライドドアのロックノブが解錠状態のとき
- チャイルドプルーフ（スライドドア安全施錠装置）のレバーが解錠状態のとき
- フューエルリッド（燃料補給口）が閉じているとき（助手席側電動スライドドア）
  →「フューエルリッド（燃料補給口）」P.4-89

アドバイス

- チャイルドプルーフのレバーが施錠状態のときは、車内のドアハンドルを使って自動で開けることはできません。
  →「チャイルドプルーフ（スライドドア安全施錠装置）」P.3-29

閉めるとき

- POWER DOORスイッチがONのとき
- 次のいずれかの状態のとき
  - セレクターレバーがPに入っている
  - 電動パーキングブレーキをかけている
  - 車が止まっていてブレーキペダルを踏んでいる
- 電動スライドドアが全開のとき
- 人や荷物などがセンサーに触れていないとき
- フューエルリッド（燃料補給口）が閉じているとき（助手席側電動スライドドア）
  →「フューエルリッド（燃料補給口）」P.4-89

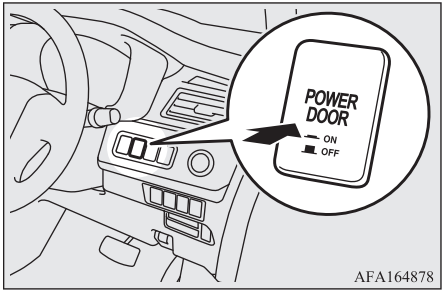
⚠警告

- 自動開閉中に作動条件を満たさなくなったときも、警報ブザーが 4 回鳴り電動スライドドアがその場で停止して手動操作に切り換わることがあります。
  このとき、車両の傾きによっては電動スライドドアが急に開閉するおそれがあります。

自動操作

J10211700066

POWER DOOR スイッチが ON で、作動条件がそろったときに、キーレスオペレーションキー、電動スライドドアスイッチ、スライドドアハンドルまたはワンタッチスイッチを使って電動スライドドアを開閉することができます。
→「キーレスオペレーションキーを使って開閉するときは」P.3-23
→「電動スライドドアスイッチを使って開閉するときは」P.3-23
→「スライドドアハンドルを使って開閉するときは」P.3-24
→「ワンタッチスイッチを使って開閉するときは」P.3-25



⚠警告

- 後輪タイヤの交換など電動スライドドアの周りで作業をするときは、POWER DOOR スイッチを OFF にしてください。POWER DOOR スイッチを ON のままにしておくと、誤ってドアハンドルなどに触れたとき電動スライドドアが動き、ドアにはさまれて重大な傷害を受けるおそれがあります。
- 開閉作動中にPOWER DOORスイッチをOFF にしたときは、作動が停止して手動操作に切り換わります。
  このとき、車両の傾きによっては電動スライドドアが急に開閉するおそれがあります。

⚠注意

- 開閉作動中に電動スライドドアに無理な力をかけないでください。故障の原因となります。
- 開閉作動中にエンジンを始動しないでください。急開閉防止機構が働き、電動スライドドアが正常に作動しないことがあります。

アドバイス

- 次のようなときは、電動スライドドアが正常に作動しないことがあります。
  - 車が大きく傾いた状態で駐車しているとき

アドバイス

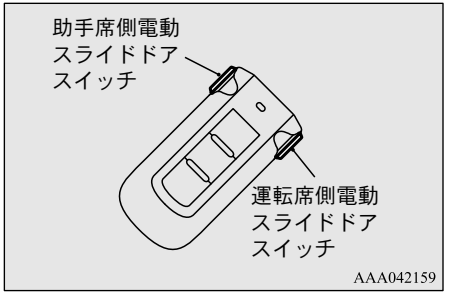
•バッテリー電圧が低いとき

- 開閉作動を交互に連続操作すると、保護回路が働いて手動操作に切り換わることがあります。
- 開閉作動中に電動スライドドアのハンドルを操作すると、電動スライドドアが反転作動します。
- 電動スライドドアを開けている途中で車両が動き始めると、警報ブザーが鳴り続け、電動スライドドアは停止します。
  このような場合は、停車して電動スライドドアを一旦全開状態にしてから閉めてください。
- 電動スライドドアを開けたままバッテリーやヒューズを交換した後は、自動操作で電動スライドドアを閉めることができなくなります。このような場合は、手動操作で電動スライドドアを閉めてください。
  これにより、元通りに自動操作ができるようになります。

■キーレスオペレーションキーを使って開閉するときは

J10211900055

電動スライドドアを解錠した後、キーレスオペレーションキーのスイッチを押して、電動スライドドアを開閉することができます。



アドバイス

- 電動スライドドアは両側同時に開閉させることができません。どちらか片側ずつ開閉させてください。
  また、キーレスオペレーションキーの運転席側、助手席側の電動スライドドアスイッチを同時に押しても、電動スライドドアは作動しません。

電動スライドドアが全閉位置のとき、電動スライドドアスイッチを続けて 2 回押すと警報ブザーが 1 回鳴り、全開位置まで電動スライドドアが開きます。
電動スライドドアが全開位置のとき、電動スライドドアスイッチを続けて 2 回押すと警報ブザーが断続的に鳴り続け、全閉位置まで電動スライドドアが閉じます。

開閉作動中、電動スライドドアスイッチを 1 回押すと警報ブザーが 1 回鳴り、電動スライドドアが反転作動します。

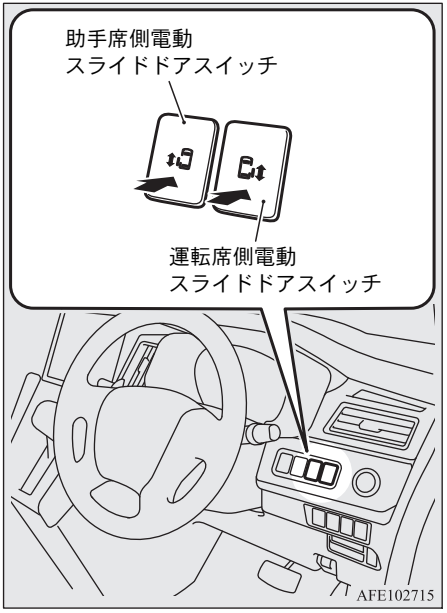
アドバイス

- エンジンスイッチの電源モードが OFF 以外のときは、キーレスオペレーションキーを使って電動スライドドアを開閉することはできません。
- 3 回以上続けて電動スライドドアスイッチを押すと、正常に開閉作動しないことがあります。
  このようなときは、しばらくしてから再度電動スライドドアスイッチを続けて 2 回押してください。

■電動スライドドアスイッチを使って開閉するときは

J10212000053

電動スライドドアスイッチを押して電動スライドドアを開閉することができます。



電動スライドドアが全閉位置のときに、電動スライドドアスイッチを約 1 秒以上押すと警報ブザーが 1 回鳴り、全開位置まで電動スライドドアが開きます。
電動スライドドアが全開位置のときに、電動スライドドアスイッチを約 1 秒以上押すと警報ブザーが断続的に鳴り続け、全閉位置まで電動スライドドアが閉まります。

開閉作動中、作動している側の電動スライドドアスイッチを押すと警報ブザーが 1 回鳴り、電動スライドドアが反転作動します。

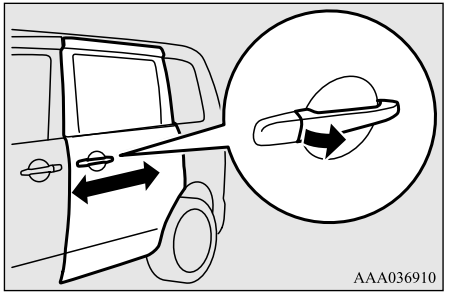
■スライドドアハンドルを使って開閉するときは

J10212100041

車外または車内のドアハンドルの操作で電動スライドドアを開閉することができます。

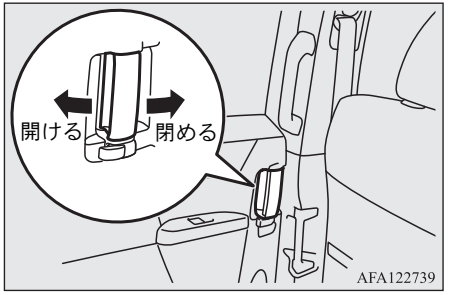
車外のドアハンドルを使って

電動スライドドアが全閉位置のときに、警報ブザーが鳴る位置までドアハンドルを手前に引くと、電動スライドドアが全開位置まで開きます。
電動スライドドアが全開位置のときに、警報ブザーが鳴る位置までドアハンドルを手前に引くと、電動スライドドアが全閉位置まで閉まります。



車内のドアハンドルを使って

電動スライドドアが全閉位置のときに、警報ブザーが鳴る位置までドアハンドルを車両後方に引くと、電動スライドドアが全開位置まで開きます。
電動スライドドアが全開位置のときに、警報ブザーが鳴る位置までドアハンドルを車両前方に押すと、電動スライドドアが全閉位置まで閉まります。



開閉作動中、車外または車内のドアハンドルを操作すると警報ブザーが1回鳴り、電動スライドドアが反転作動します。

⚠警告

- 電動スライドドアが開閉作動しているときは、車内のドアハンドルを車両前方または後方のどちらに動かしても、電動スライドドアが反転作動します。
  手、足、首または物などをはさまないように注意してください。

アドバイス

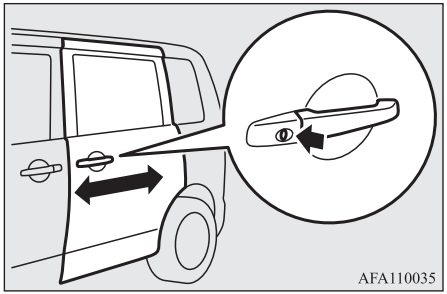
- 電動スライドドアが全開位置のときは、車内のドアハンドルを開ける方向に操作しても、電動スライドドアが全閉位置まで閉まります。

■ ワンタッチスイッチを使って開閉するときは

J10212200055

電動スライドドアを解錠してから操作します。

電動スライドドアが全閉状態のときに、ワンタッチスイッチを長押しすると、警報ブザーが 1 回鳴り全開位置まで動きます。
電動スライドドアが全開状態のときに、ワンタッチスイッチを長押しすると、警報ブザーが断続的に鳴り続け全閉位置まで動きます。



⚠注意

- 電動スライドドアを開けるときは、警報ブザーが鳴ったらワンタッチスイッチから指を離してください。
  ドアが動き出すときに指を押され、けがをするおそれがあります。

自動開閉中、ワンタッチスイッチを押すと警報ブザーが 1 回鳴り、電動スライドドアが反転作動します。

◆ ワンタッチアンロック機能

すべてのドアが施錠されていても、キーレスオペレーションキーを携帯し、ワンタッチスイッチを長押しすると電動スライドドアが開きます。

電動スライドドアが全閉のときに、キーレスオペレーションキーを携帯し、運転席ドアまたは助手席ドアの解錠範囲内でワンタッチスイッチを押すと、警報ブザーが 1 回鳴り電動スライドドアが全開位置まで動きます。このとき、すべてのドアおよびテールゲートが解錠されます。

アドバイス

- ワンタッチスイッチで解錠したときは、すべてのドアおよびテールゲートが同時に解錠されるので、車から離れるときは、ドアを施錠してください。
- ワンタッチスイッチを使っての施錠または解錠のみの操作はできません。
  電動スライドドアの施錠または解錠のみを行う場合は、キーレスオペレーション機能またはキーを使って施錠・解錠してください。

■ クローズ＆ロック機構

J10240900031

電動スライドドアの自動閉作動前にあらかじめすべてのドアおよびテールゲートの施錠を予約する機能です。

◆ 作動条件

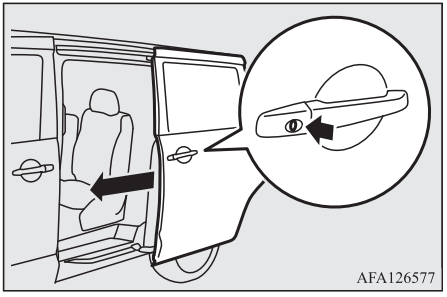
クローズ＆ロック機構は、次の条件がそろったときに作動します。

●右左いずれかの電動スライドドアを除く、ドアおよびテールゲートが全閉されている
●キーレスオペレーションシステムの作動範囲内でキーレスオペレーションキーを携帯している

3

◆ クローズ＆ロック機構の操作

1. 開いている電動スライドドアのワンタッチスイッチを 2 回押します。
警報ブザーが断続的に鳴り、すべてのドアおよびテールゲートが施錠され、電動スライドドアが全閉位置まで閉まります。



2. 作動が正常に完了すると、車外ブザーが鳴るとともに非常点滅灯が点滅し、ドアミラーが格納されます。

アドバイス

●車から離れるときは、すべてのドアおよびテールゲートが施錠されていることを確認してください。
●クローズ＆ロック機構が作動中に次の操作をすると、電動スライドドアが反対方向に作動し、すべてのドアおよびテールゲートが解錠されます。
・セーフティ機構が作動したとき
・クローズ＆ロック機構が作動中にキーレスオペレーションキーの電動スライドドアスイッチを 1 回押したとき
・電動スライドドアの開閉操作をしたとき
→「キーレスオペレーションキーを使って開閉するときは」P.3-23
→「電動スライドドアスイッチを使って開閉するときは」P.3-23
→「スライドドアハンドルを使って開閉するときは」P.3-24
→「ワンタッチスイッチを使って開閉するときは」P.3-25

アドバイス

●クローズ＆ロック機構が作動中に、解錠操作をすると、すべてのドアおよびテールゲートは解錠され、電動スライドドアは全閉位置まで閉まります。
→「キーレスオペレーション機能を使って操作するときは」P.3-9
→「車外から施錠・解錠するときは」P.3-15
→「エマージェンシーキーを使って施錠・解錠するときは（運転席ドア）」P.3-16
→「テールゲートの施錠・解錠」P.3-37
●車内にキーレスオペレーションキーを置いたまま、クローズ＆ロック機構を作動させると、警告ブザーが鳴り警告が表示されます。この場合、すべてのドアおよびテールゲートの施錠ができません。

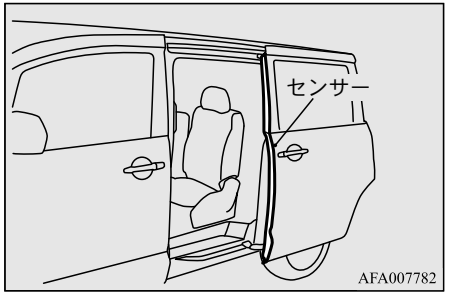


必ず、キーレスオペレーションキーを携帯していることを確認してから施錠するようにしてください。
●セキュリティアラームを「作動する」に設定しているときは、クローズ＆ロック機構の作動が完了すると、セキュリティアラームが設定されます。
詳しくは「セキュリティアラーム」をお読みください。→P.2-39

■ セーフティ機構

J10212300056

自動開閉中、電動スライドドアに人や荷物などをはさんだ場合、または電動スライドドアの前端部にあるセンサーに人や荷物などが触れた場合は、安全のため自動的に電動スライドドアが、反転作動します。このとき警報ブザーが 1 回鳴ります。



⚠警告

- はさまれた物の形状や、はさまれ方によってはセーフティ機構が働かないことがあります。手、足、首または物などをはさまないように注意してください。
- 電動スライドドアを確実に閉めるため、閉め切り直前ではセーフティ機構が働かないようになっています。手、足、首または物などをはさまないように注意してください。

⚠注意

- 連続してセーフティ機構が働いた場合は、電動スライドドアがその場で停止して手動操作に切り換わることがあります。このとき、電動スライドドアの位置によっては急に開閉することがありますので注意してください。
  手動操作に切り換わった場合は、電動スライドドアを一度全開または全閉にすると元通りに自動操作ができるようになります。

アドバイス

- 環境や使用条件により、人や物などをはさんだときと同じ衝撃が加わると、セーフティ機構が働くことがあります。
- 人が乗り降りするときや荷物を出し入れするときなどは、センサーを傷つけないように注意してください。センサーが切断されると自動で開閉することができなくなります。
  また、自動で電動スライドドアが開閉しているときにセンサーが切断されると、電動スライドドアはその場で停止します。

■ 急開閉防止機構

J10212400057

坂道などで自動操作をするとき、車両の傾きによっては電動スライドドアが小刻みに止まりながら動いて急な開閉を防止します。

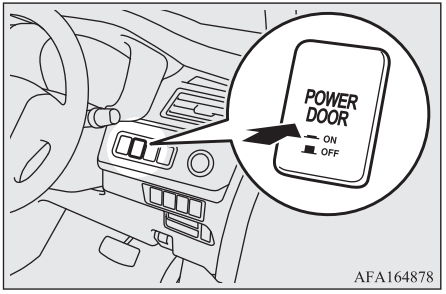
⚠警告

- POWER DOORスイッチをOFFにしたときは、急開閉防止機構が働かなくなります。
  このとき車両の傾きによっては電動スライドドアが急に開閉することがあります。手、足、首などをはさまないように注意してください。

手動操作

J10212500058

POWER DOOR スイッチが OFF のときは、手動で電動スライドドアを操作することができます。



⚠警告

- POWER DOORスイッチをOFFにしたときは、急開閉防止機構が働かなくなります。
  このとき車両の傾きによっては電動スライドドアが急に開閉することがあります。手、足、首などをはさまないように注意してください。

⚠注意

- POWER DOOR スイッチが OFF でも、電動スライドドアを半ドアの位置まで閉めるとスライドドアイージークローザーが作動します。手や指などをはさまないように注意してください。
  →「スライドドアイージークローザー」P.3-29

アドバイス

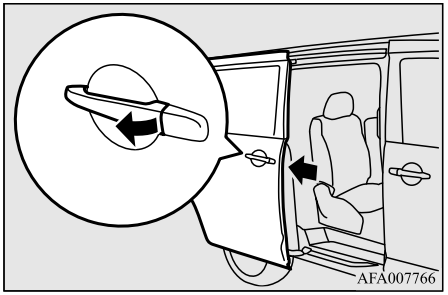
- フューエルリッド（燃料補給口）が開いているときに助手席側の電動スライドドアを手動で開くときは、フューエルリッドとの干渉防止のため電動スライドドアは途中で停止し、全開しません。

■開閉するときは

J10240600038

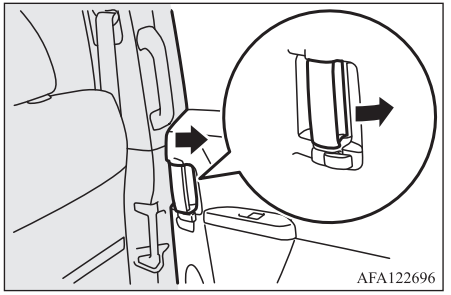
◆車外から開けるときは

解錠後、車外のドアハンドルを手前に引いてスライドドアを少し開きます。
その後、スライドドアを車両後方に動かして全開位置まで開きます。
全開にするとスライドドアが固定されます。



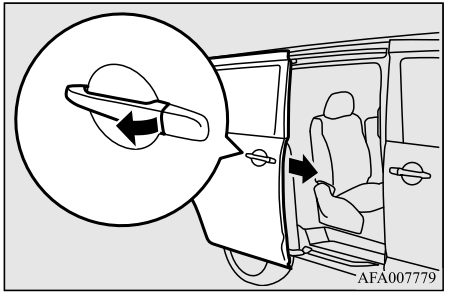
◆車内から開けるときは

解錠後、車内のドアハンドルを車両後方に引いて、全開位置までスライドドアを開きます。
全開にするとスライドドアが固定されます。



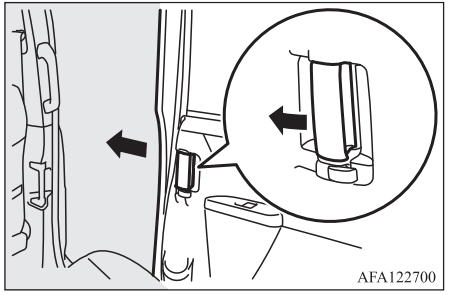
◆車外から閉めるときは

車外のドアハンドルを手前に引いてスライドドアの固定を解除します。
その後、スライドドアを車両前方に動かして全閉位置まで閉じます。



◆ 車内から閉めるときは

車内のドアハンドルを車両前方に押して、全閉位置までスライドドアを閉じます。



スライドドアイージークローザー

J10212600046

スライドドアイージークローザーは、電動スライドドアを閉めるのを補助する装置です。電動スライドドアを半ドアの位置まで閉めると、自動的に電動スライドドアが全閉します。

⚠警告

- 半ドアの位置から自動的に電動スライドドアが閉まるため、手や指などをはさまないように十分注意してください。スライドドアイージークローザー作動中に手や指などをはさみそうになったときは、電動スライドドアのドアハンドルを引いてください。スライドドアイージークローザーが作動を中止します。
  ただし、電動スライドドアのロックノブが施錠状態のとき、またはチャイルドプルーフのレバーが施錠状態のときは、ドアハンドルを使ってスライドドアイージークローザーの作動を中止することはできません。
  →「スライドドアの施錠・解錠」P.3-20
  →「チャイルドプルーフ（スライドドア安全施錠装置）」P.3-29

⚠注意

- 電動スライドドア内側のラッチに触れないでください。スライドドアイージークローザーが作動して指などをはさむおそれがあります。



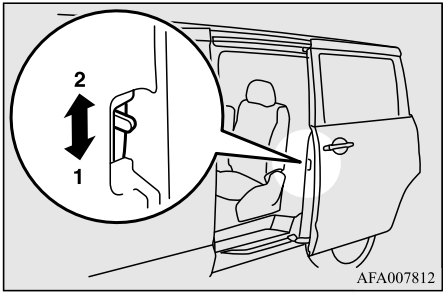
アドバイス

- POWER DOORスイッチがOFFのときでもスライドドアイージークローザーは作動します。
- 車内のドアハンドルを車両後方に引いたままドアを閉めると、スライドドアイージークローザーが作動しないことがあります。
- スライドドアイージークローザーを連続で作動させると、保護回路が働いてスライドドアイージークローザーが一時的に作動しなくなることがあります。
  このようなときはしばらくしてから（約1分後）操作してください。

チャイルドプルーフ（スライドドア安全施錠装置）

J10212700047

レバーを施錠側(1)にしてスライドドアを閉めると、スライドドアのロックノブの位置に関係なく、車内からはスライドドアが開けられなくなります。
安全上、お子さまを乗せるときにご使用ください。



1- 施錠
2- 解錠

スライドドアを開けるときは車外のドアハンドルで開けます。

⚠警告

- レバーを施錠側(1)にしているときに車外のドアハンドルでスライドドアを開けるときは、お子さまが窓から顔や手を出さないように注意してください。手、足、首などをはさみ重大な傷害を受けるおそれがあります。

アドバイス

- レバーを施錠側 (1) にしているときにも、車外のドアハンドル以外に次の操作でスライドドアを開けることができます。
  - キーレスオペレーションキーの電動スライドドアスイッチを押す。
    →「キーレスオペレーションキーを使って開閉するときは」P.3-23
  - 電動スライドドアスイッチを押す。
    →「電動スライドドアスイッチを使って開閉するときは」P.3-23
  - ワンタッチスイッチを押す。
    →「ワンタッチスイッチを使って開閉するときは」P.3-25
- 万一の場合、車内から手動でスライドドアを開けたいときは、次の操作で開けてください。
  POWER DOOR スイッチを OFF にして手動操作に切り換えた後、スライドドアのロックノブを解錠状態にしてドアガラスを下げ、窓から手を出して車外のドアハンドルを引きます。

電動サイドステップ

タイプ別装備

J10241100027

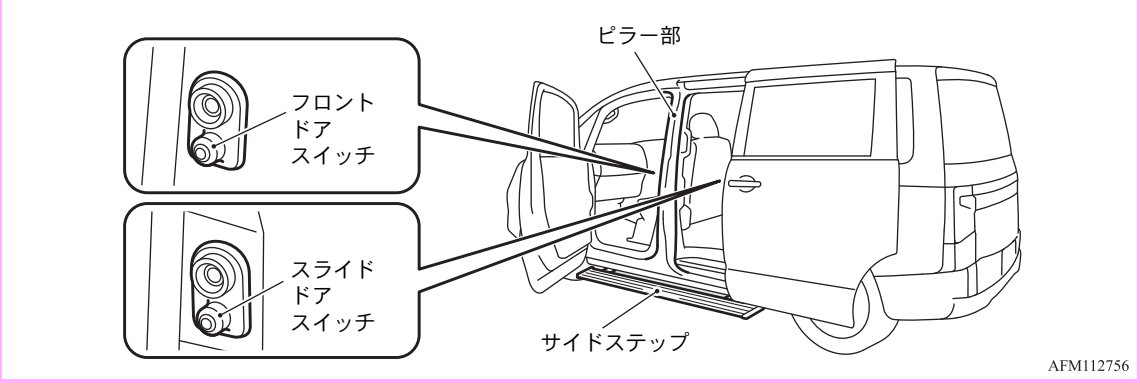
⚠警告

- 助手席側のフロントドアまたはスライドドアのどちらかを開けると、サイドステップが自動で展開します。助手席側のフロントドアおよびスライドドアの両方を閉めると、サイドステップが自動で格納します。開閉するときおよび乗り降りするときは、次のことをお守りください。
  サイドステップに手、足、首などをはさまれたり、引き込まれたりして重大な傷害を受けるおそれがあります。
  - サイドステップ周辺の安全を十分確認してから操作してください。
  - 車外にいる人がドアに寄りかかったり、触れたりしていないことを十分確認してから操作してください。

⚠警告

- 操作するときは、サイドステップの近くに立たないでください。
  足などに当たったり、歩道との間にはさまれたりするおそれがあります。
- サイドステップの作動中は足を乗せたり、触ったりしないようにしてください。
- お子さまが乗り降りするときは、サイドステップと車体のすき間に足をはさまれないように注意してください。
- サイドステップと車体のすき間に手や足を入れないでください。
- ピラー部付近のサイドステップには足を置かないでください。
  助手席側のフロントドアを閉めたときに車体との間にはさまれるおそれがあります。

● サイドステップに人が乗っているときにドアを閉めたり、フロントドアスイッチやスライドドアスイッチに触れたりしないでください。
サイドステップが動き出してはさまれたりするおそれがあります。



● サイドステップを使用するときは、次のことをお守りください。
サイドステップから足を踏み外して重大な傷害を受けるおそれがあります。

- 乗り降りするときは、サイドステップを踏み外さないように注意してください。
- サイドステップの上で飛んだり、跳ねたりしないでください。
- サイドステップは乗り降りするとき以外は使用しないでください。
  洗車やルーフキャリア操作時に使用すると滑るおそれがあります。
- 雨天時や降雪時はサイドステップの上面が滑りやすくなりますので、足元を確認して乗り降りしてください。
- 完全に展開して停止したことを確認してから乗り降りしてください。

⚠警告

- 夏場などはサイドステップが高温になっていますので、素足で乗り降りしないようにしてください。
  やけどをするおそれがあります。
- 走行する前にサイドステップが格納されていることを確認してください。
  サイドステップが格納されていない状態で走行すると歩行者に接触するなど思わぬ事故につながるおそれがあります。
  電動サイドステップに異常があるときは、マルチインフォメーションディスプレイ内のインフォメーション画面に警告が表示されます。
  また、インフォメーション画面に「オートステップ点検」が表示された場合は、手動で格納してから走行してください。
  →「サイドステップを手動で格納するときは」P.3-35

⚠注意

- 歩道など縁石の近くでは使用しないでください。サイドステップが接触し損傷するおそれがあります。
- 助手席側のフロントドアまたはスライドドアを閉めるときは、サイドステップの下や周辺に異物がないことを確認してください。
  異物をはさみ込むとサイドステップが正常に格納できなくなるおそれがあります。
- コインパーキングでは AUTO STEP スイッチを OFF にしてください。
  サイドステップ作動時に輪止めのフラップに干渉し、損傷したり、引っ掛かって作動しなくなるおそれがあります。
- 寒冷時にはサイドステップが凍結し正常に作動しなくなるおそれがあります。
  AUTO STEP スイッチを OFF にして、電動サイドステップを使用しないでください。
- サイドステップにかかる荷重は、助手席側のフロントドア中心位置、スライドドア中心位置ともに 100kg 未満で使用してください。
  各位置 100kg 以上で使用すると、故障の原因となります。
- サイドステップの上に荷物などを載せないでください。
  サイドステップを格納したときに荷物などがはさまれ、故障の原因となります。
- 段差や凹凸のある路面を通過するときは、サイドステップが接触するおそれがあります。
  次のような状況ではできるだけゆっくり走行してください。
  - 駐車場の出入り口
  - 路肩や車止めのある場所
  - 勾配の急な場所
  - わだちのある場所

⚠注意

- 未舗装路などを走行するとサイドステップの作動部に泥や石がはさまり、正常に作動しなくなる場合があります。
  走行後は泥や石を取り除いてください。

電動サイドステップの作動

J10241200031

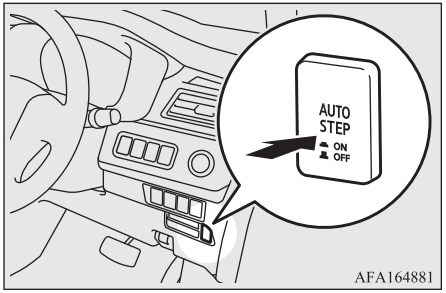
サイドステップは次の条件がそろったときに自動で展開・格納します。

展開時

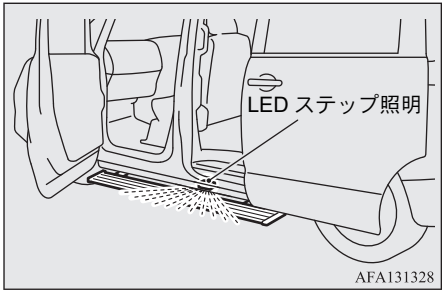
- AUTO STEP スイッチが ON のとき
- 車が止まっているとき
- 助手席側のフロントドアまたはスライドドアを開けたとき

格納時

- AUTO STEP スイッチが ON のとき
- 車が止まっているとき
- 助手席側のフロントドアおよびスライドドアの両方を閉めたとき



サイドステップの展開に連動してLEDステップ照明が点灯します。
サイドステップを展開した状態で放置すると、LED ステップ照明は約 3 分後に消灯します。



展開中に次の操作をすると、格納作動に切り換わります。

- 車が走り出したとき
- 助手席側のフロントドアおよびスライドドアの両方を閉めたとき

展開・格納中に AUTO STEP スイッチを OFF にすると、その場で停止します。
途中で停止したときは、AUTO STEP スイッチを ON にして助手席側のフロントドアおよびスライドドアの両方を閉めてサイドステップを格納位置に戻してください。

⚠警告

- 助手席側のタイヤ交換などサイドステップの周りで作業するときは、AUTO STEP スイッチを OFF にしてください。AUTO STEP スイッチを ON のままにしておくと、誤ってドアを開閉したときにサイドステップが作動し、はさまれて重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠注意

- 展開・格納中にサイドステップに乗ったり、無理な力をかけたりしないでください。故障の原因となります。
- 展開・格納中にエンジンを始動しないでください。保護回路が働き、電動サイドステップが正常に作動しないことがあります。
- 展開・格納中に停止したときは、停止した位置で使用しないでください。正常な位置で使用しないと故障の原因となります。

アドバイス

- 次のようなときは、サイドステップが正常に作動しないことがあります。
  - 車が左右に大きく傾いた状態で駐車しているとき
  - バッテリー電圧が低いとき
- バッテリーやヒューズを交換した後は、位置を学習するためにゆっくり作動します。
  一度ドアを開閉することで、学習が完了し通常の作動に戻ります。
- サイドステップの展開中に AUTO STEP スイッチを OFF にすると、サイドステップの作動が停止するとともにLEDステップ照明も消灯します。

アドバイス

- ドアの開閉操作を連続して繰り返すと、保護回路が働いて一時的に展開・格納できなくなることがあります。しばらくしてからドアを開閉して展開・格納してください。
- エンジン停止中に繰り返し作動させるとバッテリー上がりの原因となります。
- 助手席側のフロントドアを閉めたときに半ドアを繰り返すと、サイドステップの展開位置と格納位置が入れ替わることがあります。
  このような場合は、一度助手席側のフロントドアを開け半ドアにならないよう確実に閉めてから、ドアを開閉すると正しく展開・格納作動します。

セーフティ機構

展開・格納中に、サイドステップで人や荷物などをはさんだ場合、またはサイドステップに強く当たった場合は、安全のため自動的にサイドステップが反転作動します。

⚠警告

- はさまれた物の形状や、はさまれ方によってはセーフティ機構が働かないことがあります。手、足、首または物などをはさまないように注意してください。

⚠警告

- サイドステップを確実に展開・格納するため停止直前ではセーフティ機構が働かないようになっています。手、足、首または物などをはさまないように注意してください。

アドバイス

- セーフティ機構が働いた場合は、反転作動し反対側で停止します。はさまれた物を取り除き、ドアを開閉すると正常な位置で停止します。

警告表示

J10241300029

エンジンスイッチが ON のとき、電動サイドステップに異常があるときは、その状態によって、ブザーとともにインフォメーション画面に警告が表示されます。

サイドステップが格納されていないときは



サイドステップが展開状態で　AUTO STEP スイッチが OFF のときに警告します。
次の方法で処置してください。

1. 走行中の場合は安全な場所に停車してください。
2. AUTO STEP スイッチを ON にし、助手席側のフロントドアまたはスライドドアを開閉し、サイドステップを格納します。

システムに異常があるときは

J10241400020



助手席側のフロントドアおよびスライドドアを閉めても、サイドステップが格納されていません。
次の方法で処置してください。

1. 助手席側のフロントドアおよびスライドドアを開け、サイドステップユニットの周辺に障害物がないか確認します。
2. 障害物がある場合は取り除きます。

⚠警告

- 障害物を取り除くときは、AUTO STEP スイッチを OFF にしてください。不意に作動したときに、サイドステップに手、足、首などをはさまれたり、引き込まれたりして重大な傷害を受けるおそれがあります。

障害物を取り除いてもサイドステップが格納できない場合は、サイドステップを手動で格納し、ただちに三菱自動車販売会社で点検を受けてください。
→「サイドステップを手動で格納するときは」P.3-35



電動サイドステップに何らかの異常が発生しています。

AUTO STEP スイッチを OFF にし、ただちに三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

■サイドステップを手動で格納するときは

J10241500021

サイドステップが展開した状態で格納できなくなったときは、次の方法で手動で格納して、ただちに三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

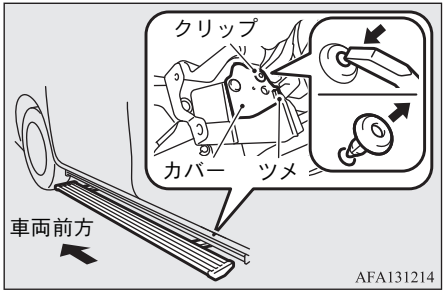
⚠警告

- 手動で格納するときは、AUTO STEP スイッチを OFF にしてください。不意に作動したときに、サイドステップに手、足、首などをはさまれたり、引き込まれたりして重大な傷害を受けるおそれがあります。

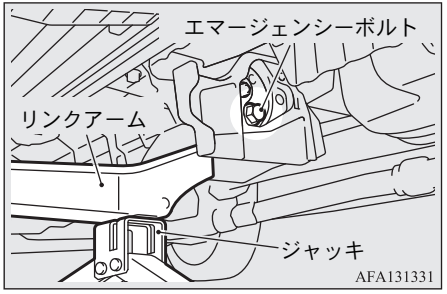
⚠注意

- 手動で格納した状態で AUTO STEP スイッチを ON にしないでください。故障の原因となります。

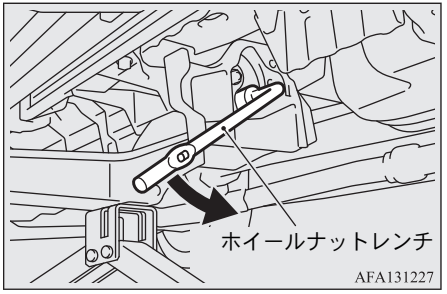
1. AUTO STEP スイッチを OFF にします。
2. サイドステップユニットの後ろ側のエマージェンシー機構のカバーのクリップを外し、ツメを車両左側に引きながらカバーを取り外します。



3. リンクアームをジャッキで支えます。



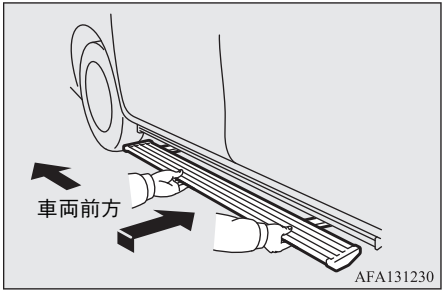
4. エマージェンシーボルトをホイールナットレンチで反時計回りに回して取り外します。
→「ジャッキと工具」P.7-11



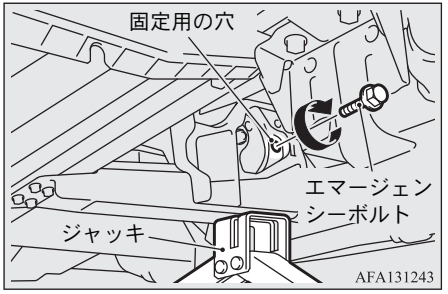
⚠警告

- エマージェンシーボルトを取り外すと、サイドステップが下がりますので、手や指などをはさまれないように注意してください。

5. ジャッキを外して、サイドステップを手で格納状態まで押し込み、再度ジャッキでリンクアームを支えます。



6. 固定用の穴にエマージェンシーボルトを差し込み、ホイールナットレンチで時計回りに回して固定します。



7. ジャッキを外します。

アドバイス

- 手順 2. で取り外したカバーは、取り付けることができません。クリップとともに紛失しないように保管してください。

テールゲート

J10200800041

⚠警告

- 走行前に必ずテールゲートが確実に閉じていることを確認してください。
  開けたまま走行すると、車内に排気ガスが侵入し、一酸化炭素中毒になるおそれがあります。
  また、走行中に開くと、荷物が落ちて思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ラゲッジルームは人が乗る構造になっておりません。人を乗せたり、お子さまを遊ばせたりしないでください。万一の場合、重大な事故につながるおそれがあります。
- テールゲートを開閉するときは、周囲の安全や車両の後方および上方に十分なスペースがあることを確認し、頭をぶつけたり、手や首などをはさまないように注意してください。
- テールゲートに積雪や氷の付着があるときは、テールゲートを開ける前に雪や氷を取り除いてください。取り除かずに開けておくと雪や氷の重みでテールゲートが突然閉じるおそれがあります。

⚠警告

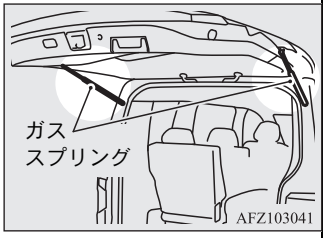
- テールゲートを開けたときは、テールゲートが必ず全開で静止していることを確認してください。途中までしか開いていないと、突然閉まるおそれがあります。特に傾斜地では、平坦な場所よりもテールゲートの開閉がしにくかったり、急に開いたり閉じたりするおそれがあります。

⚠注意

- ラゲッジルームの荷物を出し入れするときは、排気管の後方に立たないでください。
  排気熱によりやけどをするおそれがあります。
- テールゲートが損傷しないように、テールゲートを開ける前にテールゲートの上や後ろに障害物がないか確認してください。

アドバイス

- テールゲートを支えるためのガススプリングが次の位置に付いています。



損傷や作動不良を防止するため、次のことをお守りください。

- ガススプリングに手を掛けてテールゲートを閉めたり、押したり引いたりしないでください。
- ビニール片、テープなどがガススプリングに付着しないようにしてください。
- ひもなどをガススプリングに巻き付けないでください。
- ガススプリングに物を掛けないでください。

テールゲートの施錠・解錠

J10204200043

集中ドアロックまたはキーレスオペレーションシステムの操作で、テールゲートの施錠・解錠をすることができます。
詳しくは、次の項をお読みください。

→「集中ドアロック」P.3-16
→「キーレスエントリーシステム」P.3-2
→「キーレスオペレーションシステム」P.3-5

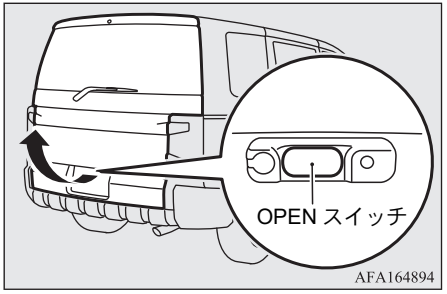
3

テールゲートの操作（除く、エレクトリックテールゲート）

J10240000045

車外から開けるときは

解錠後、OPEN スイッチを押してテールゲートを持ち上げます。



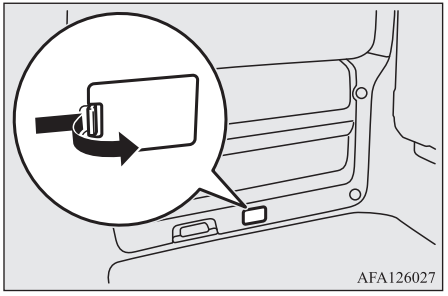
アドバイス

- OPEN スイッチを押した直後に持ち上げないと、テールゲートを開けることができません。
  開けることができない場合は、もう一度 OPEN スイッチを押してテールゲートを持ち上げます。
- バッテリーが上がったり、または外しているときは、テールゲートを開けることはできません。

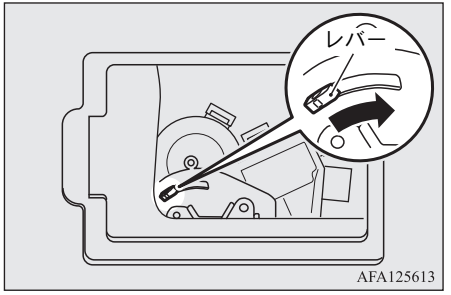
車内から開けるときは

車内からもテールゲートを開けることができます。
バッテリー上がりなどで車外から開けられなくなったときにご使用ください。

1. 車内からインサイドリリースレバーのカバーを外します。



2. インサイドリリースレバーを矢印の方向に動かします。



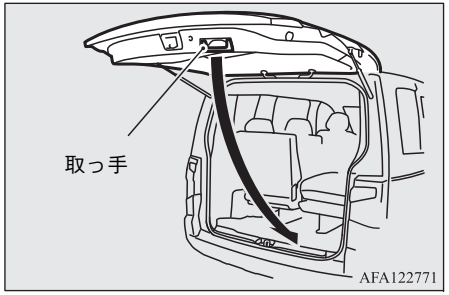
3. テールゲートを押しながら開けます。

⚠警告

- 通常はインサイドリリースレバーのカバーは閉じておいてください。カバーが開いたままだと荷物などがレバーに当たり、テールゲートが開いて思わぬ事故につながるおそれがあります。

閉めるときは

テールゲートの取っ手に手を掛けてテールゲートを途中まで引き下げた後、取っ手から手を離してテールゲートを軽く押しつけます。



⚠注意

- テールゲートの取っ手に手を掛けたまま直接テールゲートを閉じないでください。手や腕をはさみ、けがをするおそれがあります。

テールゲートの操作（エレクトリックテールゲート）

J10204400045

エレクトリックテールゲートの開閉

⚠警告

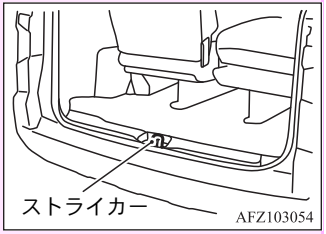
- 安全のため、エレクトリックテールゲートの開閉操作はお子さまでなく大人が行ってください。

⚠警告

- エレクトリックテールゲートが完全に開いたことを確認してから荷物を出し入れしてください。

⚠注意

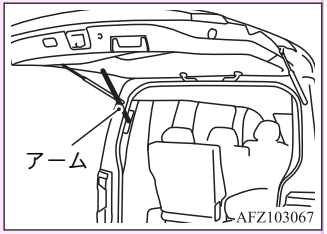
- エレクトリックテールゲートを閉めるときは、ストライカー付近に異物がないことを確認してください。
  異物が入るとエレクトリックテールゲートが正常に閉まらなくなるおそれがあります。



- エレクトリックテールゲートには、三菱自動車純正以外のアクセサリーなどを取り付けないでください。種類によっては重みがかかり、落下防止機構が作動することがあります。
  →「落下防止機構」P.3-44
  また、三菱自動車純正品でも種類によっては取り付けられない場合があります。
  詳しくは、三菱自動車販売会社へご相談ください。

⚠注意

- エレクトリックテールゲートを開閉するときは、エレクトリックテールゲートのアーム付近に手を掛けないようにしてください。手や指などをはさみ、けがをするおそれがあります。
- ラゲッジルームの荷物を出し入れするときは、エレクトリックテールゲートのアーム付近に頭をぶつけないようにしてください。けがをするおそれがあります。

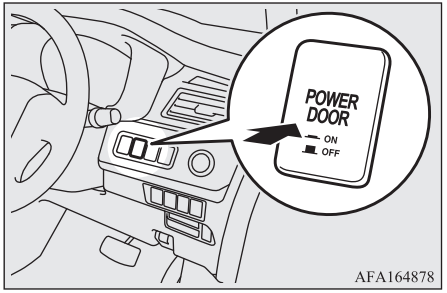


スイッチによる自動操作

J10204500091

エレクトリックテールゲートは、POWER DOORスイッチがONのときに、3 つの方法で自動操作を行うことができます。
詳しくは、次の項をお読みください。
→「キーレスオペレーションキーを使って開閉するときは」P.3-40
→「運転席側エレクトリックテールゲートスイッチを使って開閉するときは」P.3-41

→「クローズスイッチを使って閉めるときは」P.3-42



⚠警告

- 開閉作動中にPOWER DOORスイッチをOFF にしたときは、作動が停止して手動操作に切り換わります。
  このとき、エレクトリックテールゲートの位置によっては急に開閉することがあります。

⚠注意

- 開閉作動中にエレクトリックテールゲートに無理な力をかけないでください。故障の原因となります。
- 開閉作動中にエンジンを始動しないでください。急開閉防止機構が働き、エレクトリックテールゲートが小刻みに止まりながら動くことがあります。

アドバイス

- POWER DOORスイッチがOFFのときに各スイッチを使って操作をすると、警報ブザーが 4 回鳴り、エレクトリックテールゲートが開閉できないことを知らせます。
- 次のようなときは、エレクトリックテールゲートが正常に作動しないことがあります。
  - 車が大きく傾いた状態で駐車しているとき
  - 風の強いとき
  - エレクトリックテールゲートに積雪があるとき
- 開閉作動を交互に連続操作すると保護回路が働いて手動操作に切り換わります。
- 開閉作動中にエレクトリックテールゲートの OPEN スイッチを押すとエレクトリックテールゲートが作動している方向と反対方向に作動します。
- エレクトリックテールゲートを自動で全開にしたときや、開閉作動中にセレクターレバーを(P)以外に入れたとき、警報ブザーが約 10 秒間鳴り続け、エレクトリックテールゲートが開いていることを知らせます。
- エレクトリックテールゲートが開いている状態でバッテリーやヒューズを交換した場合は、自動では閉まらなくなります。その場合は、手動でエレクトリックテールゲートを閉めてください。

■キーレスオペレーションキーを使って開閉するときは

J10204600047

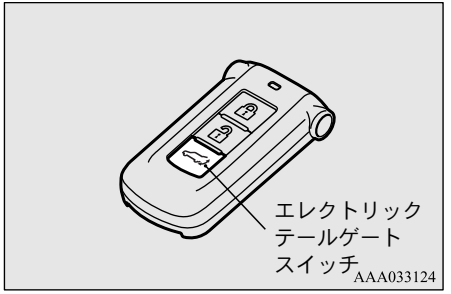
次の条件がそろったときに、キーレスオペレーションキーのエレクトリックテールゲートスイッチを押して、エレクトリックテールゲートを自動で開閉することができます。

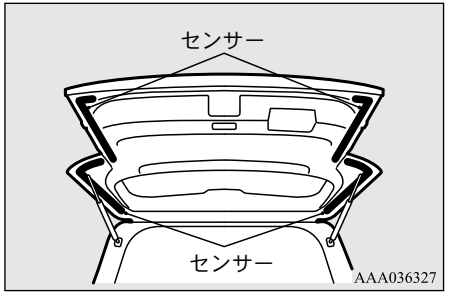
開けるときの条件

- エンジンスイッチの電源モード：OFF
- エレクトリックテールゲート：全閉、解錠

閉めるときの条件

- エンジンスイッチの電源モード：OFF
- エレクトリックテールゲート：全開
- 人や荷物などがセンサーに触れていない





エレクトリックテールゲートスイッチを続けて 2 回押すと警報ブザーが鳴り、非常点滅灯が 2 回点滅してエレクトリックテールゲートが次の通り作動します。

- 閉まっているとき :警報ブザーが鳴り、全開します。
- 開いているとき： 警報ブザーが鳴り、全閉します。

開閉作動中、エレクトリックテールゲートスイッチを 1 回押すと警報ブザーが鳴り、エレクトリックテールゲートが作動している方向と反対方向に作動します。

アドバイス

- 3 回以上続けてエレクトリックテールゲートスイッチを押すと、正常に開閉作動しないことがあります。
  このようなときは、しばらくしてから再度エレクトリックテールゲートスイッチを続けて 2 回押してください。

■運転席側エレクトリックテールゲートスイッチを使って開閉するときは

J10204700077

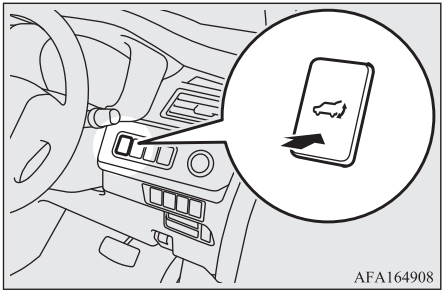
次の条件がそろったときに、運転席側エレクトリックテールゲートスイッチを押して、エレクトリックテールゲートを自動で開閉することができます。

開けるときの条件

- エンジンスイッチの電源モード：OFF または ON
- セレクターレバー：Ⓟ
- エレクトリックテールゲート：全閉、解錠

閉めるときの条件

- エンジンスイッチの電源モード：OFF または ON
- セレクターレバー：Ⓟ
- エレクトリックテールゲート：全開
- 人や荷物などがセンサーに触れていない



運転席側エレクトリックテールゲートスイッチを約 1 秒以上押すと警報ブザーが鳴り、非常点滅灯が 2 回点滅してエレクトリックテールゲートが次の通り作動します。

- 閉まっているとき :警報ブザーが鳴り、全開します。
- 開いているとき： 警報ブザーが鳴り、全閉します。

開閉作動中、運転席側エレクトリックテールゲートスイッチを 1 回押すと警報ブザーが鳴り、エレクトリックテールゲートが作動している方向と反対方向に作動します。

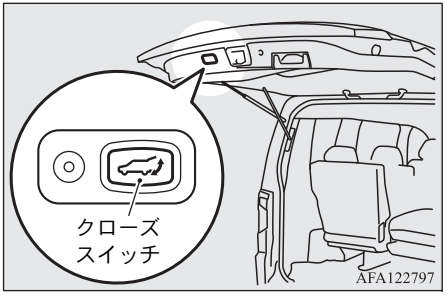
■ クローズスイッチを使って閉めるときは

J10204800049

次の条件がそろったときに、エレクトリックテールゲート内側のクローズスイッチを押して、エレクトリックテールゲートを自動で閉じることができます。

条件

- エンジンスイッチの電源モード：OFF または ON
- セレクターレバー：Ⓟ
- エレクトリックテールゲート：全開
- 人や荷物などがセンサーに触れていない



クローズスイッチを押すと警報ブザーが鳴り、非常点滅灯が 2 回点滅してエレクトリックテールゲートが閉まります。

閉じている途中でクローズスイッチを 1 回押すと警報ブザーが鳴り、エレクトリックテールゲートが開きます。

アドバイス

- エレクトリックテールゲートが開く方向に作動している途中で再度クローズスイッチを 1 回押すと警報ブザーが鳴り、エレクトリックテールゲートが閉じます。

■ クローズ＆ロック機構

J10241000071

エレクトリックテールゲートの自動閉作動前にあらかじめすべてのドアの施錠を予約する機能です。

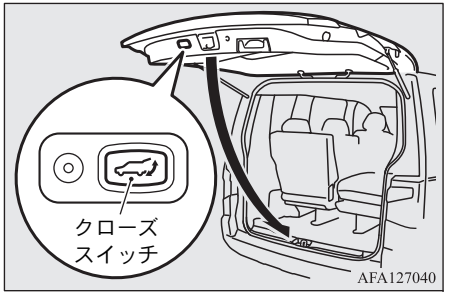
◆ 作動条件

クローズ＆ロック機構は、次の条件がそろったときに作動します。

- エレクトリックテールゲートを除く、すべてのドアが全閉されている
- キーレスオペレーションシステムの作動範囲内でキーレスオペレーションキーを携帯している

◆ クローズ＆ロック機構の操作

1. エレクトリックテールゲートのクローズスイッチを 2 回押します。
   警報ブザーが鳴り、すべてのドアおよびテールゲートが施錠され、エレクトリックテールゲートが全閉位置まで閉まります。



2. 作動が正常に完了すると、車外ブザーが鳴るとともに非常点滅灯が点滅し、ドアミラーが格納されます。

アドバイス

- 車から離れるときは、すべてのドアおよびテールゲートが施錠されていることを確認してください。
- クローズ＆ロック機構が作動中に次の操作をすると、エレクトリックテールゲートが反対方向に作動し、すべてのドアおよびテールゲートが解錠されます。
  - セーフティ機構が作動したとき

アドバイス

- クローズ＆ロック機構が作動中にキーレスオペレーションキーの電動スライドドアスイッチを 1 回押したとき
- エレクトリックテールゲートの開閉操作をしたとき

→「キーレスオペレーションキーを使って開閉するときは」P.3-40
→「運転席側エレクトリックテールゲートスイッチを使って開閉するときは」P.3-41
→「手動操作」P.3-44

- クローズ＆ロック機構が作動中に、解錠操作をすると、すべてのドアおよびテールゲートは解錠され、エレクトリックテールゲートは全閉位置まで閉まります。

→「キーレスオペレーション機能を使って操作するときは」P.3-9
→「車外から施錠・解錠するときは」P.3-15
→「エマージェンシーキーを使って施錠・解錠するときは（運転席ドア）」P.3-16
→「テールゲートの施錠・解錠」P.3-37

アドバイス

- 車内にキーレスオペレーションキーを置いたまま、クローズ＆ロック機構を作動させると、警告ブザーが鳴り警告が表示されます。この場合、すべてのドアおよびテールゲートの施錠ができません。



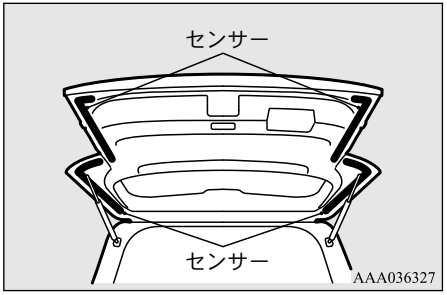
必ず、キーレスオペレーションキーを携帯していることを確認してから施錠するようにしてください。

- セキュリティアラームを「作動する」に設定しているときは、クローズ＆ロック機構の作動が完了すると、セキュリティアラームが設定されます。
詳しくは「セキュリティアラーム」をお読みください。→P.2-39

■ セーフティ機構

J10205000051

自動開閉中、エレクトリックテールゲートに人や荷物などをはさんだ場合、またはエレクトリックテールゲートの両側にあるセンサーに人や荷物などが触れた場合は、安全のため自動的にエレクトリックテールゲートが、動いている方向と反対の方向に動きます。このとき警報ブザーが鳴ります。



⚠注意

- はさまれた物の形状や、はさまれ方によってはセーフティ機構が働かないことがあります。手、身体または物などをはさまないように注意してください。
- 次の場合はセーフティ機構が働かないようになっています。手や指などをはさまないように注意してください。
  - 閉め切り直前（エレクトリックテールゲートを確実に閉めるため）
  - エレクトリックテールゲートを手動で閉めるとき
- 連続してセーフティ機構が働いた場合は、手動操作に切り換わることがあります。このとき、エレクトリックテールゲートの位置によっては急に開閉することがありますので注意してください。
手動操作に切り換わった場合は、エレクトリックテールゲートを一度全開または全閉すれば元通りに自動操作ができるようになります。

アドバイス

- 環境や使用条件により、人や物などをはさんだときと同じ衝撃が加わると、セーフティ機構が働くことがあります。
- 荷物を出し入れするときやリヤガラスを清掃するときなどは、センサーを傷つけないようにしてください。自動で閉められなくなります。

■落下防止機構

J10205100049

エレクトリックテールゲートを自動で開けたとき、積雪などの重みによるエレクトリックテールゲートの落下を感知すると、自動的にエレクトリックテールゲートが閉まります。
落下防止機構が作動しているときは警報ブザーが鳴り続けます。

アドバイス

- エレクトリックテールゲートに積雪などがある場合は、エレクトリックテールゲートを作動させる前に積雪などを取り除いてください。
- エレクトリックテールゲートを自動で全開した後すぐに手動で閉めようとすると、落下防止機構が作動することがあります。

■急開閉防止機構

J10205200040

エレクトリックテールゲートの自動開閉中にエンジンを始動すると、バッテリーの電圧不足により手動操作に切り換わり、エレクトリックテールゲートが小刻みに止まりながら動くことがあります。これは、エレクトリックテールゲートが急に開閉することを防止するためであり、一度全閉または全開して約 10 秒後に自動操作ができるようになります。

⚠注意

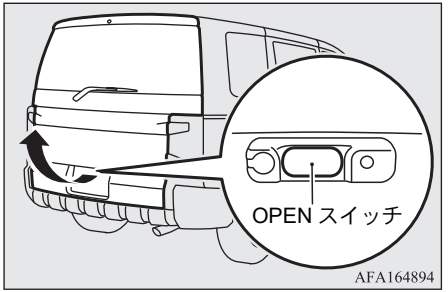
- 急開閉防止機構が作動しているときは、セーフティ機構が働かないようになっています。手や指などをはさまないように注意してください。

手動操作

J10205300067

■車外から開けるときは

解錠後、OPEN スイッチを押してテールゲートを持ち上げます。



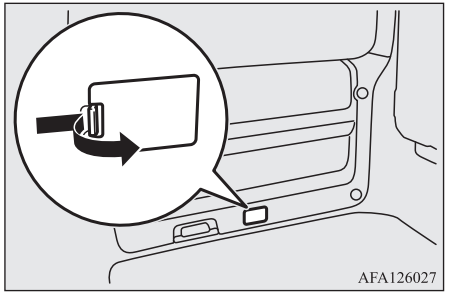
アドバイス

- OPEN スイッチを押した直後に持ち上げないと、エレクトリックテールゲートを開けることができません。
  開けることができない場合は、もう一度 OPEN スイッチを押してエレクトリックテールゲートを持ち上げます。
- バッテリーが上がったり、または外しているときは、エレクトリックテールゲートを開けることはできません。

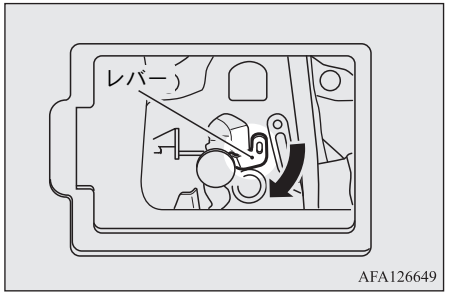
■車内から開けるときは

車内からもエレクトリックテールゲートを開けることができます。
バッテリー上がりなどで車外から開けられなくなったときにご使用ください。

1. 車内からインサイドリリースレバーのカバーを外します。



2. インサイドリリースレバーを矢印の方向に下げます。



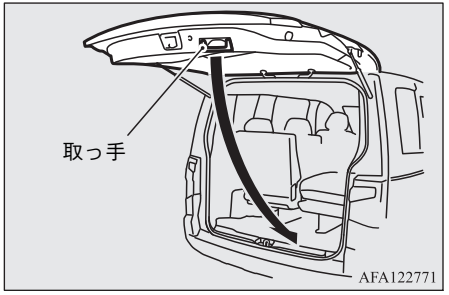
3. エレクトリックテールゲートを押しながら開けます。

⚠警告

- 通常はインサイドリリースレバーのカバーは閉じておいてください。カバーが開いたままだと荷物などがレバーに当たり、エレクトリックテールゲートが開いて思わぬ事故につながるおそれがあります。

■閉めるときは

エレクトリックテールゲートの取っ手に手を掛けてエレクトリックテールゲートを途中まで引き下げた後、取っ手から手を離してエレクトリックテールゲートを軽く押しつけます。



⚠注意

- エレクトリックテールゲートの取っ手に手を掛けたまま直接エレクトリックテールゲートを閉じないでください。手や腕をはさみ、けがをするおそれがあります。
- エレクトリックテールゲートを手動で閉めるときは、セーフティ機構が働かないようになっています。手や指などをはさまないように注意してください。

テールゲートイージークローザー

J10214400048

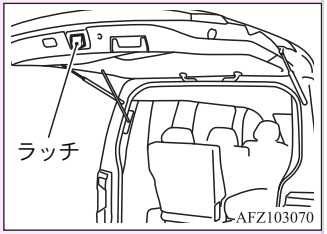
テールゲートイージークローザーはエレクトリックテールゲートを閉めるのを補助する装置です。
エレクトリックテールゲートを半ドアの位置まで閉めると自動的にエレクトリックテールゲートが閉まります。

⚠警告

- テールゲートイージークローザー作動中に手や指などをはさまないように注意してください。作動中に手や指などをはさみそうになったときは、エレクトリックテールゲートの OPEN スイッチを押してください。エレクトリックテールゲートが半ドアの位置まで戻ります。

⚠注意

- エレクトリックテールゲート内側のラッチに触れないでください。テールゲートイージークローザーが作動してラッチで指などをはさむおそれがあります。

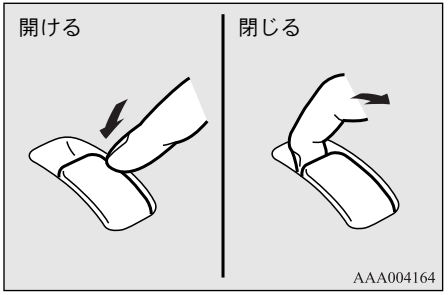


アドバイス

- POWER DOORスイッチがOFFのときでもテールゲートイージークローザーは作動します。
- OPEN スイッチを連続で押すと保護回路が働いてテールゲートイージークローザーが一時的に作動しなくなることがあります。
  このようなときはしばらくしてから（約 1 分後）OPEN スイッチを押すとエレクトリックテールゲートが開きます。

パワーウインドウ

J10200900071



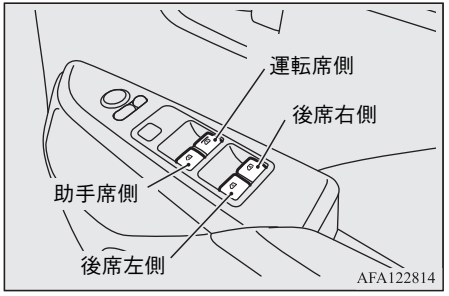
⚠警告

- パワーウインドウを閉じるときは、安全のため同乗者が窓から顔や手を出していないことを確認してください。
- 安全のためパワーウインドウの操作はお子さまではなく大人が行ってください。車を離れるときは必ずお子さまも一緒に連れて出てください。
  車内にキーを残したままにしておくと、お子さまがいたずらをして手や首をはさむおそれがあります。

アドバイス

- エンジンをかけずに何度もパワーウインドウを開閉するとバッテリーが上がることがあります。なるべくエンジンがかかっているときに操作してください。

運転席スイッチ

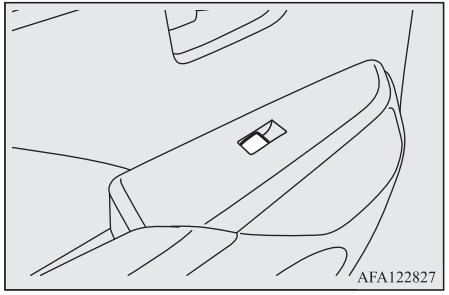


運転席スイッチで全席のドアガラスの開閉をすることができます。
エンジンスイッチの電源モードが ON のときにスイッチを押すと開き、引き上げると閉まります。
スイッチを強く押したり、強く引き上げると自動的に全開、全閉します。
途中で止めたいときはスイッチを反対方向に操作します。

アドバイス

- ドアガラスを開けた状態でスイッチを細かく連続で操作すると、セーフティ機構が正しく作動しなくなるおそれがあるため、ドアガラスが一時的に自動で開閉できなくなることがあります。
  このようなときは、ドアガラスが完全に閉じるまでスイッチを引き上げると、ドアガラスを自動で開閉できるようになります。

助手席、後席スイッチ



エンジンスイッチの電源モードが ON のときにスイッチを押すと開き、引き上げると閉まります。
後席ドアガラスは全開しません。

タイマー機構

J10206100075

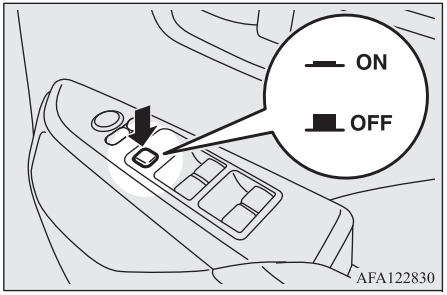
運転席スイッチ操作による全ドアガラス

エンジンを止めた後でも約30秒間はドアガラスを開閉することができます。この時間内に運転席ドアを開けると、その後約30秒間運転席ドアガラスは開閉できますが、運転席以外のドアガラスは開閉できなくなります。
なお、運転席ドアガラスも運転席ドアを閉めると開閉できなくなります。

ロックスイッチ

J10206200047

お子さまを乗せるときはロックスイッチを ON にしてください。
助手席、後席スイッチを操作してもドアガラスは開閉できなくなります。
解除するときはもう一度押します。



アドバイス

- ロックスイッチがONのときは、運転席スイッチでは運転席ドアガラスのみ開閉することができます。

セーフティ機構

J10206300048

運転席スイッチ操作による全ドアガラス

万一、手や首などをはさんだ場合は安全のため自動的にドアガラスが少し下がります。
ドアガラスが下がった後、再度スイッチを引き上げるとドアガラスを閉めることができます。

⚠警告

- エンジンスイッチの電源モードが ON のとき、パワーウインドウスイッチを引き上げている間は、セーフティ機構は働きません。
  手や首をはさまないように注意してください。
- 手や首などをはさんで故意にセーフティ機構を働かせないでください。
  万一、手や首をはさんだ場合、重大な事故につながるおそれがあります。

⚠注意

- ドアガラスを確実に閉めるため、閉め切り直前ではセーフティ機構が働かないようになっています。指などをはさまないように注意してください。

アドバイス

- 環境や走行条件により、手や首などをはさんだときと同じ衝撃が加わると、セーフティ機構が働くことがあります。
- 次の動作をしたときは、セーフティ機構が働かなくなります。また、ドアガラスが自動的に完全に開かなくなったり、閉じなくなったりします。

アドバイス

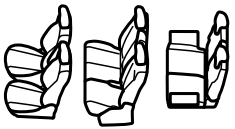
- バッテリーを外したとき
- パワーウインドウのヒューズを外したとき
- セーフティ機構を3回以上連続して働かせたとき

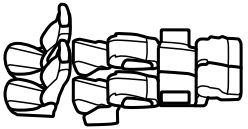
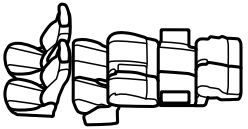
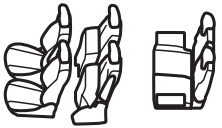
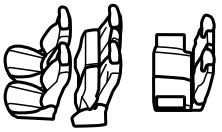
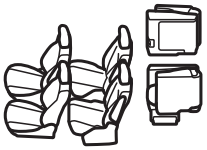
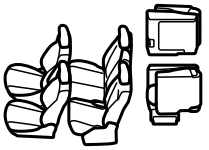
この場合は、次の操作をすれば正常に戻ります。
ドアガラスが完全に閉じるまで、繰り返し運転席スイッチを引き上げてください。次に、一旦スイッチから手を離し、再度約 1 秒間スイッチを引き上げて保持してください。

シートアレンジ

J10202700057

お好みに合わせて、次のようなシートアレンジをすることができます。

	7 人乗り車	8 人乗り車
通常の使い方	 AAM005644	 AFM001667

		7 人乗り車	8 人乗り車
フラットシート （フロント、セカンド） →P.3-62		 AAM005657	 AFM001670
フラットシート （セカンド、サード） →P.3-63		 AAM005660	 AFM001683
荷室の作り方	セカンドシートクッションの跳ね上げ →P.3-57	 AAM005673	 AFM001696
	サードシートの跳ね上げ →P.3-58	 AAM005686	 AFM001700

シート調整

J10201300043

シート各部の調整は走行前に行ってください。

⚠警告

- シートの調整は必ず走行前に行ってください。走行中にシートを調整すると必要以上に動くことがあり、重大な事故につながるおそれがあります。

⚠警告

- シートの調整をした後は、シートが確実に固定されていることを確認してください。シートが固定されていないとシートが動き、重大な事故につながるおそれがあります。
- シートの背もたれを必要以上に倒して走行しないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、身体がシートベルトの下にもぐり、重大な傷害を受けるおそれがあります。
- シートの下に物を置かないでください。物がはさまってシートが固定されず、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、シートなどの故障の原因になります。

⚠注意

- シートの調整は必ず大人が行ってください。お子さまが操作すると思わぬ事故を起こすおそれがあります。
- シートの背もたれを調整するときは、背もたれに身体を添わせるか、手を添えて行ってください。背もたれが急に戻り顔などに当たるおそれがあります。
- シートを操作しているときは、シートの下や動いている部分に手足を近づけないでください。はさまれてけがをするおそれがあります。

⚠注意

- シートの下に落とした物を拾うときや車内を清掃するときなど、シートの下に手を入れるときは十分注意してください。シートレールやシートフレームなどでけがをするおそれがあります。

フロントシート

J10201400044

正しい運転姿勢がとれるように、次の点に注意してシートを調整してください。



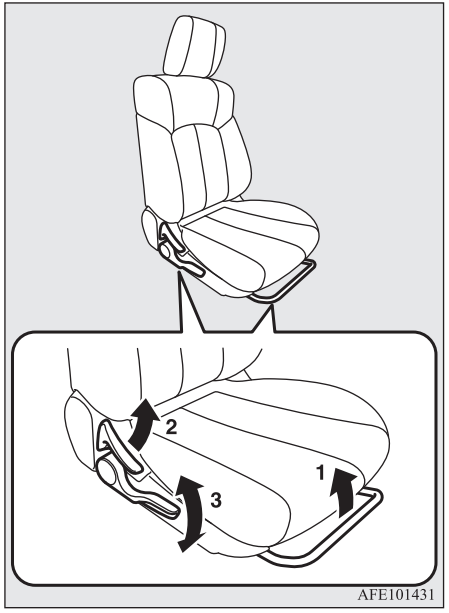
⚠警告

- 背もたれと背中の間にクッションなどを入れないでください。
  正しい運転姿勢がとれないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

調整のしかた

J10206900031

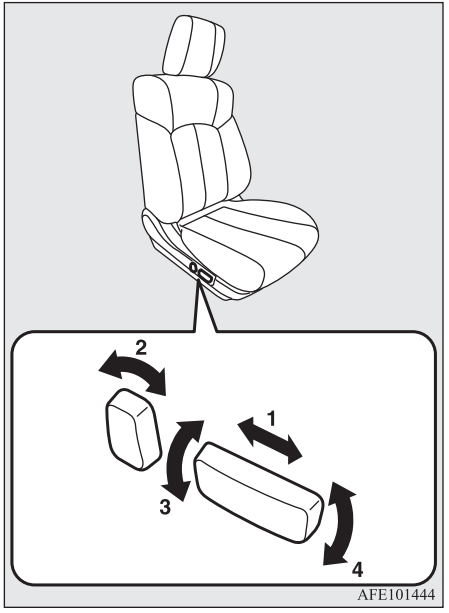
手動式



1- 前後調整
レバーを引き上げたまま調整します。
2- 背もたれの角度調整
レバーを引き上げたまま調整します。
3- 高さ調整（運転席）
レバーを繰り返し操作して調整します。

電動式（運転席）

タイプ別装備



1- 前後調整
スイッチを前後に操作して調整します。
2- 背もたれの角度調整
スイッチの上部を前後に操作して調整します。
3- 高さ調整
スイッチの後部を上下に操作して調整します。
4- シートクッションの角度調整
スイッチの前部を上下に操作して調整します。

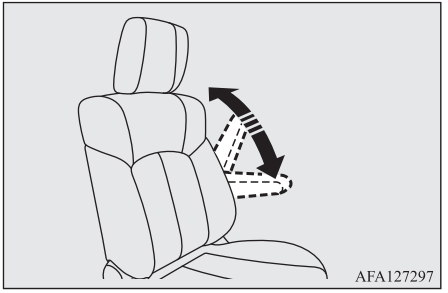
アドバイス

- バッテリー上がりを防止するため、エンジンをかけた状態で操作してください。

アームレスト（ひじ掛け）

J10214800042

手前に倒し、持ち上げて角度を調整します。
元に戻すときは、後ろに起こします。



⚠注意

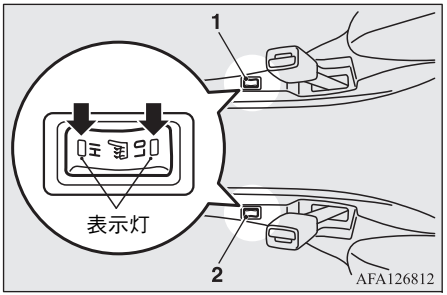
- アームレストの上に乗ったり座ったりしないでください。アームレストが破損するおそれがあります。

運転席＆助手席シートヒーター

タイプ別装備

J10207000042

エンジンスイッチの電源モードが ON のときにスイッチを LO または HI にするとヒーターが作動し、スイッチ内の表示灯が点灯します。



1	- 運転席用スイッチ
2	- 助手席用スイッチ
HI	- 急速暖房
LO	- 通常暖房
OFF（中立）	- 暖房停止

⚠注意

- 長時間の連続使用は低温やけど（水ぶくれなど）の原因になります。特に次のような方は注意してください。
  - 乳幼児、お子さま、お年寄り、病気の方、身体の不自由な方
  - 皮膚の弱い方
  - 疲労の激しい方
  - 飲酒した方およびねむけをさそう薬を飲んだ方（かぜ薬など）
- 重い荷物をシートの上に置いたり、針や釘などをシートに刺したりしないでください。
- 毛布や座ぶとんなど保温性のよい物をシートに掛けないでください。過熱の原因となります。
- シートをお手入れするときは、ベンジン、ガソリン、およびアルコールなどの有機溶剤を使用しないでください。シート表面およびヒーターの損傷原因となります。
- 水、ジュースなどをこぼしたときは十分乾かしてから使用してください。

アドバイス

- エンジン停止状態での連続使用はバッテリー上がりの原因になりますので、エンジンをかけた状態で使用してください。
- スイッチのHI 側は消費電力が大きいのでシートが適温に暖められたら LO または OFF にしてください。

セカンドシート

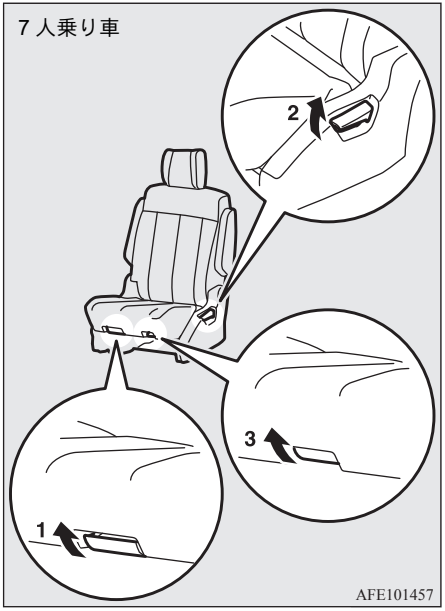
J10201500045

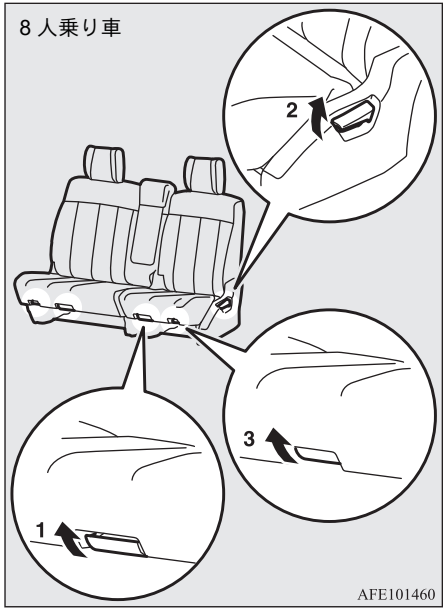
⚠警告

- セカンドシートの中央席に座る場合は、ヘッドレストを下げた状態で走行しないでください。衝突したときなどに重大な傷害を受けるおそれがあります。走行前に必ずヘッドレストを上げてください。
  →「ヘッドレスト：上下調整」P.3-56

調整のしかた

J10240800027





1- 前後調整
レバーを引き上げたまま調整します。
2- 背もたれの角度調整
レバーを引き上げたまま調整します。
3- シートクッションの角度調整
レバーを引き上げたまま調整します。

アドバイス

- 前後調整および背もたれ角度の調整は、片側ずつできます。
- 背もたれの角度を調整するときは、前に倒し過ぎないようにしてください。背もたれを一定角度以上前に倒すと、スライドのロックが解除されます。
→「サードシートへの乗り降り（ウォークイン機構）」P.3-54

アームレスト（ひじ掛け）

J10207100043

⚠警告

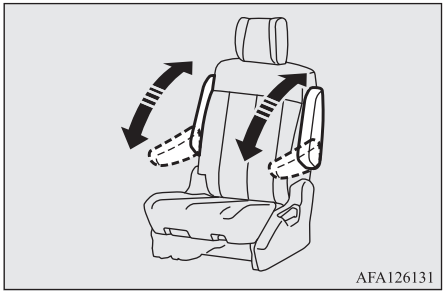
- シートベルトを着用するときは、シートベルトがアームレストにかからないように正しく着用してください。アームレストにかかった状態で着用すると、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮しないおそれがあります。

⚠注意

- アームレストの上に乗ったり座ったりしないでください。アームレストが破損するおそれがあります。

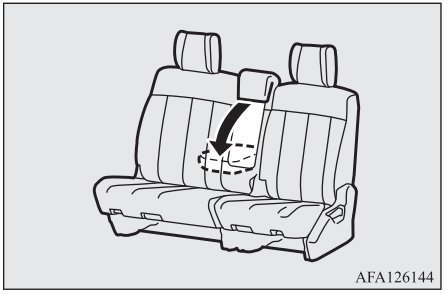
7 人乗り車

手前に倒し、持ち上げて角度を調整します。
元に戻すときは、後ろに起こします。



8 人乗り車

手前に倒して使用します。
元に戻すときは、確実に固定するまで後ろに押しつけます。



サードシートへの乗り降り（ウォークイン機構）

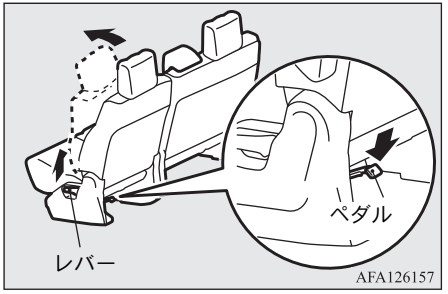
J10207200044

⚠警告

- 背もたれを前に倒した状態やシートクッションが固定していない状態で運転しないでください。シートが固定されていないため、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに重大な傷害を受けるおそれがあります。

乗り降りするときは

1. アームレストを元の位置に戻します。
→「アームレスト（ひじ掛け）」P.3-53
2. レバーを引き上げるか、またはペダルを踏むと背もたれが倒れます。



⚠注意

- レバーまたはペダルを操作するときは、背もたれに手を添えて操作してください。
背もたれが急に戻り顔などに当たるおそれがあります。
- ペダルの操作は足で行ってください。

3. シート全体を前方へ移動させます。

アドバイス

- フロントシートが後方にある場合は、セカンドシートのシートクッションを跳ね上げることで、広い乗降スペースを作ることができます。
→「セカンドシートクッションの跳ね上げ」P.3-57

乗り降りした後は

シート全体を後方へ移動させて背もたれを起こし、確実に固定されていることを確認します。

サードシート

J10201600046

⚠警告

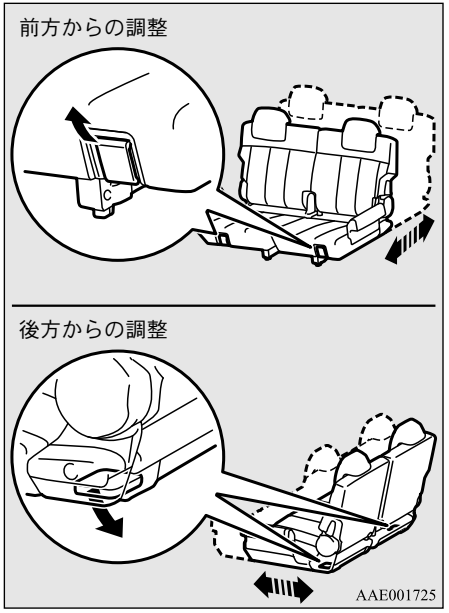
- サードシートの左右席に座る場合は、ヘッドレストを下げた状態で走行しないでください。衝突したときなどに重大な傷害を受けるおそれがあります。走行前に必ずヘッドレストを上げてください。
  →「ヘッドレスト：上下調整」P.3-56
- サードシートの中央席に座る場合は、左右のシートの前後位置と背もたれの角度をそろえて使用してください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮しないおそれがあります。

調整のしかた

J10240100020

前後調整

前後どちらかのレバーを引いたまま調整します。

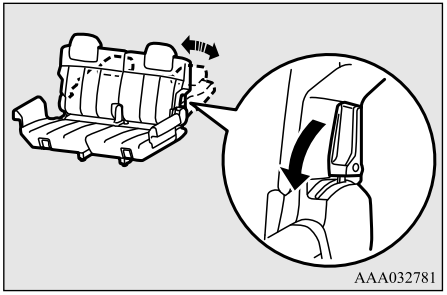


アドバイス

- シートの調整は片側ずつできます。

背もたれの角度調整

レバーを引いたまま調整します。



アドバイス

- 背もたれの角度は片側ずつ調整できます。

ヘッドレスト

J10201700021

⚠警告

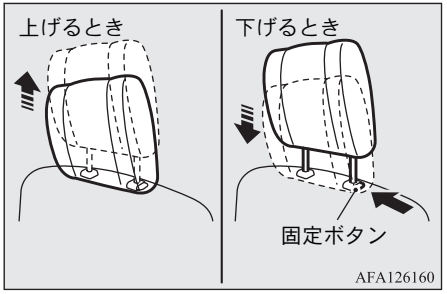
- ヘッドレストは走行前に必ず取り付けてください。
  ヘッドレストを取り外したままで走行すると、万一、衝突したときなどに重大な傷害を受けるおそれがあります。
- ヘッドレストの効果を十分に発揮させるため、次のことをお守りください。
  - ヘッドレストを正しい位置に調整する。
  - 背もたれと背中の間にクッションなどを入れない。

上下調整

J10207300045

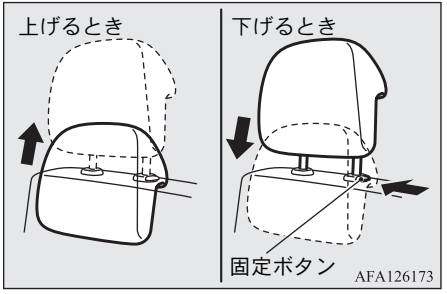
フロントシートおよびセカンドシート左右席

ヘッドレストの中央部ができるだけ耳の高さになるように調整します。
耳の高さに届かない場合（特に背の高い人など）は、固定できる範囲で一番高い位置に調整してください。
上げるときはそのまま引き上げ、下げるときは固定ボタンを押しながら下げます。



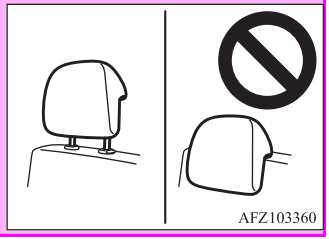
セカンドシート中央席（8 人乗り車）およびサードシート

カチッと音がするまで引き上げます。
上げるときはそのまま引き上げ、下げるときは固定ボタンを押しながら下げます。



⚠警告

- セカンドシート中央席およびサードシートに座る場合は、ヘッドレストを下げた状態で走行しないでください。衝突したときなどに重大な傷害を受けるおそれがあります。走行前に必ずヘッドレストを固定できる高さまで引き上げてください。



取り外すときは

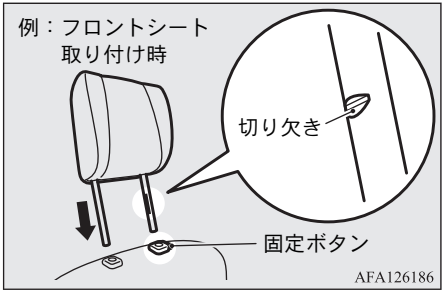
J10207400046

固定ボタンを押したまま、いっぱいに引き上げて取り外します。

取り付けるときは

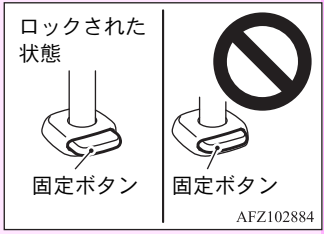
J10207500047

切り欠きのあるヘッドレストステーが固定ボタン側になるように、固定ボタンを押しながら差し込みます。



⚠注意

- 前後の向きを間違えて取り付けると、ヘッドレストは固定できません。
- ヘッドレストを取り付けた後、固定ボタンがロックされていることを確認してください。



荷室の作り方

J10202800058

次の方法で荷室を作ることができます。

- セカンドシートのシートクッションを跳ね上げ、シートを前方へ移動させる
  →「セカンドシートクッションの跳ね上げ」P.3-57
- サードシートを跳ね上げる
  →「サードシートの跳ね上げ」P.3-58

⚠警告

- 荷室を作るときは、走行中や傾斜地でのシート操作は絶対に行わないでください。シートが必要以上に動いたり、不意に動き重大な事故につながるおそれがあります。
- シートを跳ね上げたり、または元に戻したときは、シートが確実に固定されていることを確認してください。シートが固定されていないとシートが動き、重大な事故につながるおそれがあります。
- 走行中に荷室に人が乗ったり、お子さまを遊ばせないでください。
  急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに重大な傷害を受けるおそれがあります。
- 側面ガラス付近に荷物を積まないでください。SRS カーテンエアバッグが正常に膨らむのを妨げるおそれがあります。

⚠注意

- 室内にはシートの高さ以上に荷物を積まないでください。また、荷物は確実に固定してください。
  後方が確認できなくなったり、急ブレーキをかけたときなどに荷物が飛び出して思わぬ事故につながるおそれがあります。
- シートを操作するときは、必ず大人が行ってください。
  お子さまが操作すると思わぬ事故につながるおそれがあります。
- シートを操作するときは、手足をはさまないように注意してください。けがをするおそれがあります。

アドバイス

- シートは片側ずつ操作できます。

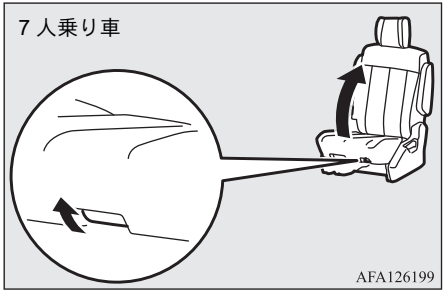
セカンドシートクッションの跳ね上げ

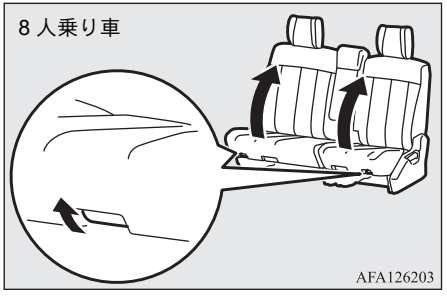
J10215400032

⚠警告

- シートクッションを跳ね上げた状態で人を乗せたり、お子さまを遊ばせないでください。
  急ブレーキをかけたときなどに重大な傷害を受けるおそれがあります。

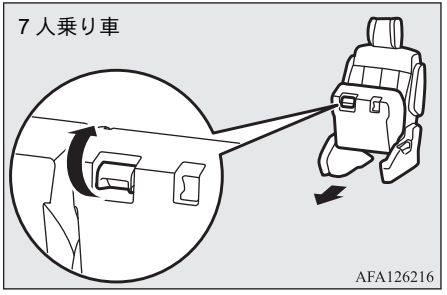
1. アームレストを元の位置に戻します。
   →「アームレスト（ひじ掛け）」P.3-53
2. シートが固定されていることを確認してからレバーを引いたまま、シートクッションを跳ね上げます。

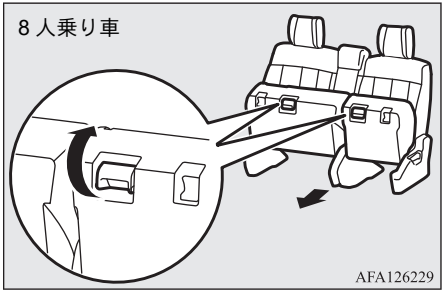




3. 背もたれを倒しているときは初段ロック位置にします。
   →「セカンドシート：調整のしかた」P.3-53

4. レバーを引いたまま前方へ移動します。
   調整後はシートを前後に軽くゆすり、シートが確実に固定されたことを確認します。





5. これでシートクッションの跳ね上げは完成です。
   戻すときは逆の手順で行います。
   元に戻した後は、シートが確実に固定されたことを確認します。

アドバイス

- シートが一番前の位置では、シートクッションは戻りません。
  クッションが戻らないときは無理に下ろさず、シートを後方に移動させてください。

サードシートの跳ね上げ

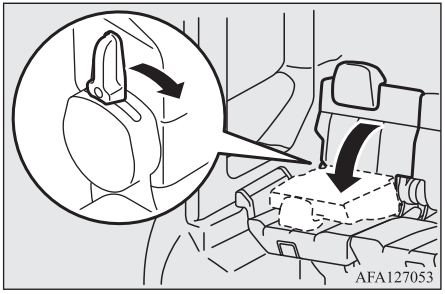
J10215500033

⚠注意

- テールゲートを開けて車両後方から操作する場合は、排気管に触らないように注意してください。排気管はエンジンを止めてもしばらくの間は高温になっています。

跳ね上げるときは

1. ヘッドレストを一番下の位置まで下げます。
   →「ヘッドレスト：上下調整」P.3-56
2. サードシートのシートベルトおよび中央席のバックルを格納します。
   →「分離格納式シートベルト」P.2-13
   →「セカンドシートベルト、サードシートベルトの格納のしかた」P.2-16
3. レバーを引いたまま背もたれをロックするまで前に倒します。



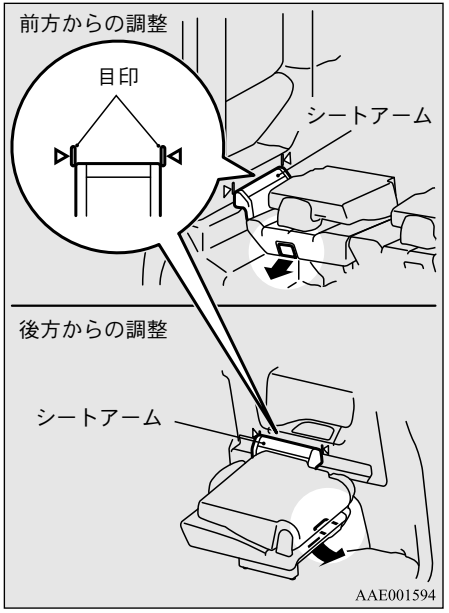
⚠警告

- 背もたれを前に倒した状態で、上に荷物や人を乗せたりお子さまを遊ばせないでください。背もたれが壊れたり、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに重大な傷害を受けるおそれがあります。

アドバイス

- 背もたれとシートクッションの間に何かをはさんだ状態では固定できません。

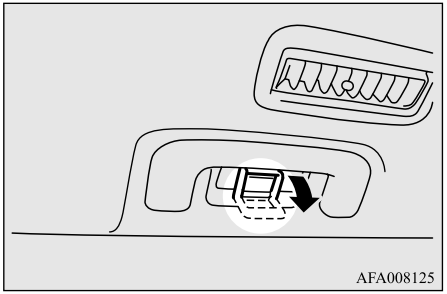
4. 前後どちらかのレバーを引きながらシートアームが目印（▷|、|◁）内にくるように調整します。



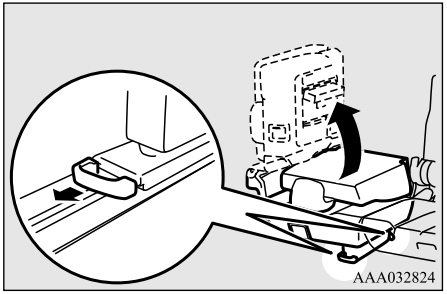
アドバイス

- シートを跳ね上げることのできる位置は目印内（最後方より 2 段前）のみです。

5. アシストグリップ下のシート固定フックを引き出します。



6. 前後どちらかのシート下にあるレバーを引いて固定を解除し、シートを窓側へ起こします。



⚠警告

- シートの背面に荷物を収納したままシートを跳ね上げたり、跳ね上げたシートとガラスの間に荷物をはさまないでください。SRS カーテンエアバッグが膨らむときにこれらの物が飛んで重大な傷害を受けるおそれがあります。

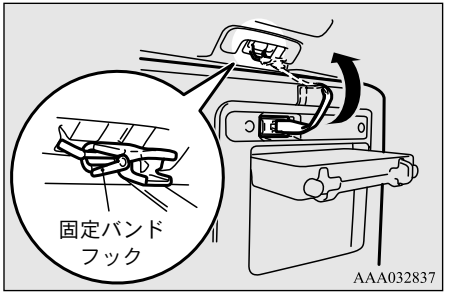
⚠注意

- フロアのシート固定穴にゴミや異物を入れないでください。シートが車両に固定できなくなるおそれがあります。

アドバイス

- シートを跳ね上げるときは、前後調整をしないでください。元に戻すときシートの脚が確実に固定されません。

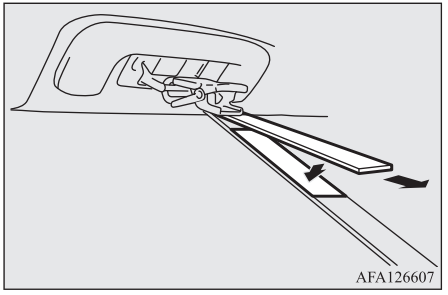
7. 固定バンドフックをシート下から外し、固定バンドにねじれがないことを確認して、アシストグリップ下のシート固定フックに掛けて固定します。



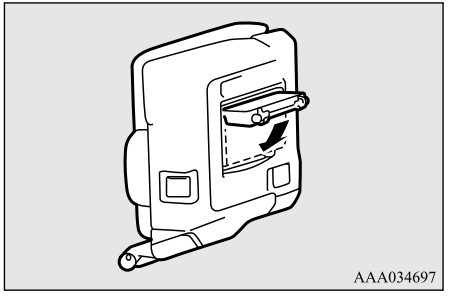
⚠注意

- シート固定フックはシートを固定する以外の目的で利用しないでください。また、跳ね上げた状態でシートや固定バンドに物を掛けたり、ぶら下がったりしないでください。シート固定フックが破損し、シートを跳ね上げることができなくなるおそれがあります。

8. シートを手で押さえながら固定バンドをたるみがなくなるまで引っぱり、面ファスナーを密着させてシートを確実に固定します。



9. シートの脚を折りたたみます。



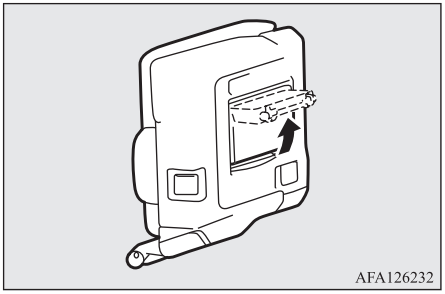
10. 固定後はシートを軽くゆすり、シートが確実に固定されていることを確認します。

⚠警告

- 折りたたんだシートは必ず固定バンドで確実に固定してください。固定されていないとシートが倒れ、重大な事故につながるおそれがあります。

戻すときは

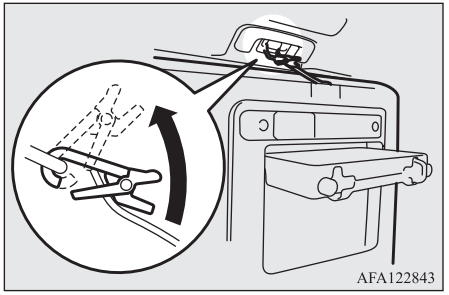
1. シートの脚を出します。



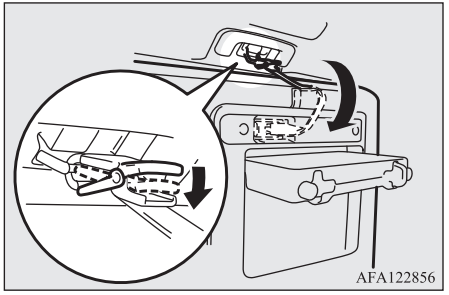
⚠注意

- シートを着座状態に戻すときは、シートの脚を出してから行ってください。シートが損傷するおそれがあります。

2. 固定バンドの面ファスナーをはがしてから、固定バンドフックを引き上げて固定バンドを緩めます。



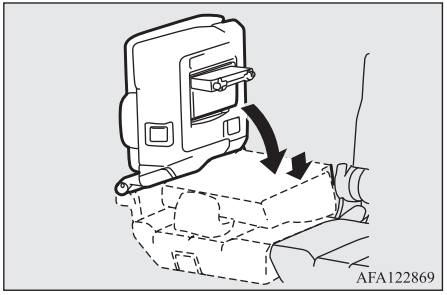
3. シートを手で支えながら固定バンドフックをシート固定フックから外し、シート下に収納します。



⚠警告

- 固定バンドフックをシート固定フックから外した後は、シートを手でしっかりと支えてください。しっかり支えていないとシートの重みでシートが急に倒れ、重大な傷害を受けるおそれがあります。

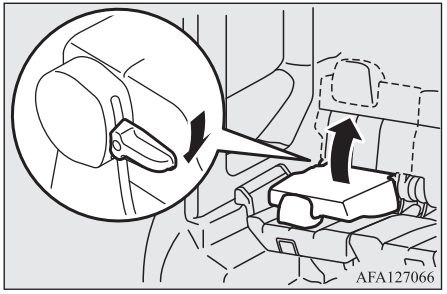
4. シートをゆっくり元の位置に戻し、ロックするまで押し付けます。



アドバイス

- シートを着座状態に戻すときは、前後調整をしないでください。
  シートの脚が確実に固定されません。

5. シート後部を持ち上げ、シートが確実に固定されていることを確認します。
6. シートの前後位置を調整し、レバーを下に押しながら背もたれを確実にロックするまで起こします。
   操作後はシートを軽くゆすり、シートが確実に固定されたことを確認します。



フラットシートの作り方

J10202900059

シートを倒して大きな空間を作ることができます。

⚠警告

- フラットにした状態で人や荷物を乗せて走行しないでください。
  急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害を受けたり、荷物が飛び出して重大な事故につながるおそれがあります。
- フラットにしたとき、または元に戻したときは、シートが確実に固定されていることを確認してください。シートが確実に固定されていないとシートが動き、重大な事故につながるおそれがあります。

⚠注意

- フラットにするときは、必ず車を安全な場所に止めてから行ってください。
- フラットにする操作は必ず大人が行ってください。
  お子さまが操作すると思わぬ事故につながるおそれがあります。
- シートを移動するときは、手足をはさまないように注意してください。けがをするおそれがあります。
- 背もたれを元に戻すときは、背もたれに身体を添わせるか、手を添えて操作してください。背もたれが急に戻り顔などに当たるおそれがあります。
- フラットにしたときは、シートの上を歩き回らないでください。セカンドシート中央席のシートベルトに足を引っ掛けたり、シートから足を踏み外すおそれがあります。必ずシートの中央を踏んで、ゆっくり移動してください。
- フラットにしたときは、背もたれ上部に飛び乗ったり、強い衝撃を与えないでください。シートが損傷することがあります。

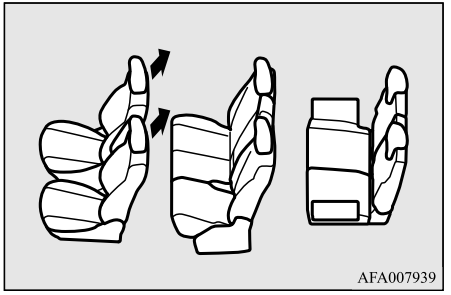
フロントシートとセカンドシートのフラットシート

J10215600034

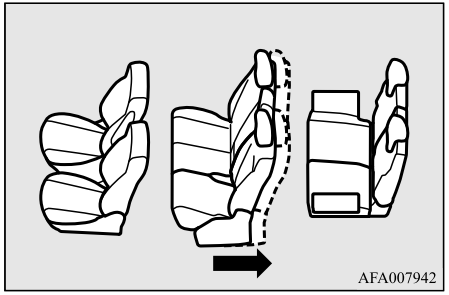
アドバイス

- アームレストは元の位置に戻してから操作します。
  →「アームレスト（ひじ掛け）」P.3-51、3-53

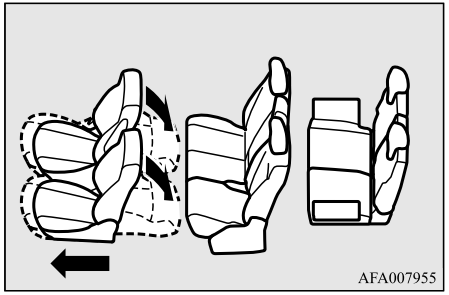
1. フロントシートのヘッドレストを取り外します。
   →「ヘッドレスト：取り外すときは」P.3-56



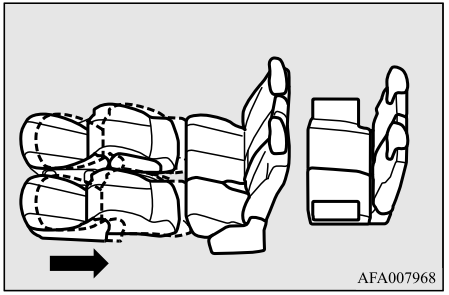
2. セカンドシートを後方へいっぱいまで移動させます。
   →「セカンドシート：調整のしかた」P.3-53



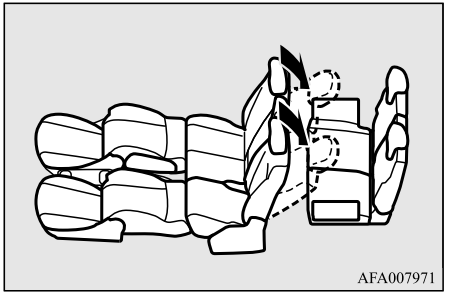
3. フロントシートを前方へいっぱいまで移動させ、背もたれを倒します。
→「フロントシート：調整のしかた」P.3-51



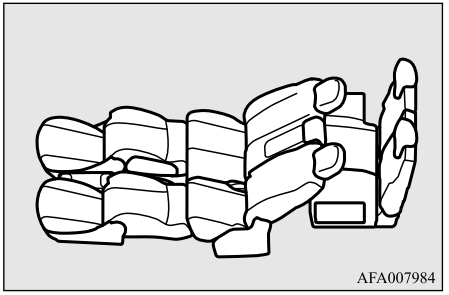
4. フロントシートとセカンドシートにすき間がなく、フロントシートが固定できる位置までフロントシートを後方へ移動させます。
→「フロントシート：調整のしかた」P.3-51



5. セカンドシートの背もたれを倒します。
→「セカンドシート：調整のしかた」P.3-53



6. 各シートを前後に軽くゆすり、シートが確実に固定されたことを確認します。
これでフラットシートの完成です。
戻すときは逆の手順で行います。



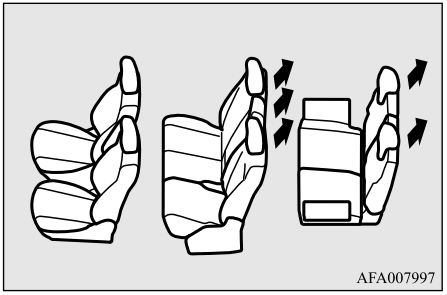
セカンドシートとサードシートのフラットシート

J10215700035

アドバイス

- アームレストは元の位置に戻してから操作します。
→「アームレスト（ひじ掛け）」P.3-53

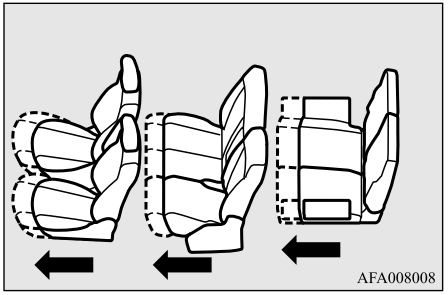
1. セカンドシートとサードシートのヘッドレストを取り外します。
→「ヘッドレスト：取り外すときは」P.3-56



2. フロントシート、セカンドシート、サードシートを前方へいっぱいまで移動させます。
→「フロントシート：調整のしかた」P.3-51
→「セカンドシート：調整のしかた」P.3-53
→「サードシート：調整のしかた」P.3-55

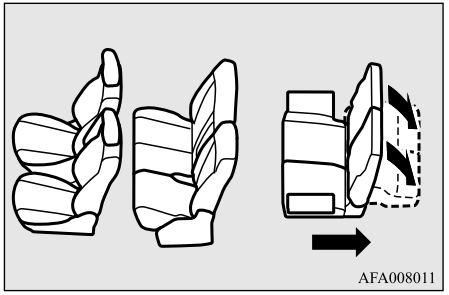
アドバイス

- セカンドシートを前方へいっぱいまで移動させると、シート位置は固定されません。



3. サードシートの背もたれを倒し、左右のシートを次の通り後方へ移動させます。

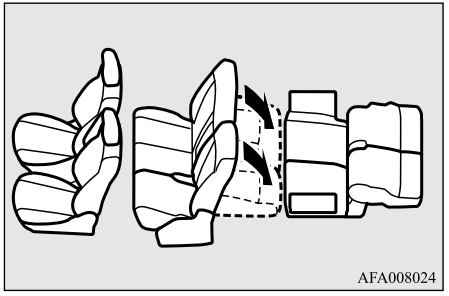
7 人乗り車：
左右のシートをそれぞれ後方へ1段移動させます。
8 人乗り車：
左側のシートを後方へ 1 段移動させ、右側のシートを後方へ2段移動させます。
→「サードシート：調整のしかた」P.3-55



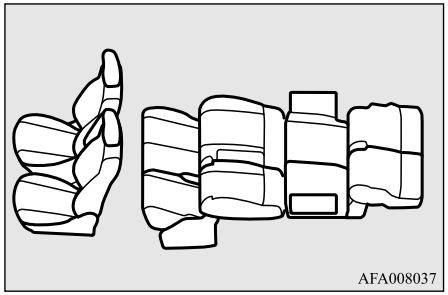
⚠注意

- サードシートが指定以外の位置にあると、セカンドシートとサードシートの間にすき間ができます。

4. セカンドシートの背もたれを倒します。
→「セカンドシート：調整のしかた」P.3-53



5. セカンドシートの背もたれと、サードシートのクッションとの間にすき間がないことを確認します。
これでフラットシートの完成です。
戻すときは逆の手順で行います。



チルトステアリング

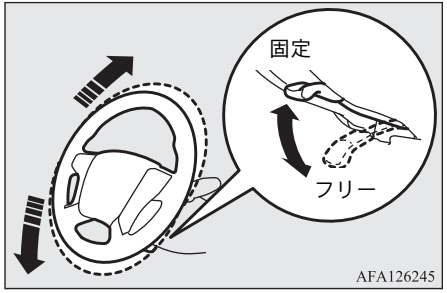
J10202200049

⚠注意

- 調整は必ず走行前に行ってください。
走行中の調整は運転を誤り思わぬ事故につながるおそれがあります。

ハンドルを手で支えてレバーを押し下げ、ハンドルを上下に動かして調整します。
レバーをいっぱいまで引き上げると固定できます。

調整後はハンドルを上下に動かして固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとハンドル位置が突然変わり、思わぬ事故につながるおそれがあります。



ルームミラー

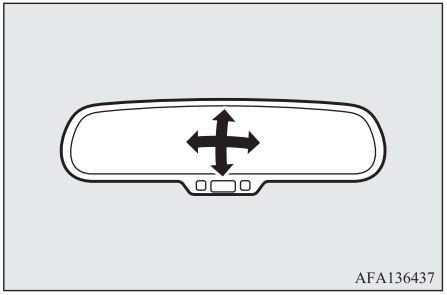
J10202300079

⚠注意

- 調整は必ず走行前に行ってください。
走行中の調整は運転を誤り思わぬ事故につながるおそれがあります。

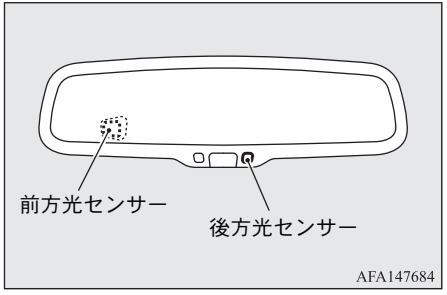
ミラーの角度調整

ミラーの本体を上下左右に動かして調整します。



防眩切り換え

後続車のライトがまぶしいとき、まぶしさの度合いに応じて自動的に防眩機能が作動します。
エンジンスイッチの電源モードを ON にすると自動防眩機能が作動します。



アドバイス

- 前後光センサーの周辺にアクセサリーを取り付けたり、ガラスクリーナーをかけたりしないでください。
  自動防眩機能が誤作動する原因になります。
- 外気温が低いときは自動防眩機能の切り換え速度が遅くなります。

ドアミラー

J10202400025

ミラーの角度調整

J10210000046

⚠注意

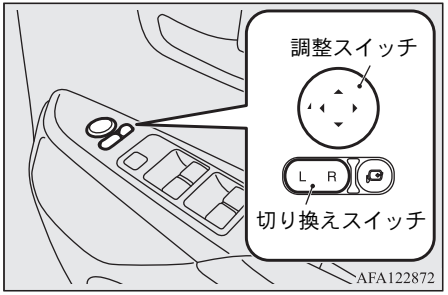
- 調整は必ず走行前に行ってください。
- ドアミラーは凸面鏡を採用しています。
  凸面鏡は平面鏡に比べ、物が遠くに見え、実際と距離感覚が異なりますので注意してください。

エンジンスイッチの電源モードが ON または ACC の状態のときに調整できます。

1. 切り換えスイッチの調整したい側を押します。
   L: 左側ミラーの調整
   R: 右側ミラーの調整
2. 調整スイッチを押して角度を調整します。

アドバイス

- 調整が終わったら切り換えスイッチは中立の位置に戻してください。



ドアミラーの格納・復帰

J10210100021

⚠注意

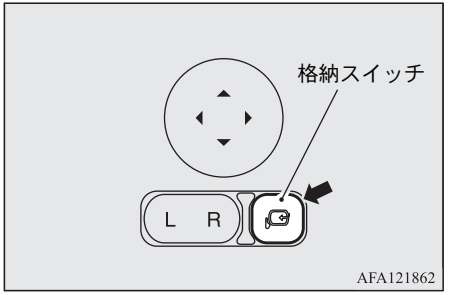
- ミラーを格納したまま運転しないでください。ミラーによる後方確認ができず思わぬ事故につながるおそれがあります。

格納スイッチによるミラーの格納・復帰

J10210200048

エンジンスイッチの電源モードが ON または ACC の状態のときに操作できます。

格納スイッチを押すとミラーが格納されます。
もう一度押すと元の位置に戻ります。
エンジンスイッチの電源モードを OFF の状態にした後でも、約 30 秒間はミラーを格納・復帰することができます。



⚠注意

- ミラーは手で格納することも復帰することもできますが、格納スイッチの操作で格納したミラーは手で戻さず、再度格納スイッチを押してミラーを元の位置に戻してください。
  格納スイッチで格納したミラーを手で戻すとミラーの固定が不完全になり、走行中の振動および風の影響などでミラーが動き、後方の確認ができなくなるおそれがあります。

アドバイス

- ミラーが動いているときは手などをはさまないように注意してください。
- 凍結などによりドアミラーが動かないときはミラー格納スイッチを何回も操作しないでください。モーターが焼き付くことがあります。

格納スイッチの操作以外によるミラーの格納・復帰

J10210300049

キーレスオペレーションキーのスイッチまたはキーレスオペレーション機能を使ってすべてのドアおよびテールゲートを施錠・解錠するとミラーが自動格納・自動復帰します。

アドバイス

- 次の機能に変更することができます。
  - 運転席ドアを閉め、エンジンスイッチの電源モードを ON にすると自動復帰する。
    また、電源モードを OFF または ACC にした後、運転席ドアを開くと自動格納する。
  - 走行スピードが約 30km/h になると自動復帰する。
  - 格納スイッチ以外での操作をできなくする。

アドバイス

詳しくは三菱自動車販売会社にご相談ください。

ヒーテッドドアミラー

J10210400040

エンジンがかかっているときにリヤデフォッガースイッチを押すと、ドアミラー内部のヒーターが作動し、ミラーの曇りを取ることができます。
ヒーターは約 15 ～ 20 分後に自動的に切れます。
→「リヤデフォッガー（曇り取り）スイッチ」P. 4-88

アドバイス

- この装置は消費電力が大きいので曇りが取れたらスイッチを切ってください。
  万一、スイッチを切り忘れても約 15 ～ 20 分後に自動的に切れます。
- エンジンがかかっているときに外気温が低くなると、リヤデフォッガースイッチを押さなくてもヒーテッドドアミラーが自動的に作動（エンジンスイッチの電源モードを ON にしてから一度のみ自動的に作動）するように設定することができます。
  詳しくは三菱自動車販売会社にご相談ください。

エンジンの始動・停止

エンジンスイッチ 4-3
エンジンの始動・停止 4-5
ターボ車の取り扱い 4-9

運転装置

ディーゼルパティキュレートフィルター [DPF] 4-9
燃料噴射量学習機能 4-10
尿素 SCR システム（AdBlue® の関連システム）.....4-11
パーキング（駐車）ブレーキ 4-12
オートマチックトランスミッション 4-16
オートマチック車の運転のしかた 4-22
S-AWC (Super-All Wheel Control) 4-25
4WD 車の取り扱い 4-28

メーターの見方

計器盤 4-30
マルチインフォメーションディスプレイ 4-32
表示灯・警告灯・インフォメーション画面表示一覧 4-49
表示灯 4-73
警告灯 4-74
インフォメーション画面表示 4-76

スイッチ類

ライトスイッチ 4-78
ヘッドライトオートレベリング 4-82
フロントフォグランプスイッチ 4-82
方向指示レバー 4-83
非常点滅灯スイッチ 4-83
ワイパー／ウォッシャースイッチ 4-84
リヤデフォッガー（曇り取り）スイッチ 4-88
ステアリングヒータースイッチ 4-89
ホーンスイッチ 4-89
フューエルリッド（燃料補給口） 4-89

運転支援システム

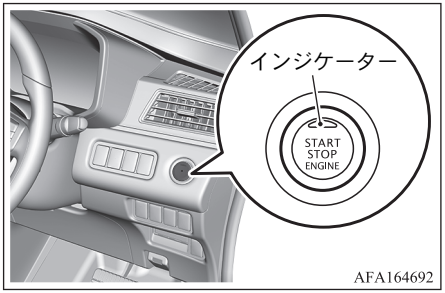
e-Assist 4-91
衝突被害軽減ブレーキシステム [FCM] 4-92
先行車発進通知 [LCDN] 4-99
誤発進抑制機能（前進＆後退時） 4-102
車線逸脱警報システム [LDW] 4-107
レーダークルーズコントロールシステム [ACC] 4-110
オートマチックハイビーム [AHB] 4-127
後側方車両検知警報システム
（レーンチェンジアシスト機能付）[BSW/LCA] 4-131
後退時交差車両検知警報システム [RCTA] 4-135
パーキングセンサー（フロント／リヤ）.....4-138
マルチアラウンドモニター 4-142
移動物検知機能 [MOD] 4-152
オートストップ＆ゴー [AS&G] 4-155
アクティブスタビリティコントロール [ASC] 4-159
緊急制動信号システム 4-162

ブレーキオートホールド 4-162
ヒルスタートアシスト [HSA] 4-165
ヒルディセントコントロール [HDC] 4-166
ブレーキアシスト 4-167
アンチロックブレーキシステム [ABS] 4-168
電動パワーステアリング [EPS] 4-170

エンジンスイッチ

J10300200075

キーレスオペレーションキーを携帯しているとき、エンジンの始動ができます。車両盗難防止のため、あらかじめ登録されたキーレスオペレーションキー以外ではエンジンがかかりません。(イモビライザー機能)



⚠警告

- エンジンスイッチ上のインジケーターが橙色に点滅したときは、絶対に走行しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
  ただちに三菱自動車販売会社にご連絡ください。

⚠注意

- エンジンスイッチに引っかかりがあるときは、エンジンスイッチの操作をせず、ただちに三菱自動車販売会社にご連絡ください。

アドバイス

- エンジンスイッチは奥まで確実に押してください。押し方が不十分な場合は、電源モードの切り換えやエンジンの始動ができない場合があります。確実に操作すれば、エンジンスイッチを押し続ける必要はありません。
- キーレスオペレーションキーが電池切れ、または、作動範囲外にあるときは、インフォメーション画面に警告が表示されます。
  - エンジンスイッチを 1 回押したとき



  - エンジン・スイッチを 2 回以上押したとき



エンジンスイッチの電源モードと働き

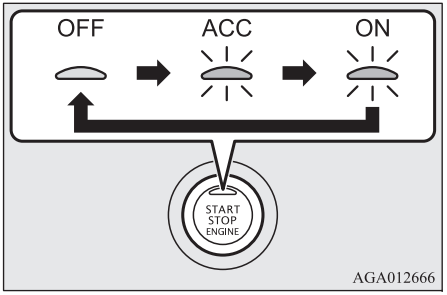
J10311000028

OFF	スイッチ上のインジケーターは消灯します。 セレクターレバーがP以外のときは OFF になりません。
ACC	エンジンを止めたままでもオーディオ、アクセサリーソケットなどが使用できるモード スイッチ上のインジケーターが橙色に点灯します。
ON	すべての電気系統が働くモード スイッチ上のインジケーターが緑色に点灯します。 エンジン回転中は消灯します。

電源モードの切り換え方

J10311100029

ブレーキペダルを踏まずにエンジンスイッチを押すと、電源モードが「OFF」→「ACC」→「ON」→「OFF」の順に切り換わります。



4

アドバイス

- エンジンを止めたままオーディオなどの電気製品を使用したり、電源モードを長時間 ACC または ON のままにしておくと、バッテリー上がりを起こし、エンジンの始動やハンドルロックの作動および解除ができなくなります。
- バッテリーを外しても電源モードの状態は記憶されます。バッテリーを再接続したときは、電源が絶たれる前の電源モードの状態に戻ります。修理などでバッテリーを外すときは、必ず電源モードを OFF にしてから行ってください。
  バッテリー上がりのときに、バッテリーが上がる前の電源モードの状態が分からない場合は十分注意をしてください。
- キーレスオペレーションキーが車室内にないと電源モードを OFF から ACC、またはONに切り換えることはできません。
  →「エンジンを始動する、電源モードを切り換えるときの作動範囲」P.3-9

アドバイス

- キーレスオペレーションキーが車室内にあっても電源モードが切り換わらないときは、キーの電池切れなどが考えられます。
  →「警告表示について」P.3-12
- 電源モードが OFF にならない場合は、次の手順で対応してください。
  1. セレクターレバーを Ⓟ に入れてから電源モードを OFF にしてください。
  2. 他の原因の一つとして、バッテリーの電圧が低下している可能性があります。このとき、キーレスエントリーシステム、キーレスオペレーション機能やハンドルロックも作動しません。三菱自動車販売会社にご連絡ください。

電源モード OFF 切り換え忘れ防止機構

J10311200020



電源モードが OFF 以外のとき、ドアスイッチおよびテールゲートの LOCK スイッチを押して施錠しようとすると約 3 秒間の警告ブザーとともにインフォメーション画面に警告が表示され、ドアおよびテールゲートの施錠ができません。

電源モード OFF 戻し忘れ防止機構

J10311300021



エンジンが止まっている、かつ電源モードが OFF 以外のとき、運転席ドアを開くと警告ブザーとともにインフォメーション画面に警告が表示され、電源モードが OFF に切り換えられていないことを知らせます。

ACC 電源オートカット機能

J10311400048

エンジンスイッチの電源モードが ACC のままで約 30 分経過すると、オーディオなど ACC の位置で作動する装備の電源を自動的にカットする機能です。ACCの位置からエンジンスイッチを操作すると、再び電源が入ります。

アドバイス

- 次の通り機能を変更することができます。
  - 電源カットするまでの時間を約 60 分間に変更する

アドバイス

・電源カットの機能を働かなくする
詳しくは三菱自動車販売会社にご相談ください。

- ACC 電源オートカットが作動したとき、キーレスエントリーシステム、キーレスオペレーション機能やハンドルロックは作動しません。

ハンドルロック

J10311500065

エンジンスイッチを押して電源モードをOFF にした後、運転席ドアを開くとハンドルが固定されます。
解除するときはエンジンスイッチを押します。

⚠警告

- 走行中にエンストしたときは、車が安全な場所に停車するまでドアを開いたり、キーレスオペレーションキーで LOCK スイッチを押して施錠しないでください。ハンドルロックが作動する可能性があるため、重大な事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- セレクターレバーがⓅの位置にあり、エンジンスイッチの電源モードがOFFのときに次の操作を行うとハンドルが固定されます。
  - いずれかのドアを開く、または閉じる（除く、テールゲート）
  - キーレスエントリーシステムまたはキーレスオペレーション機能の操作でドアやテールゲートを施錠する
- 運転席のドアが開いているとハンドルがロックされず、ブザーとともにインフォメーション画面に警告表示されます。
この場合、運転席のドアを閉じてください。



- ハンドルロックが解除されないときは、警告が表示され、ブザーが鳴ります。ハンドルを左右に動かしながら再度エンジンスイッチを押してください。



アドバイス

- ハンドルロックが正常に行われないときはインフォメーション画面に警告が表示されます。エンジンスイッチの電源モードを OFF にして、ハンドルを再度施錠してください。警告が再び表示されたら三菱自動車販売会社で点検を受けてください。



- システムに異常があるときは、ブザーとともにインフォメーション画面に警告が表示されます。ただちに、自車を安全な場所に止めて三菱自動車販売会社にご連絡ください。



エンジンの始動・停止

J10300300122

⚠警告

- 車庫など周囲が囲まれた換気の悪い場所でエンジンをかけたままにしないでください。排気ガスが車内に侵入して、一酸化炭素中毒になるおそれがあります。

⚠警告

- 排気音が変わったり、車内で燃料や排気ガスの臭いが消えない場合は排気系や燃料系の異常が考えられますので、必ず三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

⚠注意

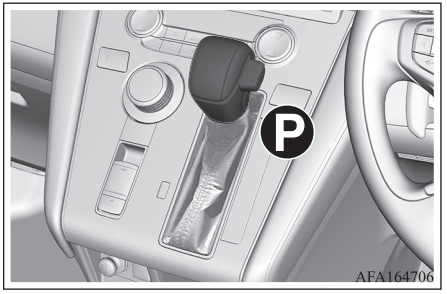
- 窓越しなど車外からエンジンをかけないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- エンジン回転中にエンジン警告灯が点灯または点滅したときは、高速走行を避けてただちに三菱自動車販売会社で点検を受けてください。
  →「エンジン警告灯」P.4-75

アドバイス

- エンジンが冷えているときや、再始動直後はエンジン保護のため高回転させたり、高速運転は避けてください。
- エンジンルームから、エンジン始動直後に特有の音が聞こえることがあります。エンジンが暖まれば音は止まります。
- 外気温が低いときは、暖房効果を高めるために、通常の走行時よりもエンジン回転数が高くなることがありますが異常ではありません。

エンジンのかけ方

1. 正しい運転姿勢がとれるように、シートを調整します。
   →「フロントシート」P.3-50
2. 電動パーキングブレーキがかかっていることを確認します。
3. セレクターレバーがⓅにあることを確認します。



アドバイス

- セレクターレバーがⓅまたはⓃ以外ではエンジンがかかりません。
  安全のため車輪が固定できるⓅでエンジンをかけてください。
  また、エンジンをかけるときにブレーキペダルを踏まずにエンジンスイッチを押した場合、インフォメーション画面に警告が表示されます。
  ブレーキペダルを踏む力が弱いときもインフォメーション画面に警告が表示されます。その場合は、通常よりブレーキペダルを強く踏んでください。



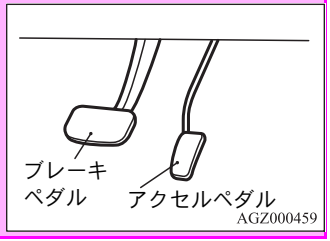
4. ブレーキペダルを右足でしっかり踏み、エンジンスイッチを押します。
5. エンジンの予熱が始まり、メーター内のグロー（予熱）スタート表示灯が消灯すると自動でエンジンが始動します。
   →「グロー（予熱）スタート表示灯」P.4-74

アドバイス

- エンジンをかけている途中でエンジンスイッチから手を離しても、エンジン始動のために数秒間スターチングモーターが回り続けます。
- エンジン冷却水の温度が低いほど、グロー（予熱）スタート表示灯の点灯時間が長くなります。
- グロー（予熱）スタート表示灯が消灯した後、しばらくの間エンジンをかけなかったときは、エンジンスイッチを ACC に戻し、再度グロープラグの予熱を行ってからエンジンをかけてください。
- エンジンがかかっていないときはブレーキペダルが踏み込みにくくなることがあり、ペダル操作が検出されず、エンジンが始動しないことがあります。そのような場合は通常よりも強くブレーキペダルを踏んでください。
- バッテリーの交換直後などはバッテリーの状態を把握するため、エンジン始動に若干の遅れを生じる場合があります。

⚠警告

- アクセルペダルとブレーキペダルの踏み間違いを防ぐため、各ペダルの位置を右足で確認してください。
  アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏んだり、両方のペダルを同時に踏んでしまうと、車が急発進し、重大な事故につながるおそれがあります。



アドバイス

- どの電源モードのときでもエンジンが始動できます。
- エンジンの始動操作をしてすぐにエンジンスイッチから手を離すと、エンジン始動のために最大で約15秒間スターチングモーターが回り続けます。
  スターチングモーターが回転中に再度エンジンスイッチを押すと、スターチングモーターが止まります。
  エンジンスイッチを押したままでも、最大で約30秒間スターチングモーターが回り続けます。

アドバイス

エンジンがかからないときは、しばらくしてから再度エンジンの始動操作を行ってください。エンジンやスターチングモーターが止まらないうちに始動の操作を繰り返すと関連部品の故障の原因となります。

- エンジンの始動操作を連続して行ったり、エンジンスイッチの電源モードを OFF にした後、すぐに再始動操作を行った場合、エンジンが始動しないことがあります。
  そのような場合は、数秒待ってから再度エンジンの始動操作を行ってください。
- スターチングモーターが回っている間は、セレクターレバーを操作しないでください。
- エンジンがかからないときは、次の手順に従ってください。
  - ブレーキペダルを踏んだまま、アクセルペダルを半分程度踏みながらエンジンをかけてください。
  - エンジンがかかったらアクセルペダルをすみやかに戻してください。

エンジンの止め方

1. 車を完全に止めます。
2. ブレーキペダルを踏んだまま電動パーキングブレーキを確実にかけます。

3. セレクターレバーをⓅに入れてから、エンジンスイッチを押してエンジンを止めます。

⚠警告

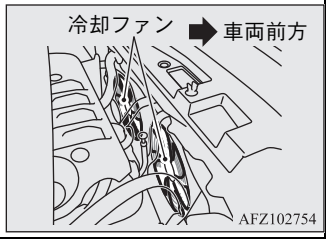
- 緊急を要する場合以外は走行中にエンジンを止めないでください。ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが非常に重くなるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- 緊急時以外は走行中にエンジンスイッチを操作しないでください。万一、走行中にエンジンを緊急停止したい場合は、エンジンスイッチを3秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上押してください。エンジンが止まり、電源モードが ACC になります。
- セレクターレバーがⓅ以外でエンジンを止めないでください。セレクターレバーがⓅ以外でエンジンを止めると、電源モードは ACC に切り換わり、OFF になりません。セレクターレバーをⓅに入れてから電源モードを OFF にしてください。

アドバイス

- オートストップ&ゴー [AS&G] によってエンジンが自動停止しているときにブレーキペダルを強く踏み込み、セレクターレバーを素早くⒹからⓅへ操作した後ブレーキペダルから足を離すと、Ⓐ表示が点滅して、エンジン停止状態を保持することができます。この状態から、電源モードを OFF にするときは、ブレーキペダルを踏まずにエンジンスイッチを押します。
- ディーゼルエンジンは、エンジンを止めてもエンジンルーム内の温度が高い場合、もしくはエンジン停止直前に DPF で集めたすすの燃焼・除去処理中または処理終了直後の場合には、冷却ファンがしばらくの間は作動し続けます。そのため、エンジンを止めてからも冷却ファンの作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
  一定時間作動した後、冷却ファンは自動的に停止します。
  →「ディーゼルパティキュレートフィルター [DPF]」P.4-9

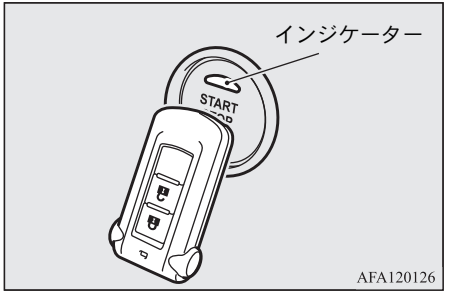


キーレスオペレーションキーが正常に作動しないとき（電池切れなど）にエンジンを始動するときは

J10311600037

次の操作で、エンジンの始動や電源モードの切り換えが可能です。

1. ブレーキペダルを右足でしっかり踏みます。
2. ブレーキペダルを踏んだまま、キーレスオペレーションキーを図のようにエンジンスイッチに接触させます。



3. キーレスオペレーションキーが認識されるとエンジンスイッチのインジケーターが緑色に点灯し、約 10 秒間エンジンの始動や電源モードの切り換え操作が可能になります。

アドバイス

- キーレスオペレーションキーの近くに金属や他のキーなどがある場合、キーレスオペレーションキーが認識されない場合があります。
- ブレーキペダルを踏む代わりにエンジンスイッチを押してから約 30 秒の間も、同じようにキーレスオペレーションキーの認識をさせることができます。
- エンジンを始動させずに電源モードを切り換えるときは、エンジンスイッチのインジケーターが緑色に点灯した後に、ブレーキペダルから足を離してエンジンスイッチを押します。

ターボ車の取り扱い

J10328100034

⚠注意

- エンジンをかけた直後は、空ぶかしや急加速などでエンジンを高回転させないでください。
- 高速走行または登坂走行をした後は、低速走行やアイドリング運転でターボが冷えるのを待ってからエンジンを止めてください。
- エンジンオイルは定められた時期に交換してください。交換しないと、ターボ装置の故障の原因となります。

ディーゼルパティキュレートフィルター [DPF]

J10328200051

ディーゼルパティキュレートフィルター [DPF] は、ディーゼルエンジンの排気ガスに含まれるすすを燃焼・除去する装置です。
DPF で集めたすすは、運転中に自動的に燃焼・除去されます。
ただし次のような場合、燃焼・除去されないことがあります。

- 低速で長時間走行を続けたとき。
- 短時間または短距離走行を繰り返したとき。

⚠警告

- 枯草や紙など燃えやすい物の近くには車を止めないでください。
  走行後の DPF および排気管は、高温になっているため、火災になるおそれがあります。

⚠注意

- 指定以外の燃料およびエンジンオイルを補給しないでください。また、燃料添加剤や水抜き剤などを使用しないでください。DPF に悪影響をおよぼすおそれがあります。
  →「メンテナンスデータ：燃料の量と種類」P.8-2
  →「メンテナンスデータ：エンジンオイルの量と種類」P.8-3

アドバイス

- 運転中に自動ですすを燃焼・除去しているとき、排気ガスの臭いが変化したりアイドル回転数が高くなることがありますが、異常ではありません。また、すすの燃焼を促進させる制御が働くと、アクセルペダルを離したときのエンジンブレーキの効きが弱くなりますが、異常ではありません。

DPF 警告表示

J10328700056

インフォメーション画面に警告が表示されたときは、次の方法で処置してください。



DPF 警告表示のみ表示したときは

4

DPF で集めたすすを、燃焼・除去する必要があります。
DPF で集めたすすの燃焼・除去を促進させるため、低速での連続走行や短距離走行の繰り返しを避け、次のことを目安に走行してください。

< 走行の目安 >
水温計の中間近くで指針が安定した状態で、約 25km/h 以上で約 30 分間走行する。

通常であれば数分後に、DPF にたまったすすの燃焼・除去を開始します。
燃焼・除去中は、グロー（予熱）スタート表示灯が点灯します。通常 30 分程度の走行で警告表示とグロー（予熱）スタート表示灯が消え、燃焼・除去を終了します。
→「グロー（予熱）スタート表示灯」P.4-74

上記の条件で走行しても警告が表示したままのときは、三菱自動車販売会社へご連絡ください。

⚠注意
- 必ず目安の条件で連続走行をしなければならないわけではありません。常に道路状況に合った安全運転を心がけてください。

アドバイス
- 警告が表示されても、すぐに問題があるわけではありません。
  警告が表示されてからも、50km 以内の距離であればそれまで通りの使用を続けても問題ありません。

DPF 警告表示とエンジン警告灯が同時に表示／点灯したときは

警告灯



警告表示



DPF 関連システムに何らかの異常が発生しています。ただちに三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

⚠注意
- DPF 警告表示とエンジン警告灯が同時に表示／点灯したまま走行を続けると、エンジンの不調および DPF の破損につながるおそれがあります。

燃料噴射量学習機能

J10328300052

排気ガスの濃度およびエンジン音を低く抑えておくために、燃料噴射量の学習を自動的に行います。
学習中、エンジン音がわずかに変化しますが異常ではありません。

尿素　SCR　システム（AdBlue®の関連システム）

J10337900096

AdBlue® はドイツ自動車工業会（VDA）の登録商標です。

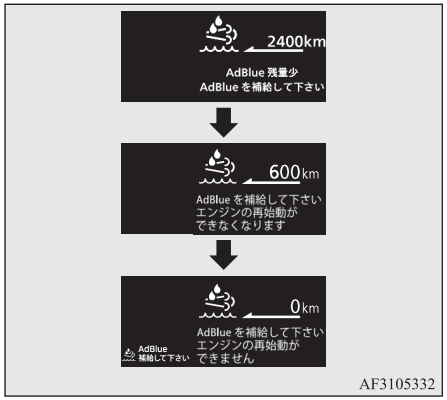
尿素 SCR システムは、高品位の尿素水（AdBlue®）を使用して、ディーゼルエンジンの排気ガスに含まれる NOx（窒素酸化物）を低減させる装置です。
尿素水（AdBlue®）は燃料と同様に、走行に伴い消費されるため、走行距離に応じて補給が必要です。
排気ガス低減のために尿素水（AdBlue®）が使われている場合、尿素水（AdBlue®）を消費しない車両を使用することは関連法規に違反する可能性があります。

尿素水（AdBlue®）残量警告

警告灯



警告表示



走行可能距離が約 2,400km 以下になると、マルチインフォメーションディスプレイ内のインフォメーション画面に残量警告が表示されます。尿素水（AdBlue®）の残量に応じて、段階的に残量警告とおおよその走行可能距離が表示されます。
また、同時に警告灯が点灯または点滅します。
表示されるおおよその走行可能距離は次の通り 15 段階で表示されます。

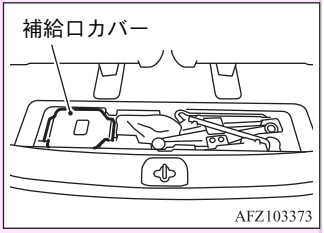
走行可能距離（km）				
2,400	2,100	1,800	1,500	1,200
900	600	400	200	100

走行可能距離（km）				
60	40	20	10	0

警告が表示されたら、できるだけ早く三菱自動車販売会社で点検、補給を受けてください。

⚠注意

- 尿素水（AdBlue®）の残量がなくなり、走行可能距離表示が 0km になると、メーター内に常時、警告が表示されエンジンの再始動ができなくなります。
- 尿素水（AdBlue®）の取り扱いには注意が必要です。尿素水（AdBlue®）は三菱自動車販売会社で補給してください。

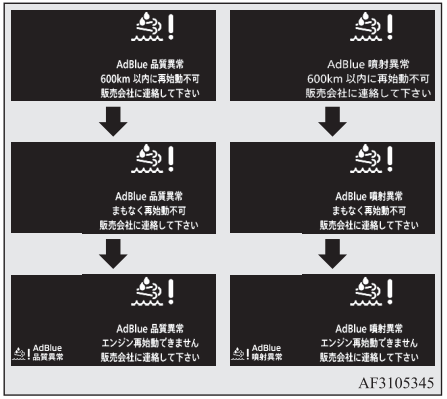


尿素 SCR システム警告

警告灯



警告表示



システムに異常があるときは、その状態により、マルチインフォメーションディスプレイ内のインフォメーション画面に警告が表示されます。また、同時に警告灯が点滅します。
警告が表示されたら、できるだけ早く三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

⚠注意

- 尿素SCRシステム警告灯と警告画面が表示してから約600kmでエンジンの再始動ができなくなります。

アドバイス

- システムに異常があるときは、エンジン警告灯が同時に点灯する場合があります。



パーキング(駐車)ブレーキ

J10300400048

電動パーキングブレーキ

J10324800105

電動パーキングブレーキは、電気モーターを利用してパーキングブレーキをかける装置です。

アドバイス

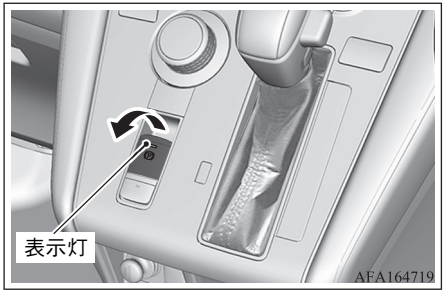
- 電動パーキングブレーキの作動中に車体下から作動音がすることがあります。これは電動パーキングブレーキが正常に作動していることを示すもので異常ではありません。
- バッテリーが上がっているとき、または電圧不足のときは、電動パーキングブレーキをかけることも解除することもできなくなります。
→「バッテリーが上がったとき」P.7-25

アドバイス

- ブレーキペダルを踏み込んでいるときに、電動パーキングブレーキスイッチを操作すると、ブレーキペダルが動くことがありますが異常ではありません。

かけるときは

1. 車を完全に止めます。
2. ブレーキペダルを踏んだまま電動パーキングブレーキスイッチを引き上げます。



メーター内の電動パーキングブレーキ警告灯とスイッチ内の表示灯が点灯していることを確認してください。

⚠注意

- 電動パーキングブレーキスイッチの周りに物を置かないでください。
  スイッチに物が当たり、電動パーキングブレーキの思わぬ作動を引き起こすおそれがあります。
- 電動パーキングブレーキをかけるときはブレーキペダルをしっかり踏み、完全に停車してからスイッチを引き上げてください。
  また、走行中は電動パーキングブレーキをかけないでください。電動パーキングブレーキが過熱し、効きが悪くなるとともに、電動パーキングブレーキの故障の原因になります。

アドバイス

- 次の状況では、電動パーキングブレーキ警告灯は、約 15 秒点灯後、消灯します。
  - 電動パーキングブレーキが作動中に、電源モードを OFF にしたとき
  - エンジンスイッチの電源モードが OFF のときに、電動パーキングブレーキスイッチを引き上げたとき

アドバイス

- フットブレーキが効かないなどの緊急時に電動パーキングブレーキをかける必要があるときは、電動パーキングブレーキスイッチを引き続けてください。
  スイッチを引き続けている間、電動パーキングブレーキがかかります。このとき、ブザーとともにインフォメーション画面に警告が表示されますが、スイッチを引き続けてください。



- 急な坂道に駐車するときは、電動パーキングブレーキスイッチを引き上げた後にもう一度引き上げてください。電動パーキングブレーキを最大にかけることができます。その後、セレクターレバーをⓅに入れてください。
- ブレーキペダルから足を離しても車両を保持することができないときは、最寄りの三菱自動車販売会社にご連絡ください。
- エンジンスイッチの電源モードが ON 以外で電動パーキングブレーキをかけると、スイッチの表示灯が数秒間点灯します。

アドバイス

- 電動パーキングブレーキスイッチを短時間に繰り返し操作すると、インフォメーション画面に警告が表示され、一時的に電動パーキングブレーキがかけられなくなります。このようなときは、警告が消えるまで待ってからスイッチを操作してください。

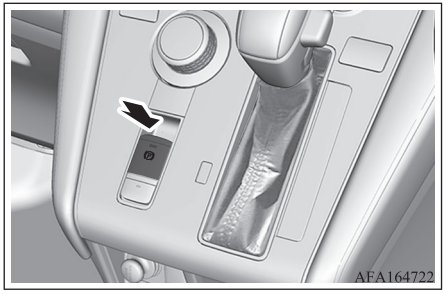


- メーター内の電動パーキングブレーキ警告灯とスイッチ内の表示灯が点滅することがありますが、電動パーキングブレーキを解除したときに消灯すれば故障ではありません。
- 状況によって、電動パーキングブレーキが自動でかかることがあります。
  →「ブレーキオートホールド」P.4-162

解除するときは

手動解除

1. エンジンスイッチの電源モードを ON にします。
2. ブレーキペダルを踏んだまま電動パーキングブレーキスイッチを押します。



4

自動解除

次の条件がそろったときにアクセルペダルをゆっくり踏み込むと、電動パーキングブレーキが自動で解除されます。

- エンジンがかかっている
- セレクターレバーがⒹまたはⓇの位置にある
- 運転席のシートベルトを着用している

電動パーキングブレーキを解除すると、メーター内の電動パーキングブレーキ警告灯とスイッチ内の表示灯が消灯します。
運転する前にメーター内の電動パーキングブレーキ警告灯とスイッチ内の表示灯が消灯していることを確認してください。

⚠注意

- システムの故障により電動パーキングブレーキが作動できないときに電動パーキングブレーキスイッチを操作すると、メーター内の電動パーキングブレーキ警告灯とスイッチ内の表示灯が点滅または、ブレーキシステム警告灯が点灯することがあります。点滅、または点灯し続けるときは、ただちに安全な場所に停車し、最寄りの三菱自動車販売会社にご連絡ください。
- 電動パーキングブレーキをかけたまま運転するとブレーキが過熱し、ブレーキの効きが悪くなるとともにブレーキが故障する原因になります。
- 電動パーキングブレーキを解除してもメーター内の電動パーキングブレーキ警告灯が消灯しないときは、装置の故障が考えられますので、ただちに安全な場所に停車し、最寄りの三菱自動車販売会社にご連絡ください。
- 寒冷時に電動パーキングブレーキを解除しても通常より車速が上がらないときは、電動パーキングブレーキが完全に解除されていない可能性があります。このような場合は、安全な場所に停車し、電動パーキングブレーキをかけた後、再度解除してください。
  この操作をしても車速が上がらないときは、最寄りの三菱自動車販売会社にご連絡ください。

アドバイス

- エンジンスイッチの電源モードが ON 以外では電動パーキングブレーキを解除することはできません。
- 電動パーキングブレーキが自動で解除できないときは、手動で解除してください。
- セレクターレバーがⓅ以外の位置でブレーキペダルを踏まずに電動パーキングブレーキスイッチを押すと、パーキングブレーキは解除されずインフォメーション画面に警告が表示されます。



- 電動パーキングブレーキが解除されていない状態で走行すると、インフォメーション画面に警告が表示されます。



- 電動パーキングブレーキが自動で解除できる状態でアクセルペダルに足が接触すると、電動パーキングブレーキが自動で解除されることがあります。

警告表示

システムに異常があると警告灯が点灯し、インフォメーション画面に警告が表示されます。
正常なときはエンジンスイッチの電源モードを ON にすると警告灯のみが点灯し、数秒後に消灯します。

警告灯



警告表示



⚠注意

- 警告灯が点灯したままのとき、または点灯しないときは、電動パーキングブレーキがかけられない、もしくは解除できない可能性がありますので、ただちに三菱自動車販売会社にご連絡ください。
  走行中に警告灯が点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、三菱自動車販売会社にご連絡ください。
  警告灯が点灯しているときに駐車するときは、平らな場所に停車し、セレクターレバーをⓅに入れて輪止めをしてください。

アドバイス

- インフォメーション画面に次の警告が表示されたときは、電動パーキングブレーキスイッチを数回操作してください。
  スイッチ操作後に表示が消えれば異常ではありません。



自動パーキングブレーキ

セレクターレバーの操作に連動して電動パーキングブレーキをかけることができます。

アドバイス

- エンジンスイッチの電源モードをOFF にしても、自動パーキングブレーキの設定は保持されます。

■ 自動パーキングブレーキを ON にするときは

1. エンジンスイッチの電源モードを ON にします。
2. 電動パーキングブレーキスイッチを 4 秒以上引き上げ続けます。自動パーキングブレーキが ON になり、インフォメーション画面に次の表示が出ます。



⚠注意

- 停車してから自動パーキングブレーキの設定を行ってください。車が動いているときに電動パーキングブレーキスイッチを操作すると、電動パーキングブレーキがかかり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- ブレーキシステム警告灯が点灯しているときは、自動パーキングブレーキを ON にすることはできません。
- 自動パーキングブレーキが OFF のときでも、電動パーキングブレーキスイッチを使って電動パーキングブレーキをかけることはできます。

■ 自動パーキングブレーキを使って電動パーキングブレーキをかけるときは

自動パーキングブレーキが ON のときにセレクターレバーを Ⓟ に入れると、電動パーキングブレーキが自動でかかり、メーター内の電動パーキングブレーキ警告灯が点灯します。



アドバイス

- 次の場合は自動パーキングブレーキが ON のときでも、電動パーキングブレーキは自動でかかりません。
  - エンジンが止まっている
  - ブレーキペダルを踏んでいない
  - 車が止まっていない
- ブレーキペダルをしっかりと踏みながらセレクターレバーを操作してください。セレクターレバーを操作しているときにブレーキペダルから足を離すと、電動パーキングブレーキがかからない場合があります。

■ 自動パーキングブレーキをOFF にするときは

電動パーキングブレーキスイッチを 4 秒以上押し続けます。自動パーキングブレーキが OFF になり、インフォメーション画面に次の表示が出ます。



⚠注意

- システムが異常を検知したときも、自動パーキングブレーキは OFF になり、メーター内のブレーキシステム警告灯が点灯します。

オートマチックトランスミッション

J10300500049

スポーツモード 8A/T

スポーツモード 8A/T は、路面や走行状況に応じて、適切にシフトチェンジを行い、低燃費でスムーズな走行を実現します。

上り坂では

アクセルペダルを戻しても不必要なシフトアップを防止し、スムーズな走りを実現します。

下り坂では

状況に応じてシフトチェンジのタイミングを変更して、運転者がブレーキペダルを踏む回数を低減します。

⚠注意

- エンジンブレーキの効きが弱いと感じたときは、必要に応じてブレーキペダルを踏んだり、スポーツモードを使ってシフトダウンしてください。
  なお、滑りやすい路面ではシフトダウンするとタイヤがスリップするおそれがありますので、常に道路状況に合った安全な運転を心がけてください。

スポーティ走行では

急加速、急減速を繰り返すスポーティな走行を行うと、通常走行に比べてシフトアップしにくくなります。これにより大きな駆動力で走行することができます。

スポーツモード

「スポーツモード」では、マニュアルトランスミッション感覚でスポーティな運転を楽しむことができます。

→「スポーツモード」P.4-19

セレクターレバーの位置・働き

J10311700041

	(パーキング) 駐車およびエンジンをかけるとき	車輪が固定されます。駐車するときは必ず電動パーキングブレーキをかけてⓅにしてください。
	(リバース) 後退させるとき	Ⓡにするとブザーが鳴り、Ⓡにあることを運転者に知らせます。

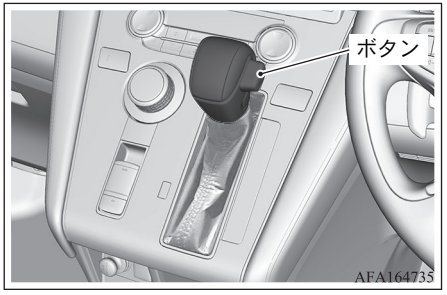
⚠注意

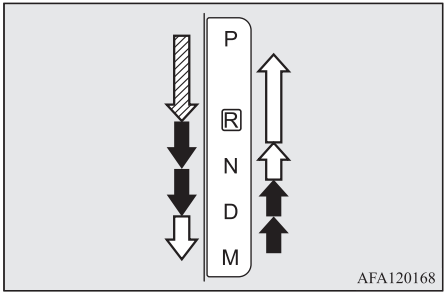
- ブザーは車外の人には聞こえません。

N	（ニュートラル） 動力が伝達されません	この位置でもエンジンをかけることができますが、安全のため Ⓟで行ってください。
D	（ドライブ） 通常走行	発進から高速走行まで自動的に変速されます。（1 速から 8 速まで自動的に変速されます。）
M	（マニュアル） スポーツ走行	スポーツモードを選択するときに使用します。

セレクターレバーの動かし方

J10311800055





⇩ ブレーキペダルを踏んだまま、ボタンを押して操作します。

↓ ボタンを押さずに操作します。

⇩ ボタンを押したまま操作します。

⚠警告

- ↓の操作は必ずボタンを押さずに行ってください。いつもボタンを押したまま操作すると、誤ってⓅやⓇに入れてしまい、思わぬ事故の原因となり重大な傷害を受けるおそれがあります。
- セレクターレバーをⓃ→Ⓓまたは Ⓝ→Ⓡに操作するときは、安全のため必ずブレーキペダルを右足で踏んだまま行ってください。絶対にアクセルペダルを踏み込んだまま行わないでください。車が急発進し、重大な事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- レバーの操作は誤操作防止のため、各位置ごとに一旦止めて確実に行ってください。操作後は必ずメーター内の表示でポジションを確認してください。

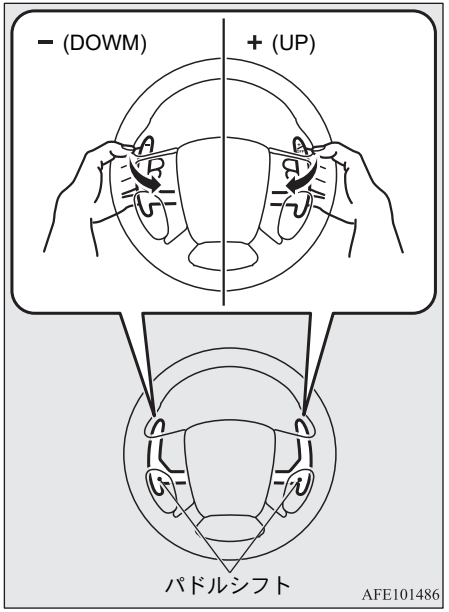
アドバイス

- ブレーキペダルを踏んでいないと、シフトロック装置が働いてⓅから他の位置に操作できません。また、エンジンスイッチの電源モードが OFF または ACC のときはブレーキペダルを踏んでもⓅから他の位置に操作できません。
- ⇩ の操作はブレーキペダルを先に踏んでから行ってください。ブレーキペダルを踏む前に操作すると、セレクターレバーが動かなくなることがあります。
- ⒹからⓇ、ⓇからⒹおよびⓅに入れるときはブレーキペダルをしっかりと踏み、完全に停車してから入れてください。車が動いているうちにⓅやⓇに入れるとトランスミッションの故障の原因になります。

スポーツモード

J10311900043

スポーツモードでは、パドルシフトを操作するだけで、素早くシフトチェンジすることができます。



マニュアルトランスミッションと違って、アクセルペダルを踏み込んだままシフトチェンジをすることができます。
カーブの手前の軽快なシフトダウンによる減速と素早いコーナーの立ち上がりなど、スポーティなドライブを楽しむことができます。

スポーツモードを選択するときは

J10337300032

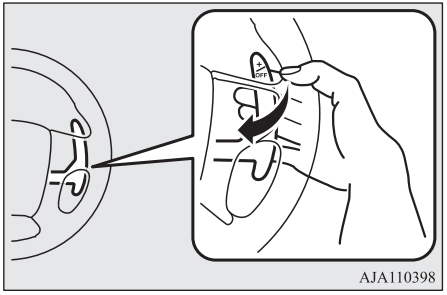
セレクターレバーをⒹに入れて、パドルシフトを手前に引く、またはセレクターレバーをⓂに入れることでスポーツモードが選択されます。

アドバイス

- 停車中に選択できる変速段は1速または2速です。
- 走行中、停車中ともに操作ができます。

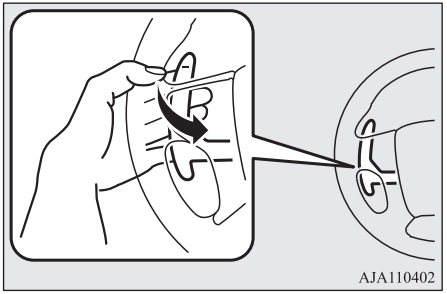
■ シフトアップするときは

パドルシフトの + (UP) 側を引くごとに 1 段ずつシフトアップします。



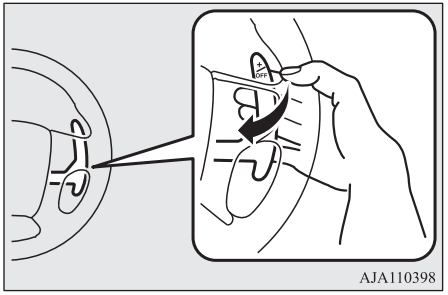
■シフトダウンするときは

パドルシフトの− (DOWN) 側を引くごとに 1 段ずつシフトダウンします。



■Ⓓ 走行に戻すときは

セレクターレバーがⒹの位置でスポーツモードを選択しているときは、パドルシフトの+ (UP) 側を約 2 秒以上手前に引くと、セレクターレバー位置表示灯がⒹに切り換わり、Ⓓ走行に戻ります。



セレクターレバーがⓂの位置のときは、セレクターレバーをⒹに入れると、セレクターレバー位置表示灯がⒹに切り換わり、Ⓓ走行に戻ります。

⚠注意

- スポーツモードで走行中は、道路状況に合わせて、エンジン回転がレッドゾーンに入らないよう適切にシフトチェンジしてください。
- 滑りやすい路面ではシフトダウンするとタイヤがスリップするおそれがありますので、常に道路状況に合った安全な運転を心がけてください。
- 左右のパドルシフトを同時に操作すると、シフトチェンジしないことがあります。

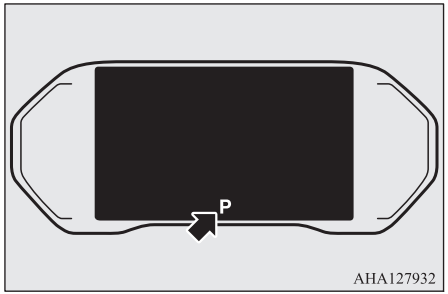
アドバイス

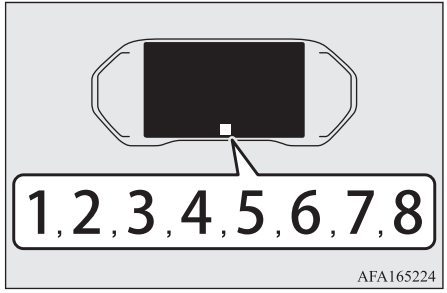
- 1 速から 8 速の前進しか選択できません。後退、駐車するときはセレクターレバーを、Ⓡ、Ⓟに入れてください。
- セレクターレバーがⒹの位置でスポーツモードで走行しているときは、車速が下がると自動的にシフトダウンし、停車前に 1 速に入ります。停車すると自動的にⒹ走行へ戻ります。
- セレクターレバーがⓂの位置のときは、停車してもⒹ走行へは戻りません。
- パドルシフトを連続して操作すると変速段が連続して切り換わります。
- 滑りやすい路面での発進性を良くするため、停止中に+ (UP) 側へ 1 回操作すると 2 速で発進できます。− (DOWN) 側へ操作すると 1 速に戻ります。
- 走行性能を確保するため、車速によってはパドルシフトを操作してもシフトアップしない場合があります。また、エンジンの過回転を防止するため、車速によってはパドルシフトを操作してもブザーが鳴ってシフトダウンしない場合があります。
- エンジン回転数がレッドゾーン付近まで上昇すると、自動的にシフトアップすることがあります。

セレクターレバー位置表示灯

J10312000054

セレクターレバーの位置をメーター内に表示します。
スポーツモードで走行中は変速段を表示します。





警告表示

J10312300060

インフォメーション画面に警告が表示されたときは、次の方法で処置してください。



オートマチックトランスミッションオイルの温度が高くなっています。
高くなったオートマチックトランスミッションオイルの温度を下げるためにエンジン制御が働き、エンジン回転数と車速が下がることがあります。
このようなときは、次のいずれかの方法で処置してください。

- 車速を下げて走行します。
- 車を安全な場所に止めてセレクターレバーをⓅに入れ、エンジンをかけたままエンジンフード（ボンネット）を開けて冷やします。

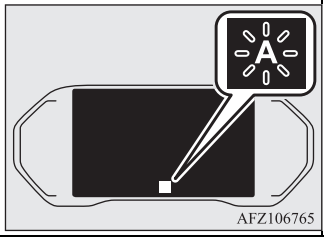
しばらくしたらセレクターレバーをⓅ以外に入れて警告表示が消えていることを確認します。
表示が消えれば元のように走行できます。
警告表示が消えないときは、ただちに三菱自動車販売会社にご連絡ください。



トランスミッションに何らかの異常が発生し、安全装置が働いていると考えられます。ただちに三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

アドバイス

- インフォメーション画面に(!)または(!)の警告が表示されたときは、セレクターレバー位置表示灯が点滅します。
- “A” が点滅するときは、A/T ポジションスイッチが故障しています。（通常は表示されません）

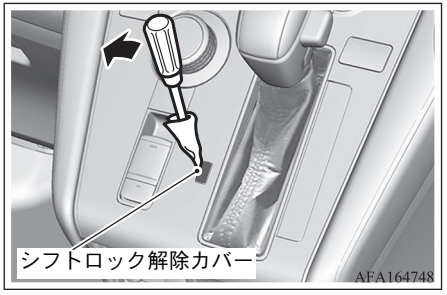


4

セレクターレバーをⓅから操作できないときは

万一、エンジンスイッチの電源モードがONでブレーキペダルを踏んだ状態でも、Ⓟから他の位置に操作できないときは、バッテリー上がりやシフトロック装置の故障が考えられます。ただちに三菱自動車販売会社で点検を受けてください。
また、お車を移動させる必要がある場合は、次の手順でセレクターレバーを操作してください。

1. 電動パーキングブレーキがかかっていることを確認します。
2. エンジンをかけている場合は、エンジンを切ります。
3. シフトロック解除カバーの切欠きに布をかぶせたマイナスドライバーなどを差し込み、矢印の方向へこじてシフトロック解除カバーを外します。



4. ブレーキペダルを右足で踏みます。
5. シフトロック解除穴にエマージェンシーキーまたはお手持ちの先の細い工具などを差し込み、押し込みながらセレクターレバーをⓃに入れます。



アドバイス

- バッテリー上がりのときは電動パーキングブレーキは作動しません。

オートマチック車の運転のしかた

J10300600082

⚠注意

- 車を少し移動させるときでも、正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。

⚠注意

- 少しだけ後退したときなどは、セレクターレバーがⓇに入っていることを忘れてしまうことがあります。
  後退した後は、すぐにⓇからⓅまたはⓃに戻す習慣をつけましょう。
- 車を後退させるときは、身体を後ろにひねった姿勢になり、ペダルの操作がしにくくなります。
  ブレーキペダルが確実に踏めるように注意してください。
- 切り返しなどでⒹからⓇ、ⓇからⒹと何度もレバーを操作するときは、その都度ブレーキペダルをしっかりと踏み、車を完全に止めてから行ってください。
  車が動いているうちにⓅやⓇに入れると、トランスミッションの故障の原因になります。

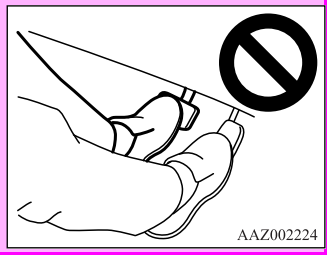
発進

1. ブレーキペダルを右足で踏みます。

⚠警告

- ブレーキペダルは必ず右足で踏んでください。左足でのブレーキ操作は、緊急時の反応が遅れるなど適切な操作ができず、重大な事故につながるおそれがあります。

⚠警告



⚠注意

- セレクターレバーをⓅ、Ⓝ以外の位置（前進または後退の位置）に入れるとクリープ現象により、ブレーキペダルから足を離すとアクセルペダルを踏まなくても車が動き出します。
  特に冷暖房中やエンジン始動直後などエンジン回転数が高くなるとクリープ現象が強くなりますので、よりしっかりとブレーキペダルを踏んでください。

クリープ現象とは…

- セレクターレバーをⓅ、Ⓝ以外に入れると動力がつながった状態となり、アクセルペダルを踏まなくても車がゆっくりと動き出すオートマチック車特有の現象。

2. セレクターレバーを前進はⒹ、後退はⓇに入れます。

⚠警告

- セレクターレバーの操作は必ずブレーキペダルを右足で踏んだまま行ってください。絶対にアクセルペダルを踏み込んだまま行わないでください。車が急発進し、重大な事故につながるおそれがあります。

3. セレクターレバーの位置を確認します。



4. 周囲の安全を確認し、電動パーキングブレーキを解除します。
5. ブレーキペダルを徐々に緩め、アクセルペダルをゆっくりと踏み込んで発進します。

急な上り坂での発進

1. 車を完全に止めます。
2. ブレーキペダルを踏んだまま、電動パーキングブレーキを最大にかけ、ブレーキペダルから足を離します。
3. アクセルペダルをゆっくり踏み込み、車が動き出す感触を確認してから、さらにアクセルペダルを踏み込み発進します。アクセルペダルの踏み込みにあわせて、電動パーキングブレーキが自動解除されます。
   →「電動パーキングブレーキ」P.4-12

走行

⚠警告

- 走行中はセレクターレバーをⓃに入れないでください。誤ってⓅ、Ⓡに入れてしまったり、エンジンブレーキが効かなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、トランスミッションの故障の原因になります。

⚠注意

- セレクターレバーは走行状況に合った正しい位置で使用してください。
  坂道などで、Ⓓまたは Ⓜ (前進) にしたまま惰性で後退したり、Ⓡ (後退) にしたまま惰性で前進しないでください。
  エンストしてブレーキの効きが非常に悪くなったり、ハンドルが非常に重くなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

通常走行

セレクターレバーをⒹで走行します。
発進するとスピードに応じて自動的に変速されます。

急加速したいとき

アクセルペダルを深く踏み込みます。
自動的に低速ギヤに切り換わって急加速ができます。これをキックダウンといいます。

停車

1. セレクターレバーはⒹのままブレーキペダルをしっかりと踏みます。

⚠注意

- 冷暖房中やエンジン始動直後などは、自動的にエンジン回転数が高くなり、クリープ現象が強くなります。ブレーキペダルをしっかり踏んでください。

2. 必要に応じて電動パーキングブレーキをかけます。

⚠注意

- 急な上り坂ではクリープ現象が働いても、車が後退することがあります。停車時はブレーキペダルを踏み、電動パーキングブレーキを最大にかけてください。
  →「電動パーキングブレーキ」P.4-12
- 上り坂でブレーキペダルを踏まずに、アクセルペダルを踏みながら停車状態を保つことはしないでください。トランスミッションの故障の原因になります。

3. 渋滞などで停車時間が長くなりそうなときは、セレクターレバーをⓃに入れます。

⚠注意

- 停車中はむやみに空ぶかしをしないでください。万一、セレクターレバーがⓅ、Ⓝ以外に入っていると思わぬ急発進の原因になります。

4. 再発進するときは、セレクターレバーがⒹにあることを確認してから発進してください。

駐車

1. 車を完全に止めます。
2. ブレーキペダルを踏んだまま電動パーキングブレーキを確実にかけます。
3. セレクターレバーをⓅに入れます。

⚠注意

- Ⓟでは車輪が固定されるため、車が動き出す心配がなく安全です。駐車時には必ずセレクターレバーがⓅに入っていることを確認してください。
- 車が完全に止まらないうちにⓅに入れると、急停車してけがをするおそれがあります。また、トランスミッションの故障の原因になります。

アドバイス

- 坂道では、まず電動パーキングブレーキを最大にかけてから次にセレクターレバーをⓅに入れてください。電動パーキングブレーキをかけずにⓅに入れると発進時にセレクターレバーの操作力が重くなる場合があります。
  →「電動パーキングブレーキ」P.4-12

4. エンジンを止めます。

⚠注意

- 車から離れるときは必ずエンジンを止めてください。
  エンジンをかけたままにしておくと、万一、セレクターレバーがⓅ以外に入っていた場合、クリープ現象等で車がひとりでに動き出したり、乗り込むときに誤ってアクセルペダルを踏み、急発進するおそれがあります。

S-AWC (Super-All Wheel Control)

J10300800042

S-AWC (Super-All Wheel Control) は、電子制御 4WD、アクティブヨーコントロール [AYC]、アンチロックブレーキシステム [ABS]、アクティブスタビリティコントロール [ASC] を統合制御することにより、駆動性能および車両の旋回性能と安定性能を広範囲な走行条件で向上させる車両運動統合制御システムです。

⚠注意

- S-AWC を過信しないでください。S-AWC が作動した状態でも車両の安全確保には限界があり、無理な運転は思わぬ事故につながるおそれがあります。
  常に道路状況に合った安全運転を心がけてください。

電子制御 4WD

電子制御 4WD は、リヤデファレンシャルアッセンブリに設けられた電子制御カップリングを制御し、前後輪間の駆動力配分をコントロールすることで加速性能と安定性能を向上させるシステムです。

アクティブヨーコントロール [AYC]

J10312700064

AYC は、ヨーコントロール機能を持ち、ブレーキを制御することで左右輪間の駆動／制動力配分をコントロールするシステムです。

ヨーコントロール機能

ヨーコントロール機能は、素早くハンドルを操作したときや滑りやすい路面でハンドル操作したときなどに、左右輪の駆動力差やブレーキ力を制御し車両の旋回する力（ヨーモーメント）をコントロールすることで、車両の旋回性能と安定性能を向上させる機能です。

⚠注意

- ブレーキ力の制御は、車両の停止性能を向上させる制御ではありませんので、周囲の安全に十分注意して走行してください。

S-AWC ドライブモード

J10312800065

走行条件に合わせて、次の中から S-AWC ドライブモードを選択することができます。

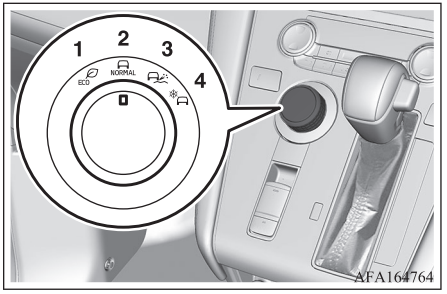
S-AWC ドライブモード	働き
ECO	エコロジカルで経済的な走行に適したモード。

S-AWC ドライブモード	働き
NORMAL	乾燥舗装路、ウェット路など通常使用するモード。 走行状態に応じてフロント左右輪と前後輪の駆動力／制動力を適切にコントロールし、低燃費で軽快な走りを実現します。
GRAVEL	主にダートや起伏のある路面での走行に適したモード。 4WD の高い走破性と安定した旋回性を実現します。
SNOW	主に雪道での走行に適したモード。 滑りやすい路面で安定性が向上します。

S-AWC ドライブモードセレクター（ダイヤル）

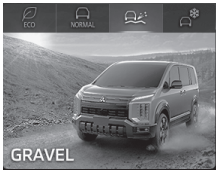
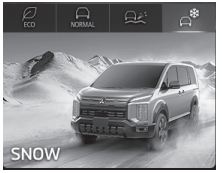
J10312900053

エンジンスイッチの電源モードが ON のときにダイヤルを回すと、S-AWC ドライブモードが切り換わります。



1- ECO
2- NORMAL
3- GRAVEL
4- SNOW

S-AWC ドライブモードを切り換えるとマルチインフォメーションディスプレイ内のインフォメーション画面に、割り込み表示で S-AWC ドライブモードが表示されます。
インフォメーション画面の S-AWC ドライブモードの表示は数秒後に元の画面に戻ります。

S-AWC ドライブモード	表示
ECO	
NORMAL	
GRAVEL	
SNOW	

⚠注意

- 雪道等で前輪を空転させたまま、ダイヤルを操作しないでください。車両が思わぬ方向に飛び出すおそれがあります。
- 乾いた舗装道路を「GRAVEL」または「SNOW」モードで走行すると燃料の消費量が多くなったり、騒音、振動やタイヤの早期摩耗を発生することがあります。
- 「ECO」モードで前輪を空転させたまま走行しないでください。
  駆動系部品が発熱して破損するおそれがあります。

アドバイス

- S-AWC ドライブモードは走行中、停車中ともに切り換えることができます。

S-AWC ドライブモードインジケーター

J10313000048



表示例：「NORMAL」モードを選択したとき

S-AWC ドライブモードを切り換えると、インフォメーション画面に割り込み表示で S-AWC ドライブモードが表示されます。インフォメーション画面の S-AWC ドライブモードの表示は、数秒後に元の画面に戻ります。

⚠注意

- ドライブモードインジケーターの表示（選択中のモード）が点滅し、インフォメーション画面に警告が表示されたときは、自動的に駆動系部品を保護するモードになります。



速度を控えめにし、しばらく走行して表示が消えれば元のように走行できます。

⚠注意

- ドライブモードインジケーターの表示 (4WD) が点滅し、インフォメーション画面に警告が表示されたときは、S-AWC に何らかの異常が発生し、安全装置が働いていると考えられます。ただちに三菱自動車販売会社で点検を受けてください。



- 同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤを使用してください。サイズ、種類、銘柄および摩耗度合いの異なるタイヤを使用すると、上記の警告が表示されることがあります。

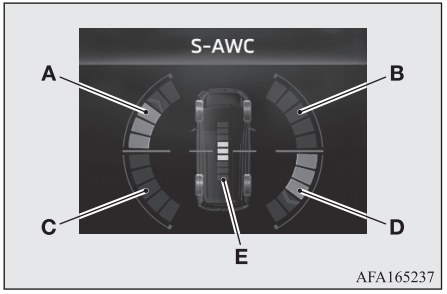
S-AWC 作動状態表示

J10313100049

インフォメーション画面に S-AWC の作動状態を表示させることができます。
表示させるときはマルチインフォメーションディスプレイスイッチを押してインフォメーション画面を切り換えます。
詳しくは「インフォメーション画面（エンジンスイッチの電源モードが ON のとき）」をお読みください。→P.4-37

表示例

S-AWC の作動状態を表示します。



ヨーコントロール機能制御表示

ヨーモーメントの強さをバーグラフで表示します。

A、D-車両重心まわりの右回転のヨーモーメント
B、C-車両重心まわりの左回転のヨーモーメント

トラクション機能制御表示

前後輪間のトラクションの強さをインフォメーション画面の E 部にバーグラフで表示します。

⚠注意

- 運転中に S-AWC 作動画面を見るときは必要最小限にしてください。画面に気をとられて思わぬ事故につながるおそれがあります。

4WD 車の取り扱い

J10301000083

4WD 車を運転するときは

4WD車といってもどこでも走れるわけではありません。無理な運転はしないでください。
2WD 車と同様、ハンドル・ブレーキ操作を慎重に行い安全運転に心がけてください。

⚠注意

- 無理な運転はしないでください。
  - 砂地やぬかるみ等タイヤが空転しやすいところでの走行は避けてください。タイヤの空転を続けると駆動系部品に無理がかかり、重大な故障の原因となるおそれがあります。
  - 渡河などの水中走行はしないでください。
  - ブレーキ性能は 2WD 車とあまり差はありません。極端な急ハンドル、急ブレーキは避けて十分な車間距離をとって走行してください。

乾燥した舗装道路を走行するときは

⚠注意

- 乾いた舗装道路を「GRAVEL」または「SNOW」モードで走行すると燃料の消費量が多くなったり、騒音、振動やタイヤの早期摩耗を発生することがあります。

急なカーブを回るときは

「GRAVEL」モード時に急なカーブを低速で旋回した場合、ブレーキをかけた状態と同じような現象が発生することがあります。
これはタイトコーナーブレーキング現象と呼ばれているもので、４輪のタイヤの軌跡（回転差）が違うために発生する４輪駆動車特有の現象です。
このような現象が発生したときには、ハンドルを直進状態に戻すか「GRAVEL」以外のモードに切り換えることによって解消することができます。

⚠注意

- 急旋回したときは、タイトコーナーブレーキング現象を起こし、運転しにくくなりますので、急な旋回は避けてください。

アドバイス

- タイトコーナーブレーキング現象が起きるとタイヤのスリップ音や駆動系のきしみ音などが発生することがあります。

タイヤ、ホイールについて

4WD 車は 4 輪に駆動力がかかるため、タイヤの状態が車の性能に大きく影響します。タイヤには細心の注意をしてください。

- 4 輪とも指定のタイヤ、ホイールを装着してください。
  →「タイヤ、ホイールのサイズ」P.8-9
- タイヤ、ホイールを交換するときは、4 輪とも交換してください。
- タイヤのローテーションは、5,000km ごとに行ってください。
  →「タイヤローテーション」P.6-7
- タイヤの空気圧は、定期的に点検してください。
  →「タイヤの空気圧」P.8-9

⚠注意

- 同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤを使用してください。サイズ、種類、銘柄や摩耗度合いの異なるタイヤを使用すると、駆動系部品に無理がかかり、オイル漏れや焼き付きなどの重大な故障となり思わぬ事故につながるおそれがあります。

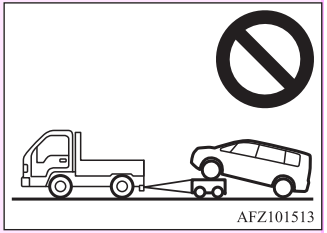
けん引について

けん引はできるだけ専門業者に依頼してください。
4WD 車は、必ず 4 輪を持ち上げてレッカー車で搬送するか、4 輪接地の状態でけん引してください。
ただし、次の場合は三菱自動車販売会社にご連絡ください。

- エンジンが回っているのに車が動かない。または異音がする。
- 下まわりを点検し、オイルなどが漏れている。

⚠注意

- 前輪または後輪だけを持ち上げたけん引をしないでください。駆動系部品が損傷したり、車がレッカー（台車）から飛び出すおそれがあります。
  →「けん引するとき」P.7-39



- ドライブモードを「ECO」モードにしても、前輪または後輪だけを持ち上げたけん引はできません。

アドバイス

- レッカー車による搬送は、別冊の「メンテナンスノート」を見て三菱自動車販売会社へ依頼してください。

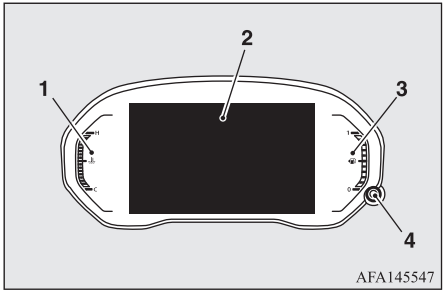
ジャッキアップするときは

⚠注意

- ジャッキアップ中はエンジンをかけたり、ジャッキアップした車輪を回転させないでください。
  接地しているタイヤが回ってジャッキから車体が外れ、思わぬ事故につながるおそれがあります。

計器盤

J10301100068

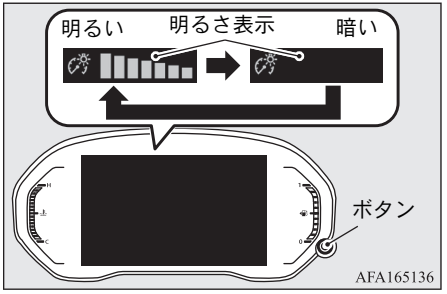


1- エンジン冷却水温表示 →P.4-30
2- マルチインフォメーションディスプレイ →P.4-32
   インフォメーション画面表示 →P.4-50
3- 燃料残量表示 →P.4-31
4- メーター照度調整ボタン →P.4-30

メーター照度調整

J10313300113

ボタンを押すたびに音が鳴り、メーターの明るさを変えることができます。



アドバイス

- 車幅灯の点灯・消灯に応じてそれぞれ8段階ずつ調整することができます。
- 車外の明るさに応じてメーターの照明が自動的に調整した明るさに切り換わります。
- エンジンスイッチの電源モードをOFFにしても、メーターの明るさの状態を記憶しています。

アドバイス

- 車幅灯点灯時にボタンを約 2 秒以上押すと、照明の明るさが一番明るい状態に変わります。
  もう一度ボタンを約 2 秒以上押すと、元の明るさに戻ります。
  周囲が明るい状況でライト (車幅灯含む) 点灯時に照明が暗くなり見づらくなった場合に使用することをおすすめします。
- 炎天下ではマルチインフォメーションディスプレイが暗くなることがありますが、故障ではありません。

エンジン冷却水温表示

J10344900030



エンジン冷却水の温度を示します。
冷却水の温度が高くなると、が点滅します。
水温表示に注意して走行してください。

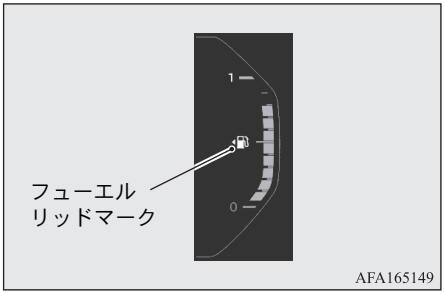
⚠注意

- オーバーヒートしたときには が点滅表示します。この場合、バーグラフはレッドゾーンにかかっています。
  ただちに安全な場所に車を止め、処置してください。
  →「オーバーヒートしたとき」P.7-28

燃料残量表示

J10345000038

燃料の残量を表示します。



1- 満タンです。
0- 燃料を補給してください。

アドバイス

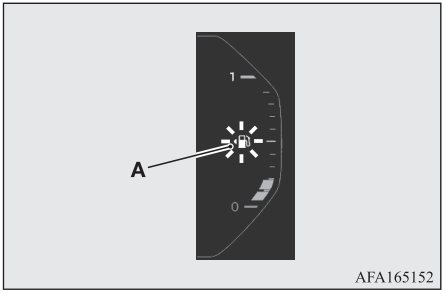
- 燃料補給後、表示が安定するまで少し時間がかかります。

アドバイス

- エンジンスイッチの電源モードが ON のまま燃料を補給すると、正しい燃料残量が表示できません。
- フューエルリッドマークは、フューエルリッド（燃料補給口）が車体の左側についていることを示しています。

燃料残量警告表示

燃料が約10L以下になると､インフォメーション画面が燃料残量警告表示の割り込み表示に切り換わり、燃料残量表示の（ ）マーク（A）がゆっくり（1 秒間に約 1 回）点滅します。
インフォメーション画面の燃料残量警告表示は数秒後に元の画面に戻ります。
警告表示が出たらただちに燃料を補給してください。
→「フューエルリッド（燃料補給口）」P.4-89
→「燃料の量と種類」P.8-2



⚠注意

- 燃料を入れるときは必ずエンジンを止めてください。タバコ、ライターなど火気は使用しないでください。
- 燃料切れを起こすと触媒装置に悪影響を与えるおそれがあります。警告表示が出たらただちに燃料を補給してください。
- マークが速く点滅（1 秒間に約 2 回）したときは、燃料がほとんどありません。ただちに燃料を補給してください。

アドバイス

- 坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、正しく表示しないことがあります。

マルチインフォメーションディスプレイ

J10313400071

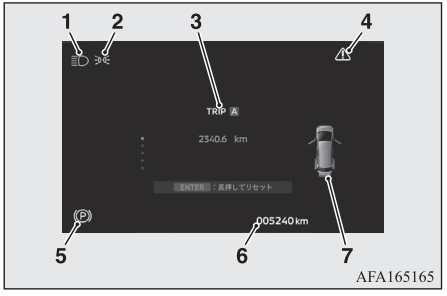
マルチインフォメーションディスプレイはスピードメーター、タコメーター、各種警告、オドメーター、トリップメーター、平均・瞬間燃費、平均車速、運転支援システムなどを表示します。

4

画面表示

J10313500128

エンジンスイッチの電源モードが ACC または OFF の状態での表示

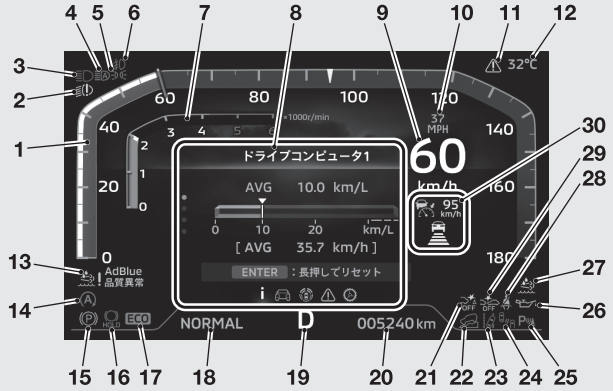


1- ヘッドライト上向き表示灯 →P.4-73
2- 車幅灯表示灯 →P.4-74
3- インフォメーション画面 →P.4-36
割り込み表示画面 →P.4-43
4- ⚠マーク表示 →P.4-44
5- 電動パーキングブレーキ警告灯 →P.4-75
6- オドメーター（積算距離計）
走行した総距離を表示します。
7- 半ドア警告表示 →P.4-44

エンジンスイッチの電源モードが ON の状態での表示

マルチインフォメーションディスプレイには 2 種類の画面表示タイプがあります。

表示タイプ 1

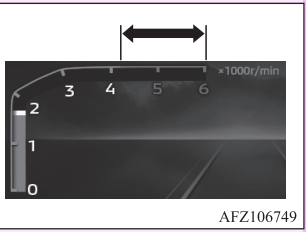


1- スピードメーター
走行速度を表示します。
2- LED ヘッドライト警告灯 →P.4-81
3- ヘッドライト上向き表示灯 →P.4-73
4- オートマチックハイビーム [AHB] 表示灯 →P.4-127
5- 車幅灯表示灯 →P.4-74
6- フロントフォグランプ表示灯 →P.4-74
7- タコメーター
毎分のエンジン回転数を示します。
8- インフォメーション画面 →P.4-36
9- デジタルスピードメーター
走行速度を表示します。
10- 速度補助表示 →P.4-41
11- ⚠マーク表示 →P.4-44
12- 外気温表示 →P.4-44
13- 尿素 SCR システム警告表示 →P.4-11
14- オートストップ&ゴー[AS&G]表示 →P.4-155
オートストップ&ゴー[AS&G]OFF 表示 →P.4-159
15- 電動パーキングブレーキ警告灯 →P.4-75
16- ブレーキオートホールド表示灯 →P.4-162
17- ECO ランプ →P.4-47
18- S-AWC ドライブモードインジケーター →P.4-27

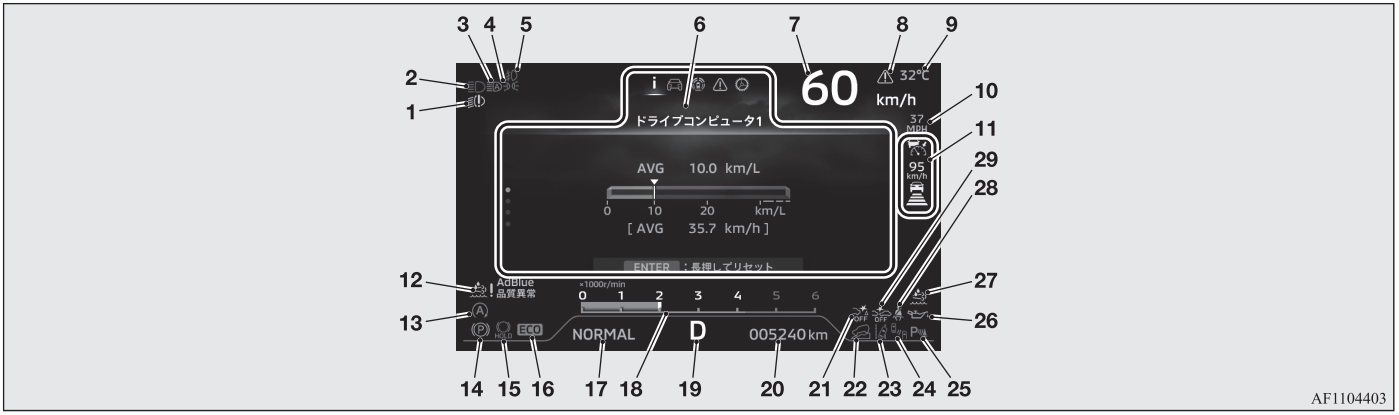
19- セレクターレバー位置表示 →P.4-21
20- オドメーター（積算距離計）
走行した総距離を表示します。
21- 誤発進抑制機能 OFF 表示灯 →P.4-106
22- ヒルディセントコントロール [HDC] 表示灯 →P.4-166
23- 車線逸脱警報システム [LDW] 表示灯 →P.4-108
24- 後側方車両検知警報システム（レーンチェンジアシスト機能付）[BSW/LCA] 表示灯 タイプ別装備 →P.4-133
25- パーキングセンサー表示灯 →P.4-140
26- 油圧警告灯 →P.4-76
27- 尿素 SCR システム警告灯 →P.4-11
28- シートベルト非着用警告灯 →P.2-13
29- 衝突被害軽減ブレーキシステム [FCM]OFF 表示灯 →P.4-95
30- 運転支援表示
- クルーズコントロール表示 →P.4-123
- レーダークルーズコントロールシステム [ACC] 表示 →P.4-116

⚠注意

- タコメーターのバーグラフがレッドゾーン（赤色表示部）に入らないようにしてください。エンジンの寿命が短くなり、破損するおそれがあります。



表示タイプ 2

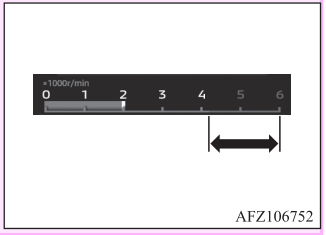


1- LED ヘッドライト警告灯 →P.4-81
2- ヘッドライト上向き表示灯 →P.4-73
3- オートマチックハイビーム [AHB] 表示灯 →P.4-127
4- 車幅灯表示灯 →P.4-74
5- フロントフォグランプ表示灯 →P.4-74
6- インフォメーション画面 →P.4-36
7- デジタルスピードメーター
走行速度を表示します。
8- ⚠マーク表示 →P.4-44
9- 外気温表示 →P.4-44
10- 速度補助表示 →P.4-41
11- 運転支援表示
- クルーズコントロール表示 →P.4-123
- レーダークルーズコントロールシステム [ACC] 表示 →P.4-116
12- 尿素 SCR システム警告表示 →P.4-11
13- オートストップ＆ゴー[AS&G]表示 →P.4-155
オートストップ＆ゴー[AS&G]OFF 表示 →P.4-159
14- 電動パーキングブレーキ警告灯 →P.4-75
15- ブレーキオートホールド表示灯 →P.4-162
16- ECO ランプ →P.4-47
17- S-AWC　ドライブモードインジケーター →P.4-27
18- タコメーター
毎分のエンジン回転数を示します。
19- セレクターレバー位置表示 →P.4-21
20- オドメーター（積算距離計）
走行した総距離を表示します。
21- 誤発進抑制機能 OFF 表示灯 →P.4-106
22- ヒルディセントコントロール [HDC] 表示灯 →P.4-166

23- 車線逸脱警報システム [LDW] 表示灯 →P.4-108
24- 後側方車両検知警報システム（レーンチェンジアシスト機能付）[BSW/LCA] 表示灯 タイプ別装備 →P.4-133
25- パーキングセンサー表示灯 →P.4-140
26- 油圧警告灯 →P.4-76
27- 尿素 SCR システム警告灯 →P.4-11
28- シートベルト非着用警告灯 →P.2-13
29- 衝突被害軽減ブレーキシステム [FCM]OFF 表示灯 →P.4-95

⚠注意

- タコメーターのバーグラフがレッドゾーン（赤色表示部）に入らないようにしてください。エンジンの寿命が短くなり、破損するおそれがあります。



画面表示タイプの切り換え

J10361800021

インフォメーション画面の機能設定画面で画面表示タイプを切り換えることができます。
→「画面表示タイプの変更」P.4-40

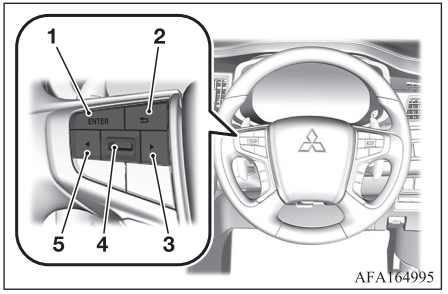
アドバイス

- バッテリー端子を外すと、表示タイプ 1 に戻ります。

マルチインフォメーションディスプレイスイッチ

J10313600060

マルチインフォメーションディスプレイスイッチを操作して、インフォメーション画面の表示を切り換えたり、各種設定を変更したりすることができます。



1- ENTER スイッチ
2- ⮌スイッチ
3- ▶スイッチ
4- 上下スイッチ
5- ◀スイッチ

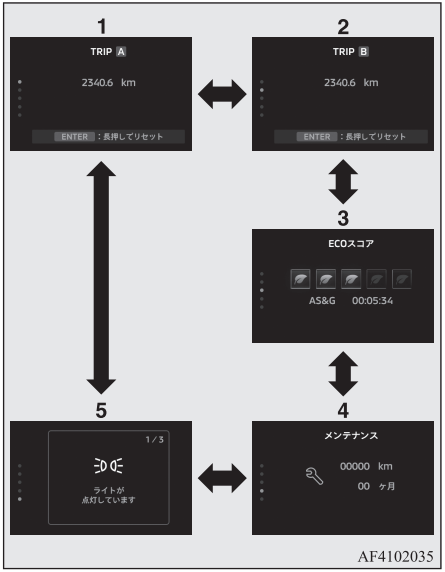
インフォメーション画面

J10313700045

マルチインフォメーションディスプレイスイッチの上下スイッチまたは◀▶スイッチを操作すると、表示画面が切り換わります。

エンジンスイッチの電源モードが OFF のとき

J10313800075

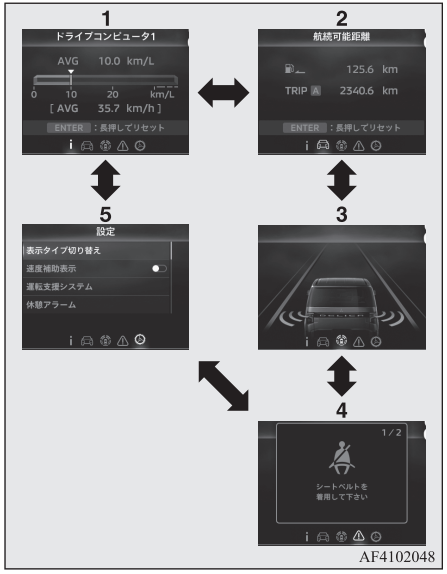


: 上下スイッチ操作

1- トリップメーター（区間距離計）A →P.4-44
2- トリップメーター（区間距離計）B →P.4-44
3- ECO スコア →P.4-48
オートストップ＆ゴー [AS&G] モニター →P.4-47
4- サービスリマインダー →P.4-45
5- 警告表示画面の再表示 →P.4-43

エンジンスイッチの電源モードが ON のとき

J10314000104



: ◀▶スイッチ操作

1- ECO 情報画面 →P.4-38
2- 運転情報画面 →P.4-39
3- 運転支援システム画面 →P.4-39
4- 警告情報画面 →P.4-39
5- 機能設定画面 →P.4-40

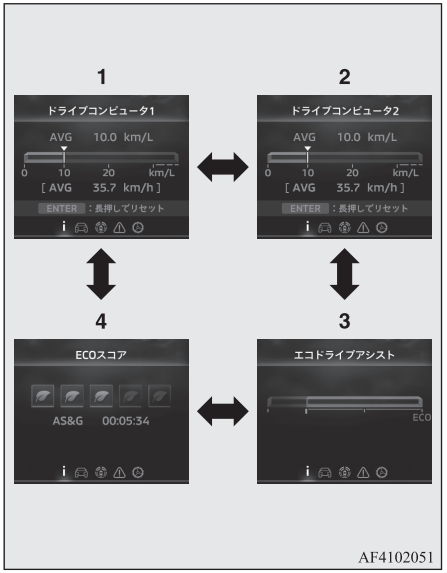
アドバイス

- 各システムの異常などお知らせしたい情報が発生したとき、音が鳴って表示画面が切り換わります。
→「割り込み表示画面」P.4-43

4

■ECO 情報画面

J10361900022



➡: 上下スイッチ操作

1- 平均燃費表示（オートリセットモード）→P.4-46
平均車速表示（オートリセットモード）→P.4-46
瞬間燃費表示 →P.4-47

2- 平均燃費表示（マニュアルリセットモード）→P.4-46
平均車速表示（マニュアルリセットモード）→P.4-46
瞬間燃費表示 →P.4-47

3- ECO ドライブアシスト →P.4-47

4- ECO スコア →P.4-48
オートストップ＆ゴー [AS&G] モニター →P.4-47

「ENTER: 長押しでリセット」が表示されているときに、ENTER スイッチを約 2 秒以上押し続けると、値がリセットされます。

オートリセットモード

- 平均燃費、平均車速を表示しているときに、ENTER スイッチを約 2 秒以上押し続けると、そのときに表示している平均燃費表示、平均車速表示がリセットされます。
- エンジンスイッチの電源モードが約 4 時間以上ACC またはOFF の状態のとき、平均燃費表示または平均車速表示が自動でリセットされます。

マニュアルリセットモード

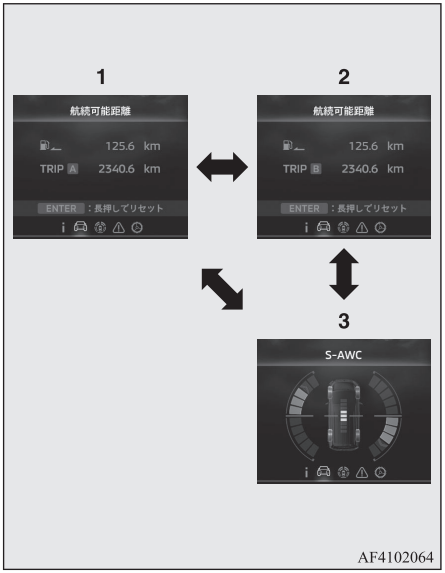
平均燃費、平均車速を表示しているときに、ENTER スイッチを約 2 秒以上押し続けると、そのときに表示している平均燃費表示、平均車速表示がリセットされます。

アドバイス

- 平均燃費表示・平均車速表示は、オートリセットモードまたはマニュアルリセットモードのモードごとにリセットされます。
＜例＞
マニュアルリセットモードのときにリセット操作をした場合、マニュアルリセットモードの平均燃費表示・平均車速表示はリセットされますが、オートリセットモードの平均燃費表示・平均車速表示はリセットされません。
- バッテリーを外すと、オートリセットモードおよびマニュアルリセットモードの平均燃費表示、平均車速表示の記憶は消去されます。

■運転情報画面

J10362000020



: 上下スイッチ操作

1- 航続可能距離表示 →P.4-46
トリップメーター（区間距離計）A →P.4-44
2- 航続可能距離表示 →P.4-46
トリップメーター（区間距離計）B →P.4-44
3- S-AWC (Super-All Wheel Control)作動状態表示 →P.4-27

「ENTER: 長押しでリセット」が表示されているときに、ENTER スイッチを約 2 秒以上押し続けると、値がリセットされます。

■運転支援システム画面

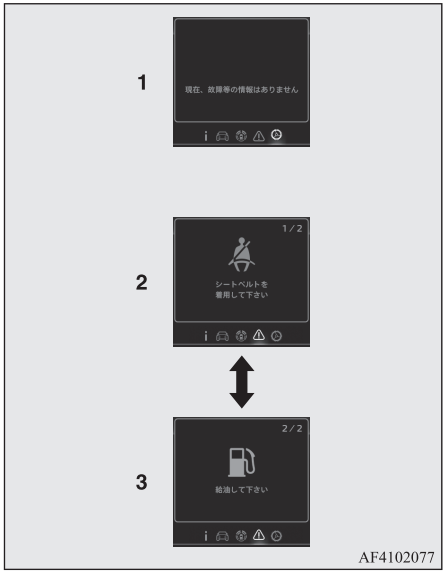
J10362100021



運転支援システムの ON/OFF 状態を表示します。運転支援システムの ON/OFF 切り換え方法は、各システムの該当ページをお読みください。
→「レーダークルーズコントロールシステム [ACC] ：使い方」P.4-117
→「後側方車両検知警報システム（レーンチェンジアシスト機能付）[BSW/LCA]：システムの ON/OFF　作動切り換え」P.4-133
→「LDW の作動」P.4-108

■警告情報画面

J10362200022



: 上下スイッチ操作

1- 警告がないとき
2- 警告があるとき
3- 他の警告があるとき

アドバイス

- 警告が複数ある場合、上下スイッチを操作すると他の警告表示に切り換わります。

■機能設定画面

J10362300023



「表示タイプ切り替え」、「速度補助表示」、「運転支援システム」、「休憩アラーム」、「方向指示音」などをお好みの設定に変更することができます。
次の手順に従って操作してください。

1. 安全な場所に停車します。
   電動パーキングブレーキを確実にかけ、セレクターレバーをⓅに入れます。
2. ◀▶スイッチを操作してインフォメーション画面を機能設定画面に切り換えます。

⚠注意

- 安全のため停車してから操作してください。
  走行中に「運転支援システム」以外の設定を変更することはできません。

3. 上下スイッチを操作して変更したい項目を選択した後、ENTER スイッチを押すと各設定変更画面に切り換わります。
   詳しい操作方法についてはそれぞれの項をお読みください。
   →「画面表示タイプの変更」P.4-40
   →「速度補助表示の設定」P.4-41
   →「衝突被害軽減ブレーキシステム [FCM]：FCM の ON/OFF 切り換え」P.4-95
   →「車線逸脱警報システム [LDW]：LDW の作動」P.4-108
   →「後側方車両検知警報システム（レーンチェンジアシスト機能付）[BSW/LCA]：システムの ON/OFF 作動切り換え」P.4-133
   →「後退時車両検知警報システム [RCTA]：システムの ON/OFF 作動切り換え」P.4-138
   →「パーキングセンサー（フロント／リヤ）：パーキングセンサーの設定」P.4-140
   →「先行車発進通知 [LCDN]」P.4-99
   →「休憩して下さい」表示が出るまでの時間の変更」P.4-41
   →「方向指示音の変更」P.4-41
   →「操作音の設定」P.4-41
   →「表示言語の変更」P.4-41
   →「燃費表示単位の変更」P.4-42
   →「温度単位の変更」P.4-42
   →「出荷時の設定に戻す」P.4-42

アドバイス

- ⮌スイッチを押すと、一つ前の設定画面に戻ります。
- バッテリーを外すと、設定内容がリセットされ、工場出荷時の設定に戻ります。ただし、「運転支援システム」および「方向指示音」は工場出荷時の設定に戻りません。

◆画面表示タイプの変更

J10362400024

画面表示をお好みの表示タイプに変更することができます。

1. 機能設定画面に切り換えます。
   →「機能設定画面」P.4-40
2. 「表示タイプ切り替え」を選択し、ENTER スイッチを押すと画面表示タイプが変わります。

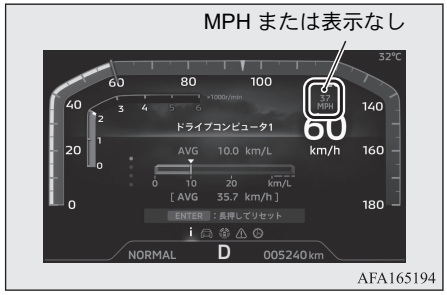
アドバイス

- バッテリーを外すと表示タイプ 1 に戻ります。

◆ 速度補助表示の設定

J10362500025

単位が MPH のデジタルスピードメーターを補助で表示することができます。



1. 機能設定画面に切り換えます。
   →「機能設定画面」P.4-40
2. 「速度補助表示」を選択し、ENTER スイッチを押すと表示の ON/OFF が切り換わります。

アドバイス

- バッテリーを外すと表示設定の記憶は消去され、自動的に OFF（表示なし）に設定されます。

◆「休憩して下さい」表示が出るまでの時間の変更

J10362600026

表示が出るまでの時間を変更することができます。

1. 機能設定画面に切り換えます。
   →「機能設定画面」P.4-40
2. 「休憩アラーム」を選択し、ENTER スイッチを押します。
3. 表示が出るまでの時間を選択し、ENTER スイッチを押すと選択した時間に設定が変更されます。

アドバイス

- バッテリーを外すと設定の記憶は消去され、自動的に OFF に設定されます。
- エンジンスイッチの電源モードをOFF にすると運転時間はリセットされます。

◆ 方向指示音の変更

J10362700027

方向指示器の音色を変更することができます。

1. 機能設定画面に切り換えます。
   →「機能設定画面」P.4-40
2. 「方向指示音」を選択し、ENTER スイッチを押します。
3. 方向指示音を選択し、ENTER スイッチを押すと選択した方向指示音に設定が変更されます。

◆ 操作音の設定

J10362800028

マルチインフォメーションディスプレイスイッチとメーター照度調整ボタンの操作音を鳴らなくすることができます。

1. 機能設定画面に切り換えます。
   →「機能設定画面」P.4-40
2. 「操作音」を選択し、ENTER スイッチを押すと操作音の ON/OFF が切り換わります。

アドバイス

- バッテリーを外すと操作音設定の記憶は消去され、自動的に ON（操作音あり）に設定されます。
- 操作音の設定はマルチインフォメーションディスプレイスイッチ、メーター照度調整ボタンの操作音を消すための機能です。警告表示などの音を消すことはできません。

◆ 表示言語の変更

J10362900029

マルチインフォメーションディスプレイに表示する言語を切り換えることができます。

1. 機能設定画面に切り換えます。
   →「機能設定画面」P.4-40
2.「言語　　(LANGUAGE)」を選択し、ENTER スイッチを押します。
3. 言語を選択し、ENTER スイッチを押すと選択した言語に設定が変更されます。

アドバイス

- バッテリーを外すと言語設定の記憶は消去され、自動的に日本語に設定されます。
- 言語設定で "---" を選択すると警告表示や割り込み表示のときに警告メッセージを表示しません。

◆ 燃費表示単位の変更

J10363000027

燃費の表示単位を切り換えることができます。

1. 機能設定画面に切り換えます。
   →「機能設定画面」P.4-40
2.「単位」を選択し、ENTER スイッチを押します。
3.「燃費」を選択し、ENTER スイッチを押します。
4. 単位を選択し、ENTER スイッチを押すと選択した燃費単位に設定が変更されます。

アドバイス

- 航続可能距離、平均燃費、平均車速、瞬間燃費の表示単位は切り換わりますが指針（スピードメーター）、オドメーター（積算距離計）、トリップメーター（区間距離計）の単位は切り換わりません。
- バッテリーを外すと単位設定の記憶は消去され、自動的に km/L に設定されます。

選択した燃費単位に従って、次の組み合わせで距離・速度の単位も切り換わります。

燃費	距離（航続可能距離）	速度（平均速度）
km/L	km	km/h
L/100km	km	km/h
mpg (US)	mile(s)	mph
mpg (UK)	mile(s)	mph

◆ 温度単位の変更

J10363100028

温度の表示単位を切り換えることができます。

1. 機能設定画面に切り換えます。
   →「機能設定画面」P.4-40
2.「単位」を選択し、ENTER スイッチを押します。
3.「温度」を選択し、ENTER スイッチを押します。
4. 単位を選択し、ENTER スイッチを押すと選択した燃費単位に設定が変更されます。

アドバイス

- エアコンパネルの設定温度表示灯の値は、マルチインフォメーションディスプレイの温度単位に連動して切り換わります。
  なお、エアコンの設定温度表示灯には "°C" または "°F" は表示されません。
- バッテリーを外すと単位設定の記憶は消去され、自動的に °C に設定されます。

◆ 出荷時の設定に戻す

J10363200029

各種機能設定を工場出荷時の設定に戻すことができます。

1. 機能設定画面に切り換えます。
   →「機能設定画面」P.4-40
2.「全設定リセット」を選択し、ENTER スイッチを押します。
3. リセット画面で ENTER スイッチを約 5 秒以上押し続けると、ブザーが鳴りすべての機能設定が工場出荷時の設定に戻ります。

アドバイス

- 工場出荷時の設定は次の通りです。
  - 表示タイプ切り替え：表示タイプ 1
  - 速度補助表示：OFF（表示なし）
  - 休憩アラーム：OFF
  - 方向指示音：SOUND 1
  - 操作音：ON（操作音あり）
  - 言語 (LANGUAGE)：日本語
  - 燃費単位：km/L
  - 温度単位：°C（摂氏）
- 「運転支援システム」は工場出荷時の設定に戻すことができません。

割り込み表示画面

J10314100075

警告表示

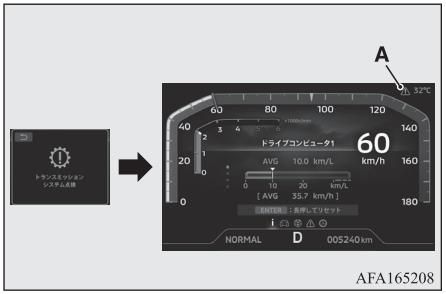
各システムの異常などお知らせしたい情報が発生したとき、音が鳴ってインフォメーション画面が警告表示画面に切り換わります。
エンジンスイッチの電源モードが ON のときに複数の警告が発生した場合、約 4 秒ごとに警告表示が切り換わります。
警告一覧をお読みいただき必要な処置を行ってください。
→「警告表示一覧」P.4-50

警告表示の要因が解消されると、警告表示は自動的に消えます。

警告表示する前の画面表示に戻すときは

警告表示の要因が解消されなくても、警告表示する前の画面表示に戻すことができます。

⮌スイッチを押すと警告表示する前の画面に切り換わり、⚠マーク (A) を表示します。



表示画面を切り換えたいときは

画面左上に⮌マークが表示されている警告表示画面を切り換えることができます。切り換えたいときは⮌スイッチを押します。

警告表示画面の再表示

[エンジンスイッチの電源モードが OFF のとき]
⚠マーク (A) が表示されているときに、上下スイッチを操作して警告表示画面を選択すると、一旦切り換えた警告表示画面を再表示することができます。警告が複数あるとき、警告表示は約 4 秒ごとに自動で切り換わります。
→「エンジンスイッチの電源モードが OFF のとき」P.4-37

[エンジンスイッチの電源モードが ON のとき]
⚠マーク (A) が表示されているときに、◀▶スイッチを操作して警告情報画面を選択すると、一旦切り換えた警告表示画面を再表示することができます。
→「エンジンスイッチの電源モードが ON のとき」P.4-37
→「警告情報画面」P.4-39

その他の割り込み表示

各システムの作動状態をインフォメーション画面に表示します。
詳しくは「その他の割り込み表示」をお読みください。→P.4-69

⚠マーク表示

J10314200047

⮌スイッチを押して警告表示画面を切り換えると表示されます。
もしくは表示されている以外に警告がある場合にも表示します。
警告表示の要因が解消されると、⚠マークは自動的に消えます。

アドバイス

- ⚠マークが表示されているときにインフォメーション画面に警告表示画面を再表示することができます。
  →「エンジンスイッチの電源モードがOFF のとき」P.4-37
  →「エンジンスイッチの電源モードが ON のとき」P.4-37
  →「警告情報画面」P.4-39

半ドア警告表示

J10314300077



いずれかのドアおよびテールゲートが完全に閉められていないとき、開いているドアまたはテールゲートを表示します。

エンジンスイッチの電源モードが ON のとき、半ドアのまま車速が約 8km/h 以上になるとブザーが 4 回鳴り、半ドアを知らせます。

⚠注意

- 走行する前に、警告表示が消えていることを確認してください。

アドバイス

- エンジンスイッチの電源モードがOFFのときに全てのドアおよびテールゲートを閉めると、ドアおよびテールゲートが閉じた表示に変わってから消えます。
- エンジンスイッチの電源モードが ON のときに全てのドアおよびテールゲートを閉めると、ドアおよびテールゲートが閉じた表示に変わり、数秒後に消えます。

外気温表示

J10314600041



車外温度を表示します。

アドバイス

- 表示単位をお好みの設定（°C または °F）に変更することができます。
  →「温度単位の変更」P.4-42
- 走行条件などにより、実際の車外温度と異なった表示をすることがあります。

トリップメーター（区間距離計）

J10314700055

2 点間の走行距離を表示します。
＜トリップメーターA、トリップメーターB の使用例＞
トリップメーター A で自宅を出発してからの距離を測りながら、トリップメーター B で途中の経由地からの距離を測ることができます。

リセットするときは

表示を 0 に戻すときは ENTER スイッチを約 2 秒以上押し続けます。この場合、表示されている方だけリセットされます。
＜例＞
トリップメーターAが表示されていれば、トリップメーター A だけリセットされます。

アドバイス

- トリップメーターA、Bともに9999.9kmまで計測することができます。9999.9kmを超えると0.0kmに戻ります。
- バッテリー端子を外すと、トリップメーターのA表示、B表示とも記憶が消去され、表示が0.0kmに戻ります。

サービスリマインダー

J10314800069

次回点検までの残り走行距離または月数を知らせます。

表示のしかた

1. 次回点検までの残り走行距離または月数を表示します。

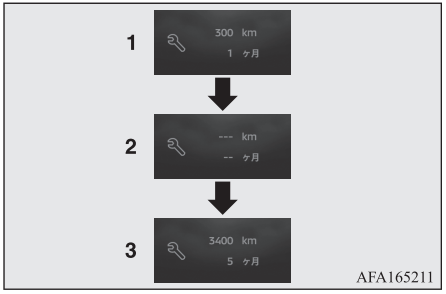
アドバイス

- 距離は100km単位、月数（期間）は1ヶ月単位で減少します。
- 新車6ヶ月点検を過ぎると、月数（期間）のみを表示します。

2. 点検時期が近づいたことを“---”を表示して知らせます。
このときエンジンスイッチの電源モードをOFFからONにするとインフォメーション画面に警告表示が数秒間表示されます。



3. 三菱自動車販売会社で点検を受けると、次回点検までの残り走行距離または残り月数を表示します。



アドバイス

- サービスリマインダーの設定を変更することができます。詳しくは三菱自動車販売会社にご相談ください。

リセットするときは

エンジンスイッチの電源モードがOFFのときに、“---”表示をリセットすることができます。リセットすると次の定期点検までの時期を表示し、電源モードをOFFからONにしたときに表示されていた「定期点検」は表示されなくなります。

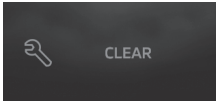
1. 上下スイッチを操作して、インフォメーション画面をサービスリマインダー表示画面に切り換えます。



2. ENTERスイッチを長く（約2秒以上）押してを点滅表示させます。（点滅中、約10秒間何も操作しないと元の表示画面に戻ります。）



3. 点滅中にENTERスイッチを押すと“---”が“CLEAR”表示に変わります。その後、次の定期点検までの時期を表示します。



⚠注意

- 日常点検整備と定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。
  事故や故障を未然に防ぐために必ず実施してください。

アドバイス

- “---”表示後、一定距離および一定期間が経過すると自動的にリセットされて次の定期点検までの時期を表示します。
- 誤ってリセットした場合は、三菱自動車販売会社にご相談ください。

航続可能距離表示

J10315000055

おおよその航続可能距離（あと何 km または何 miles 走行できるか）を表示します。
航続可能距離が約 50km（30miles）未満になると “---” を表示します。
ただちに燃料を補給してください。



アドバイス

- 航続可能な距離は、燃費データを基に割り出しますが、道路状況、運転のしかたなどにより変動しますので表示された値はあくまでも参考としてご利用ください。また、バッテリー端子を外したときは、今までの燃費データが消去され、それまでとは異なった値が表示されることがあります。
- 燃料を補給すると航続可能距離が更新されます。ただし、給油量が少ないと正しい数値が表示されませんので、給油するときはできるだけ満タンにしてください。
- 非常に急な坂道で停車した場合、まれに航続可能距離の値が変動することがあります。これは坂道でタンク内の燃料が移動したためで、故障ではありません。
- 単位表示をお好みの設定（km または miles）に変更することができます。
  →「機能設定画面」P.4-40

平均燃費表示

J10315100043

リセットしてから現在までの平均燃費を表示します。
リセットモードにはオートリセットモード（ドライブコンピュータ 1）とマニュアルリセットモード（ドライブコンピュータ 2）の 2 種類があります。
→「ECO 情報画面」P.4-38

平均燃費表示設定の変更方法は「機能設定画面」をお読みください。→P.4-40



アドバイス

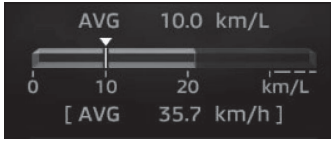
- 平均燃費が測定できないときは “---” を表示します。
- 平均燃費は走行状態（道路状況、運転のしかたなど）により変化します。実際の燃費と表示燃費が異なることがありますので、あくまでも参考としてご利用ください。
- バッテリーを外すと、オートリセットモードおよびマニュアルリセットモードの平均燃費表示の記憶は消去されます。
- 単位表示をお好みの設定 {L/100km、mpg（US）、mpg（UK）または km/L} に変更することができます。
  →「機能設定画面」P.4-40

平均車速表示

J10315200044

リセットしてから現在までの平均車速を表示します。
リセットモードにはオートリセットモード（ドライブコンピュータ 1）とマニュ

アルリセットモード（ドライブコンピュータ 2）の 2 種類があります。
→「ECO 情報画面」P.4-38
平均車速表示設定の変更方法は「機能設定画面」をお読みください。→P.4-40



アドバイス

- 平均車速が測定できないときは “---” を表示します。
- 単位表示をお好みの設定（km/h または mph）に変更することができます。
  →「機能設定画面」P.4-40
- バッテリーを外すと、オートリセットモードおよびマニュアルリセットモードの平均車速表示の記憶は消去されます。

瞬間燃費表示

J10315300058

走行中、バーグラフで瞬間燃費を表示します。
瞬間燃費計にある▼マーク (A) は、平均燃費を表します。
瞬間燃費が平均燃費を上回るように意識することで燃費の良い運転を心がけることができます。



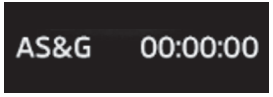
アドバイス

- 瞬間燃費が測定できないときはバーグラフは表示されません。
- 単位表示をお好みの設定 {L/100km、mpg（US）、mpg（UK）または km/L} に変更することができます。
  →「機能設定画面」P.4-40

オートストップ＆ゴー [AS&G] モニター

J10315400033

エンジンがオートストップ＆ゴー [AS&G] の働きによって停止していた累積時間を表示します。
「オートストップ＆ゴー [AS&G]」
→P.4-155



アドバイス

- エンジンスイッチの電源モードを再び ON にすると表示はリセットされます。

ECO ランプ

J10315500021

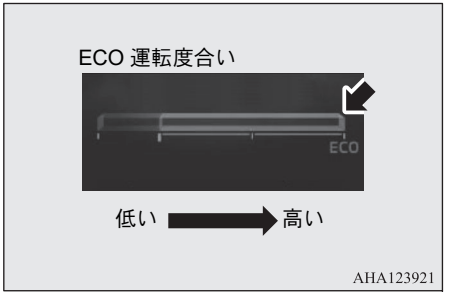


燃費が良い運転状態のときに表示されます。

ECO ドライブアシスト

J10315600048

セレクターレバーがⒹの位置で走行しているとき、またはスポーツモードで走行しているときは、走行状態に応じて燃費の良い運転度合いを表示します。
走行速度に合ったアクセルペダルの操作で ECO 運転をしていると、ECO ドライブアシストが図のように変化します。



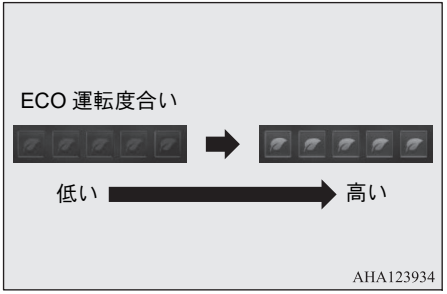
ECO スコア

J10315700049

ECO運転の度合いをリーフの枚数で表示します。

[エンジンスイッチの電源モードがONのとき]
過去、数分間の度合いを表示します。

[エンジンスイッチの電源モードを OFF にしたとき]
エンジンスイッチの電源モードを ON から OFF にするまでの総合結果を表示します。

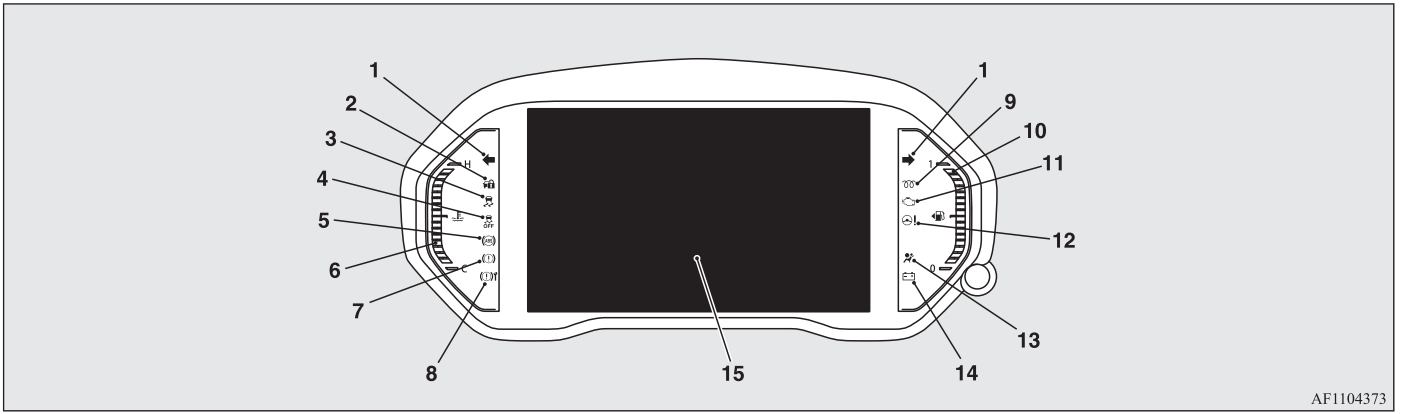


表示灯・警告灯・インフォメーション画面表示一覧

J10301200027

表示灯・警告灯一覧

J10316900123



1- 方向指示表示灯／非常点滅表示灯 →P.4-73
2- セキュリティアラーム警告灯 →P.2-39
3- アクティブスタビリティコントロール [ASC] 作動表示灯 →P.4-161
4- アクティブスタビリティコントロール [ASC]OFF 表示灯 →P.4-161
5- ABS 警告灯 →P.4-169
6- エンジン冷却水温表示 →P.4-30
7- ブレーキ警告灯 →P.4-74
8- ブレーキシステム警告灯 →P.4-75
9- グロー（予熱）スタート表示灯 →P.4-74
10- 燃料残量表示 →P.4-31
11- エンジン警告灯 →P.4-75
12- 電動パワーステアリング [EPS] 警告灯 →P.4-170
13- SRS エアバッグ／プリテンショナー機構警告灯 →P.2-23
14- 充電警告灯 →P.4-76
15- マルチインフォメーションディスプレイ →P.4-32

インフォメーション画面表示

J10317000046

ランプ類の消し忘れなどお知らせしたい情報が発生したとき、音が鳴って次の画面に切り換わります。
該当ページをお読みいただき必要な処置を行ってください。
警告表示の要因が解消されると、警告表示は自動的に消えます。
→「警告表示一覧」P.4-50
→「その他の割り込み表示」P.4-69

アドバイス

- 次のようなとき、まれに数秒間、警告ブザーとともにインフォメーション画面に警告を表示することがあります。
  これは、強い電磁波、ノイズなどを受けたことによって起こるもので、機能上の問題はありません。
  - 違法無線や電線の火花、レーダー施設などの非常に強い電磁波を受けたとき
  - 車載電気機器（後付け品含む）の作動時に発生する異常電圧や静電気の放電などがあったとき

  ただし、何回も警告表示したときは、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

警告表示一覧

J10317100249

画面	要因	処置（参照先）
	●電動パワーステアリング[EPS]の制御装置に何らかの異常が発生しています。	●できるだけ早く三菱自動車販売会社で点検を受けてください。 →「電動パワーステアリング [EPS]：警告表示」P.4-170
	●いずれかのドアおよびテールゲートが完全に閉められていません。 開いているドアが表示されています。	●ドアおよびテールゲートを閉めてください。 →「半ドア警告表示」P.4-44

画面	要因	処置（参照先）
	●電動サイドステップが展開状態で、AUTO STEP スイッチを OFF にしています。	→「電動サイドステップ：警告表示」P.3-34
	●助手席側のフロントドアおよびスライドドアを閉めても、電動サイドステップが格納されていません。	●ただちに三菱自動車販売会社で点検を受けてください。 →「電動サイドステップ：警告表示」P.3-34
	●電動サイドステップに何らかの異常が発生しています。	●ただちに三菱自動車販売会社で点検を受けてください。 →「電動サイドステップ：警告表示」P.3-34
	●イモビライザー（盗難防止装置）に何らかの異常が発生しています。	●一旦、エンジンスイッチの電源モードを OFF に戻し、再度エンジンをかけてください。 警告表示が消えないときは、最寄りの三菱自動車販売会社にご連絡ください。
	●ハンドルがロックされています。	●ハンドルを左右に回しながらエンジンスイッチを押してください。 →「エンジンスイッチ：ハンドルロック」P.4-5
	●ハンドルロックに何らかの異常が発生しています。	●ただちに安全な場所に停車し、最寄りの三菱自動車販売会社にご連絡ください。 →「エンジンスイッチ：ハンドルロック」P.4-5

画面	要因	処置（参照先）
	●セレクターレバーがⓅ以外の位置にあるときにエンジン停止操作をしています。	●エンジンスイッチの電源モードを OFF にするときは、セレクターレバーをⓅに入れてください。 →「エンジンの始動・停止：エンジンの止め方」P.4-5
	●ハンドルがロックされていない状態で運転席ドアが開いています。	→「エンジンスイッチ：ハンドルロック」P.4-5
	●電源システムに何らかの異常が発生しています。	●ただちに安全な場所に停車し、最寄りの三菱自動車販売会社にご連絡ください。
	●エンジンスイッチの電源モードが OFF 以外の状態のときに運転席ドアが開いています。	●電源モードを OFF にしてください。 →「電源モード OFF 戻し忘れ防止機構」P.4-4
	●エンジンスイッチの電源モードが OFF 以外の状態のときに、すべてのドアおよびテールゲートを施錠しようとしています。	●電源モードを OFF にしてください。 →「電源モード OFF 切り換え忘れ防止機構」P.4-4

画面	要因	処置（参照先）
    	●キーレスオペレーションシステムに何らかの異常が発生しています。	→「キーレスオペレーションシステム：警告表示について」P.3-12

画面	要因	処置（参照先）
エンジンスイッチが1回押された  エンジンスイッチが2回以上押された 	●エンジンスイッチが押されましたが、キーレスオペレーションキーを検知できません。	●エンジンスイッチにキーレスオペレーションキーを接触させてください。 →「キーレスオペレーションキーが正常に作動しないとき（電池切れなど）にエンジンを始動するときは」P.4-8
	●ランプ類を消し忘れています。	→「ヘッドライトオートカット機能（自動消灯）」P.4-80
	●LED ヘッドライトに何らかの異常が発生しています。	●三菱自動車販売会社で点検を受けてください。 →「LED ヘッドライト警告灯」P.4-81
	●ABS に何らかの異常が発生しています。	●急ブレーキや高速走行を避け、安全な場所に停車して処置を行ってください。 →「ABS 警告」P.4-169

画面	要因	処置（参照先）
	●エンジンフード（ボンネット）が開いています。	●エンジンフード（ボンネット）を閉めてください。 →「エンジンフード（ボンネット）」P.6-4
	●エンジンがオーバーヒートしています。	●安全な場所に停車し処置を行ってください。 →「オーバーヒートしたとき」P.7-28
	●オートマチックトランスミッションオイルの温度が高くなっています。	→「オートマチックトランスミッション : 警告表示」P.4-21
	●S-AWC (Super-All Wheel Control) が高温になっています。	→「S-AWC ドライブモードインジケーター」P.4-27
	●運転席または助手席のシートベルトを着用しないままエンジンスイッチの電源モードを ON にしています。	●シートベルトを着用してください。 →「シートベルト非着用警告システム」P.2-13
	●燃料系統に何らかの異常が発生しています。	●ただちに三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

画面	要因	処置（参照先）
	●燃料の残量が少なくなっています。	●ただちに燃料を補給してください。 →「燃料残量警告表示」P.4-31
	●電動パーキングブレーキをかけたまま走行しています。	●電動パーキングブレーキを解除してください。 →「ブレーキ警告表示」P.4-76
	●ブレーキ液が不足しています。 ●ブレーキ装置に何らかの異常が発生しています。	●ただちに安全な場所に停車し、最寄りの三菱自動車販売会社にご連絡ください。 →「ブレーキ警告表示」P.4-76
	●電動パーキングブレーキに何らかの異常が発生しています。	●ただちに三菱自動車販売会社で点検を受けてください。 →「電動パーキングブレーキ」P.4-12
	●電動パーキングブレーキスイッチを短時間に繰り返し操作したため、一時的に電動パーキングブレーキがかけられない状態です。	→「電動パーキングブレーキ」P.4-12
	●電動パーキングブレーキ解除時に、セレクターレバーがⓅ以外の位置でブレーキペダルを踏まずに電動パーキングブレーキスイッチが押されています。	

画面	要因	処置（参照先）
	●自動的に電動パーキングブレーキが作動しました。	→「ブレーキオートホールド」P.4-162
	●自動的にブレーキオートホールドがキャンセルされました。	
	●ブレーキオートホールドが一時的に使用できない状態です。	
	●電動パーキングブレーキに何らかの異常が発生しているため、自動でパーキングブレーキが作動できない状態です。	●できるだけ早く三菱自動車販売会社で点検を受けてください。 →「ブレーキオートホールド」P.4-162 ●エンジンを停止させるときは、セレクターレバーをⓅに入れブレーキペダルをしっかりと踏みながらエンジンスイッチを押してください。
	●運転席のシートベルトが着用されていない状態でブレーキオートホールドスイッチを押しています。	●シートベルトを着用してからブレーキオートホールドスイッチを押してください。 →「ブレーキオートホールド」P.4-162

画面	要因	処置（参照先）
	●ブレーキペダルを踏まずにブレーキオートホールドスイッチを押しています。	●ブレーキペダルを踏んだままブレーキオートホールドスイッチを押してください。 →「ブレーキオートホールド」P.4-162
	●エンジンオイルの循環系統に何らかの異常が発生しています。	●ただちに安全な場所に停車し、三菱自動車販売会社にご連絡ください。 →「油圧警告表示」P.4-77
	●ディーゼルパティキュレートフィルター [DPF] に規定値以上のすすがたい積しています。	→「ディーゼルパティキュレートフィルター [DPF]」P.4-9
	●エンジンオイルの量が規定値より多くなっています。	●ただちに三菱自動車販売会社で点検を受けてください。 →「エンジンオイル量警告表示」P.4-78
	●フューエルフィルター内に規定値以上の水がたまっています。	●三菱自動車販売会社で点検を受けてください。 →「フューエルフィルター警告表示」P.4-76
	●尿素水（AdBlue®）の残量が少なくなっています。	●早めに三菱自動車販売会社で尿素水（AdBlue®）を補給してください。 →「尿素 SCR システム（AdBlue® の関連システム）」P.4-11

画面	要因	処置（参照先）
	●尿素水（AdBlue®）の残量がほとんどありません。	●ただちに三菱自動車販売会社で尿素水（AdBlue®）を補給してください。走行可能距離表示が 0km になると、エンジンの再始動ができなくなります。 →「尿素 SCR システム（AdBlue® の関連システム）」P.4-11
	●尿素水（AdBlue®）の残量がなくなりました。	●ただちに三菱自動車販売会社で尿素水（AdBlue®）を補給してください。エンジンを停止させると再始動ができなくなります。 →「尿素 SCR システム（AdBlue® の関連システム）」P.4-11
 	●尿素 SCR システム（AdBlue® の関連システム）に異常が発生しています。	●できるだけ早く三菱自動車販売会社で点検を受けてください。そのまま走行を続けると、エンジンの再始動ができなくなります。 →「尿素 SCR システム（AdBlue® の関連システム）」P.4-11

画面	要因	処置（参照先）
 	●尿素 SCR システム（AdBlue® の関連システム）に異常が発生しています。	●ただちに三菱自動車販売会社で点検を受けてください。そのまま走行を続けると、エンジンの再始動ができなくなります。 →「尿素 SCR システム（AdBlue® の関連システム）」P.4-11
 	●尿素 SCR システム（AdBlue® の関連システム）に異常が発生しています。	●ただちに三菱自動車販売会社にご連絡ください。エンジンを停止させると再始動ができなくなります。 →「尿素 SCR システム（AdBlue® の関連システム）」P.4-11
	●充電系統に何らかの異常が発生しています。	●ただちに安全な場所に停車し、三菱自動車販売会社にご連絡ください。 →「充電警告表示」P.4-77
	●SRS エアバッグまたはプリテンショナー機構に何らかの異常が発生しています。	●ただちに三菱自動車販売会社で点検を受けてください。 →「SRS エアバッグ／プリテンショナー機構警告」P.2-23

画面	要因	処置（参照先）
	●アクティブスタビリティコントロール[ASC]に何らかの異常が発生しています。	●三菱自動車販売会社で点検を受けてください。 →「ASC 警告表示」P.4-161
	●ヒルスタートアシスト[HSA]に何らかの異常が発生しています。	●三菱自動車販売会社で点検を受けてください。 →「ヒルスタートアシスト [HSA]：警告表示」P.4-166
	●ブレーキの温度が高いため、ヒルディセントコントロール [HDC] が使えない状態です。	→「ヒルディセントコントロール [HDC]」P.4-166
	●車速が約 80km/h を超えているため、ヒルディセントコントロール [HDC] を ON（スタンバイ）にできません。	→「ヒルディセントコントロール [HDC]」P.4-166
	●S-AWC (Super-All Wheel Control) に何らかの異常が発生しています。	●ただちに三菱自動車販売会社で点検を受けてください。 →「S-AWC ドライブモードインジケーター」P.4-27
	●オートマチックトランスミッションに何らかの異常が発生しています。	●ただちに三菱自動車販売会社で点検を受けてください。 →「オートマチックトランスミッション：警告表示」P.4-21

画面	要因	処置（参照先）
	●車外温度が 0 °C（32 °F）以下になっています。	●路面の凍結に注意して走行してください。 ●警告表示が出ていなくても路面が凍結している場合がありますので走行には気をつけてください。
	●レーダークルーズコントロールシステム[ACC]が前方車両の接近を感知しています。	●ブレーキペダルを踏むなどして適切な車間距離を保持してください。 →「レーダークルーズコントロールシステム [ACC]：接近警報」P.4-114
	●衝突被害軽減ブレーキシステム[FCM]が衝突の危険を感知しています。	●ブレーキペダルを踏むなど衝突を回避する操作を行ってください。 →「衝突被害軽減ブレーキシステム [FCM]：FCM の作動」P.4-92
	●電動パーキングブレーキが自動で作動できない状態です。	●すみやかにブレーキペダルを踏んでください。 →「ブレーキオートホールド」P.4-162
	●オートストップ＆ゴー [AS&G] に何らかの異常が発生しています。	→「オートストップ＆ゴー [AS&G]」P.4-155
	●オートストップ＆ゴー [AS&G] が自動でエンジンを始動できない状態です。	

画面	要因	処置（参照先）
	●レーダークルーズコントロールシステム[ACC]の制御が自動停止し、スタンバイ状態になっています。	→「レーダークルーズコントロールシステム [ACC]：使い方」P.4-117
	●制御開始の条件が満たされていないため、レーダークルーズコントロールシステム [ACC] の制御を開始できない状態です。	
	●車速が制御範囲を超えているため、レーダークルーズコントロールシステム [ACC] の制御を開始できない状態です。	
	●前方車両を検出していないため、レーダークルーズコントロールシステム [ACC] の制御を開始できない状態です。	
	●センサーの汚れの付着など、レーダークルーズコントロールシステム [ACC] が一時的に使用できない状態です。故障ではありません。	
	●ヒルディセントコントロール[HDC]が作動しているため、レーダークルーズコントロールシステム [ACC] の制御を開始できない状態です。	

画面	要因	処置（参照先）
	●レーダークルーズコントロールシステム[ACC]に何らかの異常が発生しています。	●三菱自動車販売会社で点検を受けてください。 →「レーダークルーズコントロールシステム [ACC]：制御を終了するときは」P.4-120
	●衝突被害軽減ブレーキシステム[FCM]に何らかの異常が発生しています。	●三菱自動車販売会社で点検を受けてください。 →「衝突被害軽減ブレーキシステム [FCM]：警告表示」P.4-96
	●衝突被害軽減ブレーキシステム[FCM]の前方衝突被害軽減ブレーキが作動しました。	→「衝突被害軽減ブレーキシステム [FCM]：FCM の作動」P.4-92
	●何らかの理由により、衝突被害軽減ブレーキシステム [FCM] が一時的に使用できない状態です。故障ではありません。	→「衝突被害軽減ブレーキシステム [FCM]：警告表示」P.4-96
	●車線逸脱警報システム[LDW]が車線の逸脱を感知しています。	→「車線逸脱警報システム [LDW]：車線逸脱警報」P.4-109
	●車線逸脱警報システム[LDW]に何らかの異常が発生しています。	●三菱自動車販売会社で点検を受けてください。 →「車線逸脱警報システム [LDW]：警告表示」P.4-109

画面	要因	処置（参照先）
	●炎天下に駐車したときなど、室内が高温になり、車線逸脱警報システム [LDW] のカメラが一時的に作動できない状態です。	●カメラの温度が規定の範囲内になるとシステムは自動的に作動状態に戻ります。 →「車線逸脱警報システム [LDW]：警告表示」P.4-109
	●誤発進抑制機能が作動しています。	→「誤発進抑制機能（前進＆後退時）」P.4-102
	●周囲の状況やセンサー温度の上昇など、何らかの理由により誤発進抑制機能のセンサーが一時的に使用できない状態です。	●しばらく待っても警告表示が消えないときは、三菱自動車販売会社に相談してください。 →「誤発進抑制機能（前進＆後退時）：警告表示」P.4-106
	●センサー周辺に汚れや、雪、氷などが付着したことにより、センサーの検知性能が低下している状態です。	●センサー周辺をきれいにしても警告表示が消えないときは、三菱自動車販売会社にご連絡ください。 →「誤発進抑制機能（前進＆後退時）：警告表示」P.4-106
	●センサーまたはシステムに何らかの異常が発生しているため、誤発進抑制機能が正常に作動しません。	●できるだけ早く三菱自動車販売会社で点検を受けてください。 →「誤発進抑制機能（前進＆後退時）：警告表示」P.4-106

画面	要因	処置（参照先）
	●センサー温度の上昇など、何らかの理由により後側方車両検知警報システム（レーンチェンジアシスト機能付）[BSW/LCA] が一時的に使用できない状態です。	●警告表示が消えないときは、三菱自動車販売会社にご連絡ください。 →「後側方車両検知警報システム（レーンチェンジアシスト機能付）[BSW/LCA]：警告表示」P.4-135
	●後側方車両検知警報システム（レーンチェンジアシスト機能付）[BSW/LCA] のシステムに何らかの異常が発生しています。	●できるだけ早く三菱自動車販売会社で点検を受けてください。 →「後側方車両検知警報システム（レーンチェンジアシスト機能付）[BSW/LCA]：警告表示」P.4-135
	●センサー周辺のバンパー表面に汚れや、雪、氷などが付着したことにより、センサーの検知性能が低下している状態です。	●バンパー表面をきれいにしても警告表示が消えないときは、三菱自動車販売会社にご連絡ください。 →「後側方車両検知警報システム（レーンチェンジアシスト機能付）[BSW/LCA]：警告表示」P.4-135
	●後退時交差車両検知警報システム [RCTA] が車両の接近を感知しています。	●後方の車両に注意してください。 →「後退時交差車両検知警報システム [RCTA]」P.4-135
	●センサー周辺に汚れや、雪、氷などが付着したことにより、センサーの検知性能が低下している状態です。	●センサー周辺をきれいにしても警告表示が消えないときは、三菱自動車販売会社にご連絡ください。 →「レーダークルーズコントロールシステム [ACC]：使い方」P.4-117 →「衝突被害軽減ブレーキシステム [FCM]：警告表示」P.4-96

画面	要因	処置（参照先）
	●カメラに何らかの異常が発生しています。	●三菱自動車販売会社で点検を受けてください。 →「オートマチックハイビーム [AHB]：警告表示」P.4-130 →「衝突被害軽減ブレーキシステム [FCM]：警告表示」P.4-96 →「車線逸脱警報システム [LDW]：警告表示」P.4-109
	●炎天下に駐車したときなど、室内が高温になり、カメラが一時的に作動できない状態です。	●カメラの温度が規定の範囲内になるとシステムは自動的に作動状態に戻ります。 ●警告表示が消えないときはカメラの異常の可能性がありますので、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。 →「オートマチックハイビーム [AHB]：警告表示」P.4-130 →「誤発進抑制機能（前進時）：警告表示」P.4-106 →「衝突被害軽減ブレーキシステム [FCM]：警告表示」P.4-96 →「車線逸脱警報システム [LDW]：警告表示」P.4-109
	●カメラまたはカメラ前方のフロントガラスに汚れが付着するなど、システムが一時的に使用できない状態です。故障ではありません。	→「オートマチックハイビーム [AHB]：警告表示」P.4-130 →「衝突被害軽減ブレーキシステム [FCM]：警告表示」P.4-96 →「車線逸脱警報システム [LDW]：警告表示」P.4-109

画面	要因	処置（参照先）
	●何らかの理由によりシステムが一時的に使用できない状態です。故障ではありません。	→「レーダークルーズコントロールシステム [ACC]：使い方」P.4-117 →「衝突被害軽減ブレーキシステム [FCM]：警告表示」P.4-96 →「車線逸脱警報システム [LDW]：警告表示」P.4-109 →「オートマチックハイビーム [AHB]：警告表示」P.4-130
	●カメラの補正処理が不完全であり、障害物を正確に検知できないため、システムが停止しました。	●警告表示が消えないときは、三菱自動車販売会社にご連絡ください。 →「衝突被害軽減ブレーキシステム [FCM]：警告表示」P.4-96
	●オートマチックハイビーム[AHB]に何らかの異常が発生しています。	●三菱自動車販売会社で点検を受けてください。 →「オートマチックハイビーム [AHB]：警告表示」P.4-130
	●何らかの理由によりオートマチックハイビーム [AHB] が一時的に使用できない状態です。故障ではありません。	→「オートマチックハイビーム [AHB]：警告表示」P.4-130
	●パーキングセンサーシステムが一時的に作動しない状態です。	●システムが正常に戻ると警告表示は消えます。警告表示が消えないときは、三菱自動車販売会社にご連絡ください。 →「パーキングセンサー（フロント／リヤ）：警告表示」P.4-142

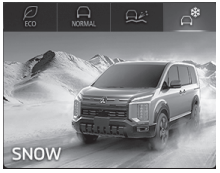
画面	要因	処置（参照先）
	●パーキングセンサー周辺への汚れ、雨、氷、雪、泥などの付着、または悪天候（雨、雪または砂嵐など）により、パーキングセンサーの検知性能が低下している状態です。	●センサー周辺をきれいにしても悪天候が収まっても、警告表示が消えないときは、三菱自動車販売会社にご連絡ください。 →「パーキングセンサー（フロント／リヤ）：警告表示」P.4-142
	●パーキングセンサーシステムが完全に故障しています。	●システムが正常に戻ると警告表示は消えます。警告表示が消えないときは、三菱自動車販売会社にご連絡ください。 →「パーキングセンサー（フロント／リヤ）：警告表示」P.4-142

その他の割り込み表示

J10317200123

画面	要因	処置（参照先）
	●エンジン始動時にセレクターレバーがⓅまたはⓃ以外にあるか、ブレーキペダルが踏まれずにエンジンスイッチが押されています。	●エンジンを始動させるときはセレクターレバーをⓅに入れ、ブレーキペダルを踏みながらエンジンスイッチを押してください。 →「エンジンの始動・停止」P.4-5
	●エンジンスイッチにキーレスオペレーションキーを接触させたときに、正常に検知された状態です。	→「キーレスオペレーションキーが正常に作動しないとき（電池切れなど）にエンジンを始動するときは」P.4-8

各システムの作動状態をインフォメーション画面に表示します。
詳しくは各システムの該当ページをお読みください。

画面	システムの作動状態	参照先
	●S-AWC ドライブモードセレクター（ダイヤル）で「ECO」モードを選択したとき	→「S-AWC ドライブモードセレクター（ダイヤル）」P.4-26
	●S-AWC ドライブモードセレクター（ダイヤル）で「NORMAL」モードを選択したとき	
	●S-AWC ドライブモードセレクター（ダイヤル）で「GRAVEL」モードを選択したとき	
	●S-AWC ドライブモードセレクター（ダイヤル）で「SNOW」モードを選択したとき	

画面	システムの作動状態	参照先
	●誤発進抑制機能を OFF にしたとき	→「誤発進抑制機能の ON/OFF 作動切り換え」P.4-106
	●自動パーキングブレーキを ON にしたとき	→「電動パーキングブレーキ」P.4-12
	●自動パーキングブレーキを OFF にしたとき	→「電動パーキングブレーキ」P.4-12
	●パーキングセンサーが障害物を感知したとき	→「パーキングセンサー（フロント／リヤ）：使い方」P.4-140
	●停車保持状態中に追従走行が再開可能になったとき	→「前方車両を検出しているときは」P.4-113

画面	システムの作動状態	参照先
	●先行車が発進しても、自車が停車したままのとき	→「先行車発進通知 [LCDN]」P.4-99
  	●≡DOE/OFF スイッチを操作して、ランプ類の点灯モードを切り換えたとき	→「自動点灯時のライト消灯」P.4-79

定期点検の時期をお知らせします。

画面	処置
	三菱自動車販売会社で点検を受けてください。 詳しくは「サービスリマインダー」をお読みください。→P.4-45

休憩時間を設定することができます。

画面	処置
	安全な場所に停車し、エンジンを止めて休憩してください。 長距離走行の途中で休憩をとるための、目安としてご使用ください。 運転を開始してから表示が出るまでの時間を設定することができます。 → {「休憩して下さい」表示が出るまでの時間の変更} P.4-41 設定した時間が経過すると、表示とブザーで知らせます。その後休憩しないまま運転を続けると、約 5 分ごとにブザーが鳴り、休憩をとるように促します。 ● 次の場合は、運転した時間がリセットされ、元の表示画面に戻ります。その後、再び設定した時間が経過すると表示とブザーで休憩をとるように促します。 • 3 回目のブザーが鳴る • エンジンスイッチの電源モードを OFF にする • マルチインフォメーションディスプレイスイッチの ENTER スイッチを長く (約 2 秒以上) 押し続ける

表示灯

J10301300028

方向指示表示灯／非常点滅表示灯

J10317400053



次の場合に点滅します。

- 方向指示レバーを操作し、方向指示灯を作動させたとき。
  →「方向指示レバー」P.4-83
- 非常点滅灯スイッチを押し、非常点滅灯を作動させたとき。
  →「非常点滅灯スイッチ」P.4-83
- 走行中に急ブレーキを踏んで、自動的に非常点滅灯が作動したとき。
  →「緊急制動信号システム」P.4-162

アドバイス

- 急ブレーキ以外の操作で方向指示灯およびメーター内の方向指示表示灯の点滅が異常に早くなったときは、方向指示灯の球切れが考えられます。三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

ヘッドライト上向き表示灯

J10317500025



ヘッドライトを上向きにすると点灯します。

フロントフォグランプ表示灯

J10317600026



フロントフォグランプを点灯させると表示灯が点灯します。

車幅灯表示灯

J10317700027



車幅灯を点灯させると表示灯が点灯します。

グロー（予熱）スタート表示灯

J10332800032



- グロープラグの予熱状態を表示します。エンジンスイッチの電源モードをONにすると点灯し、グロープラグの予熱が完了すると消灯します。消灯後、自動でエンジンが始動します。
- DPF 警告が表示したときに、DPF が自動的にすすの燃焼・除去を開始したら点灯します。
  →「DPF 警告表示」P.4-9

アドバイス

- エンジン冷却水の温度によって消灯するまでの時間が異なります。
- エンジンが暖かいときは、電源モードを ON にしても表示灯は点灯しません。

警告灯

J10301400029

ブレーキ警告灯

J10317800086



エンジンスイッチの電源モードを ON にすると点灯し、数秒後に消灯します。
走行する前に、必ず警告灯が消えていることを確認してください。
エンジンをかけても、次のようなときは点灯します。

- ブレーキ液が不足しているとき
- ブレーキ力配分機能の異常

⚠注意

- 次の場合はブレーキの効きが悪くなったり、急ブレーキをかけたとき車体姿勢が不安定になるおそれがありますので、急ブレーキや高速走行を避け、ただちに車を安全な場所に止めて三菱自動車販売会社にご連絡ください。
  - 走行中ブレーキ警告灯が点灯したまま消灯しないとき
  - ブレーキ警告灯と ABS 警告灯が同時に点灯したとき
    →「走行中に警告を表示したときは：ABS 警告とブレーキ警告を表示したときは」P.4-169
- ブレーキの効きが悪い場合は、次の処置により車を止めてください。
  - ブレーキペダルを通常より強く踏んでください。
    ブレーキペダルが奥まで踏み込まれた状態になることがありますが、そのままブレーキペダルを強く踏み続けてください。
  - 万一、ブレーキが効かないときは、エンジンブレーキでスピードを落としてから、電動パーキングブレーキスイッチを引き上げ続けてください。
    →「電動パーキングブレーキ」P.4-12

    このとき後続車に注意を促すため、ブレーキペダルを踏んでストップランプを点灯させてください。

ブレーキシステム警告灯

J10361700020



電動パーキングブレーキに異常があると点灯します。正常なときはエンジンスイッチの電源モードを ON にすると点灯し、数秒後に消灯します。

⚠注意

- 警告灯が点灯したまま消灯しないときや点灯しないときは、電動パーキングブレーキが作動しないか解除できなくなる場合があります。ただちに車を安全な場所に止めて三菱自動車販売会社にご連絡ください。
  停車する場合は、平らで安全な場所に止めてセレクターレバーをⓅに入れ、さらに輪止めをしてください。

アドバイス

- 輪止めは標準装備されておりません。三菱自動車販売会社でお買い求めください。
- 輪止めがないときは、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

電動パーキングブレーキ警告灯

J10324900076



エンジンスイッチの電源モードが ON のときに電動パーキングブレーキをかけると点灯します。
電源モードを OFF にすると、約 15 秒後に消灯します。電源モードがOFFのときに電動パーキングブレーキをかけると、約 15 秒間点灯します。
電動パーキングブレーキをかけたまま車速が 8km/h 以上になるとブザーが鳴り、解除忘れを知らせます。

⚠注意

- 電動パーキングブレーキを解除した後、警告灯が点滅し続けるときは、三菱自動車販売会社にご連絡ください。
  また、電動パーキングブレーキ警告灯の点滅中にブレーキシステム警告灯が点灯する場合は、システムに異常が発生しています。ただちに三菱自動車販売会社で点検を受けてください。
- 電動パーキングブレーキをかけても点灯しないときや戻しても消灯しないときは、ただちに車を安全な場所に止めて三菱自動車販売会社にご連絡ください。

エンジン警告灯

J10317900045



エンジン制御システム、尿素 SCR システム、またはオートマチックトランスミッション制御システムに異常があると点灯または点滅します。
正常なときはエンジンスイッチの電源モードを ON にすると点灯し、エンジンをかけると消灯します。

⚠注意

- エンジン回転中に点灯したときは、高速走行を避けてただちに三菱自動車販売会社で点検を受けてください。走行中はアクセルペダルを踏んでもスピードが出なくなることがあります。停車時はアイドリング回転数が高くなり、クリープ現象が強くなることがあるため、よりしっかりとブレーキペダルを踏んでください。

4

充電警告灯

J10318000043



充電系統に異常があると点灯します。また、インフォメーション画面にも警告表示します。
正常なときはエンジンスイッチの電源モードを ON にすると点灯し、エンジンをかけると消灯します。

⚠注意

- エンジン回転中に点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、三菱自動車販売会社にご連絡ください。

油圧警告灯

J10345700035



エンジン回転中、エンジンオイルの圧力が低下すると点灯します。
正常なときはエンジンスイッチを ON にすると点灯し、エンジンをかけると消灯します。

⚠注意

- エンジンオイルが不足したまま運転したり、エンジンオイルの量が正規であっても点灯したままで運転するとエンジンが焼き付き、破損するおそれがあります。
- エンジン回転中に点灯したときは、ただちに安全な場所に停車しエンジンを止め、エンジンオイル量を点検してください。
（点検方法は別冊の「メンテナンスノート」をお読みください。）
- エンジンオイル量が正常で点灯するときは、三菱自動車販売会社へご連絡ください。

アドバイス

- 油圧警告灯はオイル量を示すものではありません。オイル量の点検は必ずオイルレベルゲージで行ってください。

インフォメーション画面表示

J10301500020

フューエルフィルター警告表示

J10332900033



エンジンスイッチの電源モードが ON のときにフューエルフィルター内に規定値以上の水がたまると警告表示します。

⚠注意

- 警告表示したときは、ただちに三菱自動車販売会社で点検を受けてください。
警告表示したまま運転を続けると、エンジンを損傷するおそれがあります。

ブレーキ警告表示

J10318100073



電動パーキングブレーキをかけたまま走行すると警告表示します。また、メーター内の警告灯は電動パーキングブレーキをかけているときに点灯します。
→「電動パーキングブレーキ警告灯」P.4-75

⚠注意

- 電動パーキングブレーキをかけたまま運転するとブレーキが過熱し、ブレーキの効きが悪くなるとともにブレーキが故障する原因になります。
  警告表示が出たときは電動パーキングブレーキを解除してください。



エンジンスイッチの電源モードが ON のときにブレーキ液が不足している、またはブレーキシステムに異常があると警告表示します。
また、メーター内の警告灯も点灯します。
→「ブレーキ警告灯」P.4-74

⚠注意

- 走行中、警告表示したまま消えないときはブレーキの効きが悪くなるおそれがありますので、ただちに車を安全な場所に止めて三菱自動車販売会社にご連絡ください。
- ブレーキ警告表示がブレーキ警告灯、ABS 警告灯と同時に警告表示したときは、ブレーキ力の配分機能も作動しないことがあるため、急ブレーキをかけたときに車体姿勢が不安定になるおそれがあります。急ブレーキや高速走行を避け、ただちに車を安全な場所に止めて三菱自動車販売会社にご連絡ください。
- ブレーキの効きが悪い場合は、次の処置により車を止めてください。
  - ブレーキペダルを通常より強く踏んでください。
    ブレーキペダルが奥まで踏み込まれた状態になることがありますが、そのままブレーキペダルを強く踏み続けてください。
  - 万一、ブレーキが効かないときは、エンジンブレーキでスピードを落としてから、電動パーキングブレーキスイッチを引き上げ続けてください。
    →「電動パーキングブレーキ」P.4-12

    このとき後続車に注意を促すため、ブレーキペダルを踏んでストップランプを点灯させてください。

充電警告表示

J10318200029



充電系統に異常があると警告表示します。また、メーター内の警告灯も点灯します。

⚠注意

- エンジン回転中に警告表示したときは、ただちに安全な場所に停車し、三菱自動車販売会社にご連絡ください。

油圧警告表示

J10318300020



エンジン回転中、エンジンオイルの圧力が低下すると警告表示します。

⚠注意

- エンジンオイルが不足したまま運転したり、エンジンオイルの量が正規であっても警告表示したままで運転するとエンジンが焼き付き、破損するおそれがあります。
- エンジンの回転中に警告表示したときは、ただちに安全な場所に停車しエンジンを止め、エンジンオイルの量を点検してください。
（点検方法は別冊の「メンテナンスノート」をお読みください。）
- エンジンオイル量が正常で警告表示したときは、三菱自動車販売会社にご連絡ください。

アドバイス

- 油圧警告表示はオイル量を示すものではありません。オイル量の点検は必ずオイルレベルゲージで行ってください。

エンジンオイル量警告表示

J10333000031



エンジンスイッチの電源モードが ON のときにエンジンオイルの量が規定値より多くなると警告表示します。

⚠注意

- 警告表示が出たときは、ただちに三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

ライトスイッチ

J10301700152

⚠注意

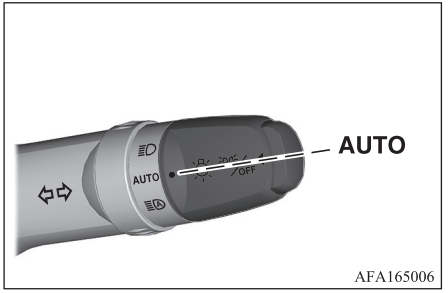
- 点灯中および消灯直後は、レンズの表面が高温になっているため触らないでください。やけどをするおそれがあります。

アドバイス

- ヘッドライトや制動灯などの車外照明は、雨の日や洗車後などにレンズ内側が曇ることがあります。
これは湿気の多い日などに窓ガラスが曇るのと同様の現象で、機能上の問題はありません。
ランプを点灯すると熱で曇りは取れます。ただし、ランプ内に水がたまっているときは三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

自動で使うときは（オートライトコントロール）

エンジンスイッチの電源モードが ON のときに使用できます。ライトスイッチを AUTO 位置にすると、車外の明るさに応じてヘッドライト、車幅灯、尾灯、番号灯などが自動的に点灯・消灯します。
電源モードを OFF にすると自動的に消灯します。



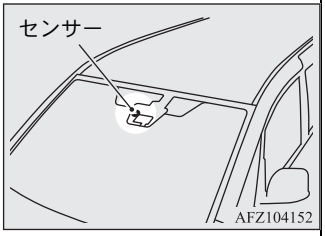
AFA165006

アドバイス

- トンネルの出口などで急に周囲が明るくなっても、しばらくはヘッドライトが点灯し続けます。
- AUTO の位置でフロントフォグランプが点灯しているとき、エンジンスイッチの電源モードを OFF にすると、フロントフォグランプも自動消灯します。

アドバイス

- フロントガラスにステッカーやラベルを貼ってセンサーを覆わないでください。センサーが車外の明るさを検知できなくなり、ライトが自動では点灯・消灯しなくなるおそれがあります。

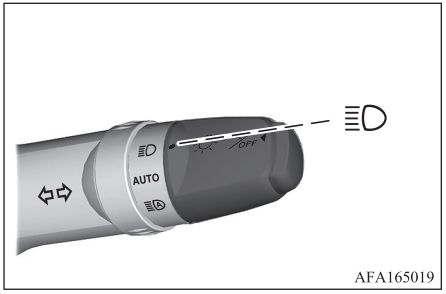


フロントガラスの交換・センサー付近のガラス補修をするときは、三菱自動車販売会社にご相談ください。

- AUTO の位置で点灯・消灯しないときは、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

手動で使うときは

エンジンスイッチの電源モードの状態に関係なく使用できます。ライトスイッチを≣Dの位置にすると、ヘッドライト、車幅灯、尾灯、番号灯、計器類照明灯が点灯します。



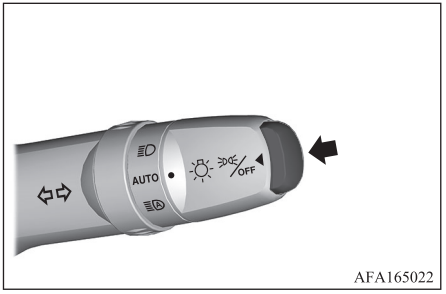
自動点灯時のライト消灯

J10340200093

夜間など暗い場所を走行しているときはランプ類を消灯させることができませんが、以下の条件および操作によって消灯させることができます。

ライトスイッチが AUTO 位置のとき、停車中に≣DOE／ OFF スイッチを押すと、インフォメーション画面にランプ類の点灯モードが表示されます（ライトモードガイダンス）。

ライトモードガイダンス表示中、≣DOE／ OFF スイッチを押すたびにランプ類の点灯モードが切り換わります。





アドバイス

- ライトモードガイダンス表示中、≣DOE／ OFF スイッチを押さないまま約 4 秒経過すると、表示は消えます。

ヘッドライトを消灯させるときは

停車中に≣DOE／OFF スイッチを操作して、「≣DOE」を選択すると、ヘッドライトのみ消灯します。



アドバイス

- 消灯中に次の操作をすると、ヘッドライトの消灯状態が解除されます。
  - ≡DOE／ OFF スイッチを操作して、「AUTO」を選択する
  - 走行を開始する

すべてのライトを消灯させるときは

次のいずれかの状態のときに≡DOE／ OFF スイッチを操作して、「OFF」を選択すると、すべてのライトが消灯します。

- セレクターレバーがⓅに入っている
- 電動パーキングブレーキをかけている



アドバイス

- 消灯中に次の操作をすると、すべてのライトの消灯状態が解除されます。
  - ≡DOE／ OFF スイッチを操作して、「AUTO」を選択する
  - セレクターレバーをⓅ以外に入れ、電動パーキングブレーキを解除する

ヘッドライト*オートカット機能（自動消灯）

J10318400122

*ヘッドライトやフォグランプなどの車外照明

- ライトスイッチが≡Dの位置でも、エンジンスイッチの電源モードを OFF にし、運転席ドアを開くと、ランプ類が自動的に消灯します。
- ライトスイッチが≡Dの位置でも、エンジンスイッチの電源モードを OFF にし、運転席ドアを開かないまま約 3 分たつとランプ類が自動的に消灯します。

降車後、照明として利用するときは

降車後も約 3 分間ランプ類を点灯させておくことができます。

1. ライトスイッチを AUTO にし、エンジンスイッチの電源モードを OFF にします。
2. ライトスイッチを≡Dの位置にし、降車します。

アドバイス

- 運転席から降車するとき、エンジンスイッチの電源モードがOFFのときはライト消し忘れブザーが鳴り、OFF 以外のときは電源モードOFF戻し忘れ警告ブザーが鳴りますが、ドアを閉じれば止まります。（インフォメーション画面にも警告表示します。）

3. 約 3 分後にランプ類が自動消灯します。

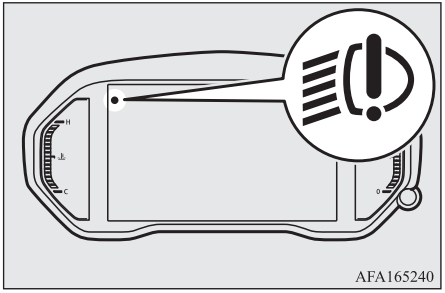
アドバイス

- ランプ類のオートカット機能を働かなくすることができます。
  詳しくは三菱自動車販売会社にご相談ください。

LED ヘッドライト警告灯

J10318500048

LED ヘッドライトに異常があると点灯します。また、インフォメーション画面にも警告表示します。



アドバイス

- 警告灯が点灯したときは、装置の故障が考えられます。三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

ライト消し忘れブザー

J10318600081

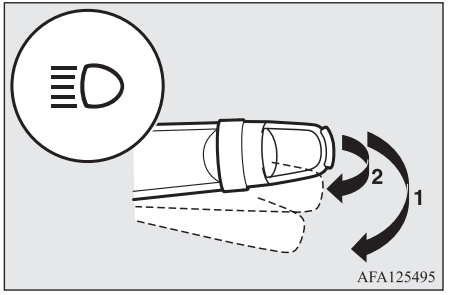
ライトスイッチが≣Dの位置のままでエンジンスイッチの電源モードをOFFにして運転席のドアを開くと、ブザーが鳴り、ランプ類の消し忘れを知らせます。

ヘッドライトオートカット機能が働く、ライトスイッチを AUTO にする、またはドアを閉じればブザーは止まります。

上下切り換え

J10318700095

レバーを（1）まで引くたびにヘッドライトの照らす方向が上向き、下向きと交互に切り換わります。
レバーを（2）まで軽く引くと、引いている間ヘッドライトが上向きになり、メーター内の表示灯も点灯します。



アドバイス

- ライトスイッチの位置に関係なく、レバーを（2）まで軽く引いている間ヘッドライトが上向きで点灯します。
- ヘッドライトを上向きにしたまま戻し忘れても、次回ライトスイッチを≣Dの位置にすると必ず下向きで始まります。

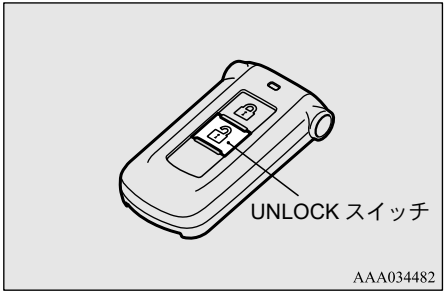
アドバイス

- オートマチックハイビーム [AHB] を使用すると、センサーにより自動で上下切り換えを行うことができます。詳しくは「オートマチックハイビーム [AHB]」をお読みください。→P.4-127

ウェルカムライト

J10318800113

ライトスイッチが AUTO の位置のとき、キーレスオペレーションキーのUNLOCKスイッチを押すと、車幅灯が約 30 秒間点灯します。車外が暗いときのみ点灯します。



アドバイス

- ウェルカムライトが作動中に、次の操作を行うとウェルカムライトが停止します。

アドバイス

- キーレスオペレーションキーのLOCKスイッチを押したとき



- ライトスイッチを≣Dの位置にしたとき
- エンジンスイッチの電源モードをONの状態にしたとき

● 次の通り機能を変更することができます。
- ヘッドライト（ロービーム）の点灯を追加する。
- ウェルカムライトを働かなくする。

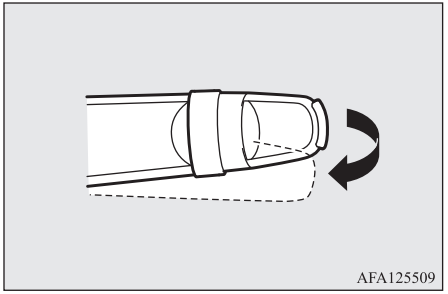
詳しくは三菱自動車販売会社にご相談ください。

カミングホームライト

J10318900114

エンジンスイッチの電源モードをOFFにした後、約 30 秒間ヘッドライト（ロービーム）を点灯させておくことができます。

1. ライトスイッチをAUTOの位置にします。
2. 電源モードを OFF にします。
3. 電源モードを OFF にしてから約 60 秒以内に、方向指示レバーを手前に引きます。



4. ヘッドライト（ロービーム）が約 30 秒間点灯します。消灯した後、再度約 30 秒間点灯させたい場合は、電源モードを OFF にしてから約 60 秒以内のときは、レバーを手前に引いてください。また、約 60 秒以上のときは、手順 1 から操作してください。

アドバイス

● カミングホームライトが作動中に、次の操作を行うとカミングホームライトが停止します。
- レバーを手前に引いたとき
- ライトスイッチを≣Dの位置にしたとき
- エンジンスイッチの電源モードをONの状態にしたとき

アドバイス

● 次の機能を変更することができます。
- ヘッドライトの点灯時間を調整する。
- カミングホームライトを働かなくする。

詳しくは三菱自動車販売会社にご相談ください。

ヘッドライトオートレベリング

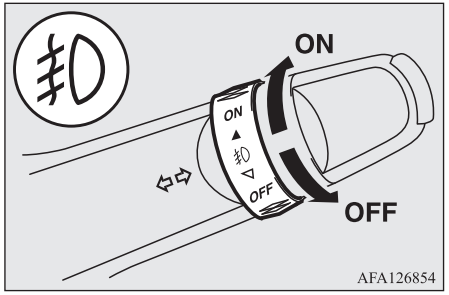
J10338100024

乗員の人数や荷物の重さなどによる車両姿勢の変化に応じて、ヘッドライトの照らす方向（光軸）を自動的に調整する装置です。
エンジンスイッチの電源モードが ON のときにヘッドライトが点灯すると、停車時にヘッドライトの光軸を自動的に調整します。

フロントフォグランプスイッチ

J10302100049

霧の出ているとき、雨や雪などの降る夜間など視界が悪いときに使用します。
ヘッドライトまたは尾灯が点灯しているときにノブを上に回すと、フロントフォグランプが点灯し、メーター内の表示灯も点灯します。消灯するときはノブを下に回します。



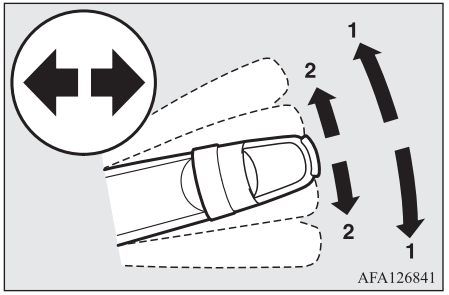
アドバイス

- ヘッドライトと尾灯が消灯すると、フロントフォグランプも自動消灯します。
  再度点灯させたいときは、ヘッドライトまたは尾灯が点灯しているときに、もう一度ノブを上に回します。

方向指示レバー

J10301900109

エンジンスイッチの電源モードが ON のときにレバーを（1）まで操作すると、方向指示灯とメーター内の表示灯が点滅します。
レバーはハンドルを戻すと自動的に戻ります。緩いカーブなどで戻らないときは手で戻してください。
車線変更などのときは、レバーを（2）まで軽く操作すると操作している間だけ方向指示灯とメーター内の表示灯が点滅します。また、レバーを（2）まで軽く操作し、すぐ離すと方向指示灯とメーター内の表示灯が 3 回点滅します。



1- 方向指示
2- 車線変更

アドバイス

- 方向指示灯およびメーター内の方向指示表示灯の点滅が異常に速くなったときは、方向指示灯の球切れが考えられますので三菱自動車販売会社で点検を受けてください。
- 次の機能を変更することができます。
  - エンジンスイッチの電源モードがONまたはACCのときにレバーを操作すると、方向指示灯とメーター内の方向指示表示灯を点滅させる。
  - 車線変更時、方向指示灯の 3 回点滅機能を働かなくする。

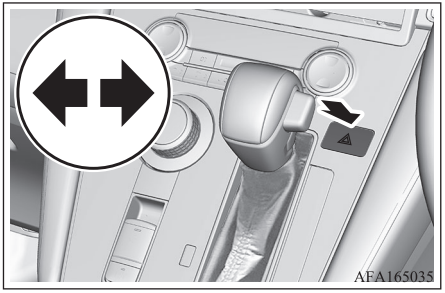
アドバイス

- 車線変更時、方向指示灯の 3 回点滅機能のレバー操作時間を調整する。
  詳しくは三菱自動車販売会社にご相談ください。
- 方向指示器の音色を変更することができます。
  →「方向指示音の変更」P.4-41

非常点滅灯スイッチ

J10302000077

故障したときなど、やむを得ず路上に車を止めたいときに使用します。
スイッチを押すとすべての方向指示灯が点滅し、メーター内の表示灯も点滅します。もう一度押すと消灯します。



アドバイス

- エンジンがかかっていないときに長時間使用するとバッテリーが上がり、エンジンがかからなくなることがあります。
- スイッチを押して非常点滅灯を点滅させているときは、緊急制動信号システムは作動しません。
  →「緊急制動信号システム」P.4-162

ワイパー／ウォッシャースイッチ

J10302200095

注意

- 寒冷時にウォッシャーを使用するとガラスに噴き付けられたウォッシャー液が凍結し、視界を妨げることがあります。ウォッシャー使用前にヒーターやリヤデフォッガーを使って、ガラスを暖めてください。
- ガラスがほこりや泥で汚れているときは、洗車するかウォッシャー液を噴射してからワイパーを使用してください。汚れたままでワイパーを動かすとガラスに傷がつくことがあります。
- ウォッシャーを連続して30秒以上作動させないでください。ポンプが故障する原因となります。

注意

- 凍結などでワイパーブレードがガラスに張り付いたまま作動させないでください。ガラスに張り付いたまま作動させるとワイパーブレードを傷めたり、ワイパーモーターが故障するおそれがあります。
  凍結のおそれがあるときや長時間ワイパーを使用しなかったときは、ワイパーブレードがガラスに張り付いていないことを確認してください。

アドバイス

- ワイパーを作動中、積雪などによりワイパーブレードが途中で止まったときは、モーターの過熱を防ぐためワイパーの作動が一時的に停止することがあります。
  このようなときは、必ず車を安全な場所に止めてエンジンスイッチの電源モードをOFFにして積雪などを取り除いてください。
  モーターが冷えればワイパーは再び使用できるようになりますので、ワイパーが作動することを確認してからご使用ください。

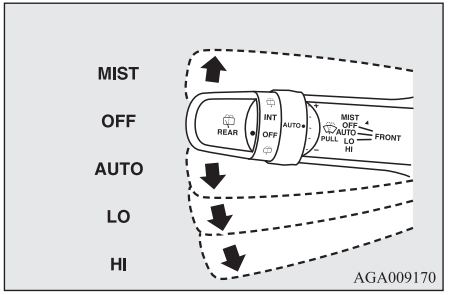
フロントワイパースイッチ

J10319100096

アドバイス

- 後方の視界を確保するため、フロントワイパーが作動中にセレクターレバーをⓇに入れると、リヤワイパーが自動的に数回作動します。
  →「リヤワイパー／ウォッシャースイッチ」P.4-87

エンジンスイッチの電源モードが ON または ACC のときに使用できます。



MIST　1回作動（ワイパーミスト機能）
OFF　停止
AUTO　自動作動（雨滴感応）
雨の程度に応じて、自動的にワイパーが作動します。
LO　低速作動

HI　高速作動

アドバイス

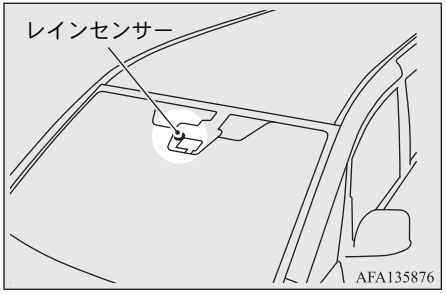
- 次の機能を変更することができます。
  - 自動作動（雨滴感応）を間欠作動（車速感応）に変更する。
  - 自動作動（雨滴感応）を間欠作動（除く、車速感応）に変更する。

  詳しくは三菱自動車販売会社にご相談ください。

レインセンサー

エンジンスイッチの電源モードが ON のときに使用できます。レバーを AUTO の位置にすると、雨の程度（雪やその他の液体、ほこりなどを含む）をレインセンサーが感知し、ワイパーが自動作動します。
ただし、次のような場合、フロントガラスに傷がついたり、ワイパーブレードを傷めるおそれがありますので、レバーを OFF の位置にしてください。

- 晴れた日が続き、フロントガラスが汚れているとき
- 空気が乾燥し、フロントガラスが汚れているとき



⚠注意

- エンジンスイッチの電源モードが ON の状態で、レバーが AUTO の位置のとき、次のような場合、ワイパーが自動作動することがあります。
  手や指をはさむと、けがをしたり、ワイパーを損傷するおそれがありますので電源モードを OFF にするか、レバーを OFF にして、レインセンサーを停止してください。
  - フロントガラス掃除の際、レインセンサーをフロントガラス越しに触れたとき
  - フロントガラス掃除の際、レインセンサーをフロントガラス越しに拭いたとき
  - 自動洗車機を使用するとき
  - フロントガラスまたはレインセンサーに衝撃を与えたとき

アドバイス

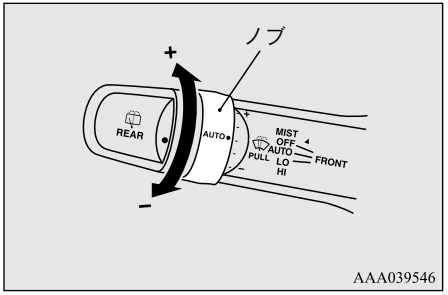
- ワイパーのゴム部分を保護するため、エンジン始動後、車両を止めた状態で外気温が低いとき（約 0°C 以下のとき）は、レバーが AUTO の位置にあってもワイパーは作動しません。
- フロントガラスにステッカーやラベルを貼ってセンサーを覆わないでください。また、フロントガラスにコーティングをしないでください。センサーが雨を検知できなくなり、ワイパーが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- 次のような場合は、レインセンサーの故障が考えられます。三菱自動車販売会社で点検を受けてください。
  - 雨の程度が変化しているにもかかわらず、ワイパーが一定間隔作動しているとき
  - 雨が降っているにもかかわらず、ワイパーが動かないとき

アドバイス

- レインセンサー上部のウインドウガラスに虫や異物などが付着したり、ウインドウガラスが凍結しているときは、ワイパーが自動的に作動することがあります。
  ワイパーでフロントガラスの付着物を取り除けないときは、ワイパーが自動的に停止します。ワイパーを作動させたいときは、レバーを LO または HI の位置にしてください。
  また、強い直射日光や電磁波などの原因によってもワイパーが自動的に作動することがあります。ワイパーを停止させたいときは、レバーを OFF の位置にしてください。
- フロントガラスの交換・センサー付近のガラス補修をするときは、三菱自動車販売会社にご相談ください。

雨滴感応の調整のしかた

レバーが AUTO の位置のときに、ノブを回すとレインセンサーの感度を調整できます。

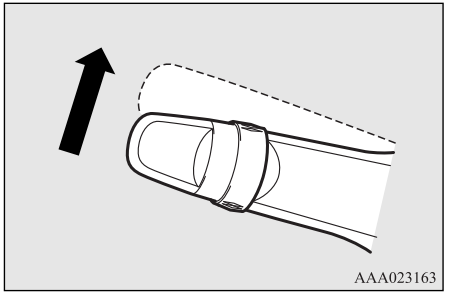


+ 高感度（雨に反応しやすい）
- 低感度（雨に反応しにくい）

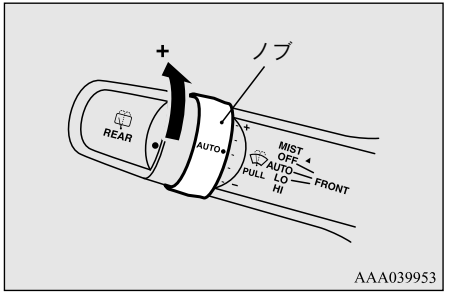
ワイパーミスト機能

次のように、レバーまたはノブを操作するとワイパーが 1 回だけ作動します。霧雨のときなどにご使用ください。

- エンジンスイッチの電源モードが ON または ACC のとき、レバーを MIST 位置に上げて離す
  レバーを MIST 位置に上げている間は、ワイパーが連続作動します。



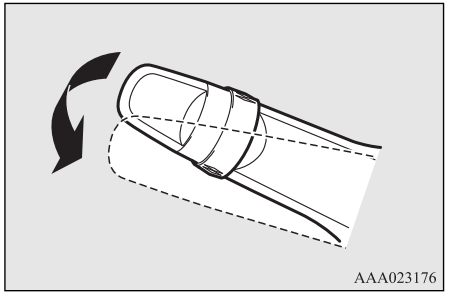
- エンジンスイッチの電源モードが ON のとき、レバーを AUTO 位置にしてノブを + 側に回す



フロントウォッシャースイッチ

J10319200042

エンジンスイッチの電源モードが ON または ACC のときに使用できます。
レバーを手前に引いている間、ウォッシャー液が噴射します。
ワイパーが作動していないときや間欠作動中にウォッシャー液を噴射するとワイパーが数回作動します。さらに約 6 秒後にワイパーがもう 1 回作動します。
また、レバーを手前に引いてすぐに離すと、自動的にウォッシャー液を数回に分けて噴射しながらワイパーが数回作動します。（インテリジェントウォッシャー）さらに約 6 秒後にワイパーがもう 1 回作動します。
ワイパー作動中にレバー操作すると、インテリジェントウォッシャーは停止します。



アドバイス

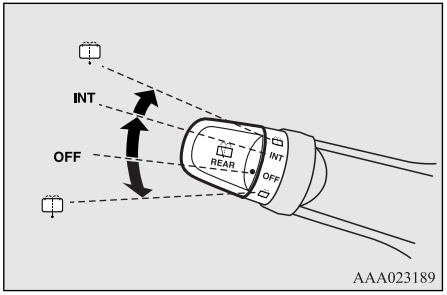
- ワイパーを作動させずにウォッシャー液を噴射するときは、レバーを手前に引いた状態でエンジンスイッチの電源モードを ON または ACC にするとワイパーは連動せず、ウォッシャー液のみが噴射します。
- 次の機能を変更することができます。
  - ウォッシャー液を噴射しても常時ワイパーを連動させないようにする
  - インテリジェントウォッシャーを働かなくする
  - 約 6 秒後にワイパーがもう 1 回作動する機能を働かなくする

  詳しくは三菱自動車販売会社にご相談ください。

リヤワイパー／ウォッシャースイッチ

J10319300043

エンジンスイッチの電源モードが ON または ACC のときに使用できます。



レバー先端のツマミを回すと、次の通り作動します。

INT　間欠作動
　　数回作動し、その後約 8 秒おきに作動
OFF　停止
⛲　この位置に回している間、ウォッシャー液を噴射。同時にワイパーが数回作動。

アドバイス

- フロントワイパーまたはリヤワイパーが作動中にセレクターレバーをⓇに入れると、リヤワイパーが自動的に数回作動します。（自動作動モード）
  リヤワイパーは自動的に作動した後、レバー先端のツマミがOFF位置にあれば停止し、INT 位置にあれば間欠作動に戻ります。
  また、リヤワイパーが INT 位置で作動中にセレクターレバーをⓇに入れるときだけ自動作動モードが作動するように変更することができます。
  詳しくは三菱自動車販売会社にご相談ください。
- ワイパーを作動させずウォッシャー液を噴射するときは、レバー先端のツマミを の位置に回した状態でエンジンスイッチの電源モードをONまたはACCにするとワイパーは連動せず、ウォッシャー液のみが噴射します。
- レバー先端のツマミがOFF位置にあるとき、約 1 秒以内に INT 位置に 2 回繰り返し回して INT 位置で止めると、リヤワイパーが連続作動します。（連続作動モード）
  ツマミをOFFの位置にすると連続作動は止まります。
- 次の機能を変更することができます。
  - ワイパーの間欠作動時間を調整する
  - ウォッシャー液を噴射しても常時ワイパーを連動させない

アドバイス

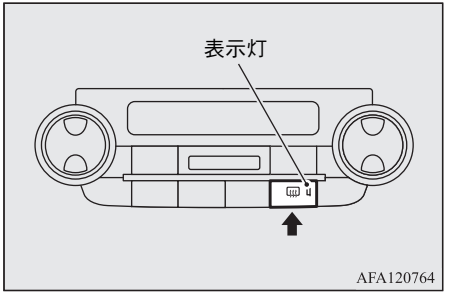
- リヤワイパーを連続作動モードで作動させない

詳しくは三菱自動車販売会社にご相談ください。

リヤデフォッガー（曇り取り）スイッチ

J10302300096

リヤガラスにプリントされた電熱線でガラスを暖めて曇りを取ると同時に、ガラス表面の霜や氷を取り除きやすくします。
エンジンがかかっているときにスイッチを押すと作動し、表示灯が点灯します。
もう一度押すとスイッチが切れます。



リヤデフォッガースイッチを押すと同時にドアミラーの曇りも取ることができます。

→「ヒーテッドドアミラー」P.3-67

アドバイス

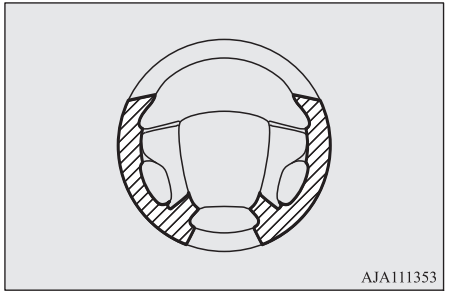
- 外気温が低いとき、エンジン始動時にリヤデフォッガースイッチを押さなくてもリヤデフォッガーが自動的に作動（エンジンスイッチの電源モードを ON にしてから一度のみ自動的に作動）するように設定することができます。
  詳しくは三菱自動車販売会社にご相談ください。
- この装置は消費電力が大きいので曇りが取れたらスイッチを切ってください。
  万一、スイッチを切り忘れても約 15 ～ 20 分後に自動的に切れます。
- リヤガラス付近に物を置かないでください。車の振動で物が当たると電熱線が切れることがあります。
- リヤガラスの内側を清掃するときは、電熱線を傷つけないように柔らかい布を使い電熱線に沿って拭いてください。

ステアリングヒータースイッチ

タイプ別装備

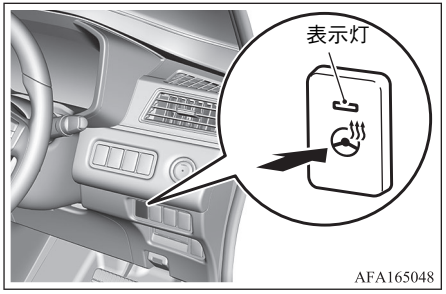
J10325200089

ステアリング内部のヒーターによりステアリングの左右のグリップ部分を温めます。



: 加温範囲

エンジンスイッチの電源モードが ON のときに、スイッチを押すとステアリングヒーターが作動し、スイッチ内の表示灯が点灯します。
ステアリングヒーターは、作動してから約 30 分後に自動で停止します。途中で停止したいときは、スイッチをもう一度押します。表示灯が消灯し、ステアリングヒーターが停止します。



⚠注意

- 長時間の連続使用は低温やけど（水ぶくれなど）の原因になります。特に次のような方は注意してください。
  - お年寄り
  - 皮膚の弱い方
- 水、ジュースなどをこぼしたときは十分乾かしてから使用してください。

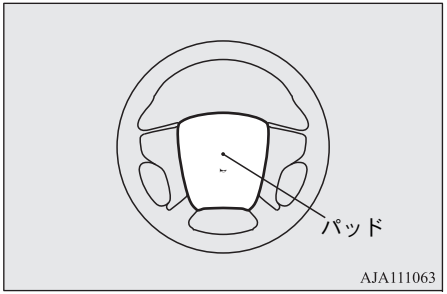
アドバイス

- エンジンがかかっていないときの連続使用はバッテリーが上がる原因になります。

ホーンスイッチ

J10302400042

ハンドルのパッドを押すとホーン（警音器）が鳴ります。



フューエルリッド（燃料補給口）

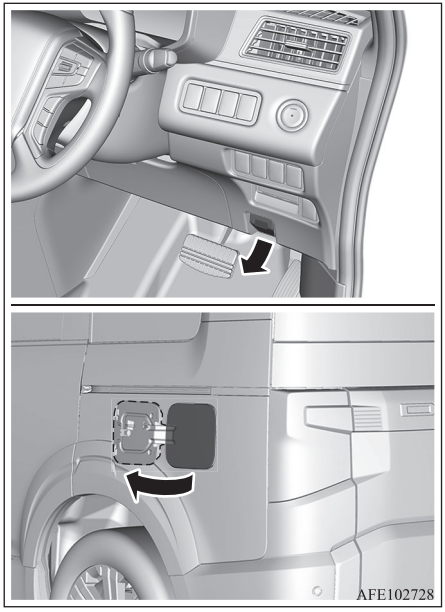
J10324300041

フューエルリッド（燃料補給口）は車両の左側後方にあります。

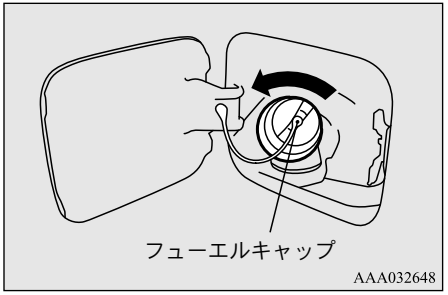
開けるときは

J10324400101

1. 計器盤右下のレバーを引いてリッド（補給口）を開けます。



2. フューエルキャップのツマミを持ち、ゆっくり左に回して外します。

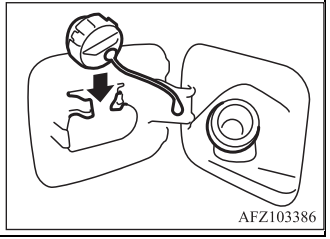


⚠注意

- 助手席側のスライドドアが開いているときは、フューエルリッド（燃料補給口）を開けないでください。スライドドアにフューエルリッドが当たり、傷または汚れをつけるおそれがあります。

アドバイス

- 給油中、フューエルキャップをリッド裏側のホルダーに収めておくことができます。



アドバイス

- 燃料は必ず指定された燃料をご使用ください。
  →「燃料の量と種類」P.8-2
- フューエルリッド（燃料補給口）が開いているときに助手席側の電動スライドドアを手動で開くときは、フューエルリッドとの干渉防止のため電動スライドドアは途中で停止し、全開しません。
  →「手動操作」P.3-27

閉めるときは

J10324500027

1. フューエルキャップをカチッカチッと音がするまで右に回して閉めます。
2. フューエルリッドを手で軽く押して閉めます。

給油するときは

J10337000026

給油するときは、次の内容をしっかり読んでから給油を行ってください。

⚠警告

- 燃料を補給するときは火気厳禁です。
  燃料は引火しやすいため火災や爆発のおそれがあります。
  - 必ずエンジンを止める
  - タバコ、ライター、携帯電話などは使用しない

⚠警告

- フューエルキャップを外す前に車体や給油機の金属部分に触れて、必ず身体の静電気を除去してください。
  静電気を帯びていると、放電による火花で気化した燃料に引火するおそれがあります。
- リッド（補給口）の開閉、フューエルキャップの取り付け、取り外しなど、給油操作は必ず一人で行い、補給口に他の人を近づけないでください。
  複数で行うと他の人が帯電していた場合、気化した燃料に引火するおそれがあります。
- 給油が終わるまで補給口から離れないでください。途中、シートに座るなどすると、再帯電するおそれがあります。
- 急激にフューエルキャップを回さないでください。急激に回すと、燃料タンク内の圧力により、補給口から燃料が吹き返すおそれがあります。
- フューエルキャップを緩めたときにシューッという音がしたときは、音がしなくなるまで待ってから、フューエルキャップをゆっくり回してください。
- 気化した燃料を吸わないように注意してください。燃料には有毒な成分を含んでいるものもあります。
- 給油中はドアおよびドアガラスを閉めてください。車内に気化した燃料が侵入するおそれがあります。

⚠警告

- 補給口に給油ノズルを確実に差し込んでください。
  給油ノズルが正しく差し込まれていないと、燃料がこぼれるおそれがあります。
- 給油ノズルが自動的に停止したら給油を終了してください。
  つぎ足しを繰り返すと燃料があふれ出るおそれがあります。
- フューエルキャップを閉めたときは、確実に閉まっていることを確認してください。確実に閉まっていないと燃料が漏れ、火災になるおそれがあります。
- 三菱自動車純正以外のフューエルキャップは使用しないでください。
- 燃料をこぼさないように注意してください。塗装の変色、しみ、ひび割れの原因になります。付着したときは、柔らかい布などで拭き取ってください。
- ガソリンスタンドに掲示されている注意事項を守ってください。
- 給油方法についてご不明な点は、ガソリンスタンドの係員にご相談ください。

e-Assist

タイプ別装備

J10325300123

e-Assist とは、各種センサーによって事故の危険を検知して運転者に知らせるとともに、できる限り事故被害を予防・回避・軽減できるよう支援する安全技術です。

e-Assist には次の機能があります。

- 衝突被害軽減ブレーキシステム [FCM] →P.4-92
- 先行車発進通知 [LCDN] →P.4-99
- 誤発進抑制機能（前進＆後退時） →P.4-102
- 車線逸脱警報システム [LDW] →P.4-107
- レーダークルーズコントロールシステム [ACC] →P.4-110
- オートマチックハイビーム [AHB] →P.4-127
- 後側方車両検知警報システム（レーンチェンジアシスト機能付）[BSW/LCA] →P.4-131
- 後退時交差車両検知警報システム [RCTA] →P.4-135

⚠警告

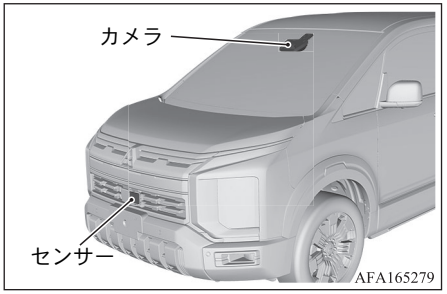
- e-Assist の各機能は、運転者の安全運転を前提としたシステムであり、運転操作の負担や衝突被害を軽減することを目的としています。システムの検知性能・制御性能には限界があるため、これらのシステムに頼った運転はせず、常に安全運転を心がけてください。

衝突被害軽減ブレーキシステム [FCM]

J10303300136

FCM: Forward Collision Mitigation system

衝突被害軽減ブレーキシステム[FCM]は、前方車両や歩行者、人が乗車している自転車と衝突のおそれがあると判断したとき、警報とブレーキにより、運転者の衝突回避操作を支援します。



FCM は、フロントガラス上部のカメラおよびフロントグリル内側のセンサーにより、前方の車両や歩行者、人が乗車している自転車を検知します。

⚠警告

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。
  FCM は、可能な範囲で衝突被害を軽減または衝突を回避するシステムであり、脇見運転やぼんやり運転などの前方不注意を許容したり、雨・霧などの視界不良を補助したりするものではありません。周囲の状況に応じてブレーキペダルを踏んで減速するなど、常に安全運転に心がけてください。
- FCM は、可能な範囲で衝突を回避できるよう作動しますが、走行状態、道路環境、ハンドル、アクセル、ブレーキの操作など、様々な条件によってその効果は変化し、常に同じ性能が発揮できるわけではありません。
  衝突の危険があるときは、システムの作動の有無にかかわらず、ブレーキペダルを強く踏むなどの回避操作を行ってください。
- システムの作動確認をお客様自身が行わないでください。状況によっては、システムが作動しなかったり車両が止まりきれず重大な事故につながるおそれがあります。

FCM の作動

J10322600095

自車線前方の車両、歩行者または人が乗車している自転車に衝突する危険性があると判断したときに、表示と音で注意喚起します。
警報時は、ブザーとともに、インフォメーション画面に「ブレーキ！」が表示されます。



FCM は、車両が約 10km/h を超える速度で走行しているときに作動します。歩行者や人が乗車している自転車には、車速約 10 ～ 80km/h の範囲で作動します。

⚠注意

- 状況によっては、警報が鳴らなかったり、聞こえない場合があります。システムを過信せず、衝突の危険があるときは、システムの作動の有無にかかわらず、ブレーキペダルを強く踏むなどの回避操作を行ってください。

アドバイス

- FCMによるブレーキが作動しているときは、制動灯（ブレーキランプ）が点灯します。
- ブレーキ制御中に車体下から作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

- 運転者の衝突回避操作が不十分で、衝突する危険性が高いと判断したときは、自動的にブレーキの作動を強めます。
- 運転者が衝突回避操作を行っていない場合、やや強めのブレーキを作動させてブレーキ操作を促します。
  さらに、衝突が避けられないと判断したときには、ブレーキ制御を自動的に作動させて、衝突被害を軽減または回避します。
  ブレーキ制御作動中は、前方衝突警報の作動時と同様、ブザーとインフォメーション画面の「ブレーキ！」表示で注意喚起します。
  ブレーキ制御が作動した後、作動したことを示す「FCM ブレーキ作動しました」がインフォメーション画面に表示されます。



アドバイス

- FCMはブレーキ制御が解除された直後の約 5 秒間は作動しません。

アドバイス

- FCM によるブレーキ作動で停車すると、停車してから約 2 秒後にブレーキ制御が解除され、クリープ現象により自車が動き出します。必ずブレーキペダルを踏んで、自車を停止させてください。

次の場合、FCM のブレーキ制御が解除されます。

- アクセルペダルまたはブレーキペダルを強く踏み込んだとき
- ハンドルを大きく、または素早く切ったとき
- 前方の車両や歩行者、人が乗車している自転車との衝突の危険がなくなったと判断したとき

⚠警告

- システムによるブレーキを通常のブレーキとして利用しないでください。
- 運転者がハンドルやアクセル、ブレーキを操作している場合は、FCM の作動が遅れる、または作動しない場合があります。
- 前方車両と自車の速度の差が小さいときは作動しません。
- ブレーキ制御中にブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが固く感じられることがありますが、異常ではありません。さらに踏み込むことで踏み増すこともできます。
- 次のような障害物は検知しません。
  - 子供などの背の低い人、動物
  - 車いす、子供のおもちゃやスケートボードに乗っている人
  - 横切って通過する車両
  - 道路脇の障害物
  - 駐車車両
- 車速約 80km/h 以上で走行中は、停止した車両を検知しません。
- 以下の対象物にはシステムが作動しない場合があります。
  - 夜間やトンネル内など暗い場所にいる、歩行者や人が乗車している自転車
  - 細い車両（二輪車など）
  - 近接している複数の対象物
- 次のような場合は、前方の車両、歩行者、人が乗車している自転車を検知できず、システムが正しく作動しないことがあります。
  - 夜間やトンネル内などでヘッドライトを点灯していない、あるいはヘッドライトのレンズが極端に汚れているとき
  - 夜間やトンネル内などで前方の車両のテールランプが点灯していないとき
  - カメラの向きがずれているとき
  - 悪天候（雨、雪、霧、風塵、砂塵、吹雪など）で視界が悪いとき
  - 前方の車両や対向車などにより水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき
  - カーブを走行しているとき

⚠警告

- 勾配の変化があるところを走行しているとき
- 未舗装路など凹凸のある路面を走行しているとき
- センサー周辺に泥、氷、雪などが付着しているとき
- 放送局など周辺の電波源により影響を受けているとき
- カメラ前方のフロントガラスに油膜、水滴、氷、雪などが付着しているとき
- 前方から強い光（太陽光や対向車両のハイビームなど）を受けているとき
- 前方の強い光により前方車両のタイヤの部分が影になり見えにくいとき
- トンネルの出入り口や日陰など、急に明るさの変化が起こったとき
- 歩行者、人が乗車している自転車が、背景と同じ色の服を着ているなど人特有の輪郭が認識できないとき
- 歩行者、人が乗車している自転車が大きな荷物を持っているとき
- 対象物の位置や動きが大きく変化した場合（ 自車の車線変更･右左折、前方車両の右左折･急ハンドル･急加速･急減速など）
- 前方の車両、歩行者、人が乗車している自転車が急に大きく動いたとき
- 前方の至近距離に割り込んだ車両
- 前方の至近距離に飛び出してきた歩行者、自転車

⚠警告

- 自車の正面から横にずれた位置に存在する車両や歩行者、人が乗車している自転車
- 自車と対象車の速度差が小さいとき
- 起動してから約 15 秒間
- 最低地上高(地面から車体までの高さ)が極端に低いもしくは極端に高い車両
- 特殊な形状の車両（タンクローリー、サイドカーなど）
- 後端の面積が小さい車両（空荷のトラックや二輪車など）
- 対象物が道路標示（道路上の横断歩道、制限速度などの標示）の近くにいる場合
- 対象物が路面の水たまりの付近にいる場合 (周りの風景が水たまりに映りこむなど)
- 複数の対象物同士が近接している場合
- 対象物が建物や街路樹などの影と重なっているとき
- トレーラーをけん引しているとき
- 白っぽい衣装の歩行者、白っぽい衣装の人が乗車している自転車

● 次のような場合は、システムが機能を十分に発揮できないことがあります。

- 滑りやすい路面を走行しているとき
- 勾配のある路面を走行しているとき
- 車両が傾いているとき（後席や荷室に極端に重い荷物を積んでいるとき）

⚠警告

● システムは自動的にセンサーとカメラが正常であるか確認していますが、センサーやカメラ周りを氷や雪が付着していても警告を発しないことがあります。定期的に確認・清掃をしてください。

● 道路や交通状況によっては、予期しないブレーキ作動をするおそれがあります。加速が必要な場合は、アクセルペダルを踏んでシステムの作動を無効にしてください。

● 外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。

● 滑りやすい路面では制動距離が長くなります。

● 前方の車両が右左折した後もシステムが作動し続けることがあります。

● 前方の車両に自車が追い越しのために接近したときにシステムが作動することがあります。

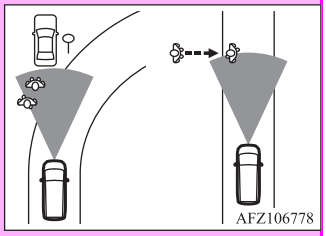
● 道路状況（カーブや交通規制）により対向車両に対して一時的に作動することがあります。

● 以下のような物に反応し、システムが作動する場合があります。

- 歩行者や人が乗車している自転車に形が似ているもの
- 二輪車や車両のテールランプと同じ位置やサイズのもの
- 路面または壁面の模様･ペイント（かすれた道路標示や漢字で構成される特殊な道路標示を含む）

⚠警告

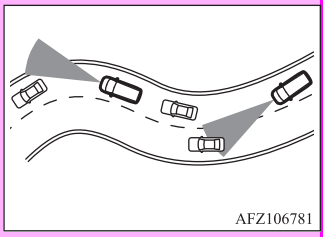
- 前方の道路構造物（トンネル、高架橋、交通標識、車両脇に設置された反射器（リフレクター）、反射シート、ガードレール、電柱や電線、看板）、道路脇の木や建物、照明や影
- 道幅が狭い路地などを走行する際の歩行者や人が乗車している自転車



- 道路脇にある物（道路標識、ガードレール、歩行者、自転車、人が乗車している自転車、オートバイ、車両など）
- 路肩の障害物を避けるため、一時的に自車前方の走行レーンにはみ出したり、近づく歩行者や人が乗っている自転車
- 道路上部にあるもの（低い橋、交通標識など）
- 路面上にある物（線路、格子、鉄板、マンホール、鉄格子など）
- 駐車場内にある物（梁など）
- 走行車線または隣接する車線にある物（歩行者、車両など）
- 走行車線または隣接する車線に近づいてくる物（歩行者、自転車、車両など）
- 走行路にある物（近接する樹木など）

⚠警告

- 次のような場合は、同一車線の車両を検知できないことや他の車線を走行している車両を一時的に検知することがあります。



- 連続したカーブを走行するとき
- 坂道を走行するとき
- 狭い道路を走行するとき
- 工事中の道路を走行するとき

⚠注意

- 次のような状況では予期しない作動をするおそれがあるので、システムを OFF にしてください。
  - センサー付近のフロントガラスに割れや傷などがあるとき
  - 自動洗車機を使用するとき
  - リフトアップし、エンジンをかけてタイヤを空転させるとき
  - けん引されるとき
  - キャリアカーに積載するとき

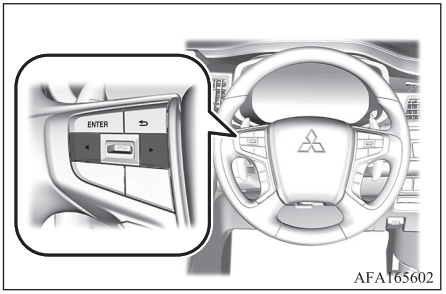
⚠注意

- サーキットなどでスポーツ走行をするとき
- 整備工場などでシャシーダイナモメーターやフリーローラーなどを使用するとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき
- タイヤチェーンを装着しているとき

FCM の ON/OFF 切り換え

J10323000100

エンジンスイッチの電源モードを ON にすると、自動的に FCM は ON になります。FCM の ON/OFF を切り換えるには、次の手順を行ってください。



1. マルチインフォメーションディスプレイスイッチの◀または▶を操作して、インフォメーション画面の表示を機能設定画面に切り換えます。

2. 上下スイッチを操作して「運転支援システム」を選択した後、ENTER スイッチを押します。
3. 上下スイッチを操作して「FCM」を選択し、ENTER スイッチを押します。
4. 上下スイッチを操作して「FCM」を選択し、ENTER スイッチを押して、FCM の「ON」または「OFF」を選択します。ENTER スイッチを押すことで、FCM のON/OFFを切り換えることができます。

システムを OFF にすると、OFF表示灯が点灯し、システムを ON にすると、OFF表示灯が消灯します。

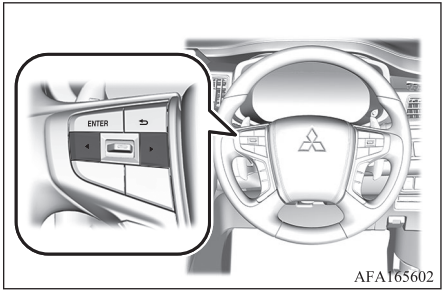
システム状態を変更しても、エンジンスイッチの電源モードを ON の位置にしたときは、システムは ON となります。

⚠注意

- アクティブスタビリティコントロール [ASC] を OFF にしたときは、FCM が作動しません。
- エンジンを再始動すると、FCM は自動的に ON になりますが、エンジン始動直後の約 5 秒間は FCM が作動しません。
- 安全のため、FCM の ON/OFF の操作は停車しているときに行ってください。

警報タイミングを切り換えるときは

インフォメーション画面より衝突警報の警報タイミングを「Near（短）」、「Middle（中）」または「Far（長）」の 3 段階に切り換えることができます。
FCM の警報タイミングを切り換えるには、次の手順を行ってください。



1. マルチインフォメーションディスプレイスイッチの◀または▶を操作して、インフォメーション画面の表示を機能設定画面に切り換えます。
2. 上下スイッチを操作して「運転支援システム」を選択した後、ENTER スイッチを押します。
3. 上下スイッチを操作して「FCM」を選択し、ENTER スイッチを押します。
4. 上下スイッチを操作して「検知距離」を選択し、ENTER スイッチを押します。
5. 上下スイッチを操作してと警報タイミングの「Near」、「Middle」または「Far」を選択して、ENTER スイッチを押します。
   ENTER スイッチを押すことで、選択した警報タイミングに設定が変更されます。
   FCM を OFF、またはエンジンスイッチの電源モードを OFF にしても警報タイミングの設定は保持されます。

⚠注意

- 工場出荷時は警報タイミングの設定は「Far」になっています。

警告表示

J10325400124

システムに異常があるときは、その状態によってインフォメーション画面に警告が表示されます。

カメラまたはセンサーの検出が行われないときは

次のような状況などで、システムがカメラまたはセンサーの検出が行われないと

判断したときは、一時的に FCM は機能しません。

- FCM センサー部に汚れ、雨、雪や氷などが付着しているとき
- 悪天候（雨、雪または砂嵐など）のとき
- 前方車両や対向車が路上の水、雪や砂などを巻き上げて走行しているとき
- 交通量が少なく、前方車両や障害物が少ない道路を走行しているとき

このとき、インフォメーション画面に警告が表示され、表示灯が点灯します。



FCM が作動できる状態になると、表示は消えて FCM 機能は自動的に再開します。表示が消えない場合はセンサーの異常の可能性がありますので、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

アドバイス

- 検知範囲内にある車両や障害物をセンサーが検知できないときに、一時的に「運転支援用カメラ視界不良」が表示されることがありますが、故障ではありません。検知すれば FCM 機能は再開し、警告表示は消えます。

システムが一時的に作動できないときは

システムが何らかの異常を検知して、FCM機能が一時的に作動できないと判断したときは、次の警告が表示され、表示灯が点灯してFCM機能は自動的に停止します。
表示が消えない場合はシステムの異常の可能性がありますので、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。



カメラの補正処理が不完全なとき

カメラが適切に検出できていないと、FCM が適正に作動できないと判断し、自動的に FCM 機能を停止します。このとき、表示灯が点灯し次の警告が表示されます。



表示が消えない場合はシステムの異常の可能性がありますので、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

カメラが高温になったときは

炎天下に駐車したときなど、室内が高温になり、カメラが一時的に作動できない状態になったときは、次の警告が表示され、表示灯が点灯して FCM 機能は自動的に停止します。



アドバイス

- カメラ周辺のフロントガラス内側が曇ったり凍結したりしたときは、デフロスターを使用して取り除きます。もし、カメラ周辺のフロントガラス内側に、ほこりなどが入り込んだ場合は、三菱自動車販売会社にご相談ください。

カメラの温度が規定の範囲内になると、表示は消えてFCM機能は自動的に再開します。
表示が消えない場合はカメラの異常の可能性がありますので、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

システムに異常があるときは

システムに異常があるときは、次のいずれかの警告が表示され、表示灯が点灯して FCM 機能は自動的に停止します。



エンジンスイッチの電源モードをOFFにして再度 ON にしても再び表示される場合は、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。
また、エンジンスイッチの電源モードを繰り返し ON/OFF しても、警告表示が消えない場合はカメラまたはセンサーの異常の可能性がありますので、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

アドバイス

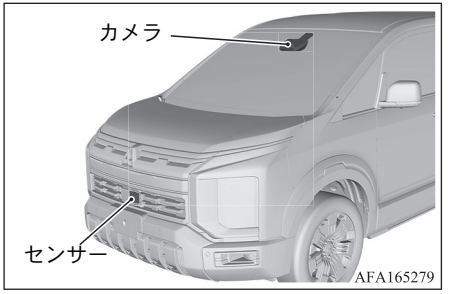
- 炎天下での駐車などでカメラまたはセンサーとその周辺の温度が極端に高くなったときに、「FCM 点検」が表示されることがあります。

カメラおよびセンサーの取り扱い

J10325500170

フロントガラス上部にカメラ、フロントグリル内側にセンサーが装備され、次のシステムで利用されます。

- 衝突被害軽減ブレーキシステム [FCM]
- 車線逸脱警報システム [LDW]
- オートマチックハイビーム [AHB]
- レーダークルーズコントロールシステム [ACC]
- 先行車発進通知 [LCDN]

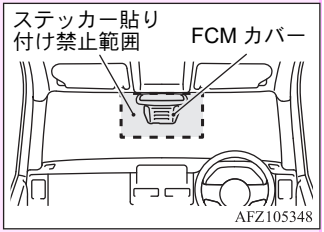


⚠注意

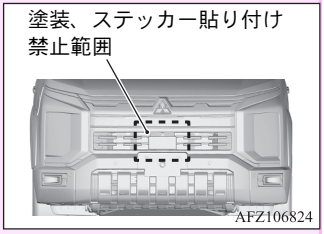
- システムの正しい作動のため、次のことをお守りください。取り扱いを誤ると、システムが正しく作動せず、重大な事故につながるおそれがあります。
  - カメラやセンサー周辺は常にきれいにする
    フロントガラスの内側が汚れたときは、三菱自動車販売会社にご連絡ください。
  - カメラやセンサーおよびその周辺に強い衝撃を与えない
  - カメラやセンサーおよびその周辺に金属製のものを取り付けない
  - カメラやセンサーを取り外したり、分解しない

⚠注意

- カメラおよび FCM カバー付近のフロントガラスに、ステッカー（透明なものを含む）や赤外線カットフィルムなどを貼らない



- FCM カバーは、塗装や改造をしない
- センサーおよびセンサー周辺にステッカー（透明なものを含む）を貼りつけたり、塗装や改造をしない



- センサー付近にナンバープレートやグリルガードなど取り付けない
- フロントガラスが曇った場合は、デフロスタースイッチを押して曇りを取り除く

⚠注意

- フロントガラスのカメラ前方部分をワイパーで適切に拭き取れない場合は、ワイパーブレードを早めに交換してください
  フロントワイパー本体、ワイパーブレードを交換する場合は三菱自動車純正品をご使用ください
- カメラ周辺やセンサー周辺が汚れた場合は、中性洗剤を薄めて、柔らかい布に含ませてふき取ります
  さらに乾いた柔らかい布でふき取ります
- センサー付近に電子機器またはアンテナなど強い電波を発信する機器を取り付けない
- 指定以外のサイズのタイヤを装着しない
  または、摩耗差の著しいタイヤを混ぜて装着しない
- サスペンションを改造しない
- ダッシュボードの上などに、白い紙や鏡などの反射するものを置かない

● カメラ付近のフロントガラスにひび割れや傷などがある状態では、システムが正しく作動せず、重大な事故につながるおそれがあります。FCM の ON/OFF を操作して FCM を停止させ、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。
フロントガラスの交換が必要な場合は、三菱自動車販売会社にご相談ください。

⚠注意

● 事故などでセンサーやセンサーの周辺が破損または変形した状態では、システムが正しく作動せず、重大な事故につながるおそれがあります。FCM の ON/OFF を操作して FCM を停止させ、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

先行車発進通知 [LCDN]

J10361100024

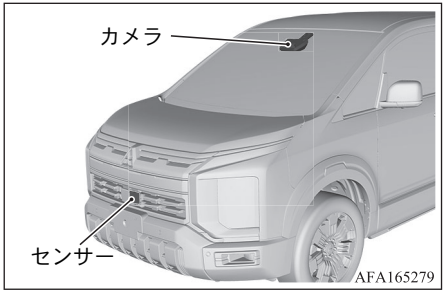
4

LCDN : Leading Car Departure Notification

先行車発進通知 [LCDN] は、自車と先行車が停止した後、先行車が発進しても自車が停止し続けた場合に、ブザー音とインフォメーション画面の表示で運転者にお知らせします。



LCDN は、フロントガラス上部のカメラおよびフロントグリル内側のセンサーにより、先行車までの距離を測定します。



4

⚠警告

●ブザー音とインフォメーション画面の表示で先行車発進通知があっても、周囲の状況を目視で直接確認して自車を発進させてください。
先行車発進通知のみに頼っていると、思わぬ事故につながるおそれがあるため、常に安全運転を心がけてください。

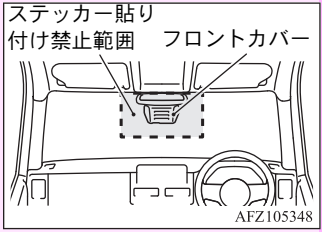
⚠注意

●以下の場合、LCDNが動作しない場合があります。
- 自車と先行車との車間距離が長いとき
- ドアまたはテールゲートが開いた状態のとき
- エンジンフード（ボンネット）が開いているとき
- 運転席のシートベルトをはずしたとき
- ハザードランプ（非常点滅灯）が点滅しているとき

⚠注意

- アクセルペダルを踏んだとき
- システムが作動した後に、自車が約10km/h未満の速度で走行したとき
- システムに異常があるとき

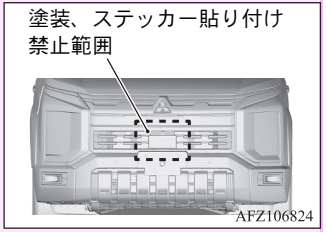
●システムの正しい作動のため、次のことをお守りください。取り扱いを誤ると、システムが正しく作動せず、重大な事故につながるおそれがあります。
- カメラやセンサー周辺は常にきれいにする
  フロントガラスの内側が汚れたときは、三菱自動車販売会社にご連絡ください
- カメラやセンサーおよびその周辺に強い衝撃を与えない
- カメラやセンサーおよびその周辺に金属製のものを取り付けない
- カメラやセンサーを取り外したり、分解しない
- カメラおよびフロントカバー付近のフロントガラスに、ステッカー（透明なものを含む）や赤外線カットフィルムなどを貼らない



- フロントカバーは、塗装や改造をしない

⚠注意

- センサーおよびセンサー周辺にステッカー（透明なものを含む）を貼りつけたり、塗装や改造をしない



- センサー付近にナンバープレートやグリルガードなど取り付けない
- フロントガラスが曇った場合は、デフロスタースイッチを押して曇りを取り除く
- フロントガラスのカメラ前方部分をワイパーで適切に拭き取れない場合は、ワイパーブレードを早めに交換してください
  フロントワイパー本体、ワイパーブレードを交換する場合は三菱自動車純正品をご使用ください
- カメラ周辺やセンサー周辺が汚れた場合は、中性洗剤を薄めて、柔らかい布に含ませてふき取ります
  さらに乾いた柔らかい布でふき取ります
- センサー付近に電子機器またはアンテナなど強い電波を発信する機器を取り付けない

⚠注意

- 指定以外のサイズのタイヤを装着しない
  または、摩耗差の著しいタイヤを混ぜて装着しない
- サスペンションを改造しない
- ダッシュボードの上などに、白い紙や鏡などの反射するものを置かない

● カメラ付近のフロントガラスにひび割れや傷などがある状態では、システムが正しく作動せず、重大な事故につながるおそれがあります。LCDN の ON/OFF を操作して LCDN を停止させ、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。
フロントガラスの交換が必要な場合は、三菱自動車販売会社にご相談ください。

● 事故などでセンサーやセンサーの周辺が破損または変形した状態では、システムが正しく作動せず、重大な事故につながるおそれがあります。LCDN の ON/OFF を操作して LCDN を停止させ、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

● 次のような場合は、作動が遅れたり、作動しないことがあります
- 先行車がオートバイなどの幅の狭い車両のとき
- 他車、歩行者、または自転車が自車と先行車の間に割り込んだり横切ったとき
- 先行車と自車の距離が極端に短いとき
- 先行車が自車に対して左右にずれているとき

⚠注意

- 先行車が右左折しているとき、車線変更しているとき、または急に曲がっているとき
- 先行車が極端に遅い速度で移動しているとき
- 勾配が急な坂道や急なカーブのある道路で停止しているとき
- でこぼこ道や悪路（未舗装道路など）で停止しているとき
- 車両が傾斜しているとき（後席やラゲッジルームに極端に重い荷物を積んでいるとき）
- ステアリングホイールが完全に左または右に大きく切れているとき
- 悪天候（雨、霧、雪、強風、砂嵐、吹雪など）のとき
- 先行車や対向車などにより水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき
- カメラ前方のフロントガラスに汚れ、油膜、水滴、氷、雪などが付着しているとき
- カメラの視界がさえぎられているとき（フロントガラスの汚れ、油膜、虫汚れ、ワイパーブレードなど）

LCDN の作動

LCDN は次のいずれかの条件を満たしているときに作動します。

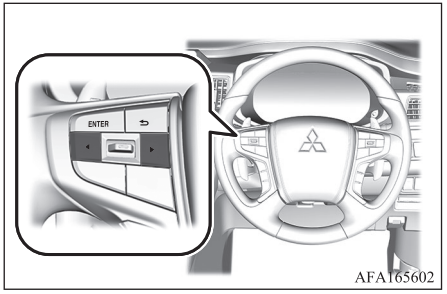
- セレクターレバーが、Pまたは R以外でブレーキペダルを踏んで停止しているとき
- セレクターレバーが、Pまたは R以外でブレーキオートホールドが作動しているとき
- レーダークルーズコントロール [ACC] で停止状態を保持しているとき

LCDN の設定方法

アドバイス

- 工場出荷時は、LCDNの設定はOFFになっています。
- エンジンスイッチの電源モードを OFF にしても、システムの作動状態（ON または OFF）を記憶しています。

LCDN の ON/OFF および先行車発進通知タイミングを切り換えるには、次の手順を行ってください。



1. マルチインフォメーションディスプレイスイッチの◀または▶を操作して、インフォメーション画面の表示を機能設定画面に切り換えます。
2. 上下スイッチを操作して「運転支援システム」を選択した後、ENTER スイッチを押します。
3. 上下スイッチを操作して「LCDN」を選択した後、ENTER スイッチを押します。
4. 上下スイッチを操作して「OFF」、「早い」、「標準」または「遅い」を選択して、ENTER スイッチを押します。

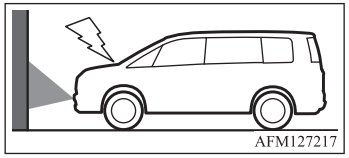
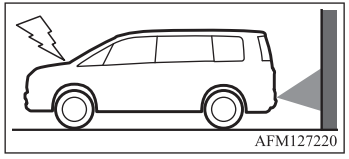
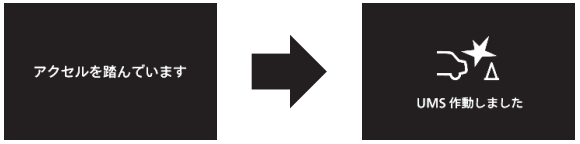
ENTER スイッチを押すことで、LCDN の設定を切り換えることができます。

- 先行車との発進通知タイミングは、「早い」、「標準」または「遅い」の 3 段階の設定ができます。
- OFFを選択するとLCDNはOFFになります。先行車発進通知タイミングを「早い」、「標準」または「遅い」を選択すると ON になります。

誤発進抑制機能（前進＆後退時）

J10325600070

停車～約 10km/h で前進または後退中に、進行方向の約 2.5m 以内に車両や障害物を検知している状態で、ペダルの踏み間違いなどによりアクセルペダルが素早く、かつ必要以上に踏み込まれたとシステムが判断したとき、エンジン出力を最大約 5 秒間抑制して急な発進を防止し、衝突時の被害を軽減します。
誤発進抑制機能が作動すると、インフォメーション画面に警告表示され、ブザーが断続的に鳴ります。

状況	警告表示	ブザー
セレクターレバーがⒹまたはⓂで車両前方に障害物を検知しているとき、アクセルペダルが素早く、必要以上に踏み込まれた場合、エンジン出力を約 5 秒間抑制  AFM127217 セレクターレバーがⓇで車両後方に障害物を検知しているとき、アクセルペダルが素早く、必要以上に踏み込まれた場合、エンジン出力を約 5 秒間抑制  AFM127220	 *UMS: Ultrasonic misacceleration Mitigation System（誤発進抑制機能）	断続的に鳴る

⚠警告

- 誤発進抑制機能を過信しないでください。システムに頼った運転はせず、アクセル操作には十分に気をつけて、常に周囲の状況を把握し安全運転を心がけてください。操作を誤ると重大な事故につながるおそれがあります。
- 誤発進抑制機能は、車両の停車状態を保持する機能はありませんので、周囲の状況に応じてブレーキペダルを踏んでください。

⚠警告

- 状況によっては、自車の前後に障害物があったとしてもシステムが作動せずに車両が急発進し、重大な事故につながるおそれがあります。
- 遮断機を障害物と検知してシステムが作動し踏み切り内に閉じ込められたときは、あわてずに次のいずれかの方法で踏み切り内から脱出してください。

⚠警告

- アクセルペダルから足を離し、軽く踏み直す。
- システムを OFF にする。（誤発進抑制機能OFFスイッチを3秒以上押し続ける。）
- アクセルペダルを 5 秒以上踏み続ける。
- アクセルペダルをいっぱいまで素早く 3 回以上踏み直す。

⚠警告

- システムの作動確認をお客様自身が行わないでください。状況によっては、システムが作動せず重大な事故につながるおそれがあります。

⚠注意

- 次のときは、誤発進抑制機能は作動しません。
  - エンジンスイッチの電源モードがON以外のとき
  - 誤発進抑制機能 OFF スイッチを操作して誤発進抑制機能を OFF にしているとき
  - セレクターレバーの位置がⓅまたはⓃのとき
  - 表示灯が点灯しているとき。
  - システムに異常が発生し、警告が表示されているとき
    →「警告表示」P.4-106
- 二輪車、自転車、歩行者などを障害物と検知することもありますが、これらは誤発進抑制機能の作動対象ではありません。
- 次のようなときは、誤発進抑制機能が作動しない場合があります。
  - センサーやその周辺を手で拭いたとき
  - センサーやその周辺にステッカーやアクセサリーを取り付けたとき

⚠注意

- 外気温が急激に変化する場所を走行しているとき（トンネルやガレージなど）
- 悪天候（雨、強風、雪、砂嵐など）のとき
- 障害物に接近しすぎたとき
- 近距離で自車前方または後方へ、他車に割り込まれたとき
- 自車が進路変更して障害物のすぐ後ろに接近したとき
- 障害物の一部しかセンサーの検知範囲内に入っていないとき
- 雨、雪、氷、汚れなどがセンサーに付着しているとき
- センサーが異常に高温または低温のとき（炎天下での駐車もしくは低外気温下での駐車）
- エンジン始動直後
- カーブが連続する道路、カーブの出入り口を走行しているとき
- 急な上り坂、下り坂を走行しているとき
- 路面がうねっていたり凹凸がある道路や砂利道を走行しているとき
- ハンドル、セレクターレバー操作を行っていて、システムが運転者の衝突回避操作と判断したとき
- アクセルペダルを数秒間隔で繰り返し踏み込み、システムが解除動作と判断した後しばらくの間
- 重い荷物の積載やタイヤ空気圧の調整不良などで、車両が著しく傾いているとき

⚠注意

- 事故や故障などで走行が不安定なとき
- センサーが外部からの超音波ノイズを受けたとき
  （他車のホーン、オートバイのエンジン、ブレーキ、ラジオ、豪雨、はね水、タイヤチェーンなどのノイズ）
- 地面に対して垂直でない障害物、車両進行方向に対して直角でない障害物、または凸凹な壁や波状の壁があるとき

- 誤発進抑制機能が作動している間に、ハンドル操作などをシステムが運転者の回避操作と判断したときや、障害物がセンサーの検知範囲外に移動したときは、誤発進抑制機能の作動が解除されることがあります。
- 次のような状況では誤発進抑制機能が作動してしまう場合があります。
  - 路面上に段差または障害物があるとき
  - 駐車場ゲートや踏切などの遮断機が上がりきらないとき
  - 路面の勾配が急に変化する場所を走行するとき
  - 水蒸気や霧の中を通過するとき
  - 前方車両に接近して走行するときや、前方または後方車両、壁ぎりぎりに接近して停車するとき
  - 周辺車両や対向車が路上の水や雪、砂などを巻き上げて走行しているとき
  - カーブや交差点に障害物があるとき
  - 縦列駐車から本線に合流するとき

⚠注意

- 他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、車両感知器、他車のソナーなど超音波を発生する物が付近にあるとき
- センサー付近に市販の電装品（字光式ナンバープレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
- 砂利道を走行するとき
- 周囲に草が生い茂っているとき

● 次のような状況では予期しない作動をするおそれがありますので、誤発進抑制機能OFFスイッチを押してシステムをOFFにしてください。

- 脱輪したときやぬかるみから脱出するとき
- 自動洗車機を使用するとき
- 車両用エレベーターや機械式駐車場を利用するとき
- リフトアップしてタイヤを空転させるとき
- けん引されるとき
- キャリアカーに積載するとき
- サーキットなどでスポーツ走行をするとき
- 整備工場などでシャシーダイナモメーターやフリーローラーなどを使用するとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき
- タイヤチェーンを装着しているとき

⚠注意

● システムの正しい作動のため、次のことをお守りください。センサーの検出性能を低下させるなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- センサー部に強い力や衝撃を与えない
- センサー部は常にきれいにする
- サンサー部にステッカーを貼り付けない
- サスペンションを改造しない

● センサーおよびセンサーの周辺をぶつけたときは、センサーが正しく機能しなくなりますので、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

障害物検出エリア

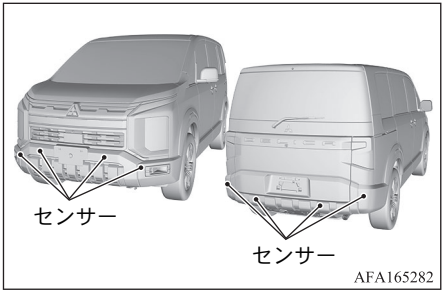
J10325700039

センサーの検出できるエリアには限りがあります。
また、低い位置にある障害物や厚さがない障害物、バンパーに近い障害物は検出できません。
必ず自分の目で安全を確認して運転してください。

センサーの位置

J10325800069

フロントバンパーとリヤバンパーに各 4 箇所ずつセンサーがあります。



⚠注意

● 次のような車両や障害物または状況においてはセンサーが検知できず、誤発進抑制機能が作動しない場合があります。

- トレーラーなどをけん引している車両
- 荷物を積んでいない貨物トレーラーなど
- 積荷が荷台から突き出している車両など
- 背が低い障害物など
- 最低地上高が極端に高い車両など
- 著しく汚れている車両
- 雪に覆われた車両や障害物など
- キャリアカーなど特殊な形状をした車両
- 標識や街灯などポール状の障害物
- 地上から高い位置に存在する障害物
- スポンジ状の物や雪などの表面が柔らかく音波を吸収しやすい障害物
- 鋭角的な形状の物

⚠注意

- 網目の大きいフェンス
- 表面に凹凸がある障害物
- 動いている物
- 周囲で大きな音が鳴っているときや超音波を発生する物があるとき（他の車両のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、車両感知器、他の車両のソナーなど）
- センサー付近に市販の電装品（字光式ナンバープレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
- 認識できる障害物と自車の間に認識できない障害物があるとき

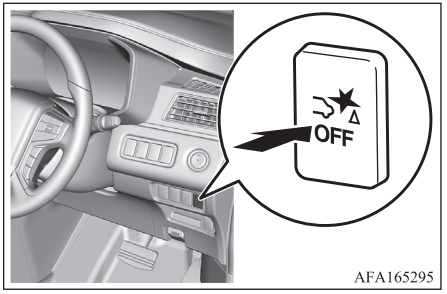
アドバイス

- バンパーの直下またはバンパーに近いところにある障害物は検出できません。また、障害物の高さがセンサーよりも低いときは、最初にセンサーが障害物を検出したとしてもその障害物を検出し続けることができない場合があります。

誤発進抑制機能の ON/OFF 作動切り換え

J10325900057

エンジンスイッチの電源モードを ON にすると、自動的に誤発進抑制機能は ON になります。



誤発進抑制機能OFFスイッチを押し続けると、表示灯が点灯し、システムがOFFになります。
もう一度誤発進抑制機能OFFスイッチを押すと表示灯が消灯し、システムがONになります。

警告表示

J10326000055

システムに異常があるときは、その状態によってインフォメーション画面に警告が表示されます。

フロントまたはリヤセンサーが一時的に使用できないとき

例：フロントとリヤ両方のセンサーが一時的に使用できないとき



警告が表示されたときは、周囲の状況やセンサーが高温または低温になったときなど、何らかの理由によりセンサーが一時的に使用できなくなっています。警告が表示し続けるときは、三菱自動車販売会社に相談してください。

フロントまたはリヤセンサーが汚れているときは

例：フロントとリヤ両方のセンサーに汚れが付着し、一時的に使用できないとき



警告が表示されたときは、フロントまたはリヤセンサーに汚れ、雨、雪、氷などが付着しているなど、何らかの理由によりセンサーが一時的に使用できなくなっています。汚れを取り除くと、表示は消えて、システムは自動的に再開します。警告が表示し続けるときは、三菱自動車販売会社に相談してください。

センサーまたはシステムに異常があるとき

例：フロントとリヤ両方のセンサーに異常があるとき



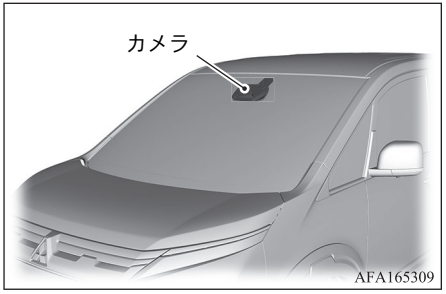
警告が表示されたときは、センサーまたはシステムに何らかの異常が発生しているため、誤発進抑制機能が正常に作動しません。ただちに三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

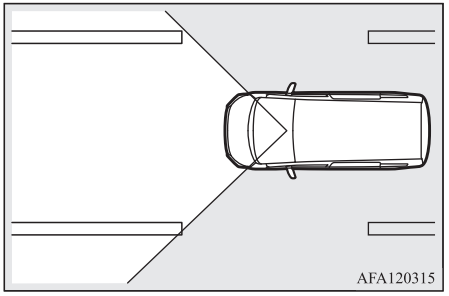
車線逸脱警報システム [LDW]

J10303400108

LDW: Lane Departure Warning

車線逸脱警報システム [LDW] は、カメラで走行車線（レーン）を認識し、走行車線を逸脱しそうな状況において表示と警告音で運転者に注意を促します。





⚠注意

- LDW には限界がありますので、機能を過信しないでください。
- 脇見運転やぼんやり運転などの前方不注意や悪天候などによる視界不良を補助するものではありませんので、常にハンドル操作をして進路を修正し、安全運転に心がけてください。

⚠注意

- 次のような環境下ではシステムが正しく作動できない場合があります。必要に応じてシステムを OFF にしてください。
  - 車線（白線、黄線）がかすれたり汚れたりして見えにくいとき
  - 雨、雪、霧、暗い場所、逆光などで車線が見えにくいとき
  - 検札所手前、料金所手前、合流地点、分岐地点など、車線が途切れるとき
  - 道路補修の消し残り線、影、残雪、雨のたまったわだちなど、車線と紛らわしい線が見えるとき
  - 高速道路などの本線（走行車線、追い越し車線）以外の車線を走行するとき
  - 工事による車線規制や仮設車線を走行するとき
  - 車線の幅が極端に狭いとき
  - 前方車両との車間距離が極端に短くなったとき（前方車両が車線の近くを走行して見えにくいとき）
  - 合流地点などで車線が複雑なとき
  - 車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
  - 2 重車線など特殊な車線を走行するとき
  - うねった道路や荒れた道路を走行するとき
  - 雨天時や積雪、凍結などで滑りやすい道路を走行するとき
  - トンネルなどの出入口などで、明るさが急激に変化するとき

⚠注意

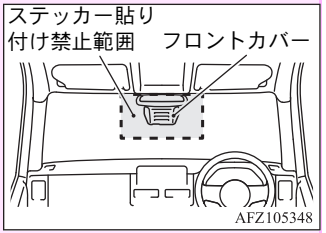
- 急なカーブのとき
- 逆光を浴びて路面が光っているとき
- タイヤ痕がある道路を走行するとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより自車が大きく揺れたとき
- ヘッドライトのレンズが汚れていたり、劣化などにより照射が弱いときや光軸がずれているとき
- 重い荷物の積載やタイヤ空気圧の調整不良などで、自車が著しく傾いているとき、またはキャッツアイ（道路鋲）や置き石などがあるとき
- 対向車のヘッドライトの光がカメラに入射したとき
- タイヤ、サスペンションの改造など、指定された部品以外を装着した場合（摩耗しているタイヤ、タイヤチェーンを装着しているとき）
- 雨、雪、汚れなどがフロントガラスに付着しているとき
- ダッシュボードの上などに、白い紙や鏡などの反射するものを置かない

● 使用環境を良い状態に保つために、次のことを守ってください。

- カメラおよびその周辺は常にきれいにする
  フロントガラスの内側が汚れたときは、三菱自動車販売会社にご連絡ください
- カメラおよびその周辺に強い衝撃を与えない

⚠注意

- カメラおよびその周辺に金属製のものを取り付けない
- カメラを取り外したり、分解しない
- カメラおよびフロントカバー付近のフロントガラスに、ステッカー（透明なものを含む）や赤外線カットフィルムなどを貼らない



- フロントカバーは、塗装や改造をしない
- フロントガラスが曇った場合は、デフロスタースイッチを押して曇りを取り除く
- フロントガラスのカメラ前方部分をワイパーで適切に拭き取れない場合は、ワイパーブレードを早めに交換してください
  フロントワイパー本体、ワイパーブレードを交換する場合は三菱自動車純正品をご使用ください

⚠注意

● カメラ付近のフロントガラスにひび割れや傷などがある状態では、システムが正しく作動せず、重大な事故につながるおそれがあります。LDW の ON/OFF を操作して LDW を停止させ、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。フロントガラスの交換が必要な場合は、三菱自動車販売会社にご相談ください。

LDW の作動

J10323100101

次のように作動表示が切り換わります。

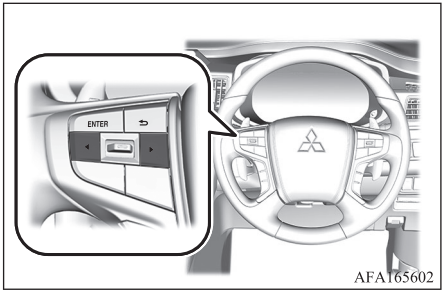
システムの ON/OFF

アドバイス

● エンジンスイッチの電源モードを OFF にしてもシステムの作動状態 (ON または OFF) を記憶しています。

エンジンスイッチの電源モードが ON のときに、システムの ON/OFF 状態を切り換えることができます。システムを ON にするとメーター内の表示灯 (白色) が点灯し、OFF にすると消灯します。

LDW の ON/OFF を切り換えるには、次の手順を行ってください。



1. マルチインフォメーションディスプレイスイッチの◀または▶を操作して、インフォメーション画面の表示を機能設定画面に切り換えます。
2. 上下スイッチを操作して「運転支援システム」を選択した後、ENTER スイッチを押します。
3. 上下スイッチを操作して「LDW」を選択し、ENTER スイッチを押して、LDW の「ON」または「OFF」を選択します。ENTER スイッチを押すことで、LDW のON/OFFを切り換えることができます。

システムの作動

次の条件がすべて成立すると、スタンバイの状態になり、車線を認識して車線から逸脱したときに警報を鳴らすことができる状態になります。

また、スタンバイの状態になるとメーター内の表示灯が白色から緑色に切り換わり、インフォメーション画面の車線表示が灰色から白色に切り換わります。

- 車速が約 61 ～ 144km/h のとき
- 方向指示レバーを操作していないとき
- 非常点滅灯が作動していないとき
- 自車の左右のどちらかの車線、または両方が認識できている環境のとき
- システムが ON の状態のとき

アドバイス

- 非常点滅灯が作動し終わった後、または方向指示レバーを戻した後、約 7 秒間は車線を逸脱してもシステムは作動しません。

車線逸脱警報

J10323200069

ブザーが断続的に鳴り、インフォメーション画面に「レーン逸脱」の警告が表示され、メーター内の表示灯（橙色）が点滅します。
また、インフォメーション画面の逸脱する方向の車線表示が橙色に点灯します。



アドバイス

- 約3秒以上警報作動し続けたとき、警報を停止します。
- 片側しか車線を認識していないときは、認識している方向へのみ車線逸脱警報が作動します。

警告表示

J10323300086

システムに異常があるときは、その状態によってインフォメーション画面に警告が表示され、メーター内の表示灯（橙色）が点灯します。

フロントガラスのカメラが汚れているときは

フロントガラスのカメラに汚れ、雨、雪、氷などが付着しているときは、一時的にシステムは働かなくなり、次の警告が表示されます。



フロントガラスの汚れを取り除くと、表示は消えて、システムは自動的に再開します。表示が消えない場合はカメラの異常の可能性がありますので、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

システムが一時的に作動できないときは

システムが何らかの異常を検知して、一時的に作動できないと判断したときは、次の警告が表示され、システムは自動的に停止します。





表示が消えない場合はシステムの異常の可能性がありますので、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

カメラが高温になったときは

炎天下に駐車したときなど、室内が高温になり、カメラが一時的に作動できない状態になったときは、次の警告が表示され、システムは自動的に停止します。



警告が表示された場合は、風を送ったり、デフロスターを使用したり、または車両を走らせてフロントガラスやカメラ周辺の温度を下げてください。

カメラの温度が規定の範囲内になると、表示は消えて、システムは自動的に再開します。
表示が消えない場合はカメラの異常の可能性がありますので、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

システムに異常があるときは

システムに異常があるときは、次のいずれかの警告が表示され、システムは自動的に停止します。
三菱自動車販売会社で点検を受けてください。





アドバイス

- 炎天下での駐車などでカメラとその周辺の温度が極端に高くなったときに、「LDW 点検」が表示されることがあります。
  カメラまたはその周辺の温度が規定の範囲内になっても、「LDW 点検」表示が消えない場合は、カメラの異常の可能性がありますので、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

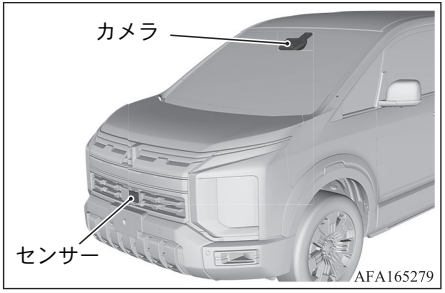
レーダークルーズコントロールシステム [ACC]

J10303200119

ACC: Adaptive Cruise Control System

レーダークルーズコントロールシステム [ACC] は、アクセルペダルを踏まなくても設定した車速で走行するとともに、カメラおよびセンサーを使用して前方車両との相対速度、相対距離を測定し、前方車両に近づけば減速して設定した車間距離を保って走行する機能です。ACC は高速道路や自動車専用道路での運転を快適にするための運転支援システムです。

ACC によるブレーキが作動したときは、制動灯（ブレーキランプ）が点灯します。車間距離制御を行わず、一定速で走行する「クルーズコントロール（自動定速走行装置）」も選択できます。
→「クルーズコントロールの使い方」P.4-124



⚠警告

- ACC を使用するときは、法定速度を守り、道路状況に合った適切な車速を設定してください。
- 安全運転を行う責任は運転者にあります。ACC を使用していても、常に周囲の状況を把握して、安全運転を心がけてください。

⚠警告

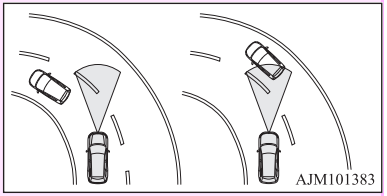
- ACC は、運転者の負担を軽減するシステムであり、自動的に運転したり、追突を防止する装置ではありません。また、脇見運転やぼんやり運転などの前方不注意を許容したり、雨・霧などの視界不良を補助するものではありません。周囲の状況に応じてブレーキペダルを踏んで減速するなど、常に安全運転に心がけてください。
- 前方車両の種類や状態、天候状況、道路状況によっては実際の状況を正確に検知できないことがあります。また、前方車両が急ブレーキをかけたときや他車が割り込んだときなどは十分な減速ができず、前方車両に接近することがあります。システムを過信して注意を怠ったり、誤った使い方をしたりすると、重大な事故につながるおそれがあるので、安全運転を心がけてください。

⚠注意

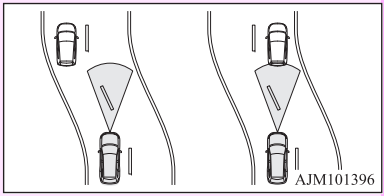
- 次のような状況では一時的に前方車両を検出できなくなったり、前方車両以外の物を検出して制御や警報が作動することがあります。

⚠注意

- カーブが連続する道路やカーブの出入り口を走行するとき（前方車両を認識できない場合や隣車線の車両を認識する場合があります）



- 工事による車線規制や仮設車線を走行するとき
- 車線内の自車と前方車両の横方向の位置関係や、ハンドルの操作状況、事故や故障で走行が不安定なとき
- 車線内の自車と前方車両の横方向の位置関係がずれる道を走行するとき



- 次のような状況では思わぬ事故につながることがあるのでACCを使用しないでください。
  - 交通量の多い道や急カーブ、曲がりくねった道

⚠注意

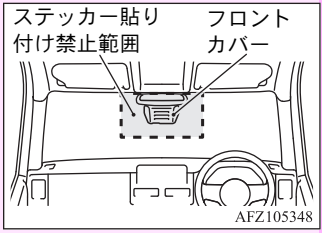
- 凍結路、積雪路または未舗装路など滑りやすい路面
- 悪天候（雨、雪または砂嵐など）のとき
- 急な下り坂
- 急な上り坂、下り坂や勾配の変化が激しい道
- 頻繁な加減速が必要な交通状況
- 頻繁に接近警報が鳴るとき
- けん引されるとき
- 整備工場などでシャシーダイナモメーターやフリーローラーなどを使用するとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき
- タイヤチェーンを装着しているとき

● システムの正しい作動のため、次のことをお守りください。取り扱いを誤ると、システムが正しく作動せず、重大な事故につながるおそれがあります。

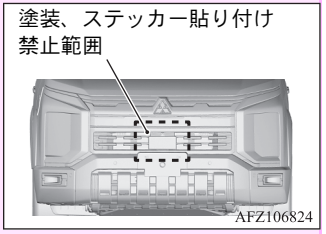
- カメラやセンサー周辺は常にきれいにする
  フロントガラスの内側が汚れたときは、三菱自動車販売会社にご連絡ください
- カメラやセンサーおよびその周辺に強い衝撃を与えない
- カメラやセンサーおよびその周辺に金属製のものを取り付けない
- カメラやセンサーを取り外したり、分解しない

⚠注意

- カメラおよびフロントカバー付近のフロントガラスに、ステッカー（透明なものを含む）や赤外線カットフィルムなどを貼らない



- フロントカバーは、塗装や改造をしない
- センサーおよびセンサー周辺にステッカー（透明なものを含む）を貼りつけたり、塗装や改造をしない



- センサー付近にナンバープレートやグリルガードなど取り付けない
- フロントガラスが曇った場合は、デフロスタースイッチを押して曇りを取り除く

⚠注意

- フロントガラスのカメラ前方部分をワイパーで適切に拭き取れない場合は、ワイパーブレードを早めに交換してください
  フロントワイパー本体、ワイパーブレードを交換する場合は三菱自動車純正品をご使用ください
- カメラ周辺やセンサー周辺が汚れた場合は、中性洗剤を薄めて、柔らかい布に含ませてふき取ります
  さらに乾いた柔らかい布でふき取ります
- センサー付近に電子機器またはアンテナなど強い電波を発信する機器を取り付けない
- 指定以外のサイズのタイヤを装着しない
  または、摩耗差の著しいタイヤを混ぜて装着しない
- サスペンションを改造しない
- ダッシュボードの上などに、白い紙や鏡などの反射するものを置かない

● カメラ付近のフロントガラスにひび割れや傷などがある状態では、システムが正しく作動せず、重大な事故につながるおそれがあります。ACC の ON/OFF を操作して ACC を停止させ、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。フロントガラスの交換が必要な場合は、三菱自動車販売会社にご相談ください。

⚠注意

- 事故などでセンサーやセンサーの周辺が破損または変形した状態では、システムが正しく作動せず、重大な事故につながるおそれがあります。ACC の ON/OFF を操作して ACC 停止させ、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

前方車両を検出していないときは

設定した車速で定速走行します。
設定できる車速範囲は約 30 ～ 135km/h です。

アドバイス

- 下り坂などで設定した車速を超えそうなときは、自動でブレーキが作動して速度を維持します。
- ACC によるブレーキ中にブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが固く感じられることがありますが、異常ではありません。さらに踏み込むことで踏み増すこともできます。
- ACC によるブレーキ中に音が聞こえることがありますが、ブレーキ制御によるものであり異常ではありません。

前方車両を検出しているときは

J10321700086

設定した車速を上限として、車速に応じた車間距離（車間時間）を保つように、必要に応じてブレーキも使用して車間制御を行い追従走行します。

表示タイプ 1



表示タイプ 2



前方車両が停車したときは、自車もそれに応じて停車して、停車保持状態になります。

停車保持状態中に前方車両の発進により追従走行が再開可能な状態になると、インフォメーション画面に「ACC 追従再開できます」が表示されます。このとき、RES+ スイッチまたはアクセルペダル操作にて自車が追従走行を再開します。



前方車両が停止している間は、RES+ スイッチを押すことで追従再開の設定が可能です。追従再開を設定した後、前方車両が再び発進すると、自動的に走行を開始します。追従再開を設定してから 3 秒以内に前方車両が動き出さない場合、車両は静止状態に戻ります。

⚠注意

- 停車保持状態中に自車を降りて離れるときは、電動パーキングブレーキをかけてセレクターレバーをⓅに入れてください。

アドバイス

- 停車保持状態中は制動灯 (ブレーキランプ) が点灯します。
- 停車保持状態中はスイッチ操作またはアクセルペダル操作を行ってもACCによる再発進はしません。
- 停車保持状態中はブレーキペダルを踏まなくても作動条件を満たせばオートストップ＆ゴー [AS&G] が作動します。

アドバイス

- ACC制御中に方向指示レバーを操作したときに、システムが前方車両の追い越しをすると判断した場合は、設定した車速を上限として加速制御を行います。（この機能は、後側方車両検知警報システム[BSW]（タイプ別装備）が、自車に接近している車両をセンサーが検知したときにも、同様に運転者に危険を知らせます。）
- 前方車両が停止後、約3秒以内に発進したときは自車も発進し、追従走行を再開します。

前方車両を検出していないときは、ブザーとともにインフォメーション画面と運転支援表示から前方車両表示が消え、設定した車速までゆっくりと加速し、再び定速走行を行います。

表示タイプ 1

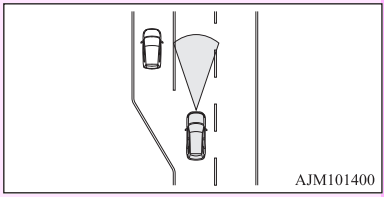


表示タイプ 2

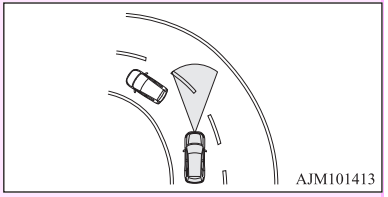


注意

- 次のような状況では、前方車両を検知して追従走行しているときでも、前方車両を検出できず、自車の設定車速まで自動的に加速することがあります。周囲の状況に応じてブレーキペダルを踏んで減速するなど、安全な速度で走行してください。
  - インターチェンジ、サービスエリアやパーキングエリアに進入するなど高速道路本線から出るとき



  - カーブを走行しているとき



- 前方車両を追従走行しているときは、前方車両が車線変更するなど検出できない状況になると、前方車両より先にいる停車車両に対しては減速制御は行いません。周囲の状況に応じてブレーキペダルを踏んで減速するなど、安全な速度で走行してください。

接近警報

J10321800045

ACC制御中に、前方車両が急激に減速した場合や他車の割り込みにより十分な減速ができず前方車両に接近したときは、ブザーとともにインフォメーション画面に警告が表示され、運転者に注意を促します。
ブレーキペダルを踏み、適切な車間距離を保持してください。



注意

- ACC 未使用時はシステムを OFF にしてください。
  誤って ACC を作動させてしまい、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 車外からACCの操作を行うことは絶対にしないでください。
- 次のような状況ではACC制御や接近警報は行いません。
  - 歩行者など車両以外の物に接近したとき
  - システムに異常があるとき（システムが異常を検知した場合は、「ACC 点検」が表示されます）

⚠注意

- ACC　　が一時的に利用できないとき（「ACC 一時使用できません」が表示されます）
- センサーやカメラの周辺が汚れているとき（「運転支援用レーダ汚れ」または「運転支援用カメラ一時使用できません」が表示されます）

● 停車中または非常に速度が遅い車両に接近したときは、警報のみが働き、加減速制御を行いません。

● 次のような状況では前方車両を正確に検出できず、車間距離を適切に維持できない場合や、接近警報が作動しないことがあります。ブレーキペダルを踏み、適切な車間距離を維持してください。

- 近距離で前方車両に割り込まれたとき
- 前方車両が自車と左右にずれているとき
- 前方車両がトレーラーなどをけん引しているとき
- 自車より極端に遅い車両に接近したときなど
- 二輪車、自転車などに接近したとき
- 荷物を積んでいない貨物トレーラーなどに接近したとき
- 積荷が荷台から突き出ている車両などに接近したとき
- 車高の低い車両などに接近したとき
- 最低地上高が極端に高い車両などに接近したとき

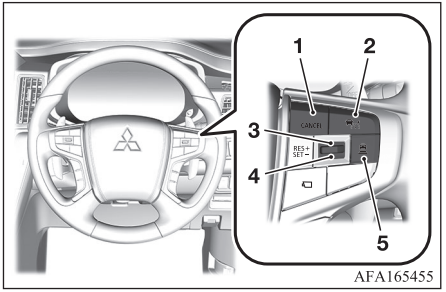
⚠注意

- 急な上り坂、下り坂が繰り返される道を走行しているとき
- 路面がうねっていたり、凹凸があるとき
- トンネル内を走行しているとき
- 後席やラゲッジルームに極端に重い物を積んだとき
- エンジン始動後に走行してからしばらくの間
- カーブが連続する道路やカーブの出入り口を走行するとき
- カメラやセンサーに汚れ、雪、氷などが付着した場合 *
- 前方車両や対向車が路上の水や雪、砂などを巻き上げて走行しているとき *
- 電子機器またはアンテナなどから強い電波を受信したとき *

*: これらの状況などで検出低下や ACC が作動できない状態を判定した場合、ACC が自動的にキャンセルされた後、ブザーとともにインフォメーション画面に警告が表示され、運転者に注意を促します。
ACCが作動できる状態になると警告表示は消えます。
警告表示が消えない場合は、システムの異常の可能性があります。三菱自動車販売会社にご連絡ください。

クルーズコントロールスイッチ

J10321900046



AFA165455

1- CANCEL スイッチ
ACC またはクルーズコントロールの制御をキャンセルするときに使います。

2- ACC ON/OFF スイッチ
ACC またはクルーズコントロールを ON/OFF します。

3- RES ＋スイッチ
一度設定した速度で動作させたり、設定した車速を上げたりするときに使います。

4- SET －スイッチ
希望する速度に設定したり、設定した速度を下げたりするときに使います。

5- ACC 車間設定スイッチ
前方車両との車間距離の設定を変更するときに使います。

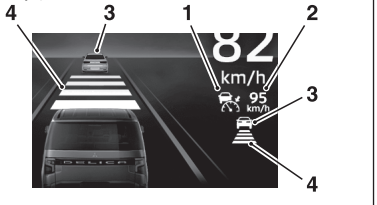
アドバイス

- クルーズコントロールスイッチを操作するときは、個々のスイッチを確実に押してください。複数のスイッチを同時に押すと、ACC が OFF または制御がキャンセルされることがあります。

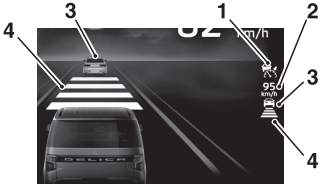
ACC インフォメーション画面

J10322000057

表示タイプ 1



表示タイプ 2



1- ACC インジケーター
ACC が ON になっていることを示します。

2- 設定車速
目標車速を表示します。
目標車速を設定したときに、スピードメーターに目標車速マーカーが表示されます。(表示タイプ 1)

3- 前方車両表示
ACC が前方車両を認識しているときに表示します。
次のように前方車両検知と前方車両未検出で表示が異なります。

表示	状態	
	前方車両検知	前方車両未検出
インフォメーション画面		表示なし

表示	状態	
	前方車両検知	前方車両未検出
運転支援表示		

4- 車間設定表示
前方車両との距離設定を表示します。

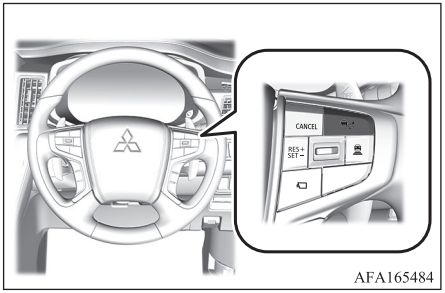
状態	
インフォメーション画面	運転支援表示
	
	
	
	

使い方

J10322100087

システムを起動（スタンバイ）するときは

エンジンスイッチの電源モードが ON の位置で、ACC ON/OFF スイッチを押すと、ACC が ON になります。



ACC が ON になると、インフォメーション画面と運転支援表示にACCスタンバイの状態が表示されます。
スタンバイ状態ではACC制御は開始しません。

表示タイプ 1



表示タイプ 2

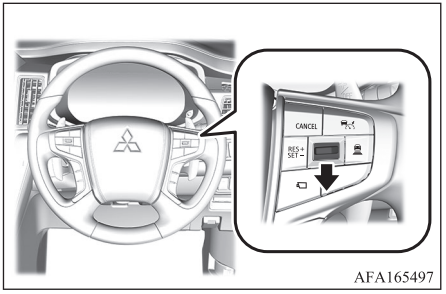


アドバイス

- エンジンスイッチの電源モードをOFFにして再度電源モードをONにしたときは、ACC は OFF になります。

制御を開始するときは

ACC が ON（スタンバイ）状態のとき SET −スイッチを押し下げます。
設定したい車速でSET −スイッチを離すと、車速が設定され、ACC 制御が開始します。



設定車速はインフォメーション画面に表示されます。
設定できる車速範囲は約 30 ～ 135km/h です。
前方車両を検出しているときは約 0 ～ 30km/h でも制御は開始できますが、このときは設定車速は 30km/h に設定されます。
上記車速の範囲外で操作しても制御は開始しません。
ACC 制御が開始すると、ACC インジケーター、設定車速、前方車両表示や車間設定表示が緑色に変わり、インフォメーション画面と運転支援表示の設定車間表示や前方車両表示が制御中表示に切り換わります。（前方車両を検出しているときのみ）

表示タイプ 1



表示タイプ 2



ACC がスタンバイ状態で、ブレーキペダルを踏んで停車し前方車両を検出しているとき、SET －スイッチを押し下げるとインフォメーション画面に「ACC 追従再開できます」が表示され、車速が 30km/h に設定されます。



アドバイス

- 次のときは、制御開始できません。このときブザーが鳴ります。
  - 車速が約 135km/h 以上のとき
  - 車速が約 0 ～ 30km/h で前方車両を検出していないとき
  - ASC が OFF のとき

アドバイス

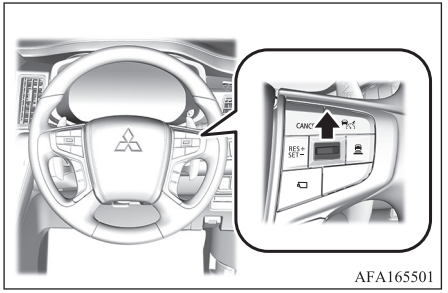
- ABS、ASC、トラクションコントロール、FCM または HDC が作動中
- セレクターレバーがⒹまたはⓂ以外の位置のとき
- 走行中にブレーキペダルを踏んでいるとき
- 電動パーキングブレーキがかかっているとき
- センサーおよびセンサー周辺に汚れが付着しているときや、電子機器またはアンテナなど強い電波を発信する機器などからの電波干渉により、検出性能低下を自動的に判定している場合
- システムに異常があるとき
- 運転席のシートベルトを着用していないとき
- 運転席のドアが開いたとき
- 急な斜面で停車しているとき
- エンジンが停止しているとき
- エンジン始動後の経過時間が7秒未満のとき

設定車速を上げるときは

RES ＋スイッチで設定車速を上げる

ACC 制御中に RES ＋スイッチを一回押し上げると設定車速が1km/h上昇します。

また、RES ＋スイッチを押し上げ続けると、設定車速が 5km/h 間隔で上昇します。



⚠注意

- 設定車速は状況に応じた適切な車速を設定してください。

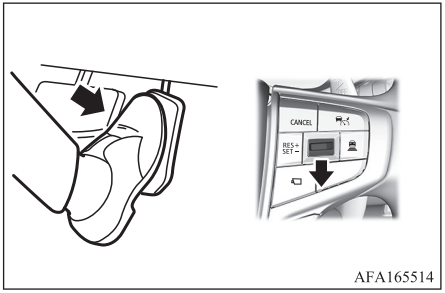
アドバイス

- 実際の車速が設定した車速になるまでには時間差があります。
- 停車保持状態では車速の設定はできません。

アクセルペダルで加速する

ACC 制御中にアクセルペダルを踏むと一時的に加速することができます。

設定したい車速まで加速して、SET －スイッチを押し下げて離すと、そのときの車速が設定車速に設定されます。



⚠注意

- アクセルペダルを踏んでいる間はブレーキ制御や警報は行いません。

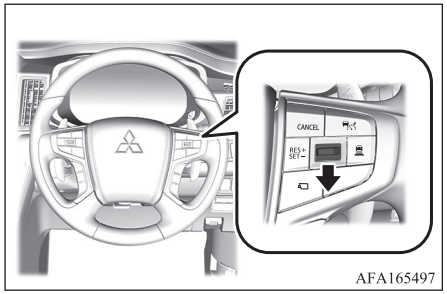
アドバイス

- アクセルペダルを踏んでいる間は設定車速表示が灰色に変わります。
- アクセルペダルを離せば、元の設定車速で再び ACC 制御状態に戻ります。ただし、状況によっては、アクセルペダルを離した後一定時間、ブレーキ制御や警報が働かないことがあります。
- アクセルペダルを踏んでいる間は設定車速の調整はできません。

設定車速を下げるときは

SET －スイッチで設定車速を下げる

ACC 制御中に SET －スイッチを一回押し下げると設定車速が1km/h減少します。また、SET －スイッチを押し下げ続けると、設定車速が 5km/h 間隔で減少します。



⚠注意

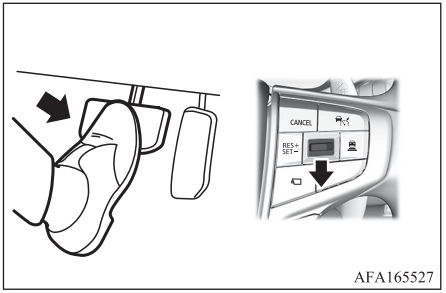
- 設定車速は状況に応じた適切な車速を設定してください。

アドバイス

- 実際の車速が設定した車速となるまでには時間差があります。
- 停車保持状態中では車速の設定はできません。

ブレーキペダルで減速する

ACC 制御中にブレーキペダルを踏むと制御はキャンセルされ、減速することができます。
設定したい車速まで減速して、SET －スイッチを押し下げると、そのときの車速が設定車速に設定されます。



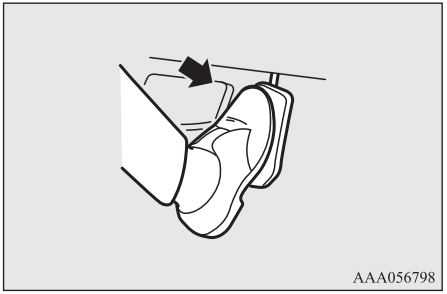
アドバイス

- ブレーキペダルを一度踏むと、ACC 制御はキャンセルされ、ペダルを離しても ACC 制御状態には戻りません。

一時的に車速を上げるときは

アクセルペダルを踏み込めば、一時的に車速を上げることができます。

アクセルペダルを離せば、自動的に元の設定車速に減速してACC制御を再開します。



⚠注意

- アクセルペダルを踏んでいる間はブレーキ制御や警報は行いません。
- 設定車速は状況に応じた適切な車速を設定してください。

アドバイス

- アクセルペダルを踏んでいる間は設定車速表示が灰色に変わります。
- 状況によっては、アクセルペダルを離した後一定時間、ブレーキ制御や警報が働かないことがあります。
- アクセルペダルを踏んでいる間は設定車速の調整はできません。

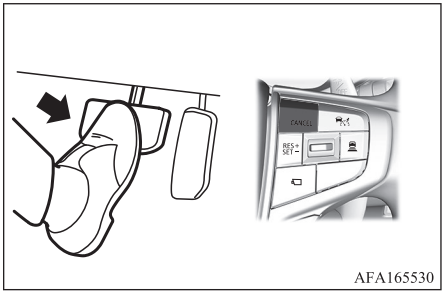
制御を終了するとき

J10322200075

制御のキャンセル

ACC 制御中に次のいずれかの操作をすると、ACC 制御はキャンセルされ、スタンバイ状態になります。
制御開始条件が再び成立すれば、SET －またはRES ＋スイッチで制御開始できます。

- CANCEL スイッチを押す
- ブレーキペダルを踏む（停車保持状態を除く）



アドバイス

- ACC ON/OFF スイッチを押しても ACC 制御をキャンセルできます。
  このとき、ACC は OFF になります。

アドバイス

- CANCEL スイッチまたは ACC ON/OFF スイッチを押して停車保持状態を解除した場合は、電動パーキングブレーキが自動的に作動し、車両は停止します。

ACC 制御がキャンセルされスタンバイ状態になると、ACC インジケーター、設定車速、前方車両表示や車間設定表示が灰色に変わり、インフォメーション画面と運転支援表示の車間設定表示や前方車両表示（前方車両を検出しているときのみ）がスタンバイ表示に切り換わります。

表示タイプ 1



表示タイプ 2



また、次のような状況では、ブザーとともにインフォメーション画面に警告が表示され ACC 制御は自動的にキャンセルし、ACC スタンバイ状態となります。



- ASC を OFF にしたとき
- ABS、ASC、トラクションコントロール、FCM または HDC が作動したとき
- 電動パーキングブレーキをかけたとき
- セレクターレバーがⒹまたはⓂ以外の位置のとき
- 運転席のシートベルトを外したとき
- 運転席のドアが開けられたとき
- 停車保持状態中に前方車両を見失ったとき
- 停車保持状態が 3 分以上経過したとき
- 急な斜面で停車保持状態中に車両が動き出したことを ACC が検出したとき
- ハンドルをいっぱいに回したとき
- 急ハンドルを行ったとき
- エンジンが停止しているとき

ACC 制御で停車保持状態のときは、電動パーキングブレーキが作動し停車を維持します。



ACC 制御の開始条件が再び成立すれば、SET －または RES ＋スイッチで ACC 制御を開始できます。

前方車両に追従停車をするとき、急な坂道により停車保持状態を続けることができないと判断した場合、停車保持状態が自動的にキャンセルされます。このとき、インフォメーション画面に警告が表示され、運転者に注意を促します。
ブレーキペダルを踏んで停車してください。



⚠警告

- セレクターレバーをⓃにしても ACC は自動的に終了しますが、走行中はセレクターレバーをⓃに入れないでください。加減速制御が機能せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ACC の検出性能低下や一時的に作動できない状態を自動的に判定したときは、ACC 制御が自動的にキャンセルされ、ブザーとともにインフォメーション画面に警告を表示して、運転者に注意を促します。
この表示は、ACC が一時的に使用できない状態になったときに表示されます。



次のような状況で、ACC の検知性能が低下したと判断したときは、ACC 制御は一時的に停止します。

- カメラやセンサーに汚れ、雨、雪、氷などが付着しているとき
- 悪天候（雨、雪、砂嵐など）のとき
- 前方車両や対向車が路上の水や雪、砂などを巻き上げて走行しているとき
- 交通量が少なく、前方車両や障害物が少ない道路を走行するとき
- 違法無線、電線からの火花、レーダー局などから、非常に強い電磁波を受信したとき

このとき、次の警告が表示されます。



ACC が作動できる状態になると、警告表示は自動的に消えます。
警告表示が消えない場合はシステムの異常の可能性があります。三菱自動車販売会社にご連絡ください。

4

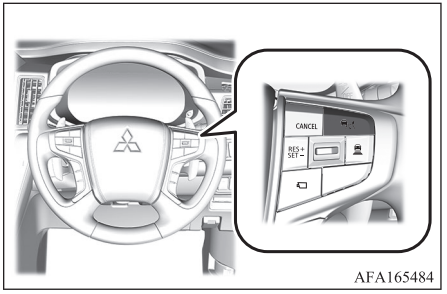
システムに異常があるとき、ACC 制御は自動的にキャンセルされ、システムが OFF となります。このとき、ブザーとともにインフォメーション画面に警告が表示されます。

エンジンスイッチの電源モードを OFF から ON にしても再び表示される場合、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。



ACC を OFF にする

ACC が ON 状態で ACC ON/OFF スイッチを押すと ACC は OFF になります。



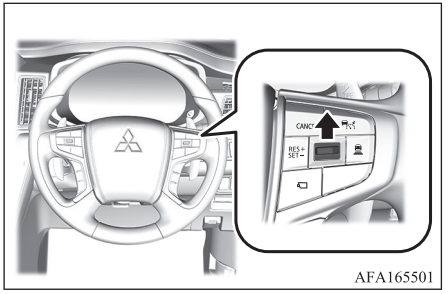
アドバイス

- ACC 制御中でも制御を停止して ACC は OFF になります。
- ACCをOFFまたはエンジンスイッチの電源モードを OFF にすると設定車速はリセットされます。
- エンジンスイッチの電源モードをOFFにして再度エンジンスイッチの電源モードを ON にしたときは、ACC は OFF になります。

制御を再開するときは

J10322300063

CANCEL スイッチやブレーキペダルで制御をキャンセルした後（ACC スタンバイ状態）、RES ＋スイッチを押し上げると、表示されているキャンセル前の設定車速で ACC 制御を再開します。



停車保持状態中にACCが前方車両の発進により追従再開可能な状態になると、インフォメーション画面に「ACC 追従再開できます」が表示されます。このとき、RES+ スイッチを押すと、追従再開が設定され、前方車両が 3 秒以内に再発進すると、自動的に走行を開始します。
追従再開を設定した後、3 秒以上前方車両が再発進しない場合、車両は停車保持状態に戻ります。



アドバイス

- 制御を再開できる条件は、制御開始の条件と同じです。

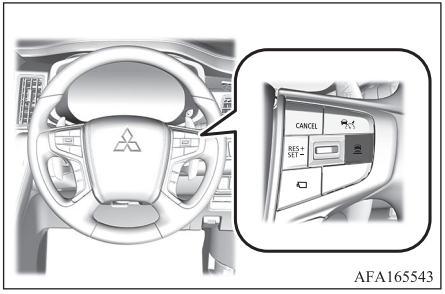
アドバイス

- ブレーキペダルを踏んでいるときに、ドライバーがスイッチ操作をしたときは、車両は再発進しません。

設定車間距離を変更するときは

J10322400064

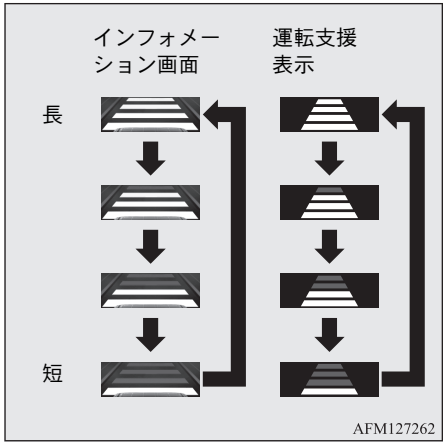
ACC 車間設定スイッチを押すごとに設定車間距離が「長」から「短」へ順に切り換わり、「長」に戻ります。ACC を OFF またはエンジンスイッチの電源モードを OFF にしても設定は保持されます。



アドバイス

- 車間距離は車速に応じて変化し、車速が高いほど長くなります

設定車間距離



ACC を使用せずにクルーズコントロール（自動定速走行装置）を起動するときは

J10339200048

エンジンスイッチの電源モードが ON で ACC が OFF のとき、ACC ON/OFF スイッチを押し続けると、クルーズコントロールが起動します。

メーター内のクルーズコントロール表示灯（灰色）が点灯します。

表示灯



エンジンスイッチの電源モードを OFF にするとクルーズコントロールは OFF になります。

⚠注意

- クルーズコントロールは、前方車両に対する接近警報や車間距離制御を行いません。

アドバイス

- 次のような状況では、クルーズコントロールは自動的にキャンセルされます。
  - ASC を OFF にしたとき
  - ABS、ASC、トラクションコントロール、FCM または HDC が作動したとき
  - 電動パーキングブレーキをかけたとき
  - セレクターレバーがⒹまたはⓂ以外の位置のとき
  - 運転席のシートベルトを外したとき
  - 運転席のドアが開けられたとき
  - エンジンが停止しているとき
  - ハンドルをいっぱいに回したとき

アドバイス

・急ハンドルを行ったとき

クルーズコントロールの使い方

J10339400037

クルーズコントロールはアクセルペダルを踏まずに一定のスピード（約 30 ～ 120km/h）で定速走行する装置です。

⚠警告

●クルーズコントロールを使用するときは、法定速度を守り、道路状況に合った適切な車速を設定してください。

⚠注意

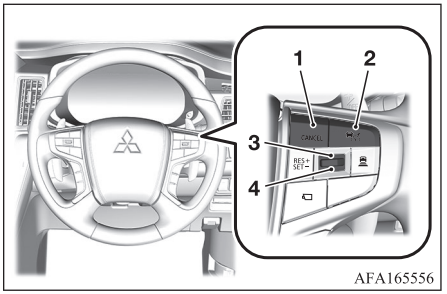
●次のような道路では安全のため、使用しないでください。
・交通量が多く車間距離が十分取れない道路
・急なカーブや見通しの悪い道路
・滑りやすい道路（凍結路、積雪路、砂利路またはぬれた道路）
・長い急な下り坂
●定速走行しないときは、安全のためクルーズコントロール機能を停止してください。

アドバイス

●上り坂や下り坂では、状況により一定の速度を保てない場合があります。
●急な上り坂では、設定した車速を下回ることがあります。
このような場合は、アクセルペダルを踏んで希望の車速まで加速してください。
●急な下り坂では、設定した車速を上回ることがあります。ブレーキペダルを踏んで減速してください。この場合、定速走行は終了します。

クルーズコントロールスイッチ

J10339500038



1- CANCEL スイッチ
定速走行を終了するときに使用します。

2- クルーズコントロール ON/OFF スイッチ
クルーズコントロール機能を作動または停止するときに使用します。

3- RES ＋スイッチ
設定車速を上げたり、定速走行を終了した後、元の設定車速に戻すときに使用します。

4- SET －スイッチ
設定車速を下げたり、定速走行する車速を設定するときに使用します。

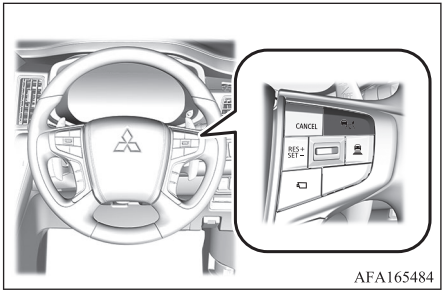
アドバイス

●クルーズコントロールスイッチを操作するときは、個々のスイッチを確実に押してください。
2 個以上のスイッチを同時に押すと、定速走行が自動的に終了することがあります。

希望車速を設定し、定速走行するときは

J10339700030

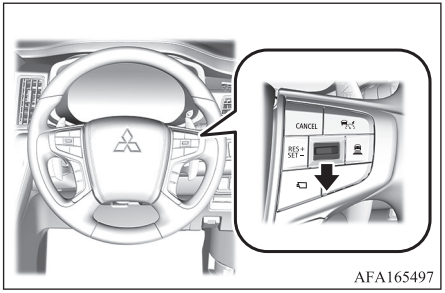
1. エンジンスイッチの電源モードが ON の状態のときに、クルーズコントロールON/OFFスイッチを押し続けるとクルーズコントロール機能が作動し、メーター内のクルーズコントロール表示灯（灰色）が点灯します。



表示灯



2. 希望する車速まで加速または減速し、SET −スイッチを押し下げて手を離すと、メーター内のクルーズコントロール表示灯が緑色に切り換わり定速走行が開始されます。



表示灯



アドバイス

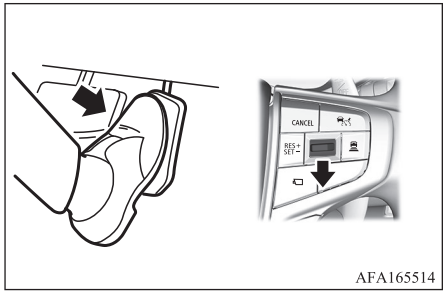
- スイッチから手を離したときの車速が設定されます。
- エンジンを止めるとクルーズコントロール機能は自動的に停止します。

設定車速を変更するときは

J10339800031

■アクセルペダルを使って

希望する車速まで加速し、SET −スイッチを押し下げて手を離します。

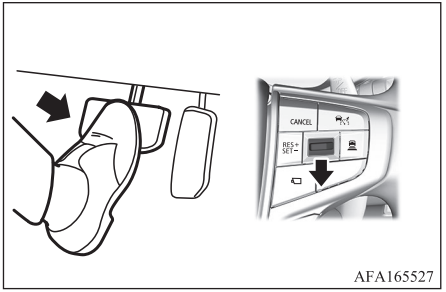


アドバイス

- スイッチから手を離したときの車速が設定されます。

■ブレーキペダルを使って

希望する車速まで減速し、SET −スイッチを押し下げて手を離します。



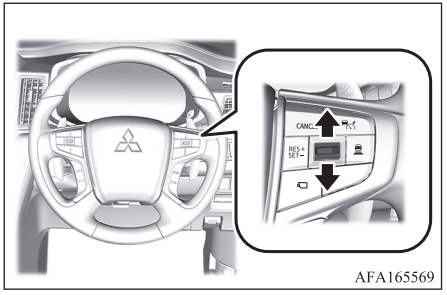
アドバイス

- スイッチから手を離したときの車速が設定されます。

4

■クルーズコントロールスイッチを使って

RES ＋スイッチを押し上げ、または SET －スイッチを押し下げ続け、希望する車速になったら手を離します。



AFA165569

1- 加速したいとき
2- 減速したいとき

アドバイス

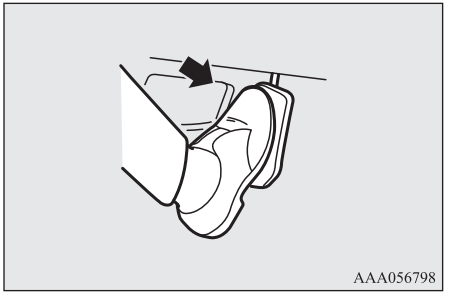
- スイッチから手を離したときの車速が設定されます。
- RES ＋スイッチを押し上げ、または SET －スイッチを押し下げてすぐに手を離すと、設定車速を約 1km/h ずつ微調整することができます。

一時的に加速または減速したいときは

J10339900032

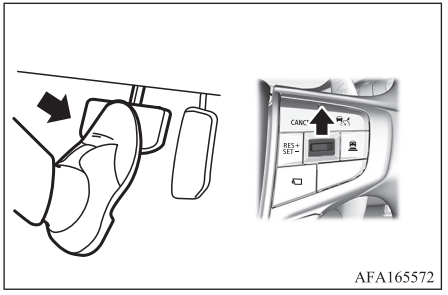
■一時的に加速したいときは

アクセルペダルを踏んで加速します。
アクセルペダルから足を離すと自動的に元の設定車速に戻ります。


AAA056798

■一時的に減速したいときは

ブレーキペダルを踏んで減速します。
元の設定車速に戻すときは、RES ＋スイッチを押し上げます。
→「定速走行終了前の設定車速に戻すときは」P.4-127



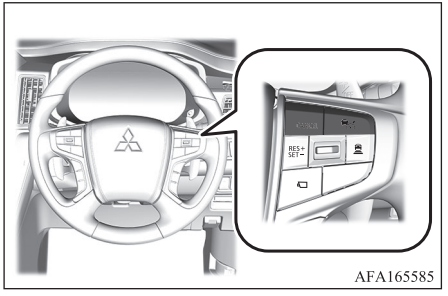
AFA165572

定速走行を終了するときは

J10340000033

次のいずれかの操作で定速走行が終了します。

- クルーズコントロールON/OFFスイッチを押す
- CANCEL スイッチを押す
- ブレーキペダルを踏む



AFA165585

また、次の場合も自動的に定速走行が終了します。

- 設定した速度より車速が約 15km/h 以上遅くなったとき
- 車速が約 30km/h 以下に減速したとき
- ASC が作動したとき
  →「アクティブスタビリティコントロール [ASC]」P.4-159

⚠警告

- セレクターレバーをⓃにしても定速走行は自動的に終了しますが、走行中はセレクターレバーをⓃに入れないでください。エンジンブレーキが効かなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

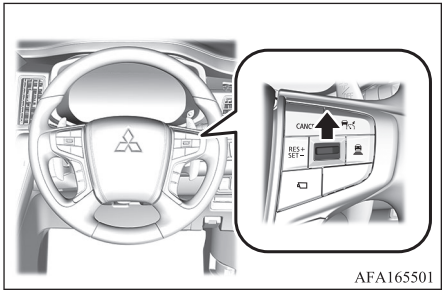
アドバイス

- 上記以外のときに定速走行が自動的に終了した場合は、クルーズコントロールに何らかの異常が発生していると考えられます。
  クルーズコントロール ON/OFF スイッチを押してクルーズコントロール機能を停止し、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

定速走行終了前の設定車速に戻すときは

J10340100034

定速走行を終了した後でも車速が約 30km/h 以上であれば、RES ＋スイッチを押し上げることにより、メーター内のクルーズコントロール表示灯（緑色）が点灯し元の設定車速に戻すことができます。



AFA165501

表示灯



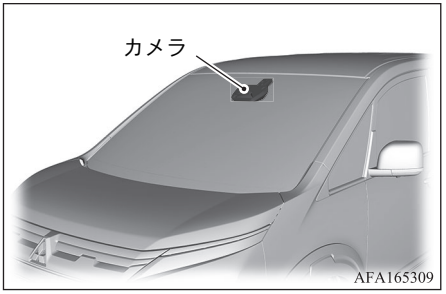
ただし、次の場合は RES ＋スイッチを押し上げても、元の設定車速に戻すことはできません。もう一度車速を設定し直してください。

- エンジンを止めたとき
- クルーズコントロールON/OFFスイッチを押したとき
- 車速が約 30km/h 以下に減速したとき
- クルーズコントロール表示灯が消灯しているとき

オートマチックハイビーム [AHB]

J10337600136

オートマチックハイビーム [AHB] は、カメラにより先行車または対向車のランプや街路灯などの明るさを検知して、自動的にヘッドライトの上向き（ハイビーム）または下向き（ロービーム）の切り換えを行います。



AFA165309

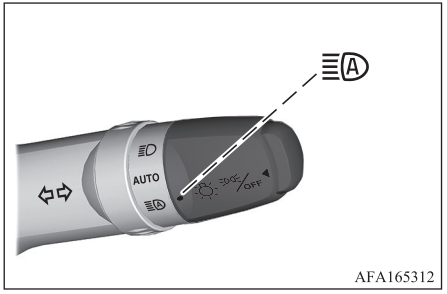
⚠警告

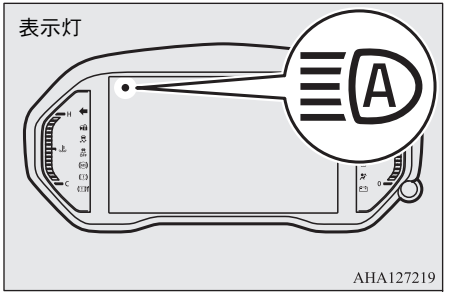
- 状況によっては、ハイビームとロービームが自動で切り換わらない場合があります。システムを過信せず、周囲の状況に応じて手動でハイビームとロービームを切り換えてください。
  →「ライトスイッチ：上下切り換え」P.4-81

使い方

AHB を ON にする

ライトスイッチが AUTO の位置でヘッドライトが点灯しているときに、AHB の位置に回すと、AHB が ON になります。
メーター内の AHB 表示灯が点灯します。





AHB を OFF にする

ライトスイッチを AHB の位置に回すと、AHB 表示灯が消灯し、システムが OFF になります。

アドバイス

- ライトスイッチは、AHB の位置に回しても手を離すと自動で AUTO の位置に戻ります。
- オートライトコントロール機能によりヘッドライトが点灯しているときのみ、AHB が作動します。

アドバイス

- AHB が作動しているときでも、方向指示レバーを操作して手動でハイビームとロービームを切り換えることができます。
  →「ライトスイッチ：上下切り換え」P.4-81
  ライトスイッチを手動操作した場合、AHB 表示灯が消灯し、システムは OFF になります。
  →「手動での上下切り換え方法」P.4-130
- AHB が作動しているときは、方向指示レバーを軽く引く操作では AHB は OFF になりません。

自動切り換えの条件

次の条件がすべてそろったときに、ハイビームが点灯します。

- 自車の速度が約 30km/h 以上のとき
- 車両の前方が暗いとき
- 先行車または対向車がいない、またはランプを点灯していないとき

次の条件のいずれかのときは、ロービームが点灯します。

- 自車の速度が約 25km/h 以下のとき
- 車両の前方が明るいとき

●先行車または対向車がランプを点灯しているとき

アドバイス

●次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切り換わらない場合があります。
- 連続するカーブや中央分離帯、標識、街路樹などで先行車または対向車が見え隠れするとき
- 見通しの悪いカーブなど、突然対向車とすれ違ったとき
- 他車が前方を横切ったとき

●街路灯や信号、広告などの照明や標識、看板などの反射物により、ハイビームがロービームに切り換わる場合や、ロービームが継続する場合があります。

●次の原因により、ハイビームとロービームの切り換えのタイミングが変化する場合があります。
- 先行車または対向車のランプの明るさ
- 先行車または対向車の動きや向き
- 先行車または対向車のランプが片側のみ点灯しているとき
- 先行車または対向車が二輪車のとき
- 道路の状況（勾配やカーブ、路面状況など）
- 乗車人数や荷物の量

●AHB は車両前方のランプの明るさなどで周囲の状況を認識するため、ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切り換わる場合があります。

アドバイス

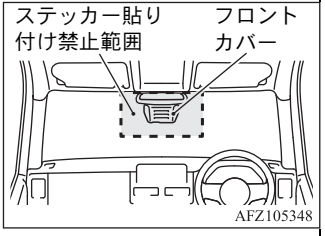
●自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

●次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが先行車や対向車の迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切り換えてください。
- 悪天候のとき（大雨、霧、雪、砂嵐など）
- フロントガラスが汚れているときや、曇っているとき
- フロントガラスにひび割れや破損があるとき
- カメラが変形しているときや、汚れているとき
- 周囲にヘッドライトや尾灯などに似た光があるとき
- 先行車または対向車のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
- 急激な明るさの変化が連続するとき
- 起状や段差が多い道路を走行しているとき
- カーブが多い道路を走行しているとき
- 車両前方に標識やミラーのように光を強く反射する物があるとき
- 先行車または対向車のランプが他の光と混在しているとき
- コンテナなど、先行車の後部が光を強く反射するとき

アドバイス

- 自車のヘッドライトが破損または汚れているとき
- パンクやけん引などにより車両が傾いているとき
- 警告が表示されているとき
  →「警告表示」P.4-130

●使用環境を良い状態に保つために、次のことを守ってください。
- カメラおよびその周辺は常にきれいにする
  フロントガラスの内側が汚れたときは、三菱自動車販売会社にご連絡ください
- カメラおよびその周辺に強い衝撃を与えない
- カメラおよびその周辺に金属製のものを取り付けない
- カメラを取り外したり、分解しない
- カメラおよびフロントカバー付近のフロントガラスに、ステッカー（透明なものを含む）や赤外線カットフィルムなどを貼らない



- フロントカバーは、塗装や改造をしない

アドバイス

- フロントガラスが曇った場合は、デフロスタースイッチを押して曇りを取り除く
- フロントガラスのカメラ前方部分をワイパーで適切に拭き取れない場合は、ワイパーブレードを早めに交換してください
  フロントワイパー本体、ワイパーブレードを交換する場合は三菱自動車純正品をご使用ください
- ダッシュボードの上などに、白い紙や鏡などの反射するものを置かない

● カメラ付近のフロントガラスにひび割れや傷などがある状態では、システムが正しく作動せず、重大な事故につながるおそれがあります。AHB の ON/OFF を操作して AHB を停止させ、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。フロントガラスの交換が必要な場合は、三菱自動車販売会社にご相談ください。

手動での上下切り換え方法

アドバイス

● 手動で上下切り換えを行うときは、方向指示レバーを手前まで引いてください。軽く引く操作では切り換えができません。

下向きに切り換えるとき

1. 方向指示レバーを手前に引きます。
2. AHB 表示灯が消灯し、AHB が OFF になります。
3. ライトスイッチを≡Ⓐの位置に回すと、AHB が再度 ON になります。

上向きに切り換えるとき

1. 方向指示レバーを手前に引きます。
2. AHB 表示灯が消灯し、AHB が OFF になります。このとき、ヘッドライト上向き表示灯が点灯します。
3. ライトスイッチを≡Ⓐの位置に回すと、AHB が再度 ON になります。

警告表示

J10337800082

システムに異常があるときは、その状態によってマルチインフォメーションディスプレイ内のインフォメーション画面に警告が表示されます。

フロントガラスが汚れているとき

次のような状況で、システムがカメラの検知性能が低下したと判断したときは、システムは一時的に停止します。

- フロントガラスのカメラに汚れ、雨、雪、氷などが付着しているとき
- 悪天候（雨、雪、砂嵐など）のとき
- 前方車両や対向車が路上の水や雪、砂などを巻き上げて走行しているとき

このとき、次の警告が表示されます。



システムが作動できる状態になると、表示は消えてシステムは自動的に再開します。表示が消えない場合はカメラの異常の可能性がありますので、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

カメラが高温になったとき

炎天下に駐車したときなど、室内が高温になり、システムが一時的に作動できない状態になったときは、次の警告が表示されシステムは自動的に停止します。



警告が表示された場合は、風を送ったり、デフロスターを使用したり、または車両を走らたりして、フロントガラスやカメラ周辺の温度を下げてください。
カメラの温度が既定の範囲内になると、表示は消えてシステムは自動的に復帰します。
表示が消えない場合はカメラの異常の可能性がありますので、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

システムに異常があるとき

システムに異常があるときは、次のいずれかの警告が表示されシステムは自動的に停止します。

- システムが故障しているとき



- システムが一時的に使用出来ないとき





- カメラが故障しているとき



エンジンスイッチの電源モードをOFFにして再度 ON にしても再び表示される場合は、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

アドバイス

- 炎天下での駐車などでカメラとその周辺の温度が極端に高くなったときに、「AHB 点検」警告が表示される場合があります。

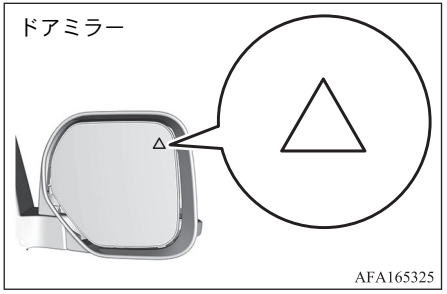
後側方車両検知警報システム（レーンチェンジアシスト機能付）[BSW/LCA]

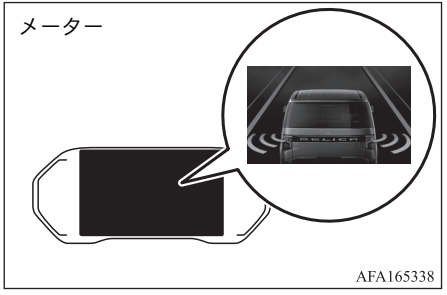
タイプ別装備

J10326100102

BSW: Blind Spot Warning
LCA: Lane Change Assist

後側方車両検知警報システム（レーンチェンジアシスト機能付）[BSW/LCA] は、隣接車線の後方から自車に接近している車両の存在を知らせることによって、車線変更時の後方確認を援助するシステムです。
自車の斜め後ろを走行している車両をセンサーが検知すると、ドアミラー鏡面にある警告灯が点灯します。
この状態で、インフォメーション画面に警報表示がされ、ドアミラーの警告灯が点灯している側に方向指示レバーを操作すると、警告灯が点滅すると同時にブザーが“ピピピッ”と鳴って運転者に危険を知らせます。
また、隣接車線の後方（最大で約 70m）から、自車に接近している車両をセンサーが検知したときにも、同様に運転者に危険を知らせます。（レーンチェンジアシスト機能）





⚠警告

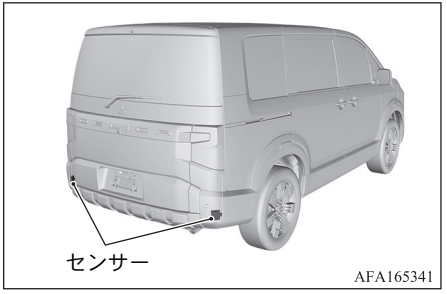
- 安全運転を行う責任は運転者にあります。BSW/LCA は、車線変更時の後方確認を援助するシステムです。必ず目視によって周囲の状況を確認してください。

⚠警告

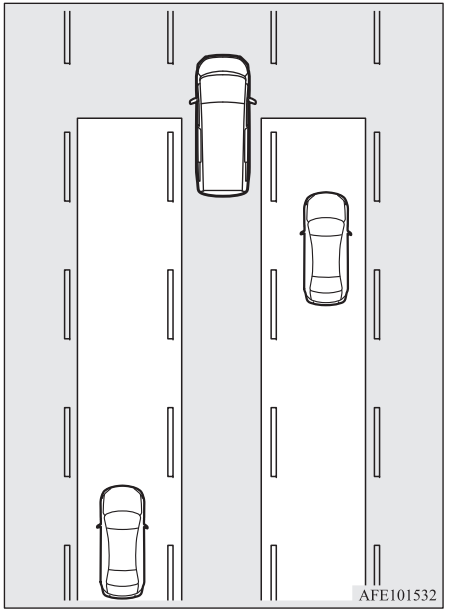
- BSW/LCA を過信しないでください。本システムの作動は、走行状態、道路環境、ハンドル、アクセル、ブレーキなどの操作など、様々な条件によってその効果は変化し、常に同じ性能が発揮できるわけではありません。

センサーの位置と車両検知範囲

リヤバンパーの内側にある 2 つのセンサーを使用しています。



2 つのセンサーが検知できる範囲を図に示します。



⚠警告

- 次のようなときは、BSW/LCA が作動しない、または作動が遅れることがあります。
  - 小型の二輪車または自転車が車両後方にいるとき
  - 接近車両との速度差がほとんどなく、自車と長時間並走しているとき
  - 自車の走行車線と隣接車線の高さに差があるとき

⚠警告

- 自車が加速中に他車が検知範囲内に停車しているとき
- 自車との速度差がほとんどなく、隣接する車線に他車が合流してきたとき
- 他車が後方から急接近してきたとき
- 他車が急速に追い越したとき
- BSW/LCA を起動した直後
- エンジンを始動した直後
- 悪天候（雨、強風、雪、砂嵐など）のとき
- 隣接車線の他車に接近しすぎたとき
- 複数の他車に連続して追い越されるとき
- くぼみのある道路や路面電車の軌道の近くを走行しているとき
- 周辺車両や対向車が路上の水や雪、砂などを巻き上げて走行しているとき
- カーブが連続する道路、カーブの出入り口を走行しているとき
- 急な上り坂、下り坂を走行しているとき
- 路面がうねっていたり凹凸がある道路や砂利道を走行しているとき
- 重い荷物の積載やタイヤ空気圧の調整不良などで、車両が前後左右に著しく傾いているとき
- センサー周辺のバンパーに汚れ、雪、氷などが付着しているとき
- 車両後部にサイクルキャリアなどを装着しているとき

⚠警告

- 炎天下または寒冷地での駐車などでセンサーが極端に高温もしくは低温のとき

● センサーは静止している障害物を検知しないよう設計されていますが状況によっては、ガードレール、壁、植物、駐車された車両などを検知することがあります。

⚠注意

● システムの正しい作動のため、次のことをお守りください。センサーの検出性能を低下させるなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- センサー周辺のバンパー表面をいつもきれいにしておく
- センサーやセンサーの周辺に強い力や衝撃を与えない
- センサーやセンサー周辺のバンパーにステッカーを貼り付けない
- センサーやセンサー周辺のバンパーを塗装しない
- センサーやセンサー周辺を改造しない

● バンパーをぶつけたときは、センサーの損傷によってシステムが正しく機能しなくなることがありますので、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

システムを作動させるときは

J10361300026

次の条件がすべて成立すると、BSW/LCA が作動します。

● エンジンスイッチの電源モードが ON のとき
● セレクターレバーがⓅまたはⓇ以外の位置にあるとき
● 車速が約 10km/h 以上のとき

システムのON/OFF作動切り換え

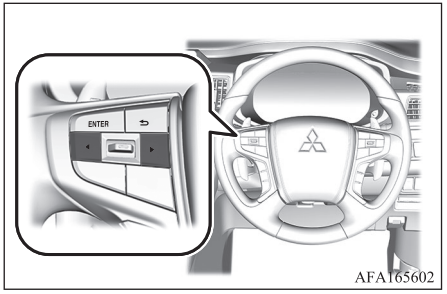
J10361400027

エンジンスイッチの電源モードが ON のときに、システムの ON/OFF 状態を切り換えることができます。システムを ON にするとスタンバイの状態になり、メーター内の表示灯が点灯し、OFF にすると消灯します。

表示灯



BSW/LCA の ON/OFF を切り換えるには、次の手順を行ってください。



1. マルチインフォメーションディスプレイスイッチの◀または▶を操作して、インフォメーション画面の表示を機能設定画面に切り換えます。
2. 上下スイッチを操作して「運転支援システム」を選択した後、ENTER スイッチを押します。
3. 上下スイッチを操作して「BSW/RCTA」を選択し、ENTER スイッチを押して、BSW/RCTA の「ON」または「OFF」を選択します。
   ENTER　スイッチを押すことで、BSW/RCTA の ON/OFF を切り換えることができます。

また、BSW/LCA の ON/OFF を切り換えると、連動して後退時交差車両検知警報システム [RCTA] の ON/OFF 状態が切り換わります。

→「後退時交差車両検知警報システム [RCTA]」P.4-135

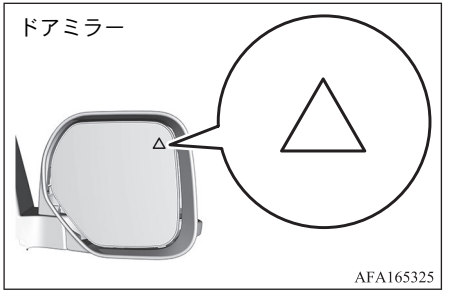
アドバイス

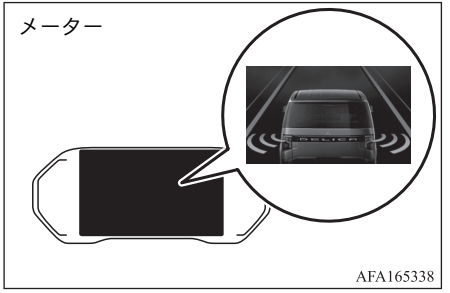
- エンジンスイッチの電源モードを OFF にしてもシステムの作動状態 (ON または OFF) を記憶しています。

車両を検知したときは

J10363600036

メーター内の表示灯が点灯しているとき、センサーが隣接車線の接近車両を検知すると、ドアミラー鏡面にある警告灯が点灯します。
この状態で、インフォメーション画面に警報表示がされ、ドアミラーの警告灯が点灯している側に方向指示レバーを操作すると、警告灯が点滅すると同時にブザーが“ピピピッ”と鳴って運転者に危険を知らせます。





アドバイス

- 次のような状況では、警告灯が点灯または点滅することがあります。
  - ガードレールまたはコンクリート壁に接近して走行するとき
  - トンネルの出入り口やトンネル内の側壁、待避所の近くを走行するとき
  - 市街地の交差点を曲がるとき
  - 悪天候（雨、雪または砂嵐など）のとき

アドバイス

- •路上の水や雪、砂などを巻き上げて走行しているとき
- •縁石、路面のくぼみ、または路面電車の軌道の近くを走行しているとき
- ●ヘッドライトが点灯しているとき、警告灯の点灯時の明るさが減光されます。
- ●強い直射日光や夜間走行時の後続車のヘッドライトによって、ドアミラー鏡面にある警告灯が見えにくいことがあります。

警告表示

J10326300087

システムに異常があるときは、警告音が鳴り、インフォメーション画面に警告が表示されます。
警告表示は、RCTA と兼用しています。

システムに異常があるとき



システムに何らかの異常があり、正常に作動できない状態です。ただちに三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

アドバイス

- ●この警告が表示されたときは、システムが非作動になります。

センサーが一時的に使用できないとき



センサー温度の上昇など、何らかの理由によりセンサーが一時的に使用できなくなっています。警告が表示し続けるときは、三菱自動車販売会社にご連絡ください。

センサーが検知できないとき



センサー周辺のバンパー表面に汚れ、雪、氷などが付着したことにより、センサーの検知性能が低下している状態です。バンパー表面をきれいにしてください。
警告が表示し続けるときは、三菱自動車販売会社にご連絡ください。

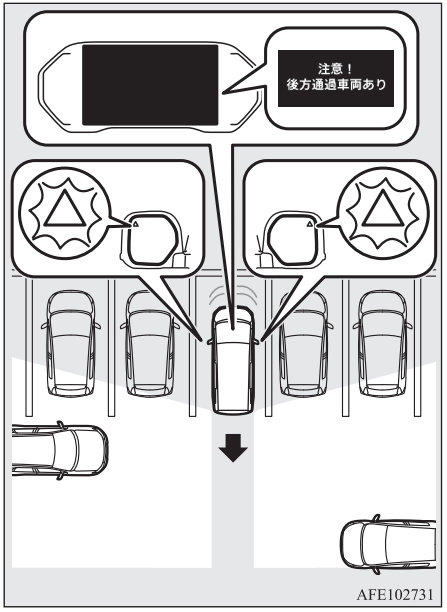
後退時交差車両検知警報システム [RCTA]

タイプ別装備

J10326400118

RCTA: Rear Cross Traffic Alert

後退時交差車両検知警報システム[RCTA]は、左右から自車に接近している他車の存在を知らせることによって、後退時の後方確認を援助するシステムです。
自車に接近している他車をセンサーが検知すると、ドアミラー鏡面にある警告灯が点滅し、ブザーとともにインフォメーション画面に警報が表示され、運転者に注意を促します。



⚠警告

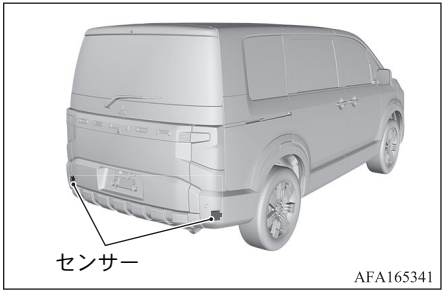
- 安全運転を行う責任は運転者にあります。RCTA は、後退時の後方確認を援助するシステムです。必ず目視によって周囲の状況を確認してください。
- RCTAを過信しないでください。本システムの作動は、状況や環境など、様々な条件によってその効果は変化し、常に同じ性能が発揮できるわけではありません。

アドバイス

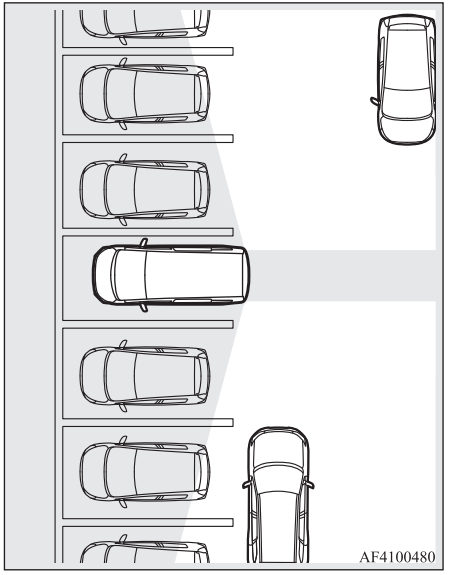
- 自車に接近してくる他車が片側からだけだとしても、両側のドアミラー鏡面にある警告灯が点滅します。

センサーの位置と車両検知範囲

リヤバンパーの内側にある 2 つのセンサーを使用しています。



2 つのセンサーが検知できる範囲を図に示します。

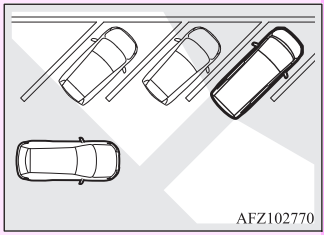


⚠注意

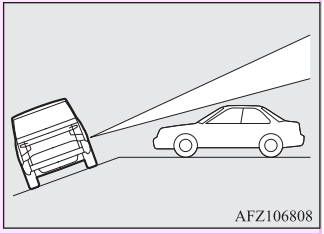
- 次のようなときは、センサーの検知範囲内に接近車両が入ったとしても、システムが正しく作動しないことがあります。
  - 自車の後退速度が約 8km/h 以上のとき
  - 接近車両の車速が約 8km/h 以下のとき
  - 壁や駐車車両によってセンサーの電波がさえぎられるとき

⚠注意

- 他車が自車の真後ろから接近してきたとき
- 斜め駐車をしているとき

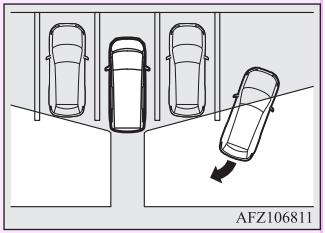


- RCTA を起動した直後
- エンジンを始動した直後
- センサー周辺のバンパーに汚れ、雪、氷などが付着しているとき
- 炎天下もしくは寒冷地での駐車などでセンサーが極端に高温または低温のとき
- 時速約 30km を超える速度で通過している車両
- 傾斜した地面に駐車しているとき

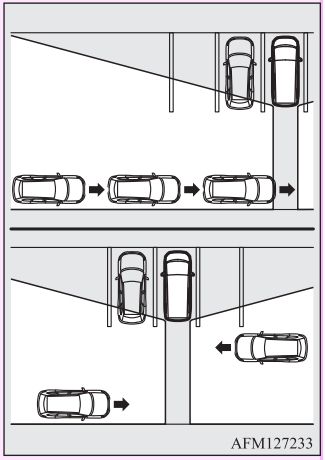


⚠注意

- 回り込むようにして自車両後方へ車両が接近してきたとき



- 複数の車両が連続して後方を通過する場合や、最初に検知した車両と逆方向から車両が接近してきた場合は、2 台目以降に対して警報が作動しない場合があります。



⚠注意

- センサーは静止している障害物を検知しないよう設計されていますが状況によっては、ガードレール、壁、植物、駐車された車両などを検知してしまうことがあります。
- システムの正しい作動のため、次のことをお守りください。センサーの検出性能を低下させるなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。
  - センサー周辺のバンパー表面をいつもきれいにする
  - センサーやセンサーの周辺に強い力や衝撃を与えない
  - センサーやセンサー周辺のバンパーにステッカー（透明なステッカーを含む）や赤外線カットフィルムなどを貼り付けない
  - センサーやセンサー周辺のバンパーを塗装しない
  - センサーやセンサー周辺を改造しない
- バンパーをぶつけたときは、センサーの損傷によってシステムが正しく機能しなくなることがありますので、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

システムを作動させるときは

J10361500028

次の条件がすべて成立すると、RCTA が作動します。

- エンジンスイッチの電源モードが ON のとき
- セレクターレバーがⓇの位置にあるとき
- 車速が約 8km/h 以下のとき

システムのON/OFF作動切り換え

J10361600029

エンジンスイッチの電源モードが ON のときに、システムの ON/OFF 状態を切り換えることができます。
また、RCTA の ON/OFF は、BSW/LCA の ON/OFF 状態に連動して切り換わります。
詳しくは「後側方車両検知警報システム（レーンチェンジアシスト機能付）[BSW/LCA]：システムの ON/OFF 作動切り換え」をお読みください。
→P.4-133

アドバイス

- エンジンスイッチの電源モードをOFFにしてもシステムの作動状態（ON または OFF）を記憶しています。
- 強い直射日光や夜間走行時の後続車のヘッドライトによって、ドアミラー鏡面にある警告灯が見えにくいことがあります。

警告表示

J10363300020

システムに異常があるときは、インフォメーション画面に警告が表示されます。
→「後側方車両検知警報システム（レーンチェンジアシスト機能付）[BSW/LCA]：警告表示」P.4-135

パーキングセンサー（フロント／リヤ）

J10326500092

車庫入れや縦列駐車などのときに、接近する障害物の位置とおおよその距離をインフォメーション画面のセンサー表示とブザー音で運転者に知らせる装置です。

⚠注意

- パーキングセンサーは車と障害物とのおおよその距離の確認を補助する装置です。
  感知できる範囲および物体は限られています。障害物によっては、正確に感知しないことがありますので、過信せずパーキングセンサーが付いていない場合と同じように慎重に運転してください。
- 必ず自分の目で周囲の安全を確認してください。パーキングセンサーだけを頼りに運転しないでください。

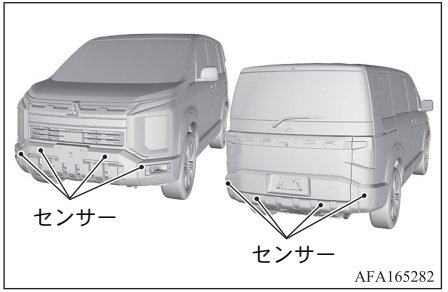
障害物を感知できる範囲

J10326600077

センサーが感知できる範囲は限られています。また、センサーはフロントおよびリヤバンパー付近の低い障害物、細い障害物などは感知できません。
必ず周囲の安全を確認しながら運転してください。

センサーの取り付け位置

フロントバンパーとリヤバンパーに各 4 箇所ずつセンサーがあります。

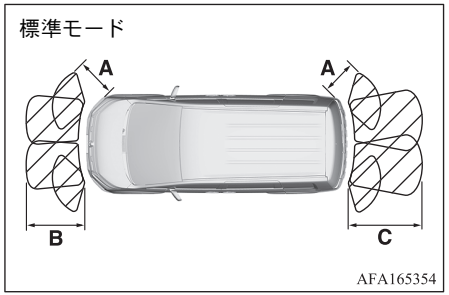


感知範囲

車両にトーイングバーが装備されているかどうかに応じて、標準モードまたはトーイングバーモードを選択できます。トーイングバーモードは、センサーの感知範囲からトーイングバーが装着されている範囲を省くことができます。

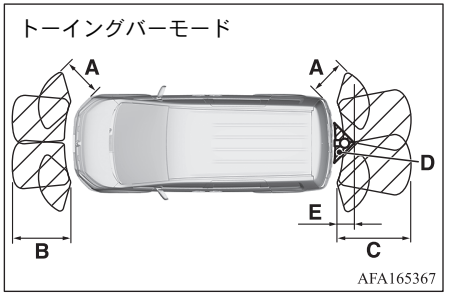
標準モード

感知範囲は、コーナーセンサーから約60cm（A）、フロントセンサーから約100cm（B）、リヤセンサーから約150cm（C）です。



トーイングバーモード

感知範囲は、コーナーセンサーから約60cm（A）、フロントセンサーから約100cm（B）、リヤセンサーから約150cm（C）です。
感知しない範囲（D）は、リヤバンパーから約20cm（E）です。



アドバイス

- センサーは、バンパー直下またはバンパーに近いところにある障害物は感知しません。
  また、障害物の高さがセンサーの取り付け位置よりも低いときは、最初にセンサーが障害物を感知したとしてもその障害物を感知し続けることができない場合があります。

感知範囲の変更のしかたについては「パーキングセンサーの設定」をお読みください。→P.4-140

⚠注意

- 次の場合、パーキングセンサーが正常に作動しないことがあります。
  - センサーやその周辺を手で拭いたとき
  - センサーやその周辺にステッカーやアクセサリーを取り付けたとき
  - センサーやその周辺に雨、氷、雪または泥などが付着したとき
  - 外気温が急激に変化する場所を走行しているとき（トンネルやガレージなど）
  - センサーが凍結したとき
  - センサーが外部からの超音波ノイズを受けたとき（他の車両のホーン、オートバイのエンジン、ブレーキ、ラジオ、豪雨、はね水やタイヤチェーンなどのノイズ）
  - センサーが異常に高温もしくは低温のとき（炎天下での駐車または低外気温下での駐車）
  - 車両が大きく傾いたとき
  - 路面がうねっていたり、凹凸がある道路や砂利道を走行しているとき
  - 障害物に接近しすぎたとき
  - エンジン始動直後
  - 障害物の面が車両の前面、または後面に対して斜めのとき
  - 周囲に草が生い茂っているとき
  - 車両側面の近くに壁があるとき
  - 路面上に段差や突起物があるとき
  - 垂れ下がった旗、ビニールカーテンなどをくぐって走行するとき

⚠注意

- 車両周辺に雪のかたまりがあるとき
- タイヤの空気圧が適切でないとき
- 表面が一様でない障害物（複数の障害物が積載されて凹凸に形状をしている場合）があるとき
- 急な坂道があるとき
- 縁石などがあるとき
- タイヤ止めブロックがあるとき
- 障害物の周辺が雪、泥、草などで覆われているとき
- センサーが障害物に覆われているとき

● 次のような障害物は、センサーが正しく感知しない場合があります。

- 縁石など背の低い障害物
- 幅の狭い障害物
- 針金、金網、ロープなどの細い障害物
- センサーに非常に近い距離にある障害物
- スポンジ状のものや雪など表面が柔らかく音波を吸収しやすい障害物
- 急に進行方向に現れた障害物
- 地面から高い位置に存在する障害物
- 移動している障害物
- 鋭い角度で成形されている障害物

● システムの正しい作動のため、次のことをお守りください。センサーの感知性能を低下させるなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- センサー部に強い力や衝撃を与えない

⚠注意

- センサー部は常にきれいにする
- センサー部にステッカーを貼り付けない
- サスペンションを改造しない

● センサーおよびセンサー周辺をぶつけたときは、パーキングセンサーが正しく機能しなくなりますので、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

アドバイス

● センサーが外部からの超音波ノイズを受けると、該当箇所のセンサー表示が一定の周期で点滅します。
ノイズを受けなくなれば、表示は消え通常の作動に戻ります。

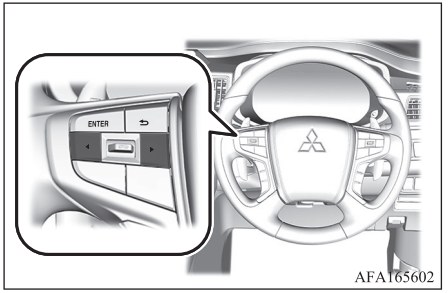
パーキングセンサーの設定

J10326700081

エンジンスイッチの電源モードが ON のときに、システムの ON/OFF 状態を切り換えることができます。システムを ON にするとメーター内のパーキングセンサー表示灯が点灯し、OFF にすると消灯します。



パーキングセンサーの ON/OFF 設定または検知モードを変更するには、次の手順を行ってください。



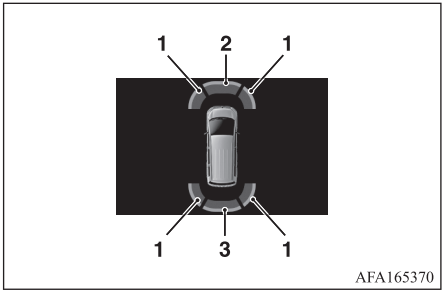
1. マルチインフォメーションディスプレイスイッチの◀または▶を操作して、インフォメーション画面の表示を機能設定画面に切り換えます。
2. 上下スイッチを操作して「運転支援システム」を選択した後、ENTER スイッチを押します。
3. 上下スイッチを操作して「パーキングセンサー」を選択した後、ENTER スイッチを押します。
4. 上下スイッチを操作して「ON」、「OFF」または「Hitch」を選択して、ENTER スイッチを押します。
ENTER スイッチを押すことで、選択した条件に設定が変更されます。

アドバイス

- トーイングバーモードで使用する場合は、「Hitch」を選択し、検知モードを変更します。
- エンジンスイッチの電源モードをOFFにしてもシステムの作動状態(ON/OFFまたは検知モード)を記憶しています。

障害物の表示と警告

自車の周辺に障害物があると、障害物を感知したセンサー(障害物がある方向)をインフォメーション画面に表示し、ブザーで警報します。



1- コーナーセンサー
2- フロントセンサー
3- リヤセンサー

フロントセンサー

障害物までの距離	表示／ブザーの間隔
約 100 ～ 50cm	点灯／遅い断続音
約 50 ～ 30cm	点灯／速い断続音
約 30cm 以内	点灯／連続音

リヤセンサー（標準モード選択時）

障害物までの距離	表示／ブザーの間隔
約 150 ～ 50cm	点灯／遅い断続音
約 50 ～ 30cm	点灯／速い断続音
約 30cm 以内	点灯／連続音

リヤセンサー（トーイングバーモード選択時）

障害物までの距離	表示／ブザーの間隔
約 150 ～ 50cm	点灯／遅い断続音
約 50 ～ 30cm	点灯／速い断続音
約 30cm 以内	点灯／連続音

コーナーセンサー

障害物までの距離	表示／ブザーの間隔
約 60 ～ 50cm	点灯／遅い断続音
約 50 ～ 30cm	点灯／速い断続音
約 30cm 以内	点灯／連続音

⚠注意

- 距離は温度、湿度、障害物の形などにより誤差が生じることがありますので、あくまで参考としてください。

アドバイス

- いくつかの障害物を同時に感知した場合は、すべて表示します。
  ただし、ブザーはより近い障害物を優先して警報します。

警告表示

J10326900067

センサーに何らかの異常が発生したときは、次の通り警告を行います。

- システムが一時的に作動しないとき
  次の警告が表示されます。



- センサーが汚れているとき
  次の状況でセンサーの感知性能が低下したと判断したときは、システムは一時的に機能を停止します。
  - センサーやその周辺に汚れ、雨、氷、雪または泥などが付着しているとき
  - 悪天候（雨、雪または砂嵐など）のとき



- システムが完全に故障したとき
  次の警告が表示されます。



システムが正常に戻ると警告表示は消えます。警告表示が消えない場合は、システムの異常の可能性があります。三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

マルチアラウンドモニター

J10327000137

マルチアラウンドモニターは「フロントビューカメラ」、「サイドビューカメラ（左右）」および「リヤビューカメラ」の４つのカメラの映像を組み合わせて、ルームミラーに映像を表示させる装置です。
駐車スペースへの駐車時や縦列駐車時に運転者を補助します。

⚠注意

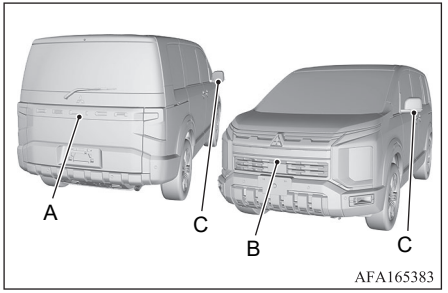
- マルチアラウンドモニターは、車両周囲の安全を確認するための補助装置です。映像を表示できる範囲は限られていますので過信せず、マルチアラウンドモニターが付いていない場合と同じように慎重な運転を心がけてください。

⚠注意

- 必ず自分の目で周囲の安全を確認してください。特に車両の四隅はマルチアラウンドモニターに障害物が映らない死角になります。
  マルチアラウンドモニターだけを頼りに運転しないでください。
- ドアミラーを格納した状態およびドアやテールゲートを開いた状態では使用しないでください。適切な範囲を表示することができません。

カメラの取り付け位置

カメラは次の位置に内蔵されています。



A- リヤビューカメラ
B- フロントビューカメラ
C- サイドビューカメラ（左右）

⚠警告

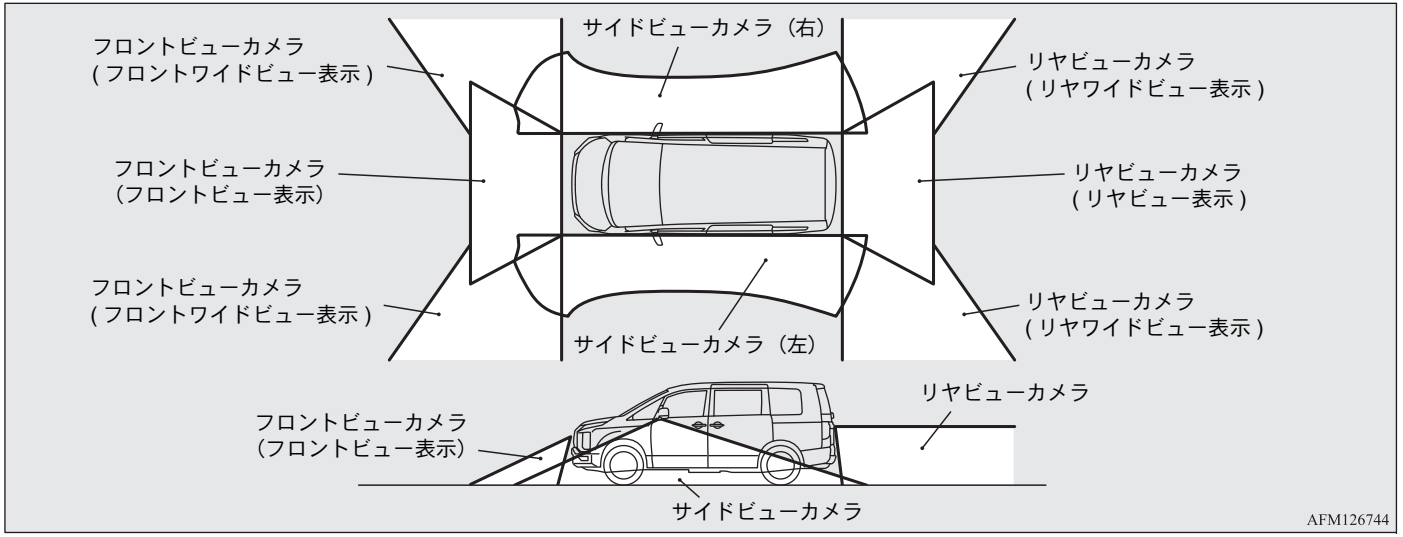
- カメラの取り付け位置周辺に作動を妨げる物を取り付けないでください。

画面に表示できる範囲

J10327100095

カメラが映像を表示できる範囲は図の範囲に限られています。また、前後バンパーの両端周辺および下部などは表示できませんので、必ず周囲の安全を確認しながら運転してください。

カメラの表示範囲



画面に表示できる映像の種類

J10327200113

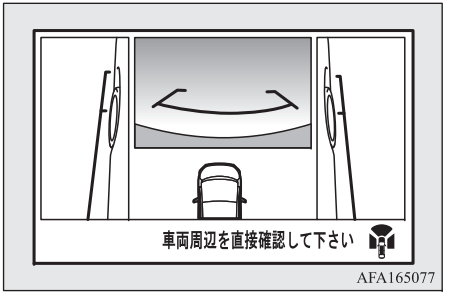
全画面または分割画面で構成して表示します。

前進時

4

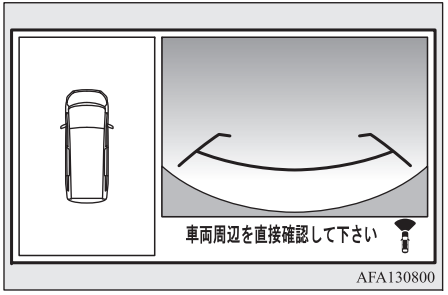
■両サイドビュー／フロントビュー表示

車両側方および車両前方の映像を表示します。



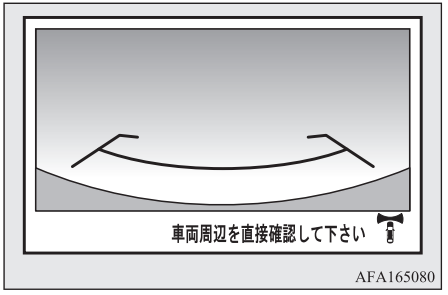
■バードアイビュー／フロントビュー表示

車両周囲および車両前方の映像を表示します。



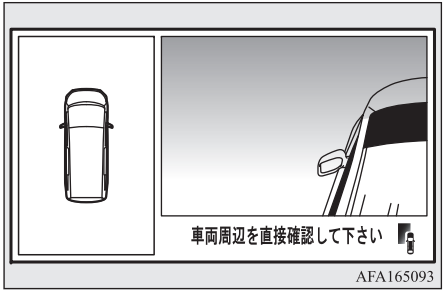
■フロントワイドビュー表示

車両前方の映像をワイドに表示します。



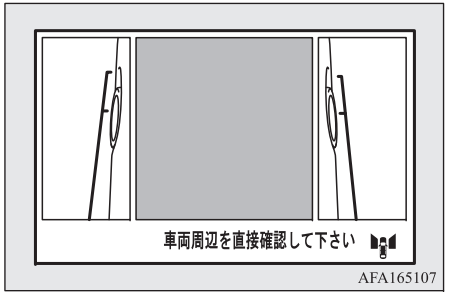
■バードアイビュー／透過フロントサイドビュー表示

車両周囲および斜め上からの車両前方の映像を表示します。



■両サイドビュー表示

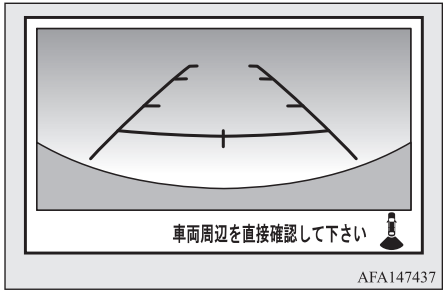
車両側方の映像を表示します。



後退時

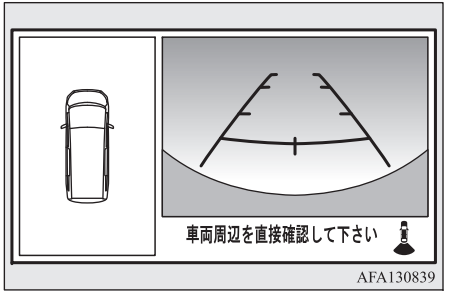
■リヤビュー表示

車両後方の映像を表示します。



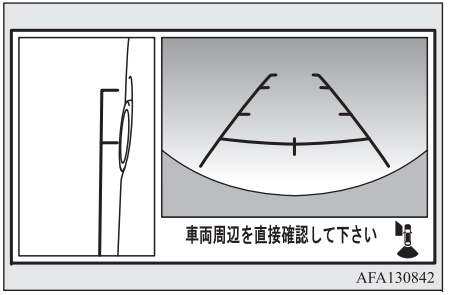
■バードアイビュー／リヤビュー表示

車両周囲および車両後方の映像を表示します。



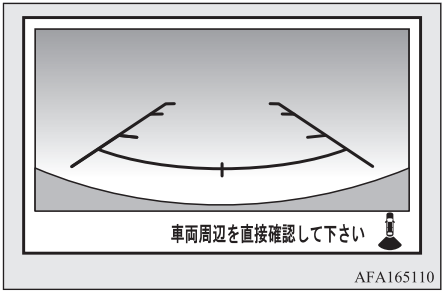
■サイドビュー／リヤビュー表示

助手席側車両側方および車両後方の映像を表示します。



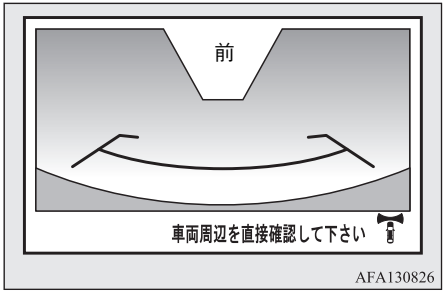
■リヤワイドビュー表示

車両後方の映像をワイドに表示します。



■フロントワイドビュー表示

車両前方の映像をワイドに表示します。



⚠注意

- カメラは特殊レンズを使用しているため、画面の映像は実際と距離感覚が異なりますので注意してください。

アドバイス

- カメラは特殊なレンズを使用しているため、駐車場などの区画線は、画面内では平行に見えないことがあります。
- 次のような場合、画面が見づらくなることがありますが異常ではありません。
  - 暗いところ（夜間）
  - 太陽やヘッドライトの光が直接カメラのレンズに入ったとき
  - 蛍光灯の光が直接カメラのレンズに入ったとき
- カメラが高温になった場合、映像の映りが悪くなることがありますが、異常ではありません。
- カメラが熱いとき、雨や洗車などでレンズ付近の温度が低くなるとレンズが曇ることがありますが、故障ではありません。
- 外気温が極端に高いときまたは低いときは、映像の映りが明瞭でない場合がありますが、故障ではありません。
- 無線機などの通信機器がカメラの近くに取り付けられていると、電波の影響でシステムが停止する場合がありますが、故障ではありません。
- カメラのレンズが汚れていると、障害物が十分に確認できません。水滴、雪、泥または油汚れなどが付着したときは、レンズを傷つけないようにていねいに拭き取ってください。
- カメラの故障の原因となりますので、次のことをお守りください。
  - 衝撃を与えない
  - ワックスを付着させない
  - 熱湯をかけない
  - 高圧洗車機などの水をかけない
  - カメラを外したり分解したりしない
  - レンズ表面をひっかかない

使い方

J10327300114

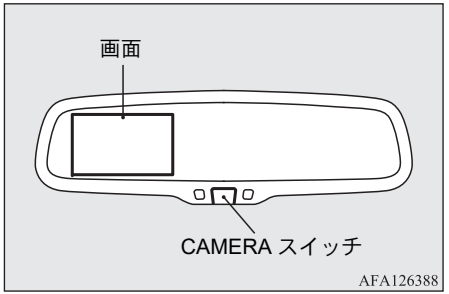
エンジンスイッチの電源モードが ON のときに使用できます。

セレクターレバーでの操作

セレクターレバーをⓇに入れると、ルームミラーの画面にリヤビューが表示されます。
セレクターレバーをⓇ以外の位置にすると、表示は消えます。

スイッチでの操作

CAMERA スイッチを押すと両サイドビュー／フロントビューが表示されます。



アドバイス

- セレクターレバーがⓇ以外のときにCAMERA スイッチを押してマルチアラウンドモニターを表示させた後、3 分以上何も操作しないと表示は消えます。

■画面の切り換え（セレクターレバーがⓇの位置にあるとき）

CAMERA スイッチを押すたびに、次の通り表示が切り換わります。
リヤビュー表示→バードアイビュー／リヤビュー表示 → サイドビュー／リヤビュー表示 → リヤワイドビュー表示 → フロントワイドビュー表示

■画面の切り換え（セレクターレバーがⓇ以外の位置にあるとき）

CAMERA スイッチを押すたびに、次の通り表示が切り換わります。

- 車速が約 10km/h 未満の場合
  両サイドビュー／フロントビュー表示 → バードアイビュー／フロントビュー表示 → フロントワイドビュー表示 → バードアイビュー／透過フロントサイドビュー表示 → カメラ画面 OFF
- 車速が約 10km/h 以上、約 30km/h 未満の場合
  両サイドビュー／フロントビュー表示 → フロントワイドビュー表示 → カメラ画面 OFF
- 車速が約 30km/h 以上の場合
  両サイドビュー表示 → カメラ画面 OFF

アドバイス

- 両サイドビュー／フロントビュー表示、バードアイビュー／フロントビュー表示、フロントワイドビュー表示またはバードアイビュー／透過フロントサイドビュー表示のときにセレクターレバーをⓇに入れると、リヤビュー表示に切り換わります。
  セレクターレバーをⓇ以外の位置にすると、両サイドビュー／フロントビュー表示に切り換わります。
- 両サイドビュー／フロントビュー表示の状態で車速が約 30km/h を超えると、両サイドビュー表示に切り換わります。
  両サイドビュー表示の状態で車速が約 30km/h 以下になると、両サイドビュー／フロントビュー表示に切り換わります。
- 表示の切り換わり時は、映像の表示が遅れることがあります。

画面の見方

J10327400115

バードアイビューおよび透過フロントサイドビュー以外の表示画面は、画面内の線で次のことを表示しています。
目安としてお使いください。

⚠注意

- カメラおよびカメラの周辺をぶつけたときは、映像および画面内の線が正しく表示されないことがあります。
  必ず三菱自動車販売会社で点検を受けてください。
- カメラの映像に異常がある場合（青色の画面で表示されるなど）は、お近くの三菱自動車販売会社へご相談ください。

フロントビュー表示、フロントワイドビュー表示

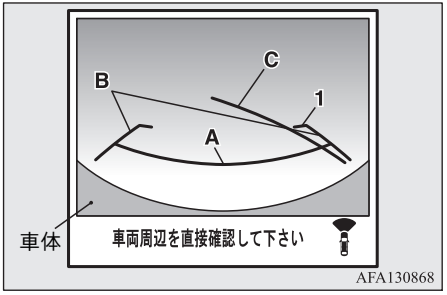
J10327500086

距離と車幅の目安となる線と車体が画面に表示されます。

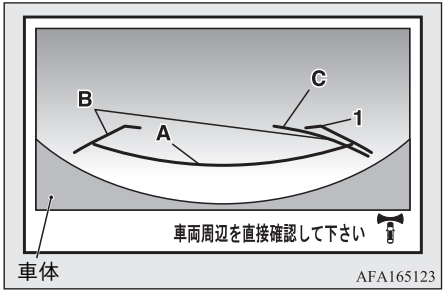
- 赤色の線 (A) はフロントバンパー最前端から約 50cm の地点を示します。
- 緑色の線 (B) はおおよその車体幅を示します。
- 橙色の線 (C) はハンドルを切った角度のまま前進したときの予想進路を示します。

ハンドルを直進状態にすると表示は消えます。

フロントビュー表示



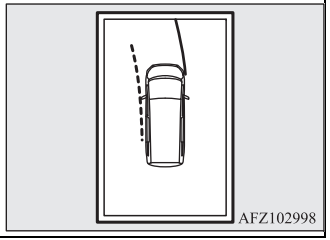
フロントワイドビュー表示



1- フロントバンパー前端から約 100cm

アドバイス

- フロントビュー表示、フロントワイドビュー表示に予想進路線が表示されると、バードアイビュー表示にも予想進路線が表示されます。
（フロント：実線、リヤ：破線）

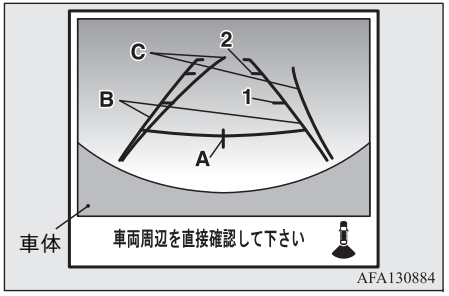


リヤビュー表示、リヤワイドビュー表示

J10327600087

距離と車幅の目安となる線と車体が画面に表示されます。

- 赤色の線 (A) はリヤバンパー最後端から約 50cm の地点を示します。
- 緑色の線 (B) はおおよその車体幅を示します。
- 橙色の線 (C) はハンドルを切った角度のまま後退したときの予想進路を示します。
ハンドルを直進状態にすると表示は消えます。



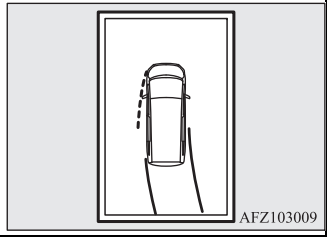
1- リヤバンパー後端から約 100cm
2- リヤバンパー後端から約 200cm

⚠注意

- 乗車人数、燃料の量、積み荷の状態または路面の状態などにより車両が傾いている場合、画面内の線の表示が実際と異なることがあります。
画面内に表示される線は参考として使い、必ず自分の目で後方や周囲の安全を確認することを常に心がけてください。

アドバイス

- リヤビュー表示に予想進路線が表示されると、バードアイビュー表示にも予想進路線が表示されます。
（フロント：破線、リヤ：実線）



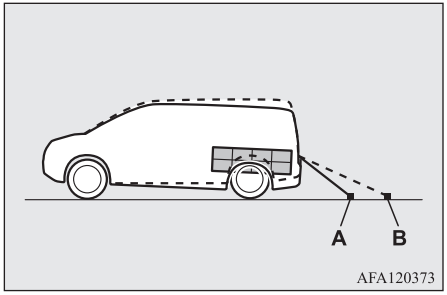
画面表示と実際の路面との誤差

J10327700046

表示される距離と車幅の線は水平な路面を基準としています。
次の場合には、画面に表示される距離を示す線と、実際の距離に誤差が生じます。

■車両後部が乗員の体重と荷物の重さで下がっているとき

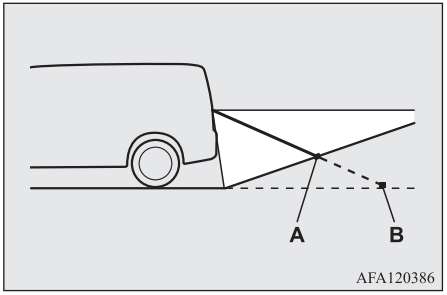
画面に映る障害物は、実際の距離より遠くに表示されます。
したがって、上り坂に障害物があるときには、実際の位置よりも、障害物が遠くに見えます。



A: 実際の障害物
B: 画面に映る障害物

■車両後方に上り坂があるとき

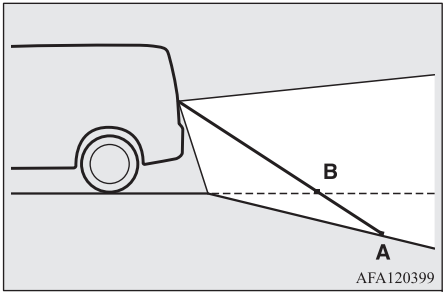
画面に映る障害物は、実際の距離より遠くに表示されます。
したがって、上り坂に障害物があるときには、実際の位置よりも、障害物が遠くに見えます。



A: 実際の障害物
B: 画面に映る障害物

■車両後方に下り坂があるとき

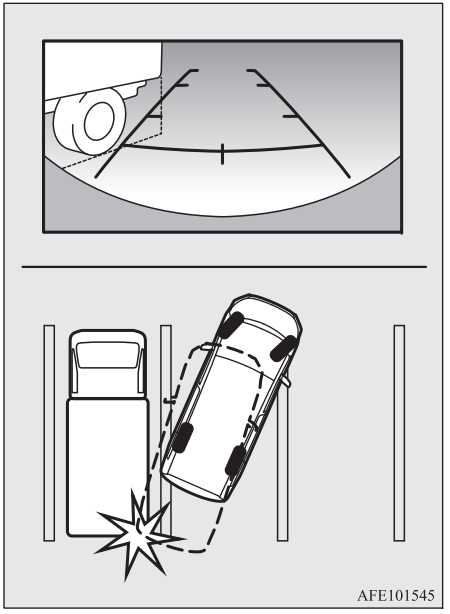
画面に映る障害物は、実際の距離より近くに表示されます。
したがって、下り坂に障害物があるときには、実際の位置よりも、障害物が近くに見えます。



A: 実際の障害物
B: 画面に映る障害物

■ 車両の近くに立体物があるとき

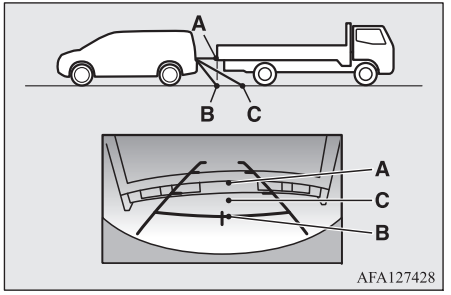
画面に表示される距離は、図のように実際の距離とは異なって表示される場合があります。
車体幅を示す線（緑色）は立体物（トラック）に触れていないため接触しないように見えますが、実際はトラックの後部が自車の進路上に張り出しているため、接触することがあります。



■ 立体物に接近するとき

画面に表示される距離と車幅の線は、道路などの平面物を対象にしています。
このため、張り出し部分のある立体物との距離感覚が実際と異なることがあります。
画面内の線を立体物までの距離の目安にしないでください。

例：画面の映像では手前から B、C、A の順に見えますが、実際には A、B が同じ距離で、C が A、B よりも遠い距離にあります。



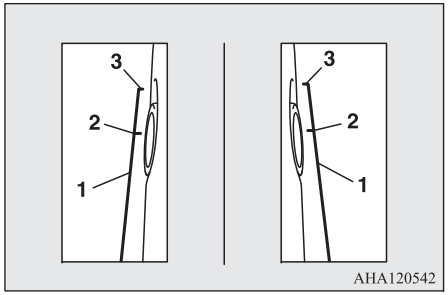
両サイドビュー表示、サイドビュー表示

J10327800050

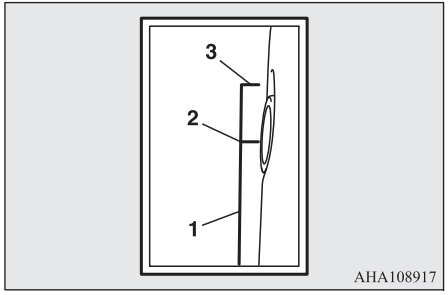
車幅と車両前端の目安となる線が画面に表示されます。

1- ドアミラーを含めた車幅の目安
2- フロントタイヤの中心位置の目安
3- フロントバンパー前端から約 50cmの位置の目安

両サイドビュー表示



サイドビュー表示

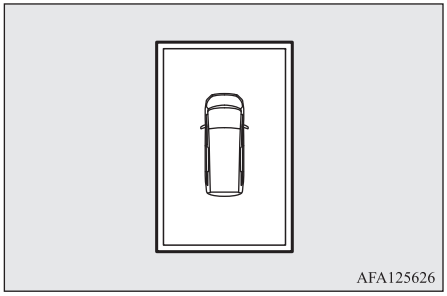


バードアイビュー表示、透過フロントサイドビュー表示

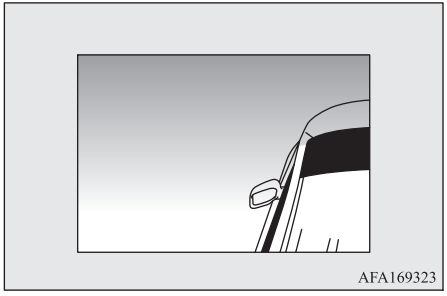
J10327900080

自車位置や駐車スペースへの進入コースが確認しやすいよう、車両を上から見たイメージの画像や助手席側の斜め前方向を見たイメージの画像が表示されます。

バードアイビュー表示



透過フロントサイドビュー表示



⚠注意

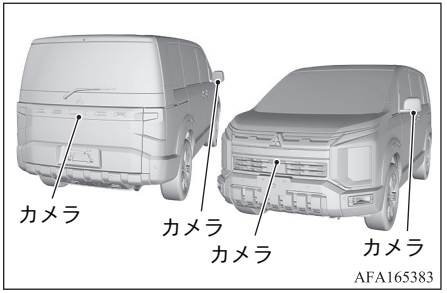
- バードアイビュー表示および透過フロントサイドビュー表示は、「フロントビューカメラ」、「サイドビューカメラ（左右）」および「リヤビューカメラ」からの映像を組み合わせて処理した擬似的な画像のため、障害物を実際より遠くに表示します。また、実際の車両周辺には画面に表示されない死角があります。
  自車と障害物との間にわずかな距離があるように見えてもぶつかることがありますので、必ず自分の目で周囲の安全を確認してください。
- バードアイビュー表示および透過フロントサイドビュー表示の車両アイコンは、色やサイズが実際の車両とは異なります。
  このため、自車周辺の障害物が自車に接触しているように見えることがあり、自車と障害物との位置関係が実際と異なります。
- バードアイビュー表示および透過フロントサイドビュー表示の映像は、合成処理部分が画面の四隅にあり、この部分においては画像の鮮明さが低下したり、障害物が消えたり表示されたりすることがあります。

アドバイス

- バードアイビュー表示および透過フロントサイドビュー表示は、4 台のカメラ（フロントビューカメラ、左右のサイドビューカメラ、リヤビューカメラ）で道路などの平面物を対象に画像処理していますので、次のように実際と違う画像が表示されることがあります。
  - 障害物が横たわって、実際より長くまたは大きく見える
  - 路面から高さがある物は、画面の合成処理部分から現れているように見える
- 4 台の各カメラの明るさにより、表示される画像の明るさに差が生じるときがあります。
- カメラより上にある障害物は表示されません。
- フロントビューまたはリヤビューで表示された障害物は、バードアイビュー表示および透過フロントサイドビュー表示で表示されない場合があります。
- バードアイビュー表示および透過フロントサイドビュー表示の映像は、各カメラの取り付け位置や角度が変わるとずれることがあります。
- 路上の線は映像の継ぎ目でずれたり曲がったりして見えることがあります。

カメラの取り扱い

J10351500038



カメラ周辺は常にきれいにしてください。
カメラは、フロントグリル、ドアミラー、テールゲートガーニッシュに装着しています。
カメラに雨、雪、氷、汚れなどが付着すると、映像が悪くなるまたは正常に動作しない場合があります。中性洗剤を薄めて含ませた布で拭き取った後、乾いた布で拭いてください。

アドバイス

- アルコール、ベンジン、シンナーなどを使用してカメラを清掃しないでください。変色する原因になります。
- モニター映像に悪影響が生じるため、カメラに傷をつけないよう注意してください。

移動物検知機能 [MOD]

J10351600055

MOD：Moving Object Detection

MOD は車庫入れや駐車場からの発進時などに自車周辺の移動物を運転者にお知らせすることで、安全確認をサポートする機能です。
MOD は画像処理技術を用い、車両周辺に移動物を検知すると、画像の表示でお知らせします。

⚠警告

- MOD は、車両周辺の移動物との接触を防止する機能ではありません。
- 運転中は、ドアミラー、ルームミラーまたは目視で周囲の安全を直接確認して、安全運転をしてください。
- 車両周辺の静止している障害物は検知しません。

MOD の作動

J10351700030

MOD は次の条件で自動的に作動します：

- セレクターレバーを Ⓡ に入れたとき
- CAMERA スイッチを押して、マルチアラウンドモニターを起動させたとき
- 車速が約 10km/h 以下のとき

車速が 10km/h 以上になると機能を停止します。

MOD は次の条件で作動します：

- セレクターレバーがⓅまたはⓃの位置にあり、車両が停止しているときに、バードアイビュー表示で移動物を検知します。運転席または助手席のドアが開いていると、MOD は作動しません。またドアミラーが格納されていると、MOD は正しく作動しないことがあります。
- セレクターレバーがⒹまたはⓂの位置にあり、車速が約 10km/h 以下のときに、フロントビュー表示で移動物を検知します。
- セレクターレバーがⓇの位置にあり、車速が約 10km/h 以下のときに、リヤビュー表示またはフロントビュー表示で移動物を検知します。テールゲートが開いていると、MOD は作動しません。

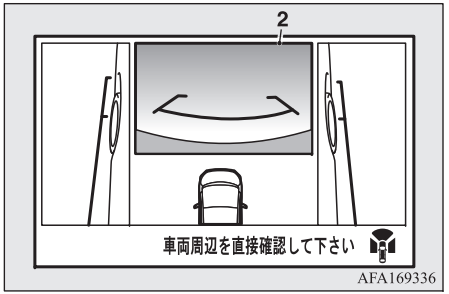
MOD は両サイドビュー表示、透過フロントサイドビュー表示とサイドビュー表示画面では、移動物を検知しても表示しません。また、MOD アイコンも表示されません。
MOD が車両の周囲で移動物を検知したときは、黄色枠がビュー画面に表示されます。移動物を検知している間は、黄色枠が表示し続けます。

MOD の表示の種類

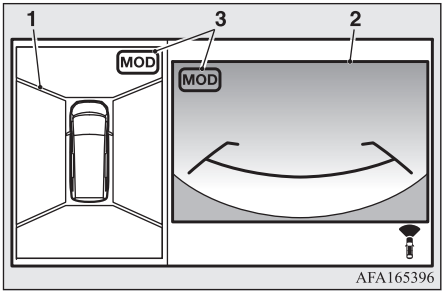
J10351800031

移動物を検知すると、バードアイビュー画面の検知したエリア（前、後、右、左）を黄色枠 (1) で表示します。
黄色枠 (2) は、フロントビュー、リヤビュー、フロントワイドビューとリヤワイドビューの画面に表示します。
緑色の MOD アイコン (3) は、MOD システムが作動しているエリアの画面に表示されます。灰色の MOD アイコン (3) は、MOD が作動していないエリアの画面に表示されます。
MOD がオフになると、MOD アイコン (3) は表示されません。

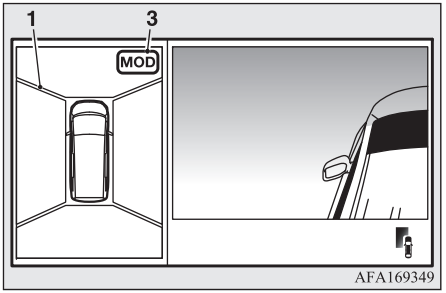
両サイドビュー／フロントビュー表示



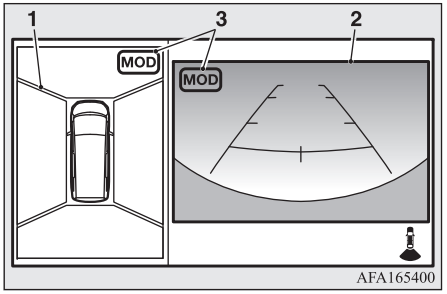
バードアイビュー／フロントビュー表示



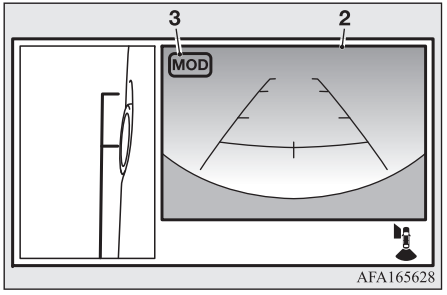
バードアイビュー／透過フロントサイドビュー表示



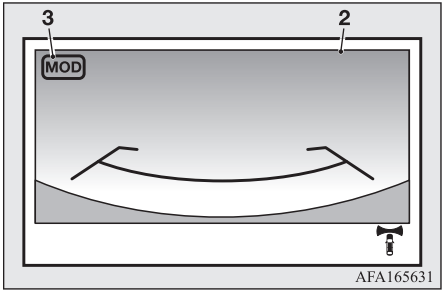
バードアイビュー／リヤビュー表示



サイドビュー／リヤビュー表示



リヤビュー、フロントワイドビューまたはリヤワイドビュー表示



例：フロントワイドビュー表示

⚠警告

- MODの機能には限界があります。MODの正しい作動のため、次のことをお守りください。取り扱いを誤ると、MOD が正しく作動せず、重大な事故または死亡事故につながるおそれがあります。
  - MOD は次のような環境や周囲の障害物によっては正しく作動しません。
    - 移動物が、背景と同じ色であるとき
    - 点滅する光源があるとき
    - 太陽光や他の車両のヘッドライトなど強い光を受けているとき
    - ドアミラーが格納されているなどカメラが正しい位置にないとき
    - カメラにほこり、水滴、雪などが付着しているとき
    - 表示中の移動物の位置が変化しないとき
  - カメラレンズ上の水滴の移動やマフラーからの白い煙、動く影などを検知することがあります。
  - 移動物の速度、移動方向、距離、形状によっては正しく作動しないことがあります。
  - カメラの取り付け部周辺に変形や曲がりなどの損傷を受けたままにすると、検知範囲が変化し、MOD が正しく作動しません。
  - 外気温が極端に高いときまたは低いときは、映像の映りが明瞭でない場合がありますが、故障ではありません。

アドバイス

- 次のいずれかの場合、MOD アイコンが緑色から橙色に変化します。
  - システムが故障したとき
  - MOD 関連部品が高温になったとき
  - カメラが異物によりふさがれたとき

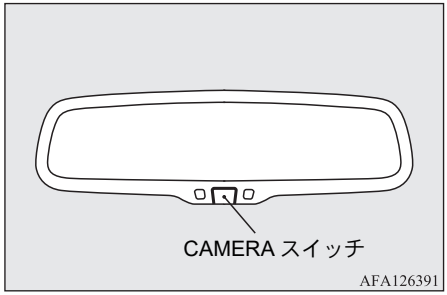
アドバイス

- MOD　アイコンが橙色のままのときはMOD システムの故障が考えられます。三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

MODをON／OFFするときは

J10351900032

CAMERA スイッチを押し続けると、MODの ON/OFF を切り換えることができます。



カメラの取り扱い

J10352000030

カメラ周辺は常にきれいにしてください。詳しくは「マルチアラウンドモニター：カメラの取り扱い」をお読みください。

→P.4-152

オートストップ＆ゴー [AS&G]

J10303800027

オートストップ＆ゴー [AS&G] は、信号待ちや渋滞などで停車する際に、エンジンスイッチを使用することなく自動的にエンジンを停止および再始動して、排気ガスの排出を削減するとともに燃費効率を向上させます。（アイドリングストップ機能）

⚠注意

- 自車を長時間停車させたり、自車から離れるときは、エンジンスイッチの電源モードを OFF にしてエンジンを停止させてください。

アドバイス

- AS&G でエンジンを止めた累積時間をインフォメーション画面に表示します。→「オートストップ＆ゴー [AS&G] モニター」P.4-47

AS&G を起動するには

J10319400028

AS&G は、エンジンスイッチの電源モードを ON にすると自動的に起動します。
AS&G を非作動にするには AS&G OFF スイッチを押します。
詳しくは「AS&G を非作動にするには」をお読みください。→P.4-159

エンジンを自動で停止させるには

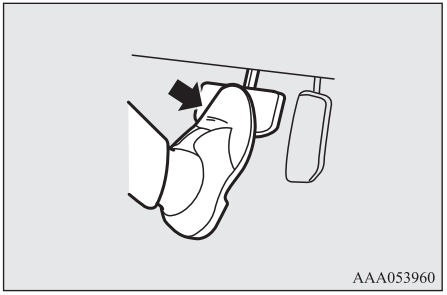
J10319500104

1. Ⓐ 表示が点灯しているときにブレーキペダルを踏み込んで、停車させます。

   AS&G 表示

2. 完全に停車し、ブレーキペダルがしっかり踏み込まれていると、エンジンが自動的に停止します。



4

レーダークルーズコントロールシステム [ACC] が作動状態

1. Ⓐ表示が点灯しているときに ACC を ON にする。
2. ACC 制御が開始して車両が停車すると、ブレーキペダルを踏まなくてもエンジンが自動で停止します。
   詳しくは「レーダークルーズコントロールシステム [ACC]：使い方」をお読みください。→P.4-117

⚠注意

- エンジンが自動的に停止しているときは、車外に出ようとしないでください。運転者がシートベルトを外したり、運転席ドアを開けたりすると、エンジンが自動的に再始動するため、車両が動き出して思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- エンジンが自動的に停止した場合、車両停止後は電動パワーステアリング [EPS] が作動しなくなり、ハンドル操作が重くなりますので十分注意してください。
- エンジンが自動的に停止したときに、ブレーキオートホールド表示灯（緑色）が点灯していれば、ブレーキペダルから足を離してもエンジン停止状態を保持することができます。
- 次のようなときは、Ⓐ表示が点滅し、エンジンは自動的に停止しません。
  - 運転者がシートベルトを着用していないとき
  - 運転席のドアが開いているとき
  - エンジンフード（ボンネット）が開いているとき
- 次のようなときは、Ⓐ表示は点灯せず、エンジンは自動的に停止しません。
  - エンジンを始動してから、一度も速度が 5km/h 以上になっていないとき
  - 電動パーキングブレーキをかけているとき
  - エンジンスイッチでエンジンをかけてから、30 秒未満のとき
  - エンジンが自動的に再始動してから 10 秒以内に再停車したとき
  - DPF で集めたすすの燃焼・除去が行われているとき
  - セレクターレバーがⒹ以外のとき
  - エンジン冷却水の温度が低いとき

アドバイス

- 車外の気温が低いとき
- バッテリー性能が劣化などの理由により低下しているときや、バッテリー上がりなどにより充電した直後に走行したとき
- エンジン警告灯が点灯しているとき
- Ⓐ OFF表示が点滅しているとき
- メーター内のセレクターレバー位置表示灯が点滅しているとき
- ASC 作動表示灯と ASC OFF 表示灯が点灯しているとき
- ABS 警告灯が点灯しているとき
- 車内の温度が高いときに、エアコンを使用しているとき
- デフロスタースイッチが押されているとき
- 設定温度を最高または最低にして、エアコンを AUTO 作動させているとき
- リヤデフォッガー（曇り取り）や電装品が作動している場合や、エアコンの風量が強に設定されている場合など、消費電力が大きいとき

- 次のようなときは、Ⓐ表示が点灯していても、エンジンが自動的に停止しない場合があります。
  - アクセルペダルを踏んでいるとき
  - ブレーキペダルを踏む力が弱いとき
  - ブレーキペダルを繰り返し踏み込んだり、通常より強めに踏み込んだりして、ブレーキの負圧が低いとき

アドバイス

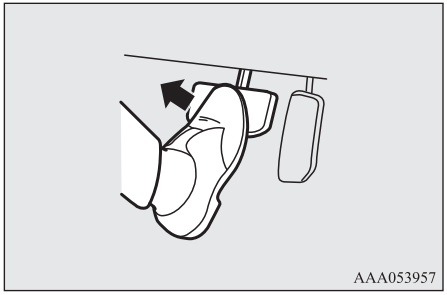
- •勾配が急な場所で停車したとき
- •ハンドル操作をしているとき

- エアコン作動中に AS&G が作動した場合、エンジンとエアコンコンプレッサーの両方が停止し、送風のみとなるため、ウインドウガラスが曇ることがあります。ウインドウガラスが曇ったときは、デフロスタースイッチを押してエンジンを再始動させてください。
  →「ウインドウガラスの曇りや霜を取りたいときは」P.5-8
- エンジンが停止するたびにウインドウガラスが曇る場合は、AS&G OFF スイッチを押して AS&G を非作動にすることをおすすめします。
  →「AS&G を非作動にするには」P.4-159
- 車外の温度が高い状態でエアコンが作動している場合、エアコンの設定温度を高めに設定すると、エンジンの自動停止時間が延長されます。

エンジンを自動で再始動させるには

J10319600088

ブレーキペダルから足を離すと、エンジンが自動的に再始動します。



ブレーキオートホールドが作動状態

アクセルペダルを踏み込むと、エンジンが自動的に再始動します。

レーダークルーズコントロールシステム [ACC] が作動状態

前方車両が動き始める、またはアクセルペダルを踏み込むと、エンジンが自動的に再始動します。

アドバイス

- エンジンを自動で再始動させたときに、ブレーキをかけた状態を一時的に保持して、クリープ現象などによる車両の不意な飛び出しを防ぐ機能が装備されています。セレクターレバーをⓃにすると、機能は解除されます。
  機能作動中に、車体下から作動音がしたり、ブレーキペダルにショックを感じることがありますが、これは機能が正常に作動していることを示すもので、異常ではありません。
- ブレーキペダルから足を離しても、ブレーキオートホールド表示灯（緑色）が点灯しているときは、エンジンは自動的に再始動しません。
- ACC 制御中にブレーキペダルを離してもエンジンは自動的に再始動しません。

アドバイス

- エンジンが自動的に再始動しない場合やエンストした場合、インフォメーション画面に警告が表示され、充電警告灯およびエンジン警告灯が点灯します。



また、再始動に失敗した場合、Ⓐ OFF 表示が点滅および警告ブザーが鳴り、運転者へ知らせます。この状態になると、ブレーキペダルから足を離してもエンジンは自動で再始動しません。
ブレーキペダルを踏み込みながら、セレクターレバーをⓅに入れ、エンジンスイッチを押してエンジンを手動で始動してください。エンジンが始動するとブザーは停止しますが、Ⓐ OFF 表示はエンジンスイッチの電源モードを OFF にするまで点滅します。
詳しくは「エンジンの始動・停止」をお読みください。→P.4-5

⚠注意

- 次のようなときは、ブレーキペダルから足を離さなくてもエンジンが自動的に再始動します。エンジンの再始動時に思わぬ事故につながるおそれがありますので、十分ご注意ください。

⚠注意

- 坂道を惰性で下るなど、車両が動き出したとき
- ブレーキペダルを繰り返し踏み込んだり、通常より強めに踏み込んだりして、ブレーキの負圧が低いとき
- エンジン冷却水の温度が低いとき
- セレクターレバーをⓇに入れたとき
- エアコンスイッチを ON にしたとき
- 温度調整スイッチを使用して、エアコンの設定温度を大きく変更したとき
- デフロスタースイッチを ON にしたとき
- エアコンを AUTO で使用しているときに、温度調整スイッチを操作し、最高温度または最低温度に設定したとき
- エアコンを使用しているときに、車内の温度が上昇して、エアコンのコンプレッサーが作動したとき
- リヤデフォッガー（曇り取り）や電装品を作動させた場合や、エアコンの風量を強に設定した場合など、消費電力が大きくなったとき
- バッテリーの充電量が低下したとき
- ハンドル操作をしたとき
- 運転者がシートベルトを外したとき
- 運転席のドアを開けたとき
- 電動パーキングブレーキスイッチを引き上げて、電動パーキングブレーキをかけたとき

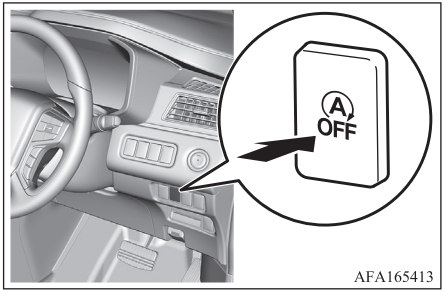
アドバイス

- エンジンが自動停止しているときにブレーキペダルを強く踏み込み、セレクターレバーを素早くⒹからⓅへ操作した後ブレーキペダルから足を離すと、Ⓐ 表示が点滅して、エンジン停止状態を保持することができます。
この状態から、エンジンを自動で再始動させるときは、もう一度ブレーキペダルを踏み込みます。
電源モードを OFF にするときは、ブレーキペダルを踏まずにエンジンスイッチを押します。
- エンジンが自動停止しているときにエンジンフード（ボンネット）を開けると、Ⓐ 表示が点滅してブザーが鳴り、エンジンは自動で再始動しません。再始動する場合は、ブレーキペダルを踏み込みながら、セレクターレバーをⓅに入れ、エンジンスイッチを押してエンジンを手動で始動してください。
詳しくは「エンジンの始動・停止」をお読みください。→P.4-5
- エンジンが自動的に再始動するとき、一時的にオーディオの音量が下がることがありますが、故障ではありません。
- エンジンが自動で停止している間、一時的にエアコンの風量が変化することがありますが、故障ではありません。

AS&G を非作動にするには

J10319700063

AS&G が起動しているときに AS&G OFF スイッチを押すと、メーター内に(A) OFFが表示され、AS&G が非作動状態になります。もう一度 AS&G OFF スイッチを押すと、(A) OFF表示が消え、AS&G が再度起動します。



AS&G OFF 表示



アドバイス

- この表示は、エンジンスイッチを ON にしたときも、数秒間点灯します。

アドバイス

- AS&G を使ってエンジンを自動停止させているときは、AS&G OFF スイッチを押しても、AS&G を非作動にすることはできません。

走行中に警告が表示され、AS&G OFF 表示灯が点滅したときは

J10319800051

走行中にインフォメーション画面に警告が表示され、(A) OFF表示が点滅したときは、AS&G が正常に作動しません。



警告が継続して表示され、(A) OFF表示が点滅したまま消えないときは、ただちに三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

アクティブスタビリティコントロール [ASC]

J10303000029

ASC: Active Stability Control

アクティブスタビリティコントロール [ASC] は、トラクションコントロール機能とスタビリティコントロール機能を持ち、アンチロックブレーキシステム [ABS] と統合的に制御を行うことで、車両姿勢を安定させるとともに駆動力を確保する装置です。次の項も併せてお読みください。

→「アンチロックブレーキシステム [ABS]」P.4-168
→「トラクションコントロール機能」P.4-160
→「スタビリティコントロール機能」P.4-160

⚠注意

- ASC が作動した状態でも車両の安定確保には限界があり、無理な運転は思わぬ事故につながるおそれがあります。ASC を過信せず、常に道路状況に合った安全運転を心がけてください。
- 4 輪とも同一サイズ、同一種類の指定タイヤを装着してください。
  サイズや種類の異なるタイヤを混用すると、ASC が正常に作動しなくなるおそれがあります。
- 市販のリミテッドスリップディファレンシャル [LSD] を装着しないでください。ASC が正常に作動しなくなるおそれがあります。

アドバイス

- 次のような場合は、エンジンルーム内から作動音がすることがあります。また、ブレーキペダルにショックを感じることがあります。これは ASC 装置の作動をチェックしているためで異常ではありません。
  - エンジンスイッチの電源モードを ON にしたとき
  - エンジンをかけてしばらく走行したとき
- ASC が作動すると、車体に振動を感じたり、エンジンルーム内から作動音が聞こえたりします。
  これは装置が正常に作動していることを示すもので異常ではありません。
- ABS 警告灯が点灯しているときは、ASC は作動しません。

トラクションコントロール機能

J10320400057

トラクションコントロール機能は、エンジン出力の制御と空転する駆動輪に自動的にブレーキをかける制御により、滑りやすい路面で駆動輪が空転するのを防止し車両の駆動力を確保する機能です。

⚠注意

- 雪道や凍結路を走行するときは、冬用タイヤを装着して速度は控えめにし、車間距離を十分とって運転してください。

スタビリティコントロール機能

J10320500029

スタビリティコントロール機能は、急激なハンドル操作や滑りやすい路面のカーブに進入したときなどに生じる車両の横滑りを、各車輪のブレーキとエンジン出力を制御することにより抑制し、車両の安定性を向上させる機能です。

アドバイス

- スタビリティコントロール機能は、車速が約 15km/h 以上で作動します。

ASC の ON/OFF 作動切り換え

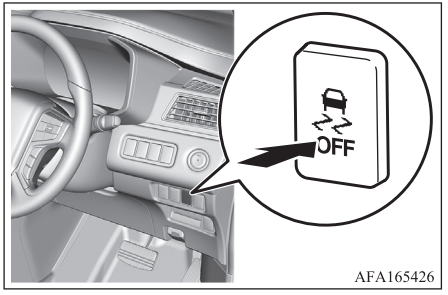
J10320600062

アドバイス

- ぬかるみ、砂地または新雪などからの脱出時に、アクセルペダルを踏み込んでも ASC の働きによりエンジン回転が上がらないことがあります。このようなときは、ASC OFF スイッチで ASC を OFF にすると駆動輪が回転しやすくなり、脱出に効果的な場合があります。

エンジンスイッチの電源モードを ON にすると自動的に ASC は ON になります。ASC を OFF にしたいときは ASC OFF スイッチを 3 秒以上押し続けます。

スイッチを押し続けると3秒後に、表示灯が表示されます。もう一度押すと ON になります。



⚠注意

- 安全のため、ASC OFF スイッチの操作は停車しているときに行ってください。
- 通常走行時は必ず ASC を ON にしてください。
  ASC を OFF にした後も車両挙動に応じて、ASC が作動する場合があります。

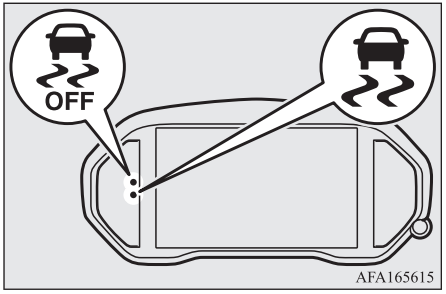
アドバイス

- ASC を OFF にした後、トラクションコントロール機能のエンジン制御は OFF になりますが、ブレーキ制御は作動し続けます。
- ASC を OFF にした後も ASC OFF スイッチを押し続けると、誤操作防止機能が働いて ASC は ON に戻ります。

ASC作動表示／ASC OFF表示

J10320700063

エンジンスイッチの電源モードを ON にすると点灯し、数秒後に消灯します。エンジンスイッチの電源モードを ON にしても表示灯が点灯しない、または点灯したままのときはシステムの異常が考えられます。三菱自動車販売会社で点検を受けてください。



- ASC 作動表示灯
  ASC が作動すると点滅します。
- ASC OFF 表示灯
  ASC OFF スイッチで ASC を OFF にすると点灯します。

⚠注意

- 作動表示灯が点滅したときは路面が滑りやすい状態か、タイヤが滑り始めています。
  アクセルペダルを緩めて控えめな運転をしてください。

⚠注意

- 滑りやすい路面などでブレーキ制御が連続で作動し、ブレーキ装置の温度が上昇しすぎた場合は、ブレーキ制御によるトラクションコントロール機能の作動を一時停止します。これはブレーキ装置を保護するためで通常走行に問題ありません。（エンジン出力の制御によるトラクションコントロール機能は作動します。）
  この場合は OFF 表示灯が点滅し、ブレーキ制御によるトラクションコントロール機能が停止していることを運転者に知らせます。自車を一旦停車し、点滅が消えればブレーキ制御によるトラクションコントロール機能は再び作動します。

アドバイス

- エンジンをかけると OFF 表示灯が点灯することがあります。これはエンジン始動時にバッテリーの電圧が一時的に低下したためで、すぐに消灯すれば故障ではありません。

ASC 警告表示

J10320800048

システムに異常があると、作動表示灯と OFF 表示灯が点灯し、インフォメーション画面に警告が表示されます。

表示灯

-ASC 作動表示灯

-ASC OFF 表示灯

警告表示



このような場合は、次の方法で処置してください。

1. 安全な場所に停車し、エンジンを停止します。
2. 再度エンジンをかけ、表示が消えるか確認します。

表示灯と警告表示が消えれば、異常ではありません。消えないときや、たびたび表示するときは、通常走行には支障はありませんが、できるだけ早く三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

緊急制動信号システム

J10302500027

緊急制動信号システムは、急ブレーキ時に、非常点滅灯を自動的に速く点滅させることで後続車に注意を促し、追突の可能性を低減させる装置です。

緊急制動信号システムが作動すると、メーター内の非常点滅表示灯も同時に速く点滅します。

⚠注意

- ABS警告またはASC警告が表示されているときは、緊急制動信号システムが作動しないことがあります。
  →「ABS 警告」P.4-169
  →「ASC 警告表示」P.4-161

アドバイス

- [緊急制動信号システムの作動条件]
  次の条件がそろったときに作動します。
  - 車速が約 55km/h 以上のとき
  - ブレーキペダルが踏み込まれ、車両の減速度やアンチロックブレーキシステム [ABS] の作動状況から、システムが急ブレーキだと判断したとき

  [緊急制動信号システムの作動停止条件]
  次のいずれかの条件で作動を停止します。
  - ブレーキペダルから足を離したとき
  - 非常点滅灯スイッチを押したとき
  - 車両減速度やABSの作動状況から、システムが急ブレーキではないと判断したとき

ブレーキオートホールド

J10328000088

ブレーキオートホールドは、信号待ちなどの停車中に、ブレーキペダルを踏み続けなくてもブレーキがかかった状態を保持する装置です。
ブレーキ保持中にアクセルペダルを踏み込むとブレーキは自動で解除されます。

⚠注意

- ブレーキオートホールドを過信しないでください。極端に急な坂道では、車両を保持することができない場合がありますので、ブレーキペダルをしっかりと踏んでください。
- ブレーキオートホールドによる停車中は自車から離れないでください。自車から離れるときは、電動パーキングブレーキをかけてセレクターレバーをⓅに入れてください。
- 滑りやすい路面ではブレーキオートホールドを使用しないでください。車両を保持することができず、思わぬ事故につながることがあります。

アドバイス

- ブレーキオートホールドの作動中に車両の動きを検知したときは、ブレーキ力を強めるためエンジンルーム内から作動音がすることがありますが異常ではありません。

アドバイス

- エンジンスイッチの電源モードをOFFにしてもブレーキオートホールドのスタンバイまたは OFF の設定を記憶しています。

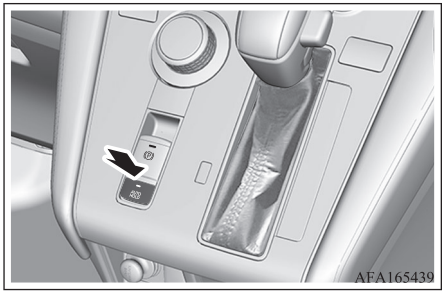
使い方

システムを起動（スタンバイ）するときは

次の条件がそろったときにブレーキオートホールドスイッチを押します。

- エンジンスイッチの電源モードが ON のとき
- 運転席のシートベルトを着用している
- 運転席ドアが閉じている
- 電動パーキングブレーキが解除されているとき
- セレクターレバーが、Ⓟまたは Ⓡ以外の位置にあるとき
- 極端に急な坂道で駐車していないとき

システムがスタンバイ状態に切り換わり、スイッチ内の表示灯およびメーター内のブレーキオートホールド表示灯（白色）が点灯します。



表示灯



アドバイス

- ブレーキオートホールドが使用できないときは、ブザーとともにインフォメーション画面に警告が表示されます。
  - この警告が表示されたときは、システムの作動条件がそろっているか、システムに異常がないか確認してください。



アドバイス

- この警告が表示されたときは、運転席のシートベルトを着用してください。



- システムがスタンバイ状態のとき、次のいずれかの状態になるとブレーキオートホールドが OFF になり、メーター内のブレーキオートホールド表示灯（白色）が消灯します。
  - 運転席のシートベルトを外したとき
  - 運転席のドアを開けたとき

  上記の状態が解消すると、ブレーキオートホールド表示灯（白色）が再び点灯します。
- 次のようなときは、メーター内のブレーキオートホールド表示灯（白色）が消灯し、ブザーとともにインフォメーション画面に警告が表示されます。
  - 急な坂道に駐車しているとき
  - システムの異常を検知したとき



アドバイス

- システム起動中にブレーキオートホールドスイッチを押し続けると、保護回路が働いてシステムが自動的にOFFになります。
  自動的にOFFになった後は、スイッチを押してもスタンバイ状態に切り換えることができなくなります。
  スタンバイ状態に切り換えるときは、エンジンを再始動してからスイッチを押してください。

作動させるときは

セレクターレバーがⓅまたはⓇ以外の位置にあるときに、ブレーキペダルを踏んで停車します。
メーター内のブレーキオートホールド表示灯が白色から緑色に切り換わり、自動でブレーキがかかった状態を保持します。

表示灯



⚠注意

- ブレーキオートホールド表示灯が白色から緑色に切り換わった後で、ブレーキペダルから足を離してください。

アドバイス

- 次の場合、一時的にブレーキオートホールドが作動しないことがあります。
  - 滑りやすい路面で停車したとき
  - ハンドルをいっぱいに回しながら停車したとき
  - 駐車場のターンテーブルの上で車両が回転しているとき

  このようなときは、アクセルペダルを踏んで再度走行を開始すると、ブレーキオートホールド機能が通常の作動状態に戻ります。
- 次の操作をすると、ブレーキ保持状態が解除され、メーター内のブレーキオートホールド表示灯が消灯します。
  - ブレーキペダルを踏みながらセレクターレバーをⓅまたはⓇの位置にしたとき
  - 電動パーキングブレーキスイッチを引き上げたとき
- ブレーキオートホールドが作動中、次の場合は電動パーキングブレーキが自動で作動し、ブレーキオートホールドによるブレーキ保持が解除されると同時にブザーが鳴って、インフォメーション画面に警告が表示されます。
  - ブレーキオートホールドによるブレーキ保持をしてから約3分経過したとき
  - 運転席のシートベルトを外したとき
  - 運転席ドアを開けたとき
  - エンジンスイッチの電源モードを OFFにしたとき

アドバイス

- 坂道で車両のずり下がりを検知したとき



このとき、電動パーキングブレーキが自動で作動しない場合は、インフォメーション画面に警告が表示されますのでブレーキペダルを踏み込んでください。



- セレクターレバーがⓅ以外の位置でエンジンスイッチの電源モードをOFFにすると、インフォメーション画面に警告が表示されることがあります。警告が表示されたときは、ブレーキペダルを踏みながらセレクターレバーをⓅに入れてください。



発進するときは

セレクターレバーがⓅまたはⓃ以外の位置にあるときに、アクセルペダルを踏み込みます。
ブレーキの保持が解除され、メーター内のブレーキオートホールド表示灯が消灯します。

システムを非作動にするときは

ブレーキオートホールドスイッチを押して、スイッチ内の表示灯およびメーター内のブレーキオートホールド表示灯を消灯させます。
ブレーキオートホールド表示灯（緑色）が点灯しているときは、ブレーキペダルを踏みながらスイッチを押します。

アドバイス

- ブレーキオートホールド表示灯（緑色）が点灯しているときに、ブレーキペダルを踏まずにスイッチを押すと、ブザーとともにインフォメーション画面に警告が表示されます。



ヒルスタートアシスト [HSA]

J10302600044

ヒルスタートアシスト [HSA] は、急な上り坂で発進するときに起こる車両の後退を防止し、発進を容易にする装置です。ブレーキペダルからアクセルペダルに踏み換えるとき、ブレーキをかけた状態を約 2 秒間保持します。

⚠注意

- HSA を過信しないでください。
  極端に急な上り坂、凍結した上り坂、ぬかるんだ上り坂など路面の状態によっては車両を保持することができない場合があります。
  また、停止するときにブレーキペダルの踏み方が不十分であったり、乗員の人数、荷物の重さなどによってHSAが作動しないことがあります。
- HSAは、2秒以上車両の後退を防止することはできません。
- 上り坂でブレーキペダルを踏み込まずに、HSA を使って停止状態を保つことはしないでください。
  思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠注意

- HSA が作動中に、エンジンスイッチの電源モードを OFF または ACC にしないでください。
  HSA が作動を停止し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

使い方

J10319900065

1. ブレーキペダルを踏んで車両を完全に停止させます。
2. ブレーキペダルから足を離します。
   HSA がブレーキ力を保持し、車両の後退を約 2 秒間防止します。
3. アクセルペダルを踏み込みます。
   HSA は、車両の発進に合わせて、徐々にブレーキ力を緩めます。

アドバイス

- HSA は、次の条件がそろったときに作動します。
  - エンジンがかかっている
  - セレクターレバーがⓅまたはⓃ以外の位置に入れてある
  - ブレーキペダルを踏んで、車両が完全に停止している
  - 電動パーキングブレーキを解除している

アドバイス

- HSA は、ブレーキペダルから足を離す前にアクセルペダルを踏み込むと作動しません。
- HSA は、坂道を後ろ向きに登るときにも作動します。
- HSA 作動中に車体下から作動音がすることがあります。これは HSA が正常に作動していることを示すもので異常ではありません。

警告表示

J10320000024

システムに異常があると表示灯が点灯し、インフォメーション画面に警告が表示されます。

表示灯



警告表示



このような場合は、次の方法で処置してください。

1. 安全な場所に停車し、エンジンを停止します。
2. 再度エンジンをかけ、表示が消えるか確認します。

表示灯や警告表示が消えれば異常ではありません。表示灯や警告表示が消灯せず、頻繁に表示されるときは、通常走行には支障はありませんが、できるだけ早く三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

⚠注意

- 警告が表示されるとHSAが作動を停止します。慎重に発進してください。

ヒルディセントコントロール [HDC]

J10352700037

HDC: Hill Descent Control

ヒルディセントコントロール [HDC] は、急な下り坂や滑りやすい路面を下るとき、一定の低車速を保ち、下り坂での走行を補助するシステムです。

⚠警告

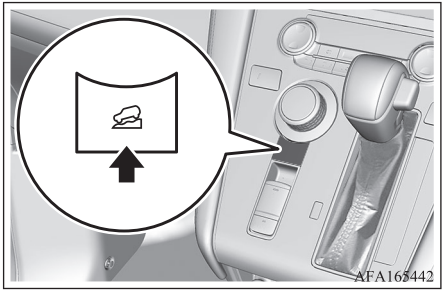
- 安全運転を行う責任は運転者にあります。HDC に頼った運転はせず、道路状況を確認し常に安全運転を心がけてください。
- 極端に急な下り坂、凍結路、泥状の下り坂では必要に応じてブレーキペダルを踏んでください。一定の速度を保持できず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠注意

- ブレーキ制御が連続で作動し、ブレーキの温度が上昇しすぎた場合は、警告表示が表示され HDC の作動を一時停止します。このとき ASC OFF 表示灯が点滅することがあります。
  ブレーキは通常のブレーキとして作動します。
  車を安全な場所に停止させ、ブレーキの温度が低下し、ASC OFF 表示灯が消灯すれば、HDC は再び作動します。
- HDCに異常があるとASC作動表示灯が点灯します。ASC 作動表示灯が点灯した場合は、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

HDC を起動（スタンバイ）するときは

1. 車両を完全に停止させます。
2. セレクターレバーを Ⓓ または Ⓡ に入れます。
3. HDC スイッチを押します。



4. メーター内に HDC 表示灯が点灯することを確認します。HDC 表示灯が点灯すればスタンバイ状態になります。



アドバイス

- エンジンスイッチの電源モードを ON にすると、HDC 表示灯が点灯し数秒後に消灯します。

アドバイス

- HDC スイッチを押し続けると、HDC が OFF になります。その後 HDC スイッチを押しても誤操作防止機能が働き、スタンバイ状態になりません。再度 HDC をスタンバイ状態にするには、一度、エンジンスイッチの電源モードを OFF にし、再度 ON にしてから HDC スイッチを押してください。
- 次のような状況では HDC スイッチを押してもスタンバイ状態になりません。
  - 車速が約 80km/h を超えたとき
  - ブレーキの温度が高いとき
  - ASC 作動表示灯が点灯しているとき

HDC は、次の条件が満たされたときのみ作動します。

- 車速が約 20km/h 以下のとき
- アクセルペダルとブレーキペダルを踏んでいないとき

制御が働くと HDC 表示灯が点滅し、制動灯（ブレーキランプ）が点灯します。アクセルペダルまたはブレーキペダルの操作で車速を変更することができます。ペダルから足を離したときの車速で制御を続けます。

アドバイス

- 次のような状況では HDC がスタンバイ状態でも制御は行いません。
  - 車速が約 20km/h を超えたとき
- HDC が作動しているとき、ブレーキペダルの踏みごたえが変化したり、音や振動が発生したりすることがありますが、異常ではありません。

HDC を非作動にするには

1. HDC スイッチを押します。HDC は徐々に解除されます。
2. HDC 表示灯が消灯することを確認します。

アドバイス

- 次のような状況では HDC スイッチを押さなくても自動的に OFF となり HDC 表示灯が消灯します。
  - 車速が約 80km/h を超えたとき
  - ASC 作動表示灯が点灯しているとき
  - ブレーキの温度が高いとき

ブレーキアシスト

J10302700061

ブレーキアシストは、緊急制動時などにブレーキペダルを強く踏み込めない運転

者を補助し、より大きな制動力を確保する装置です。ブレーキペダルを素早く踏み込んだときにブレーキが強くかかるようになります。

⚠注意

- ブレーキアシストは、ブレーキ性能以上の制動力を発揮させる装置ではありません。ブレーキアシストを過信せず、十分な車間距離をとって安全運転を心がけてください。

アドバイス

- 一旦ブレーキアシストが作動すると、ブレーキペダルを緩めても大きな制動力を保持します。
  ブレーキアシストの作動を停止させたいときは、ブレーキから完全に足を離してください。
- 走行中にブレーキアシストが作動すると、ブレーキペダルが軽く感じられることがあります。また作動音とともにペダルが小刻みに動いたり、車体やハンドルに振動を感じることがあります。これは装置が正常に作動していることを示すもので異常ではありません。そのままブレーキペダルを強く踏み続けてください。
- ABS 警告灯または ASC 作動表示灯のみが点灯しているときは、ブレーキアシストは作動しない場合があります。

アンチロックブレーキシステム [ABS]

J10302800059

アンチロックブレーキシステム[ABS]は、急ブレーキや滑りやすい道路でブレーキを踏んだときに車輪のロックを防止し、制動力を維持し、かつ安定した車体姿勢とハンドル操舵性を保つ装置です。

⚠注意

- ABS は制動時の車体安定性を確保するためのもので必ずしも制動距離が短くなるとは限りません。ABS を過信せず、十分な車間距離をとって安全運転を心がけてください。
- 雪道を走行した後は足まわりに付いた雪や泥を取り除いてください。足まわりを清掃するときはホイール付近に付いている車速感知装置や配線などを傷つけないよう十分注意してください。
- 4 輪とも同一サイズ、同一種類の指定タイヤを装着してください。
  サイズや、種類の異なるタイヤを混用すると、ABS が正常に作動しなくなるおそれがあります。
- 市販のリミテッドスリップディファレンシャル [LSD] を装着しないでください。ABS が正常に作動しなくなるおそれがあります。

アドバイス

- 次のような場合は、ABS の付いていない車に比べて制動距離が長くなることがありますので、速度は控えめにし、車間距離を十分とって運転してください。
  - 砂利道や深い新雪路を走行するとき
  - タイヤチェーンを装着しているとき
  - 道路の継ぎ目や段差を乗り越えるとき
  - 凸凹道などの悪路を走行するとき
- マンホール、工事用の鉄板、白線の上、段差を乗り越えるときなど、車輪が滑りやすい状況では、車輪のロックを防止するため急制動以外でもABSが作動することがあります。
- ABS が作動すると車体、ハンドル、ブレーキペダルに振動を感じたり、作動音が聞こえます。
  また、ブレーキペダルを踏み込んだときに固く感じることがあります。
  これは装置が正常に作動していることを示すもので異常ではありません。そのままブレーキペダルを強く踏み続けてください。
- 次のような場合は、エンジンルーム内より作動音がすることがあります。また、ブレーキペダルにショックを感じることがあります。これは ABS 装置の作動をチェックしているためで異常ではありません。
  - エンジンスイッチの電源モードをONにしたとき

アドバイス

- エンジンをかけてしばらく走行したとき
- ABS は、発進後車速が約 10km/h になるまで作動しません。また、車速が約 5km/h まで下がると作動を停止します。

ABS 警告

J10320100038

警告灯



警告表示



システムに異常があると警告灯が点灯し、インフォメーション画面に警告が表示されます。
正常なときはエンジンスイッチの電源モードを ON にすると警告灯が点灯し、数秒後に消灯します。

⚠注意

- 点灯したままのとき、または点灯しないときは装置の故障が考えられますので、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

走行中に警告を表示したときは

J10320200084

ABS 警告のみ表示したときは

- 急ブレーキや高速走行を避け安全な場所に停車します。
  エンジンを停止し、再度エンジンをかけ、しばらく走行した後に、警告灯が消灯したら、ABS の故障ではありません。
  しばらく走行しても警告灯の点灯が継続したときは三菱自動車販売会社で点検を受けてください。このとき、ABS は作動せず、普通のブレーキとして作動します。
- バッテリーが電圧不足のときにエンジンをかけると、警告を表示することがありますが ABS の故障ではありません。
  このようなときは、しばらくアイドリング回転でバッテリーを充電してください。
  充電しても警告が表示されたときは三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

ABS 警告とブレーキ警告を表示したときは

ABS 警告灯



ブレーキ警告灯



ABS 警告表示



ブレーキ警告表示



ブレーキ力の配分機能が作動しないことがあるため、急ブレーキをかけたときに

車体姿勢が不安定になるおそれがあります。
急ブレーキや高速走行を避け、ただちに車を安全な場所に止めて三菱自動車販売会社にご連絡ください。

アドバイス

- 警告灯は同時に点灯し、インフォメーション画面には、交互に表示します。

電動パワーステアリング [EPS]

J10302900021

電動パワーステアリング [EPS] は、エンジン回転中にパワーアシストが作動し、ハンドルの操作力を軽くする装置です。
もし、パワーアシストが作動しなくなったときは、ハンドルが重くなります。この場合は、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

⚠警告

- 走行中はエンジンを止めないでください。エンジンを止めると、ハンドルが非常に重くなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- 駐車するときなどにハンドルをいっぱいに回す操作を繰り返すと、システムの過熱を防止するため保護機能が働きハンドル操作が徐々に重くなります。この場合、しばらくハンドル操作を控えてください。
  システムの温度が下がるとハンドルの操作力は元に戻ります。
- ヘッドライトを点灯したままで停車しているとき、ハンドル操作をするとヘッドライトが暗くなることがありますが異常ではありません。しばらくすれば元の明るさに戻ります。

警告表示

J10320300030

警告灯



警告表示



システムに異常があるときは、警告灯が点灯し、インフォメーション画面に警告が表示されます。

⚠注意

- エンジン回転中に表示したときは、ハンドルが重くなることがありますので、できるだけ早く三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

快適装備の使い方

エアコン

エアコンの上手な使い方 5-2
クリーンエアフィルター 5-2
吹き出し口 5-3
左右独立温度コントロール式フルオートエアコン 5-6
スタートアップヒーター（フロント）.....5-11
エアコンのカスタマイズ（機能の設定変更）..... 5-12
リヤマニュアルクーラー／
スタートアップヒーター（リヤ）..... 5-14

オーディオ

アンテナ 5-17

室内装備

サンバイザー 5-17
アクセサリーソケット (DC12V) 5-18
充電用 USB ポート 5-19
アクセサリーコンセント 5-19
室内灯 5-22
小物入れ 5-28
ドリンクホルダー 5-30
ボトルホルダー 5-31
アシストグリップ 5-32
荷物固定用フック 5-32
コンビニエントフック 5-33
フロアマット 5-33

エアコンの上手な使い方

J10400300035

⚠注意

- 冷暖房中はエンジン回転数が高くなる場合があります。停車中にエンジン回転数が高くなるとクリープ現象が強くなりますので、停車中はしっかりとブレーキペダルを踏んでください。
  →「オートマチック車の運転のしかた：クリープ現象とは」P.4-22

長時間炎天下に駐車したときは

車室内の温度は大変高くなります。
このようなときはドアガラスを開けて車室内の熱気を車外に追い出してからエアコンを作動させてください。

冷やしすぎに注意

長時間冷風を直接身体に当てないでください。冷やしすぎは身体によくありませんので、少し涼しいと感じる温度に調整してください。

冷媒ガス量の点検を忘れずに

冷媒ガスが不足すると冷房、除湿効果が悪くなります。暑い季節になる前に三菱自動車販売会社で冷媒ガス量の点検を受けてください。

⚠注意

- エアコンの冷媒ガスを充填する場合は、エンジンフード（ボンネット）内に貼り付けてあるエアコン冷媒ラベルに記載されている冷媒量をお守りください。規定量を超えて充填した場合、エアコンコンプレッサーが故障し、エンジン停止や始動不能になるおそれがあります。

アドバイス

- エアコン冷媒は、オゾン層を破壊させない代替フロンガスHFO-1234yf (R1234yf)を使用していますが、この代替フロンガスにも地球を温暖化させる働きがあります。エアコンの効きが悪い場合は、三菱自動車販売会社でガス漏れの点検を行い、ガスの大気放出を防止してください。

クリーンエアフィルター

J10400400023

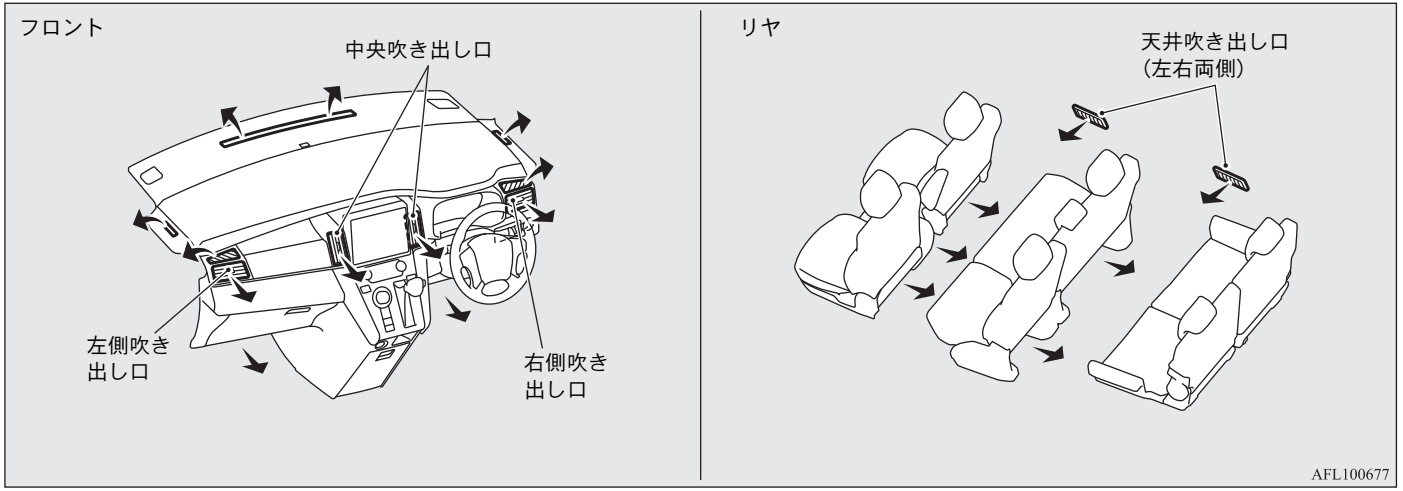
花粉やほこり、粉じんなどを取り除くフィルターを内蔵しています。フィルターに花粉やほこりなどが付着すると効果が低下しますので、フィルターは定期的に交換してください。
→「クリーンエアフィルターの交換」P.6-8

アドバイス

- フィルターの交換時期については別冊の「メンテナンスノート」をお読みください。

吹き出し口

J10400100075



風向き調整

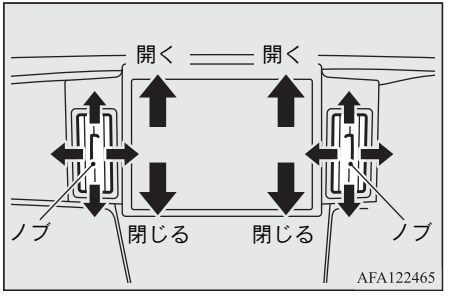
J10401900041

アドバイス

- 吹き出し口に飲み物などが入らないようにしてください。エアコンが正常に作動しなくなるおそれがあります。

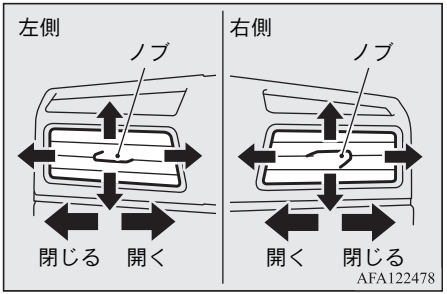
中央吹き出し口

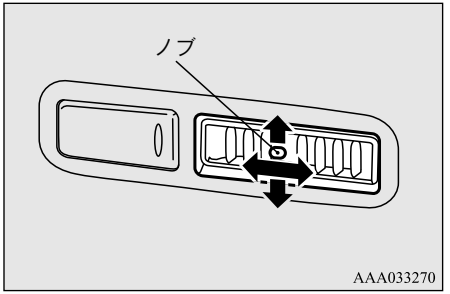
ノブを動かして調整します。
吹き出し口を閉じるときは、ノブを下側いっぱいまで動かします。



左右吹き出し口

ノブを動かして調整します。
吹き出し口を閉じるときは、ノブを外側いっぱいまで動かします。





天井吹き出し口

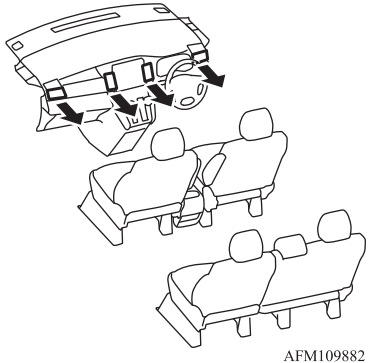
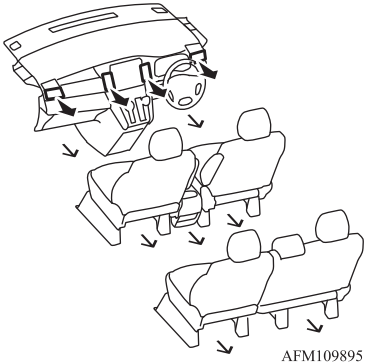
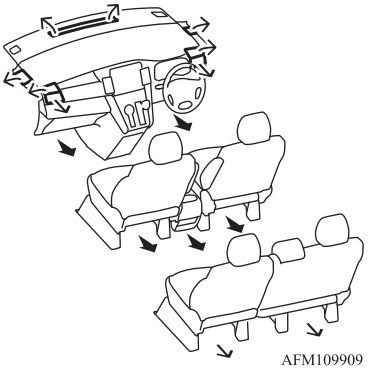
ノブを動かして調整します。

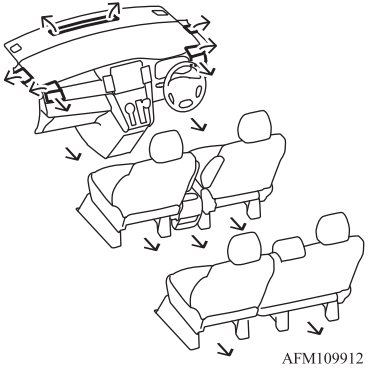
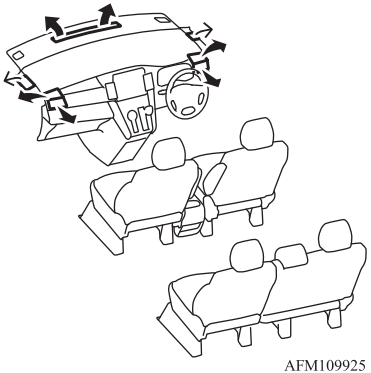
吹き出し口を切り換えたいときは

J10402000049

MODE スイッチまたはデフロスタースイッチを押して、使用目的に合わせて吹き出し口を切り換えます。

→: 風量：弱　　➔: 風量：中　　➡: 風量：強

上半身に送風したいとき	上半身と足元に送風したいとき	足元に送風したいとき
 AFM109882	 AFM109895	 AFM109909

足元とウインドウガラスに送風したいとき	ウインドウガラスに送風したいとき
 AFM109912	 AFM109925

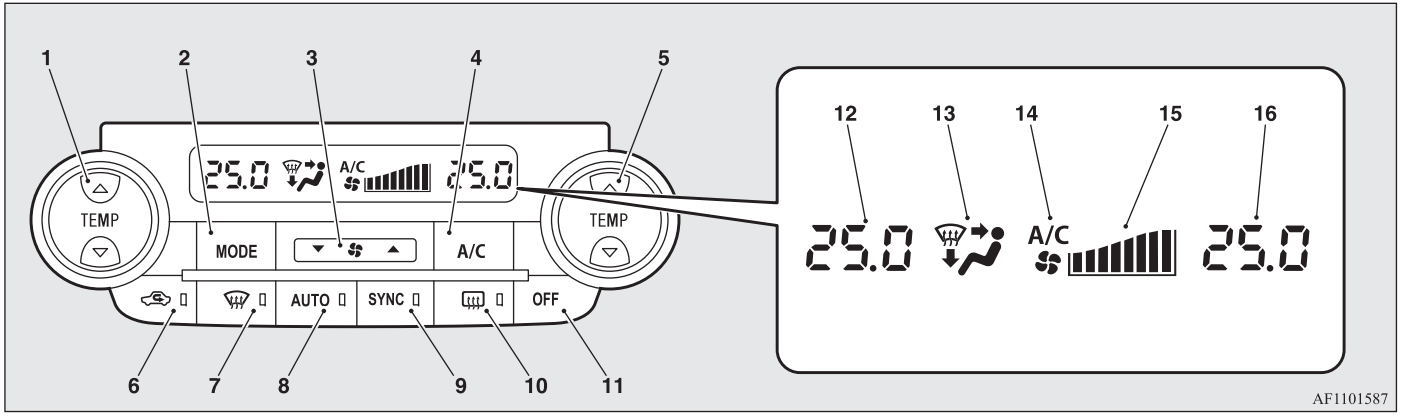
アドバイス

- オートストップ＆ゴー [AS&G] が作動中にウインドウガラスが曇ることがあります。ウインドウガラスが曇ったときは、デフロスタースイッチを押して、曇りを取ってください。
- または を使用するときは、ウインドウガラスの曇りを防止するため、内外気切り換えスイッチにて、外気導入にしてください。

左右独立温度コントロール式フルオートエアコン

J10400200021

エンジンスイッチの電源モードが ON の状態のときに使用できます。



1- 助手席側温度調整スイッチ → P.5-9
2- MODE スイッチ → P.5-5
3- 風量調整スイッチ → P.5-9
4- A/C スイッチ → P.5-10
5- 運転席側温度調整スイッチ → P.5-9
6- 内外気切り換えスイッチ → P.5-10
7- デフロスタースイッチ → P.5-8
8- AUTO スイッチ → P.5-8
9- SYNC スイッチ → P.5-10
10- リヤデフォッガースイッチ → P.4-88
11- OFF スイッチ → P.5-8
12- 助手席側設定温度表示灯 → P.5-9
13- 吹き出し口表示灯 → P.5-5
14- エアコン作動表示灯 → P.5-10
15- 風量表示灯 → P.5-9
16- 運転席側設定温度表示灯 → P.5-9

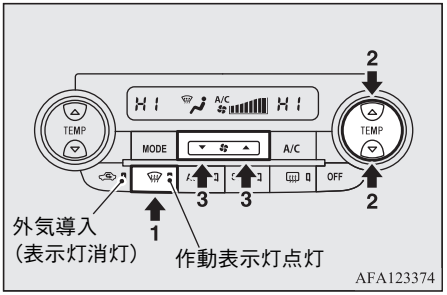
● 目的に合った使い方
- ウインドウガラスの曇りや霜を取りたいときは → P.5-8
- 自動で使うときは → P.5-8
- 手動で使うときは → P.5-9
- 風量調整したいときは → P.5-9
- 温度調整したいときは → P.5-9
- 運転席側と助手席側の温度を独立して調整したいときは → P.5-10
- エアコン（冷房・除湿機能）を作動／停止したいときは → P.5-10
- 内外気を切り換えたいときは → P.5-10
- 排気ガス、ほこりなどを車室内に入れたくないときは → P.5-11

アドバイス

● 非常に寒いときに画面の動きが遅くなることがありますが、故障ではありません。車室内の温度が、常温に戻れば回復します。

ウインドウガラスの曇りや霜を取りたいときは

J10428500026



1. デフロスタースイッチを押します。エアコンが自動的に作動し、内外気切り換えは外気導入に切り換わります。
2. 運転席側の温度調整スイッチでお好みの温度に設定します。
3. 風量調整スイッチでお好みの風量に設定します。

⚠注意

- 安全のため、ウインドウガラスの曇りや霜は早めに取り除いて視界確保に努めてください。

⚠注意

- 吹き出し口切り換えスイッチを にしてもウインドウガラスの曇りや霜を取ることができますが、自動的にエアコンは作動しません。また、外気導入にも切り換わりません。エアコンの作動および外気導入への切り換えは、A/C スイッチおよび内外気切り換えスイッチを操作してください。
- デフロスタースイッチを押したときは、設定温度を最低温度付近にしないでください。ウインドウガラスの外側に露が付き、視界を妨げることがあります。

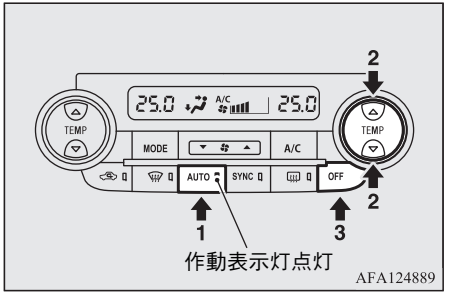
アドバイス

- 曇りや霜を早く取りたいときは風量を最大に、温度を最高に設定します。
- サイドウインドウガラスの曇りを早く取りたいときは、左右の吹き出し口をサイドウインドウガラスに向けてください。
- デフロスタースイッチを押すと、オートストップ＆ゴー [AS&G] が作動せず、停車してもエンジンは自動停止しません。これは十分な視界を確保するためです。

自動で使うときは

J10403000033

吹き出し口、風量、エアコンの ON/OFF および内外気の切り換えを自動的に調整します。



1. AUTO スイッチを押します。
2. 温度調整スイッチで希望温度を設定します。設定温度を LO (18.0) ～ HI (32.0) の間で調整できます。
3. 停止するときは OFF スイッチを押します。

アドバイス

- 25.0 を基準に、お好みの温度に調整してください。
- AUTO 作動中にスイッチを操作すると操作した機能が優先されます。操作した機能以外は自動制御されます。
- 外気温が低いときは、暖房効果を高めるために、通常の走行時よりもエンジン回転数が高くなることがありますが異常ではありません。

アドバイス

- 室温センサーをふさいだりしないでください。



手動で使うときは

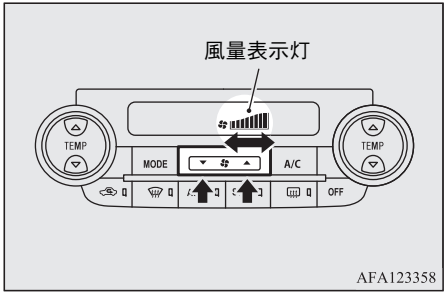
J10403100021

お好みに合わせてスイッチを操作してください。AUTO 作動中でも、操作した機能が優先されます。
操作した機能以外は自動制御されます。停止するときは OFF スイッチを押します。

風量調整したいときは

J10428300024

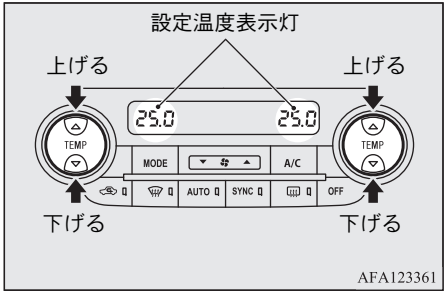
風量を強くするときはスイッチの▲側を、弱くするときは▼側を押します。
設定した風量は風量表示灯に表示されます。



温度調整したいときは

J10428400054

送風温度を上げるときはスイッチの上▲側を、下げるときは下▼側を押します。
設定した温度は設定温度表示灯に表示されます。



アドバイス

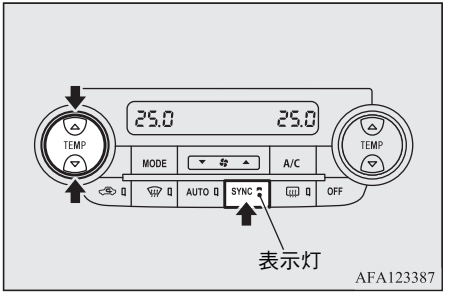
- 設定温度表示灯の値は、マルチインフォメーションディスプレイの温度単位に連動して切り換わります。
  →「温度単位の変更」P.4-42
- エンジン冷却水の温度が低いときに温度調整スイッチを押しても送風温度は変わりません。
- 設定した温度に対して暑い、または寒いと感じるときに、快適になるよう調整することができます。詳しくは三菱自動車販売会社にご相談ください。
- 温度を最高または最低に設定すると、内外気およびエアコンが次の通り自動的に切り換わります。
  自動的に切り換わった後に手動操作した場合は、操作した機能が優先されます。
  - 最高温度 HI（32.0）に設定
    外気導入、エアコン停止
  - 最低温度 LO（18.0）に設定
    内気循環、エアコン作動

  工場出荷時は上記のように設定されています。内外気切り換え／ A/C スイッチのカスタマイズ（機能の設定変更）したときや、操作条件によっては外気およびエアコンの自動切り換えを、お好みに合わせて変更することができます。
  詳しくは三菱自動車販売会社にご相談ください。
  →「エアコンのカスタマイズ（機能の設定変更）」P.5-12

運転席側と助手席側の温度を独立して調整したいときは

J10428600027

SYNC スイッチ内の表示灯が点灯しているときに助手席側の温度調整スイッチ、または SYNC スイッチを操作すると、運転席側と助手席側の温度を独立して設定することができます。
このとき、SYNC スイッチ内の表示灯が消灯します。
SYNC スイッチを押すと、運転席と助手席の設定温度は同じになり、SYNC スイッチ内の表示灯が点灯します。



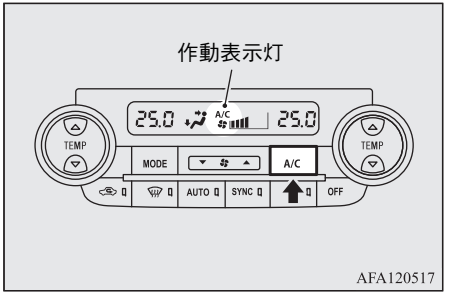
アドバイス

- SYNC スイッチ内の表示灯が点灯しているときに運転席側の温度調整スイッチを操作すると、助手席側も同じ設定温度になります。

エアコン（冷房・除湿機能）を作動／停止したいときは

J10428800032

A/C スイッチを押すごとにエアコン（冷房・除湿機能）の作動または停止が切り換わります。エアコン作動中は表示灯が点灯します。



アドバイス

- エアコン作動表示灯が点滅したときは、エアコン装置に何らかの異常が考えられます。一度 A/C スイッチを押してエアコンを切り、再度スイッチを押してエアコンを ON にしてください。しばらくたってもエアコン作動表示灯が点滅しなければ異常ありません。
  再び点滅する場合は三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

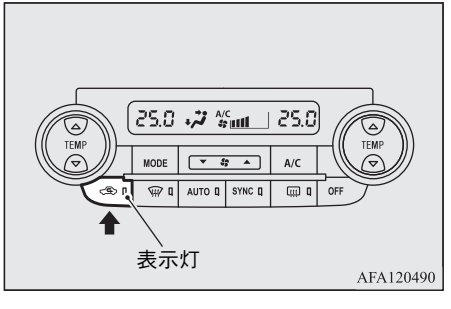
アドバイス

- 高圧洗車機などを使用して、大量の水がコンデンサに付着した場合は、洗車後エアコン作動表示灯が一時的に点滅することがありますが、異常ではありません。しばらくたってから、一旦エアコンを停止し、再度作動させてください。水分が蒸発していれば点滅は止まります。

内外気を切り換えたいときは

J10428700028

内外気切り換えスイッチを押すと外気導入（外気を車内に入れる）と内気循環（外気を遮断する）の切り換えができます。
内気循環に切り換わるとスイッチ内の表示灯が点灯します。



⚠注意

- ウインドウガラスの曇りを防止するため通常は外気導入で使用してください。
  長時間内気循環にしておくとウインドウガラスが曇りやすくなるため、ときどき外気導入に切り換えて換気してください。

アドバイス

- 早く冷暖房したいときは、内気循環にすると効果的です。
- 手動操作後、AUTO スイッチを押すと、内外気切り換えスイッチも自動制御されます。

排気ガス、ほこりなどを車室内に入れたくないときは

J10428900020

トンネルや渋滞など外気が汚れているときは、内外気切り換えスイッチを押して内気循環にします。
→「内外気を切り換えたいときは」P.5-10

スタートアップヒーター（フロント）

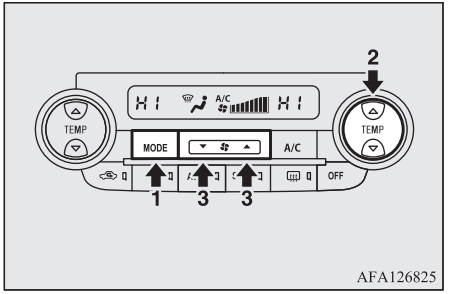
J10409000048

エンジン冷却水の温度が低いとき、暖房性能を向上させるための電気式ヒーターです。

自動で使いたいときは

AUTO スイッチを押し、運転席側または助手席側の温度調整スイッチでお好みの温度に設定してください。
エンジン冷却水と車室内の温度から判断して自動で作動、停止を行います。

手動で使いたいときは



1. MODE スイッチを押して吹き出し口をお好みに設定します。
2. 運転席側の温度調整スイッチで設定温度表示灯を HI に設定します。
3. 風量調整スイッチで風量をお好みに設定します。

アドバイス

- エンジン冷却水の温度が十分に上昇すると、自動で停止します。

エアコンのカスタマイズ（機能の設定変更）

J10429000103

次の機能をお好みに合わせて変更することができます。

項目	設定内容	工場出荷時の設定	設定変更方法	
			エアコン操作パネル	三菱自動車販売会社
内外気切り換えの自動制御	内気循環、外気導入を「自動で切り換える」、「自動で切り換えない」の選択ができます。*1	許可	○	○
A/C スイッチの自動制御	A/C スイッチの ON/OFF を「自動で切り換える」、「自動で切り換えない」の選択ができます。*2	許可	○	○
ECO モードのときのエアコンの ECO 制御	ECO モード動作時に、エアコンのエコ運転*3 を「作動する」、「作動しない」の選択ができます。	作動する	−	○
吹き出し口が のときの足元／ウインドウガラスへの風量割合	手動でエアコンの吹き出し口を に選択したとき、足元への送風とウインドウガラスへの送風の割合を設定できます。	標準	−	○
吹き出し口が のときの上半身／足元への風量割合	手動でエアコンの吹き出し口を に選択したとき、上半身への送風と足元への送風の割合を設定できます。	標準	−	○
リヤデフォッガー（曇り取り）スイッチの自動作動	外気温が低いとき、エンジン始動時にリヤデフォッガーが「自動で作動する」、「自動で作動しない」の選択ができます。	作動しない	−	○
設定温度調整	設定した温度に対して暑い、または寒いと感じるときに、快適になるよう調整することができます。	標準	−	○

*1：デフロスタースイッチを押したときは、ウインドウガラスの曇りを防止するため、「自動で切り換えない」に設定していても自動的に外気導入に切り換わります。
*2：デフロスタースイッチを押したときは、ウインドウガラスの曇りを防止するため、「自動で切り換えない」に設定していてもエアコンは自動的に ON になります。
*3：エコ運転時は、エアコンの作動を抑制しているため、エアコンの効きが弱いと感じる場合があります。

内外気切り換え・A/C スイッチのカスタマイズ（機能の設定変更）

J10429100061

各スイッチ *1 を約 10 秒以上押し続けることによって変更できます。

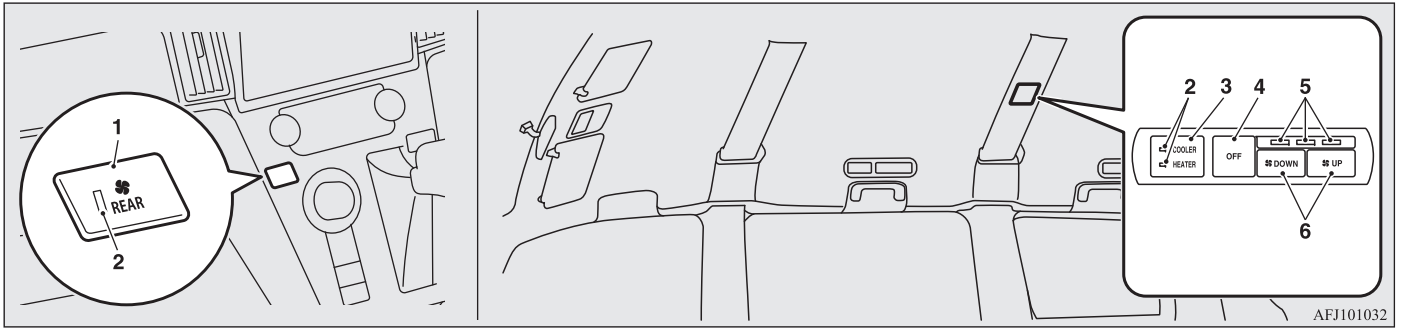
- 許可から拒否へ変更した場合
  音が “ ピピピッ ” と鳴り、表示灯 *2 が 3 回点滅します。
- 拒否から許可へ変更した場合
  音が “ ピピッ ” と鳴り、表示灯 *2 が 3 回点滅します。

*1：内外気自動制御の設定を変更する場合は内外気切り換えスイッチを、A/C スイッチ自動制御の設定を変更する場合は A/C スイッチを押してください。
*2：内外気自動制御の設定を変更した場合は内外気切り換えスイッチ内の表示灯が点滅し、A/C スイッチ自動制御の設定を変更した場合は画面のエアコン作動表示灯が点滅します。

リヤマニュアルクーラー／スタートアップヒーター（リヤ）

J10409200053

エンジンスイッチの電源モードが ON の状態のときに使用できます。



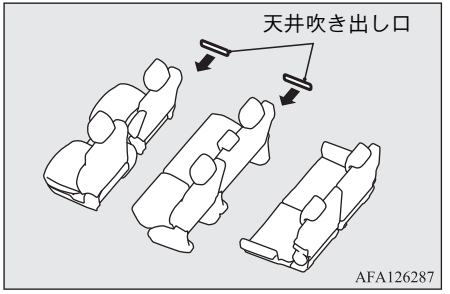
1- 前席用リヤファンスイッチ → P.5-15
2- 作動表示灯 → P.5-15
3- クーラー／ヒーター切り換えスイッチ → P.5-16
4- OFF スイッチ → P.5-16
5- 風量表示灯 → P.5-16
6- 風量調整スイッチ → P.5-16

吹き出し口

J10410900047

リヤマニュアルクーラーを使用しているとき

天井吹き出し口から送風されます。

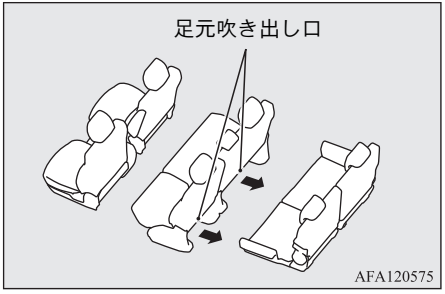


アドバイス

- リヤマニュアルクーラーからスタートアップヒーター（リヤ）に切り換えると、天井吹き出し口からの送風が停止します。

スタートアップヒーター（リヤ）を使用しているときは

足元吹き出し口から送風されます。



アドバイス

- スタートアップヒーター（リヤ）からリヤマニュアルクーラーに切り換えると、足元吹き出し口からの送風が停止します。

使用する前に

J10430000028

リヤマニュアルクーラーを使用したいときは

フロントエアコン（冷房・除湿機能）を作動させます。

- 「エアコン（冷房・除湿機能）を作動／停止したいときは」→ P.5-10

スタートアップヒーター（リヤ）を使用したいときは

MODE スイッチを押して、、、のいずれかを選択して、フロントエアコンを作動させます。

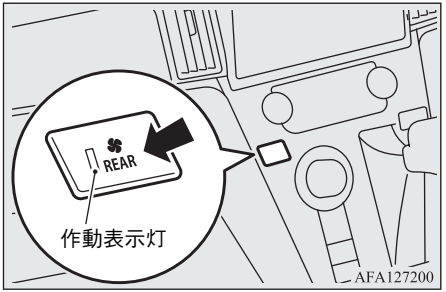
- 「吹き出し口を切り換えたいときは」→ P.5-5
- 「エアコン（冷房・除湿機能）を作動／停止したいときは」→ P.5-10

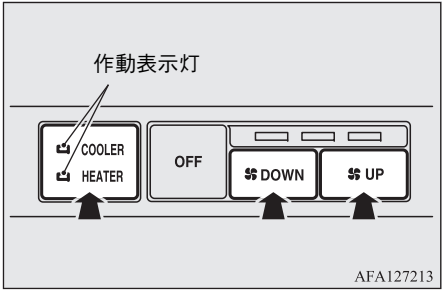
作動させるときは

J10430100029

前席用リヤファンスイッチ、クーラー／ヒーター切り換えスイッチまたは風量調整スイッチのいずれかを押します。

作動すると、作動表示灯が点灯します。クーラー／ヒーター切り換えスイッチは作動しているモードの作動表示灯が点灯します。





アドバイス

- フロントエアコンが作動していないときは送風のみになります。

アドバイス

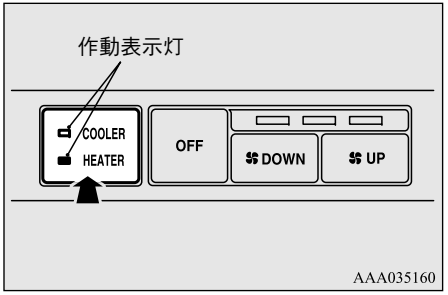
- クーラー／ヒーター切り換えスイッチを押してリヤマニュアルクーラーまたはスタートアップヒーター（リヤ）を作動させた場合、前席用リヤファンスイッチ内の作動表示灯も同時に点灯します。
- 風量調整スイッチを押して作動させた場合、風量弱になります。
- スタートアップヒーター（リヤ）の作動中にフロントエアコンを次のように操作すると、スタートアップヒーター（リヤ）の作動は停止します。
  - フロントエアコンの OFF スイッチを押して、エアコンを停止したとき
  - フロントエアコンの MODE スイッチを押して を選択したとき
  - デフロスタースイッチを押したとき

  フロントエアコンを再度作動させると、スタートアップヒーター（リヤ）は停止する直前の風量で再び作動します。

クーラー／ヒーターの切り換えをしたいときは

J10430200020

クーラー／ヒーター切り換えスイッチを押すごとにリヤマニュアルクーラーとスタートアップヒーター（リヤ）が切り換わり、作動しているモードの作動表示灯が点灯します。



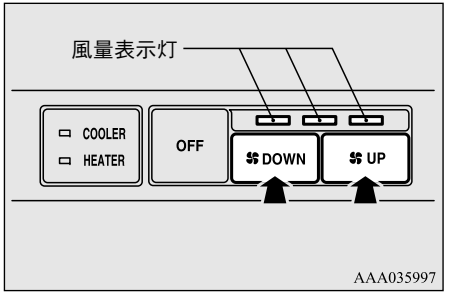
アドバイス

- リヤマニュアルクーラーとスタートアップヒーター（リヤ）の同時作動はできません。
- スタートアップヒーター（リヤ）の作動中にクーラー／ヒーター切り換えスイッチを押すと、風量を記憶したままリヤマニュアルクーラーに切り換わります。

風量調整をしたいときは

J10430300021

風量を強くするときは UP スイッチを、弱くするときは DOWN スイッチを押します。
選択した風量は、風量表示灯に表示されます。



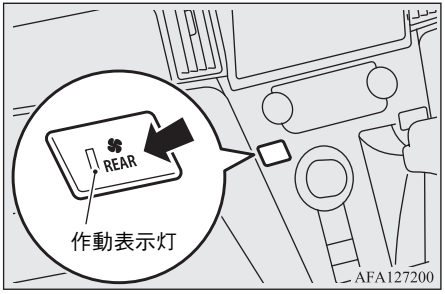
アドバイス

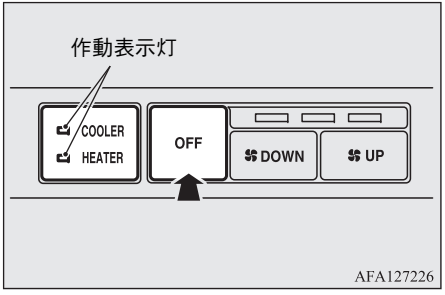
- エンジンを切っても風量を記憶しています。ただし、バッテリーを外すと記憶は消去され、自動的に風量弱になります。

作動を停止したいときは

J10430400022

前席用リヤファンスイッチまたは OFF スイッチを押します。
作動が停止すると、作動表示灯が消灯します。





アドバイス

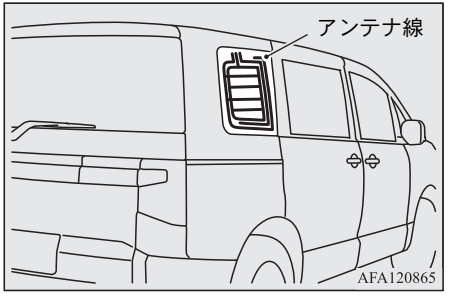
- OFF　スイッチを押してリヤマニュアルクーラーおよびスタートアップヒーター（リヤ）を停止した場合、前席用リヤファンスイッチ内の作動表示灯も同時に消灯します。

アンテナ

J10400500040

ガラスアンテナ

ラジオ用アンテナ線が右のリヤクォーターガラスの内側にプリントされています。



アドバイス

- リヤクォーターガラスを清掃するときは、アンテナ線を傷つけないようにアンテナ線に沿って柔らかい布で拭いてください。

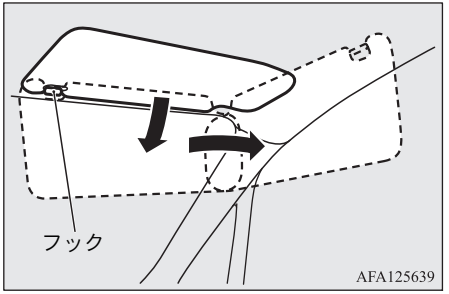
アドバイス

- リヤクォーターガラスに鏡面タイプのフィルムや金属物（市販のアンテナなど）を貼り付けると、受信感度が低下する原因となります。
  また、フィルムを貼り付ける際、カッターなどでアンテナ線を傷つけると受信感度が低下するおそれもあります。

サンバイザー

J10400600041

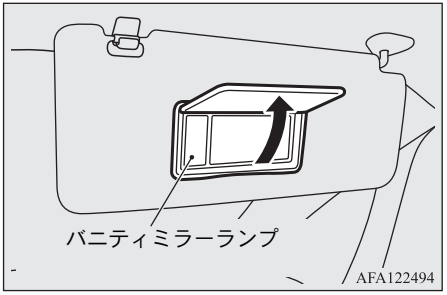
前面だけでなく、フックから外せば側面にも回せます。



バニティミラー

J10404000043

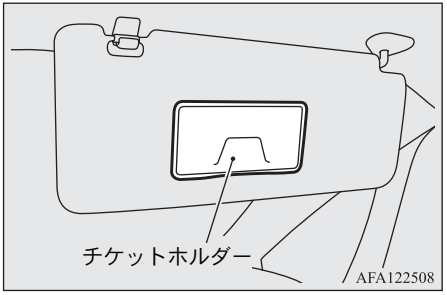
サンバイザーの裏側にあります。
リッドを開くとバニティミラーランプが点灯します。



チケットホルダー

J10404100060

サンバイザーの裏側にあります。



⚠注意

- 強い直射日光にさらされると車内が高温になるため、プラスチック素材のカードをはさんだままにしないでください。カードが変形やひび割れを起こすおそれがあります。

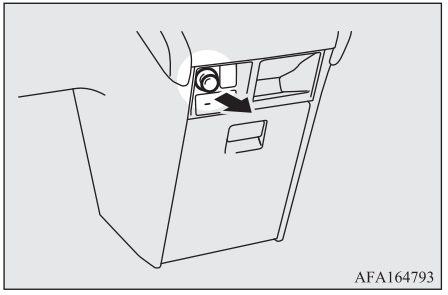
アクセサリーソケット (DC12V)

J10400700114

エンジンスイッチの電源モードが ON または ACC の状態のときに使用できます。
プラグタイプの電気製品の電源としてご使用ください。
必ず、12V で消費電力が 120W 以下の電気製品を使用してください。

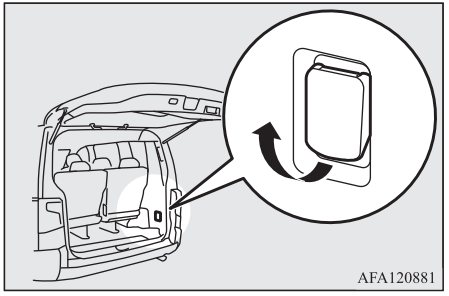
フロント

ノブを引き抜いて使用します。



リヤ

ふたを開けて使用します。



⚠注意

- ソケットを同時に使用するときは、2 つのソケットを合わせて 12V で消費電力が 120W 以下の電気製品を使用してください。120W を超える電気製品を使用すると、ヒューズが切れるおそれがあります。
- 市販の電気製品を使用しないでください。バッテリー上がりやアクセサリーソケットが損傷する原因となります。
- ノブをソケットから外したまま放置したり、ソケットのふたを開けたまま放置しないでください。
  プラグタイプ以外の物をソケットに入れると故障したり、ショートする可能性があります。

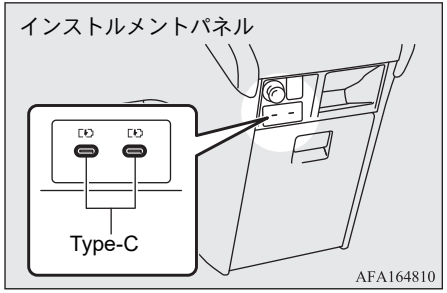
アドバイス

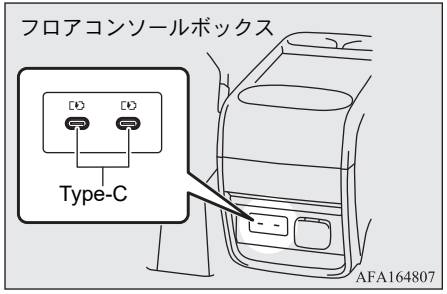
- エンジンがかかっていないときに長い間使用すると、バッテリーが上がることがあります。

充電用 USB ポート

J10414600055

エンジンスイッチの電源モードが ON のときに、USB デバイス（機器）の電源として使用できます。
使用するときは、インストルメントパネルおよびフロアコンソールボックスにある充電用 USB ポートに、USB 接続ケーブルを接続します。





⚠注意

- USB 接続ケーブルを差し込むときは、まっすぐに根元まで差し込んでください。差し込みが不十分な場合、発熱によりヒューズが切れるおそれがあります。

⚠注意

- 充電用 USB ポートを使用するときは、接続する USB デバイスの消費電力が 15W（最大定格出力：5V-3A）を超えないようにしてください。充電用 USB ポートや接続した USB デバイスが損傷するおそれがあります。

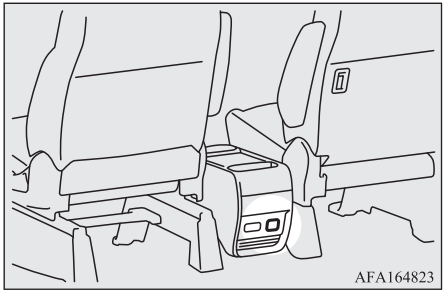
アドバイス

- 充電用 USB ポートは電源としてのみ使用できます。
  車両のオーディオ機器には接続されません。
- USB ハブなどを使用して、複数の USB デバイスを同時に充電しないでください。
- 万一、飲み物などをこぼした場合は、使用を中止し三菱自動車販売会社で点検を受けてください。
- エンジンがかかっていないときに長い間使用すると、バッテリーが上がることがあります。

アクセサリーコンセント

J10409400055

フロアコンソールボックス後部にあります。



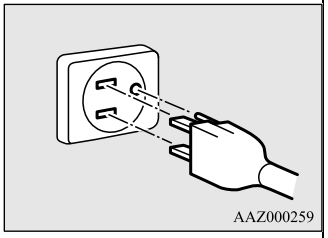
エンジンスイッチの電源モードが ON のときに家庭用電気製品の電源として使用できます。
必ず、AC100V で消費電力が 100W 以下の電気製品を使用してください。

使用例

- ビデオカメラの充電
- 携帯電話の充電
- 電気シェーバー

アドバイス

- アース付きプラグも使用できます。



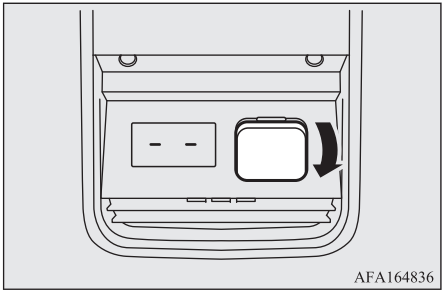
- オートストップ&ゴー[AS&G]の作動によるエンジン自動停止後の再始動の際に、一時的に給電が停止する場合がありますが、故障ではありません。
- 次のようなときは、保護回路が働き給電が停止する場合があります。使用中、給電が停止した場合は自動で復帰しますが、復帰しない場合はエンジンスイッチの電源モードを一度 OFF にしてから、再度 ON にしてご使用ください。
  - 最大消費電力が100Wを超える電気製品を使用したとき
  - バッテリーの充電が不十分なとき
  - 車内が高温のとき
- エンジンスイッチの電源モードが ON のときに使用できますが、できるだけエンジンをかけて使用してください。エンジンがかかっていないときに長い間使用するとバッテリーが上がることがあります。

アドバイス

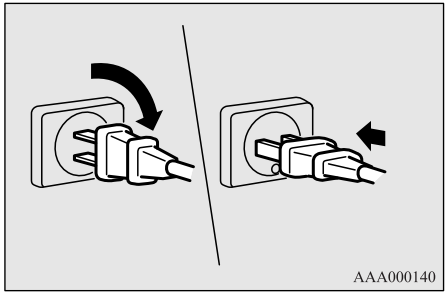
- 消費電力が 100W 以下でも次のような電気製品は正常に作動しないことがあります。
  - 最大消費電力が 100W を超える製品（コンプレッサー式冷蔵庫、電気ポンプ、電動工具など）
  - 電源周波数の切り換え (50/60Hz) のある製品（時計、オーディオ、AC アダプターなど）
  - 精密なデータを測定する製品（測定器など）
  - その他（電気毛布、照明器具など）
- 使用する電気製品によっては、ラジオやテレビに雑音が入ることがあります。
- アクセサリーコンセントの電圧は、市販のテスターでは電圧を正確に測定できません。
  電圧の測定が必要な場合は、三菱自動車販売会社にご相談ください。
- 医療機器のご使用は、絶対に避けてください。
- 使用する電気製品に付属の取扱説明書も併せてお読みください。

使用するときは

1. ふたを開けます。



2. コンセントを矢印の方向に 90 度回してから、プラグを奥まで差し込みます。
   差し込み後は、プラグが確実に固定されていることを確認します。



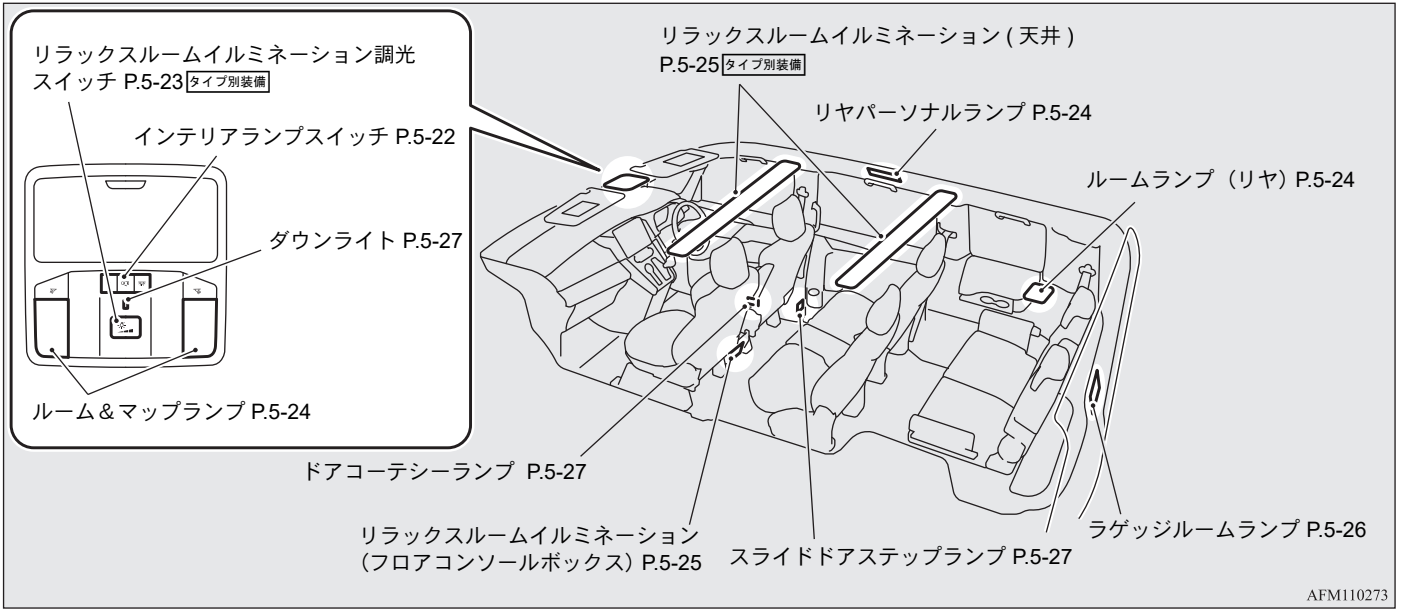
使用後は、プラグを抜き取りふたを閉めます。

⚠注意

- コンセントの改造や分解、修理などは絶対にしないでください。
- ぬれた手でプラグの抜き差しをしないでください。感電するおそれがあります。
- アクセサリーコンセントを使用するときは、セカンドシート用ドリンクホルダーに飲み物を置かないでください。
  飲み物がこぼれてアクセサリーコンセントにかかると、故障やショートの原因となるおそれがあります。
- アクセサリーコンセントを使わないときは、プラグを抜き取りふたを閉めてください。
  コンセントにたまったほこりにより、ショートするおそれがあります。
- プラグタイプ以外の物が差し込まれると、故障したり、ショートする可能性があります。

室内灯

J10400800043



5

アドバイス

- エンジンがかかっていないときに長い間ランプを点灯させておくと、バッテリーが上がることがあります。
  車から離れるときは必ずランプが消えていることを確認してください。

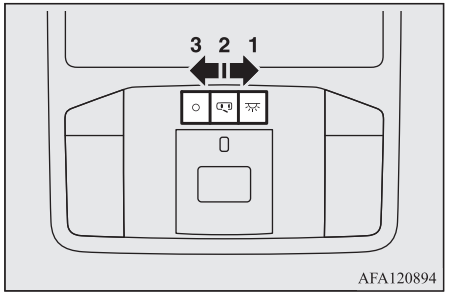
インテリアランプスイッチ

J10412200031

スイッチを操作することにより、ルーム＆マップランプ、リヤパーソナルランプおよびルームランプ（リヤ）の点灯・消灯ができます。

除く、リラックスルームイルミネーション調光スイッチ付き車は、スイッチを操

作することにより、リラックスルームイルミネーションの消灯ができます。



アドバイス

- ルームランプ（リヤ）のスイッチの位置によって、ルームランプ（リヤ）の作動は異なります。
  →「ルームランプ（リヤ）」P.5-24

スイッチ位置	点灯・消灯のしかた
1- ON	ルーム＆マップランプおよびリヤパーソナルランプが常時点灯します。

スイッチ位置	点灯・消灯のしかた
2- DOOR	いずれかのドアまたはテールゲートを開けるとルーム＆マップランプおよびリヤパーソナルランプが点灯、閉じると約 15 秒後に消灯します。ただし、次のようなときはすぐに消灯します。 • エンジンスイッチの電源モードを ON にしたとき • 集中ドアロックの機能を使って施錠したとき • キーレスオペレーション機能を使って施錠したとき
3- OFF	常時消灯します。 除く、リラックスルームイルミネーション調光スイッチ付き車は、リラックスルームイルミネーションが常時消灯します。

アドバイス

- すべてのドアおよびテールゲートが閉まっているときに、エンジンスイッチの電源モードを OFF にすると点灯し、約 15 秒後に消灯します。

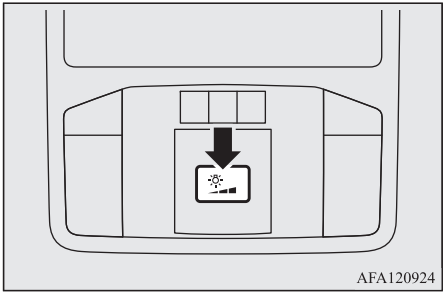
アドバイス

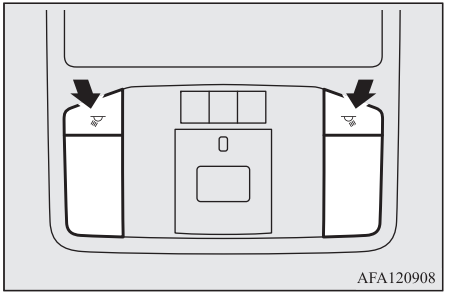
- 消灯までの時間を調整することができます。消灯までの時間を調整すると、ルームランプ（リヤ）およびリラックスルームイルミネーションの消灯時間も同時に変更されます。詳しくは三菱自動車販売会社にご相談ください。
- ルーム＆マップランプのスイッチが ON のときは、インテリアランプスイッチでルーム＆マップランプを消灯することはできません。
- ルーム＆マップランプのスイッチが ON のときは、ドアおよびテールゲートを閉めても消灯しません。

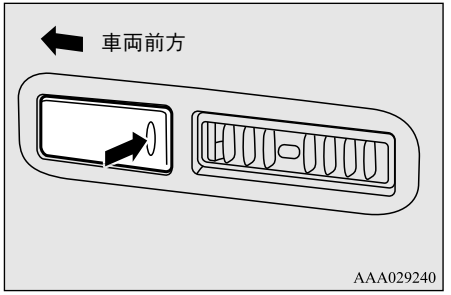
リラックスルームイルミネーション調光スイッチ

タイプ別装備　J10412300032

エンジンスイッチの電源モードが ON または ACC のときに、リラックスルームイルミネーションの光量を 3 段階に調整することができます。
スイッチを押すごとに「光量（多）」→「光量（中）」→「光量（少）」→「消灯」→「光量（多）」の順に切り換わります。







5

アドバイス

- エンジンスイッチの電源モードがOFFのときでも、リラックスイルミネーションが点灯している間は光量を調整することができます。

アドバイス

- いずれかのドアまたはテールゲートが開いているとき、またはインテリアランプスイッチの位置が ON（⍤）のときは、スイッチを押してもルーム＆マップランプは消灯しません。

アドバイス

- インテリアランプスイッチの位置がOFF(○) のときは、レンズを押したり、いずれかのドアまたはテールゲートを開けても点灯しません。

ルーム ＆マップランプ

J10412400033

ドアおよびテールゲートを閉じてインテリアランプスイッチの位置がDOOR(⍩)またはOFF（○）のときに、スイッチを押すとランプが点灯し、もう一度押すと消灯します。
インテリアランプスイッチの位置がDOOR（⍩）のときに、いずれかのドアまたはテールゲートを開けると点灯、閉じると約 15 秒後に消灯します。

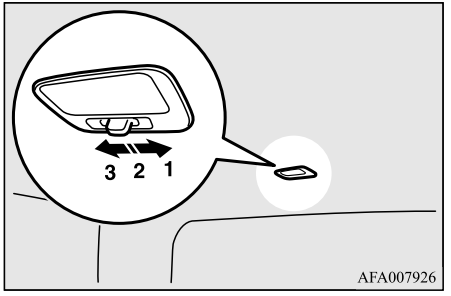
リヤパーソナルランプ

J10412500034

ドアおよびテールゲートを閉じてインテリアランプスイッチの位置が DOOR(⍩)のときに、レンズを押すとランプが点灯し、もう一度押すと消灯します。
いずれかのドアまたはテールゲートを開けると点灯、閉じると約 15 秒後に消灯します。

ルームランプ（リヤ）

J10412600035



スイッチ位置	点灯・消灯のしかた
1- ON（⚞）	インテリアランプスイッチの位置が ON（⚞）またはDOOR（⚟）のときに、ドアまたはテールゲートの開閉に関係なく点灯します。
2- DOOR（●）	インテリアランプスイッチの位置が DOOR（⚟）のときに、いずれかのドアまたはテールゲートを開けると点灯、閉じると約 15 秒後に消灯します。ただし、次のようなときはすぐに消灯します。 • エンジンスイッチの電源モードを ON にしたとき • 集中ドアロックの機能を使って施錠したとき • キーレスオペレーション機能を使って施錠したとき
3- OFF（○）	常時消灯します。

アドバイス

- インテリアランプスイッチの位置が ON（⚞）のときは、ドアまたはテールゲートの開閉に関係なく点灯し、OFF（○）のときは消灯します。
- すべてのドアおよびテールゲートが閉まっているときに、エンジンスイッチの電源モードを OFF にすると点灯し、約 15 秒後に消灯します。
- 消灯までの時間を調整することができます。消灯までの時間を調整すると、ルームランプ＆マップランプ、リヤパーソナルランプおよびリラックスルームイルミネーションの消灯時間も同時に変更されます。
  詳しくは三菱自動車販売会社にご相談ください。

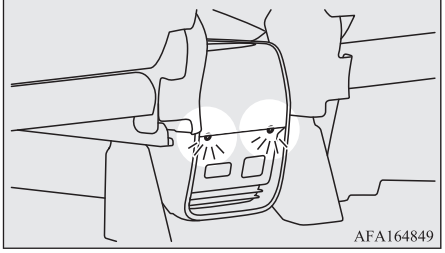
リラックスルームイルミネーション

タイプ別装備　J10412700049

除く、リラックスルームイルミネーション調光スイッチ付き車

ライトスイッチが⚞○の位置のとき、または AUTO の位置でランプ類が点灯しているときに点灯します。

フロアコンソールボックス

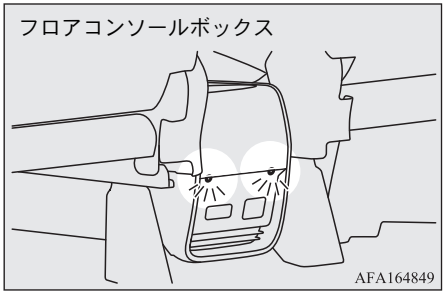


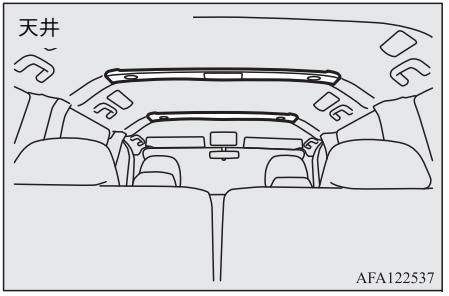
アドバイス

- インテリアランプスイッチの位置が OFF（○）のときは点灯しません。
  →「インテリアランプスイッチ」P.5-22
- リラックスルームイルミネーションが点灯しているときに、すべてのドアおよびテールゲートを閉めた状態でエンジンスイッチの電源モードを OFF にすると、約 15 秒後に消灯します。
- インテリアランプスイッチの位置が OFF（○）以外で、リラックスルームイルミネーションが消灯しているときに、すべてのドアおよびテールゲートを閉めた状態でエンジンスイッチの電源モードを OFF にすると点灯し、約 15 秒後に消灯します。

リラックスルームイルミネーション調光スイッチ付き車

エンジンスイッチの電源モードが ON または ACC のときに点灯します。





アドバイス

- リラックスルームイルミネーション調光スイッチが消灯に設定されているときは点灯しません。
  →「リラックスルームイルミネーション調光スイッチ」P.5-23
- リラックスルームイルミネーションが点灯しているときに、すべてのドアおよびテールゲートを閉めた状態でエンジンスイッチの電源モードを OFF にすると、約 15 秒後に消灯します。

また、エンジンスイッチの電源モードが OFF のときでも、いずれかのドアまたはテールゲートを開けると点灯、閉じると約 15 秒後に消灯します。
ただし、次のようなときはすぐに消灯します。

- ドアおよびテールゲートを閉じて集中ドアロックの機能を使って施錠したとき
- キーレスオペレーション機能を使って施錠したとき

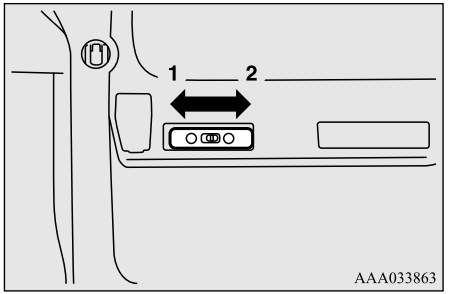
アドバイス

- 消灯までの時間を調整することができます。消灯までの時間を調整すると、ルーム＆マップランプ、リヤパーソナルランプおよびルームランプ（リヤ）の消灯時間も同時に変更されます。詳しくは三菱自動車販売会社にご相談ください。

ラゲッジルームランプ

J10404400047

スイッチを操作することによりラゲッジルームランプの点灯・消灯ができます。

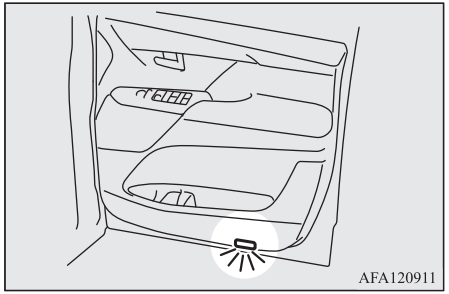


1- テールゲートを開けるとランプが点灯、閉めると消灯します。
2- テールゲートの開閉に関係なく消灯します。

ドアコーテシーランプ

J10412800037

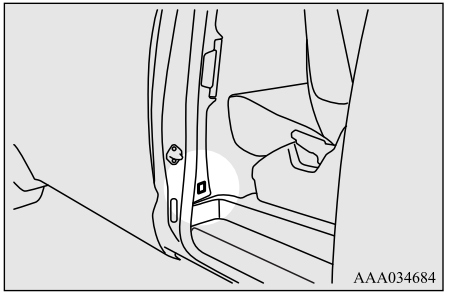
ドアを開けると点灯し、閉じると消灯します。



スライドドアステップランプ

J10412900038

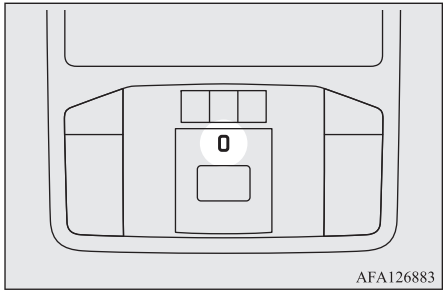
スライドドアを開けると点灯し、閉じると消灯します。



ダウンライト

J10429800039

ライトスイッチが≡Dの位置のとき、または AUTO の位置でランプ類が点灯しているときに点灯します。



インテリアランプ *1 オートカット機能（自動消灯）

J10404500048

*1 ルーム＆マップランプなどの車内照明

- エンジンスイッチの電源モードが OFF の状態で、車内照明を点灯したままにすると、約 30 分後に照明が自動的に消灯します。
- エンジンスイッチを操作したり、ドアまたはテールゲートの開閉やキーレスオペレーションシステムの操作をすると再び点灯します。

アドバイス

- インテリアランプオートカット機能（自動消灯）を働かなくすることができます。また、自動消灯までの時間を調整することができます。詳しくは三菱自動車販売会社にご相談ください。

小物入れ

J10400900044

⚠注意

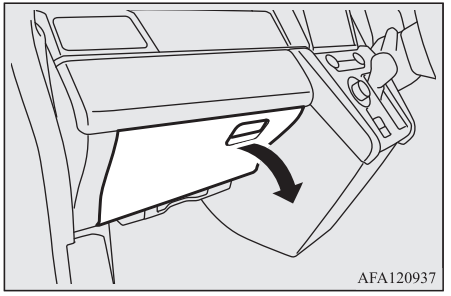
- 強い直射日光にさらされると車内が高温になるため、ライター・炭酸飲料缶・メガネなどを放置しないでください。
  ライターなどの可燃物は自然発火したり、炭酸飲料などの缶は破裂するおそれがあります。また、プラスチックレンズまたはプラスチック素材のメガネは変形、ひび割れを起こすおそれがあります。
- 走行中は小物入れのふたを必ず閉めておいてください。万一の場合、ふたや内部の小物でけがをするおそれがあります。



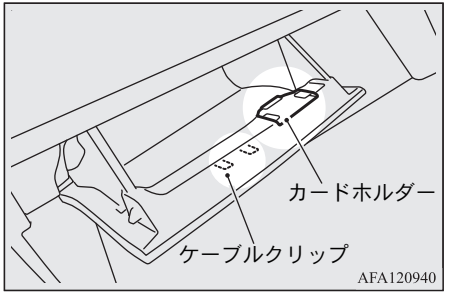
グローブボックス

J10404600065

レバーを引くと開きます。



グローブボックスの内側にカードホルダーとケーブルクリップがあります。



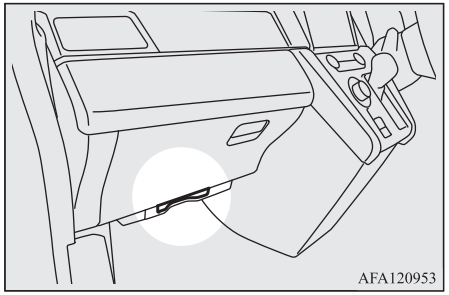
アドバイス

- ライトスイッチが≡Dの位置のとき、またはAUTOの位置でランプ類が点灯しているときにグローブボックスを開けると、グローブボックス内のランプが点灯します。

グローブボックスアンダートレイ

J10429600024

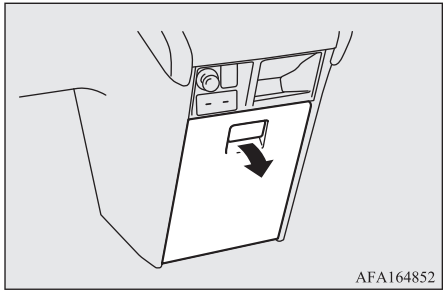
自動車検査証や取扱説明書を収納することができます。



インパネロアボックス

J10413500044

インストルメントパネル下部にあります。
レバーを手前に引くと開きます。



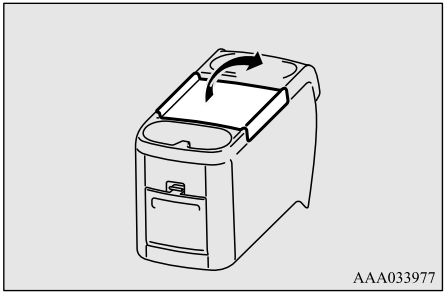
フロアコンソールボックス

J10404700040

上段ボックスと下段ボックスがあります。
上段ボックスのふたはセンターテーブルとしても使用できます。

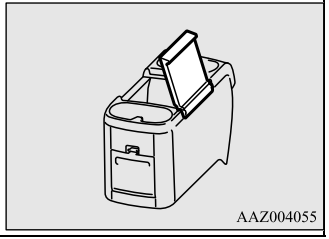
上段ボックス

ふたの運転席側を持ち上げて開きます。



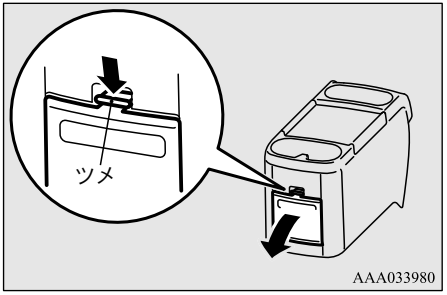
アドバイス

- 開いたふたは図の位置で止まります。



下段ボックス

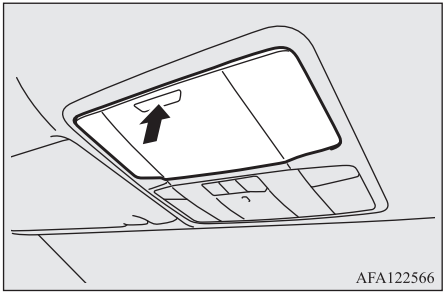
ツメを下げながらふたを開けます。



5 サングラスポケット

J10404900039

ふたを押すと開きます。



閉めるときはロックするまで押します。

⚠注意

- サングラス以外の重い物を入れないでください。落下して思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- サングラスの形状によっては収納できない場合がありますので、確かめてからご使用ください。

ドリンクホルダー

J10401000042

カップやペットボトルなどを収納することができます。

⚠警告

- 車内に水をかけたり、飲み物などをこぼしたりしないでください。スイッチ類、配線や電気部品にかかると、故障や車両火災の原因になります。
  万一、飲み物などをこぼした場合は、可能な限り水分を取り除き、すみやかに三菱自動車販売会社にご相談ください。

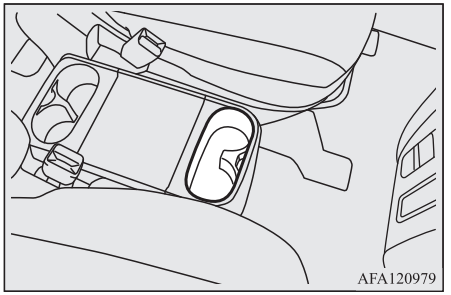
⚠注意

- 走行中は、飲み物を出し入れしないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠注意

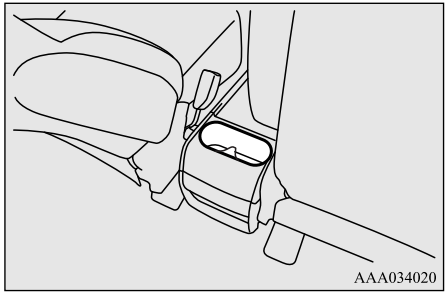
- 走行中の振動や揺れなどで飲み物がこぼれることがあります。熱い飲み物の場合、やけどをするおそれがありますので注意してください。

フロントシート用



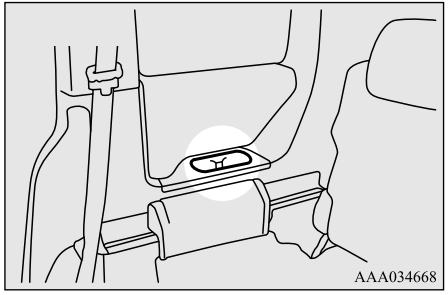
セカンドシート用

J10413700033



サードシート用

J10413800034



ボトルホルダー

J10401100043

ペットボトルなどを入れることができます。

⚠警告

- 車内に水をかけたり、飲み物などをこぼしたりしないでください。スイッチ類、配線や電気部品にかかると、故障や車両火災の原因になります。
  万一、飲み物などをこぼした場合は、可能な限り水分を取り除き、すみやかに三菱自動車販売会社にご相談ください。

⚠注意

- 走行中は、飲み物を出し入れしないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 走行中の振動や揺れなどで飲み物がこぼれることがあります。熱い飲み物の場合、やけどをするおそれがありますので注意してください。

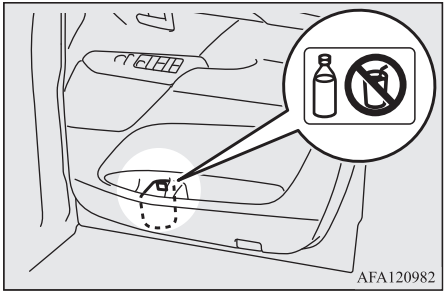
アドバイス

- カップや飲料缶を収納しないでください。
- ペットボトルなどはふたを確実に閉めて収納してください。

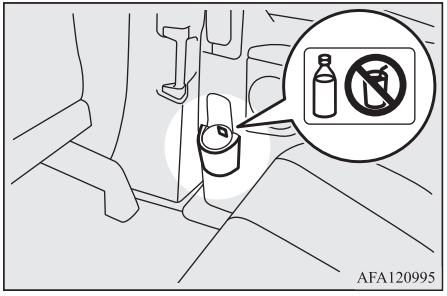
アドバイス

- ペットボトルの大きさ、形状によっては収納できないことがあります。

フロントシート用



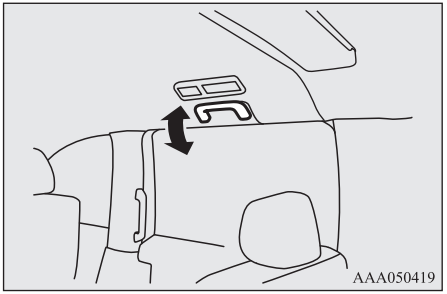
セカンドシート用



アシストグリップ

J10401200044

座ったときに、手で身体を支えるためのグリップがあります。



⚠注意

- アシストグリップに手をかけて乗り降りしないでください。
  アシストグリップがはずれて思わぬ事故につながるおそれがあります。

荷物固定用フック

J10409600031

天井、荷室の側面、床面およびテールゲートの両側にフックがあります。
荷物の固定用としてご使用ください。

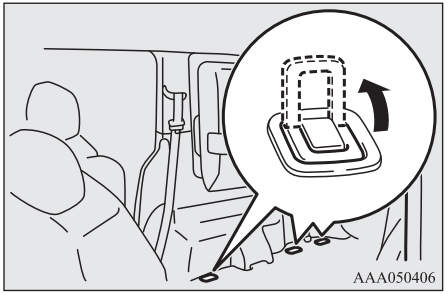
⚠警告

- 側面ガラス付近に荷物を積まないでください。SRS カーテンエアバッグが正常に膨らむのを妨げるおそれがあります。

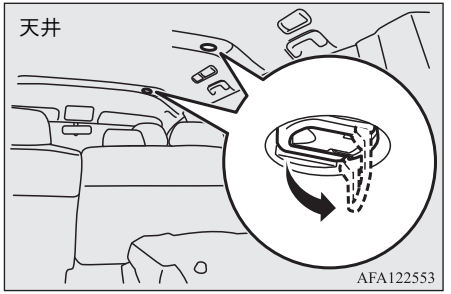
⚠注意

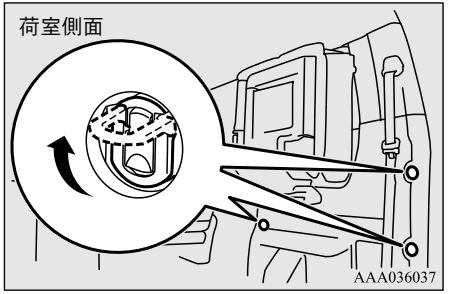
- 荷室にはシートの高さ以上に荷物を積まないでください。また、荷物は確実に固定してください。
  後方が確認ができなくなったり、急ブレーキをかけたときなどに荷物が飛び出して思わぬ事故につながるおそれがあります。

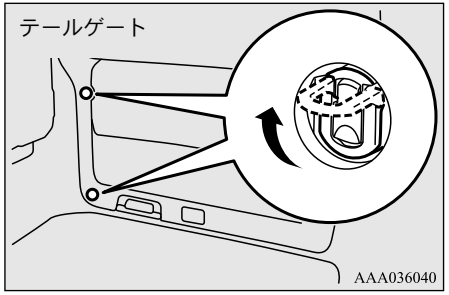
ラゲッジフック



マルチユースフック







⚠注意

- 天井のフックに三菱自動車純正以外の物を掛けたまま走行しないでください。落下して思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 開けたテールゲートのフックに三菱自動車純正以外の物を取り付けないでください。また、テールゲートのフックに物を掛けたまま、テールゲートの開閉操作をしないでください。
  物の重みでテールゲートが正常に開かなかったり、開いた状態で保持できず思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- 天井、荷室の側面およびテールゲートのフックには 6kg 以上の物を掛けないでください。フックが破損するおそれがあります。

アドバイス

- 使用しないときはフックを格納しておいてください。

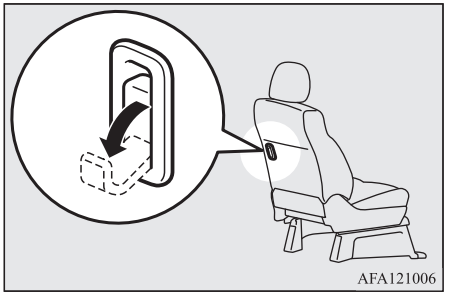
コンビニエントフック

J10429700025

運転席の後ろにフックがあり、軽い荷物を掛けることができます。

アドバイス

- フックの変形または破損を防ぐため、次のことをお守りください。
  - 4kg 以上の荷物を掛けない。
  - 炎天下などで車内が高温のときは、荷物を掛けたままにしない。
  - 使用しないときはフックを格納する。



フロアマット

タイプ別装備

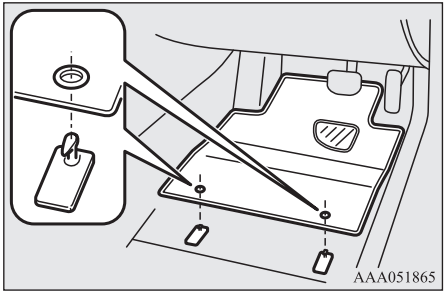
J10401400033

お客様のお車には、専用のフロアマットが設定されています。
フロアカーペットに装着されている固定クリップを使用し、次の手順で確実に固定してください。

固定のしかた

J10405100038

1. フロアマットを床の形状に合わせて敷きます。
2. フロアマットの取り付け穴に固定クリップを通し、確実に固定します。

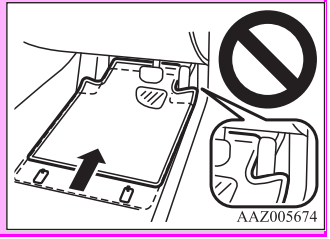


アドバイス

- 車種により、フロアマットの形状や固定クリップの数が異なる場合があります。詳しい固定方法はフロアマットの取扱説明書をお読みください。

⚠警告

- 運転席にフロアマットを敷くときは、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、フロアマットがずれて各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たりブレーキが効きづらくなるなど重大な事故につながるおそれがあります。
  - 固定クリップを使用し確実に固定する
  - フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない
  - フロアマットでペダルを覆わない
  - フロアマットの上または下に、別のフロアマットを重ねて敷かない
  - アクセルペダルの下に敷かない
  - 三菱自動車純正フロアマットであっても、他車種または年式の異なるフロアマットを使用しない



⚠警告

- 運転する前に次のことを確認してください。
  - フロアマットがすべての固定クリップで正しく固定されていることを定期的に確認し、車内の清掃などでフロアマットを取り外した後は必ず確認する
  - エンジン停止時およびセレクターレバーがⓅのときに、各ペダルをいっぱいに踏み込み、フロアマットと干渉がなく運転に支障がないことを確認する

メンテナンス

簡単な整備

日常点検 6-2
環境保護のために守っていただきたいこと 6-4
エンジンフード（ボンネット） 6-4
エンジンオイルの補給 6-6
ウォッシャー液の点検・補給 6-6
バッテリー液の点検・補充 6-6
タイヤメンテナンス 6-7
クリーンエアフィルターの交換 6-8

お手入れ

内装品のお手入れ 6-10
外装品のお手入れ 6-11

日常点検

J10600100110

日常点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。事故や故障を未然に防ぐため必ず実施してください。

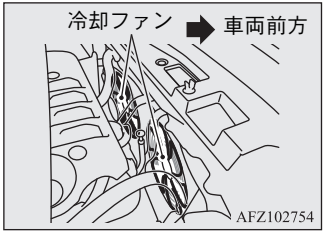
- 日常点検整備は、長距離を走行するときや、洗車、給油時などにお客様自身で行う点検整備です。
  詳細については、別冊の「メンテナンスノート」に記載していますので併せてお読みください。
- 次のような点に気づいたら、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。
  - いつもと違う音や臭いや振動がするとき
  - ブレーキ液が不足しているとき
  - 地面に油の漏れた跡が残っているとき

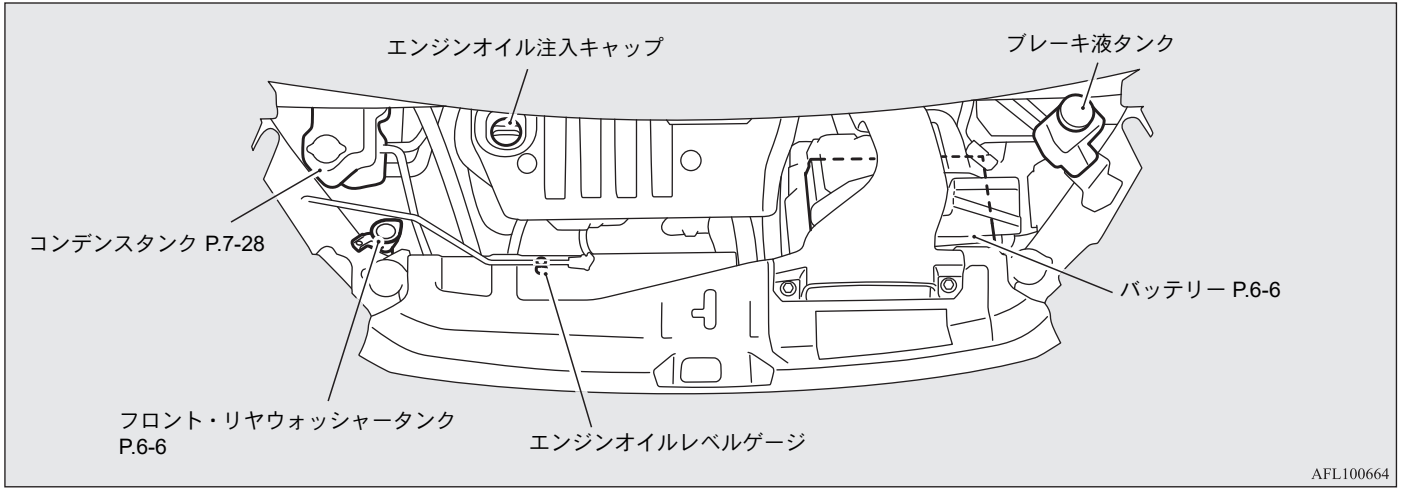
⚠警告

- エンジン回転中はエンジンルームに手を入れないでください。
  手や衣服がドライブベルトなどに巻き込まれるおそれがあります。
- エンジンルーム内の部品には高温になる物があります。
  やけどをするおそれがありますので、各部が十分冷えてから点検してください。
- 点検や交換した後は、工具や布などをエンジンルームに置き忘れていないことを確認してください。
  万一の場合、故障や火災になるおそれがあります。

アドバイス

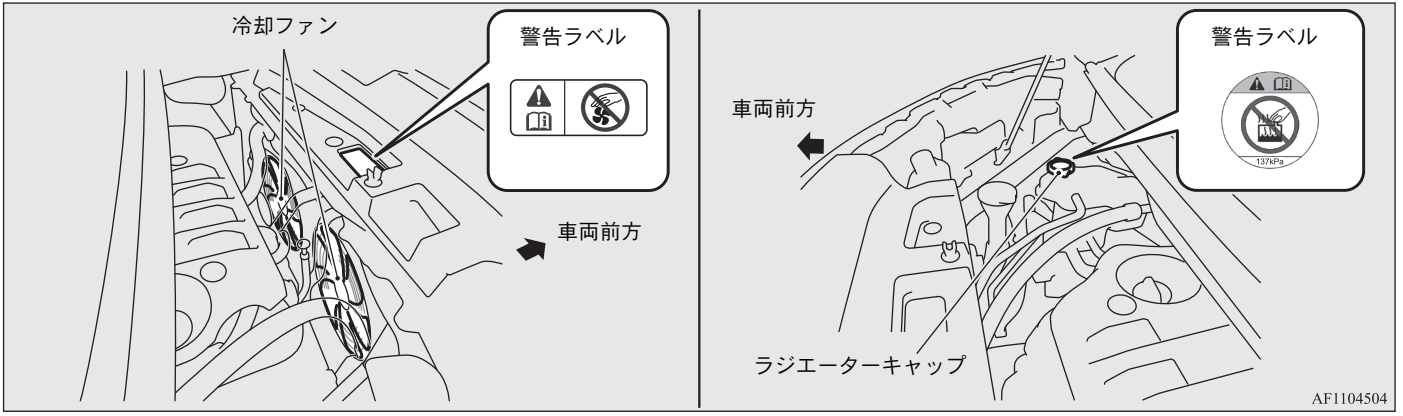
- ディーゼルエンジンは、エンジンを止めてもエンジンルーム内の温度が高い場合、もしくはエンジン停止直前に DPF で集めたすすの燃焼・除去処理中または処理終了直後の場合には、冷却ファンがしばらくの間は作動し続けます。
  そのため、エンジンを止めてからも冷却ファンの作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。一定時間作動した後、冷却ファンは自動的に停止します。
  →「ディーゼルパティキュレートフィルター [DPF]」P.4-9





⚠警告

- 冷却ファンはエンジンが回転していなくても自動的に回り出すことがあります。
  エンジンルーム内で作業する場合は、安全のためにエンジンスイッチの電源モードを OFF にしてください。
- 通常はラジエーターキャップを外さないでください。
  冷却水には圧力がかかっているため、冷却水の温度が高いときにキャップを外すと、蒸気や熱湯が噴き出し、やけどをするおそれがあります。



環境保護のために守っていただきたいこと

J10600200052

廃棄物を処理するときは

J10601700025

- 環境保護のために次のことをお守りください。
  - 使用済みのバッテリーやタイヤは、新品を購入した販売店に処分を依頼してください。
  - エンジンオイルや冷却水を交換する場合は、三菱自動車販売会社にご相談ください。

エンジンフード（ボンネット）

J10600300040

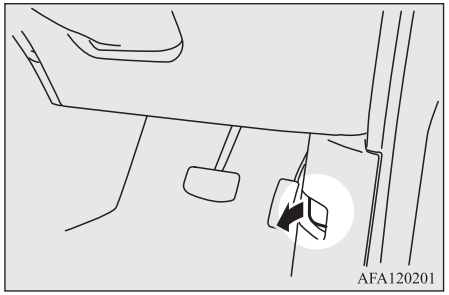
開けるときは

1. ワイパーアームが立っているときはワイパーアームを倒します。

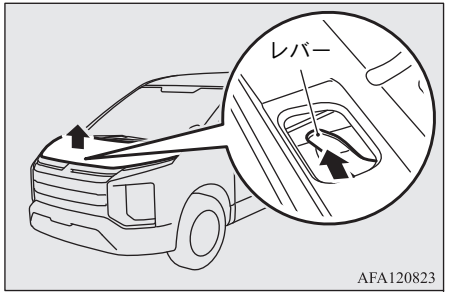
⚠注意

- ワイパーアームが立った状態でエンジンフードを開けるとエンジンフードに傷がつくおそれがあります。

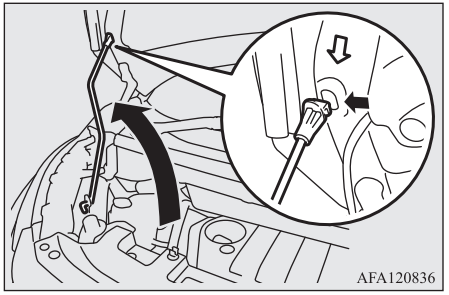
2. 計器盤右下にあるレバーを引くとエンジンフードが少し浮き上がります。



3. エンジンフードのすき間に手を入れ、前端中央部のレバーを左へ押しながらエンジンフードを持ち上げます。



4. 支持棒をエンジンフードの穴に差し込みエンジンフードを確実に固定します。

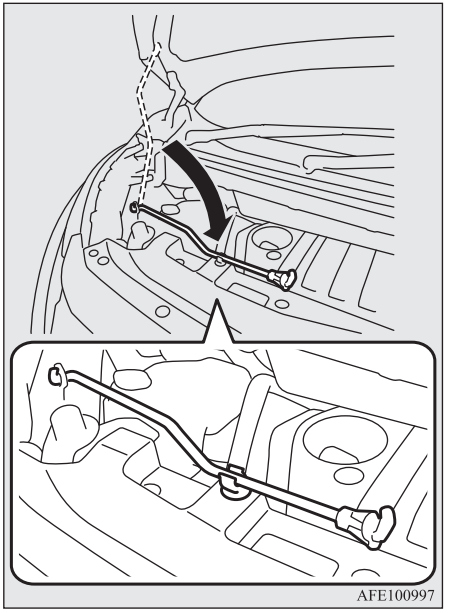


⚠注意

- 風の強いときにエンジンフードを開けていると、風にあおられて支持棒が外れることがあります。特に風の強いときはご注意ください。
- 支持棒は必ず所定の穴に差し込んでください。所定以外の箇所に掛けると支持棒が外れ、思わぬ事故につながるおそれがあります。

閉めるときは

1. エンジンフードを支えながら支持棒を穴から外してクリップに固定します。



2. エンジンフードを少し持ち上げた位置（約 30cm）から離します。

⚠注意

- 手や物をはさまないように注意してください。

3. エンジンフードが完全に閉じていることを確認します。

⚠注意

- 走行前に必ずエンジンフードが確実に閉じていることを確認してください。
  完全に閉じていないまま走行するとエンジンフードが開くおそれがあります。
- エンジンフードが開いたまま走行するとインフォメーション画面に警告表示されます。



- エンジンフードを手で強く押しつけないでください。力のかけぐあいや場所によっては、万一の場合、車体がへこむおそれがあります。

エンジンオイルの補給

J10600400067

エンジンオイルが不足するとエンジンの不調や破損につながるおそれがあります。エンジンオイル量を点検しオイルが不足している場合は、三菱自動車純正エンジンオイルを補給してください。
なお、エンジンオイルの点検、補給方法、交換時期についての詳細は別冊の「メンテナンスノート」をお読みください。
→「エンジンオイル注入キャップ、エンジンオイルレベルゲージ」P.6-2
→「エンジンオイルの量と種類」P.8-3

アドバイス

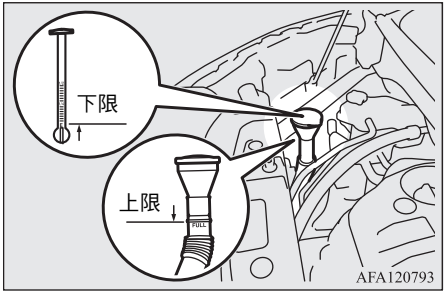
- エンジンオイルは通常走行でも、走行状況に応じて消耗します。
  オイル量を点検しオイルが不足している場合は、補給してください。
- エンジンの性能や寿命、始動性に大きく影響しますので、補給するときは必ず指定のオイルおよび粘度のものを使用してください。

ウォッシャー液の点検・補給

J10600500114

ウォッシャータンクのキャップを開け、レベルゲージで液量を点検してください。

フロント・リヤ共用



ウォッシャー液が不足している場合は、三菱自動車純正ウォッシャー液を気温に適した濃度になるように補給してください。
希釈割合はウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

⚠注意

- ウォッシャー液以外の液体を入れないでください。石けん水、ガラス洗浄液、冷却水なども使わないでください。ポンプの故障、ノズルの詰まり、塗装のしみなどの原因となります。
- ウォッシャーノズル内に汚れが付着すると、ウォッシャー液が正しくガラスに噴射されないことがあります。ピンなどで汚れを取り除くとノズルが損傷するおそれがありますので、三菱自動車販売会社にご相談ください。
- 冬期は、ウォッシャー液を薄めすぎると液がウインドウガラスに凍りついてしまうことがあります。

バッテリー液の点検・補充

J10600600043

バッテリー液を点検し、液が不足している場合は補給してください。

アドバイス

- 点検および補給方法については別冊の「メンテナンスノート」をお読みください。

バッテリー液を補充するときは、次の手順でダクトを取り外してください。

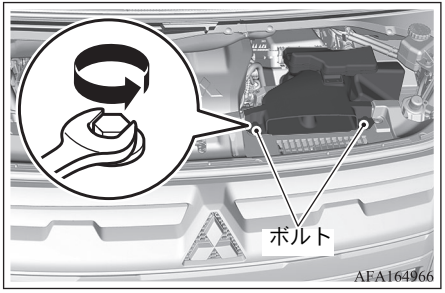
⚠警告

- 作業を行う場合は、必ずエンジンを止めてください。
  衣服などがファンやドライブベルトに巻き込まれて、けがをするおそれがあります。

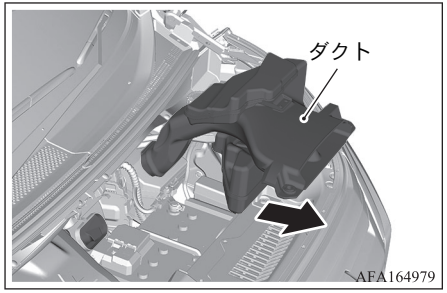
取り外すときは

J10601800084

1. ボルト（2 箇所）を取り外します。



2. ダクトを持ち上げながら手前に引き抜きます。



取り付けるときは

J10601900027

ダクトを取り付け、ボルト（2 箇所）で固定します。

タイヤメンテナンス

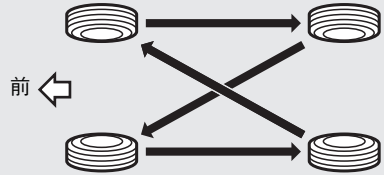
J10600700028

タイヤローテーション

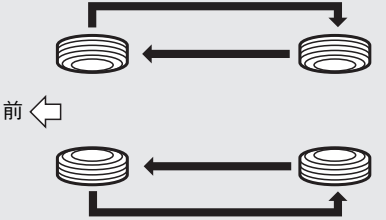
J10602000041

タイヤの摩耗を均一にして寿命を延ばすため、タイヤローテーションを 5,000km 走行ごとに行ってください。

回転方向を示す矢印がついていない場合

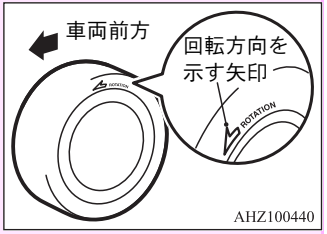


回転方向を示す矢印がついている場合



⚠注意

- タイヤに回転方向を示す矢印がついているときは、4 輪で前後ローテーションを行ってください。
  タイヤを取り付けるときは、車両前進時の回転方向と矢印の向きが同じになるように取り付けてください。矢印の向きが異なるとタイヤの性能が十分に活かされません。



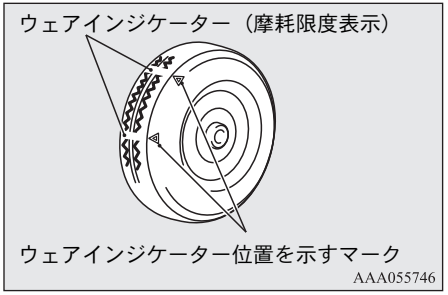
AHZ100440

- 種類の異なったタイヤを混ぜて使用することは、安全走行に悪影響をおよぼしますので避けてください。

タイヤの摩耗

J10602100026

ウェアインジケーター（溝の深さ 1.6mm 以下）が現れたら、スリップしやすくなり危険ですのでタイヤを交換してください。



AAA055746

アドバイス

- ウェアインジケーターのマークや位置は、タイヤメーカーによって異なります。

タイヤ空気圧の点検・調整

J10602200027

タイヤの空気圧は定期的に点検し、必ず規定の空気圧に調整してください。
→「タイヤの空気圧」P.8-9

⚠警告

- タイヤの空気圧が不足したまま走行すると、タイヤが偏摩耗したり、車の安定性や操縦性を確保できなくなるおそれがあります。また、バースト（破裂）するなど重大な事故につながるおそれがあります。

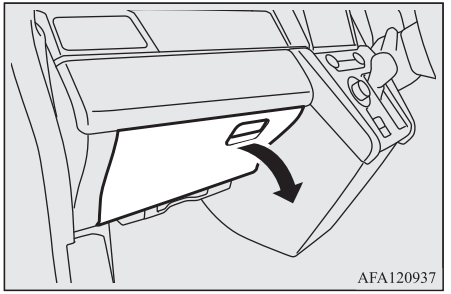
アドバイス

- 点検方法は別冊の「メンテナンスノート」をお読みください。
- 規定の空気圧は運転席ドアを開けたボデー側のラベルにも表示しています。

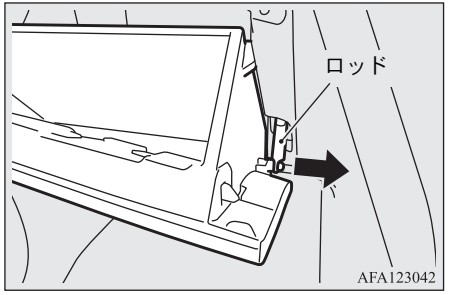
クリーンエアフィルターの交換

J10600800045

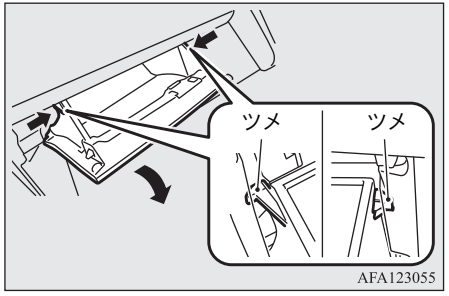
1. グローブボックスを開けます。


AFA120937

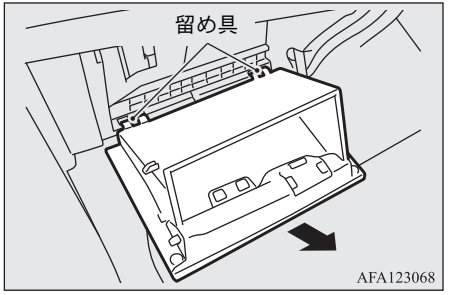
2. グローブボックス右側のロッドを右側に引いて外します。



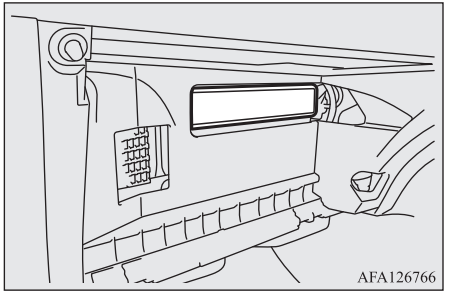
3. グローブボックスの側面を押しながら、左右のツメを外し、グローブボックスを下げます。



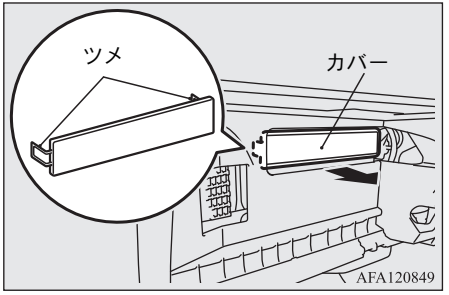
4. グローブボックスの留め具を外して、グローブボックスを取り外します。



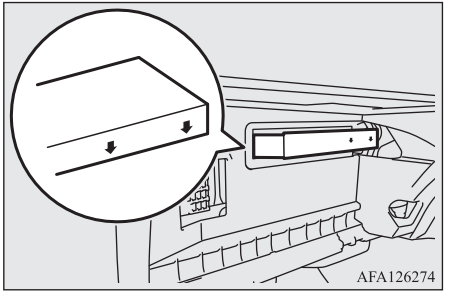
5. グローブボックスの奥にクリーンエアフィルターがあります。



6. カバー左右にあるツメを外して、カバーを手前に引いて外します。



7. クリーンエアフィルターを取り出して新品と交換します。交換するときはフィルターの矢印が下向きになるように取り付けてください。



8. 元に戻すときは、取り外したときと逆の手順で取り付けます。

内装品のお手入れ

J10601000028

1. 電気掃除機などでほこりを取り除きます。
2. ガーゼなどの柔らかい布に、中性洗剤を薄めた水溶液を含ませて、軽く拭き取ります。
3. 真水にひたした柔らかい布を固くしぼって、洗剤をきれいに拭き取ります。
4. 水分をよく拭き取り、風通しのよい日陰で乾燥させます。

⚠注意

- シリコンやワックスを含むクリーナーや保護剤を使用しないでください。
  変色の原因になったり、インストルメントパネルなどに使用すると使用箇所がウインドウガラスに映り込み、視界の妨げになるおそれがあります。
  また、各種スイッチなどに付着すると電装品の故障につながるおそれがあります。
- 見えにくい場所や狭い場所のお手入れをするときは、手袋などを使用して、手にけがをしないよう注意してください。

⚠注意

- ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤や酸またはアルカリ性の溶剤は使用しないでください。変色やしみ、割れの原因になります。
  また、各種クリーナー類にはこれらの成分が含まれているおそれがありますのでよく確認の上、使用してください。
- ブラシ、合成繊維類、固い布、乾いた布やウェットティッシュは使用しないでください。使用すると表面を傷つけたり、変色するおそれがあります。
- 液体芳香剤は、こぼれないよう容器を確実に固定してください。
  また、インストルメントパネルの上やランプ類、メーターの近くには置かないでください。
  含まれる成分によって樹脂部品や布材の変色、ひび割れを起こすおそれがあります。

アドバイス

- ガラスの内側を清掃するときは、電熱線を傷つけないよう電熱線に沿って柔らかい布で拭いてください。

本革のお手入れ

タイプ別装備

J10602300028

1. ガーゼなどの柔らかい布に、ウール用中性洗剤の 5% 水溶液を含ませて、汚れを拭き取ります。
2. 真水にひたした柔らかい布を固くしぼって、洗剤を拭き取ります。
3. 乾いた柔らかい布で水分を拭き取り、風通しのよい日陰で乾燥させます。

アドバイス

- 水をこぼしたり、雨などでぬれたときは、乾いた柔らかい布で早めに水分を拭き取ってください。
- ナイロンブラシ、合成繊維類で強くこすると表面を傷つけるおそれがあります。
- 本革の汚れはカビなどの原因となります。油汚れなどは、早めに落としてください。
- 直射日光に長時間さらすと表面が日焼けしたり、硬くなって縮むことがあります。できるだけ日陰に駐車してください。

シートベルトのお手入れ

J10604900028

1. ガーゼなどの柔らかい布に、中性洗剤の 2.5% 水溶液を含ませます。
2. ベルトを軽く叩くようにして汚れを拭き取ります。

またリングに汚れが付着している場合は、この汚れを拭き取ってください。
3. 真水にひたした柔らかい布を固くしぼって、洗剤を拭き取ります。
4. お手入れのために引き出したベルトを巻き取らせる前に、十分に乾燥させ、水分が残っていないことを確認してください。

アドバイス

- ベルトやリングが汚れている場合や、ベルトがスムーズに巻き取られなくなってきたときに、清掃を実施してください。

外装品のお手入れ

J10601100029

走行後のお手入れ

お車を美しく保つために、走行後は塗装面に付着したほこりを毛ばたきなどではらい落としてください。
次のような汚れは、そのままにしておきますと、腐食、変色、しみになるおそれがありますので、できるだけ早く洗車してください。

- 海水や道路凍結防止剤など
- 工場のばい煙、油煙、粉じん、鉄粉、化学物質（酸、アルカリ、コールタールなど）など
- 鳥のふん、虫の死がい、樹液、花粉など

⚠注意

- 下まわりやホイールを洗うときは、厚手のゴム手袋などを使用して、手にけがをしないよう注意してください。

洗車のしかた

J10602400133

1. 水をかけながら、車体の下まわりを洗います。
2. 車体上部から水をかけながら、スポンジなどで汚れを洗い落とします。
3. 水洗いで落ちにくい汚れには、中性洗剤を使用してください。
その後は、中性洗剤を水で完全に洗い落とします。
4. 鳥のふんや虫の死がいなどの汚れは、水で洗い落とし、必要に応じてワックスで汚れを落とします。
5. 柔らかい布またはセーム皮で、塗装面にはん点が残らないよう水分を拭き取ります。

⚠注意

- エンジンルーム内には水をかけないでください。車体の下まわりを洗車するときも、エンジンルーム内に水が入らないようにしてください。
エンジン始動不良などの原因になります。
- 洗車後は、低速で走行しながら数回ブレーキペダルを軽く踏み、ブレーキを乾かしてください。
ぬれたままにしておくとブレーキの効きが悪くなったり、凍結やさびによってブレーキが固着し、走行できなくなることがあります。
- 洗車をする前にワイパースイッチを OFF 位置にしてください。AUTO 位置のままでフロントガラスに水がかかると、ワイパーが自動作動して手や指などをはさんだり、ワイパーブレードを損傷するおそれがあります。

アドバイス

- 自動洗車機を使用すると塗装面にブラシの傷がつき、塗装の光沢が失われたり、劣化を早めるおそれがあります。
- 洗浄機（コイン洗車機など）は機種によって高温、高圧の物があります。
車体樹脂部品の熱変形、破損、接着式マーク類のはがれ、室内への水浸入などのおそれがありますので、次のことをお守りください。

アドバイス

- 洗車ノズルと車体との距離を十分離す。（約 70cm 以上）
- ドアガラスまわりを洗うときは、洗車ノズルをガラス面に垂直に向け、洗車ノズルとガラスとの距離を十分離す。（約 70cm 以上）

- 自動洗車機を使用するときは、部品が破損したり、車両を傷つけるおそれがありますので、ドアミラーを格納してください。
- 自動洗車機を使用するときは、室内への水侵入を防ぐため、ドアガラスを閉めてください。
- お客様のお車には衝突被害軽減ブレーキシステム[FCM]および誤発進抑制機能（前進＆後退時）が装着されています。自動洗車機を使用するとき、予期しない作動を防ぐために、システムを OFF にしてください。
  →「FCM の ON/OFF 切り換え」P.4-95
  →「誤発進抑制機能の ON/OFF 作動切り換え」P.4-106

ワックスを使ったお手入れ

J10602500046

月に1～2回または､水をはじかなくなったときにかけます。
ワックスがけは、洗車後や塗装面が体温以下のときに直射日光を避けて行ってください。

ワックスのかけ方はワックスの取扱説明書に従ってください。

アドバイス

- 三菱自動車純正ワックスの使用をおすすめします。
- コンパウンド（研磨剤）入りのワックスは使用しないでください。コンパウンド入りのワックスを使用すると、汚れ落ちはよくなりますが、塗装面やメッキ面を削り取るため塗装面の光沢が失われる原因になります。また、使用した布に色が付着し色落ちするおそれがあります。
  特に濃彩色は変色部分が目立ちやすくなります。
- 黒色のつや消し塗装部にワックスをかけると、色むらなどが起こるおそれがありますので、ワックスをかけないでください。
  ワックスが付着したときは、温水を用い柔らかい布できれいに拭き取ってください。

アドバイス

- 洗車やワックスがけを行うときは、車体の一点に強い力がかからないよう注意してください。
  力のかけぐあいや場所によっては、万一の場合、車体がへこむおそれがあります。



ウインドウガラスのお手入れ

J10602600021

ワイパーの拭きが悪くなったときは、ウインドウガラス洗浄剤（ガラスクリーナーなど）で清掃してください。

アドバイス

- 三菱自動車純正ウインドウガラス洗浄剤の使用をおすすめします。
- ガラスの内側を清掃するときは、電熱線を傷つけないよう電熱線に沿って柔らかい布で拭いてください。

ワイパーのお手入れ

J10602700048

ワイパーゴムに異物が付着していたり、摩耗していると拭きが悪くなりますので、次のように処置してください。

- 異物が付着しているときは、水を含ませた柔らかい布でワイパーゴムを清掃してください。
- ワイパーゴムが摩耗しているときは、早めにワイパーゴムを交換してください。

アドバイス

- ワイパーゴムの交換については、別冊の「メンテナンスノート」をお読みください。

樹脂部品のお手入れ

J10602900079

スポンジまたはセーム皮で清掃します。
黒色や灰色系統で表面がざらざらしている部分（バンパーやモールディングなど）およびランプ類にワックスが付着すると白くなることがあります。
ワックスが付着したときは、温水を用い柔らかい布またはセーム皮などできれいに拭き取ってください。

アドバイス

- たわしなどの硬い物は、表面を傷つけるおそれがありますので使用しないでください。
- コンパウンド（研磨剤）入りワックスは、樹脂の表面を傷つけるおそれがありますので使用しないでください。
- ガソリン、軽油、ブレーキ液、エンジンオイル、グリース、塗装用シンナー、硫酸（バッテリー液）を付着させると、変色、しみ、ひび割れの原因になりますので、絶対に避けてください。
  また、ランプ類にコーティング剤などのケミカル類を付着させると、ひび割れが発生し、ランプ内部へ水が浸入する原因になりますので、絶対に避けてください。

  万一、付着したときは、すみやかに中性洗剤の水溶液を用い柔らかい布またはセーム皮などで拭き取った後、多量の水で洗い流してください。

アルミホイールのお手入れ

J10603000022

1. 水をかけながら、スポンジなどで汚れを洗い落とします。
2. 水洗いで落ちにくい汚れには、中性洗剤を使用してください。
   洗車後は、中性洗剤を水で洗い落とします。
3. 柔らかい布またはセーム皮で水分を拭き取ります。

アドバイス

- ブラシなどの硬い物は、ホイール表面を傷つけるおそれがありますので使用しないでください。
- コンパウンド（研磨剤）入りのクリーナーや、酸性およびアルカリ性のクリーナーは使用しないでください。
  ホイール塗装表面のはがれ、変色、しみの原因になります。
- スチームクリーナーなどで直接熱湯をかけないでください。
- 海水や道路凍結防止剤などが付着したときは、腐食するおそれがありますので早めに洗い落としてください。

電動サイドステップのお手入れ

タイプ別装備

J10604300022

⚠警告

- サイドステップのお手入れをするときは、AUTO STEP スイッチを OFF にしてください。
  AUTO STEP スイッチを ON のままにしておくと、誤ってドアを開閉したときにサイドステップが作動し、はさまれて重大な傷害を受けるおそれがあります。

- ほうきやブラシで汚れや砂を取り除いてください。

- 車体床下の泥や砂の付着が多いときは床下を洗車して取り除いてください。

お手入れが終わったら、AUTO STEP スイッチを ON にして助手席側のフロントドアまたはスライドドアを開閉し、サイドステップを格納してください。

塗装の補修

J10603800033

飛び石や引っかき傷などは、腐食の原因になります。
見つけたら早めにタッチアップペイントで補修してください。

アドバイス

- 三菱自動車純正タッチアップペイントの使用をおすすめします。

もしものときの処置

故障したとき

故障したときの対処方法 7-2
発炎筒 7-2

お困りのとき

こんなことでお困りのとき 7-3
警告灯が点灯または点滅したとき 7-7

緊急時の対処方法

ジャッキと工具 7-11
ジャッキアップするとき 7-12
パンクしたとき 7-15
タイヤ交換するとき 7-23
バッテリーが上がったとき 7-25
オーバーヒートしたとき 7-28
ブレーキから金属摩擦音が聞こえたとき 7-29
ヒューズが切れたとき 7-29
バルブ（電球）が切れたとき 7-33
けん引するとき 7-39
水没したとき 7-42

故障したときの対処方法

J10700400042

故障して動けなくなったときは、同乗者または付近の人に応援を求め、安全な場所まで車を押して移動します。
このとき、セレクターレバーをⓃに入れてください。

踏み切り内で動けなくなったときは

踏み切り内で脱輪やエンストなどで、すぐに車を動かせないときは、すみやかに同乗者を避難させ、踏み切りの非常ボタンを押します。

⚠注意

- 電車が近づいているときや、緊急を要するときは、発炎筒で合図してください。

アドバイス

- オートマチック車は、マニュアル車と構造が異なるため、エンジンスイッチを押し続けても、緊急避難的に車を動かすことはできません。

一般道路での故障表示

追突などの事故を防ぐため、車を路肩に寄せ、非常点滅灯を点滅させるか、停止表示板などで故障表示します。

高速道路、自動車専用道路での故障表示

高速道路や自動車専用道路では、車両後方に停止表示板を置くことが義務付けられています。
人は車内に残らず、路肩を歩いて安全な場所に避難してください。

アドバイス

- 停止表示板は標準装備されておりません。三菱自動車販売会社でお買い求めください。

修理の連絡先

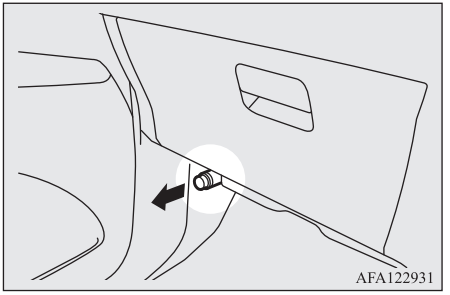
別冊の「メンテナンスノート」をお読みください。

発炎筒

J10700500043

発炎筒は、高速道路や踏み切りなどで故障し、緊急を要するときに使用します。

発炎筒は、グローブボックスの左下部に備え付けてあります。
使い方は発炎筒に記載されていますのであらかじめよく読んでおいてください。



⚠警告

- お子さまには、発炎筒を触らせないでください。
- 人の顔や身体に向けて絶対に使用しないでください。やけどをするおそれがあります。
- ガソリンなど燃えやすい物の近くでは使用しないでください。
  火災を招くおそれがあります。
- トンネル内では使用しないでください。
  煙により視界が悪くなり、重大な事故につながるおそれがあります。非常点滅灯など他の方法を用いてください。

アドバイス

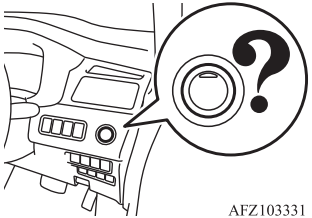
- 発炎時間は約5分です。非常点滅灯など他の方法を併用してください。
  →「非常点滅灯スイッチ」P.4-83

アドバイス

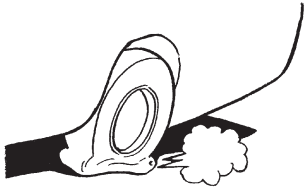
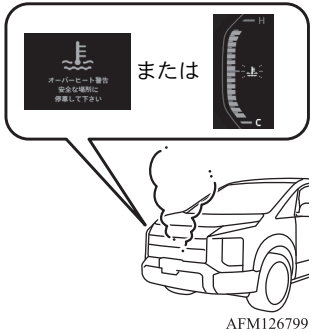
- 発炎筒には有効期限（発炎筒に記載）がありますので、期限が切れる前に三菱自動車販売会社でお買い求めください。

こんなことでお困りのとき

J10700200112

現象	処置
水たまりに入った後にブレーキの効きが悪い。	前後の車や道路状況に十分注意して低速で走行しながらブレーキの効きが回復するまで数回ブレーキペダルを軽く踏み、ブレーキを乾かしてください。 「雨天時や水たまりを走行するときは」→P.2-3
走行中にエンストした。	通常よりブレーキペダルを強く踏み続けてください。 「万一、走行中にエンストしたときは」→P.2-4
エンジンスイッチを押してもエンジンがかからない。  AFZ103331	キーレスオペレーションキーが車室内にあることを確認します。 「エンジンを始動する、電源モードを切り換えるときの作動範囲」→P.3-9 セレクターレバーがⓅに入っていることを確認し、ブレーキを踏みながらエンジンスイッチを押してください。 「エンジンの始動・停止」→P.4-5

現象	処置
エンジンがかからず、電源モードも OFF にならない。	1. セレクターレバーを(P)に入れてから電源モードを OFF にしてください。 2. 他の原因の一つとして、バッテリーの電圧が低下している可能性があります。このとき、キーレスエントリーシステム、キーレスオペレーション機能やハンドルロックも作動しません。三菱自動車販売会社にご連絡ください。
キーレスオペレーション機能が作動しない。	●キーレスオペレーションキーに内蔵されているエマージェンシーキーを使ってドアの施錠・解錠操作を行ってください。 「キーレスオペレーションシステム：キーレスオペレーション機能を使わずに操作するときは」→P.3-14 ●エンジンスイッチにキーレスオペレーションキーを接触させて、エンジンの始動、電源モードの切り換えを行ってください。 「エンジンの始動・停止：キーレスオペレーションキーが正常に作動しないとき（電池切れなど）にエンジンを始動するときは」→P.4-8
セレクターレバーが(P)から動かない。	ブレーキペダルを踏んだままセレクターレバーを操作してください。 エンジンスイッチの電源モードがONの状態になっていることを確認してください。 「セレクターレバーの動かし方」→P.4-18
雨の日、湿気の多い日などに窓が曇る。 	エアコンの内外気切り換えが、外気導入になっているか確認してください。 エアコンを入れると効果的です。 「ウインドウガラスの曇りや霜を取りたいときは」→P.5-8

現象	処置
パンクした。 	1. あわてずに、ハンドルをしっかり持ち、安全な場所に車を停止します。 2. パンクしたタイヤの応急修理をします。 「パンクタイヤ応急修理キット」→P.7-15
エンジンがかからない。 ライトが点灯しない、暗い。 ホーンが鳴らない、音が小さい。	バッテリー上がりが考えられます。 「バッテリーが上がったとき」→P.7-25
インフォメーション画面に警告表示が表示されると同時に、エンジン冷却水温表示が点滅している。 エンジンの出力が急に低下する。 エンジンルームから蒸気が出ている。  AFM126799	オーバーヒートが考えられます。 「オーバーヒートしたとき」→P.7-28

現象	処置
タイヤがスリップして発進できない。 （ぬかるみ、雪道、凍結路などの発進時）	●スリップしているタイヤの前後にある土や雪などを取り除きます。 1. 毛布か布などがあるときは、それをスリップしているタイヤの前に差し入れて滑り止めにします。 2. ドライブモードを「ECO」以外にします。 「S-AWC ドライブモードセレクター（ダイヤル）」→P.4-26 3. ゆっくりとアクセルペダルを踏んで発進してください。 4. アクティブスタビリティコントロール [ASC] を OFF にすると、脱出に効果的な場合があります。 「ASC の ON/OFF 作動切り換え」→P.4-160 ●何も滑り止めにする物がないときは、前後進を繰り返して車の反動を利用して脱出します。

⚠注意

- 車の反動を利用して脱出するときは、車の周囲に人がいないことを確認してから行ってください。
- ぬかるみなどにはまったときは、むやみにタイヤを空転させないでください。タイヤがもぐり込み、かえって脱出しにくくなります。また、エンジンの高回転を続けるとオーバーヒートやトランスミッションの故障につながるおそれがあります。数回試して脱出できないときは、専門業者に依頼してください。

7

現象	処置
オートマチックトランスミッションが変速しない。	オートマチックトランスミッションに異常が発生し、安全装置が働いていると考えられます。ただちに三菱自動車販売会社で点検を受けてください。
加速が鈍い。	オートマチックトランスミッションに異常が発生し、安全装置が働いているか、エンジン制御装置に異常が発生していると考えられます。高速走行を避けて、ただちに三菱自動車販売会社で点検を受けてください。 発進しにくいときは、セレクターレバーをⓂに入れてから、パドルシフトの +(UP) 側を引いてスポーツモードの 2 速で発進し、その後はⒹに戻して走行してください。故障の内容によってはこの方法でも効果がないときもあります。

⚠注意

- マルチインフォメーションディスプレイ内の(!)警告表示や(!)警告表示が消えないときやたびたび表示するとき、またはエンジン警告灯が点灯や点滅したときは、走行中にアクセルペダルを踏んでもスピードが出なくなることがあります。また、停車時はアイドリング回転数が高くなり、クリープ現象が強くなることがあるため、よりしっかりとブレーキペダルを踏んでください。

現象	処置
オートストップ&ゴー [AS&G] が作動しない。もしくは作動頻度が落ちた。	バッテリー性能が劣化などの理由により、低下している可能性があります。 三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

警告灯が点灯または点滅したとき

J10700100137

アドバイス

- マルチインフォメーションディスプレイ内の警告表示は「インフォメーション画面表示」の項をお読みください。→P.4-50

次の警告灯が点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、最寄りの三菱自動車販売会社にご連絡ください。

警告灯	点灯の原因
 ブレーキ警告灯 →P.4-74	●ブレーキ液の不足 ●ブレーキ力配分機能の異常

警告灯	点灯の原因
 ブレーキシステム警告灯 →P.4-75	電動パーキングブレーキの異常
 充電警告灯 →P.4-76	充電系統の異常

次の警告灯が点灯したときは、ただちに最寄りの三菱自動車販売会社にご連絡ください。

警告灯	点灯の原因
 SRS エアバッグ／プリテンショナー機構警告灯 →P.2-23	●SRS エアバッグシステムの異常 ●プリテンショナーシステムの異常

次の警告灯が点灯または点滅したときは、ただちに最寄りの三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

AdBlue® はドイツ自動車工業会（VDA）の登録商標です。

警告灯	点灯／点滅の原因
 エンジン警告灯 →P.4-75	●エンジン制御システムの異常 ●オートマチックトランスミッション制御システムの異常 ●尿素 SCR システムの異常
 および  エンジン警告灯　DPF 警告表示 →P.4-9	DPF システムの異常
 尿素 SCR システム警告灯 →P.4-11	●尿素水（AdBlue®）の残量不足 ●尿素 SCR システムの異常

次の警告灯または表示灯が点灯したときは、急ブレーキや高速走行を避け、安全な場所に停車し、エンジンを停止してください。
再度エンジンをかけ、その後しばらく走行しても点灯しなければ異常ありません。
消灯しないときやたびたび点灯するときは、できるだけ早く三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

警告灯／表示灯	点灯の原因
 ABS 警告灯 →P.4-169	ABS システムの異常
 ASC 作動表示灯 および  ASC OFF 表示灯 →P.4-161	アクティブスタビリティコントロール [ASC] システムの異常
 ASC 作動表示灯 →P.4-166	● ヒルスタートアシスト [HSA] の異常 ● ヒルディセントコントロール [HDC] の異常

次の警告灯が点灯したときは、すぐに停車する必要はありませんが、できるだけ早く三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

警告灯	点灯の原因
 LED ヘッドライト警告灯 →P.4-81	LED ヘッドライトの異常

次の警告灯が点灯したときは、次の通り処置してください。
処置しても消灯しないときは、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

警告灯	点灯／点滅の原因	処置内容
 シートベルト非着用警告灯 →P.2-13	運転席または助手席のシートベルトが着用されていない	シートベルトを着用する

ジャッキと工具

J10700600057

⚠注意

- ジャッキは、タイヤ交換とタイヤチェーンの装着以外の目的には使用しないでください。

⚠注意

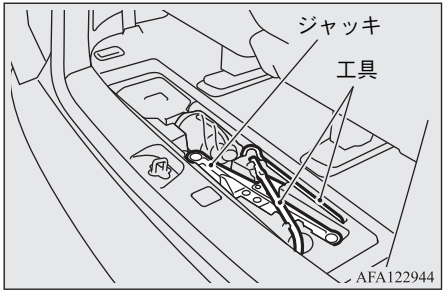
- 車両に搭載されているジャッキは、お客様のお車専用です。他の車両に使用したり、他の車両のジャッキをお客様のお車に使用しないでください。車両を損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- 工具の種類、ジャッキの使い方は、万一のとき困らないようあらかじめ確認しておきましょう。

格納場所

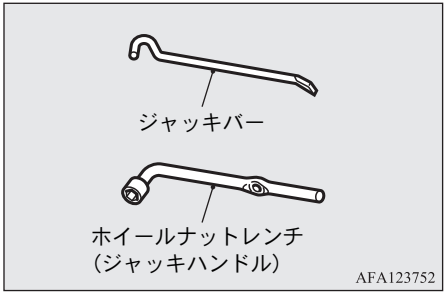
ラゲッジルーム内のラゲッジフロアボード下に格納されています。



⚠注意

- 工具やジャッキを使用した後は、元の位置に確実に格納してください。
  室内などに放置すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

工具の種類

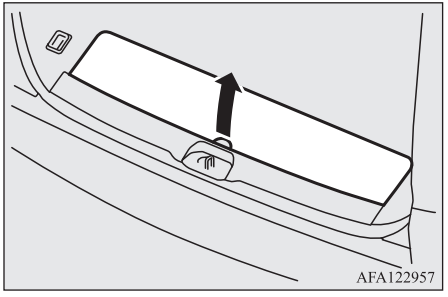


ジャッキ、工具の脱着

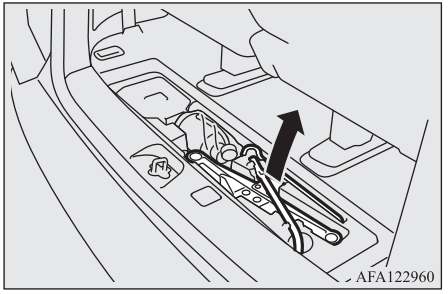
J10701600054

取り出すときは

1. ラゲッジフロアボードを持ち上げます。



2. ジャッキ、工具を指定の位置から取り出します。



格納するときは

1. ジャッキを縮めます。
2. ジャッキ、工具を元の位置に戻します。
3. ラゲッジフロアボードを元の位置に戻します。

ジャッキアップするとき

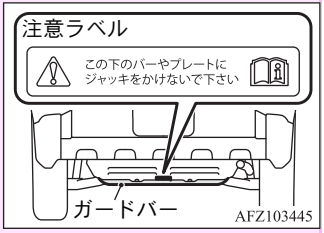
J10700700117

⚠警告

- ジャッキアップしたら車の下には絶対にもぐらないでください。万一ジャッキが外れたとき、重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠注意

- ジャッキアップするときは安全のため、次のことを必ず守ってください。
  万一の場合、ジャッキが外れ思わぬ事故につながるおそれがあります。
  - エンジンをかけたままにしない。
  - 人や荷物を乗せたままにしない。
  - 地面が平らで硬い場所以外では使用しない。
  - 凍結した路面では使用しない。
  - ジャッキの上や下に物をはさまない。
  - ジャッキアップ中に車をゆすらない。
  - ジャッキアップしたタイヤを回転させない。
  - ジャッキアップしたまま放置しない。
- ガードバーやスキッドプレートにジャッキをかけないでください。



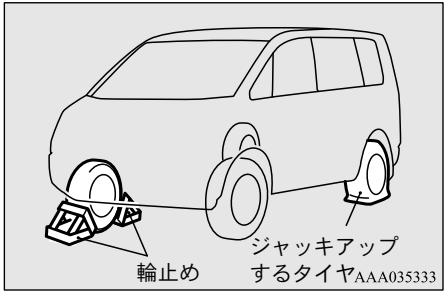
- ガレージジャッキなどを使用してジャッキアップする場合は三菱自動車販売会社にご相談ください。

1. 交通のじゃまにならず、安全に作業できる平らで硬い場所に車を止めます。
2. 電動パーキングブレーキを確実にかけ、セレクターレバーをⓅに入れて、エンジンを止めます。
3. 人や荷物を車から降ろします。必要に応じて非常点滅灯を点滅させ、停止表示板などを車両後方に置きます。

アドバイス

- 停止表示板は標準装備されておりません。三菱自動車販売会社でお買い求めください。

4. ジャッキアップするタイヤと対角の位置にあるタイヤの前後に輪止めをします。



⚠注意

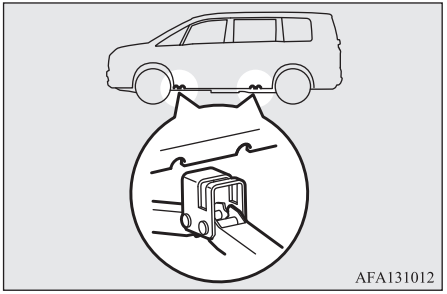
- ジャッキアップするときは、必ず輪止めを使用してください。
  万一、ジャッキアップ中に車両が動いたとき、ジャッキが外れ、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- 輪止めは標準装備されておりません。三菱自動車販売会社でお買い求めください。
- 輪止めがないときは、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

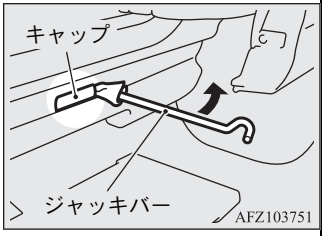
5. ジャッキと工具を取り出します。
   →「ジャッキと工具」P.7-11
6. 電動サイドステップ付き車の助手席側の場合、車両を次の状態にします。
   フロント側：電動サイドステップを格納した状態で、AUTO STEP スイッチを OFF にします。
   リヤ側：スライドドアを開け、電動サイドステップを展開してから AUTO STEP スイッチを OFF にします。
   →「電動サイドステップの作動」P.3-33

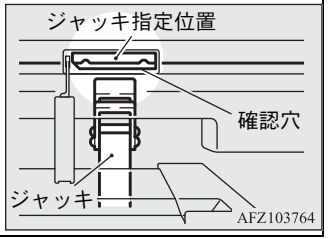
7. ジャッキアップするタイヤに近い指定位置の下にジャッキを置きます。



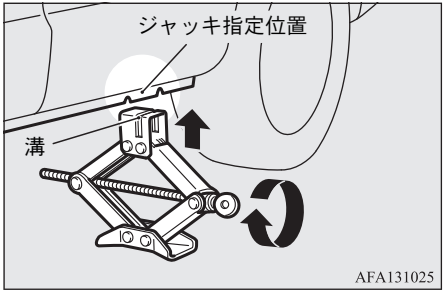
アドバイス

- 電動サイドステップ付き車の場合、助手席側のリヤタイヤをジャッキアップするときは、先端に布をかぶせたジャッキバーでキャップを取り外し、確認穴よりジャッキ指定位置を確認しながら、ジャッキの位置を合わせてください。





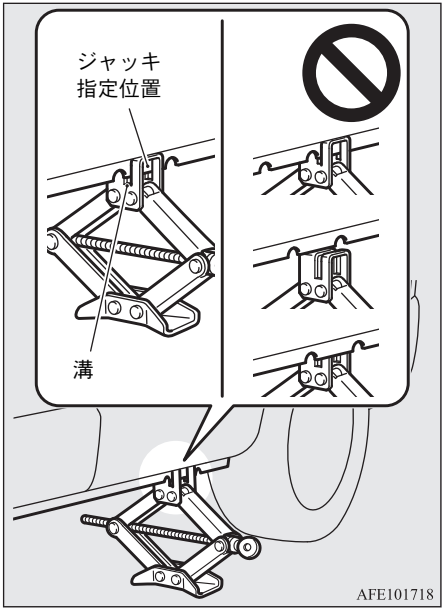
8. ジャッキ頭部の溝がジャッキ指定位置にはまるまで、ジャッキを手で右に回して上げます。



⚠警告

- ジャッキ頭部の溝は、指定された位置以外に掛けないでください。指定された位置以外に掛けると、車体がへこんだり、ジャッキが倒れて、重大な傷害を受けるおそれがあります。

9. ジャッキ頭部の溝が、指定位置にはまっていることを確認します。

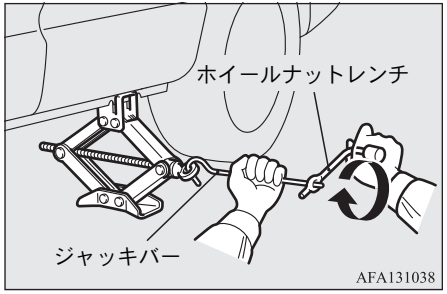


10. 電動サイドステップ付き車の場合、手順6.で開けたスライドドアを静かに閉めます。

アドバイス

- スライドドアを閉める前に確認穴用のキャップを取り付けてください。

11. 図で示すようにジャッキバーとホイールナットレンチを組み付け、タイヤが地面から少し浮くまで静かにホイールナットレンチを右に回します。



⚠警告

- 電動サイドステップ付き車の助手席側をジャッキアップした場合、AUTO STEP スイッチを ON にしないでください。万一、電動サイドステップが作動した場合、ジャッキが外れ、重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠注意

- 地面からタイヤが少し離れた高さ以上にジャッキアップしないでください。
必要以上にジャッキアップすると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

12. 電動サイドステップ付き車の助手席側をジャッキアップした場合は、車を降ろしてジャッキを外した後、AUTO STEP スイッチを ON にして助手席側のフロントドアまたはスライドドアを開閉し、電動サイドステップを格納します。

パンクしたとき

J10704600130

パンクタイヤ応急修理キット

本キットはタイヤ接地部に刺さった釘やネジなどによる軽度のパンクを応急修理するものです。
お客様のお車には、スペアタイヤが搭載されていません。

⚠警告

- パンクタイヤ応急修理キットは、必ず三菱自動車純正品を使用してください。

⚠注意

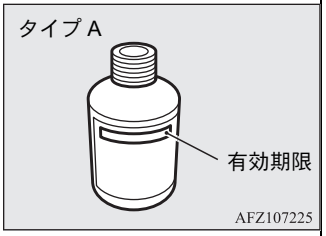
- 応急修理剤を飲用すると健康に害があります。もし誤って飲用した場合は、できるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。

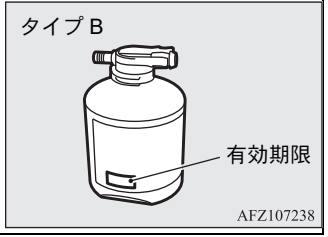
⚠注意

- 応急修理剤がもし目に入ったり、皮膚に付いたりした場合は、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。
- 応急修理剤にお子さまが誤って手を触れないようご注意ください。
- 応急修理キットで応急修理を行うときは、車を地面が平らで安全な場所に止めてください。
- 備え付けのコンプレッサーは、お客様のお車専用です。他の車には使用しないでください。
- 備え付けのコンプレッサーは、自動車用タイヤの空気充填用です。自動車用タイヤの空気充填や空気圧の点検以外での利用はしないでください。
- コンプレッサーには防水加工をしておりません。降雨時などは、水がかからないようにしてご使用ください。
- コンプレッサーは、砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。砂地など砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。
- コンプレッサーの分解、改造などは絶対にしないでください。また、空気圧計などに衝撃を与えないでください。故障の原因となります。

アドバイス

- タイヤに刺さった釘やネジなどは、抜かずにそのまま応急処置をしてください。抜いてしまうとパンク穴が大きくなり空気が漏れやすくなります。
- 応急修理剤が衣服などに付着すると、落ちないおそれがあります。
- 応急修理剤には有効期限がありますので、定期的に点検を行ってください。有効期限が切れる前に三菱自動車販売会社でお買い求めください。





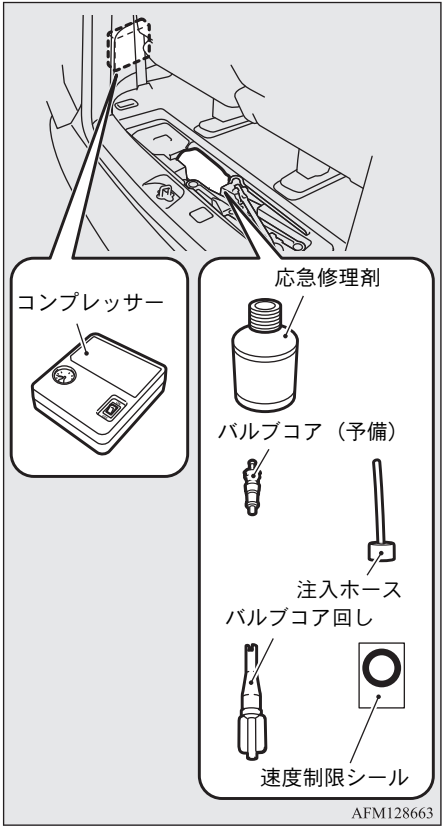
アドバイス

- 応急修理剤を使用したタイヤは、新しいタイヤに交換することをおすすめします。修理・再使用する場合は三菱自動車販売会社にご相談ください。
  なお、応急修理後の恒久修理のとき、パンク穴を発見できず恒久修理できないことがあります。
- 応急修理材使用後は、バルブを新品へ交換してください。

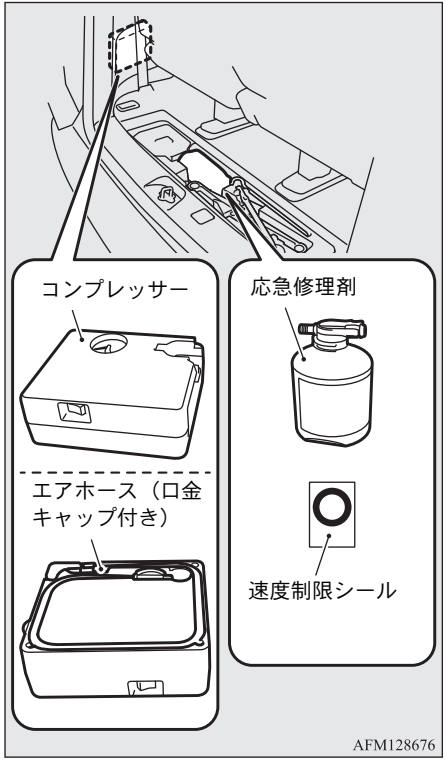
格納場所と内容

ラゲッジルーム内のラゲッジフロアボード下および左側面に収納されています。

タイプ A



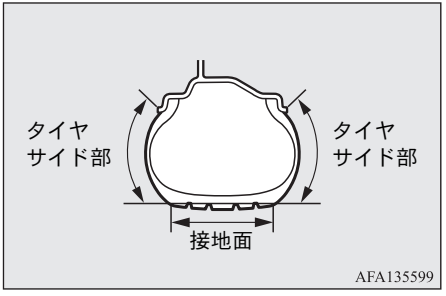
タイプ B



応急修理キットで修理ができない場合

次のような場合は、応急修理剤を使って修理することができません。
三菱自動車販売会社または JAF など専門業者にご連絡ください。JAF の営業所は別冊の「メンテナンスノート」をお読みください。

- 応急修理剤の有効期限が切れているとき（有効期限はボトルのラベルに記載されています。）
- タイヤが2本以上パンクしているとき
- およそ 4mm 以上の切り傷や刺し傷によるパンクのとき
- タイヤサイド部（接地面以外の部分）が損傷を受け、パンクしたとき



- 空気がほとんど抜けた状態で走行したとき

- タイヤがホイールの外側へ完全に外れているとき
- ホイールが破損しているとき

応急修理の準備

1. 交通のじゃまにならず、安全に作業できる平らな場所に車を止めます。
2. 電動パーキングブレーキを確実にかけ、セレクターレバーを🅿に入れて、エンジンを停止します。
3. 必要に応じて非常点滅灯を点滅させ、停止表示板などを車両後方に置きます。

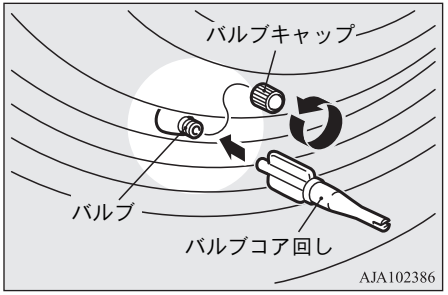
アドバイス

- 停止表示板は標準装備されておりません。三菱自動車販売会社でお買い求めください。

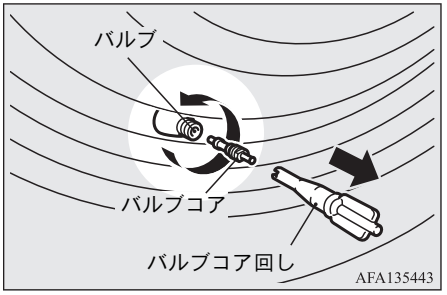
応急修理剤と空気の注入

タイプA

1. パンクタイヤ応急修理キットを取り出します。
2. タイヤのバルブからバルブキャップを外し、バルブコア回しを図のように押しあてて、タイヤの空気を完全に抜きます。



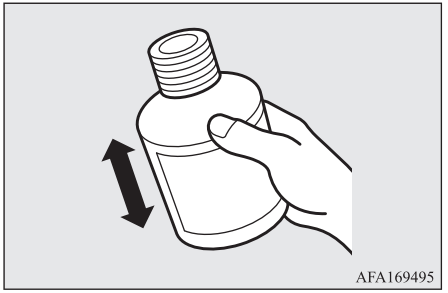
3. バルブコア回しで、タイヤのバルブに入っているバルブコアを反時計回りに回して取り外します。



⚠注意

- バルブコアを外すとき、タイヤに空気が残っているとバルブコアが飛び出し、けがをするおそれがありますので、完全に空気が抜けていることを確認してから外してください。

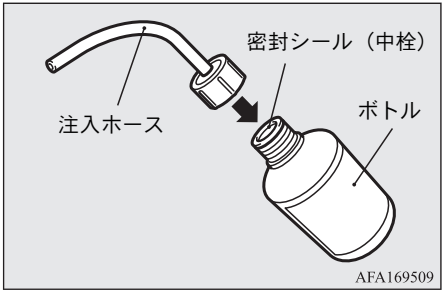
4. 取り外したバルブコアは、汚れないようにきれいな場所に保管します。
5. 応急修理剤のボトルをよく振ります。



アドバイス

- 寒冷時（0°C 以下）では、応急修理剤の粘度が高くなり注入しづらくなることがありますので、ボトルを振る前に車内などで温めてください。

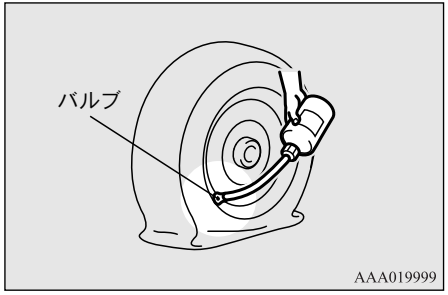
6. 応急修理剤の密封シール（中栓）を付けたまま注入ホースをボトルにねじ込みます。注入ホースをねじ込むと、密封シール（中栓）が破れ、修理剤が注入できる状態になります。



⚠注意

- 注入ホースをねじ込んだ後、応急修理剤のボトルを振ると、修理剤が注入ホースから飛び出すおそれがあります。

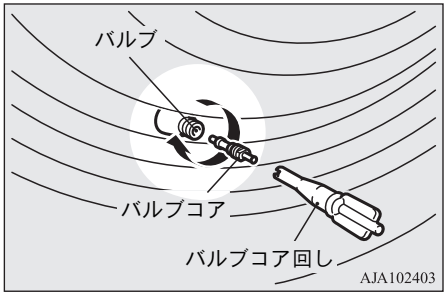
7. 注入ホースをバルブに差し込みます。応急修理剤のボトルを逆さまに持ち、手でボトルを何回も圧迫し、ボトル内のすべての修理剤をタイヤ内に注入します。



アドバイス

- 修理剤は、バルブがタイヤと地面の接地部分近く（最低部付近）以外の位置で注入してください。バルブが接地部分近くにあると、修理剤が入りにくい場合があります。

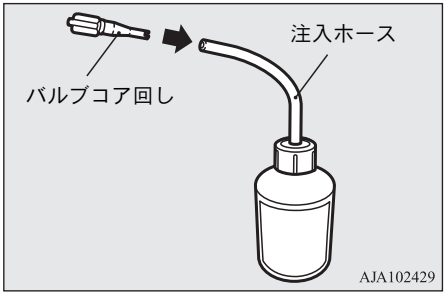
8. 注入後、注入ホースをバルブから引き抜きます。
9. バルブコアをバルブに取り付け、バルブコア回しでしっかりと時計回りにねじ込みます。



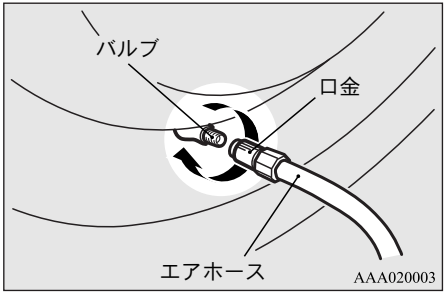
アドバイス

- バルブコア回しは、手で回してください。工具などを使って回すと、バルブコア回しが破損するおそれがあります。

10. 注入が終わった空ボトルから修理剤が漏れるのを防ぐため、注入ホースの先端にバルブコア回しを差し込んで栓をします。

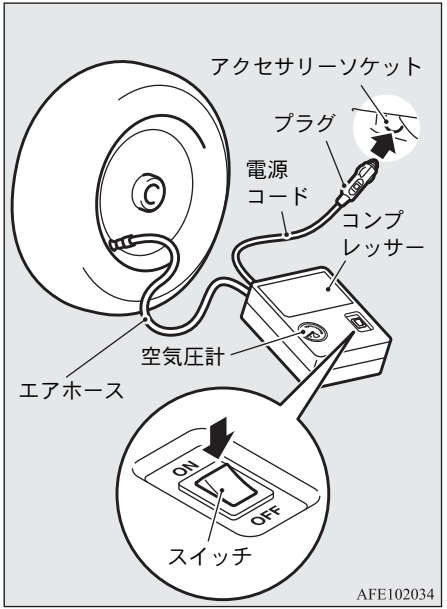


11. コンプレッサーのエアホースを取り出し、口金をバルブに確実に取り付けます。



12. 空気圧計を上にして、コンプレッサーを置きます。

コンプレッサーの電源コードを取り出し、プラグをアクセサリーソケットに差し込みます。
→「アクセサリーソケット (DC12V)」P.5-18



⚠注意

- コンプレッサーの電源は、自動車用 12V 専用です。他の電源は接続しないでください。

13. エンジンスイッチの電源モードを ACC にします。
→「電源モードの切り換え方」P.4-3
14. コンプレッサーのスイッチを ON にして指定の空気圧まで空気を入れます。
→「タイヤの空気圧」P.8-9
15. 空気圧計の目盛りが指定の空気圧になったらコンプレッサーのスイッチを OFF にします。
空気を入れすぎたときは、エアホースの口金を緩めて空気を抜きます。

⚠注意

- タイヤが膨らむとき、タイヤとホイールの間に指などはさまないようにしてください。
- 使用中、コンプレッサーの表面が熱くなります。コンプレッサーは 10 分以上連続して作動させないでください。故障につながるおそれがあります。
- コンプレッサーの運転中に動作が鈍くなった場合は、オーバーヒート状態になっています。このような場合はただちにスイッチを OFF にし、30 分以上放置してください。

アドバイス

- 10 分以内に指定の空気圧にならないときは、タイヤがひどい損傷を受けているおそれがあり、応急修理剤を使って応急修理することができません。三菱自動車販売会社または JAF など専門業者にご連絡ください。

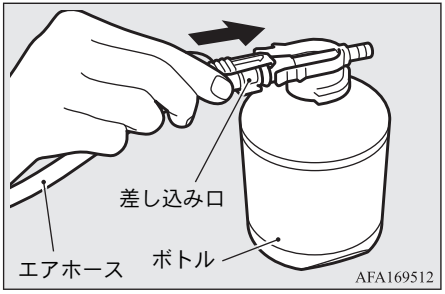
16. 電源コードのプラグをアクセサリーソケットから抜きます。
17. エアホースをタイヤから外します。
18. バルブキャップを締めます。

アドバイス

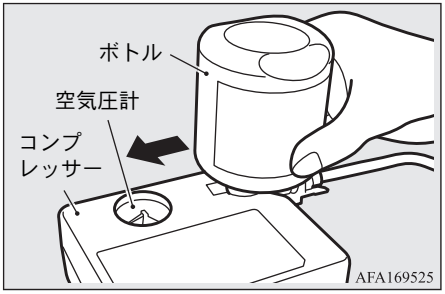
- 本応急修理キットでタイヤに修理剤および空気を注入するだけではパンク穴はふさがりません。応急修理が完了するまで（点検走行の手順 3. または 4. まで）は、パンク穴より空気が漏れます。

タイプ B

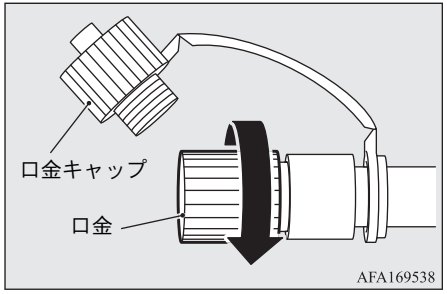
1. パンクタイヤ応急修理キットを取り出します。
2. エアホースの差し込み口を、応急修理剤のボトルにしっかりと接続します。



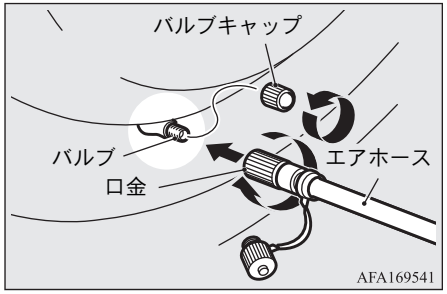
3. 空気圧計を上にしてコンプレッサーを置き、コンプレッサーに応急修理剤のボトルを差し込みます。



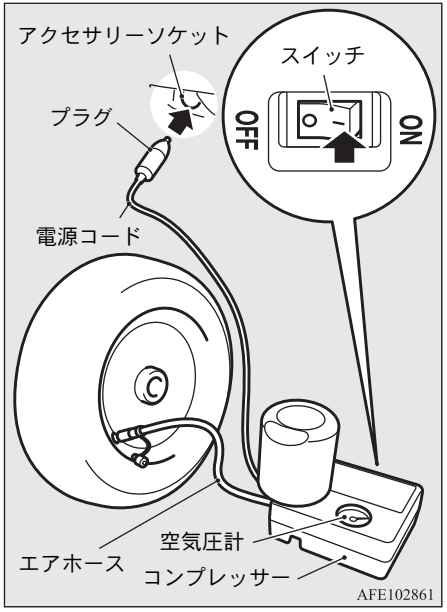
4. エアホースにある口金キャップを持って、口金を回して口金キャップを取り外します。



5. タイヤのバルブからバルブキャップを取り外し、エアホースの口金をバルブに確実に取り付けます。



6. コンプレッサーの電源コードを取り出し、プラグをアクセサリーソケットに差し込みます。
→「アクセサリーソケット (DC12V)」P.5-18



⚠注意

- コンプレッサーの電源は、自動車用 12V 専用です。他の電源は接続しないでください。

7. エンジンスイッチの電源モードを ACC にします。
→「電源モードの切り換え方」P.4-3

8. コンプレッサーのスイッチを ON にして指定の空気圧まで空気を入れます。
→「タイヤの空気圧」P.8-9
9. 空気圧計の目盛りが指定の空気圧になったらコンプレッサーのスイッチを OFF にします。
空気を入れすぎたときは、エアホースの口金を緩めて空気を抜きます。

⚠注意

- タイヤが膨らむとき、タイヤとホイールの間に指などはさまないようにしてください。
- 使用中、コンプレッサーの表面が熱くなります。コンプレッサーは 40 分以上連続して作動させないでください。故障につながるおそれがあります。
- コンプレッサーの運転中に動作が鈍くなった場合は、オーバーヒート状態になっています。このような場合はただちにスイッチを OFF にし、30 分以上放置してください。

アドバイス

- タイヤのバルブを介して修理剤を注入するため、圧力が 600kPa に達することがありますが、異常ではありません。通常は、30 秒ほどで下がります。

アドバイス

- 20 分以内に指定の空気圧にならないときは、タイヤがひどい損傷を受けているおそれがあり、応急修理剤を使って応急修理することができません。三菱自動車販売会社または JAF など専門業者にご連絡ください。

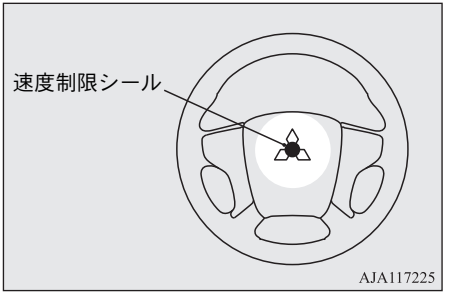
10. 電源コードのプラグをアクセサリーソケットから抜きます。
11. エアホースをタイヤから外します。
12. バルブキャップを締めます。
13. エアホース先端に口金キャップを取り付けます。

アドバイス

- 本応急修理キットでタイヤに修理剤および空気を注入するだけではパンク穴はふさがりません。応急修理が完了するまで（点検走行の手順 3. または 4. まで）は、パンク穴より空気が漏れます。

点検走行

1. 速度制限シールをハンドルの三菱マークの上に貼ります。



⚠注意

- ハンドルの指定位置以外にシールを貼らないでください。SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

2. 応急修理キットを車に搭載してただちに走行します。
80km/h以下の速度で法定速度を守り、急ブレーキ、急ハンドル、急なアクセル操作を避けて慎重に運転します。

⚠注意

- 走行中異常を感じたときは、運転を中止して三菱自動車販売会社または JAF など専門業者にご連絡ください。
応急修理完了までに空気圧が低下して安全性を損なうおそれがあります。

3. 10 分間または約 5km 走行後、コンプレッサーの空気圧計でタイヤの空気圧を点検します。
   空気圧の低下がなければ、応急修理完了です。
4. タイヤの空気圧が不足している場合は、もう一度指定の空気圧まで空気を入れてから、走行します。
   10 分間または約 5km 走行後、再びタイヤの空気圧を点検します。
   空気圧の低下がなければ、応急修理完了です。

⚠注意

- 必ず空気圧の点検を行い、応急修理の完了を確認してください。
- 空気圧が最少空気圧（130kPa {1.3kgf/cm^2}）より低下しているときは、応急修理剤での応急修理はできません。運転を中止して三菱自動車販売会社または JAF など専門業者にご連絡ください。

アドバイス

- タイヤの空気圧が指定空気圧より低下していたら運転を中止して三菱自動車販売会社または JAF など専門業者にご連絡ください。

アドバイス

- 寒冷時（0°C 以下）では修理完了までの時間、走行距離が長くなる場合があるため、2 度目に空気を入れて走行した後でもタイヤ空気圧が指定空気圧より低下することがあります。
  そのような場合は、もう一度指定空気圧まで空気を入れ、さらに 10 分間または約 5km 走行後、もう一度空気圧を点検してください。それでも指定空気圧より低下する場合は、これ以上の運転を中止し三菱自動車販売会社または JAF など専門業者にご連絡ください。

5. すみやかに三菱自動車販売会社まで慎重に運転し、タイヤの修理、交換を行ってください。

アドバイス

- 応急修理剤の空ボトルには残った修理剤が付着していますので、三菱自動車販売会社で新しい応急修理剤をお買い求めの際は、空ボトルをお渡しください。

タイヤ交換するとき

J10701000090

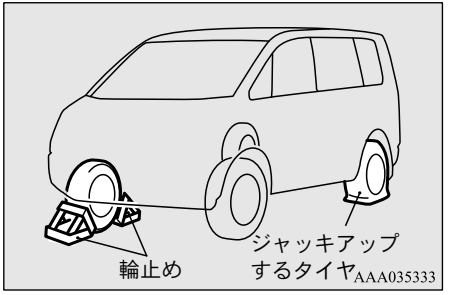
タイヤを取り外すときは

1. 交通のじゃまにならず、安全に作業できる平らで硬い場所に車を止めます。
2. 電動パーキングブレーキを確実にかけ、セレクターレバーを Ⓟ に入れて、エンジンを止めます。
3. 人や荷物を車から降ろします。必要に応じて非常点滅灯を点滅させ、停止表示板などを車両後方に置きます。

アドバイス

- 停止表示板は標準装備されておりません。三菱自動車販売会社でお買い求めください。

4. ジャッキアップするタイヤと対角の位置にあるタイヤの前後に輪止めをします。



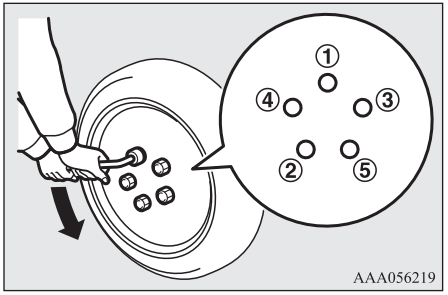
⚠注意

- ジャッキアップするときは、必ず輪止めを使用してください。
  万一、ジャッキアップ中に車両が動いたとき、ジャッキが外れ、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- 輪止めは標準装備されておりません。三菱自動車販売会社でお買い求めください。
- 輪止めがないときは、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

5. ジャッキと工具を取り出します。
   →「ジャッキと工具」P.7-11
6. 交換するタイヤに近い指定箇所にジャッキをセットします。
   →「ジャッキアップするとき」P.7-12
7. ホイールナットレンチを使用して、ホイールナットを番号順に、手で回るくらいまで緩めます。



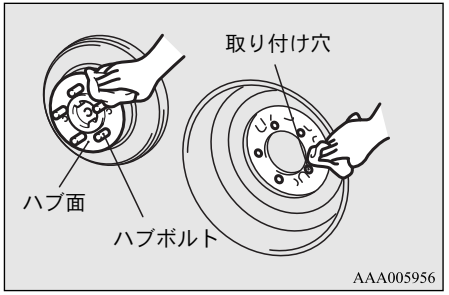
8. タイヤが地面から少し浮くまで静かにジャッキアップします。
9. ホイールナットを外し、タイヤを取り外します。

アドバイス

- タイヤを地面に置くときは、ホイール表面を上にして置いてください。
  下にして置くと、ホイールに傷がつくおそれがあります。

タイヤを取り付けるときは

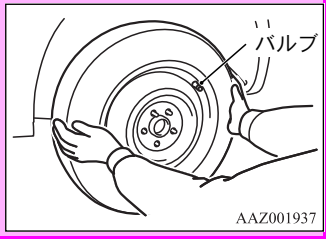
1. ハブ面、ハブボルトおよびホイール取り付け穴の汚れをきれいに取り除きます。



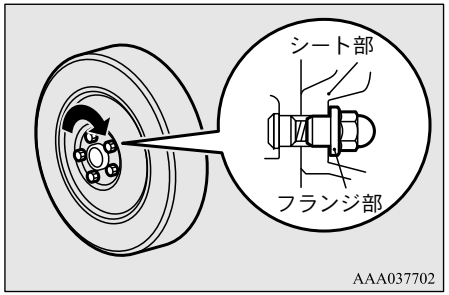
2. タイヤを取り付けます。

⚠警告

- タイヤを取り付けるときは、タイヤの裏表に注意し、バルブが車体外側を向くように取り付けてください。取り付けた際、バルブが見えなければ、タイヤが裏向きに取り付けられています。
  タイヤの裏表を間違えて取り付けると、車両に悪影響をおよぼし、思わぬ事故につながるおそれがあります。



3. 手でホイールナットを右へ回して仮締めします。
ホイールナットのフランジ部がホイールに当たり、タイヤががたつかない程度までホイールナットを仮締めします。



⚠注意

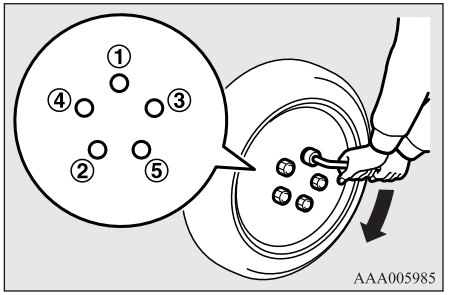
- ハブボルト、ホイールナットには油を塗らないでください。
ネジ部、ホイールなどの損傷の原因になります。

アドバイス

- アルミホイールを 4 輪ともスチールホイールに変更するときは、テーパーナットを三菱自動車販売会社でお買い求めの上、ご使用ください。

4. タイヤが地面に接するまでジャッキを下ろし、ホイールナットレンチを使用して、ホイールナットを番号順に 2 ～3 回に分けて、徐々に締め付けます。最後の締め付けは、確実に行ってください。

締め付けトルク：88 ～ 108N•m
{9 ～ 11kgf•m}



⚠注意

- ホイールナットを締め付けるときは、ホイールナットレンチを足で踏んだり、パイプなどを使用して必要以上に締め付けないでください。

5. タイヤの空気圧を点検します。
→「タイヤの空気圧」P.8-9
6. ジャッキと工具を元の位置に戻します。
→「ジャッキと工具」P.7-11

⚠注意

- タイヤ交換後、走行中にハンドルや車体に振動が出たときは、三菱自動車販売会社でタイヤバランスの点検を受けてください。
- 指定サイズ以外のタイヤを使用したり、種類の異なったタイヤを混ぜて使用することは安全走行に悪影響をおよぼしますので、避けてください。

アドバイス

- タイヤ交換したときは、約 1,000km 走行後、再度ホイールナットを締め付けて、緩みがないことを点検してください。

バッテリーが上がったとき

J10701100062

次のような状態をバッテリー上がりといいます。

- スターターモーターが回らない。または、回っても回転が弱くてエンジンがかからない。
- ライトが点灯しない。または、いつもより暗い。
- ホーンが鳴らない。または、鳴ってもいつもより音が小さい。

このような場合は、ブースターケーブル（別売）を使用し、他車のバッテリーを電源として、次の要領でエンジンをかけることができます。

⚠警告

- ブースターケーブルを使用してエンジンをかけるときは、取扱説明書に従って正しい手順で作業してください。取り扱いを誤ると、引火爆発や車両損傷のおそれがあります。

⚠注意

- 救援車は必ず 12V で、自車と同容量以上のバッテリーを装着している車に依頼してください。
- ブースターケーブルは、バッテリー容量に適した物を使用してください。
  また、破損や腐食などの異常がないことを点検してから使用してください。
  ケーブル焼損の原因になることがあります。

アドバイス

- バッテリーを外してもエンジンスイッチの電源モードの状態を記憶しています。救援車とブースターケーブルで接続したときは、電源が絶たれる前の電源モードの状態に戻ります。
  バッテリーが上がる前の電源モードの状態が分からない場合は、十分注意をしてください。

1. ブースターケーブルが接続でき、かつ自車と接触しない位置に救援車を止めます。
2. ライトやエアコンなど電装品のスイッチを切ります。
3. 救援車と自車のパーキングブレーキを確実にかけ、マニュアル車はシフトレバーをⓃ、CVT 車、オートマチック車はセレクターレバーをⓅに入れ、エンジンを止めます。

⚠警告

- ブースターケーブルの接続時は、救援車のエンジンも止めてください。
  ケーブルや衣服などがファンやドライブベルトに巻き込まれて、けがをするおそれがあります。
- 冷却ファンはエンジン始動後、冷却水の温度により回転、停止を繰り返します。エンジン運転中は、ファンに手を近づけないでください。

4. バッテリー液量を確認します。

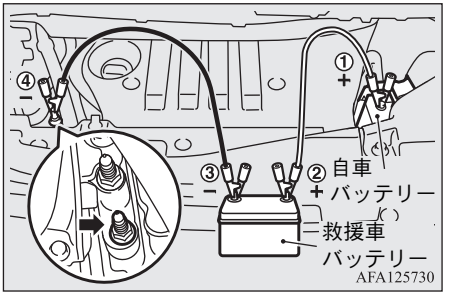
⚠警告

- バッテリー液量が下限（LOWER LEVEL）以下のままで使用しないでください。バッテリーの劣化を早めたり、発熱や爆発するおそれがあります。

アドバイス

- バッテリー液の補給は、別冊の「メンテナンスノート」をお読みください。

5. ブースターケーブルを図の番号順に確実に接続します。
   ①自車のバッテリーの＋端子
   ②救援車のバッテリーの＋端子
   ③救援車のバッテリーの－端子
   ④図で指示の箇所（アースをとる）



⚠警告

- ブースターケーブルを接続するときは、必ず次のことをお守りください。火花が発生し、バッテリーから発生する可燃性ガスに引火爆発するおそれがあります。
  - ブースターケーブルは正しい順番、位置に接続する
  - ブースターケーブルの＋と－端子を接触させない
  - 自車バッテリーの－端子に直接つながない
  - バッテリー付近で喫煙したり、マッチやライターなどを使用しない

⚠注意

- ブースターケーブルは、確実に接続してください。エンジン始動時の振動で外れると、ケーブルがファンやドライブベルトに巻き込まれ、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ブースターケーブルは、バッテリーの＋と－端子を正しく接続してください。逆に接続すると、車の電装品が故障するおそれがあります。

アドバイス

- バッテリーの＋端子は、カバーを外してからブースターケーブルを接続してください。

6. 接続した後、救援車のエンジンをかけ、エンジン回転数を少し上げます。
7. 自車のエンジンをかけます。

アドバイス

- バッテリーが十分に充電される前にエンジンが自動的に停止することがないように、AS&G OFF スイッチを押して AS&G を停止してください。
  →「AS&G を非作動にするには」P. 4-159

8. エンジンがかかったら、ブースターケーブルを接続したときと逆の手順で取り外します。
9. 最寄りのガソリンスタンドや三菱自動車販売会社でバッテリーの点検を受けてください。

⚠警告

- バッテリーを車両に搭載したままでの充電は、引火爆発や車両損傷の原因になることがあります。やむを得ず車両に搭載したままで充電するときは、バッテリーに接続されている車両側の－端子を取り外してください。
- 充電中はバッテリーに火気を近づけないでください。バッテリーからは可燃性ガスが発生しており、爆発するおそれがあります。
- 周囲の囲まれた狭い場所でバッテリーを充電するときは、換気を十分に行ってください。

⚠警告

- 充電するときは、すべてのキャップを外してください。
- バッテリー液は希硫酸です。皮膚に付いたり、目に入るとやけどや失明の原因になります。すぐに多量の水で洗い、すみやかに専門医の治療を受けてください。

アドバイス

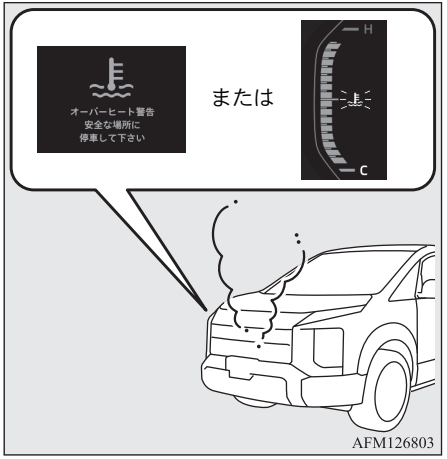
- オートマチック車は、マニュアル車と構造が異なるため、押しがけやけん引によりエンジンをかけることはできません。
- 充電が不十分のまま車を発進させると、エンジンの回転むらが生じ、ABS 警告灯が点灯することがあります。
  →「走行中に警告を表示したときは」P.4-169
- お客様のお車には、エンジンの始動回数増加に対応するために、耐久寿命を向上したオートストップ & ゴー [AS&G] 車専用のバッテリーが搭載されています。
  三菱自動車純正以外のバッテリーを使用すると、バッテリーの早期劣化や、AS&G が正常に作動しなくなる原因となり、最悪の場合には、エンジンが再始動しなくなるおそれがありますので、お車との適合性を確認済みの、三菱自動車純正品を使用してください。
  詳しくは、三菱自動車販売会社にご相談ください。
  →「バッテリーの種類」P.8-6

オーバーヒートしたとき

J10701200092

次のような状態をオーバーヒートといいます。

- マルチインフォメーションディスプレイ内のインフォメーション画面に警告表示が表示されると同時に、エンジン冷却水温表示が点滅している。
- エンジンの出力が急に低下する。
- エンジンルームから蒸気が出ている。



次の要領に従い処置してください。

1. 車を安全な場所に止めます。

アドバイス

- エンジンが自動的に停止することがないように、AS&G OFF スイッチを押して、AS&G を停止してください。
  →「AS&G を非作動にするには」P.4-159

2. エンジンルームから蒸気が出ていないかどうかを確認します。

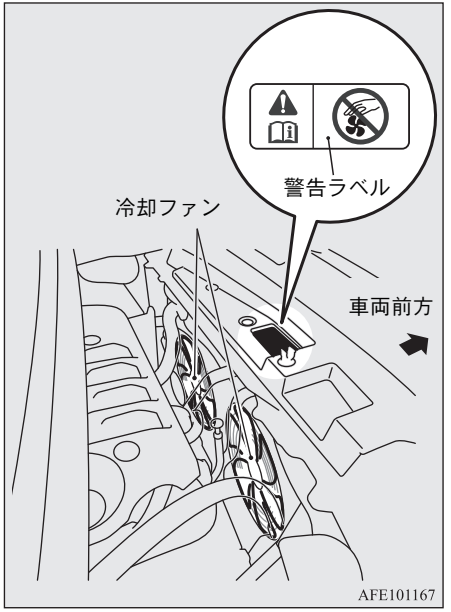
   [蒸気が出ていないとき]
   エンジンをかけたままでエンジンフード（ボンネット）を開け、風通しをよくします。

   [蒸気が出ているとき]
   エンジンを止め、蒸気が出なくなったら、風通しをよくするためにエンジンフード（ボンネット）を開け、エンジンをかけます。

⚠警告

- エンジンルームから蒸気が出ているときは、エンジンフード（ボンネット）を開けないでください。蒸気や熱湯が噴き出し、やけどをするおそれがあります。蒸気が出ていないときでも、熱湯が噴き出していたり、高温になっている部分がありますので、エンジンフード（ボンネット）を開けるときは注意してください。

3. 冷却ファンが作動しているか確認します。



[冷却ファンが作動しているとき]

警告表示が消えた後で、エンジンを止めます。

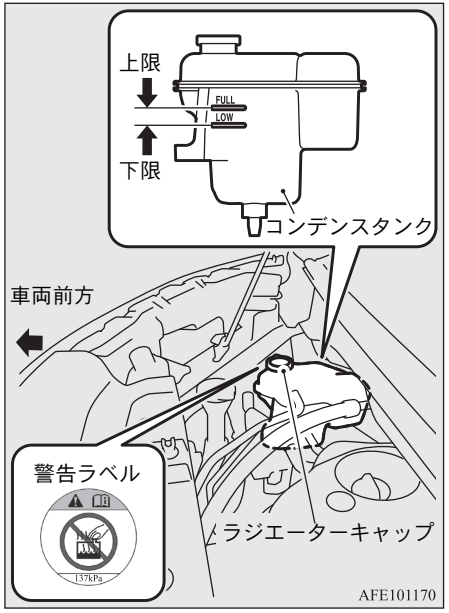
[冷却ファンが作動していないとき]

すぐにエンジンを止めて自然冷却し、三菱自動車販売会社にご連絡ください。

⚠警告

- 冷却ファンに、手や衣服などを巻き込まれないように注意してください。

4. エンジンが十分冷えてから、冷却水の有無を点検します。
   冷却水が不足しているときは、冷却水を補給します。
   冷却水がないときは、応急処置として水を補給します。



⚠警告

- 通常はラジエーターキャップを外さないでください。
  冷却水には圧力がかかっているため、冷却水の温度が高いときにキャップを外すと、蒸気や熱湯が噴き出し、やけどをするおそれがあります。

アドバイス

- 冷却水の補給は、別冊の「メンテナンスノート」をお読みください。

ブレーキから金属摩擦音が聞こえたとき

J10700300025

ディスクブレーキには、ブレーキパッドの摩耗量が使用限度近くになると走行中に金属摩擦音（キーキー）を発生して警告する装置が設けてあります。

アドバイス

- 金属摩擦音が聞こえたときは、三菱自動車販売会社でブレーキパッドを点検してください。

ヒューズが切れたとき

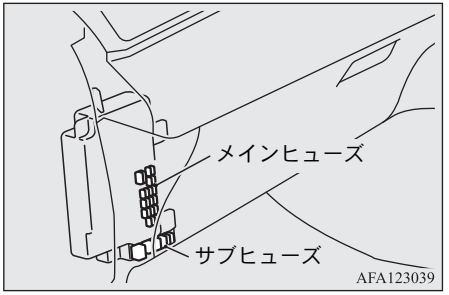
J10701300080

各種のランプが点灯しないときや、電気系統の装備が作動しないときは、ヒューズが切れているときがありますのでヒューズを点検し、切れているときは交換してください。

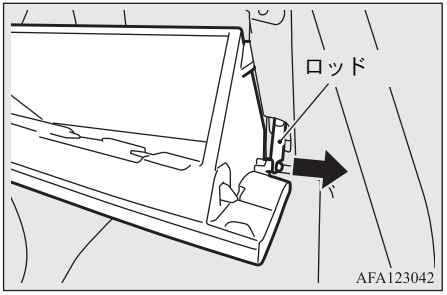
ヒューズボックスの位置

室内

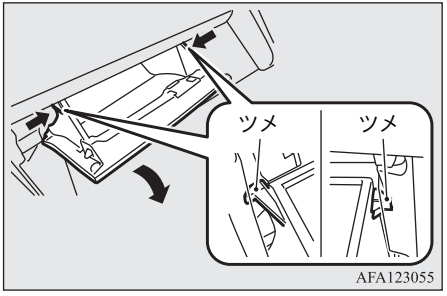
グローブボックスの奥にあり、ヒューズの点検・交換はグローブボックスを外して行います。



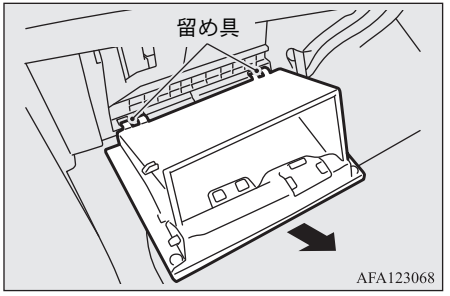
1. グローブボックスを開き、グローブボックス右側のロッドを右側に引いて外します。



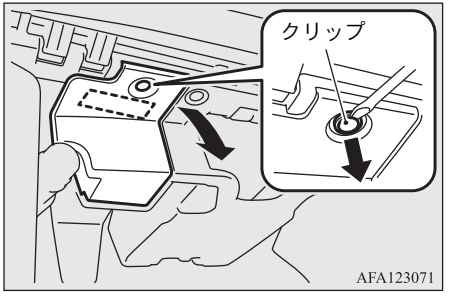
2. グローブボックスの側面を押しながら、左右のツメを外し、グローブボックスを下げます。



3. グローブボックスの留め具を外して、グローブボックスを取り外します。グローブボックスを戻すときは、逆の手順で取り付けます。

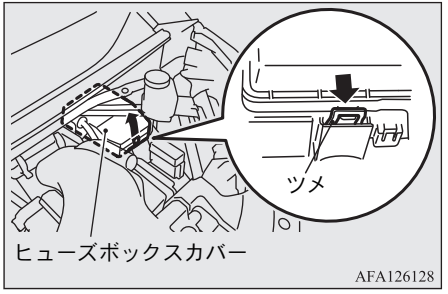


4. サブヒューズの点検・交換はグローブボックス下側のカバーを外して行います。
クリップを外し、カバーを下側に引いて取り外します。
戻すときは、逆の手順で取り付けます。



エンジンルーム内

ツメを押してロックを外し、ヒューズボックスカバーを持ち上げて取り外します。



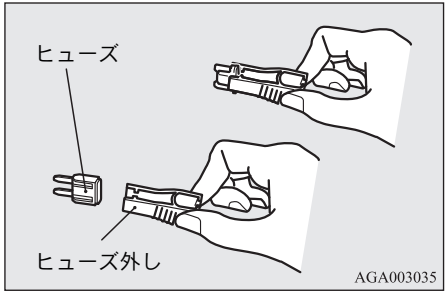
ヒューズの交換

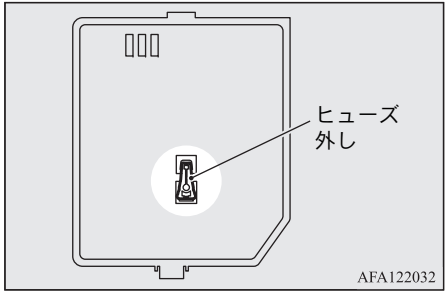
1. エンジンスイッチの電源モードをOFFの状態にします。
2. 該当する装備を受け持つヒューズおよび容量を確認します。
→「各ヒューズの受け持つ装備および容量」P.7-31

アドバイス

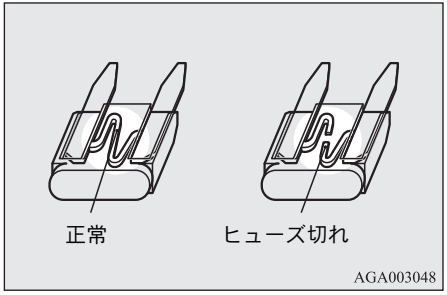
- 各ヒューズの受け持つ装備および容量は、室内はグローブボックスの裏側に、エンジンルーム内はヒューズボックスカバーの内側に記載してあります。

3. ヒューズ外しを使用してヒューズを引き抜きます。ヒューズ外しは、エンジンルーム内のヒューズボックスカバーの内側にあります。





4. ヒューズを点検し、切れているときは正規容量のヒューズと交換します。



⚠警告

- 取り付けてあるヒューズと同じ容量のヒューズを使用してください。針金、銀紙などを代用すると、電線の過熱により火災のおそれがあります。

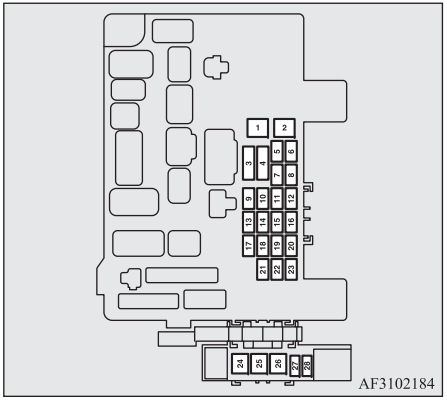
アドバイス

- ヒューズを交換しても再び切れるときは、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。
- ヒューズが正常で該当する装備が作動しないときは、他の原因が考えられます。すみやかに三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

各ヒューズの受け持つ装備および容量

J10702000143

室内



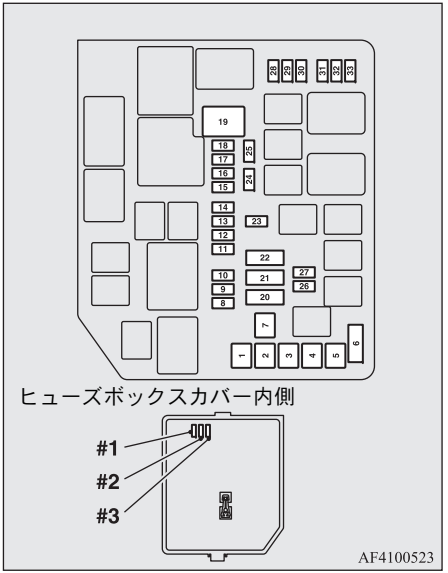
NO.	表示	装備	容量
1		パワーウインドウ	30A
2		デフォッガー	30A
3		ヒーター	30A
4		フロントワイパー	30A
5		ドアロック	25A
6	—	—	—

NO.	表示	装備	容量
7		アクセサリーソケット (DC12V)	15A
8		リヤワイパー	15A
9	—	—	—
10		イグニションスイッチ	10A
11		オプション	10A
12		非常点滅灯	15A
13		4WD	10A
14	STOP	制動灯（ブレーキランプ）	15A
15		メーター	10A
16		SRS エアバッグ	7.5A
17	—	—	—
18		コントロールユニットリレー	7.5A
19		室内灯（ルームランプ）	15A
20		LED バックランプ	7.5A
21		ヒーテッドドアミラー	7.5A
22		ドアミラー	10A

NO.	表示	装備	容量
23		アクセサリーソケット（DC12V）	15A
24		リヤエアコン	30A
25	PTC	スタートアップヒーター（リヤ）	30A
26	PTC	スタートアップヒーター（リヤ）	40A
27		電動スライドドア（左）	30A
28		電動スライドドア（右）	30A

- 装備仕様の違いにより、ヒューズはない場合もあります。
- 上記の表は、各ヒューズの受け持つ主な装備を表しています。

エンジンルーム内



NO.	表示	装備	容量
1		DC/DC	30A
2	—	—	—
3	ABS	ABS	40A
4	ABS	ABS	50A
5		運転席パワーシート	30A

NO.	表示	装備	容量
6		シートヒーター	30A
7		スターター	30A
8		ステアリング ヒーター	15A
9		バッテリー センサー	7.5A
10		セキュリティ ホーン	20A
11	—	—	—
12		ホーン	10A
13		AC パワー サプライ	15A
14		フロント フォグランプ	15A
15	—	—	—
16		エアコン	10A
17		エンジンコント ロールユニット	7.5A
18	—	—	—
19		ラジエーター ファン	40A
20		エレクトリック テールゲート	30A
21		尿素 SCR	30A

NO.	表示	装備	容量
22	IOD	IOD	30A
23		エアコン コンデンサー ファンモーター	30A
24		レーダークルー ズコントロール システム [ACC]	7.5A
25		後側方車両検知 警報システム [BSW]	5A
26		ヘッドライト （上向き）（右）	10A
27		ヘッドライト （上向き）（左）	10A
28		ディーゼル	20A
29		ENG/POWER	25A
30		フューエル ポンプ	15A
31		ENG/POWER	10A
32	—	—	—
33		NOx センサー	10A
#1	—	スペアヒューズ	10A
#2	—	スペアヒューズ	15A
#3	—	スペアヒューズ	20A

- 装備仕様の違いにより、ヒューズはない場合もあります。
- 上記の表は、各ヒューズの受け持つ主な装備を表しています。

7.5A、25A、30A のスペアヒューズはありません。ヒューズが切れたときは、次のヒューズで代用してください。
7.5A:10A スペアヒューズ
25A:20A スペアヒューズ
30A:30A エレクトリックテールゲートヒューズ
代用したときはなるべく早く正規容量のヒューズを補給してください。

バルブ（電球）が切れたとき

J10701400023

ヒューズが切れていないのにランプが点灯しないときは、バルブ（電球）が切れているときがあります。
バルブ（電球）を点検し、切れているときは各バルブの交換要領に従って交換してください。

バルブ（電球）の位置・W（ワット）数

J10702100027

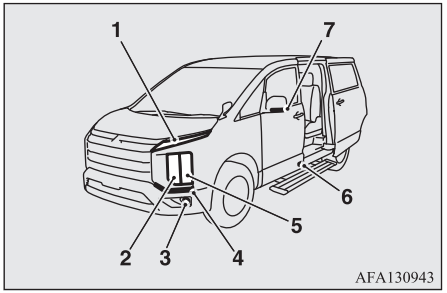
⚠注意

- バルブを交換するときは、必ず同じバルブ型式、同じ W（ワット）数、同じバルブ色の物を使用してください。
  異なるバルブを装着すると、点灯しないなどの故障や車両火災の原因につながるおそれがあります。

車外照明

J10702200099

■フロント



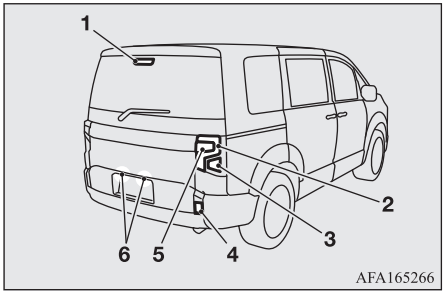
1	車幅灯	—
2	LED ヘッドライト（ハイビーム）	—
3	フロントフォグランプ	—
4	方向指示灯／非常点滅灯（フロント）	21W (WY21W)
5	LED ヘッドライト（ロービーム）	—
6	LED ステップ照明 タイプ別装備	—
7	方向指示灯／非常点滅灯（サイド）	—

- W（ワット）数下の（ ）内はバルブ（電球）の型式を示しています。

アドバイス

- 次のランプはバルブ（電球）ではなく LED を使用しています。
  修理・交換は三菱自動車販売会社にご相談ください。
  - 車幅灯
  - LED ヘッドライト
  - フロントフォグランプ
  - LED ステップ照明
  - 方向指示灯／非常点滅灯（サイド）

■リヤ



1	ハイマウントストップランプ	—
2	尾灯	—
3	制動灯	21W (P21W)
4	LED バックランプ	—
5	方向指示灯／非常点滅灯（リヤ）	21W (PY21W)
6	番号灯	5W(W5W)

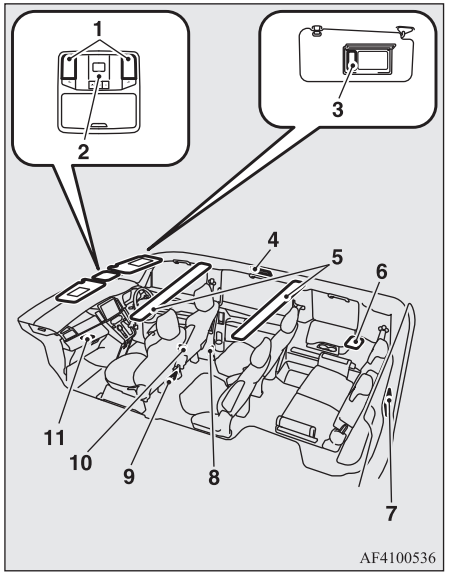
- W（ワット）数下の（ ）内はバルブ（電球）の型式を示しています。

アドバイス

- 次のランプはバルブ（電球）ではなく LED を使用しています。
  修理・交換は三菱自動車販売会社にご相談ください。
  - ハイマウントストップランプ
  - 尾灯
  - LED バックランプ

車内照明

J10702300045



1	ルーム＆マップランプ	10W
2	ダウンライト	—
3	バニティミラーランプ	2W
4	リヤパーソナルランプ	8W
5	リラックスルームイルミネーション（天井）タイプ別装備	—
6	ルームランプ（リヤ）	8W
7	ラゲッジルームランプ	5W
8	スライドドアステップランプ	—
9	リラックスルームイルミネーション（フロアコンソールボックス）	—
10	ドアコーテシーランプ	3.4W
11	グローブボックスランプ	1.4W

アドバイス

- 次のランプはバルブ（電球）ではなく LED を使用しています。
  修理・交換は三菱自動車販売会社にご相談ください。
  - ダウンライト
  - リラックスルームイルミネーション（天井）

アドバイス

- スライドドアステップランプ
- リラックスルームイルミネーション（フロアコンソールボックス）

バルブ（電球）の交換

J10702400091

ここでは主なバルブ（電球）の交換方法を記載しています。記載されていないバルブの交換については、三菱自動車販売会社にご相談ください。

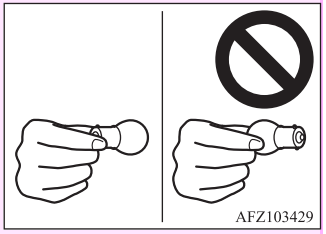
1. 該当するランプを消灯させ、エンジンスイッチの電源モードを OFF にします。
   →「ライトスイッチ」P.4-78
   →「非常点滅灯スイッチ」P.4-83
2. 該当するランプの W（ワット）数を確認します。
   →「バルブ（電球）の位置・W（ワット）数」P.7-34
3. 各ランプの交換要領に従ってバルブを交換します。

⚠注意

- 消灯直後はバルブの表面が高温になっているため、やけどをするおそれがあります。
  バルブの表面が十分冷えてから交換してください。

⚠注意

- バルブは、バルブ内の圧力が高いため、落としたり、物をぶつけたり、傷をつけると破損して飛び散るおそれがありますので十分注意してください。
- バルブの表面に触れないでください。
  点灯中はバルブの表面が高温になるため、油などが付着すると、点灯したときの熱で破損するおそれがあります。
  バルブの表面に触れたときは、柔らかい布に中性洗剤を薄めた水溶液を含ませて、油を拭き取ってください。



- 市販のLEDバルブを取り付けないでください。
  走行装置やランプが正常に動作しなくなるなど、車両に悪影響をおよぼすおそれがあります。

アドバイス

- ランプ本体やレンズを外すときは、車体を傷つけないよう十分注意してください。
- バルブを交換した後は、ランプが正しく点灯するか確認してください。

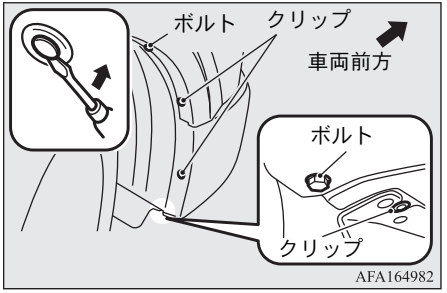
アドバイス

- ヘッドライトや制動灯などの車外照明は、雨の日や洗車後などに、レンズ内側が曇ることがあります。
  これは湿気が多い日などに窓ガラスが曇るのと同様の現象で、機能上の問題はありません。
  ランプを点灯すると熱で曇りは取れます。ただし、ランプ内に水がたまっているときは、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

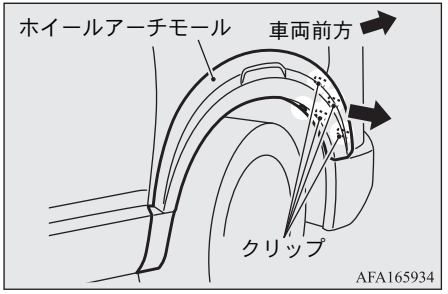
方向指示灯（フロント）

J10702600064

1. 交換したいバルブの反対方向側にハンドルをいっぱいに回して作業スペースを作ります。
2. クリップ（3 箇所）およびボルト（2 箇所）を外します。



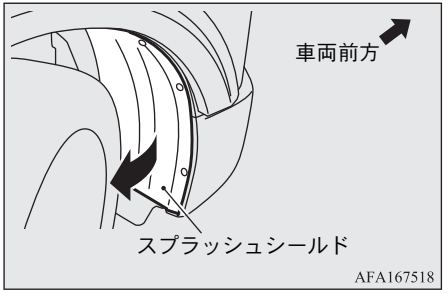
3. ホイールアーチモールを車両側方に引いてクリップ（4 箇所）を外します。



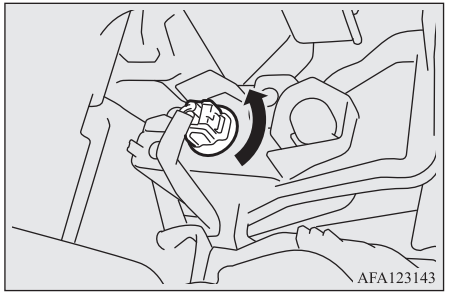
⚠注意

- クリップ（4 箇所）を外したら、それ以上ホイールアーチモールを引かないでください。ホイールアーチモールが破損するおそれがあります。

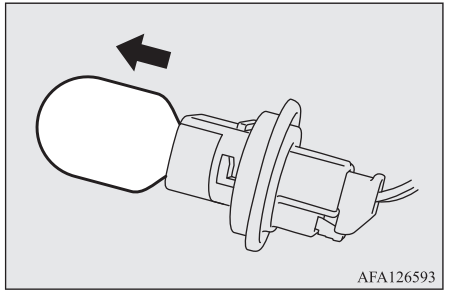
4. スプラッシュシールドをめくります。



5. ソケットを反時計回りに回して外します。



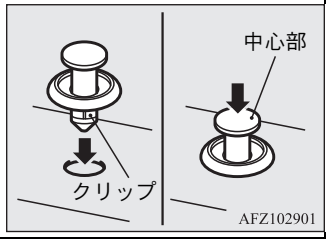
6. ソケットをバルブから引き抜きます。



7. 取り付けるときは、取り外したときと逆の手順で行います。

アドバイス

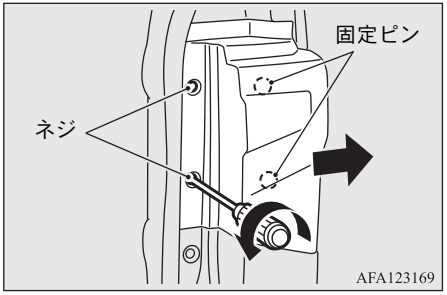
- クリップを固定するときは、初めにクリップを取り付け穴に差し込み、その後でクリップの中心部を押し込みます。



リヤコンビネーションランプ

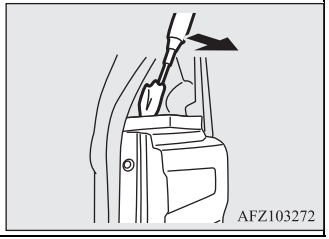
J10702800040

1. テールゲートを開きます。
→「テールゲート」P.3-37
2. ネジ（2 箇所）を取り外した後、ランプユニットを手前に引いて、ランプ裏側にある固定ピン（2 箇所）を外します。

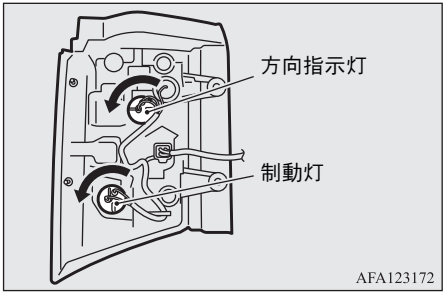


アドバイス

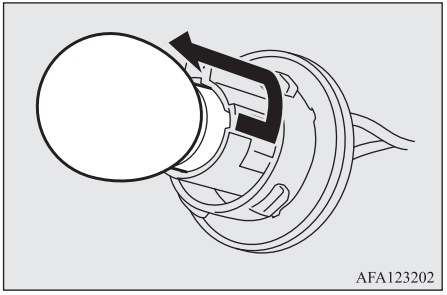
- 先端に布をかぶせたマイナスドライバーなどをランプユニットのすき間に差し込み、一番上の固定ピンを外してから、ランプユニットを斜め上に引くと、ランプユニットが取り外しやすくなります。



3. 交換したいバルブのソケットを反時計回りに回して外します。



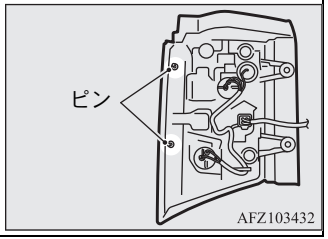
4. 交換したいバルブを押しながら反時計回りに回してソケットから引き抜きます。



5. 取り付けるときは、取り外したときと逆の手順で行います。

アドバイス

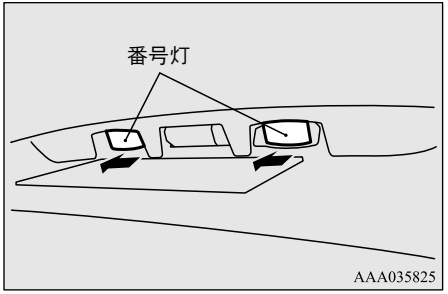
- ランプ本体を取り付ける際はランプ本体のピン（2 箇所）を車体側の穴に合わせ、取り付けます。



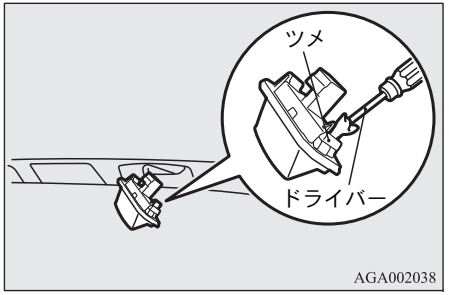
番号灯

J10703000049

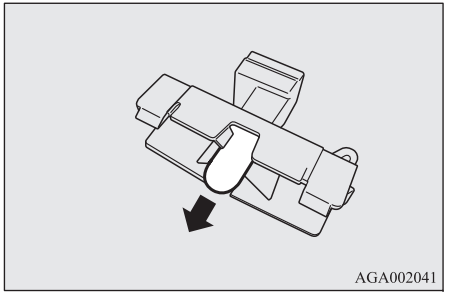
1. ランプ本体を車体左側へ押しながら外します。



2. 先端に布をかぶせたマイナスドライバーなどを利用して、ツメをこじてレンズを外します。



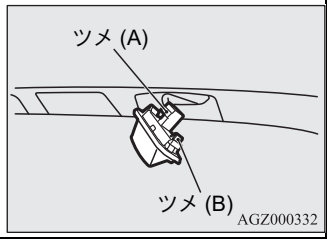
3. ソケットからバルブを引き抜きます。



4. 取り付けるときは、取り外したときと逆の手順で行います。

アドバイス

- ランプ本体を取り付けるときは、ツメ (A) を先に入れ、ツメ（B）を後で合わせて取り付けます。



けん引するとき

J10701500082

けん引はできるだけ JAF など専門業者に依頼してください。

次の場合は、三菱自動車販売会社にご連絡ください。

- エンジンが回っているのに車が動かない。または異音がする。
- 下まわりを点検し、オイルなどが漏れている。

また、車輪が溝などに落ちたときは無理にけん引せず、三菱自動車販売会社または JAF など専門業者に依頼してください。

アドバイス

- JAF の営業所は別冊の「メンテナンスノート」をお読みください。

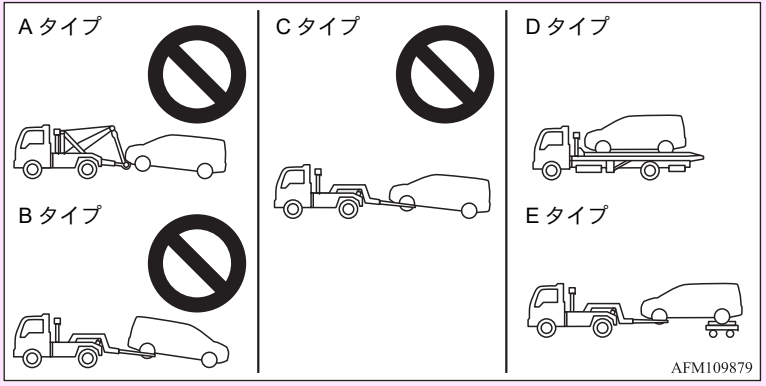
レッカー車に搬送してもらうとき

⚠注意

- 車体吊り上げ式のレッカー車でけん引しないでください（A タイプ）。
  バンパーや車体が破損するおそれがあります。

⚠注意

- 必ず 4 輪を持ち上げてレッカー車で搬送してください（D、E タイプ）。
  前輪または後輪だけを持ち上げたけん引を行うと、駆動系部品が損傷したり、車がレッカー（台車）から飛び出すおそれがあります（B、C タイプ）。



- ドライブモードを「ECO」モードにしても、前輪または後輪だけを持ち上げたけん引はできません。
  →「S-AWC ドライブモードセレクター（ダイヤル）」P.4-26

7

他車にけん引してもらうとき

J10701800131

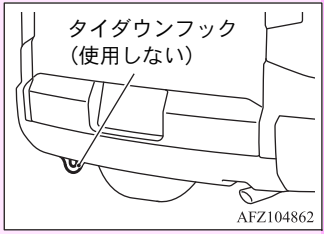
やむを得ず他車にロープでけん引してもらうときは、次の要領で行ってください。

⚠注意

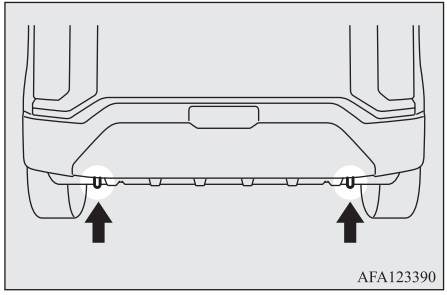
- けん引ロープは必ずフロント側のけん引フックに掛けてください。リヤ側にはけん引フックはありません。

⚠注意

- リヤ側のタイダウンフックは、車両を輸送するときに使用するものです。けん引には使用しないでください。けん引フック以外にけん引ロープを掛けると、車両が破損することがあります。



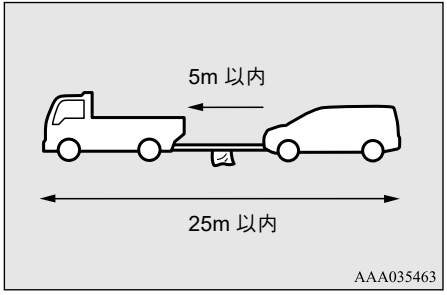
1. けん引ロープをけん引フックに掛けます。



アドバイス

- ワイヤーロープや金属製のチェーンなどを使用すると、車体を傷つけるおそれがあります。ソフトロープを使用するか、車体に当たる部分のチェーンに布を巻くなどしてけん引してください。
- けん引ロープは、三菱自動車販売会社でお買い求めください。
- けん引ロープは水平にしてけん引してください。水平でない位置に掛けると、車体を傷つけるおそれがあります。
- けん引ロープはできるだけ同じ側のフックに掛けて、斜めけん引とならないようにしてください。

2. けん引ロープには、30cm 平方（30cm × 30cm）以上の白い布を必ず付けてください。



3. エンジンはできるだけかけておいてください。

エンジンがかからないときは、ハンドルがロックされないようにするために、エンジンスイッチの電源モードを ON にします。

⚠警告

- エンジンが止まっているとブレーキの効きが非常に悪くなります。また、ハンドル操作が非常に重くなります。
- エンジンスイッチの電源モードを ON にしておかないと、ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、事故につながるおそれがあります。

⚠注意

- けん引時の思わぬ事故や予期しない作動を防ぐため、衝突被害軽減ブレーキシステム [FCM]、誤発進抑制機能（前進＆後退時）、レーダークルーズコントロールシステム [ACC] および後側方車両検知警報システム（レーンチェンジアシスト機能付）[BSW/LCA]（タイプ別装備）は、OFF にしてください。
  →「衝突被害軽減ブレーキシステム [FCM]」P.4-92
  →「誤発進抑制機能（前進＆後退時）」P.4-102
  →「レーダークルーズコントロールシステム [ACC]」P.4-110
  →「後側方車両検知警報システム（レーンチェンジアシスト機能付）[BSW/LCA]」P.4-131

アドバイス

- エンジンが自動的に停止することがないように、けん引される前に AS&G OFF スイッチを押して、AS&G を停止してください。
  →「AS&G を非作動にするには」P.4-159

4. セレクターレバーをⓃに入れます。
5. 後続車に注意を促すため、けん引される車は非常点滅灯を点滅させます。
   →「非常点滅灯スイッチ」P.4-83

⚠警告

- 急ブレーキ、急発進、急旋回など、けん引フックやけん引ロープに大きな衝撃が加わるような運転は避けてください。けん引フックやけん引ロープが破損するおそれがあります。万一の場合、その破片が周囲の人などに当たり重大な傷害をおよぼすおそれがあります。
- 長い下り坂ではブレーキが過熱して、効きが悪くなるおそれがあります。レッカー車に搬送してもらってください。

⚠注意

- けん引される車は、けん引車のブレーキランプに注意して、常にけん引ロープをたるませないようにしてください。

⚠注意

- 安全のためにけん引するときの速度は 30km/h 以下、けん引する距離は 40km 以内にしてください。この速度、距離を超えるとトランスミッションの故障の原因になります。

他車のけん引

J10701900086

アドバイス

- この車で他車をけん引することはできません。

水没したとき

J10704800057

万一、車両が水没したときには、次の通り対処してください。

- 落ち着いてシートベルトを外してください。
- ドアを開けられるかどうか試してください。ドアが開いたら車外に出てください。
- ドアが開かないときは、パワーウインドウスイッチでドアガラスを開けて、窓から車外へ出てください。
- パワーウインドウスイッチでドアガラスを開けることができないときは、緊急脱出用ハンマーでドアガラスを割って、窓から車外へ出てください。
- 緊急脱出用ハンマーでドアガラスを割れないときは、車内外の水圧差がなくなるまで浸水するのを待ち、ドアを開けて車外に出てください。

⚠警告

- 着座位置、乗員の体格などによっては、窓から車外へ脱出できないことがあります。
- フロントガラスは合わせガラスのため、緊急脱出用ハンマーで割ることはできません。リヤドア・テールゲート（バックドア）のガラスは強化ガラスのため、ハンマーで割ることができます。

⚠警告

- フロントドアガラスは合わせガラスの場合と、強化ガラスの場合がありますので、事前に確認しておいてください。

  合わせガラスの見分け方：
  ガラス断面を上から見たとき、3 層構造になっているのが合わせガラスです。



アドバイス

- 緊急脱出用ハンマーは標準装備されておりません。三菱自動車販売会社でお買い求めください。使い方は緊急脱出用ハンマーに添付の取扱説明書に従ってください。

サービスデータ

お車の仕様

メンテナンスデータ 8-2
タイヤ、ホイール 8-8
車両データの記録について 8-10

機能の設定変更

カスタマイズ（機能の設定変更）.....8-11
電波認証 8-20
ソフトウェア 8-20

メンテナンスデータ

J10800100024

- 日常点検、定期点検の内容およびエンジンオイルなど油脂類の交換時期については、別冊の「メンテナンスノート」に詳しく記載してありますのでお読みください。
- 車両寸法（全長、全幅、全高）、車両重量、エンジン型式、排気量については車載の「自動車検査証」をお読みください。

燃料の量と種類

J10800400043

容量	使用燃料
約 64L	軽油

⚠注意

- ガソリン、粗悪軽油、混合率が 7%を超えるバイオディーゼル燃料、アルコール系燃料、水分除去剤、三菱自動車純正以外の軽油添加剤を使用したり、水やその他の油脂類（薬品類）が混入すると次のような状態になるおそれがあります。
  - エンジンの始動性悪化
  - ノッキングの発生
  - エンジンの出力低下
  - 排気制御システムの機能不良
  - 燃料系部品の損傷による燃料漏れ
  - 白煙の発生
  - 噴射系部品の損傷

8

尿素水の量と種類

J10801500041

容量	使用銘柄
約 16L	AdBlue®

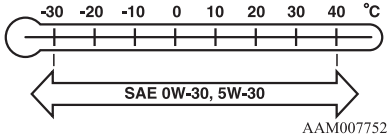
AdBlue® はドイツ自動車工業会（VDA）の登録商標です。

⚠注意

- お車を長期間運転しなかった場合は、尿素水 (AdBlue®) が劣化しているおそれがあります。運転再開前に三菱自動車販売会社にご相談ください。
- 尿素水 (AdBlue®) は三菱自動車販売会社で補給してください。
- AdBlue® 以外の尿素水を補給したり、水やその他の油脂類（薬品類）が混入すると、尿素 SCR システムが損傷する原因となります。

エンジンオイルの量と種類

J10800500161

<table>
<tr><th>項目</th><th>容量</th><th>規格／粘度番号</th><th>三菱自動車純正銘柄</th></tr>
<tr>
<td>エンジンオイル</td>
<td>約 5.9L
（オイルフィルター内約 0.3L、オイルクーラー内約 0.1L を含む）</td>
<td>
<table>
<tr><th>JASO 規格</th><th>SAE 粘度番号</th></tr>
<tr><td rowspan="2">DL-1</td><td>0W-30</td></tr>
<tr><td>5W-30</td></tr>
</table>
● エンジンオイルは外気温に応じた粘度のものを使用してください。


</td>
<td>ダイヤクイーン ディーゼル DL-1</td>
</tr>
</table>

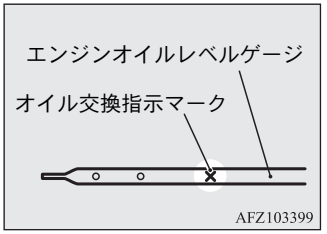
⚠注意

- 表中の JASO 規格および SAE 粘度番号のエンジンオイルを使用してください。規格外のオイルを使用すると、ディーゼルパティキュレートフィルター [DPF] の劣化が早くなります。

8

アドバイス

- 三菱自動車純正銘柄のエンジンオイルの使用をおすすめします。
- 0W-30 は表中の使用銘柄の中では、最も省燃費性に優れたオイルです。
- エンジンオイルの量を点検する場合は、エンジンオイルレベルゲージの表裏の面でエンジンオイルレベルが低い側を確認するようにしてください。
- DPF に集めたすすを燃焼・除去するとき、エンジンオイルに燃料が混ざり、エンジンオイル量が増えることがありますが異常ではありません。ただし、エンジンオイルレベルゲージのオイル交換指示マークに達した場合は、オイルを交換してください。



- 悪路や山道、登降坂路の走行、短距離走行の繰り返しなど厳しい条件（シビアコンディション）での走行は通常走行と比べてエンジンオイルの劣化が早くなります。このような使われ方をしたときは通常より早めに交換してください。

オイル類の量と種類

J10800600045

項目	容量	使用銘柄
オートマチックトランスミッションオイル	約 7.6L	三菱自動車純正 ATF-MA1

⚠注意

- オートマチックトランスミッションオイルは、指定の純正 ATF を必ずご使用ください。それ以外のオイルを使用すると、トランスミッションが破損するおそれがあります。

項目	容量	使用銘柄
リヤディファレンシャルオイル	約 0.4L	三菱自動車純正 スーパーハイポイドギヤオイル SAE80 （GL-5）
トランスファーオイル	約 0.5L	三菱自動車純正 スーパーハイポイドギヤオイル SAE80 （GL-5）
ブレーキ液	所要	三菱自動車純正 ブレーキフルードスーパー 4（DOT4）

冷却水の量と種類

J10800700046

項目	容量	使用銘柄
冷却水	約 8.0L*	三菱自動車純正 スーパーロングライフクーラントプレミアム

*: コンデンスタンク内約 0.56L を含む

ウォッシャー液の量と種類

J10800800047

項目	容量	使用銘柄
ウォッシャー液	約 3.5L	三菱自動車純正ウォッシャー液

バッテリーの種類

J10800900080

型式
T-110*

*：お客様のお車には、エンジンの始動回数増加に対応するために、耐久寿命を向上したオートストップ & ゴー [AS&G] 車専用のバッテリーが搭載されています。
三菱自動車純正以外のバッテリーを使用すると、バッテリーの早期劣化や、AS&G が正常に作動しなくなる原因となり、最悪の場合には、エンジンが再始動しなくなるおそれがありますので、お車との適合性を確認済みの、三菱自動車純正品を使用してください。詳しくは三菱自動車販売会社にご相談ください。

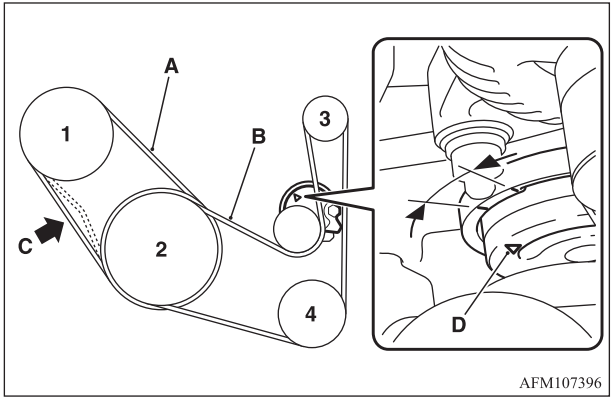
⚠警告

- バッテリーの＋端子と－端子を間違えないように取り付けてください。
- バッテリーを取り付けるときは、＋端子から先に接続してください。－端子から先に接続した場合、万一、＋端子が他部品に接触すると火花が発生し、バッテリーが爆発するおそれがあります。

整備基準値

J10801100089

項目	サービスデータ	
ブレーキペダル	遊び	3 ～ 8mm
	踏み込んだときの床板とのすき間（踏力約 500N｛約 50kgf｝）	105mm 以上

<table>
<tr><th>項目</th><th colspan="2">サービスデータ</th></tr>
<tr><td rowspan="3">ベルトのたわみ量</td><td colspan="2">

1. ウォーターポンププーリー
2. クランクシャフトプーリー
3. オルタネータープーリー
4. エアコンコンプレッサープーリー</td></tr>
<tr><td>ベルト (A)</td><td>22mm 以下
（ベルトの中央部（C）を約 100N｛約 10kgf｝の力で押す。）</td></tr>
<tr><td>ベルト (B)</td><td>インジケーター（D）が範囲内にあること</td></tr>
</table>

タイヤ、ホイール

J10800200113

タイヤ、ホイールを交換するときは、次のことをお守りください。

- 4 輪とも同時に交換してください。
- 指定サイズのタイヤ、ホイールを装着してください。
- タイヤ、ホイールを交換する際は、三菱自動車販売会社にご相談ください。

⚠注意

- 指定サイズ以外のタイヤを使用したり、種類の異なったタイヤを混ぜて使用することは、安全走行に悪影響をおよぼしますので、避けてください。
- 4WD 車は 4 輪に駆動力がかかるため、必ず同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤを使用してください。サイズ、種類、銘柄や摩耗度合の異なるタイヤを使用すると、駆動系部品に無理がかかり、オイル漏れや焼き付きなどの重大な故障となり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ホイールは、リムサイズやオフセット（インセット）量が同じでも、車体に干渉するため使えない場合があります。

タイヤ、ホイールのサイズ

J10801200064

タイヤ	ホイール
225/55R18 98H	18 × 7J（38mm）〔114.3mm〕5 穴

（ ）内は、オフセット（インセット）量（ホイールの取り付け面とリムの中心との距離）
〔 〕内は、PCD（ホイール取り付け穴のピッチ円直径）
冬用タイヤなどについても表中のサイズの物をご使用ください。
お客様のお車との組み合わせは、三菱自動車販売会社にお問い合わせください。

タイヤの空気圧

J10801300078

タイヤサイズ		空気圧（kPa {kgf/cm²}）
標準タイヤ	225/55R18 98H	240 {2.4}

車両データの記録について

J10801800060

三菱車には、車両を制御するためコンピューターが複数装備されており、車両の制御や操作に関するデータなどを記録しています。

記録されるデータ

- エンジン／電気モーター回転数や車速など、車両の状態
- アクセルペダル／ブレーキペダルなどの操作状況
- 車両運転時の環境情報
- 各車載コンピューターの制御に関する情報
- 各車載コンピューターの故障診断情報

記録されるデータの項目は、車両型式、グレードやオプションなどにより異なります。また、使用条件などにより、データが記録されない場合もあります。
なお、コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

データの取り扱いについて

三菱自動車および三菱自動車が委託した第三者は、コンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・品質の向上・研究開発を目的として取得・利用することがあります。
なお、次の場合を除き、取得したデータを前述以外の第三者へ開示または提供することはありません。

- 車両の当該データ記録時の使用者の同意がある場合
- 警察／裁判所／政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

カスタマイズ（機能の設定変更）

J10800300130

次の機能をお好みの設定に変更することができます。
詳しくは三菱自動車販売会社にご相談ください。

装備	調整機能	設定項目	出荷時の設定
キーレスオペレーションシステム	キーレスオペレーションシステムでできる操作 →P.3-5	全機能	○
		ドアおよびテールゲートの施錠・解錠機能のみ	
		エンジンスタート機能のみ	
		全機能を働かなくする	
	施錠後のテールゲート OPEN スイッチによる解錠禁止時間 →P.3-9	約 3 秒	○
		約 5 秒	
		なし	
	キーレスオペレーションキーのスイッチまたはキーレスオペレーション機能で解錠した後、自動的に施錠されるまでの時間 →P.3-2、3-9	約 30 秒	○
		約 60 秒	
		約 120 秒	
		約 180 秒	

8

装備	調整機能	設定項目	出荷時の設定
キーレスオペレーションシステム	キーレスオペレーションキーのスイッチまたはキーレスオペレーション機能で施錠・解錠したときの非常点滅灯による作動確認 →P.3-2、3-9	施錠時 :1 回点滅 解錠時 :2 回点滅	○
		施錠時 :1 回点滅 解錠時 : 点滅しない	
		施錠時 : 点滅しない 解錠時 :2 回点滅	
		施錠時 :2 回点滅 解錠時 :1 回点滅	
		施錠時 :2 回点滅 解錠時 : 点滅しない	
		施錠時 : 点滅しない 解錠時 :1 回点滅	
		点滅しない	
	キーレスオペレーション機能で施錠・解錠したときの作動確認ブザーの有無 →P.3-9	あり	○
		なし	
	キーレスオペレーションキーのスイッチで施錠・解錠したときの作動確認ブザーの有無 →P.3-2	あり	
		なし	○

装備	調整機能	設定項目	出荷時の設定
キーレスオペレーションシステム	ドアを開けずに窓からキーレスオペレーションキーを持ち出したときのキーレスオペレーションキー持ち出し監視機構の作動 *1 →P.3-12	作動する	
		作動しない	○
	車外ブザーの音量	大	
		中	○
		小	

*1：ドアを開閉してキーレスオペレーションキーを車内から持ち出したときの監視機構は、作動しないように変更することはできません。

装備	調整機能	設定項目	出荷時の設定
セキュリティアラーム *2	システムの設定 →P.2-39	警報作動する	
		警報作動しない	○
	車内警報時間 →P.2-44	10 秒	○
		6 秒	

*2 : お客様自身でもカスタマイズ（機能の設定変更）可能です。
→「セキュリティアラームの設定変更のしかた」P.2-41

装備	調整機能	設定項目	出荷時の設定
集中ドアロック	セレクターレバーを使って解錠 *3 電源モードが ON のときにセレクターレバーを Ⓟに入れる →P.3-17	解錠する	○
		パワーウインドウのロックスイッチが OFF のときのみ解錠する	
		解錠しない	
	エンジンスイッチを使って解錠 *3 電源モードを OFF にする →P.3-17	解錠する	
		パワーウインドウのロックスイッチが OFF のときのみ解錠する	
		解錠しない	○
	車速が約 20km/h 以上で自動的にドアを施錠 →P.3-17	施錠する	○
		施錠しない	

*3 : セレクターレバーを使って解錠する機能と、エンジンスイッチを使って解錠する機能のいずれかを設定することができます。

装備	調整機能	設定項目	出荷時の設定
ヘッドライト	ヘッドライトオートカット機能（自動消灯） →P.4-80	作動する	○
		作動しない	
	ウェルカムライトとして点灯させるライト →P.4-81	車幅灯点灯	○
		車幅灯および ヘッドライト（ロービーム）点灯	
		点灯しない	
	カミングホームライトとしてヘッドライトが点灯する時間 →P.4-82	約 15 秒	
		約 30 秒	○
		約 60 秒	
		約 180 秒	
		機能を働かなくする	
方向指示灯	車線変更時の 3 回点滅機能 →P.4-83	作動する	○
		作動しない	
	車線変更時の 3 回点滅機能が作動するまでのレバー操作時間 →P.4-83	短い	○
		長い	
	方向指示灯が作動する電源モードの状態 →P.4-83	ON	○
		ON または ACC	
フロントワイパー	自動作動 →P.4-84	雨滴感応	○
		車速感応	
		なし	
		約 4 秒	

装備	調整機能	設定項目	出荷時の設定
リヤワイパー	間欠作動時間 →P.4-87	約 8 秒	○
		約 4 秒 *4	
		約 16 秒 *4	
		連続作動にする	
	セレクターレバーをⓇに入れたときの自動作動モードの作動条件 →P.4-87	フロントワイパーまたはリヤワイパーが作動中	○
		リヤワイパーがINT 位置で作動中のみ	
	リヤワイパーの連続作動モード →P.4-87	作動する	○
		作動しない	

*4 : 連続作動モードあり
→「リヤワイパー／ウォッシャースイッチ」P.4-87

装備	調整機能	設定項目		出荷時の設定
フロントウォッシャー	ウォッシャー液を噴射させたときのワイパー作動 *5 →P.4-87	連動する	ワイパーが連動作動し、さらに約 6 秒後にワイパーがもう 1 回作動する	○
			ワイパー連動作動のみ	
		連動しない		
	インテリジェントウォッシャー機能 →P.4-87	あり		○
		なし		

装備	調整機能	設定項目	出荷時の設定
リヤウォッシャー	ウォッシャー液を噴射させたときのワイパー作動 *5 →P.4-87	連動する	○
		連動しない	

*5 : フロントウォッシャー・リヤウォッシャーの「連動する」「連動しない」の設定変更は、それぞれ単独で変更されず同時に変更されます。

装備	調整機能	設定項目	出荷時の設定
ドアミラー	自動格納・復帰の条件 →P.3-67	キーレスエントリーシステムまたはキーレスオペレーション機能に連動（LOCK で格納、UNLOCK で復帰）	○
		電源モードに連動（運転席ドアを閉めて ON で復帰、OFF または ACC で運転席ドアを開くと格納）	
		車速約 30km/h 以上で復帰	
		自動格納・復帰しない	

装備	調整機能	設定項目	出荷時の設定
エンジンスイッチ・電源モード	電源モードが ACC のときに自動的に電源をカットする機能 →P.4-4	30 分後にカットする	○
		60 分後にカットする	
		電源をカットしない	

装備	調整機能	設定項目	出荷時の設定
ルーム＆マップランプ ルームランプ（リヤ）	すべてのドアおよびテールゲートを閉じたときに消灯するまでの時間（遅延消灯） →P.5-22	約 7.5 秒	
		約 15 秒	○
		約 30 秒	
		約 60 秒	
		約 120 秒	
		約 180 秒	
		遅延消灯機能を働かなくする	
室内灯	点灯し続けたとき、自動的に消灯するまでの時間（自動消灯） →P.5-27	約 30 分	○
		時間を短くする	
		時間を長くする	
		自動消灯機能を働かなくする	

装備	調整機能	設定項目	出荷時の設定
エアコン	内外気切り換えの自動制御 *6 →P.5-12	許可	○
		拒否	
	A/C スイッチの自動制御 *6 → P.5-12	許可	○
		拒否	
	設定温度調整 →P.5-9、5-12	設定温度表示より上げる	
		設定温度表示通り	○
		設定温度表示より下げる	
	ECO モードのときのエアコンの ECO 制御 →P.5-12	作動する	○
		作動しない	
	吹き出し口が のときの足元とウインドウガラスへの風量割合 →P.5-5、5-12	標準	○
		足元に多く送風	
		ウインドウガラスに多く送風	
	吹き出し口が のときの足元と上半身への風量割合 →P.5-5、5-12	標準	○
		足元に多く送風	
		上半身に多く送風	

*6：お客様自身でもカスタマイズ（機能の設定変更）可能です。
→「内外気切り換え・A/C スイッチのカスタマイズ（機能の設定変更）」P.5-13

装備	調整機能	設定項目	出荷時の設定
リヤデフォッガー（曇り取り）スイッチ	外気温が低いとき、エンジン始動時に自動的にリヤデフォッガーとヒーテッドドアミラーを ON にする機能 →P.3-67、4-88、5-12	作動する	
		作動しない	○

電波認証

J10801900032

フロントレーダーセンサー

J10802000027



R 219 -220001

本製品は、電波法に基づく特定無線設備の技術基準適合証明などを受けております。認証番号:
219-220001
本製品の改造は禁止されています。(適合証明番号などが無効となります。)

サイドレーダーセンサー

J10802100028



R 219 -230007

本製品は、電波法に基づく特定無線設備の技術基準適合証明などを受けております。認証番号:
219-230007
本製品の改造は禁止されています。(適合証明番号などが無効になります)

ソフトウェア

J10863700029

ソフトウェアに関する重要なお知らせ本製品のソフトウェアライセンスについて
This product includes open-source software components licensed under the Apache License, Version 2.0. We have made certain modifications to the original software.

Apache License
Version 2.0, January 2004
http://www.apache.org/licenses/

TERMS AND CONDITIONS FOR USE, REPRODUCTION, AND DISTRIBUTION

1. Definitions.

"License" shall mean the terms and conditions for use, reproduction, and distribution as defined by Sections 1 through 9 of this document.

"Licensor" shall mean the copyright owner or entity authorized by the copyright owner that is granting the License.

"Legal Entity" shall mean the union of the acting entity and all other entities that control, are controlled by, or are under common control with that entity. For the purposes of this definition, "control" means (i) the power, direct or indirect, to cause the direction or management of such entity, whether by contract or otherwise, or (ii) ownership of fifty percent (50%) or more of the outstanding shares, or (iii) beneficial ownership of such entity.

8

"You" (or "Your") shall mean an individual or Legal Entity exercising permissions granted by this License. "Source" form shall mean the preferred form for making modifications, including but not limited to software source code, documentation source, and configuration files.

"Object" form shall mean any form resulting from mechanical transformation or translation of a Source form, including but not limited to compiled object code, generated documentation, and conversions to other media types.

"Work" shall mean the work of authorship, whether in Source or Object form, made available under the License, as indicated by a copyright notice that is included in or attached to the work (an example is provided in the Appendix below).

"Derivative Works" shall mean any work, whether in Source or Object form, that is based on (or derived from) the Work and for which the editorial revisions, annotations, elaborations, or other modifications represent, as a whole, an original work of authorship. For the purposes of this License, Derivative Works shall not include works that remain separable from, or merely link (or bind by name) to the interfaces of, the Work and Derivative Works thereof.

"Contribution" shall mean any work of authorship, including the original version of the Work and any modifications or additions to that Work or Derivative Works thereof, that is intentionally submitted to Licensor for inclusion in the Work by the copyright owner or by an individual or Legal Entity authorized to submit on behalf of the copyright owner. For the purposes of this definition, "submitted" means any form of electronic, verbal, or written communication sent to the Licensor or its representatives, including but not limited to communication on electronic mailing lists, source code control systems, and issue tracking systems that are managed by, or on behalf of, the Licensor for the purpose of discussing and improving the Work, but excluding communication that is conspicuously marked or otherwise designated in writing by the copyright owner as "Not a Contribution."

"Contributor" shall mean Licensor and any individual or Legal Entity on behalf of whom a Contribution has been received by Licensor and subsequently incorporated within the Work.

2. Grant of Copyright License. Subject to the terms and conditions of this License, each Contributor hereby grants to You a perpetual, worldwide, non-exclusive, no-charge, royalty-free, irrevocable copyright license to reproduce, prepare Derivative Works of, publicly display, publicly perform, sublicense, and distribute the Work and such Derivative Works in Source or Object form.

3. Grant of Patent License. Subject to the terms and conditions of this License, each Contributor hereby grants to You a perpetual, worldwide, non-exclusive, no-charge, royalty-free, irrevocable (except as stated in this section) patent license to make, have made, use, offer to sell, sell, import, and otherwise transfer the Work, where such license applies only to those patent claims licensable by such Contributor that are necessarily infringed by their Contribution(s) alone or by combination of their Contribution(s) with the Work to which such Contribution(s) was submitted. If You institute patent litigation against any entity (including a cross-claim or counterclaim in a lawsuit) alleging that the Work or a Contribution incorporated within the Work constitutes direct or contributory patent infringement, then any patent licenses granted to You under this License for that Work shall terminate as of the date such litigation is filed.

4. Redistribution. You may reproduce and distribute copies of the Work or Derivative Works thereof in any medium, with or without modifications, and in Source or Object form, provided that You meet the following conditions:

(a) You must give any other recipients of the Work or Derivative Works a copy of this License; and

(b) You must cause any modified files to carry prominent notices stating that You changed the files; and

(c) You must retain, in the Source form of any Derivative Works that You distribute, all copyright, patent, trademark, and attribution notices from the Source form of the Work, excluding those notices that do not pertain to any part of the Derivative Works; and

(d) If the Work includes a "NOTICE" text file as part of its distribution, then any Derivative Works that You distribute must include a readable copy of the attribution notices contained within such NOTICE file, excluding those notices that do not pertain to any part of the Derivative Works, in at least one of the following places: within a NOTICE text file distributed as part of the Derivative Works; within the Source form or documentation, if provided along with the Derivative Works; or, within a display generated by the Derivative Works, if and wherever such third-party notices normally appear. The contents of the NOTICE file are for informational purposes only and do not modify the License. You may add Your own attribution notices within Derivative Works that You distribute, alongside or as an

addendum to the NOTICE text from the Work, provided that such additional attribution notices cannot be construed as modifying the License.

You may add Your own copyright statement to Your modifications and may provide additional or different license terms and conditions for use, reproduction, or distribution of Your modifications, or for any such Derivative Works as a whole, provided Your use, reproduction, and distribution of the Work otherwise complies with the conditions stated in this License.

5. Submission of Contributions. Unless You explicitly state otherwise, any Contribution intentionally submitted for inclusion in the Work by You to the Licensor shall be under the terms and conditions of this License, without any additional terms or conditions. Notwithstanding the above, nothing herein shall supersede or modify the terms of any separate license agreement you may have executed with Licensor regarding such Contributions.

6. Trademarks. This License does not grant permission to use the trade names, trademarks, service marks, or product names of the Licensor, except as required for reasonable and customary use in describing the origin of the Work and reproducing the content of the NOTICE file.

7. Disclaimer of Warranty. Unless required by applicable law or agreed to in writing, Licensor provides the Work (and each Contributor provides its Contributions) on an "AS IS" BASIS, WITHOUT WARRANTIES OR CONDITIONS OF ANY KIND, either express or implied, including, without limitation, any warranties or conditions of TITLE, NON-INFRINGEMENT, MERCHANTABILITY, or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. You are solely responsible for determining the appropriateness of using or redistributing the Work and assume any risks associated with Your exercise of permissions under this License.

8. Limitation of Liability. In no event and under no legal theory, whether in tort (including negligence), contract, or otherwise, unless required by applicable law (such as deliberate and grossly negligent acts) or agreed to in writing, shall any Contributor be liable to You for damages, including any direct, indirect, special, incidental, or consequential damages of any character arising as a result of this License or out of the use or inability to use the Work (including but not limited to damages for loss of goodwill, work stoppage, computer failure or malfunction, or any and all other commercial damages or losses), even if such Contributor has been advised of the possibility of such damages.

9. Accepting Warranty or Additional Liability. While redistributing the Work or Derivative Works thereof, You may choose to offer, and charge a fee for, acceptance of support, warranty, indemnity, or other liability obligations and/or rights consistent with this License. However, in accepting such obligations, You may act only on Your own behalf and on Your sole responsibility, not on behalf of any other Contributor, and only if You agree to indemnify, defend, and hold each Contributor harmless for any liability incurred by, or claims asserted against, such Contributor by reason of your accepting any such warranty or additional liability.

END OF TERMS AND CONDITIONS

APPENDIX: How to apply the Apache License to your work.

To apply the Apache License to your work, attach the following boilerplate notice, with the fields enclosed by brackets "[]" replaced with your own identifying information. (Don't include the brackets!) The text should be enclosed in the appropriate comment syntax for the file format. We also recommend that a file or class name and description of purpose be included on the same "printed page" as the copyright notice for easier identification within third-party archives.

Copyright [yyyy] [name of copyright owner]

Licensed under the Apache License, Version 2.0 (the "License"); you may not use this file except in compliance with the License. You may obtain a copy of the License at

http://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0

Unless required by applicable law or agreed to in writing, software distributed under the License is distributed on an "AS IS" BASIS, WITHOUT WARRANTIES OR CONDITIONS OF ANY KIND, either express or implied. See the License for the specific language governing permissions and limitations under the License.

A

ABS（アンチロックブレーキシステム）... 4-168
ABS 警告灯 4-169
ACC（レーダークルーズコントロールシステム）..... 4-110
AHB（オートマチックハイビーム） 4-127
AS&G 4-155
ASC OFF スイッチ（アクティブスタビリティコントロールOFF スイッチ） 4-160
ASC OFF 表示 4-161
ASC（アクティブスタビリティコントロール）..... 4-159
ASC作動表示 4-161
AYC（アクティブヨーコントロール）..... 4-25

B

BSW（後側方車両検知警報システム）..... 4-131

E

e-Assist..... 4-91
ECOランプ 4-47
EDR（イベントデータレコーダー）.. 2-45
EPS（電動パワーステアリング）... 4-170

F

FCM（衝突被害軽減ブレーキシステム）... 4-92

H

HDC（ヒルディセントコントロール）..... 4-166
HSA（ヒルスタートアシスト）..... 4-165

I

INT（ワイパー）..... 4-87
ISOFIXチャイルドシート..... 2-33

L

LCDN（先行車発進通知）..... 4-99
LDW（車線逸脱警報システム）..... 4-107
LEDステップ照明..... 3-33, 7-34
LEDバックランプ..... 7-34
LEDヘッドライト警告灯 4-81

M

MIST（ワイパー）..... 4-84
MOD（移動物検知機能）..... 4-152

R

RCTA（後退時交差車両検知警報システム）..... 4-135

S

S-AWC (Super-All Wheel Control) .. 4-25
SRSエアバッグ..... 2-18
SRS エアバッグ警告..... 2-23
SRS カーテンエアバッグ... 2-18, 2-21
SRS ニーエアバッグ..... 2-18, 2-21

U

USB
充電用 USB ポート..... 5-19

W

W（ワット）数..... 7-34, 7-35

ア

アームレスト（ひじ掛け）..... 3-51, 3-53
アクセサリーソケット(DC12V)..... 5-18
アクティブスタビリティコントロール [ASC]..... 4-159
アクティブヨーコントロール[AYC] 4-25
アシストグリップ..... 5-32

9

M 別冊の『メンテナンスノート』をお読みください。
S 車載の『自動車検査証』をご参照ください。

アルミホイール 6-13
アンチロックブレーキシステム[ABS] 4-168
ABS 警告灯 4-169
アンテナ 5-17
ガラスアンテナ 5-17

イ

ISOFIXチャイルドシート 2-33
移動物検知機能[MOD] 4-152
イベントデータレコーダー[EDR] ... 2-45
イモビライザー(盗難防止装置) 2-39
インテリアランプオートカット機能(自動消灯) 5-27
インテリアランプスイッチ 5-22
インパネロアボックス 5-29

ウ

ウインカー(方向指示レバー) 4-83
ウインドウガラスのお手入れ 6-12
ウェルカムライト 4-81
ウォッシャー
ウォッシャー液 8-5
ウォッシャー液の点検・補給 6-6
フロントウォッシャースイッチ.. 4-87
リヤウォッシャースイッチ 4-87
運転席＆助手席シートヒーター 3-52

エ

AYC(アクティブヨーコントロール) 4-25
エアコン
ウインドウガラスの曇りや霜を取りたいときは 5-8
エアコンのカスタマイズ（機能の設定変更) 5-12
エアコンの上手な使い方 5-2
クリーンエアフィルター 5-2
左右独立温度コントロール式フルオートエアコン 5-6
スタートアップヒーター (フロント) . 5-11
吹き出し口 5-3
リヤマニュアルクーラー／スタートアップヒーター (リヤ) 5-14
エアバッグ
運転席 SRS エアバッグ 2-18, 2-19
運転席 SRS ニーエアバッグ 2-18, 2-21
SRS エアバッグ 2-18
SRS エアバッグ警告 2-23
SRS カーテンエアバッグ ... 2-18, 2-21
助手席 SRS エアバッグ 2-18, 2-20
ABS 4-168
ASC 4-159
AS&G 4-155
ASC OFF表示 4-161
ASC作動表示 4-161
ACC電源オートカット機能 4-4
S-AWC (Super-All Wheel Control) .. 4-25
エマージェンシーキー 3-14
LEDバックランプ 7-34
エンジンオイル
エンジンオイルの補給 6-6
エンジンオイル量の点検・補給 ..... M, 8-3
エンジン型式 ..... S
エンジン警告灯 4-75
エンジンスイッチ 4-3
エンジンの始動･停止 4-5
エンジンフード(ボンネット) 6-4

オ

オートストップ＆ゴー[AS&G] 4-155
オートマチックトランスミッション
オートマチック車の運転のしかた 4-22
オートマチックトランスミッションオイル 8-4
スポーツモード 8A/T 4-16
セレクターレバー 4-18
パドルシフト 4-19

M 別冊の『メンテナンスノート』をお読みください。
S 車載の『自動車検査証』をご参照ください。

オートマチックハイビーム[AHB] . 4-127
オートライトコントロール 4-78
オーバーヒート 7-28
オイル..... 8-3
お手入れ
アルミホイール 6-13
ウインドウガラス 6-12
外装品 6-11
シートベルト..... 6-10
樹脂部品 6-13
洗車 6-11
電動サイドステップ..... 6-13
内装品 6-10
本革 6-10
ワイパー..... 6-13
ワックス..... 6-12

カ

外装品のお手入れ..... 6-11
カスタマイズ(機能の設定変更) 8-11
カミングホームライト 4-82
カメラスイッチ 4-146
ガラスアンテナ 5-17
環境保護のために守っていただきたいこと..... 6-4
寒冷時の取り扱い..... 2-36

キ

キー..... 3-2
エマージェンシーキー..... 3-14
キーナンバープレート..... 3-2
キーレスエントリーシステム 3-2
電池交換のしかた 3-5
キーレスオペレーションシステム..... 3-5
機能の設定変更(カスタマイズ) 8-11
給油
フューエルリッドの開けかた 4-89
給油するときは..... 4-90
緊急制動信号システム 4-162

ク

空気圧 6-8, 8-9
区間距離計(トリップメーター) 4-44
曇り取り
ウインドウガラスの曇り取り 5-8
リヤデフォッガースイッチ..... 4-88
クラクション(ホーンスイッチ) 4-89
クリープ現象 4-23
クリーンエアフィルター 5-2, 6-8
クルーズコントロール(自動定速走行装置) 4-124
グロー(予熱)スタート表示灯 4-74
グローブボックス..... 5-28
グローブボックスアンダートレイ .. 5-29

ケ

計器盤..... 4-30
スピードメーター 4-30
タコメーター..... 4-30
トリップメーター 4-44
警告
ABS 警告 4-169
シートベルト非着用警告システム 2-13
尿素 SCR システム警告 4-11
尿素水（AdBlue®）残量警告..... 4-11
警告灯..... 4-49, 4-74
ABS 警告灯 4-169
SRS エアバッグ警告灯 2-23
LED ヘッドライト警告灯 4-81
エンジン警告灯 4-75
充電警告灯 4-76
電動パーキングブレーキ警告灯 .. 4-75
尿素 SCR システム警告灯 4-11
尿素水（AdBlue®）残量警告灯 .. 4-11
プリテンショナー機構警告灯 2-18
ブレーキ警告灯 4-74
ブレーキシステム警告灯..... 4-75
油圧警告灯 4-76
警告表示
ASC 警告表示..... 4-161

M 別冊の『メンテナンスノート』をお読みください。
S 車載の『自動車検査証』をご参照ください。

エンジンオイル量警告表示..... 4-78
充電警告表示 4-77
DPF 警告表示..... 4-9
燃料残量警告表示 4-31
半ドア警告表示..... 4-44
フューエルフィルター警告表示.. 4-76
ブレーキ警告表示 4-76
油圧警告表示 4-77
軽油(燃料) 8-2
けん引 7-39

コ

交換
キーの電池 3-5
クリーンエアフィルター 6-8
タイヤ 7-23
バルブ（電球）..... 7-35
ヒューズ..... 7-29
工具 7-11
後側方車両検知警報システム(レーンチェンジアシスト機能付)[BSW/LCA] ... 4-131
後退時交差車両検知警報システム[RCTA] 4-135
後退灯
バルブ（電球）の位置・W（ワット）数 7-34
故障したときの対処方法..... 7-2
誤発進抑制機能(前進＆後退時) 4-102
小物入れ
インパネロアボックス..... 5-29
グローブボックス..... 5-28
グローブボックスアンダートレイ..... 5-29
サングラスポケット 5-30
フロアコンソールボックス 5-29
コンデンスタンク(冷却水) 6-2
こんなことでお困りのとき 7-3
コンビニエントフック..... 5-33

サ

サードシート 3-55
跳ね上げ 3-58
サービスデータ 8-2
サービスリマインダー..... 4-45
左右独立温度コントロール式フルオートエアコン 5-6
三角表示板(停止表示板) 7-2
サングラスポケット 5-30
サンバイザー 5-17

シ

シート
アームレスト（ひじ掛け）.. 3-51, 3-53
運転席＆助手席シートヒーター .. 3-52
サードシート..... 3-55
シートアレンジ..... 3-48
セカンドシート 3-52
チャイルドシート 2-27
荷室の作り方..... 3-57
フロントシート 3-50
ヘッドレスト..... 3-55
シート位置別チャイルドシートの選択.... 2-29
シートベルト..... 2-10
3点式シートベルト..... 2-11
セカンドシートベルト、サードシートベルトの格納のしかた 2-16
プリテンショナー機構／フォースリミッター機構付シートベルト ... 2-17
シートベルト非着用警告システム .. 2-13
室内灯 5-22
インテリアランプスイッチ..... 5-22
スライドドアステップランプ 5-27
ダウンライト..... 5-27
ドアコーテシーランプ 5-27
バルブ（電球）の位置・W（ワット）数 7-35
ラゲッジルームランプ 5-26
リヤパーソナルランプ 5-24
リラックスルームイルミネーション ... 5-25
リラックスルームイルミネーション調光スイッチ 5-23
ルーム＆マップランプ 5-24

M 別冊の『メンテナンスノート』をお読みください。
S 車載の『自動車検査証』をご参照ください。

ルームランプ（リヤ）..... 5-24
自動定速走行装置（クルーズコントロール）..... 4-124
車検証収納場所..... 5-29
車線逸脱警報システム[LDW]..... 4-107
車速感応オートドアロック（衝撃感知ドアロック解除システム付）..... 3-17
ジャッキ..... 7-11
ジャッキアップ..... 7-12
ジャッキバー..... 7-11
ホイールナットレンチ..... 7-11
車幅灯..... 4-78, 7-34
車幅灯表示灯..... 4-74
車両重量..... S
車両寸法..... S
車両データの記録..... 8-10
集中ドアロック..... 3-16
充電警告灯..... 4-76
充電警告表示..... 4-77
修理の連絡先..... M
樹脂部品のお手入れ..... 6-13
衝突被害軽減ブレーキシステム[FCM].... 4-92
使用燃料..... 2-38

ス

スイッチ
ステアリングヒータースイッチ .. 4-89
パワーウインドウスイッチ..... 3-46
ホーン（クラクション）スイッチ..... 4-89
ロックスイッチ（パワーウインドウ）. 3-47
水没したとき..... 7-42
スタートアップヒーター(フロント) 5-11
ステアリングヒータースイッチ..... 4-89
スピードメーター..... 4-30
スポーツモード..... 4-19
スライドドア..... 3-18
クローズ＆ロック機構..... 3-25
スライドドアステップランプ..... 5-27
施錠・解錠..... 3-20

セ

制動灯..... 7-34
セカンドシート..... 3-52
アームレスト（ひじ掛け）..... 3-53
シートクッション..... 3-57
セキュリティアラーム..... 2-39
セレクターレバー..... 4-18
先行車発進通知[LCDN]..... 4-99
洗車..... 6-11

タ

ターボ車の取り扱い..... 4-9
タイヤ
タイヤローテーション..... 6-7
空気圧..... 8-9
タイヤ、ホイールのサイズ..... 8-9
タイヤチェーン..... 2-39
タイヤ交換..... 7-23
冬用タイヤ..... 2-36, 8-9
ダウンライト..... 5-27
タコメーター..... 4-30

チ

チェーン（タイヤチェーン）..... 2-39
チケットホルダー..... 5-18
チャイルドシート..... 2-27
助手席へのチャイルドシート取り付け時の注意..... 2-27
チャイルドプルーフ（スライドドア安全施錠装置）..... 3-29
駐車ブレーキ..... 4-12
ブレーキ警告灯..... 4-74
チルトステアリング..... 3-65

M 別冊の『メンテナンスノート』をお読みください。
S 車載の『自動車検査証』をご参照ください。

テ

テールゲート 3-37
クローズ＆ロック機構 3-42
施錠・解錠 3-37
テールゲートイージークローザー 3-45
テールランプ(尾灯) 7-34
ディーゼルパティキュレートフィルター[DPF] 4-9
定期点検 ..... M
停止表示板 7-2
DPF警告表示 4-9
電球(バルブ) 7-33
電池交換のしかた 3-5
電動サイドステップ 3-30
お手入れ 6-13
電動パワーステアリング[EPS] 4-170

ト

ドア 3-15
集中ドアロック 3-16
ドアコーテシーランプ 5-27
ドアミラー 3-66
格納スイッチ 3-66
調整スイッチ 3-66
盗難防止装置(イモビライザー) 2-39
トラクションコントロール機能 4-160
トランスファーオイル 8-4
トリップメーター(区間距離計) 4-44
ドリンクホルダー 5-30

ナ

内装品のお手入れ 6-10

ニ

荷室の作り方 3-57
日常点検 ..... M
荷物固定用フック 5-32
マルチユースフック 5-32
ラゲッジフック 5-32
尿素SCRシステム 4-11

ネ

燃料 8-2
給油するときは 4-90
補給口（フューエルリッド) 4-89
燃料残量警告表示 4-31
燃料噴射量学習機能 4-10

ハ

パーキングセンサー(フロント／リヤ) ... 4-138
パーキングブレーキ 4-12
ブレーキ警告灯 4-74
排気量 ..... S
ハイドロプレーニング現象 2-3
ハイマウントストップランプ 7-34
ハザードランプ(非常点滅灯)
バルブ（電球）の位置・W（ワット）数 7-34
バルブ（電球）の交換 7-36, 7-37
ハザードランプスイッチ(非常点滅灯スイッチ) 4-83
発炎筒 7-2
バックミラー(ルームミラー) 3-65
バックランプ(後退灯)
バルブ（電球）の位置・W（ワット）数 7-34
バッテリー 8-6
バッテリー上がり 7-25
バッテリー液の点検・補充 ..... M, 6-6
バニティミラー 5-17
バルブ(電球)
位置・W（ワット）数 7-34
交換 7-35
パワーウインドウ 3-46
セーフティ機構 3-47
タイマー機構 3-47
ロックスイッチ 3-47

M 別冊の『メンテナンスノート』をお読みください。
S 車載の『自動車検査証』をご参照ください。

パンク（タイヤ交換）..... 7-23
パンクタイヤ応急修理キット..... 7-15
番号灯
バルブ（電球）の位置・W（ワット）数 7-34
バルブ（電球）の交換 7-38
半ドア警告表示 4-44
ハンドル
電動パワーステアリング [EPS]. 4-170
ハンドルの上下調整（チルトステアリング）..... 3-65

ヒ

ヒーター
左右独立温度コントロール式フルオートエアコン 5-6
ヒーテッドドアミラー 3-67
ひじ掛け（アームレスト）..... 3-51, 3-53
非常点滅灯
バルブ（電球）の位置・W（ワット）数 7-34
バルブ（電球）の交換 7-36, 7-37
非常点滅灯スイッチ 4-83
非常点滅表示灯 4-73
尾灯 7-34
ヒューズ 7-29
表示
ASC 警告表示 4-161
ASC OFF 表示 4-161
ASC 作動表示 4-161
表示灯 4-49, 4-73
グロー（予熱）スタート表示灯 .. 4-74
車幅灯表示灯 4-74
非常点滅表示灯 4-73
フロントフォグランプ表示灯 4-74
ヘッドライト上向き表示灯 4-73
方向指示表示灯 4-73
表示灯・警告灯・インフォメーション画面表示一覧 4-49
日よけ（サンバイザー）..... 5-17
ヒルスタートアシスト [HSA] 4-165
ヒルディセントコントロール [HDC] 4-166

フ

ブースターケーブル
バッテリーが上がったとき 7-25
フォグランプ
バルブ（電球）の位置・W（ワット）数 7-34
フロントフォグランプスイッチ .. 4-82
フロントフォグランプ表示灯 4-74
フューエルフィルター警告表示 4-76
フューエルリッドの開けかた 4-89
冬用タイヤ 2-36, 8-9
フラットシートの作り方 3-62
プリテンショナー機構警告 2-18
プリテンショナー機構／フォースリミッター機構付シートベルト 2-17
ブレーキ
アンチロックブレーキシステム [ABS] 4-168
制動灯 7-34
ブレーキ液 8-4
ブレーキ液量の点検・補給 ..... M
ブレーキ警告灯 4-74, 4-76
ブレーキパッドの摩耗 7-29
ブレーキアシスト 4-167
ブレーキオートホールド 4-162
ブレーキ警告表示 4-76
ブレーキランプ（制動灯）..... 7-34
フロアコンソールボックス 5-29
下段ボックス 5-29
上段ボックス 5-29
フロアマット 5-33
フロントウォッシャースイッチ 4-87
フロントシート 3-50
アームレスト（ひじ掛け）..... 3-51
フロントドア 3-15
施錠・解錠 3-15
フロントフォグランプ
バルブ（電球）の位置・W（ワット）数 7-34

9

M 別冊の『メンテナンスノート』をお読みください。
S 車載の『自動車検査証』をご参照ください。

フロントフォグランプスイッチ.. 4-82
フロントフォグランプ表示灯 4-74
フロントワイパースイッチ..... 4-84

へ

ヘッドライト..... 4-78
バルブ（電球）の位置・W（ワット）数 7-34
ヘッドライト上向き表示灯..... 4-73
ヘッドライトオートカット機能（自動消灯）..... 4-80
ヘッドライトオートレベリング..... 4-82
ヘッドレスト..... 3-55

ホ

ホーンスイッチ..... 4-89
ホイール
タイヤ、ホイールのサイズ..... 8-9
方向指示灯
バルブ（電球）の位置・W（ワット）数 7-34
バルブ（電球）の交換..... 7-36, 7-37
方向指示表示灯..... 4-73
方向指示レバー..... 4-83
ポジションランプ（車幅灯）.... 4-78, 7-34
ボトルホルダー..... 5-31
ボンネット（エンジンフード）..... 6-4

マ

マルチアラウンドモニター 4-142
マルチインフォメーションディスプレイ 4-32
マルチインフォメーションディスプレイスイッチ 4-36
マルチユースフック 5-32

ミ

ミラー
格納スイッチ..... 3-66
調整スイッチ..... 3-66
ドアミラー..... 3-66
バニティミラー 5-17
ヒーテッドドアミラー..... 3-67
ルームミラー..... 3-65

メ

メーター
スピードメーター..... 4-30
タコメーター..... 4-30
トリップメーター（区間距離計） 4-44
メーター照度調整..... 4-30
メンテナンスデータ 8-2

ユ

油圧警告灯 4-76
油圧警告表示..... 4-77

ヨ

4WD車の取り扱い 4-28
4WD車を運転するときは 4-28

ラ

ライセンスランプ（番号灯）
バルブ（電球）の位置・W（ワット）数 7-34
バルブ（電球）の交換..... 7-38
ライトスイッチ..... 4-78
ラゲッジフック 5-32
ラゲッジルームランプ 5-26
ランプ
スライドドアステップランプ 5-27
ドアコーテシーランプ..... 5-27
バルブ（電球）の位置・W（ワット）数 7-34
バルブ（電球）の交換..... 7-35
ラゲッジルームランプ..... 5-26
リヤパーソナルランプ..... 5-24
リラックスルームイルミネーション ... 5-25
ルーム＆マップランプ..... 5-24

9

M 別冊の『メンテナンスノート』をお読みください。
S 車載の『自動車検査証』をご参照ください。

ルームランプ（リヤ）..... 5-24

リ

リヤコンビネーションランプ
バルブ（電球）の位置・W（ワット）数 7-34
バルブ（電球）の交換 7-37
リヤディファレンシャルオイル..... 8-4
リヤデフォッガー(曇り取り)スイッチ ... 4-88
リヤパーソナルランプ 5-24
リヤマニュアルクーラー／スタートアップヒーター(リヤ)..... 5-14
リヤワイパー／ウォッシャースイッチ ... 4-87
リラックスルームイルミネーション..... 5-25
リラックスルームイルミネーション調光スイッチ..... 5-23

ル

ルーム＆マップランプ 5-24
ルームミラー..... 3-65
ルームランプ(室内灯)
バルブ（電球）の位置・W（ワット）数 7-35

レ

レーダークルーズコントロールシステム [ACC] 4-110
冷却水 8-5
オーバーヒートしたとき 7-28
コンデンスタンク（冷却水）..... 6-2
冬期前の点検と準備 2-36
日常点検 6-2
冷却水量の点検・補給..... M

ワ

ワイパー 4-84
フロントウォッシャースイッチ .. 4-87
フロントワイパースイッチ..... 4-84
リヤウォッシャースイッチ..... 4-87
リヤワイパースイッチ..... 4-87
ワックスを使ったお手入れ..... 6-12
ワット数(バルブ) 7-34, 7-35

M 別冊の『メンテナンスノート』をお読みください。
S 車載の『自動車検査証』をご参照ください。

純正品のおすすめ

- お客様のお車に最適な純正品をご使用ください。
- 純正品は、厳しい検査に合格し、その品質が保証されています。
  また、三菱自動車販売会社を通じてお求めになれます。
- 新車時の性能と快適な乗り心地を長く維持していただくために、点検や交換の際は、三菱自動車販売会社にご相談ください。
- 三菱自動車指定の純正品や油脂類以外の物を使用すると、故障などの原因になることがあります。
- 純正品にはGENUINE PARTSと記載してあります。

事故が起きたときは！

あわてずに次の処置をしてください。

- **続発事故の防止**
  他の交通の妨げにならないような安全な場所（路肩、空地など）に車を止め、エンジンを止めます。
- **負傷者の救護**
  負傷者がいる場合は、医師、救急車などが到着するまでの間、可能な応急手当を行います。
  この場合、特に頭部に傷があるときは、そのままの姿勢で動かさないようにしますが、後続事故のおそれがあるときは安全な場所に移動させます。
- **警察への届け出**
  事故が発生した場所、状況および負傷者数や負傷の程度などを警察官に報告し指示を受けます。
- **相手方の確認とメモ**
  相手方の氏名、住所、電話番号を確認し、事故の状況をメモします。
- **ご購入された販売会社と保険会社への連絡**
- **医師の診断を受ける**
  外傷がなくても頭部などに強い衝撃を受けたときは、医師の診断を受けてください。後になってから後遺症が出るおそれがあります。

万一に備えて

安心のため、自賠責保険（強制保険）のほかに任意自動車保険にも加入しましょう。
詳しくは三菱自動車販売会社へご相談ください。